

# 徳島県ヤングケアラーに関する実態調査結果

## 報 告 書

令和5年2月

徳 島 県



# 目次

<b>I 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査の目的 .....	1
2 調査の設計 .....	1
(1)調査対象者 .....	1
(2)調査期間 .....	1
(3)調査方法 .....	1
3 回収状況 .....	2
4 調査結果の見方 .....	2
<b>II 徳島県小学生の生活についてのアンケート調査</b> .....	<b>3</b>
1 調査結果(基本分析) .....	3
(1)基本情報 .....	3
(2)普段の生活について .....	7
(3)家庭や家族のことについて .....	14
2 調査結果(追加分析) .....	44
(1)家族の世話の有無による学校生活などの状況 .....	44
(2)性別による世話の状況の違い .....	48
(3)家族構成による世話の状況の違い .....	58
(4)平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等 .....	68
(5)世話を必要としている家族による世話の状況等 .....	76
(6)世話をすることに感じている大変さによる世話の状況の違い .....	88
(7)世話に関しての相談の状況 .....	98
<b>III 徳島県中高生の生活実態に関するアンケート調査</b> .....	<b>99</b>
1 調査結果(基本分析) .....	99
(1)基本情報 .....	99
(2)ふだんの生活について .....	105
(3)家庭や家族のことについて .....	118
(4)ヤングケアラーについて .....	163
2 調査結果(追加分析) .....	175
(1)家族の世話の有無による学校生活などの状況 .....	175
(2)性別による世話の状況の違い .....	180
(3)家族構成による世話の状況の違い .....	189
(4)平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等 .....	198
(5)世話を必要としている家族による世話の状況等 .....	206

(6)世話をすることを感じている大変さによる世話の状況の違い .....	216
(7)ヤングケアラーの自己認識による生活状況、世話の状況の違い .....	226
(8)世話に関しての相談の状況 .....	239

#### **IV 学校へのアンケート調査.....241**

1 基本情報 .....	241
(1)学校種.....	241
(2)回答者の役職.....	242
(3)学校の所在地.....	243
(4)学校規模 .....	243
2 支援が必要だと思われる子どもへの対応 .....	244
(1)SCの配置・派遣状況.....	244
(2)SSWの配置・派遣状況 .....	246
(3)校内で共有している子どものケース.....	248
(4)情報共有・対応の検討体制 .....	250
(5)校内の検討体制.....	252
(6)個別対応の場合の情報共有・対応の検討方法など .....	260
(7)外部との情報共有・対応の検討体制 .....	264
3 ヤングケアラーについて .....	270
(1)「ヤングケアラー」概念の認識 .....	270
(2)「ヤングケアラー」の実態把握の状況.....	272
(3)「ヤングケアラー」の把握方法 .....	274
(4)「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無.....	276
(5)ヤングケアラーの状況について .....	278
(6)ヤングケアラーがいるか分からない理由.....	289
(7)ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと .....	291
(8)自由回答 .....	293
4 個別事例.....	295
(1)性別.....	295
(2)学年 .....	295
(3)学校生活の状況.....	296
(4)家族構成 .....	297
(5)家庭でのケアの状況.....	297
(6)ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ .....	301
(7)つないだ機関(②学校以外の外部の支援につないだケースのみ) .....	302
(8)外部機関へのつなぎ方 .....	302
(9)学校が行った支援(つなぎ先との連携も含めて)および支援した結果、子どもへの変化....	303



資料編 .....	305
1 調査票 .....	305
(1)徳島県小学生の生活についてのアンケート調査.....	305
(2)徳島県中高生の生活実態に関するアンケート調査 .....	314
(3)徳島県学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査.....	324



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本来大人が担うとされている家事や家族の世話などを日常的に行っている「ヤングケアラー」の実態を把握し、必要な支援につなげるため、県内において「ヤングケアラーに関する実態調査」を実施し、ヤングケアラーと思われる児童生徒の生活実態を明らかにするとともに、支援ニーズや課題等を今後の施策に反映することを目的とする。

## 2 調査の設計

### (1)調査対象者

#### ① 児童・生徒へのアンケート調査

図表 I -2-1 児童・生徒へのアンケート調査 調査対象

アンケートの名称	調査対象
徳島県小学生の生活についてのアンケート調査（小学生）	公立小学校6年生
徳島県中高生の生活実態に関するアンケート調査（中高生）	公立中学校、県立中学校、県立中等教育学校（前期課程）1～3年生
	県立高等学校（全日制）、県立中等教育学校（後期課程）1～3年生

#### ② 学校へのアンケート調査

図表 I -2-2 学校へのアンケート調査 調査対象

アンケートの名称	調査対象
徳島県学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査（教職員）	公立小学校
	公立中学校、県立中学校、県立中等教育学校（前期課程）
	県立高等学校（全日制）、県立中等教育学校（後期課程）

### (2)調査期間

- ①:令和4年7月11日(月)から同年8月5日(金)まで
- ②:令和4年7月11日(月)から同年12月21日(水)まで

### (3)調査方法

- ①:Webアンケートシステムを利用(児童生徒は、原則1人1台端末タブレットのインターネット(Wi-Fi)回線を利用)
- ②:Webアンケートシステムを利用

### 3 回収状況

図表 I-3-1 回収状況

アンケートの名称	有効回答数	(参考) 児童数・生徒数・ 学校数
徳島県小学生の生活についてのアンケート調査（小学生）	2,689 件	5,738 人
徳島県中高生の生活実態に関するアンケート調査（中高生）	中学生 5,730 件	16,770 人
	高校生 3,124 件	15,500 人
徳島県学校におけるヤングケアラーへの対応に関する アンケート調査（教職員）	小学校 128 件	164 校
	中学校・中等教育学 校（前期課程） 77 件	82 校
	高等学校・中等教育 学校（後期課程） 33 件	33 校

※児童数・生徒数・学校数については、令和4年9月13日現在

### 4 調査結果の見方

- (1) 図表の n(number of case)は、設問に対する回答者数を表している。
- (2) 回答結果の割合「%」は、有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものである。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合がある。また、複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示している。そのため、合計が 100.0%を超える場合がある。
- (3) 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていないものである。
- (4) 一部の設問については、国の調査結果と比較をしているが、小学6年生および小学校の結果については、厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（令和4年3月）、中学生、全日制高校生、中学校、全日制高等学校の結果については、厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（令和3年3月）にて公表されている結果と比較している。
- (5) 調査結果について、サンプル数が少ないものについてはコメントをしていない場合がある。

## Ⅱ 徳島県小学生の生活についてのアンケート調査

### 1 調査結果(基本分析)

#### (1)基本情報

##### ① 居住地

回答者の居住地については、以下の通りである。

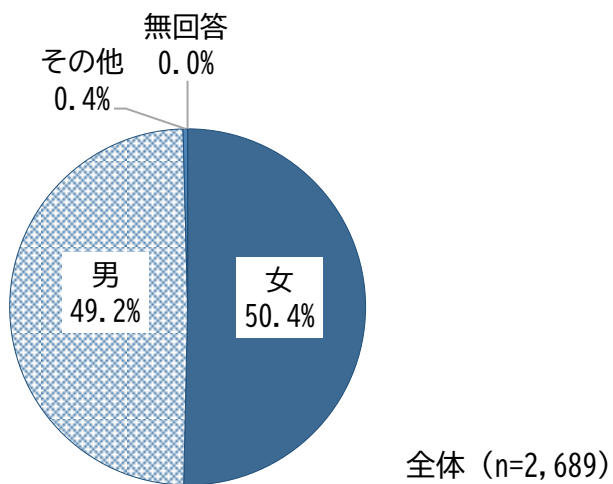
図表Ⅱ-1-1 居住地

		全体(n=2,689)	
市町村	構成比(%)	市町村	構成比(%)
徳島市	25.8	那賀町	1.3
鳴門市	8.1	美波町	0.2
小松島市	5.4	牟岐町	0.1
阿南市	12.9	海陽町	0.9
吉野川市	6.2	松茂町	3.2
阿波市	4.2	北島町	4.8
美馬市	4.1	藍住町	7.6
三好市	3.2	板野町	2.5
勝浦町	0.3	上板町	1.5
上勝町	0.1	つるぎ町	0.8
佐那河内村	0.2	東みよし町	2.7
石井町	3.3	無回答	0.0
神山町	0.5	合計	100.0

## ② 性別

性別については、以下の通りである。

図表Ⅱ-1-2 性別

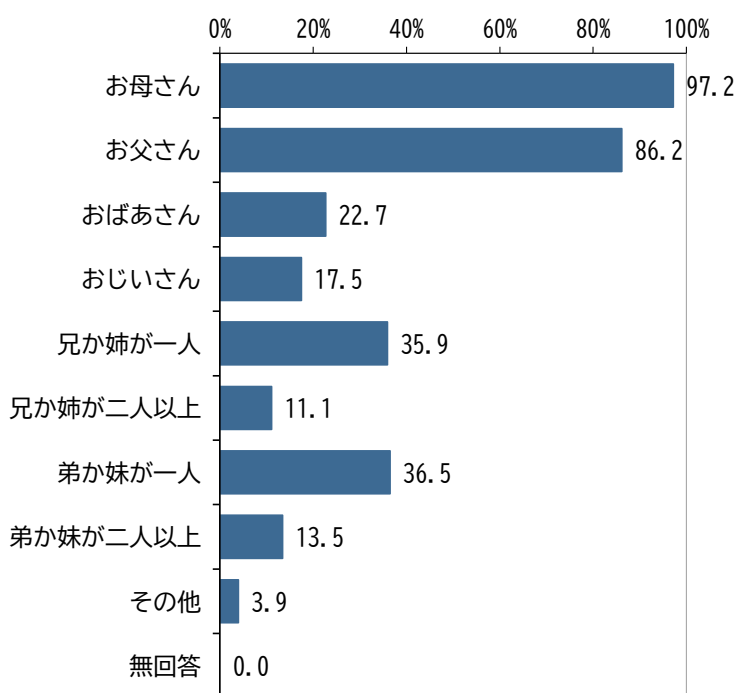


## ③ 同居家族

同居家族については、「お母さん」が 97.2%で最も高く、次いで「お父さん」が 86.2%、「弟か妹が一人」が 36.5%と続いている。

図表Ⅱ-1-3 同居家族(複数回答)

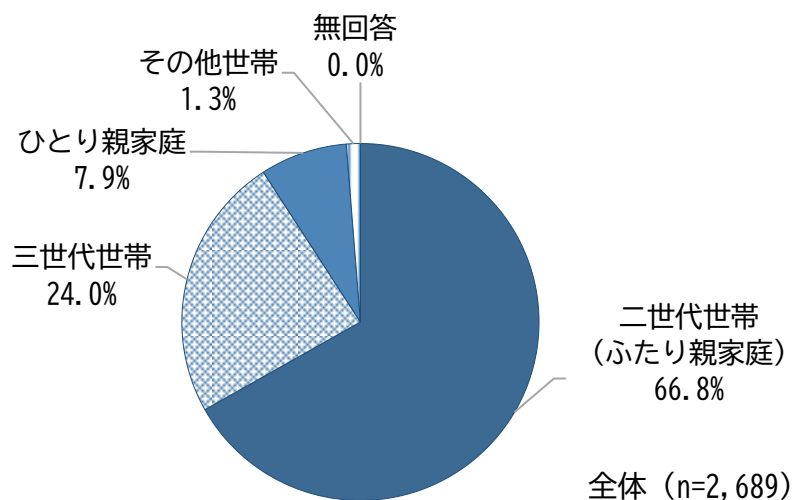
全体 (n=2,689)



#### ④ 家族構成

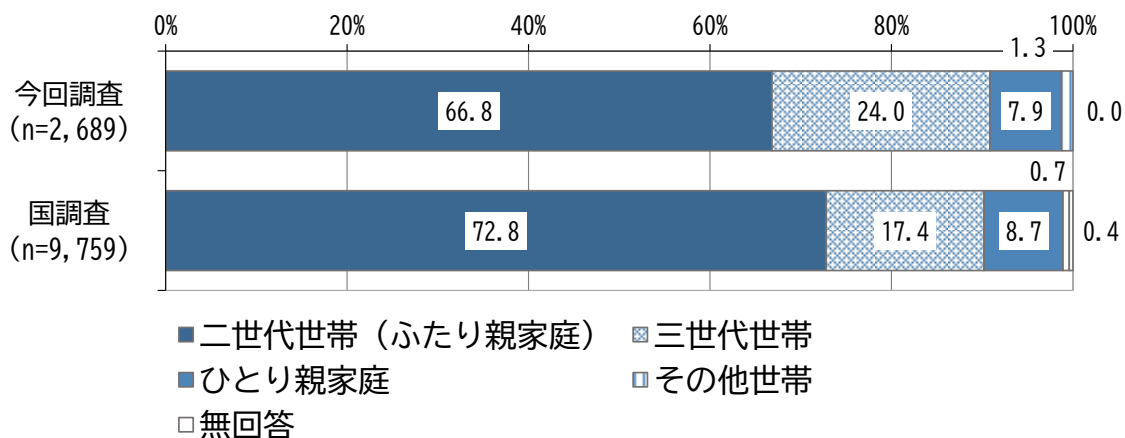
家族構成については、「二世帯世帯(ふたり親家庭)」が 66.8%で最も高く、次いで「三世帯世帯」が 24.0%、「ひとり親家庭」が 7.9%と続いている。

図表Ⅱ-1-4 家族構成



国調査と比較すると、「三世帯世帯」(24.0%)では、国調査(17.4%)より 6.6 ポイント高くなっている。

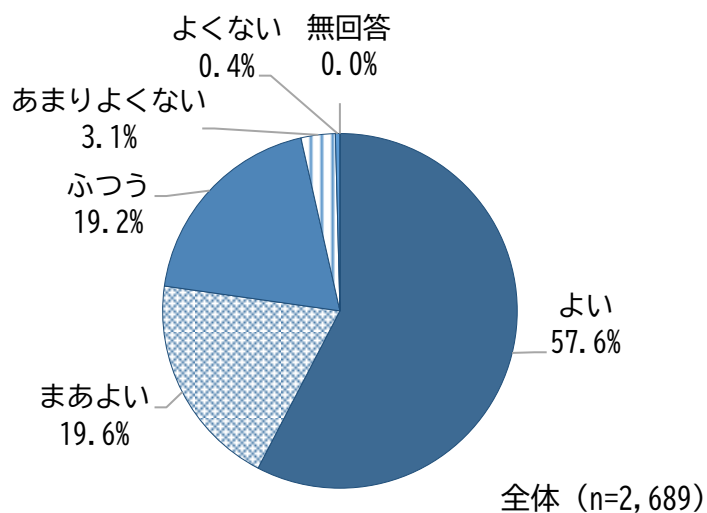
図表Ⅱ-1-5 家族構成 国調査との比較



### ⑤ 健康状態

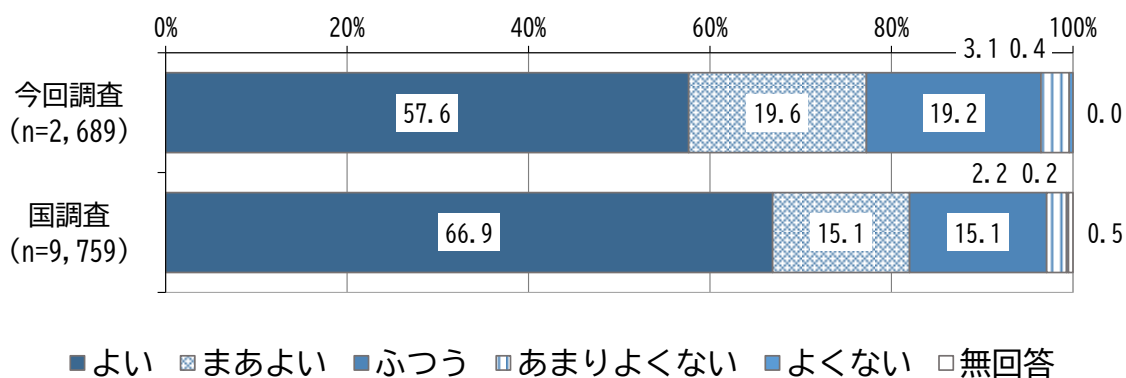
健康状態については、「よい」が 57.6%で最も高く、次いで「まあよい」が 19.6%、「ふつう」が 19.2%と続いている。

図表Ⅱ-1-6 健康状態



国調査と比較すると、『よい』(「よい」と「まあよい」の合計)(77.2%)では、国調査(82.0%)より 4.8ポイント低くなっている。

図表Ⅱ-1-7 健康状態 国調査との比較



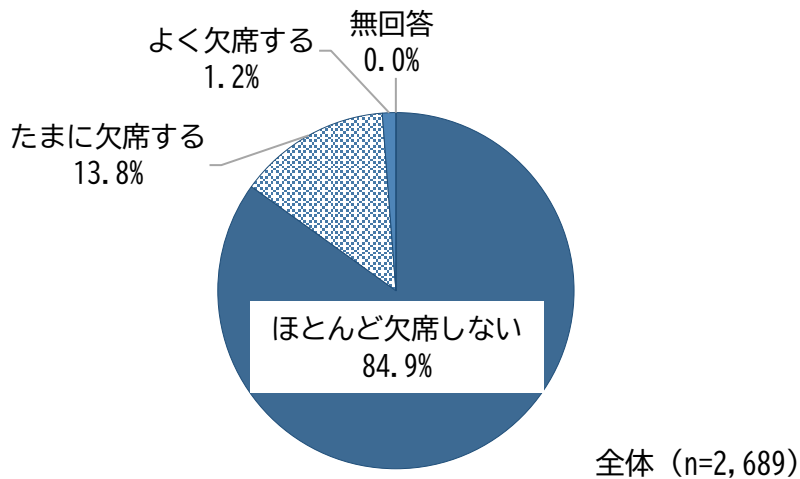


## (2) 普段の生活について

### ① 学校への通学状況:出席状況

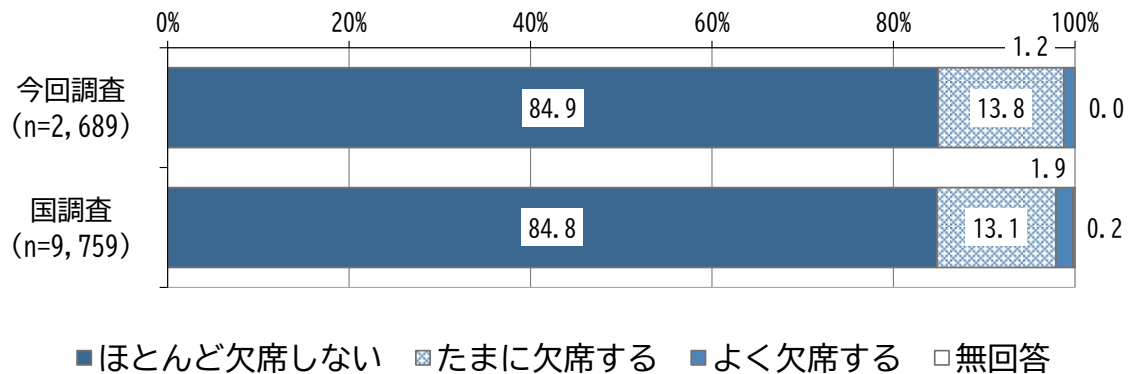
学校の出席状況については、「ほとんど欠席しない」が84.9%で最も高く、次いで「たまに欠席する」が13.8%、「よく欠席する」が1.2%となっている。

図表Ⅱ-1-8 学校への通学状況:出席状況



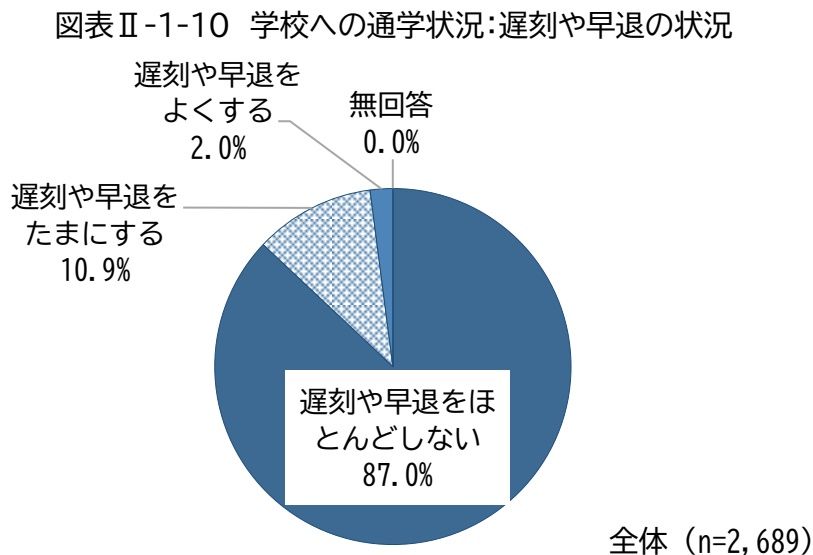
国調査と比較すると、大きな差はみられない。

図表Ⅱ-1-9 学校への通学状況:出席状況 国調査との比較

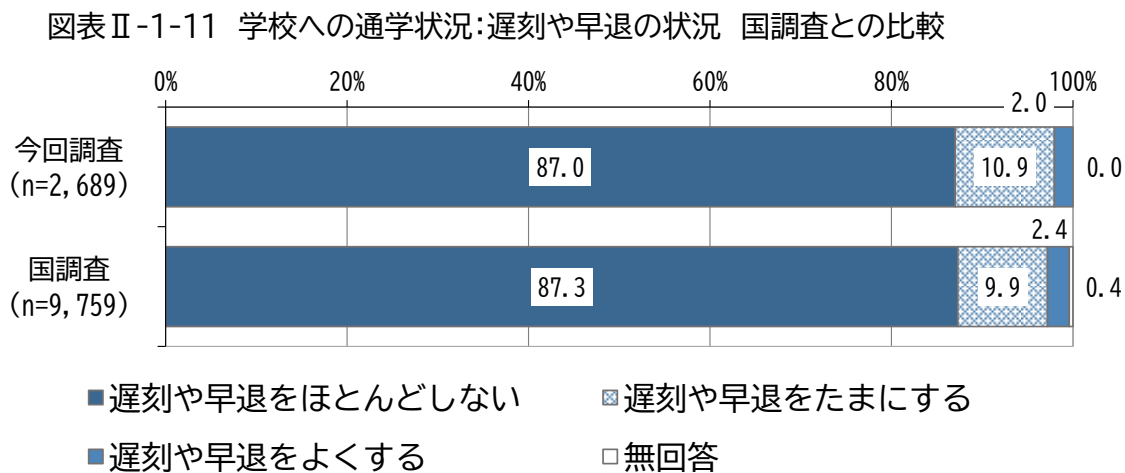


② 学校への通学状況:遅刻や早退の状況

学校の遅刻や早退の状況については、「遅刻や早退をほとんどしない」が 87.0%で最も高く、次いで「遅刻や早退をたまにする」が 10.9%、「遅刻や早退をよくする」が 2.0%となっている。



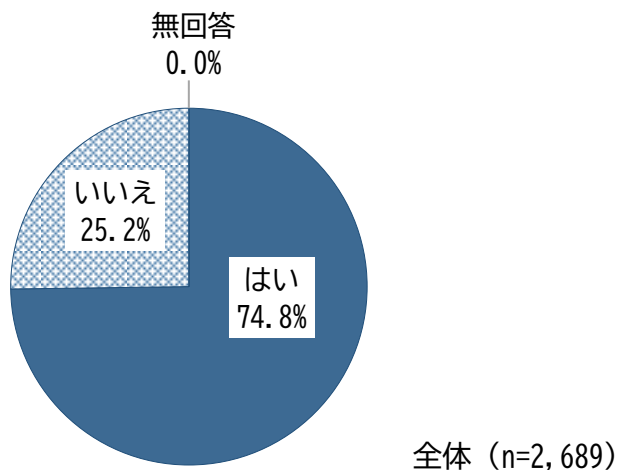
国調査と比較すると、大きな差はみられない。



### ③ 習い事などへの参加状況

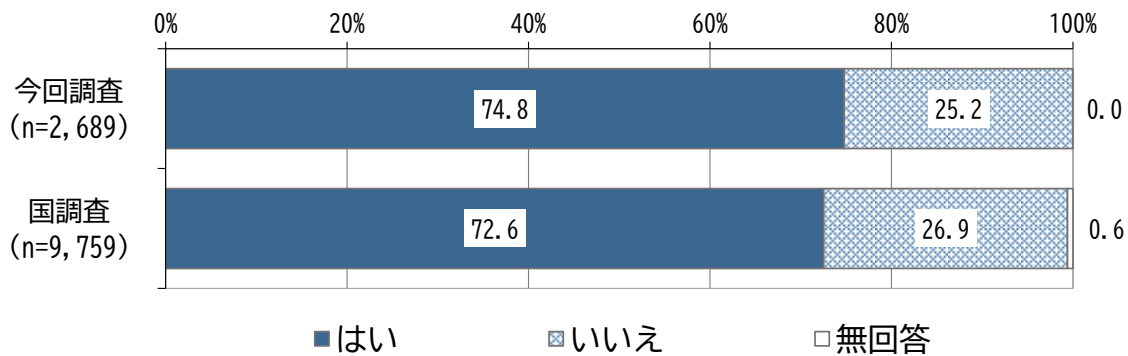
習い事などへの参加状況については、「はい(参加している)」が 74.8%、「いいえ(参加していない)」が 25.2%となっている。

図表Ⅱ-1-12 習い事などへの参加状況



国調査と比較すると、大きな差はみられない。

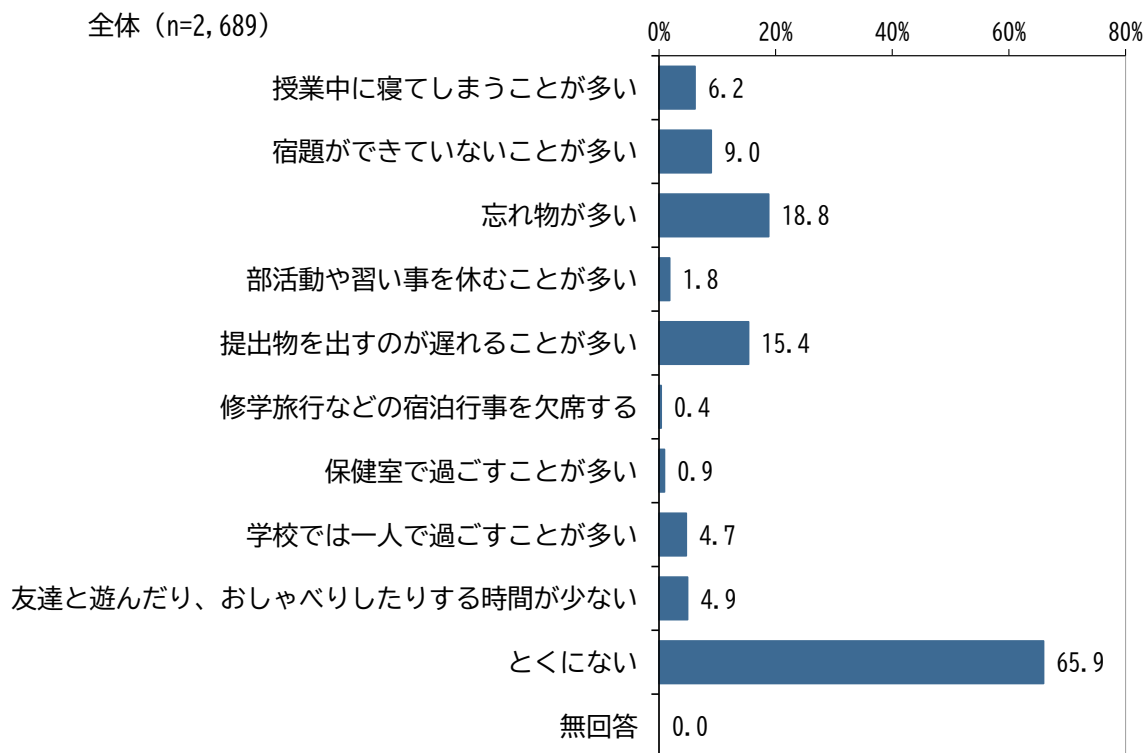
図表Ⅱ-1-13 習い事などへの参加状況 国調査との比較



#### ④ 普段の学校生活などであてはまること

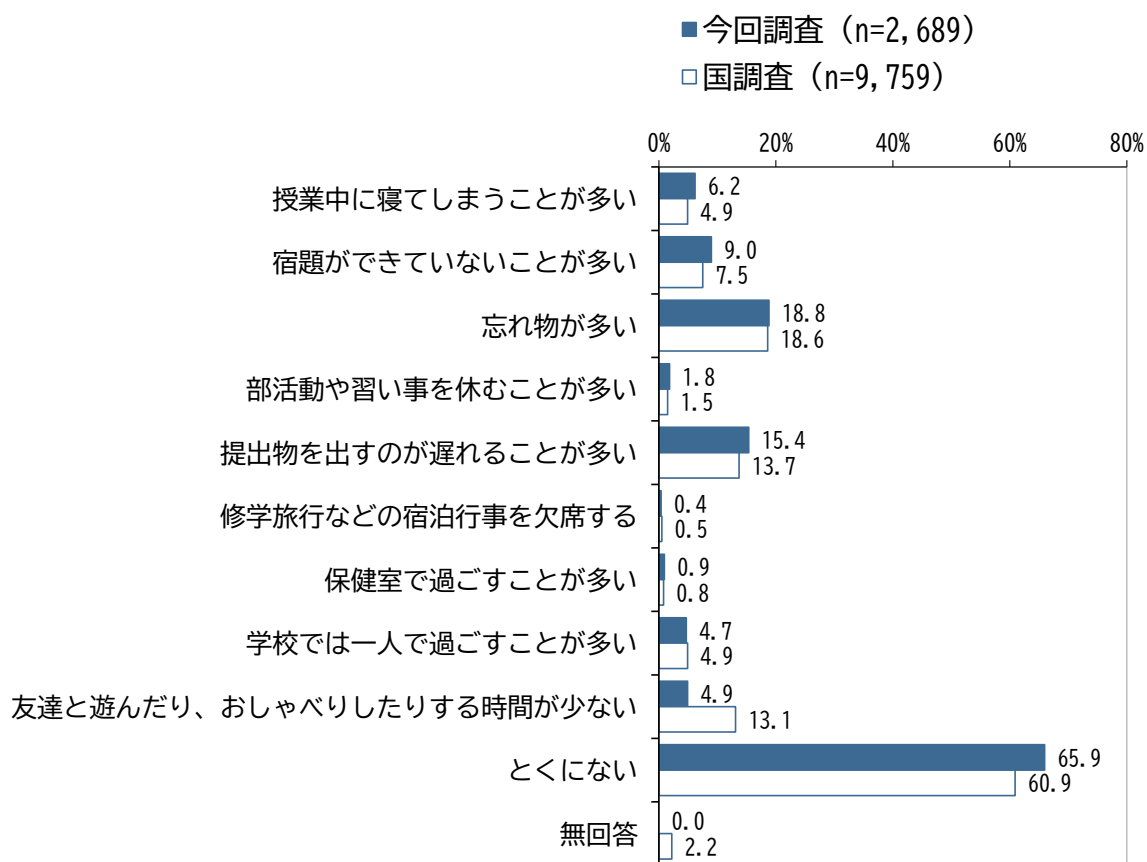
普段の学校生活などであてはまることについては、「とくにない」が 65.9%で最も高く、次いで「忘れ物が多い」が 18.8%、「提出物を出すのが遅れることが多い」が 15.4%と続いている。

図表Ⅱ-1-14 普段の学校生活などであてはまること(複数回答)



国調査と比較すると、「とくにない」(65.9%)では、国調査(60.9%)より 5.0 ポイント高くなっている。

図表Ⅱ-1-15 普段の学校生活などであてはまること 国調査との比較

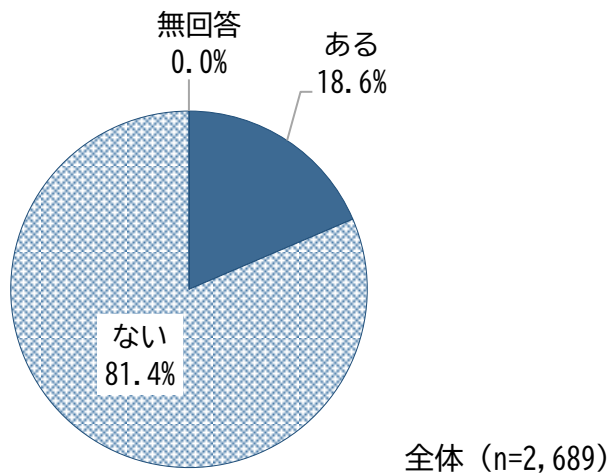


※「部活動や習い事を休むことが多い」について、国調査は「習い事を休むことが多い」

### ⑤ 悩みごとの有無

悩みごとの有無については、「ある」が18.6%、「ない」が81.4%となっている。

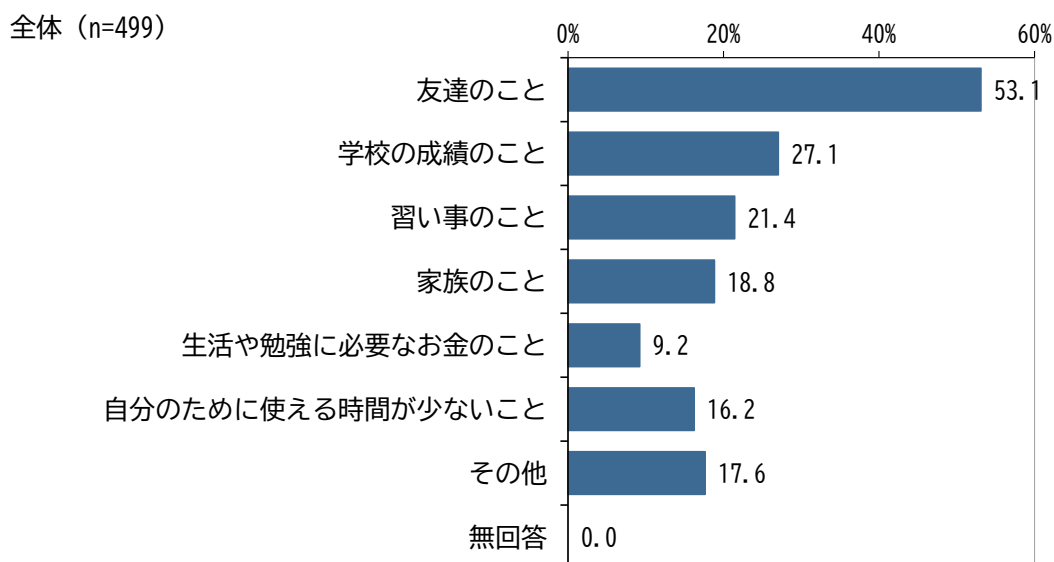
図表Ⅱ-1-16 悩みごとの有無



### ⑥ 現在の悩みごと

悩みごとがあると回答した人の、現在の悩みごとについては、「友達のこと」が53.1%で最も高く、次いで「学校の成績のこと」が27.1%、「習い事のこと」が21.4%と続いている。

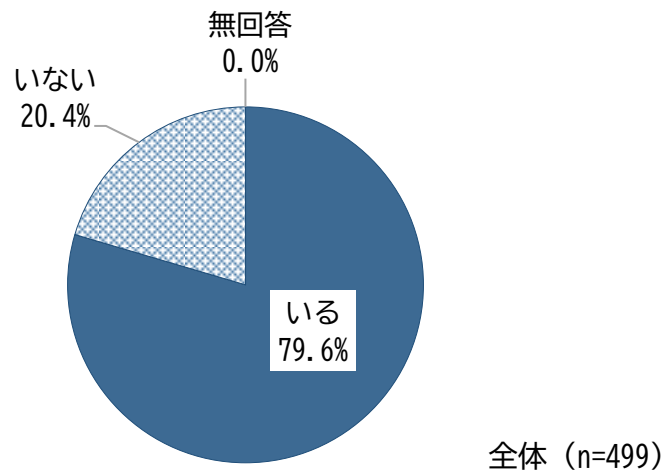
図表Ⅱ-1-17 現在の悩みごと(複数回答)



⑦ 悩みごとについて話を聞いてくれる人の有無

前問で悩みごとがあると回答した人の、話を聞いてくれる人がいるかについては、「いる」が 79.6%、「いない」が 20.4%となっている。

図表Ⅱ-1-18 悩みごとについて話を聞いてくれる人の有無

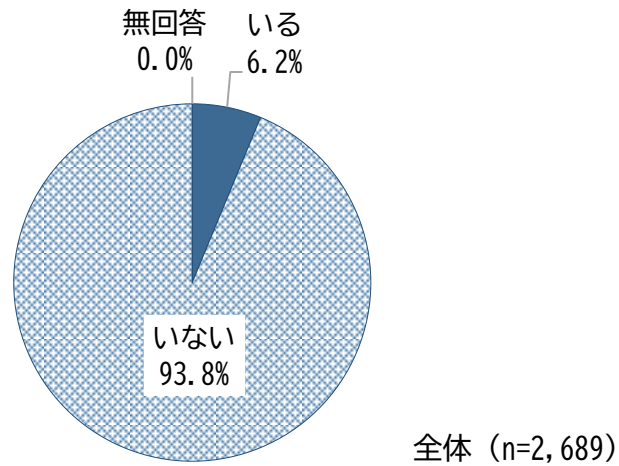


### (3)家庭や家族のことについて

#### ① 世話をしている家族の有無

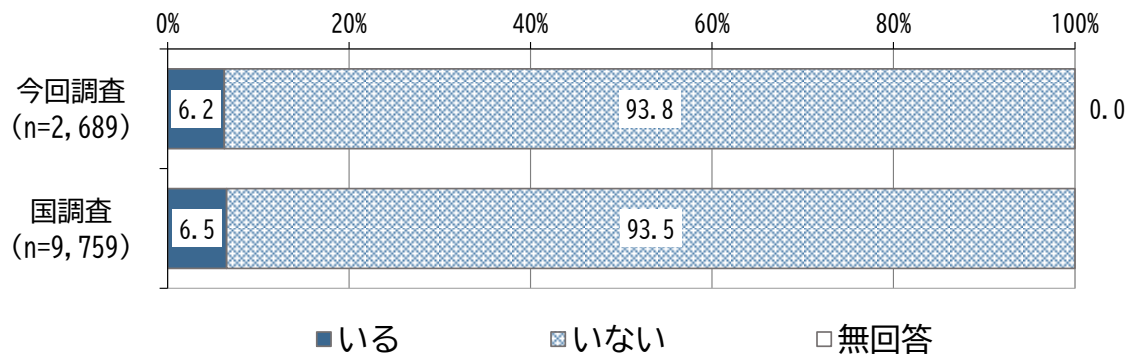
世話をしている家族の有無については、「いる」が6.2%、「いない」が93.8%となっている。

図表Ⅱ-1-19 世話をしている家族の有無



国調査と比較すると、大きな差はみられない。

図表Ⅱ-1-20 世話をしている家族の有無 国調査との比較

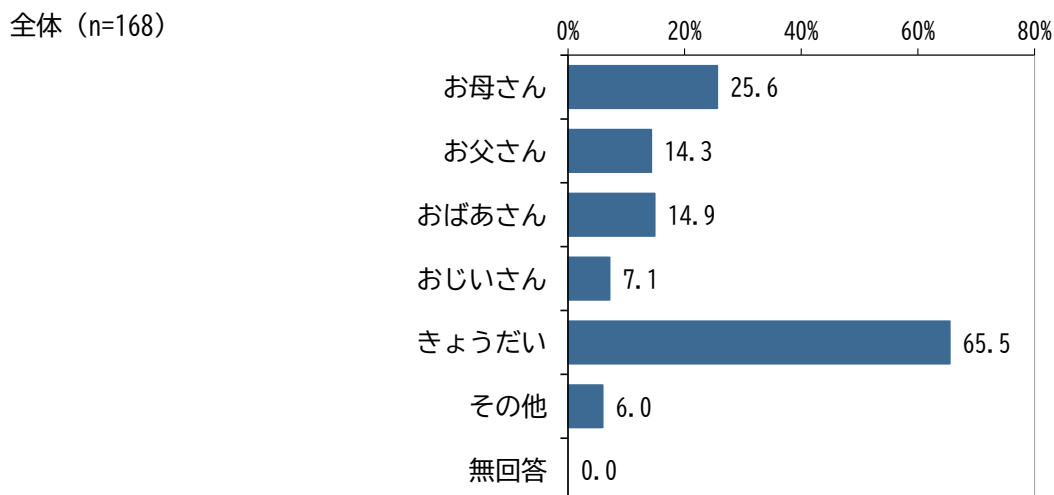




## ② 世話を必要としている家族

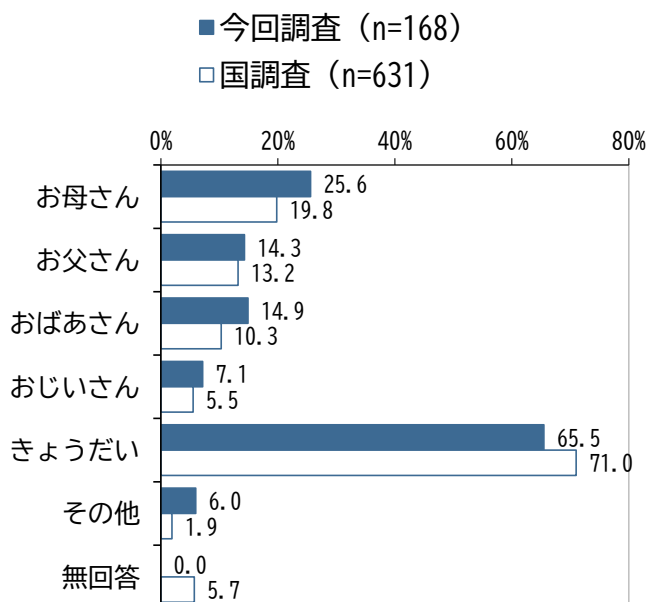
世話を必要としている家族については、「きょうだい」が 65.5%で最も高く、次いで「お母さん」が 25.6%、「おばあさん」が 14.9%と続いている。

図表Ⅱ-1-21 世話を必要としている家族(複数回答)



国調査と比較すると、「きょうだい」を除くすべての項目で国調査より割合が高くなっている。

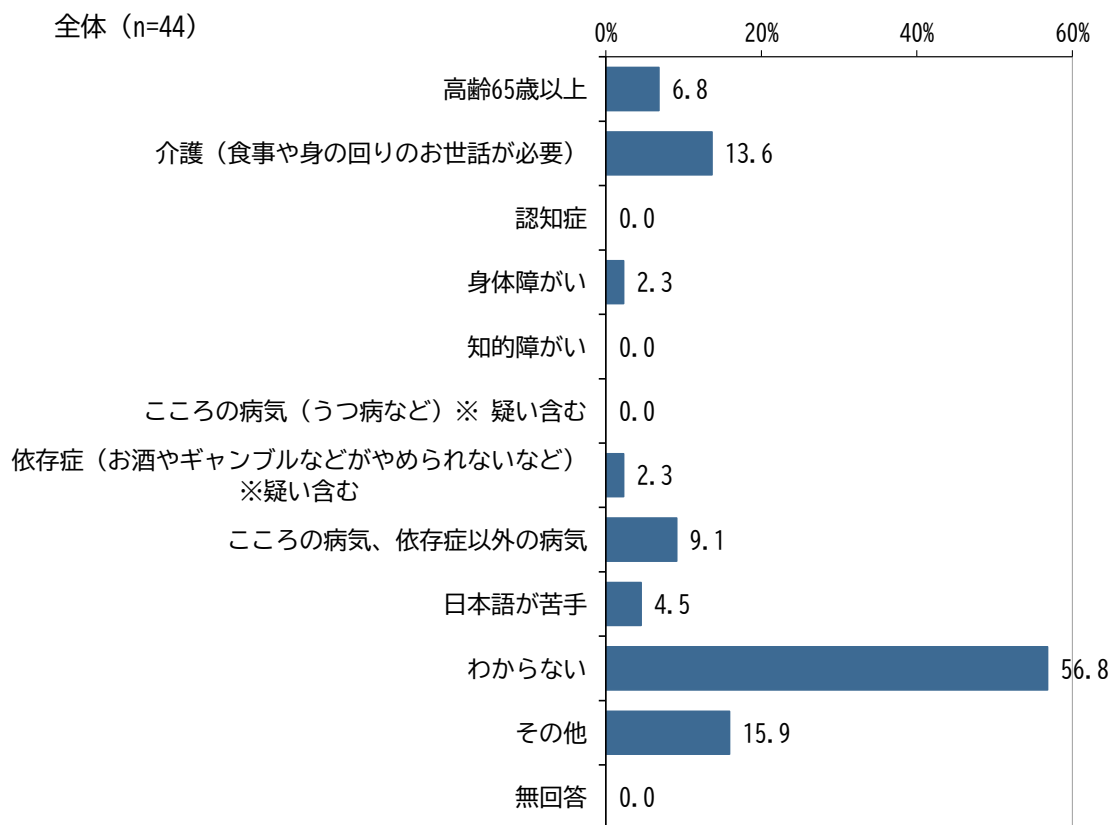
図表Ⅱ-1-22 世話を必要としている家族 国調査との比較



### ③ 父母の状況

世話を必要としている家族として「お母さん」、「お父さん」と回答した人の、父母の状況については、「わからない」が 56.8%で最も高く、次いで「その他」が 15.9%、「介護(食事や身の回りのお世話が必要)」が 13.6%と続いている。

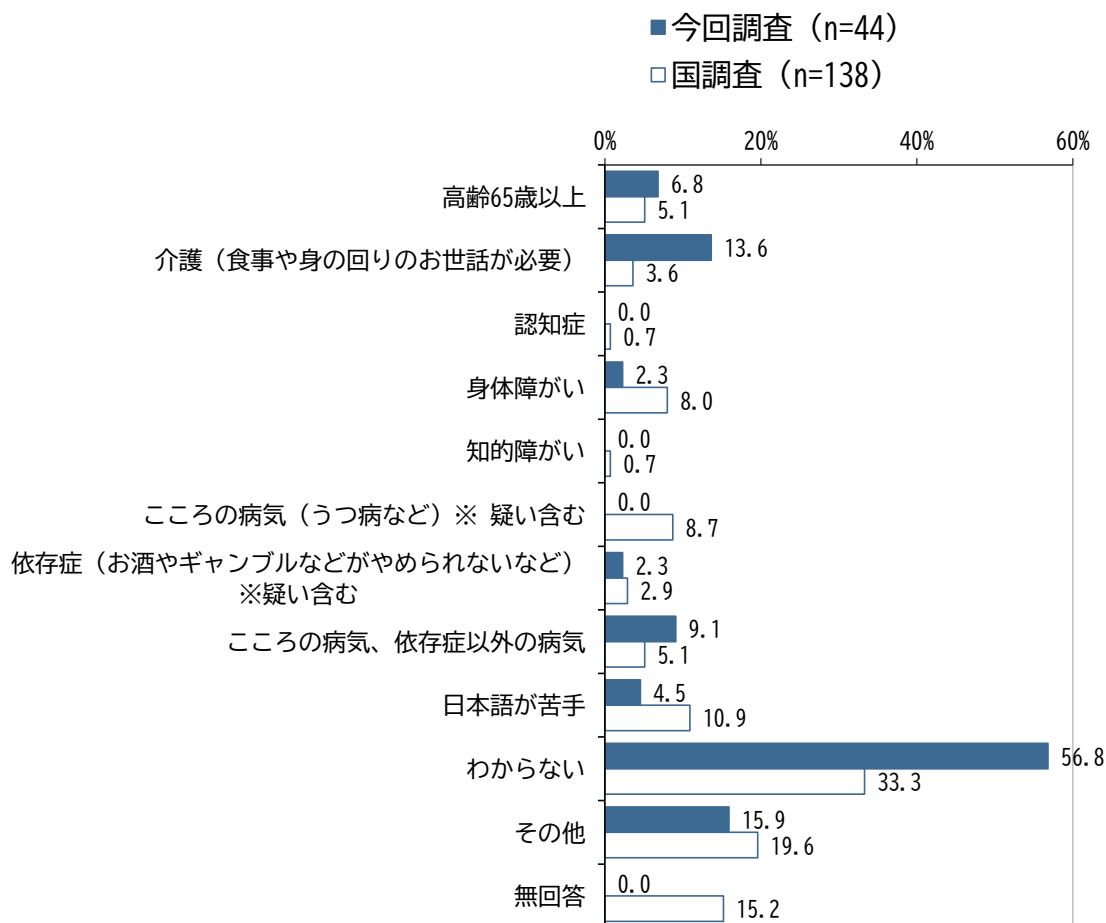
図表Ⅱ-1-23 父母の状況(複数回答)



(補足)その他の自由記述:動きたくない、疲れている、等

国調査と比較すると、「介護(食事や身の回りのお世話が必要)」(13.6%)では、国調査(3.6%)より10.0ポイント高くなっている。

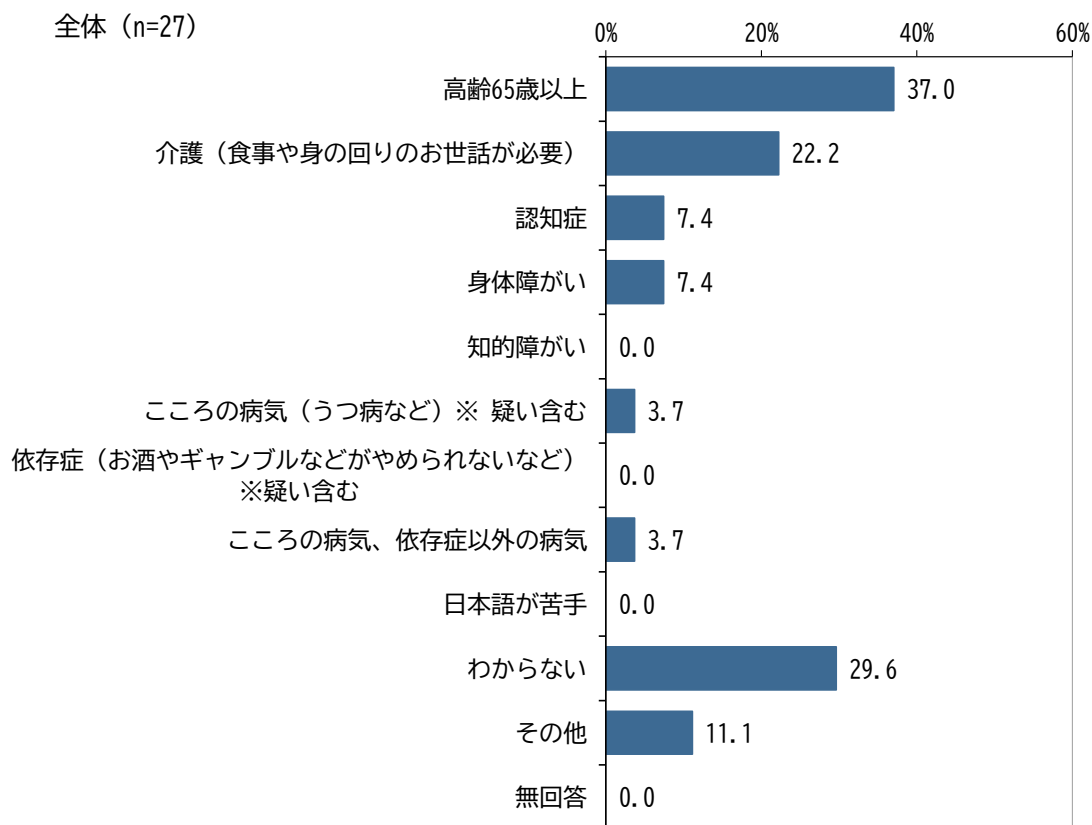
図表Ⅱ-1-24 父母の状況 国調査との比較



#### ④ 祖父母の状況

世話を必要としている家族として「おばあさん」、「おじいさん」と回答した人の、祖父母の状況については、「高齢 65 歳以上」が 37.0%で最も高く、次いで「わからない」が 29.6%、「介護(食事や身の回りのお世話が必要)」が 22.2%と続いている。

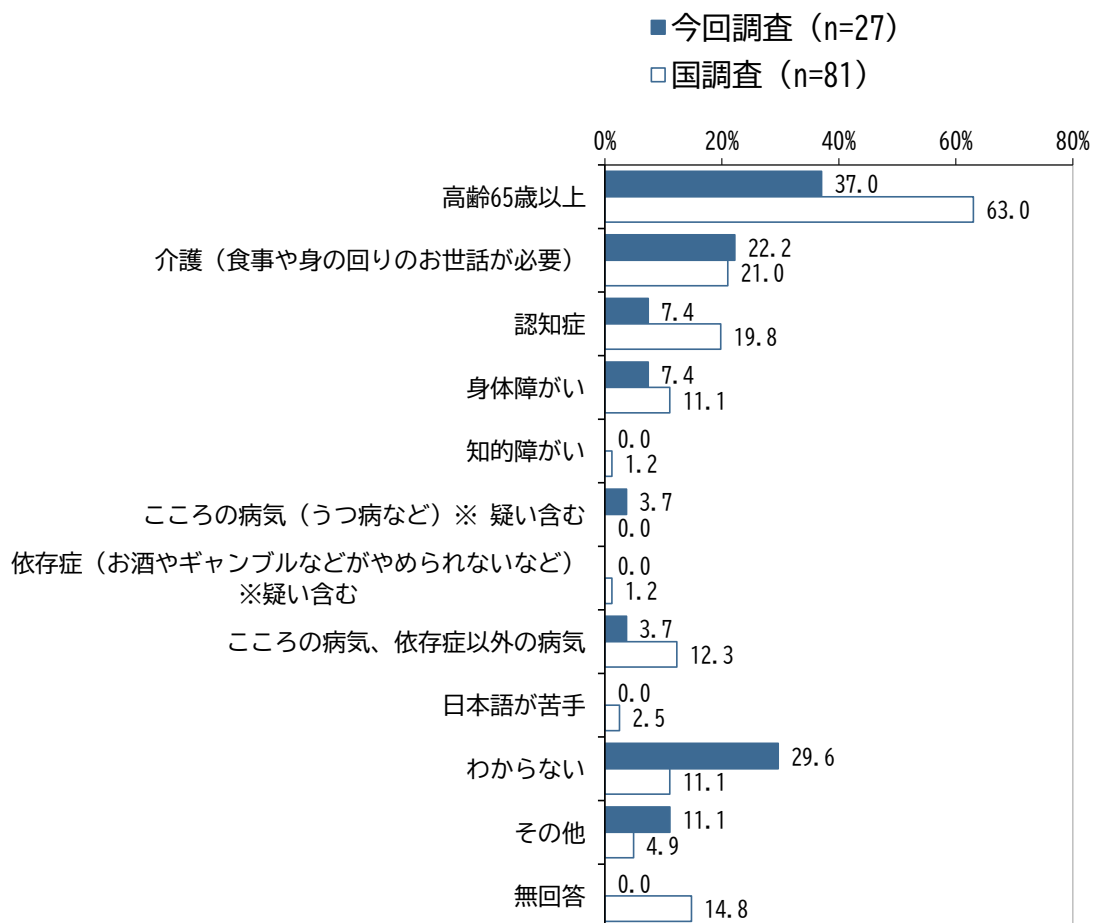
図表 II-1-25 祖父母の状況(複数回答)



(補足)その他の自由記述:事故で動けなくなった、手術後、等

国調査と比較すると、「高齢 65 歳以上」(37.0%)では、国調査(63.0%)より 26.0 ポイント低くなっている。

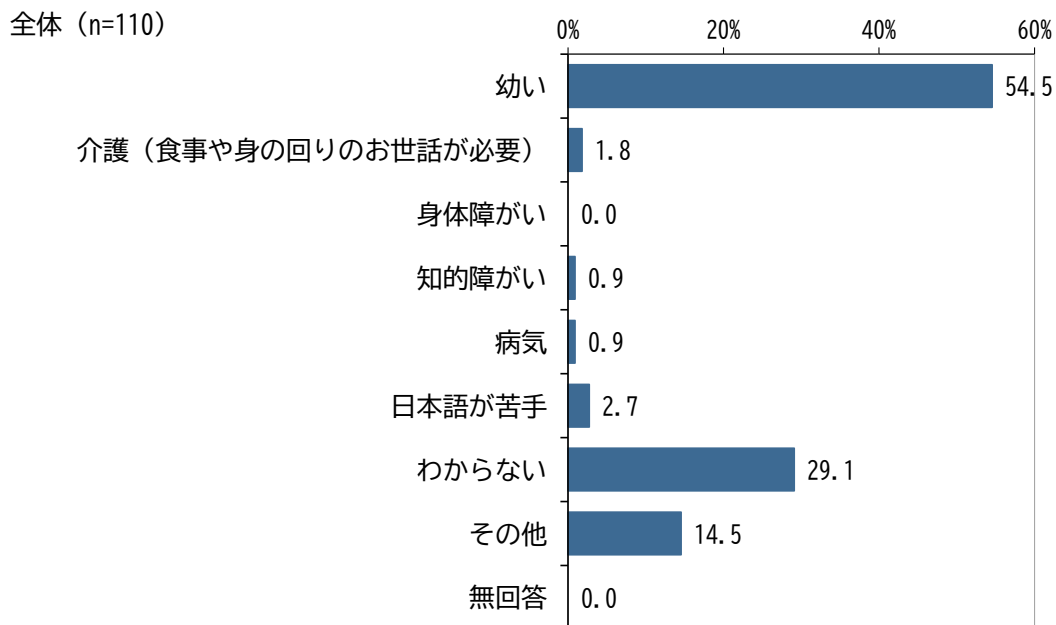
図表Ⅱ-1-26 祖父母の状況 国調査との比較



### ⑤ きょうだいの状況

世話を必要としている家族として「きょうだい」と回答した人の、きょうだいの状況については、「若い」が54.5%で最も高く、次いで「わからない」が29.1%、「その他」が14.5%と続いている。

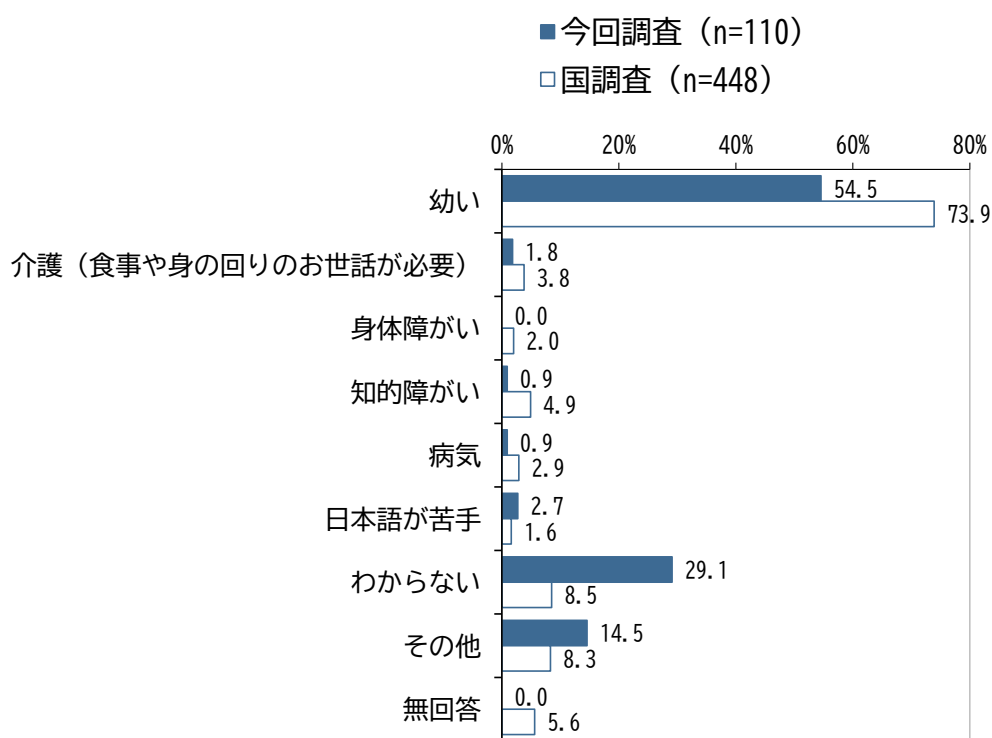
図表Ⅱ-1-27 きょうだいの状況(複数回答)



(補足)その他の自由記述:お母さんが忙しい、家族の帰りが遅い、等

国調査と比較すると、「若い」(54.5%)では、国調査(73.9%)より 19.4 ポイント低くなっている。

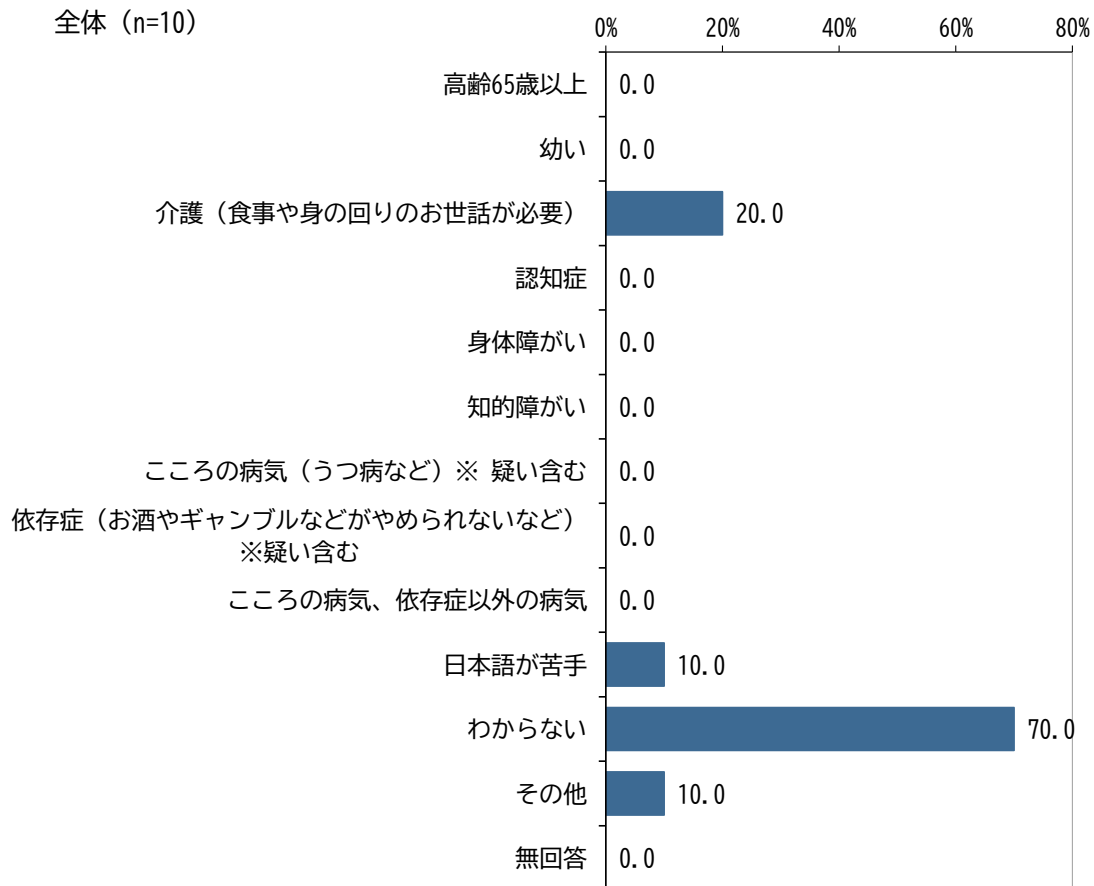
図表Ⅱ-1-28 きょうだいの状況 国調査との比較



### ⑥ その他の家族の状況

世話を必要としている家族として「その他」と回答した人の、その他の家族の状況については、「わからない」が70.0%で最も高く、次いで「介護(食事や身の回りのお世話が必要)」が20.0%と続いている。

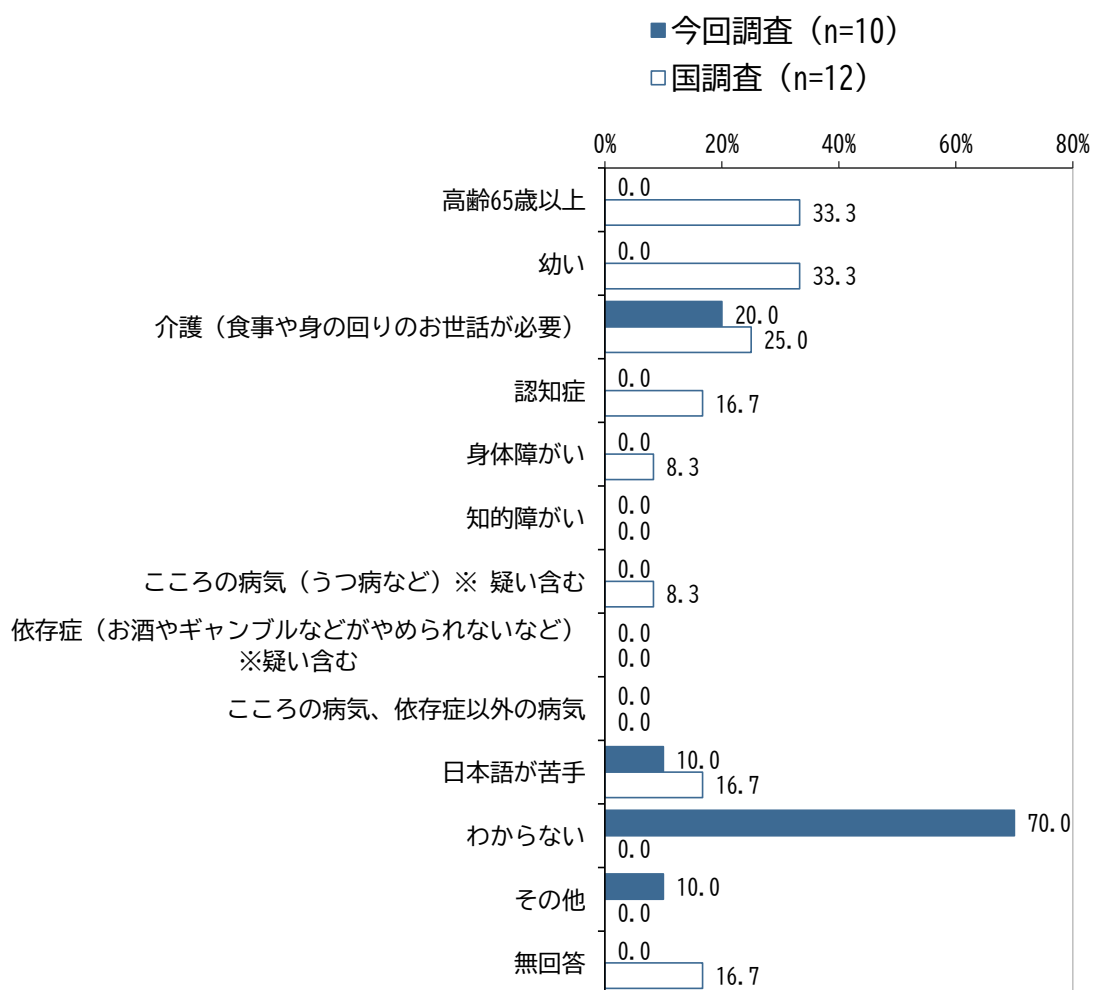
図表Ⅱ-1-29 その他の家族の状況(複数回答)





国調査と比較すると、「わからない」、「その他」を除くすべての項目で国調査より割合が低くなっている。

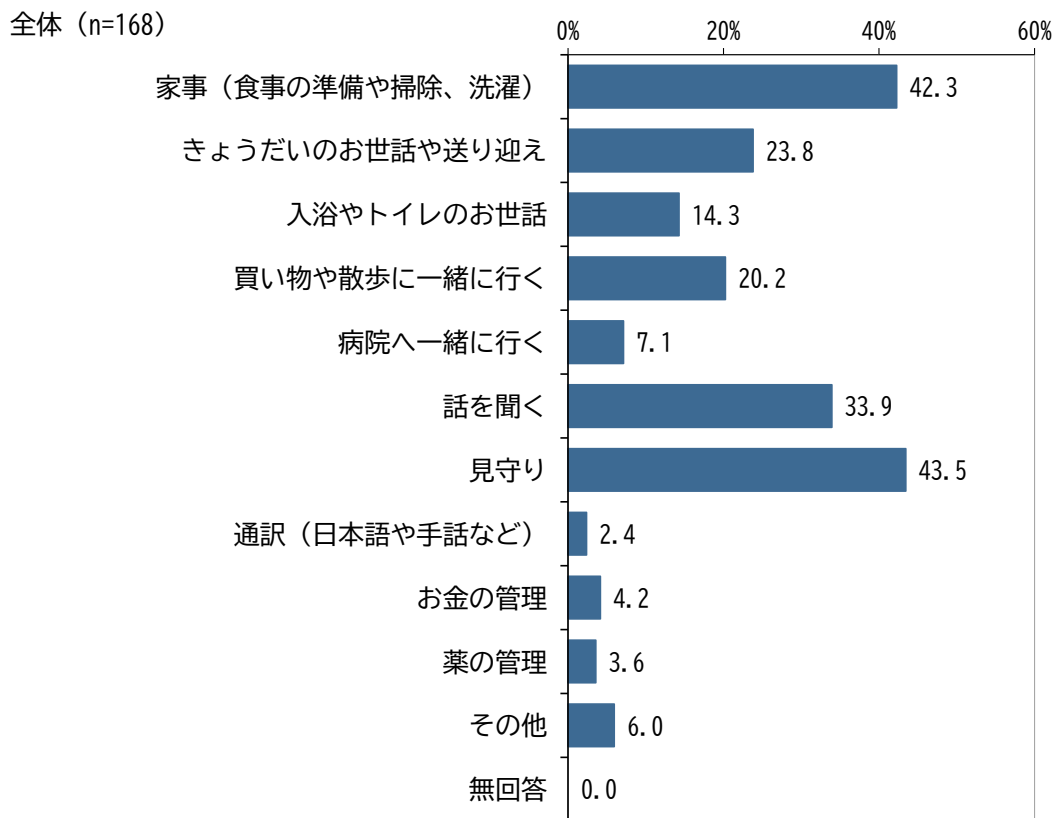
図表Ⅱ-1-30 その他の家族の状況 国調査との比較



### ⑦ 世話の内容

世話をしている家族がいると回答した人の、世話の内容については、「見守り」が 43.5%で最も高く、次いで「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が 42.3%、「話を聞く」が 33.9%と続いている。

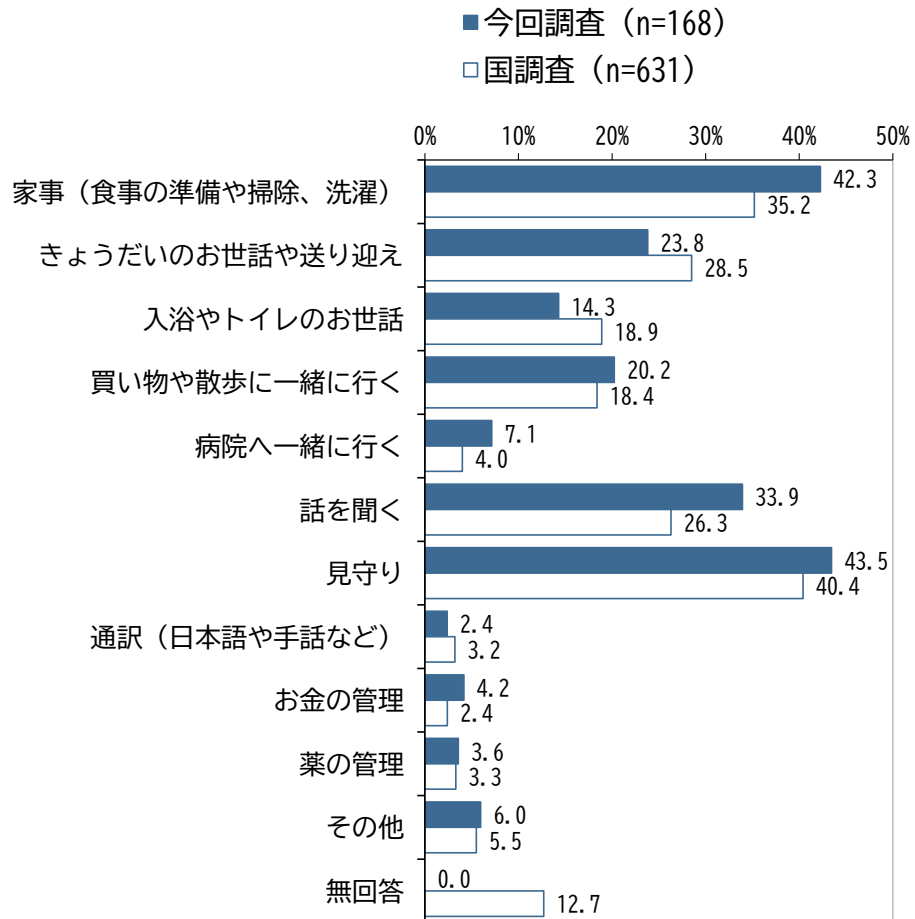
図表Ⅱ-1-31 世話の内容(複数回答)



(補足)その他の自由記述:赤ちゃんのお世話、おむつ交換、等

国調査と比較すると、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「買い物や散歩と一緒にいく」、「病院へ一緒にいく」、「話を聞く」、「見守り」、「お金の管理」、「薬の管理」、「その他」で国調査より割合が高くなっている。

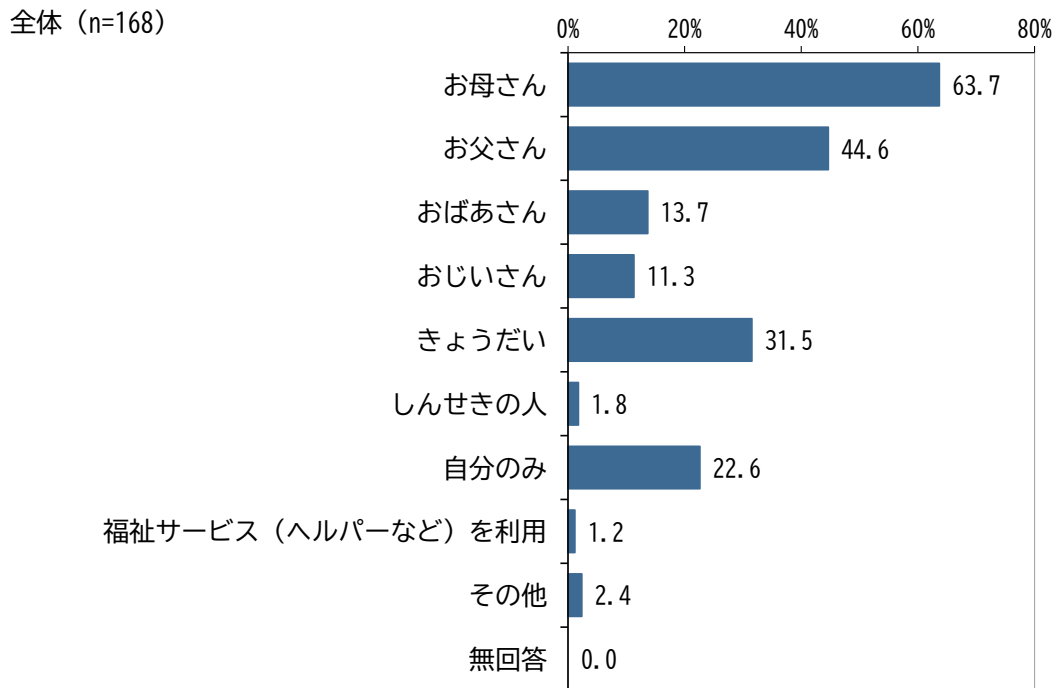
図表Ⅱ-1-32 世話の内容 国調査との比較



### ⑧ 世話を一緒にしている人

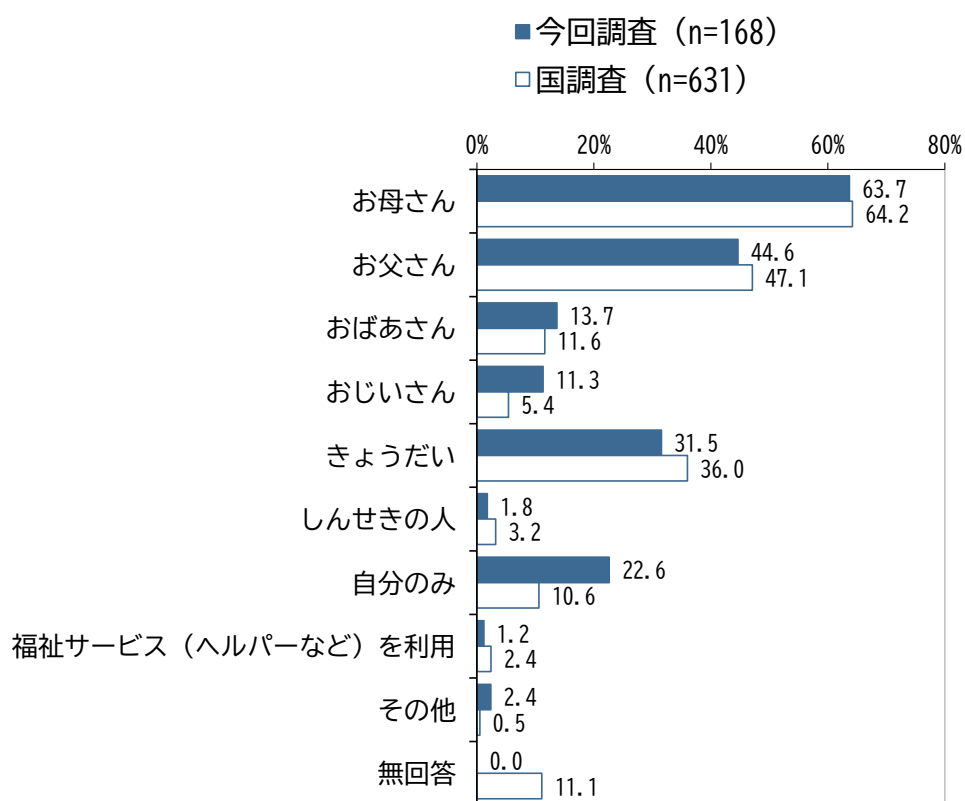
世話をしている家族がいると回答した人の、世話を一緒にしている人については、「お母さん」が63.7%で最も高く、次いで「お父さん」が44.6%、「きょうだい」が31.5%と続いている。

図表Ⅱ-1-33 世話を一緒にしている人(複数回答)



国調査と比較すると、「自分のみ」(22.6%)では、国調査(10.6%)より 12.0 ポイント高くなっている。

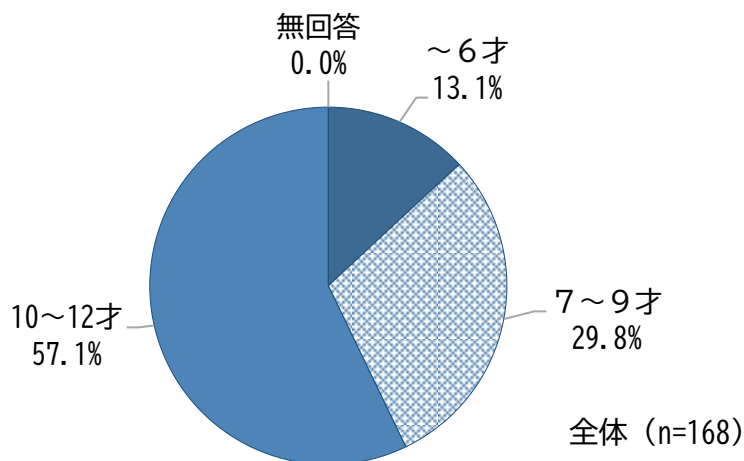
図表Ⅱ-1-34 世話を一緒にしている人 国調査との比較



⑨ 世話を始めた年齢

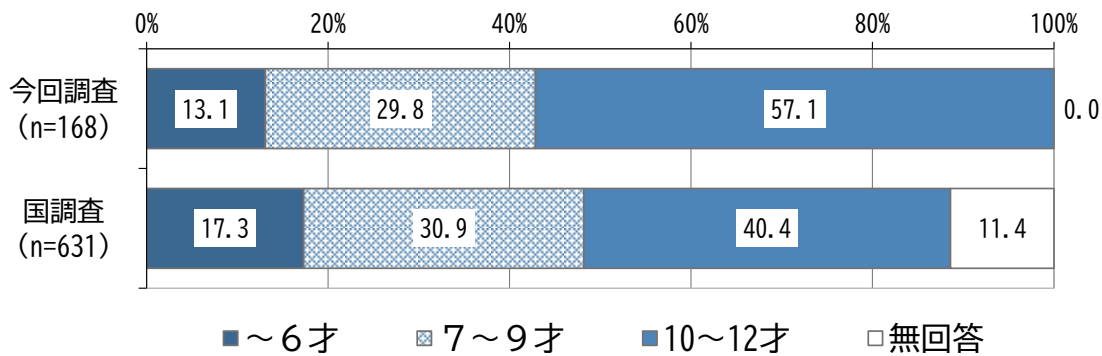
世話をしている家族がいると回答した人の、世話を始めた年齢については、「10～12才」が 57.1%で最も高く、次いで「7～9才」が 29.8%、「～6才」が 13.1%となっている。

図表Ⅱ-1-35 世話を始めた年齢



国調査と比較すると、「10～12才」(57.1%)では、国調査(40.4%)より 16.7 ポイント高くなっている。

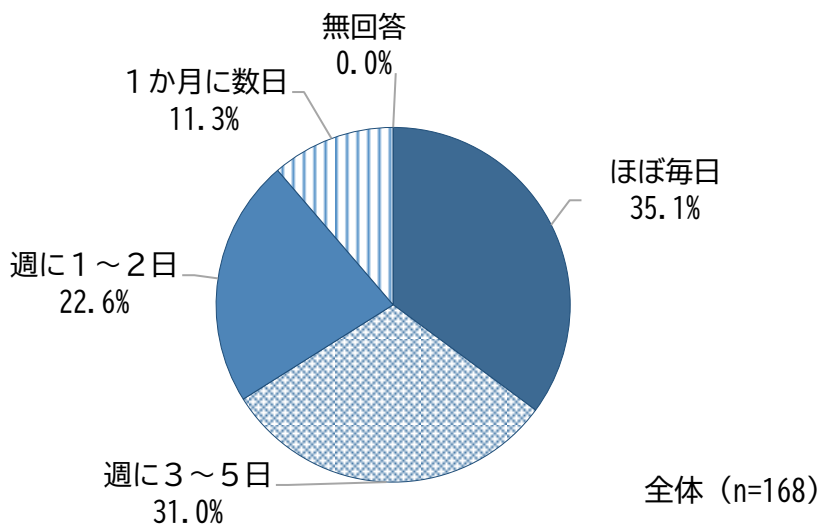
図表Ⅱ-1-36 世話を始めた年齢 国調査との比較



⑩ 世話をしている頻度

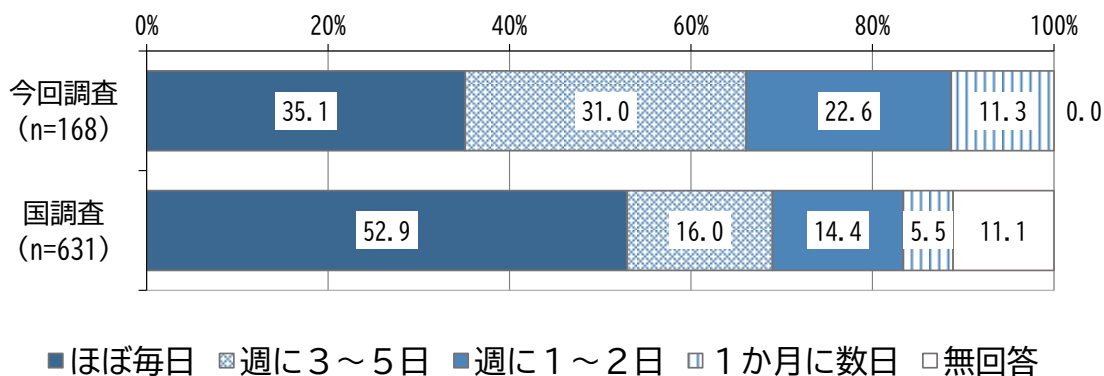
世話をしている家族がいると回答した人の、世話をしている頻度については、「ほぼ毎日」が 35.1%で最も高く、次いで「週に3～5日」が 31.0%、「週に1～2日」が 22.6%と続いている。

図表Ⅱ-1-37 世話をしている頻度



国調査と比較すると、「ほぼ毎日」(35.1%)では、国調査(52.9%)より 17.8 ポイント低く、「週に3～5日」(31.0%)では、国調査(16.0%)より 15.0 ポイント高くなっている。

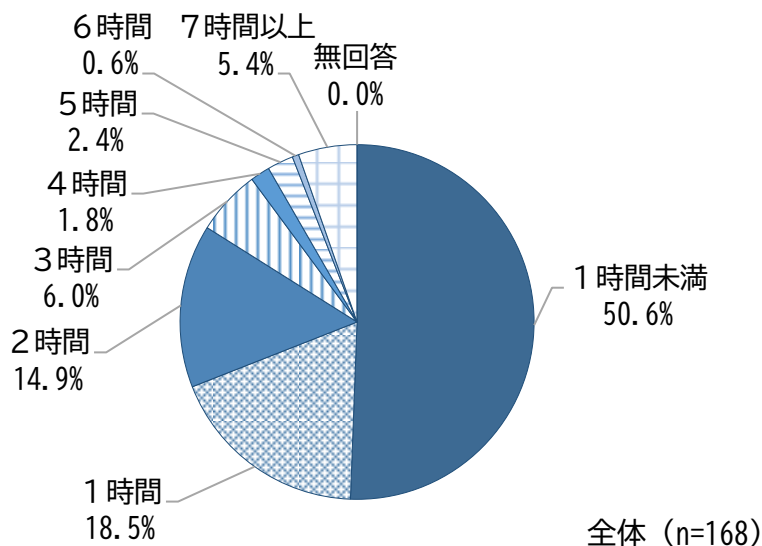
図表Ⅱ-1-38 世話をしている頻度 国調査との比較



⑪ 平日1日あたりの世話を費やす時間

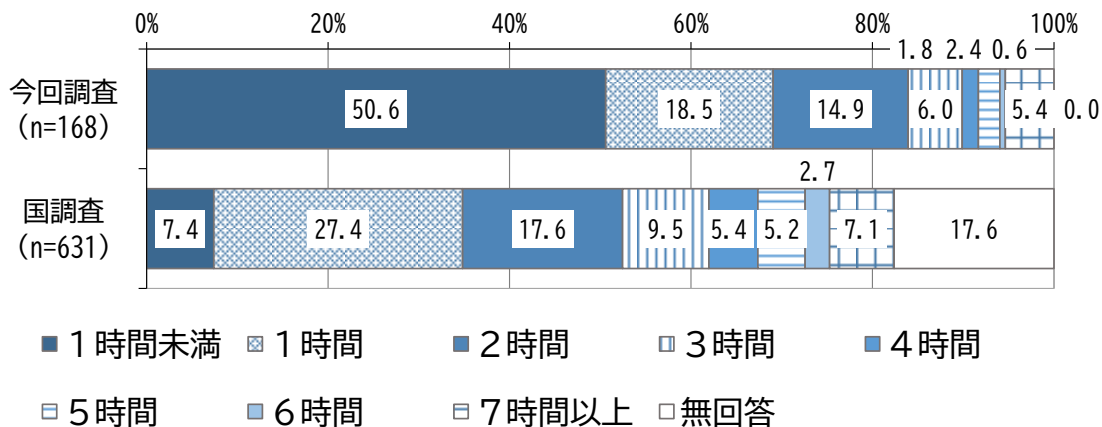
世話をしている家族がいると回答した人の、平日1日あたりの世事に費やす時間については、「1時間未満」が50.6%で最も高く、次いで「1時間」が18.5%、「2時間」が14.9%と続いている。

図表Ⅱ-1-39 平日1日あたりの世事に費やす時間



国調査と比較すると、「1時間未満」(50.6%)では、国調査(7.4%)より 43.2 ポイント高くなっている。

図表Ⅱ-1-40 平日1日あたりの世事に費やす時間 国調査との比較

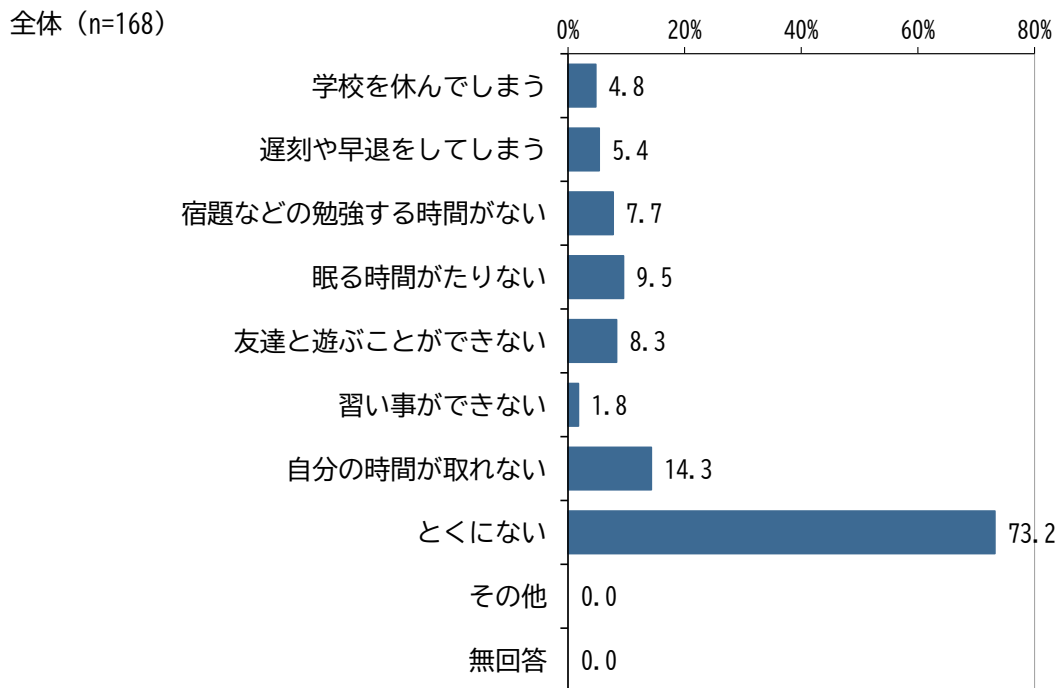




## ⑫ 世話をしているためにやりたいけれどできないこと

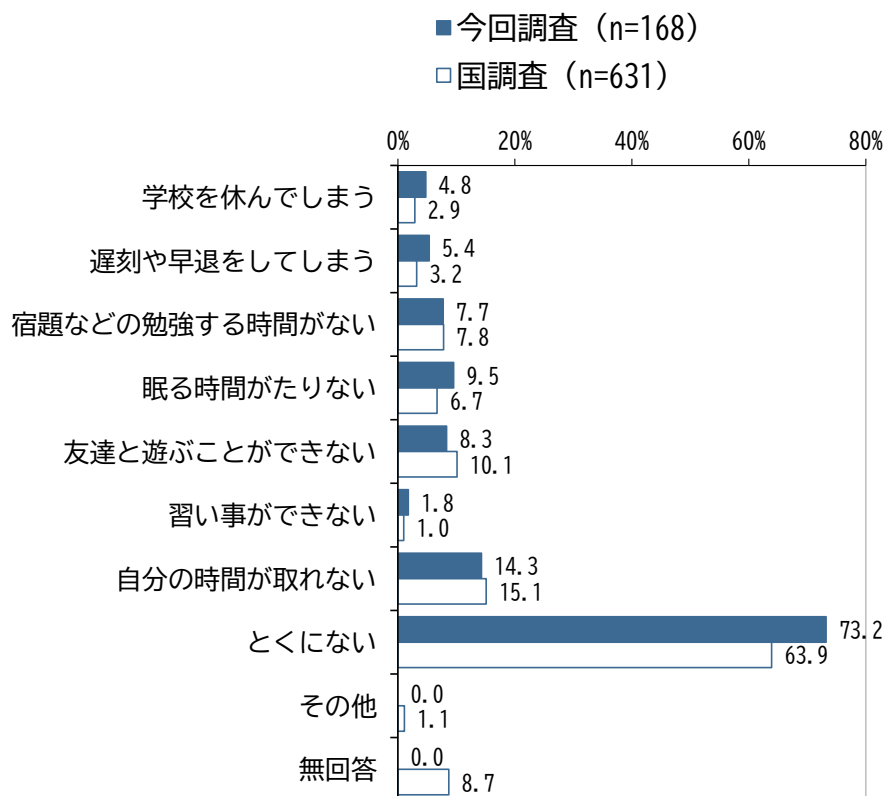
世話をしている家族がいると回答した人の、世話をしているためにやりたいけれどできないことについては、「とくにない」が 73.2%で最も高く、次いで「自分の時間が取れない」が 14.3%、「眠る時間がたりない」が 9.5%と続いている。

図表Ⅱ-1-41 世話をしているためにやりたいけれどできないこと(複数回答)



国調査と比較すると、「学校を休んでしまう」、「遅刻や早退をしてしまう」、「眠る時間がたりない」、「習い事ができない」、「とくにない」で国調査より割合が高くなっている。

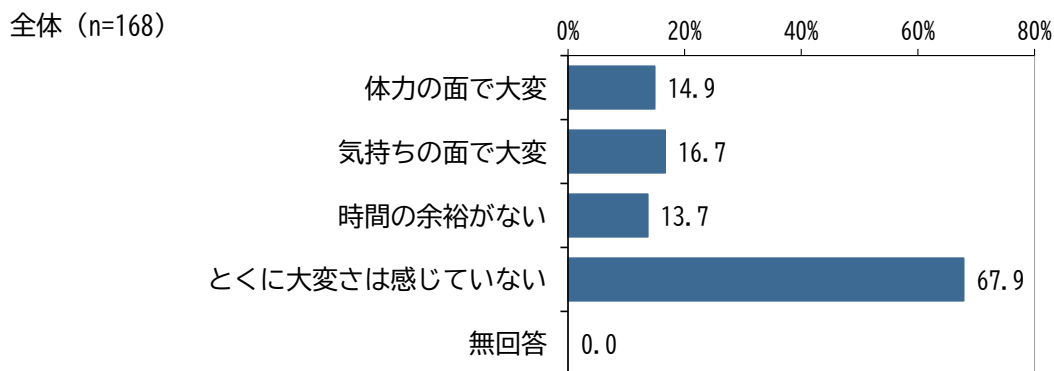
図表Ⅱ-1-42 世話をしているためにやりたいけれどできないこと 国調査との比較



### ⑬ 世話の大変さ

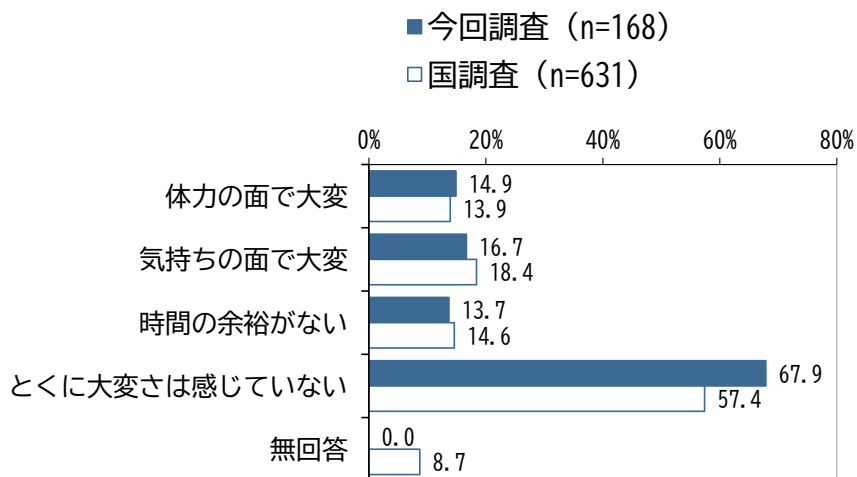
世話をしている家族がいると回答した人の、世話の大変さについては、「とくに大変さは感じていない」が67.9%で最も高く、次いで「気持ちの面で大変」が16.7%、「体力の面で大変」が14.9%と続いている。

図表Ⅱ-1-43 世話の大変さ(複数回答)



国調査と比較すると、「体力の面で大変」、「とくに大変さは感じていない」で国調査より割合が高くなっている。

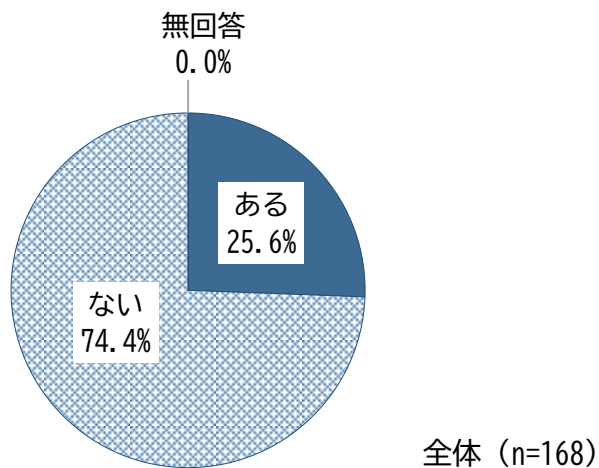
図表Ⅱ-1-44 世話の大変さ 国調査との比較



#### ⑭ 世話について相談した経験

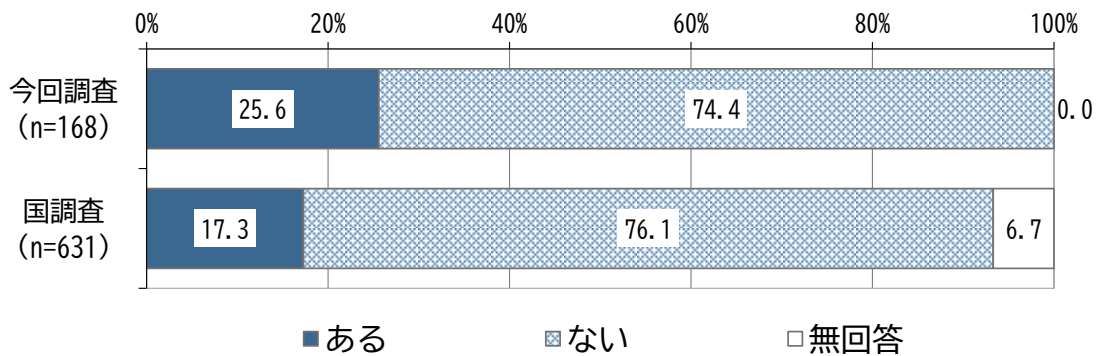
世話をしている家族がいると回答した人の、世話について相談した経験については、「ある」が 25.6%、「ない」が 74.4%となっている。

図表Ⅱ-1-45 世話について相談した経験



国調査と比較すると、「ある」(25.6%)では、国調査(17.3%)より 8.3 ポイント高くなっている。

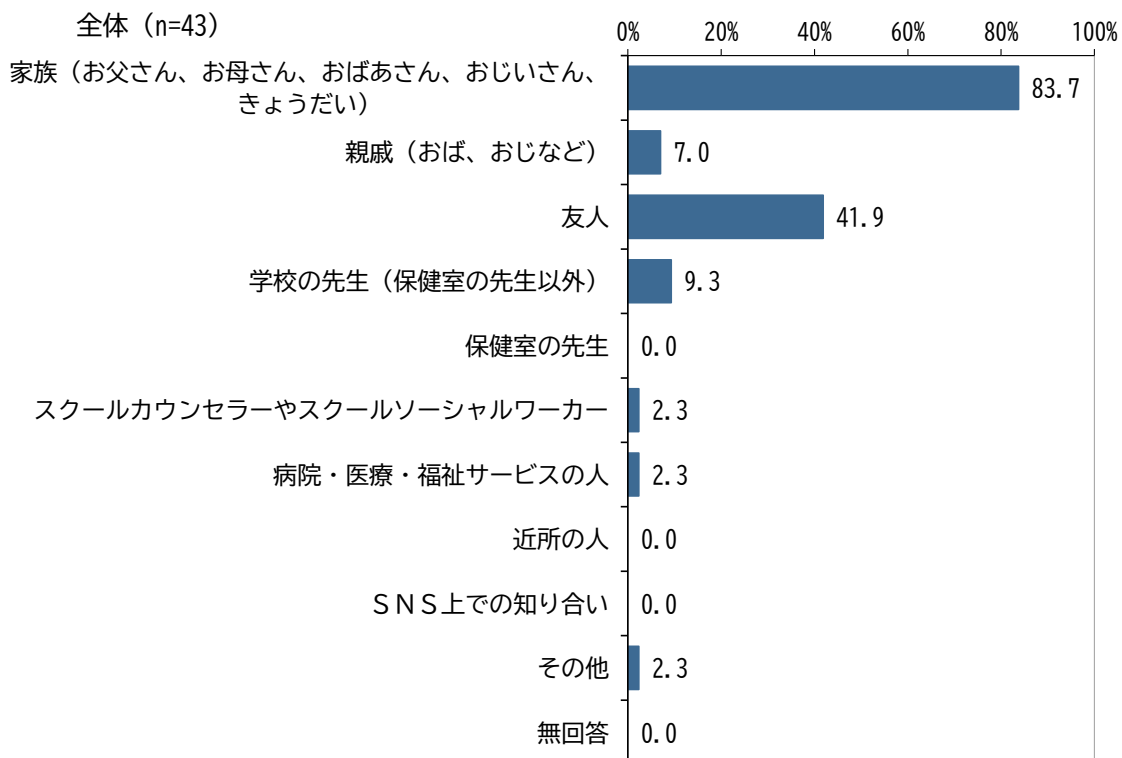
図表Ⅱ-1-46 世話について相談した経験 国調査との比較



### ⑮ 世話についての相談相手

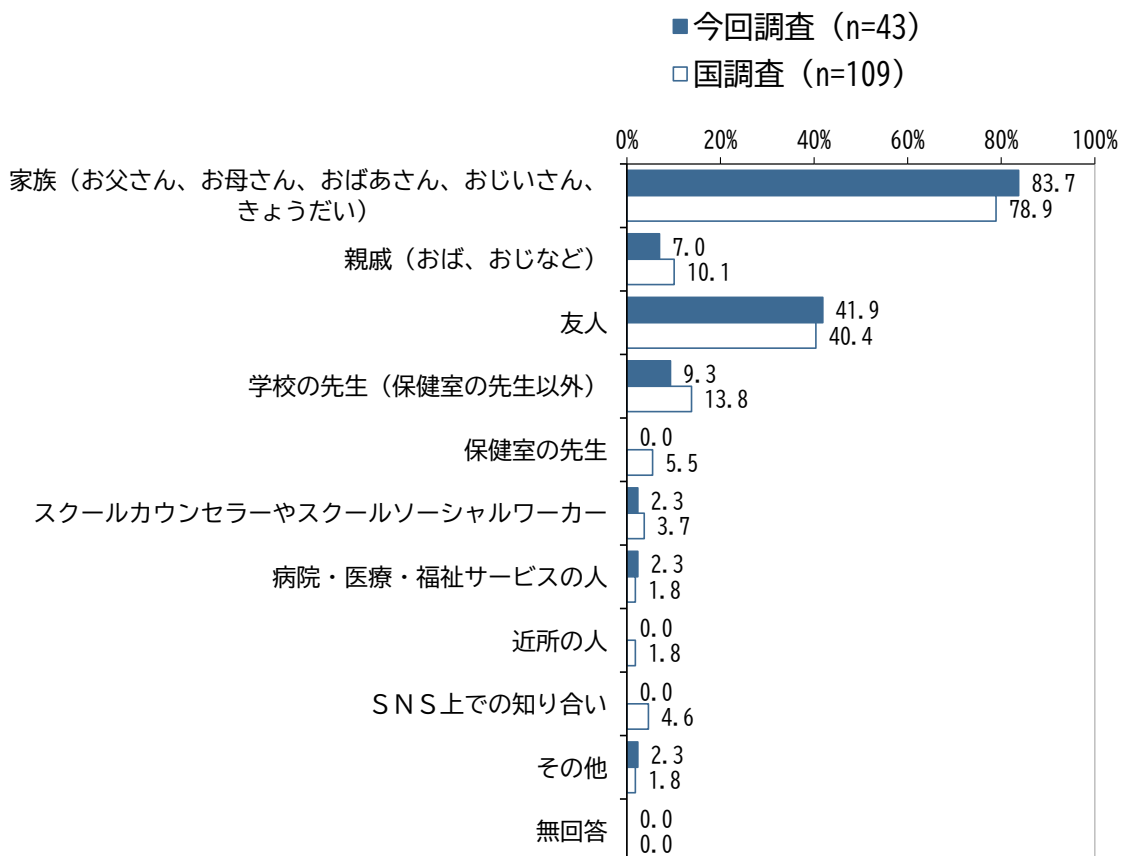
世話について相談した経験があると回答した人の、世話についての相談相手については、「家族(お父さん、お母さん、おばあさん、おじいさん、きょうだい)」が 83.7%で最も高く、次いで「友人」が 41.9%、「学校の先生(保健室の先生以外)」が 9.3%と続いている。

図表Ⅱ-1-47 世話についての相談相手(複数回答)



国調査と比較すると、「家族(お父さん、お母さん、おばあさん、おじいさん、きょうだい)」、「友人」、「病院・医療・福祉サービスの人」、「その他」で国調査より割合が高くなっている。

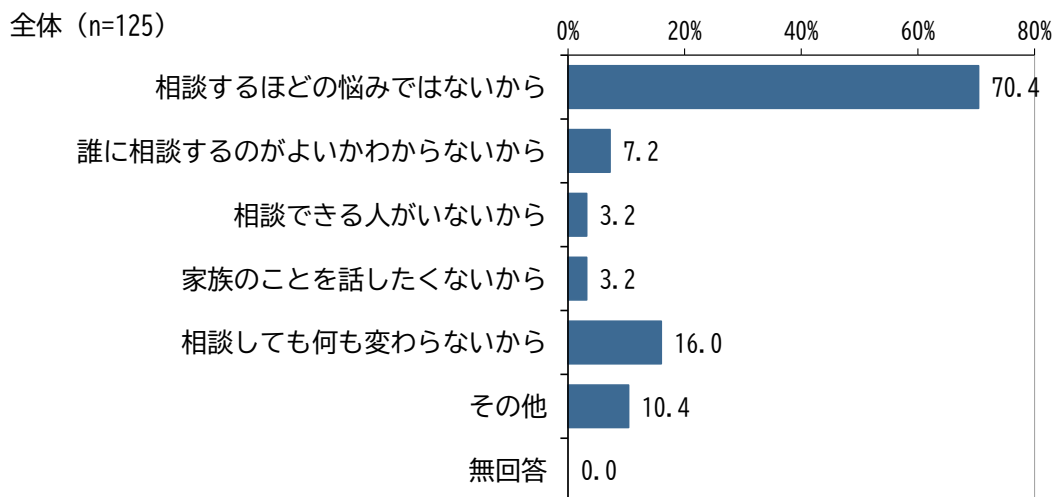
図表Ⅱ-1-48 世話についての相談相手 国調査との比較



### ⑯ 世話について相談したことがない理由

世話について相談した経験がないと回答した人の、世話について相談したことがない理由については、「相談するほどの悩みではないから」が70.4%で最も高く、次いで「相談しても何も変わらないから」が16.0%、「その他」が10.4%と続いている。

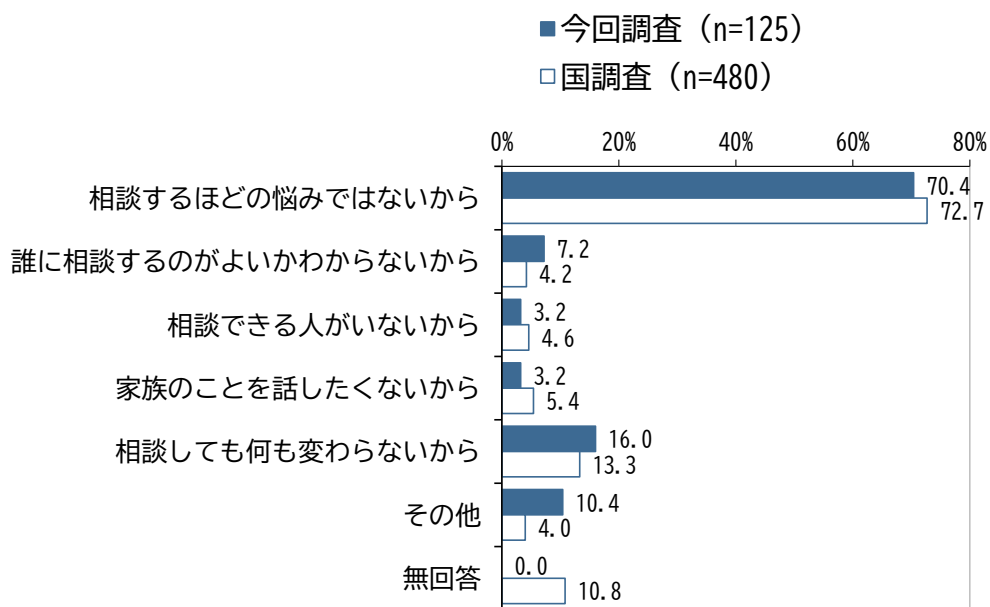
図表Ⅱ-1-49 世話について相談したことがない理由(複数回答)



(補足)その他の自由記述:面倒だから、自分で解決できるから、等

国調査と比較すると、「誰に相談するのがよいかわからないから」、「相談しても何も変わらないから」、「その他」で国調査より割合が高くなっている。

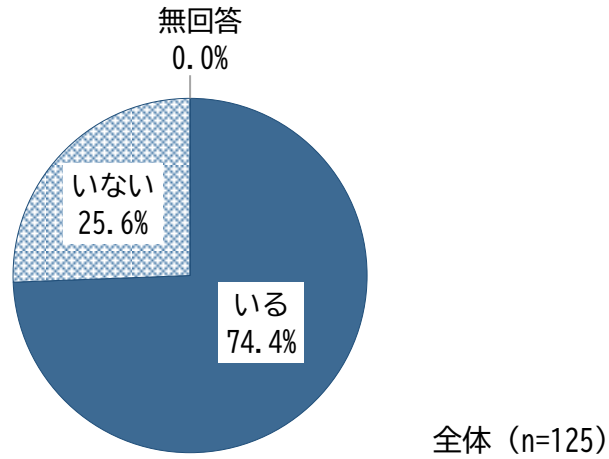
図表Ⅱ-1-50 世話について相談したことがない理由 国調査との比較



⑰ 世話について話を聞いてくれる人の有無

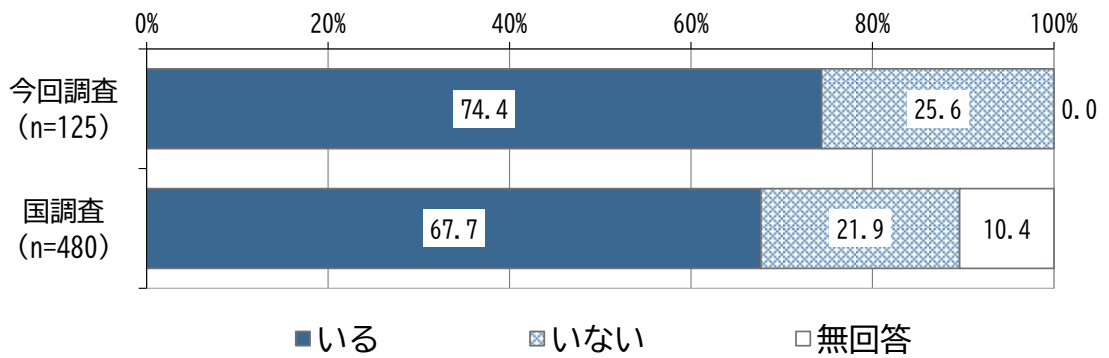
世話について相談した経験がないと回答した人の、世話について話を聞いてくれる人の有無については、「いる」が74.4%、「いない」が25.6%となっている。

図表Ⅱ-1-51 世話について話を聞いてくれる人の有無



国調査と比較すると、「いる」(74.4%)では、国調査(67.7%)より6.7ポイント高くなっている。

図表Ⅱ-1-52 世話について話を聞いてくれる人の有無 国調査との比較

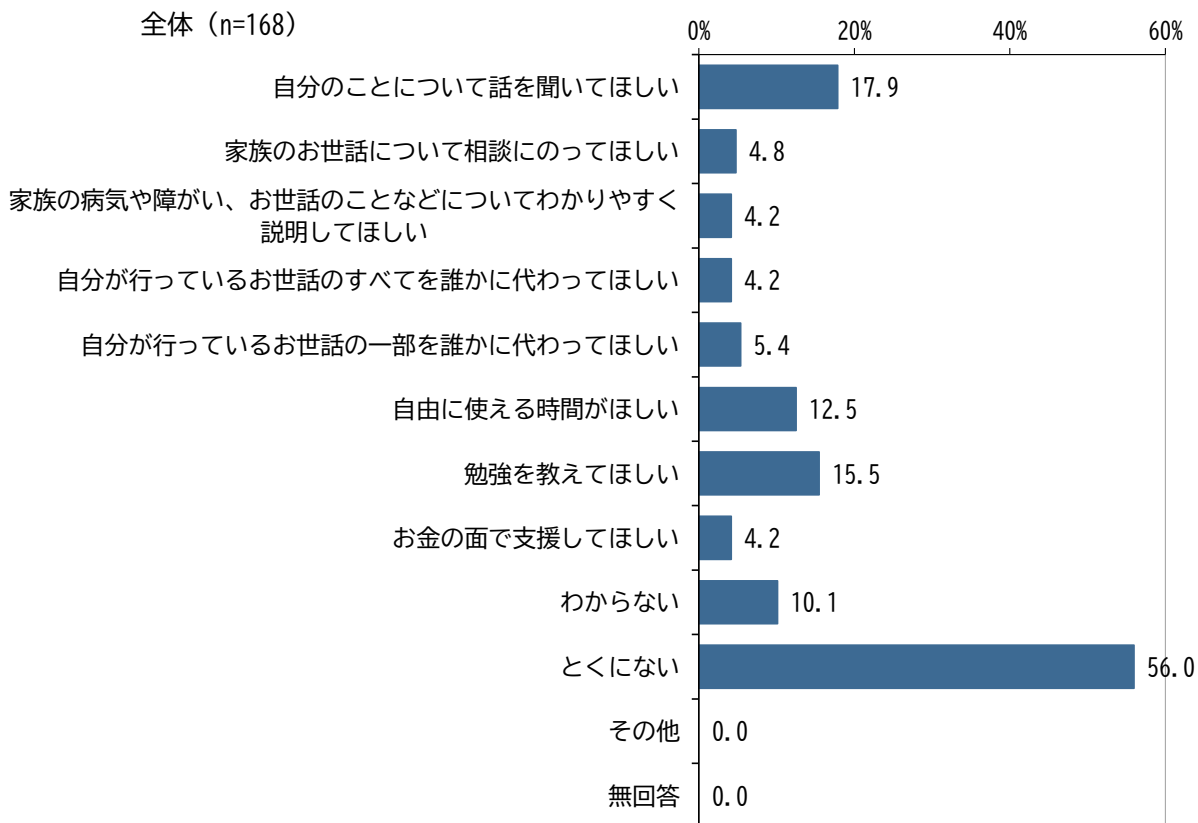




### ⑱ 学校や大人にしてもらいたいこと

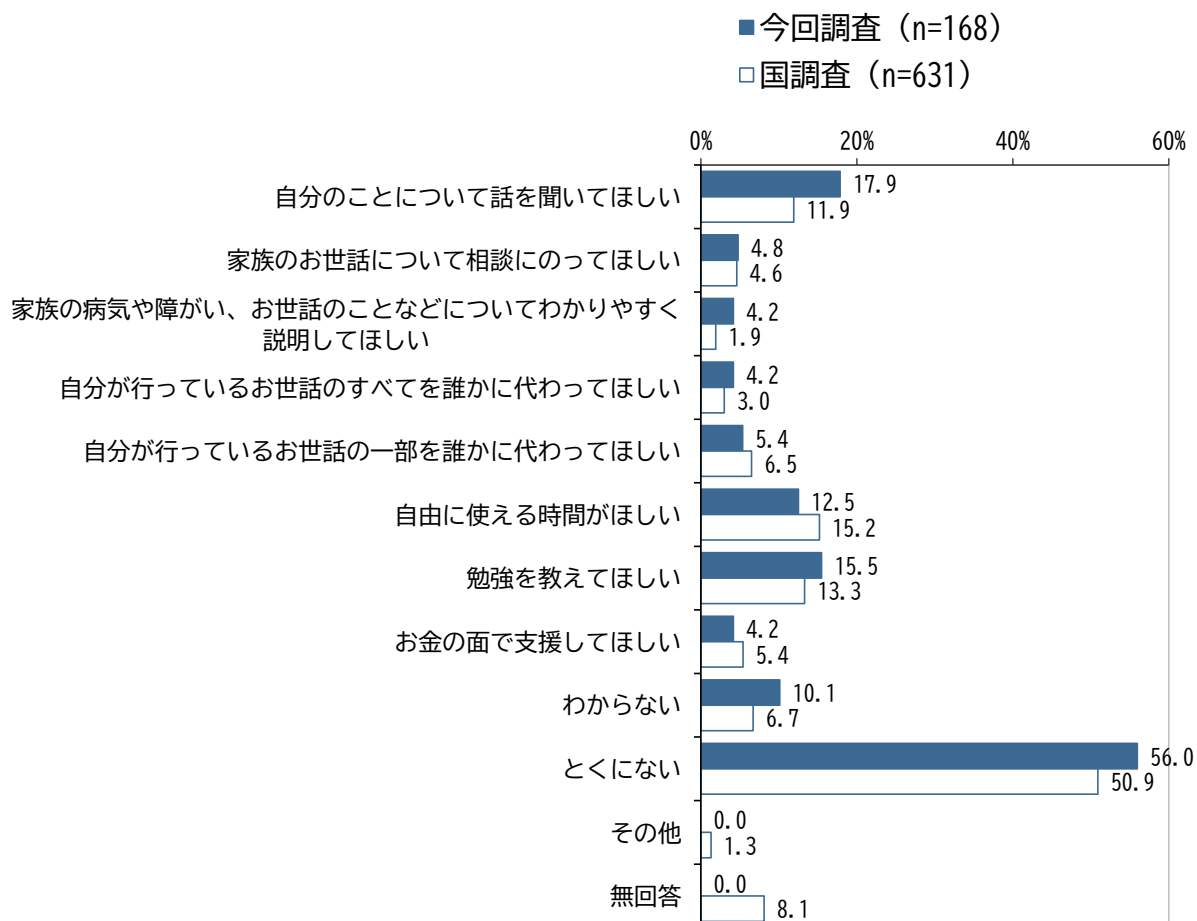
世話をしている家族がいると回答した人の、学校や大人にしてもらいたいことについては、「とくにない」が56.0%で最も高く、次いで「自分のことについて話を聞いてほしい」が17.9%、「勉強を教えてほしい」が15.5%と続いている。

図表Ⅱ-1-53 学校や大人にしてもらいたいこと(複数回答)



国調査と比較すると、「自分のことについて話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談にのってほしい」、「家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい」、「自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい」、「勉強を教えてほしい」、「わからない」、「とくにない」で国調査より割合が高くなっている。

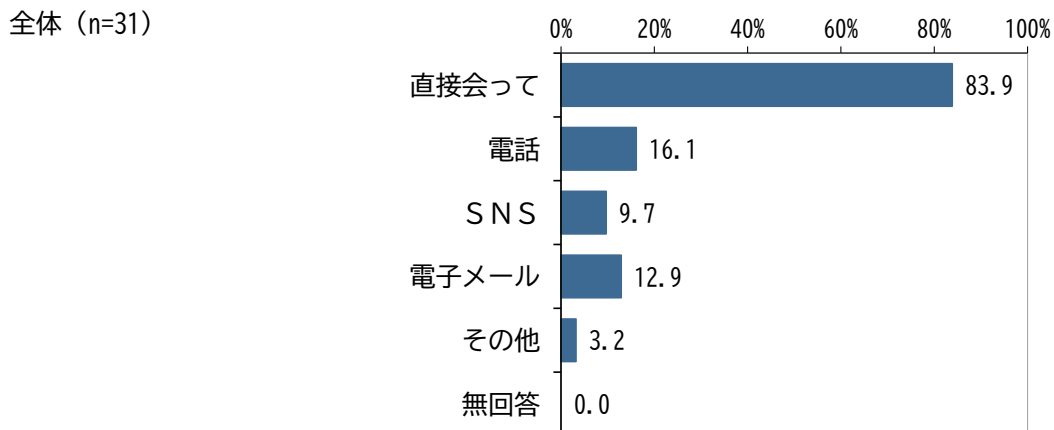
図表Ⅱ-1-54 学校や大人にしてもらいたいこと 国調査との比較



### ⑬ 希望する相談方法

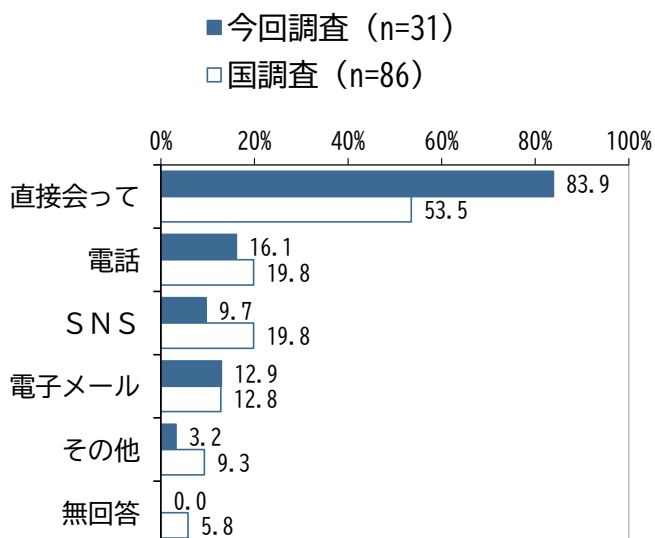
前問で「自分のことについて話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人の、希望する相談方法については、「直接会って」が 83.9%で最も高く、次いで「電話」が 16.1%、「電子メール」が 12.9%と続いている。

図表Ⅱ-1-55 希望する相談方法(複数回答)



国調査と比較すると、「直接会って」(83.9%)では、国調査(53.5%)より 30.4 ポイント高くなっている。

図表Ⅱ-1-56 希望する相談方法 国調査との比較



## ㊫ 自由回答

家族の世話をしている子どものために必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてもらいたいことについての自由記述は、以下の通りである。

※原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

図表Ⅱ-1-57 自由回答

家族の世話をしている子どものために必要だと思うこと
・遊びに行かせてあげたい。(複数意見)
・手伝ってあげることが必要。(複数意見)
・子どもに自由な時間を与える。(複数意見)
・自由が必要だと思う。家事など家のことで困っている人がいたらストレスがたまったりして自分を傷つけたくなるから。(実際にあった。)
・その子の自由時間や勉強時間確保のために信用できる大人が来たらいいと思う。
・話を聞いてあげる。
・お金が必要。
・お手伝い用のロボットなどが欲しい。
・勉強を教える。インターネット(YouTubeやゲーム)の時間を減らす。好き嫌いをしないようにする。
・子供に無理をさせてはいけない。
・大変な子どもがいれば、お世話を変わったり、理解したりしたらいいと思います。自由がある程度あればいけると思います。
・喋れるようにした方がいい。もっと勉強させた方がいい。
・思いやりの気持ち。
・支援。家の人がお世話をしてる子どもと一っしょに協力してあげたらいいと思う。
・休みも、時々したほうがいいかもしれません。
家族にしてもらいたいこと
・家族で、仕事の分担をする。(複数意見)
・掃除。
・弟をお風呂に入れる。
・きょうだいの話聞くことが大切だと思います。
学校や周りの大人にしてもらいたいこと
・勉強を教えて欲しい。(複数回答)
自身の気持ちや困っている状況について
・時間の余裕が欲しい。自由な時間が欲しい。(複数意見)
・自分に使うお金が少なくなっている。
・弟のお世話も特に難しいことはないです。
・別につらくはないので大丈夫です。
・自分でできないことは、手伝って欲しい。

・私のことをもっと分かって欲しい。

・お父さんが怖い。だから、あまり話す機会がない。怒るとたまに、手を出して怖かった。

・言いたいけど言えないことを聞いてほしい。

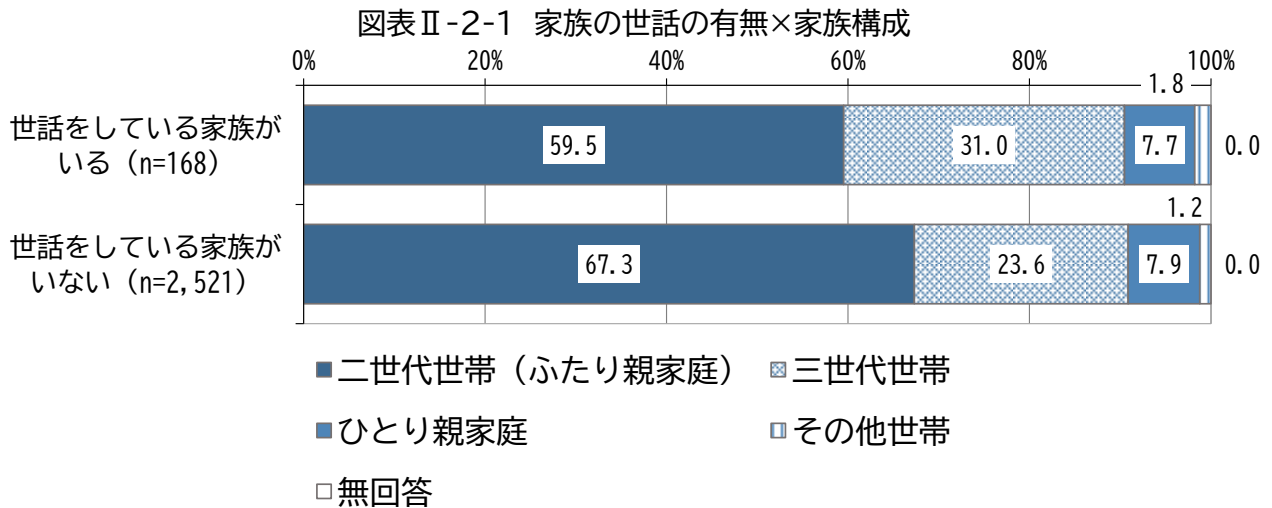
・私の弟は、自閉症、知的障がいをもっています。これらの病気についてよく教えてもらいたいです。また、金銭的にも支援をしてもらいたいです。よろしく願いいたします。

## 2 調査結果(追加分析)

### (1) 家族の世話の有無による学校生活などの状況

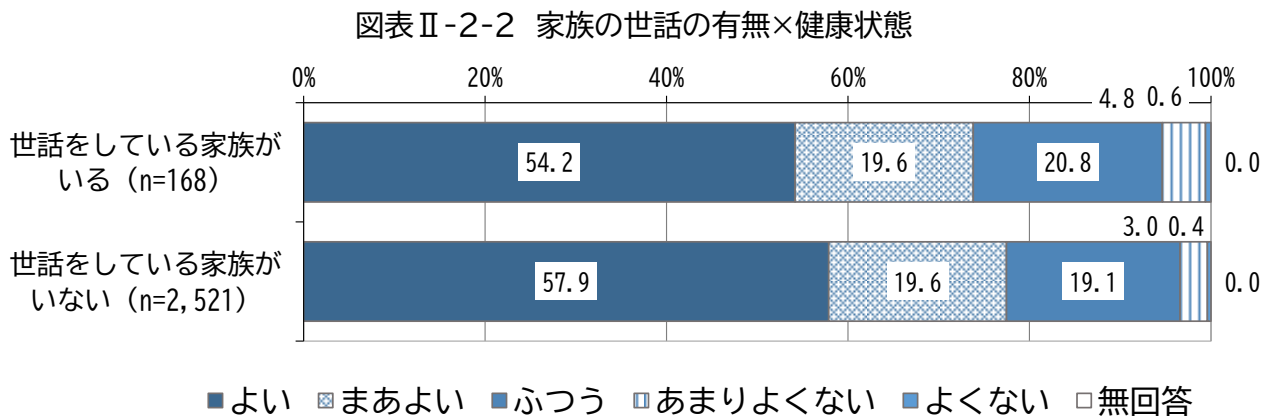
#### ① 家族の世話の有無×家族構成

家族構成については、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「三世代世帯」の割合が高くなっている。



#### ② 家族の世話の有無×健康状態

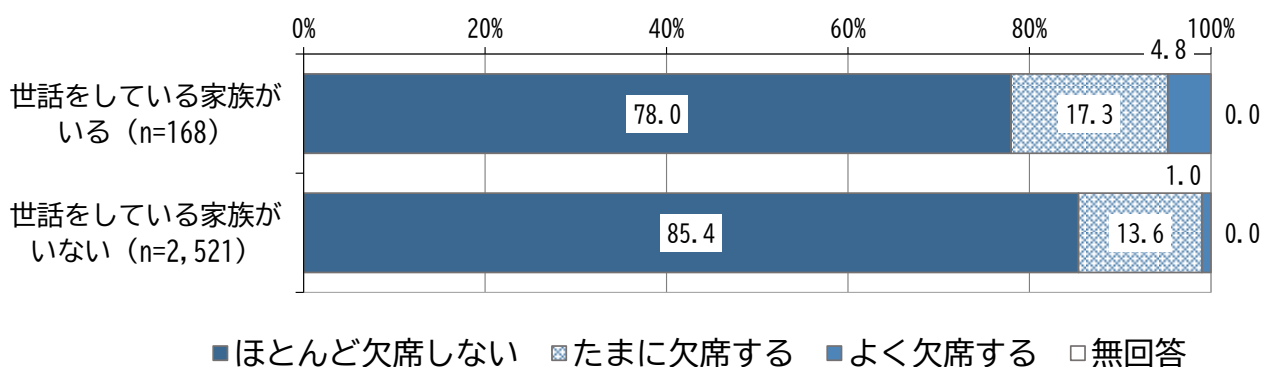
健康状態については、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、『よい』(「よい」と「まあよい」の合計)の割合が低くなっている。



### ③ 家族の世話の有無×出席状況

出席状況については、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「たまに欠席する」、「よく欠席する」の割合が高くなっている。

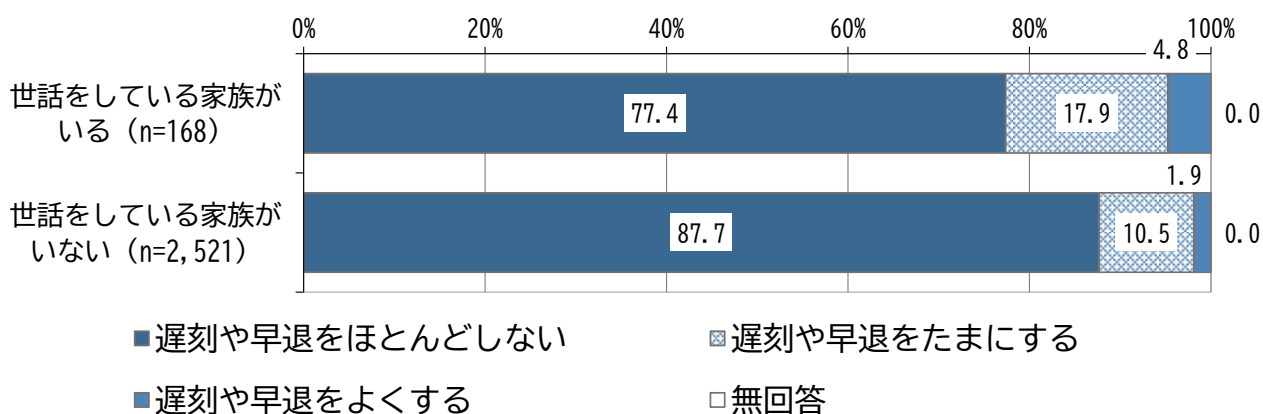
図表Ⅱ-2-3 家族の世話の有無×出席状況



### ④ 家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

遅刻や早退の状況については、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「遅刻や早退をたまにする」、「遅刻や早退をよくする」の割合が高くなっている。

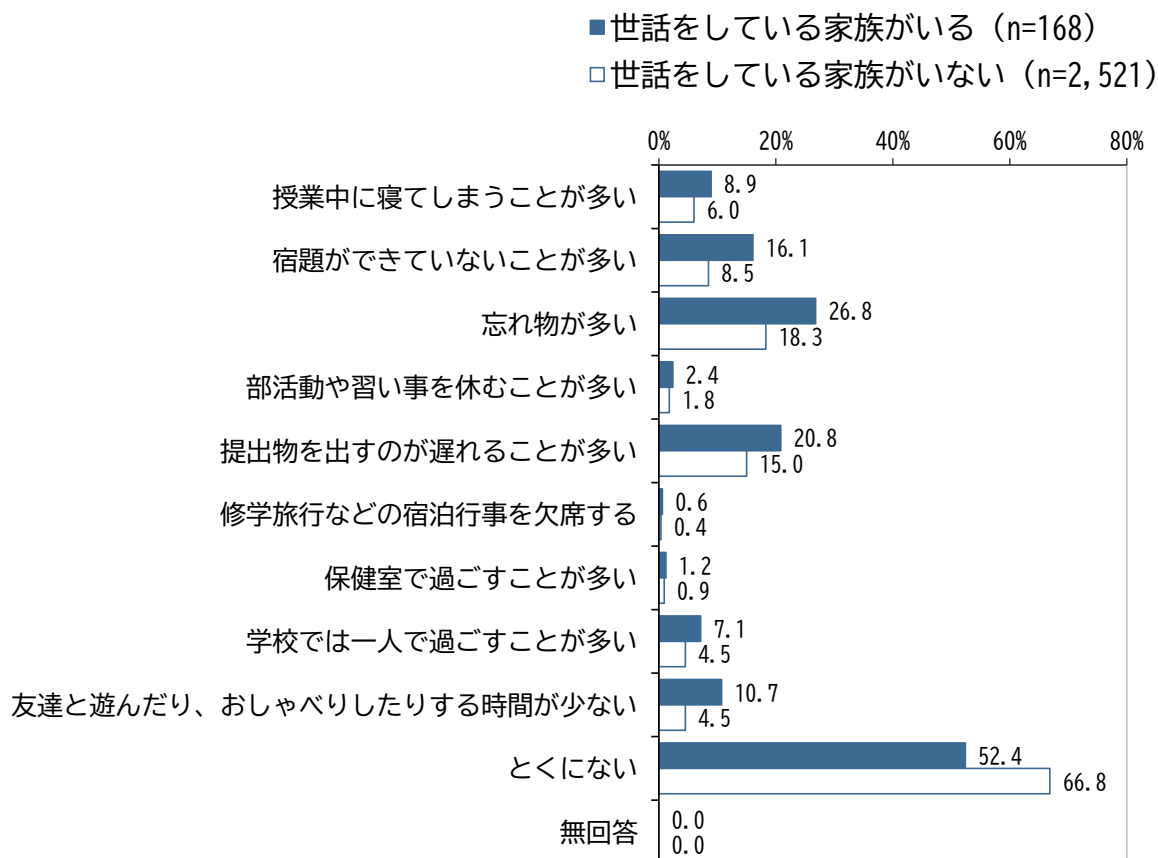
図表Ⅱ-2-4 家族の世話の有無×遅刻や早退の状況



### ⑤ 家族の世話の有無×学校生活等であてはまること

学校生活等であてはまることについては、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「とくにない」以外の全ての項目で割合が高くなっている。

図表Ⅱ-2-5 家族の世話の有無×学校生活等であてはまること(複数回答)

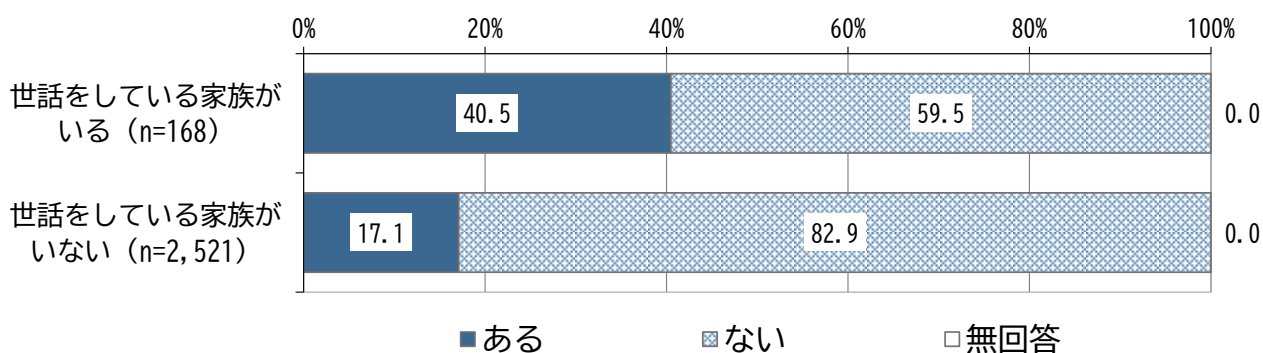


### ⑥ 家族の世話の有無×現在の悩みごと

#### i) 家族の世話の有無×悩みごとの有無

悩みごとの有無については、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、悩みごとが「ある」の割合が高くなっている。

図表Ⅱ-2-6 家族の世話の有無×悩みごとの有無

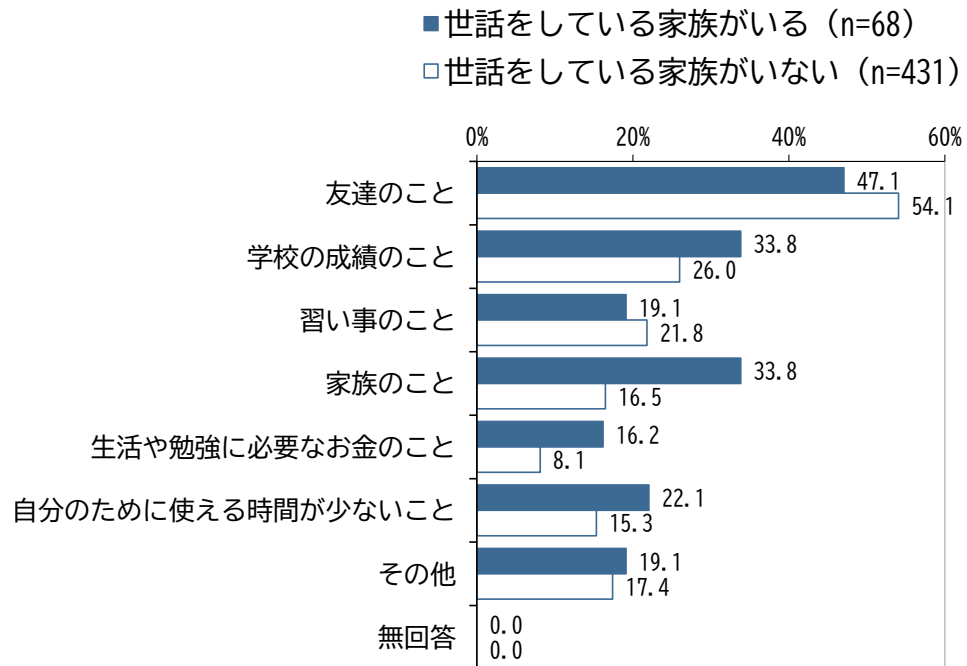




ii) 家族の世話の有無×現在の悩みごと

現在の悩みごとについては、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「学校の成績のこと」、「家族のこと」、「生活や勉強に必要なお金のこと」、「自分のために使える時間が少ないこと」、「その他」の割合が高くなっている。

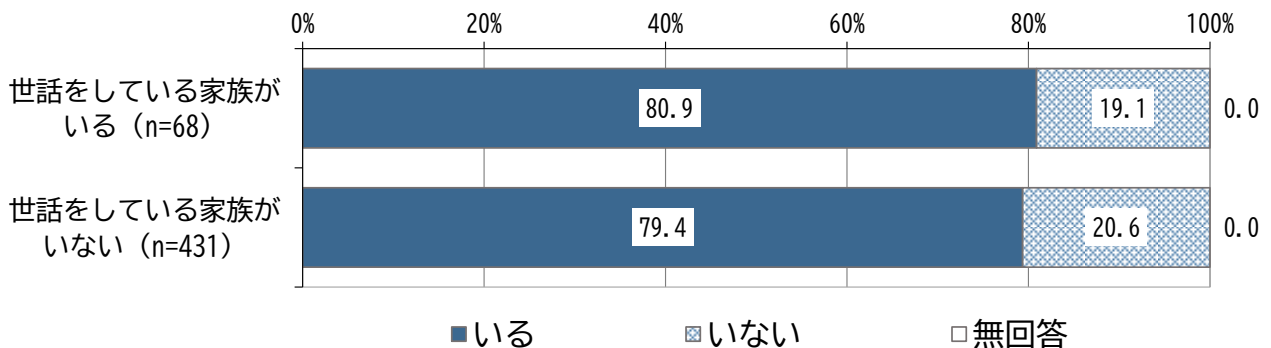
図表Ⅱ-2-7 家族の世話の有無×現在の悩みごと(複数回答)



⑦ 家族の世話の有無×相談相手の有無

相談相手の有無については、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、大きな差はみられない。

図表Ⅱ-2-8 家族の世話の有無×相談相手の有無

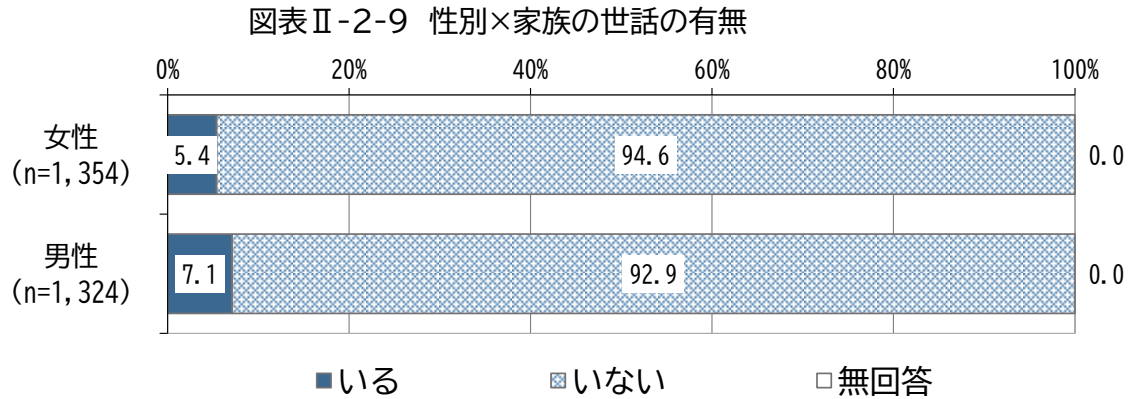


## (2)性別による世話の状況の違い

性別について、「その他」という回答はサンプル数が少ないためクロス集計では対象外とする。

### ① 性別×家族の世話の有無

世話をしている家族の有無については、性別による大きな差はみられない。

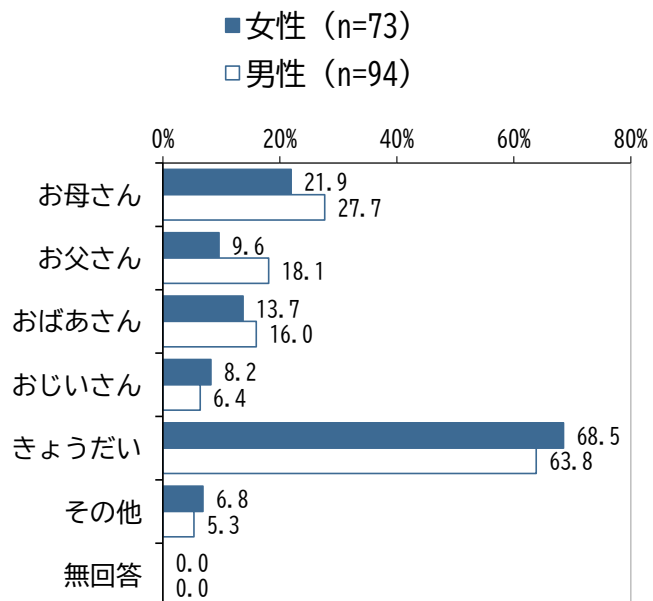


### ② 性別×世話を必要としている家族

世話を必要としている家族について、世話をしている人が女性の場合、男性に比べて、「おじいさん」、「きょうだい」、「その他」の割合が高くなっている。

逆に、世話をしている人が男性の場合、女性に比べて、「お母さん」、「お父さん」、「おばあさん」の割合が高くなっている。

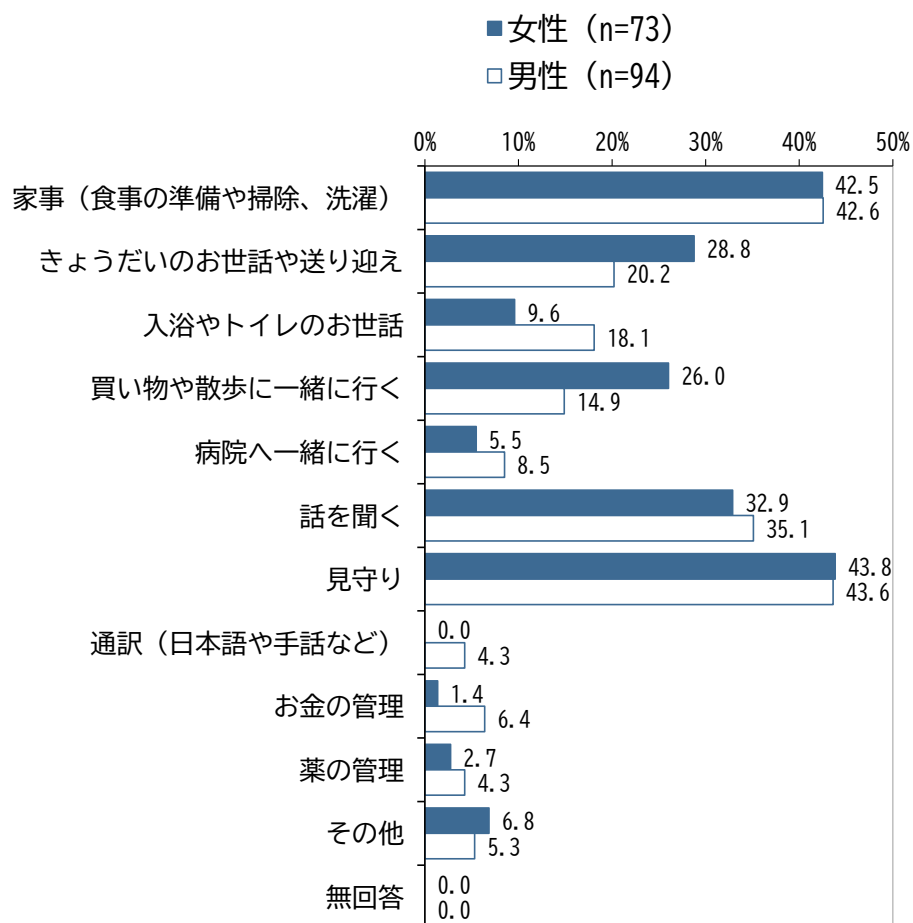
図表Ⅱ-2-10 性別×世話を必要としている家族(複数回答)



### ③ 性別×世話の内容

世話の内容について、世話をしている人が女性の場合、男性に比べて、「きょうだいのお世話や送り迎え」、「買い物や散歩と一緒にいく」、「見守り」、「その他」の割合が高くなっている。

図表Ⅱ-2-11 性別×世話の内容(複数回答)

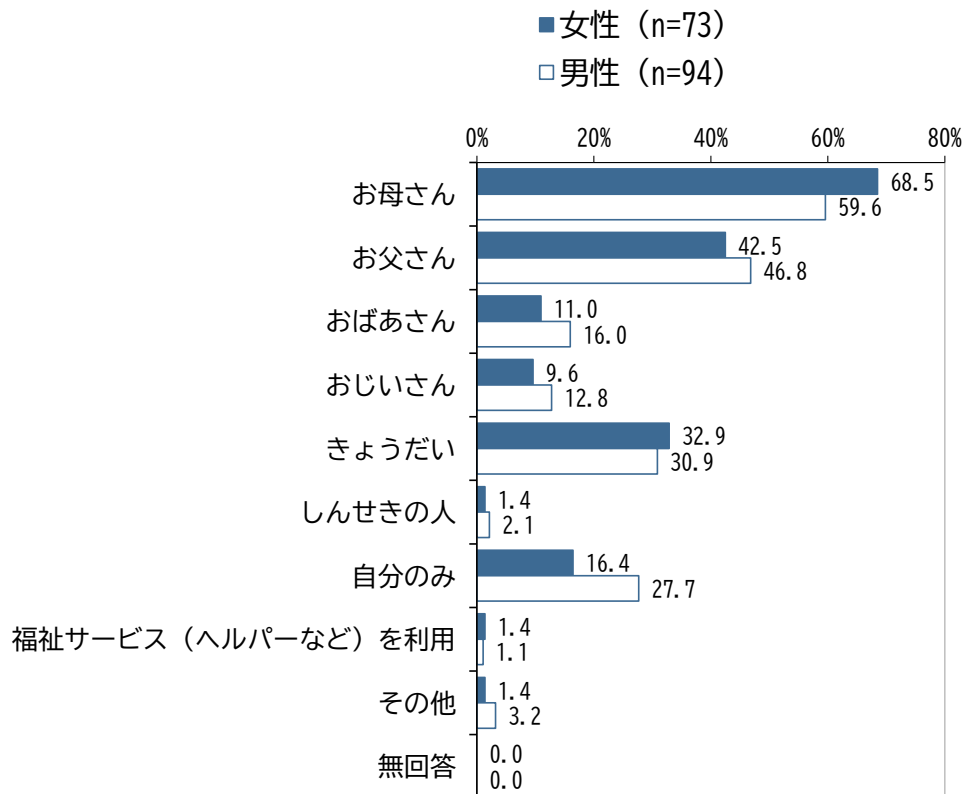


#### ④ 性別×世話を一緒にしている人

世話を一緒にしている人について、世話をしている人が女性の場合、男性に比べて、「お母さん」、「きょうだい」、「福祉サービス(ヘルパーなど)を利用」の割合が高くなっている。

また、「自分のみ」では、男性の場合、女性に比べて割合が高くなっている。

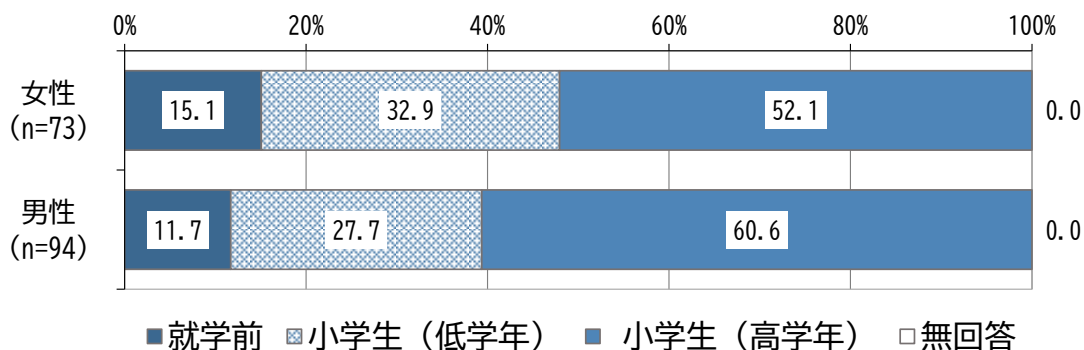
図表Ⅱ-2-12 性別×世話を一緒にしている人(複数回答)



#### ⑤ 性別×世話を始めた年齢

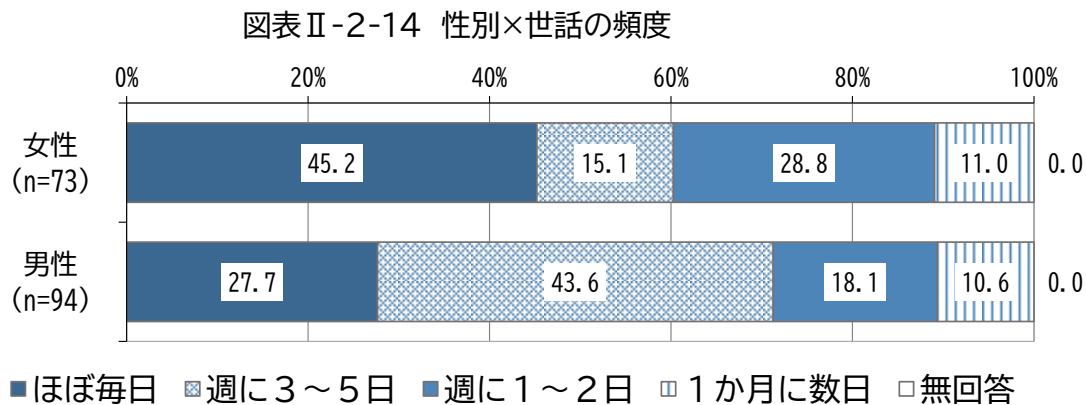
世話を始めた年齢については、女性、男性いずれも「小学生(高学年)」の割合が最も高くなっている。

図表Ⅱ-2-13 性別×世話を始めた年齢



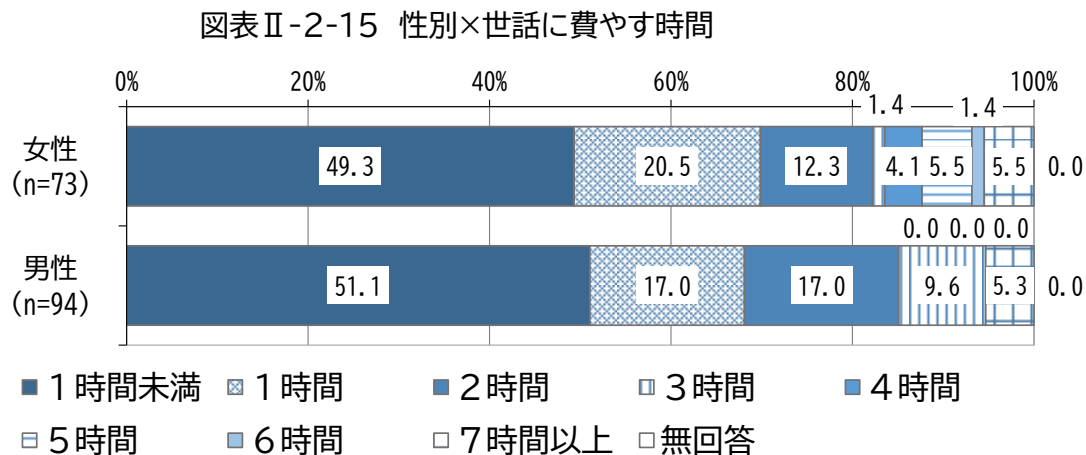
⑥ 性別×世話の頻度

世話の頻度については、女性は「ほぼ毎日」の割合が最も高く、男性は「週に3～5日」の割合が最も高くなっている。



⑦ 性別×世話に費やす時間

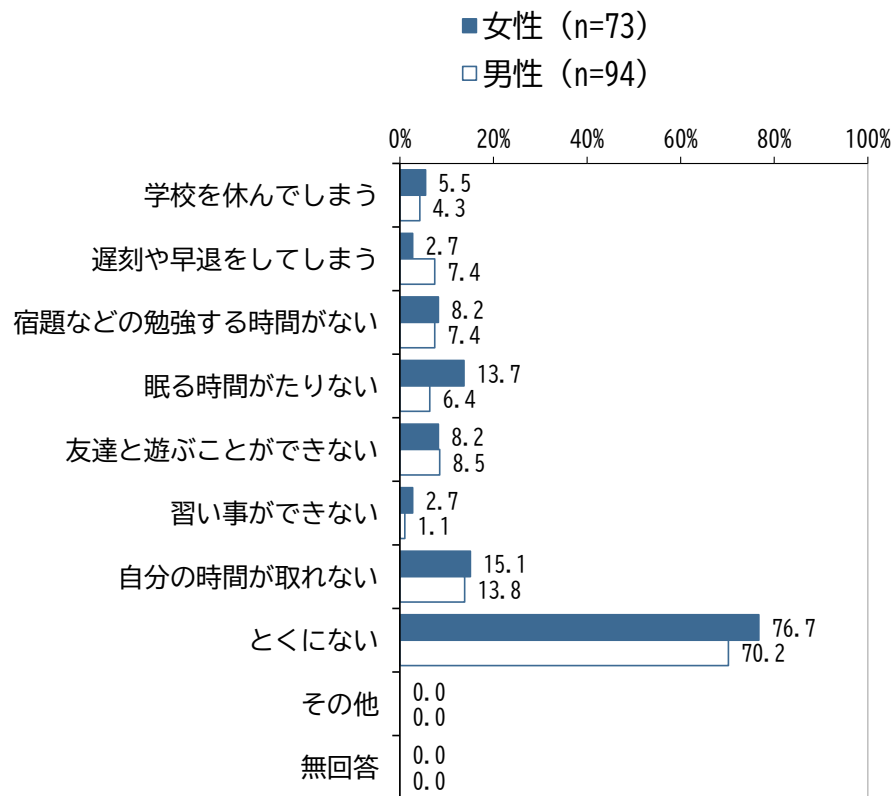
世話に費やす時間について、『3時間以上』では、女性が男性に比べて割合が高くなっている。



⑧ 性別×世話による制約

世話による制約について、「とくにない」では、女性が男性に比べて高くなっている。

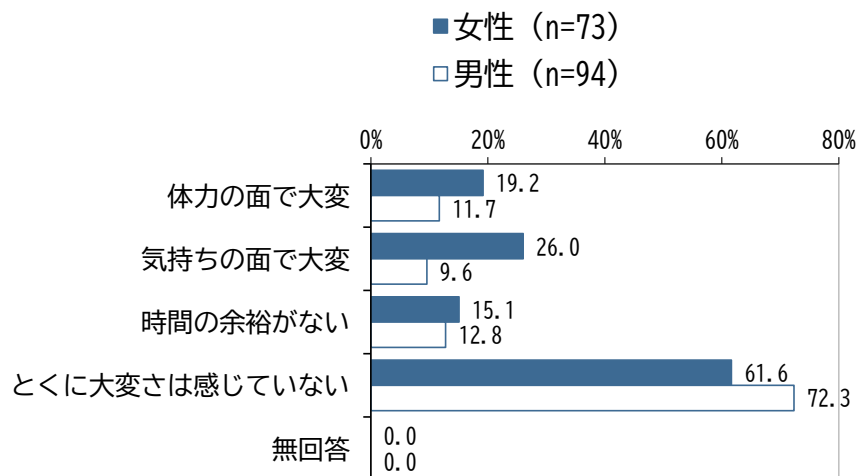
図表Ⅱ-2-16 性別×世話をしているためにやりたいけれどできていないこと(複数回答)



### ⑨ 性別×世話の大変さ

世話をすることで感じている大変さについては、女性が男性に比べて大変さを感じている割合が高くなっている。

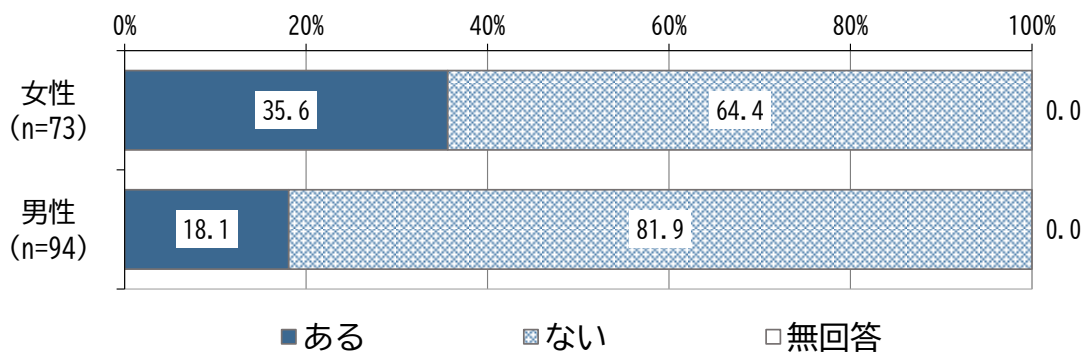
図表Ⅱ-2-17 性別×世話の大変さ(複数回答)



### ⑩ 性別×世話について相談した経験

世話について相談した経験の有無については、女性が男性に比べて「ある」の割合が高くなっている。

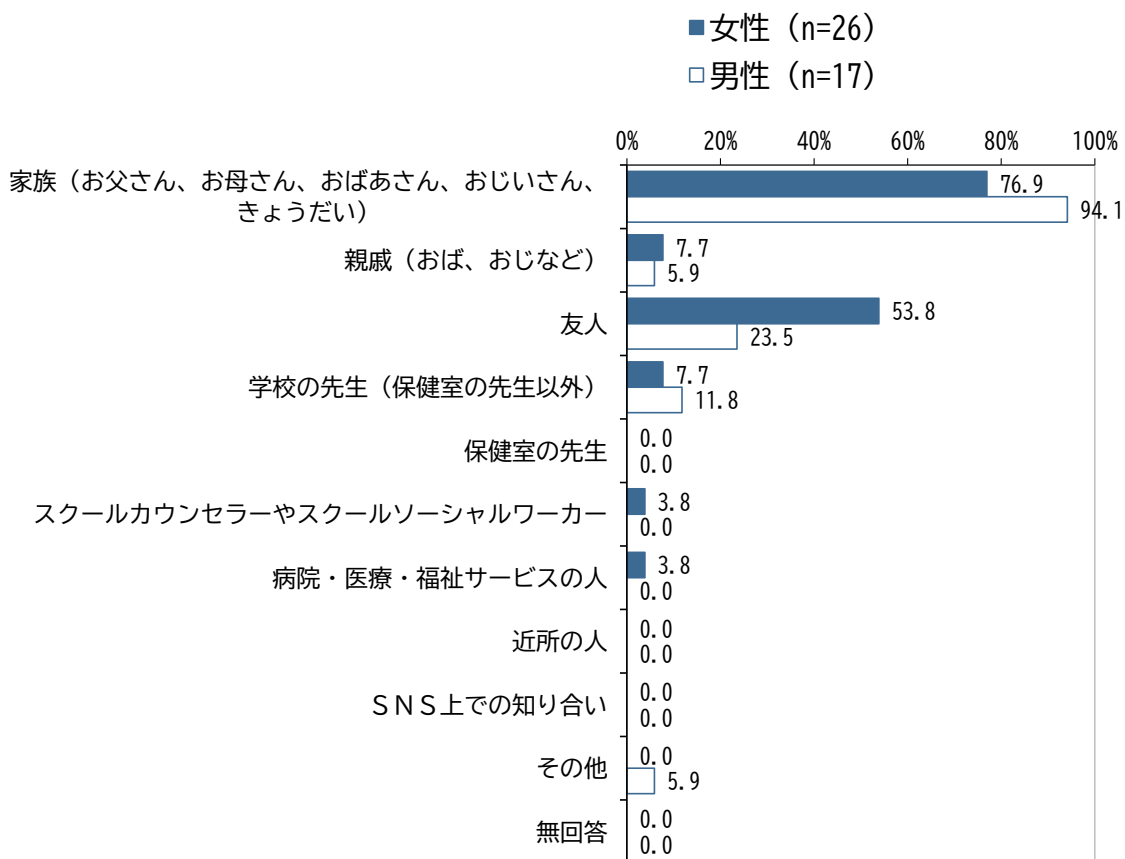
図表Ⅱ-2-18 性別×世話について相談した経験



### ⑪ 性別×世話についての相談相手

世話についての相談相手については、女性、男性いずれも「家族(お父さん、お母さん、おばあさん、おじいさん、きょうだい)」の割合が最も高く、次いで「友人」が高くなっており、「家族(お父さん、お母さん、おばあさん、おじいさん、きょうだい)」では、男性が女性より割合が高く、「友人」では、女性が男性より割合が高くなっている。

図表Ⅱ-2-19 性別×世話についての相談相手(複数回答)

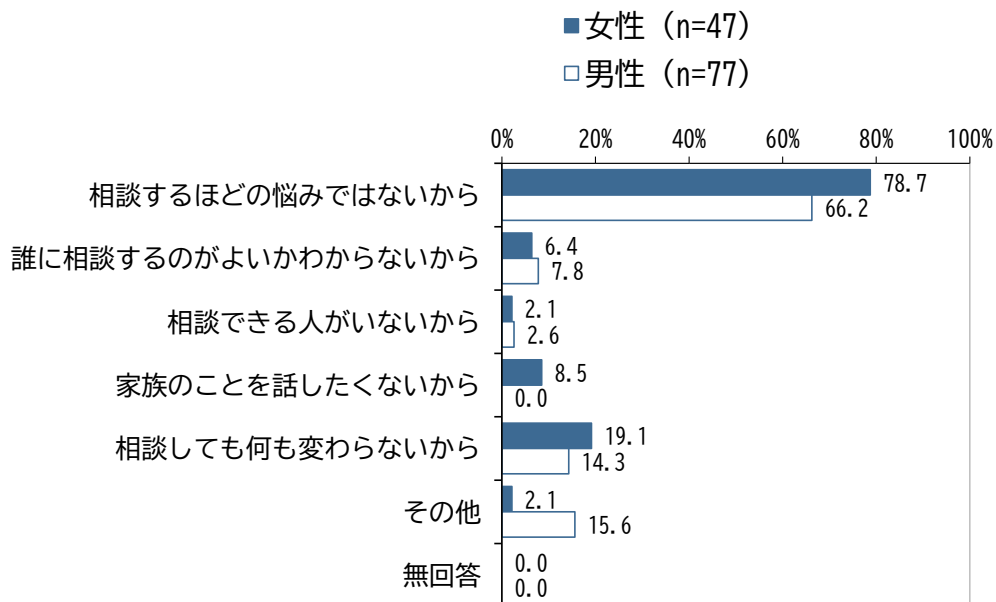




⑫ 性別×世話について相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由については、女性、男性いずれも「相談するほどの悩みではないから」の割合が最も高く、女性が男性より高くなっている。

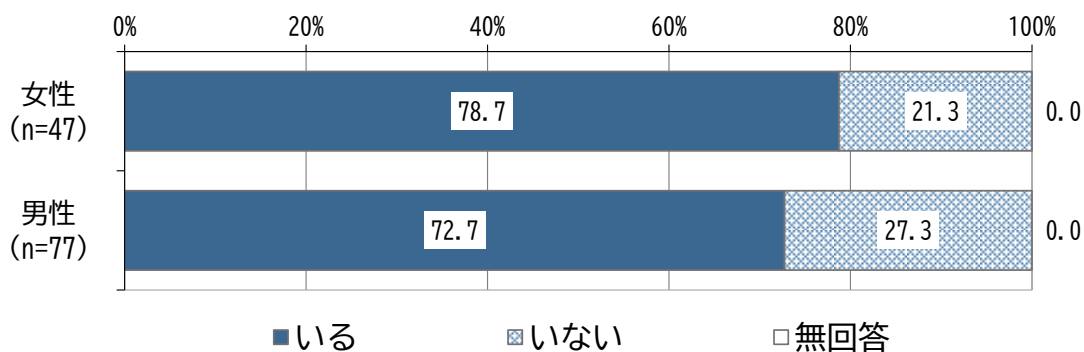
図表Ⅱ-2-20 性別×世話について相談したことがない理由(複数回答)



⑬ 性別×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について話を聞いてくれる人の有無について、「いる」では、女性が男性より割合が高くなっている。

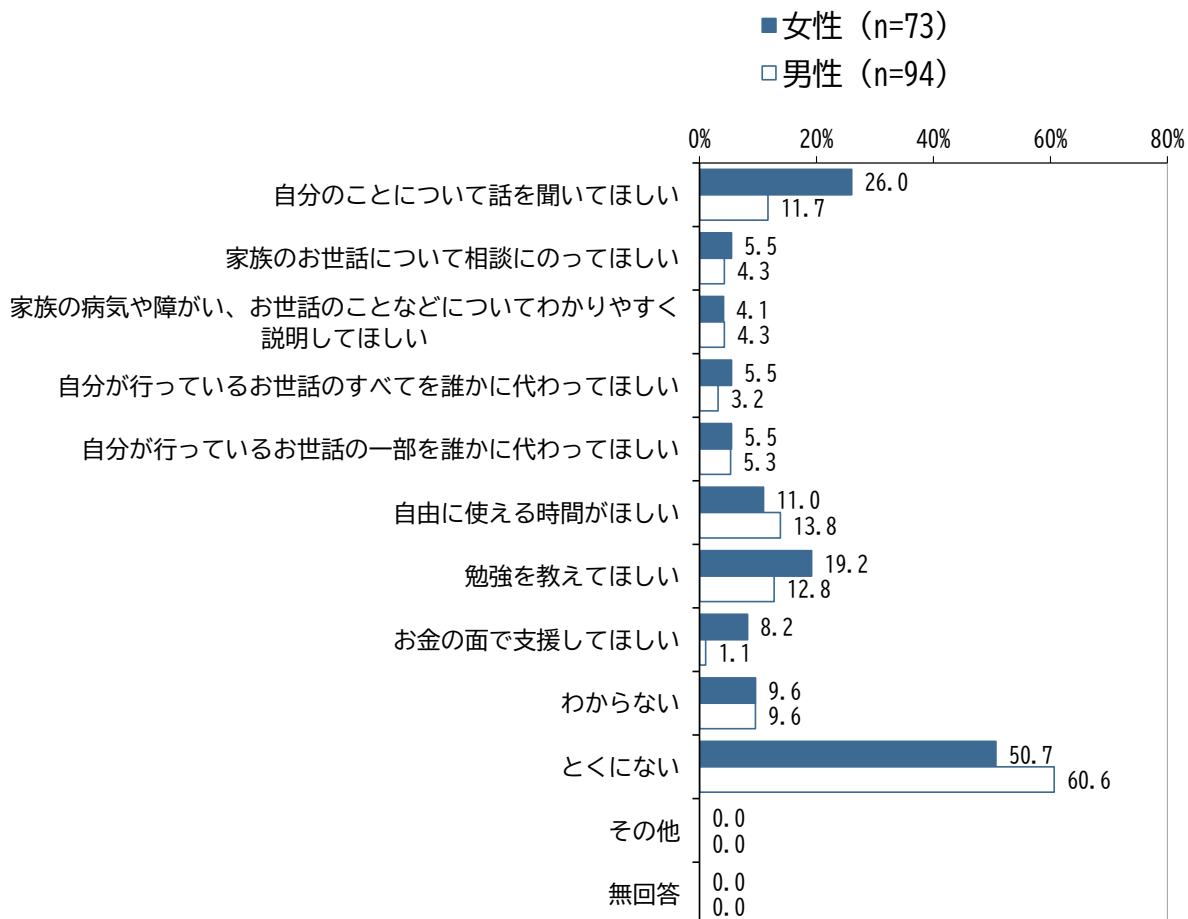
図表Ⅱ-2-21 性別×世話について話を聞いてくれる人の有無



#### ⑭ 性別×学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについては、女性、男性いずれも「とくにない」の割合が最も高く、女性では次いで「自分のことについて話を聞いてほしい」の割合が高く、男性では次いで「自由に使える時間がほしい」の割合が高くなっている。

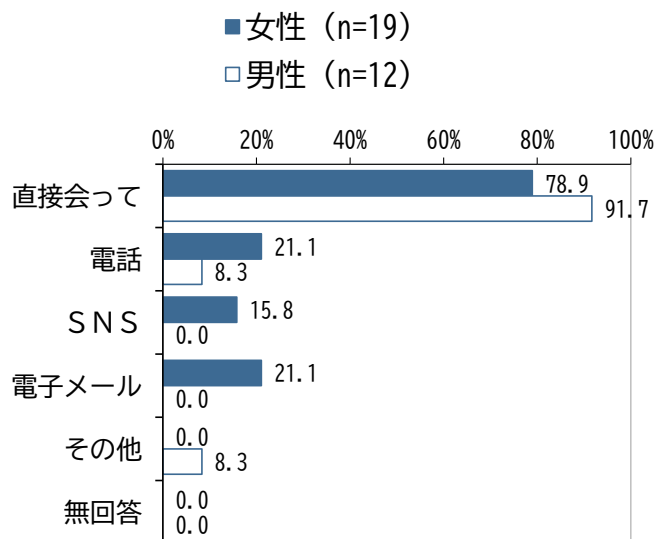
図表Ⅱ-2-22 性別×学校や大人にしてもらいたいこと(複数回答)



### ⑮ 性別×希望する相談方法

希望する相談方法については、女性、男性いずれも「直接会って」の割合が最も高くなっている。

図表Ⅱ-2-23 性別×希望する相談方法(複数回答)



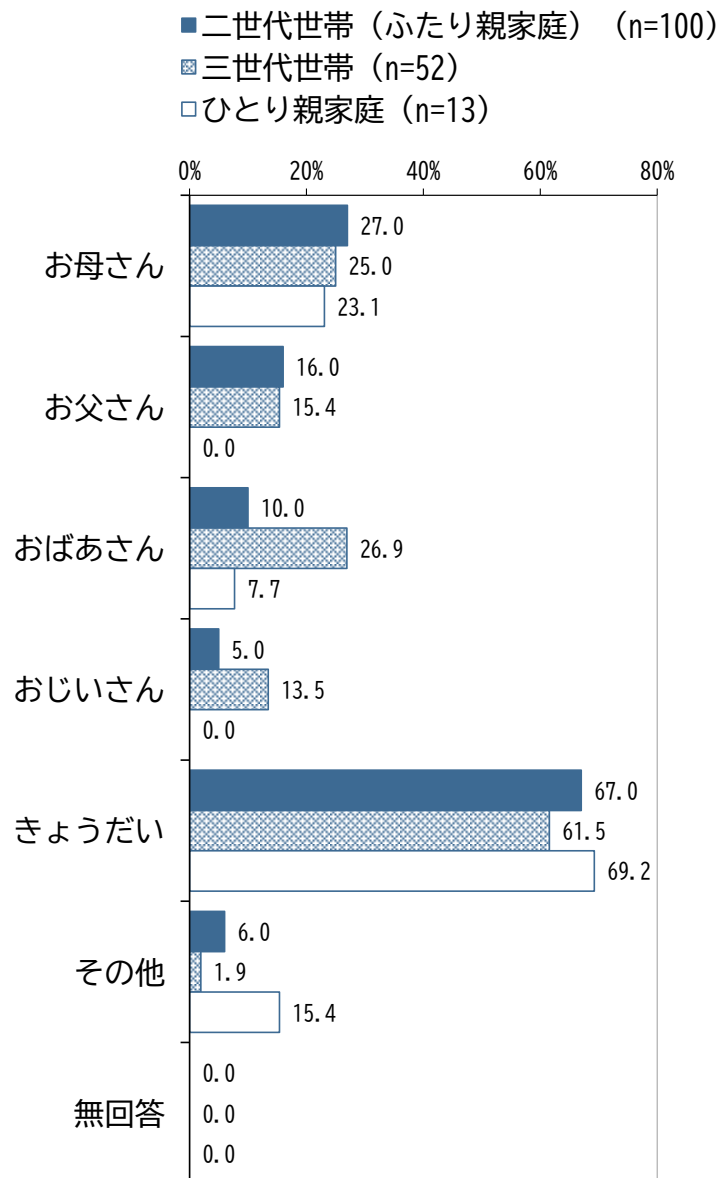
### (3) 家族構成による世話の状況の違い

「その他の世帯」についてはn数が少ないためクロス集計の対象外としている。

#### ① 家族構成×世話を必要としている家族

世話を必要としている家族については、いずれの家族構成も「きょうだい」の割合が最も高く、二世帯世帯(ふたり親家庭)、ひとり親家庭では次いで「お母さん」の割合が高く、三世帯世帯では次いで「おばあさん」の割合が高くなっている。

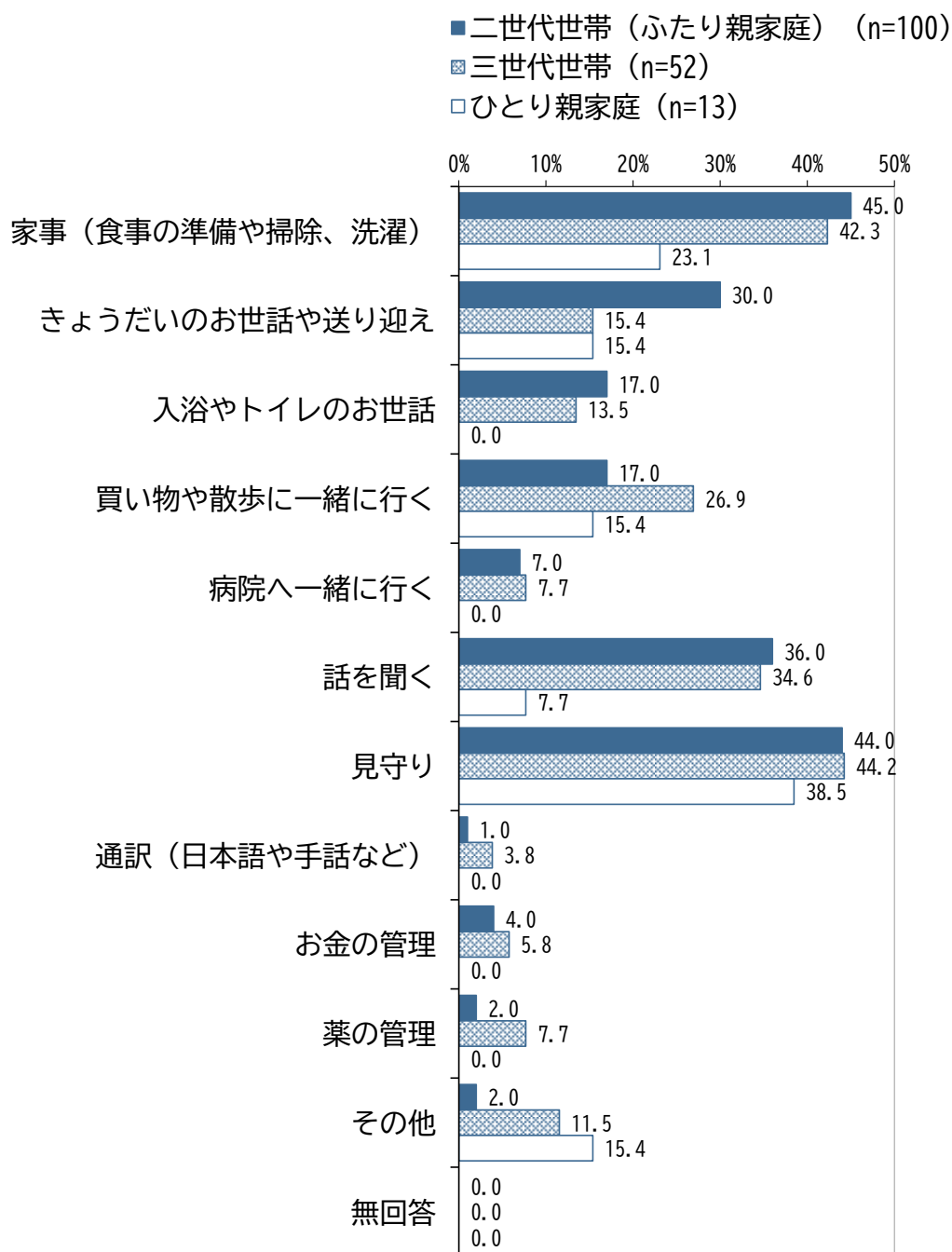
図表Ⅱ-2-24 家族構成×世話を必要としている家族(複数回答)



## ② 家族構成×世話の内容

世話の内容について、二世帯世帯(ふたり親家庭)では、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が最も高く、三世帯世帯、ひとり親家庭では、「見守り」の割合が最も高くなっている。

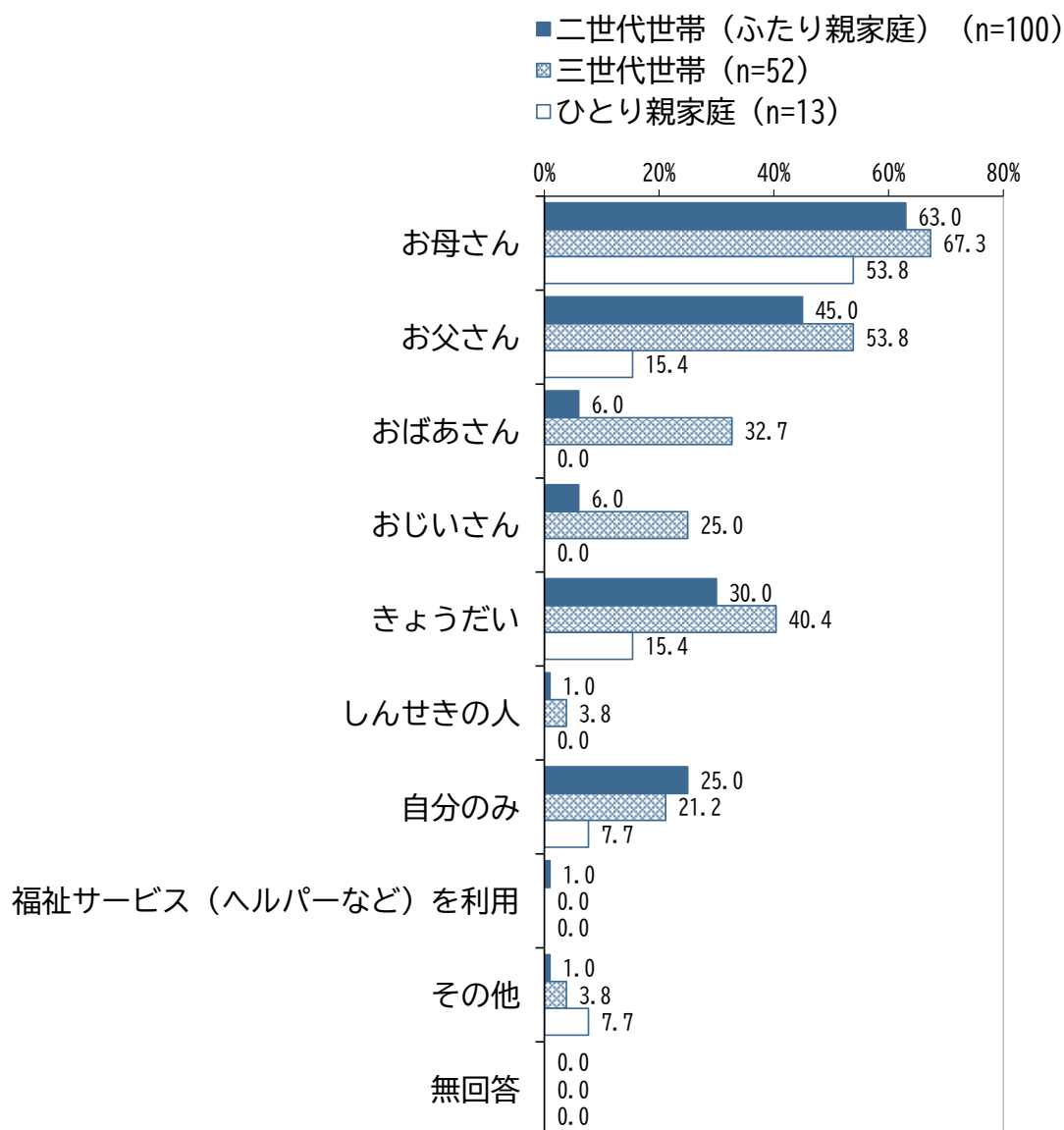
図表Ⅱ-2-25 家族構成×世話の内容(複数回答)



### ③ 家族構成×世話を一緒にする人

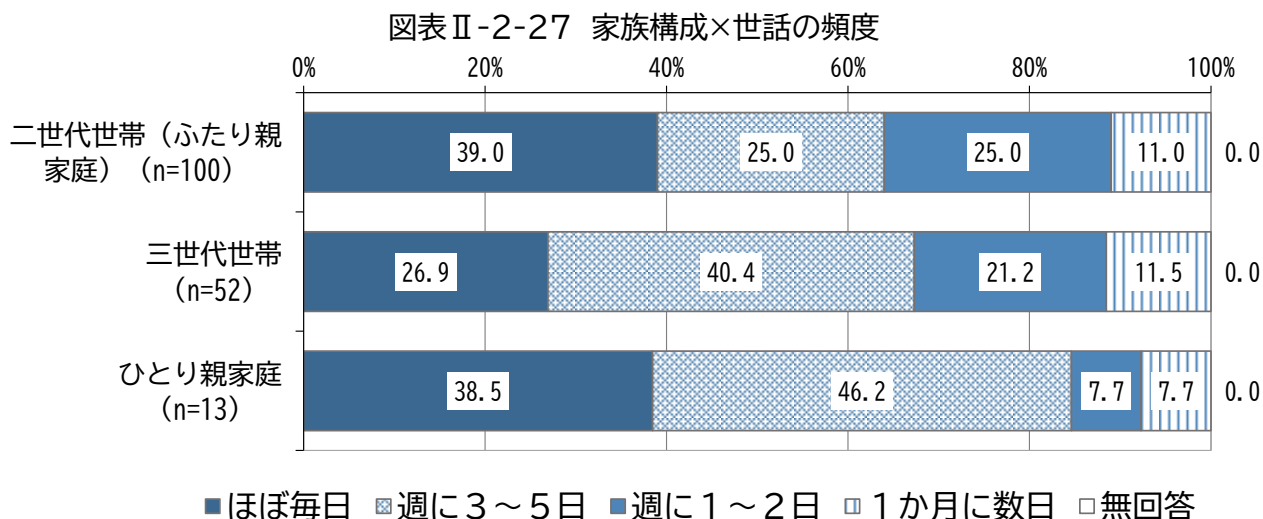
世話を一緒にする人について、いずれの家族構成も「お母さん」の割合が最も高くなっており、「自分のみ」では、二世帯世帯(ふたり親家庭)の割合が最も高くなっている。

図表Ⅱ-2-26 家族構成×世話を一緒にする人(複数回答)



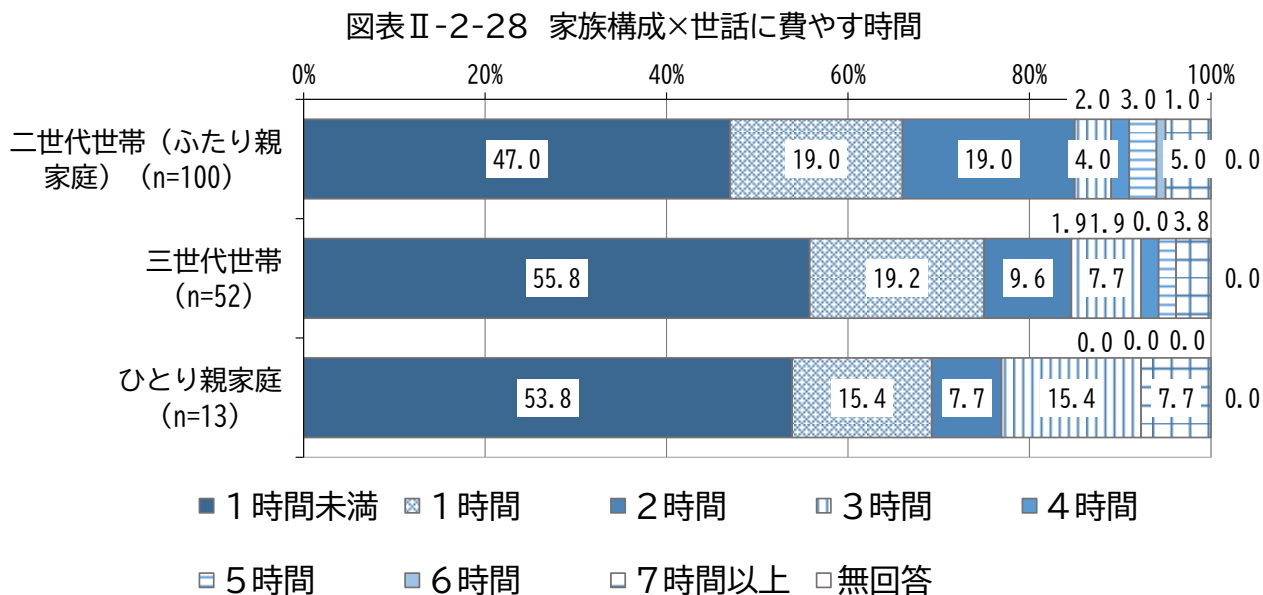
#### ④ 家族構成×世話の頻度

世話の頻度について、二世帯世帯(ふたり親家庭)では、「ほぼ毎日」の割合が最も高く、三世帯世帯、ひとり親家庭では、「週に3～5日」の割合が最も高くなっている。



#### ⑤ 家族構成×世話に費やす時間

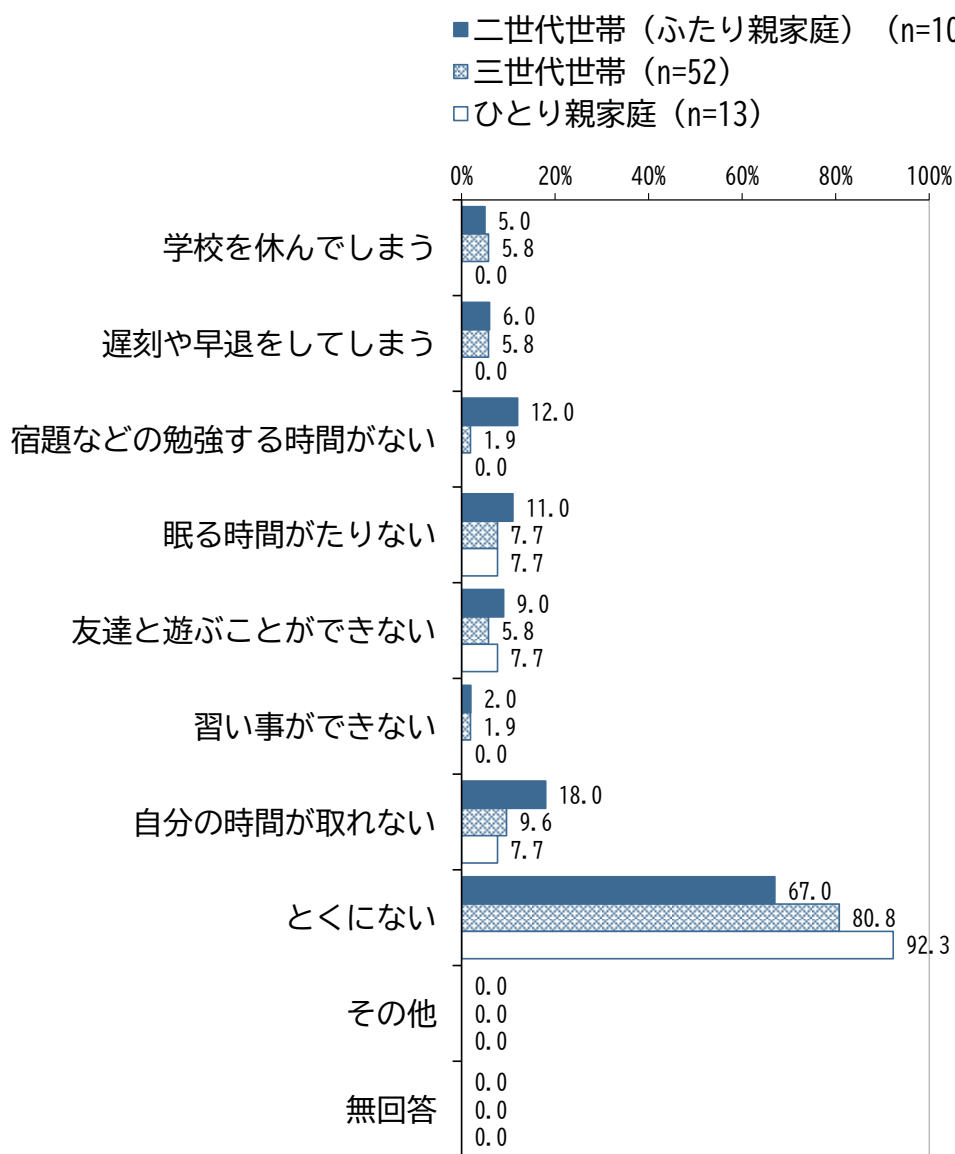
世話に費やす時間について、『3時間以上』では、ひとり親家庭の割合が最も高くなっている。



### ⑥ 家族構成×世話による制約

世話による制約について、「とくにない」では、二世帯世帯(ふたり親家庭)の割合が最も低く、また二世帯世帯(ふたり親家庭)では、「遅刻や早退をしてしまう」、「宿題などの勉強をする時間がない」、「眠る時間がたりない」、「友達と遊ぶことができない」、「習い事ができない」、「自分の時間が取れない」の割合が他の家族構成に比べて高くなっている。

図表Ⅱ-2-29 家族構成×世話をしているためにやりたいけれどできていないこと(複数回答)

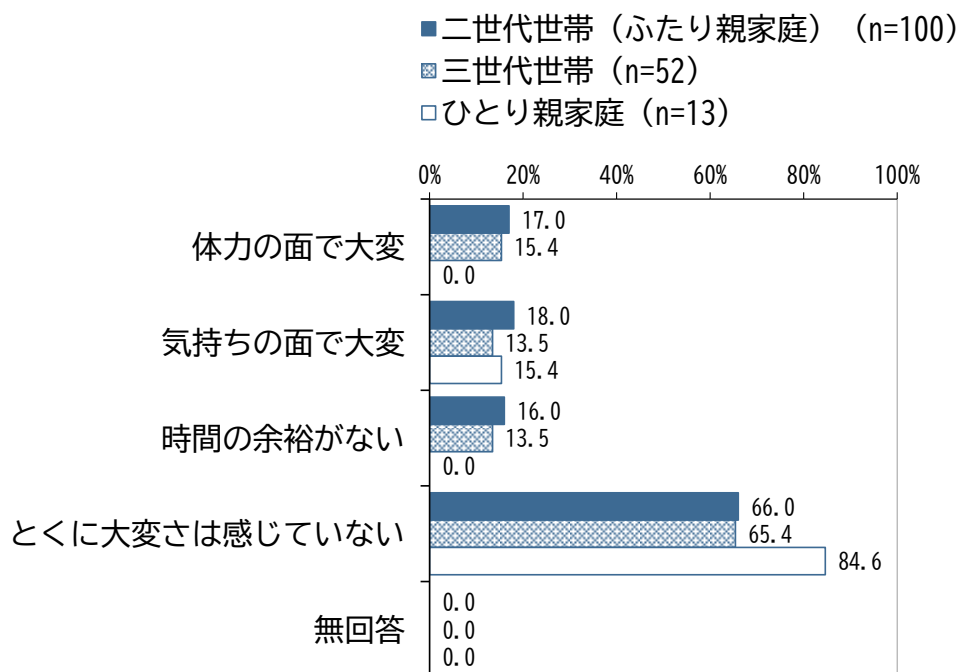




### ⑦ 家族構成×世話の大変さ

世話をすることで感じている大変さについて、「体力の面で大変」、「気持ちの面で大変」、「時間の余裕がない」いずれも二世帯世帯(ふたり親家庭)の割合が最も高くなっている。

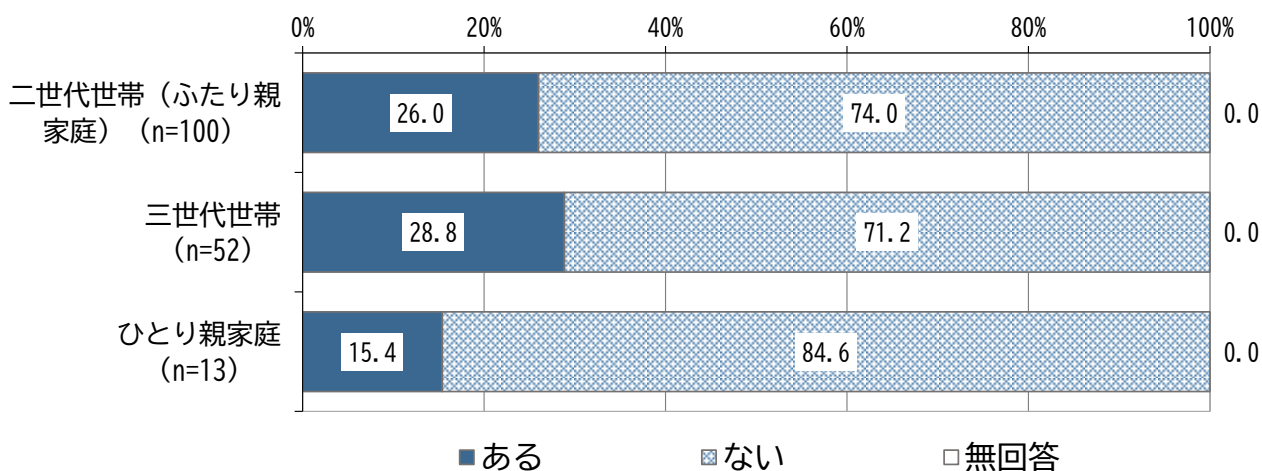
図表Ⅱ-2-30 家族構成×世話の大変さ(複数回答)



### ⑧ 家族構成×世話について相談した経験

世話について相談した経験について、「ない」では、ひとり親家庭の割合が他の家族構成に比べて高くなっている。

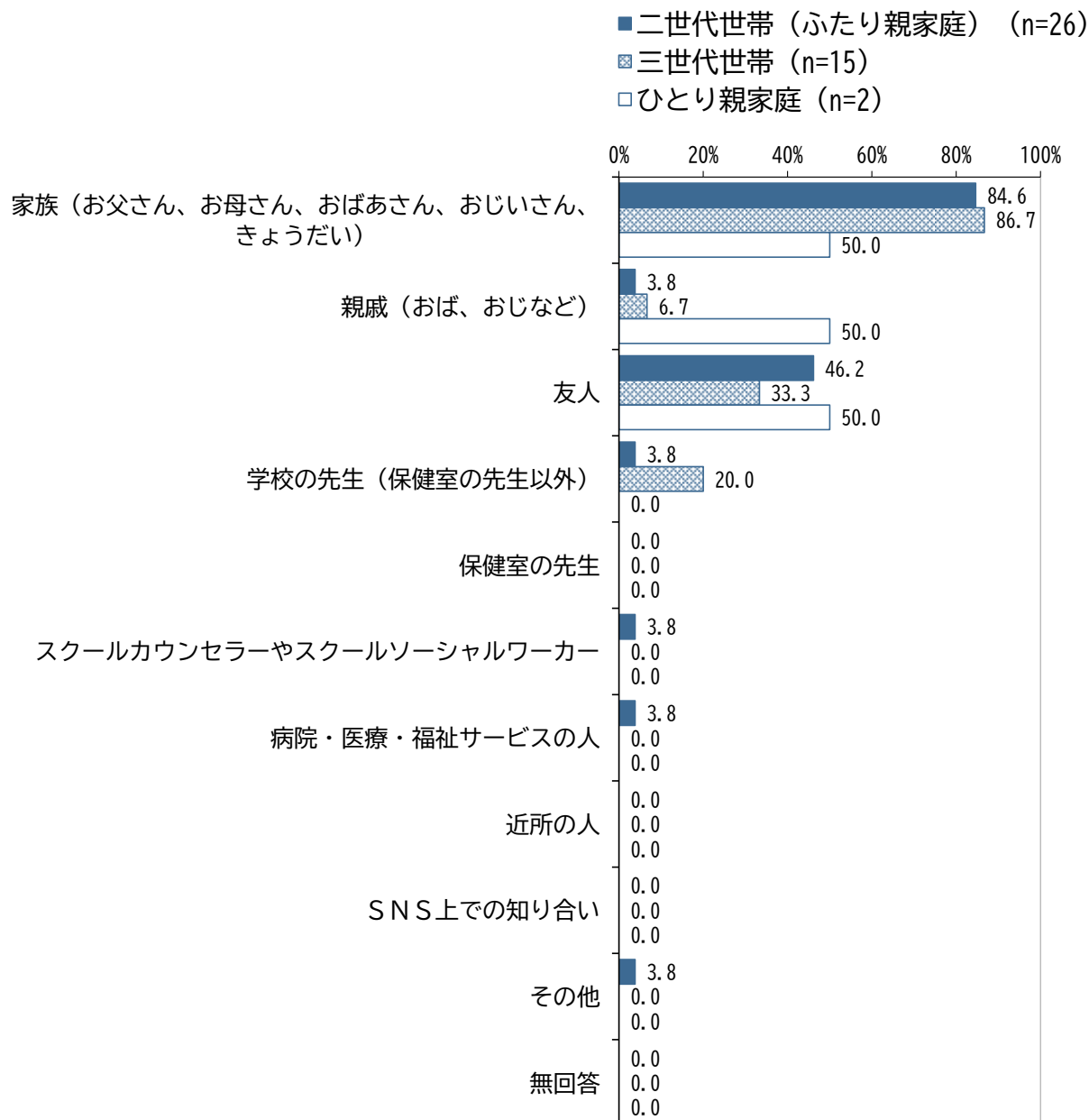
図表Ⅱ-2-31 家族構成×世話について相談した経験



### ⑨ 家族構成×世話についての相談相手

世話についての相談相手について、二世帯世帯（ふたり親家庭）、三世帯世帯では、いずれも「家族（お父さん、お母さん、おばあさん、おじいさん、きょうだい）」の割合が最も高く、次いで「友人」の割合が高くなっている。

図表Ⅱ-2-32 家族構成×世話についての相談相手（複数回答）

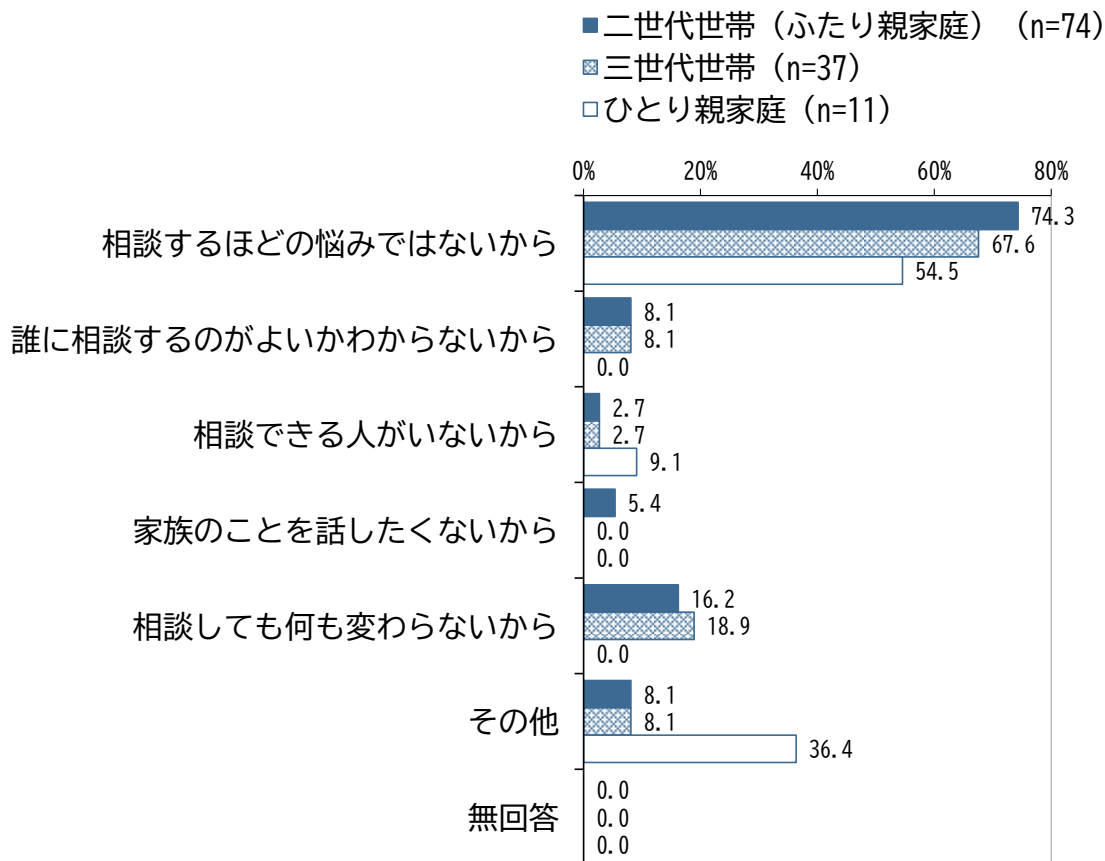


※ 「ひとり親家庭」はサンプル数が少ないが、参考値として掲載している

⑩ 家族構成×世話について相談したことがない理由

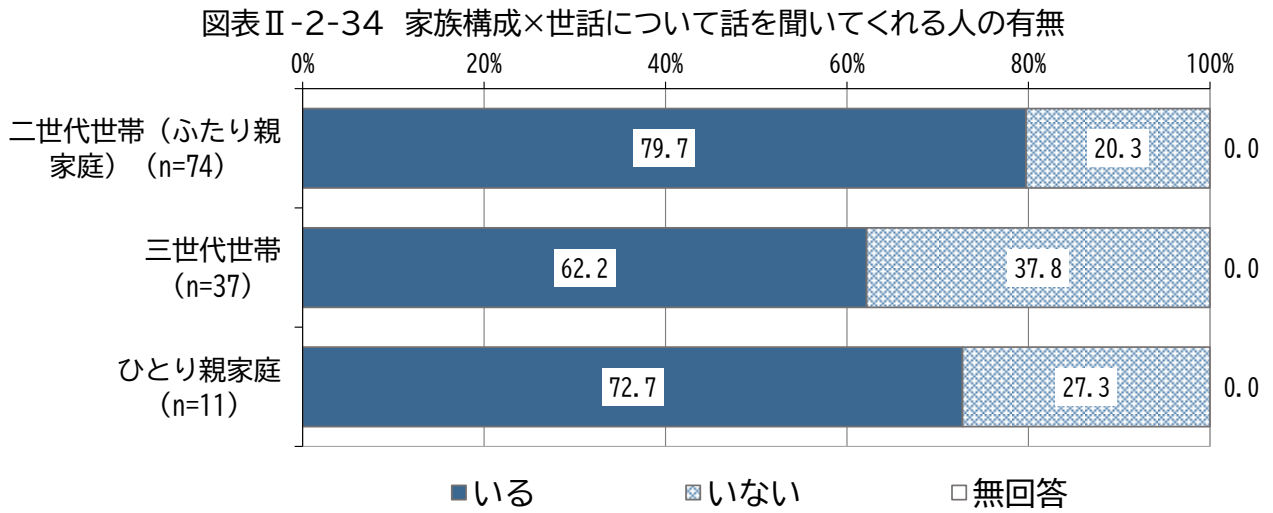
世話について相談したことがない理由について、「相談するほどの悩みではないから」では、二世帯世帯(ふたり親家庭)の割合が最も高く、「相談しても何も変わらないから」では、三世帯世帯の割合が最も高くなっている。

図表Ⅱ-2-33 家族構成×世話について相談したことがない理由(複数回答)



⑪ 家族構成×世話について話を聞いてくれる人の有無

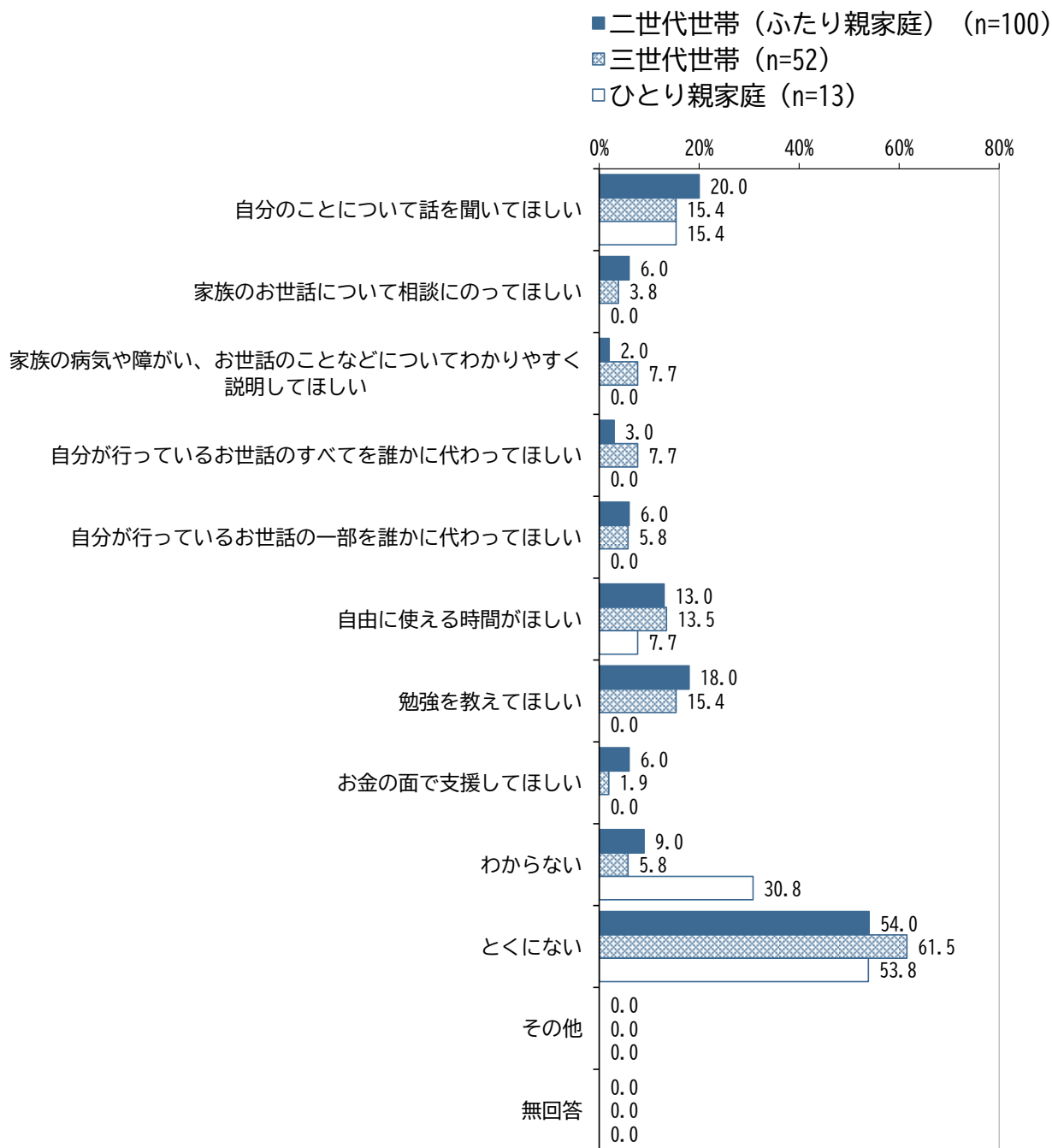
世話について話を聞いてくれる人の有無について、「いない」では、三世代世帯の割合が最も高くなっている。



## ⑫ 家族構成×学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについては、いずれの家族構成も「とくにない」の割合が最も高く、二世帯世帯(ふたり親家庭)では次いで「自分のことについて話を聞いてほしい」が高く、三世帯世帯では次いで「自分のことについて話を聞いてほしい」、「勉強を教えてほしい」が同率で高く、ひとり親家庭では次いで「わからない」が高くなっている。

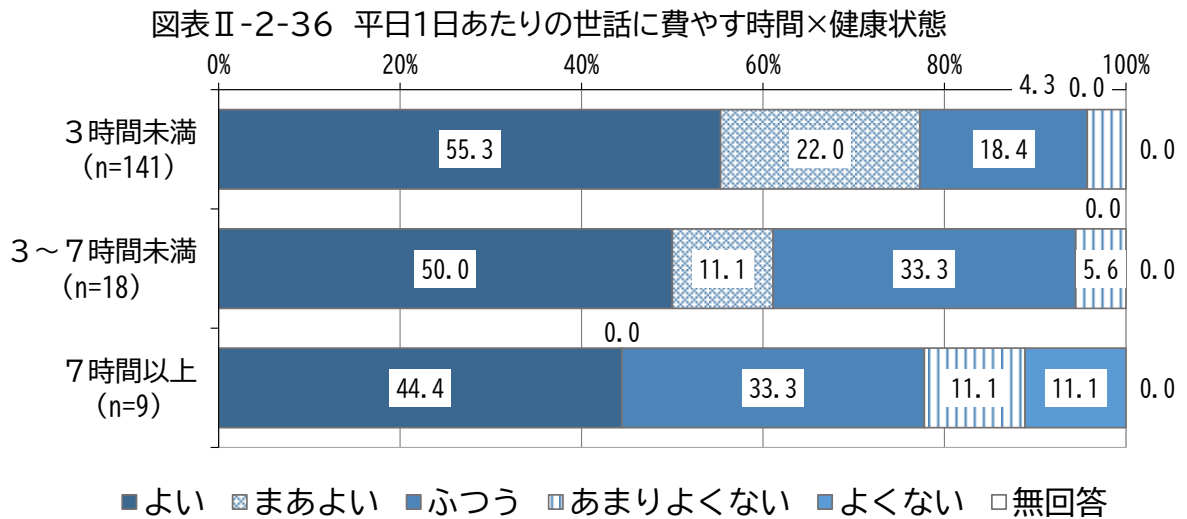
図表Ⅱ-2-35 家族構成×学校や大人にしてもらいたいこと(複数回答)



#### (4) 平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等

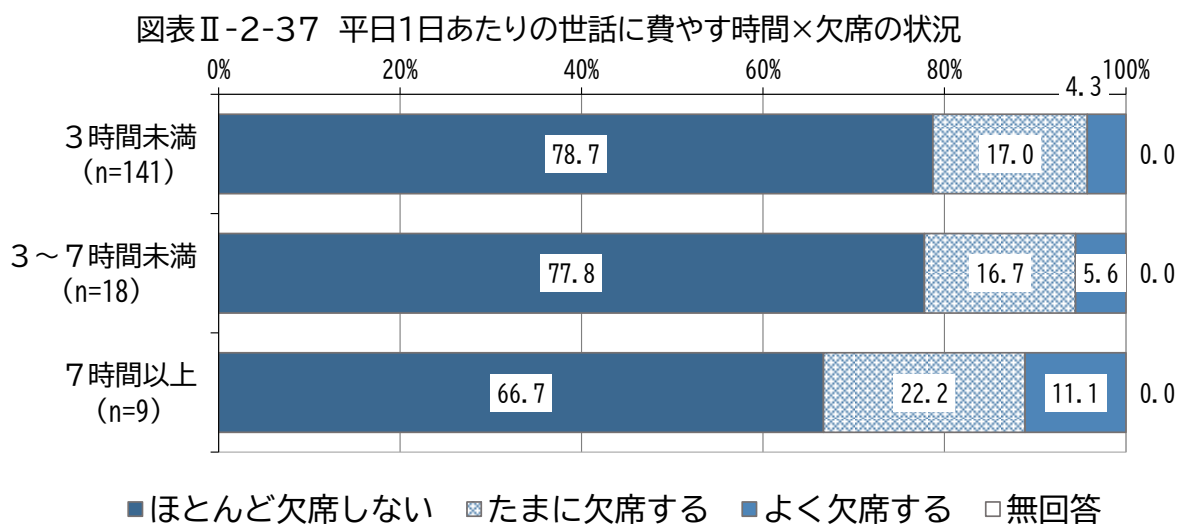
##### ① 平日1日あたりの世話に費やす時間×健康状態

健康状態については、世話に費やす時間が長くなるにつれて、『よくない』（「あまりよくない」と「よくない」の合計）の割合が高くなっている。



##### ② 平日1日あたりの世話に費やす時間×欠席の状況

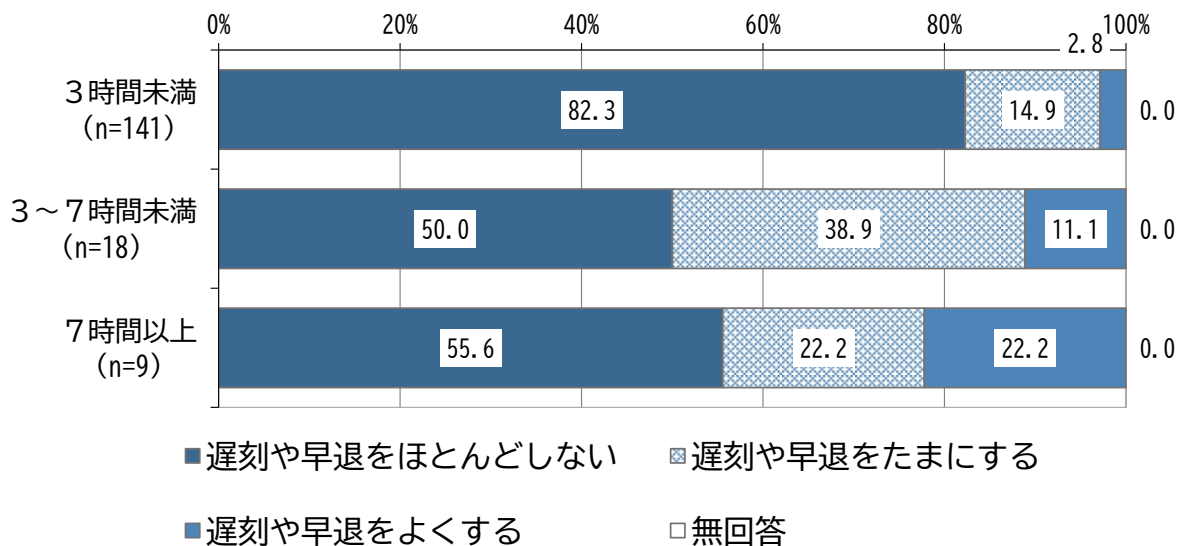
欠席の状況については、世話に費やす時間が長くなるにつれて、「たまに欠席する」、「よく欠席する」の割合が概ね高くなっている。



### ③ 平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況

遅刻や早退の状況については、世話に費やす時間が長くなるにつれて、「遅刻や早退をよくする」の割合が高くなっている。

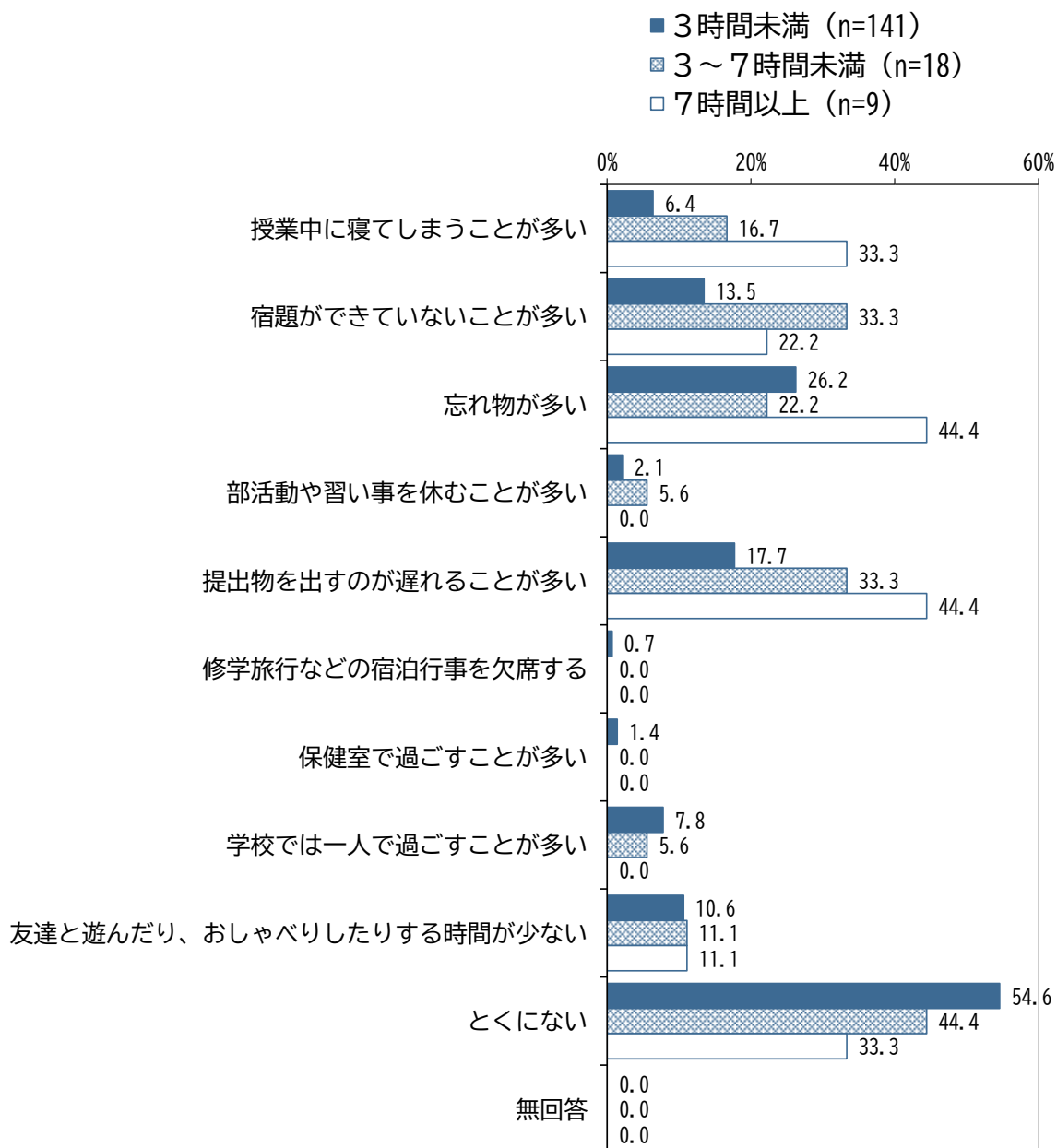
図表Ⅱ-2-38 平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況



④ 平日1日あたりの世話に費やす時間×学校生活等であてはまること

学校生活等であてはまることについては、世話に費やす時間が長くなるにつれて、「とくにない」の割合が低くなり、「授業中に寝てしまうことが多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」の割合が高くなっている。

図表Ⅱ-2-39 平日1日あたりの世話に費やす時間×学校生活等であてはまること(複数回答)

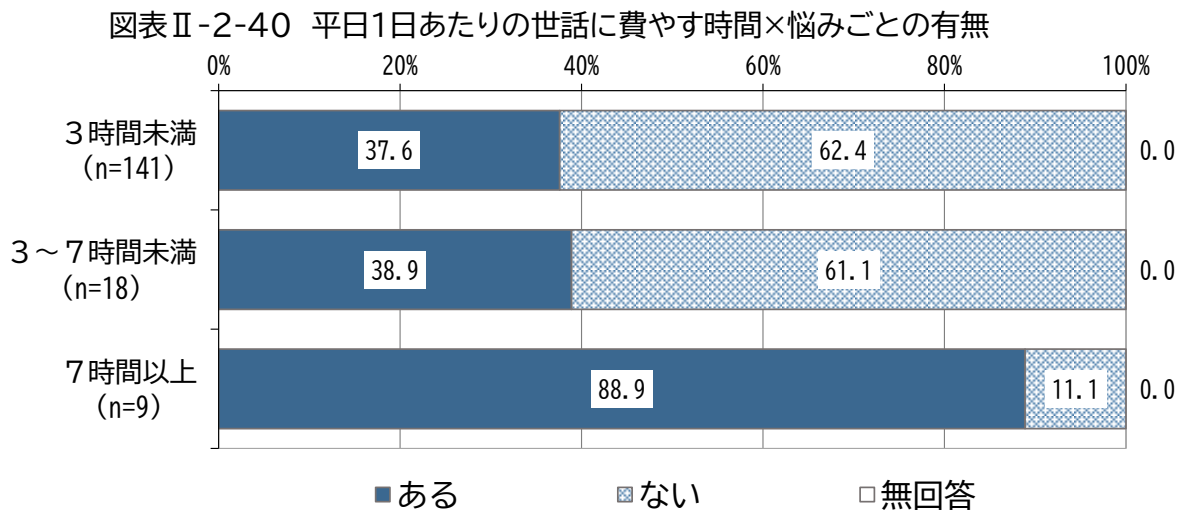




⑤ 平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みごと

i) 平日1日あたりの世話に費やす時間×悩みごとの有無

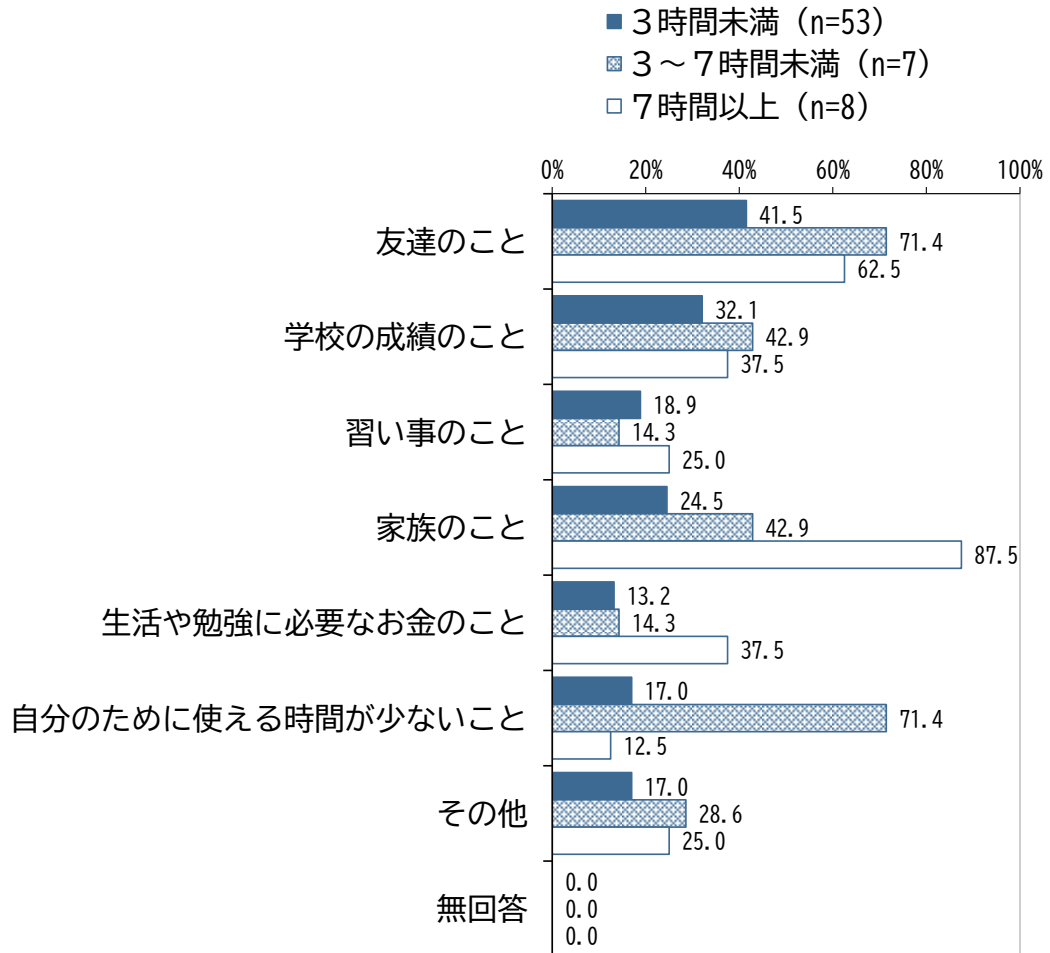
悩みごとの有無について、「ある」では、7時間以上の割合が最も高くなっている。



ii) 平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みごと

現在の悩みごとについては、世話に費やす時間が長くなるにつれて、「家族のこと」、「生活や勉強に必要なお金のこと」の割合が高くなっている。

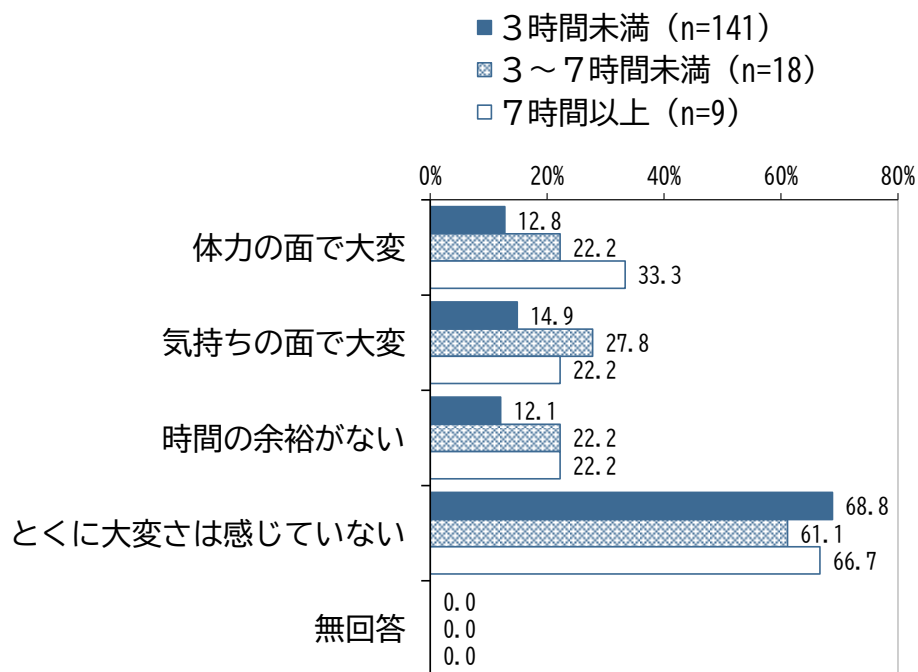
図表Ⅱ-2-41 平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みごと(複数回答)



⑥ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話の大変さ

世話をすることで感じている大変さについては、世話に費やす時間が長くなるにつれて、「体力の面で大変」、「時間の余裕がない」の割合が概ね高くなっている。

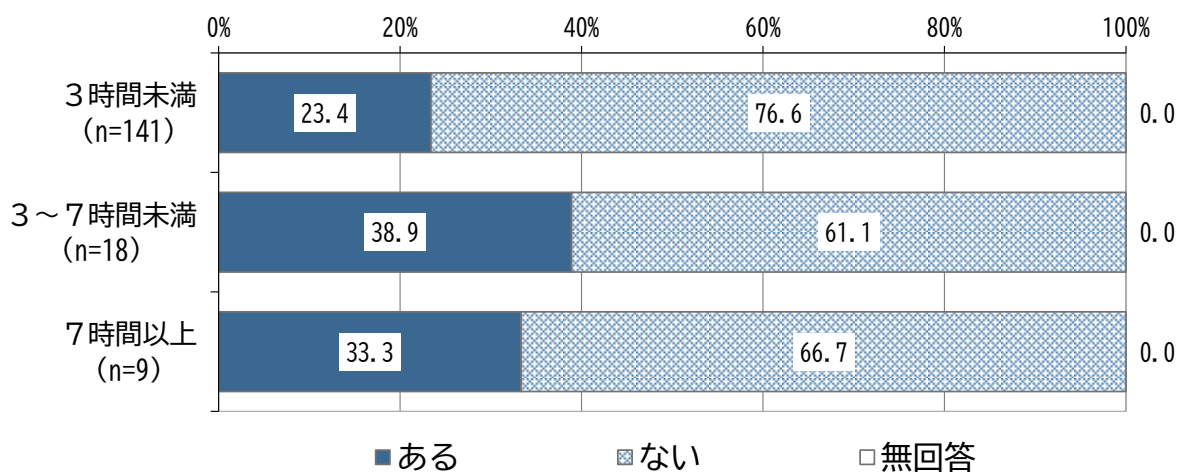
図表Ⅱ-2-42 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話の大変さ(複数回答)



⑦ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談の経験

世話に関する相談の経験について、「ある」では、3~7時間未満の割合が最も高くなっている。

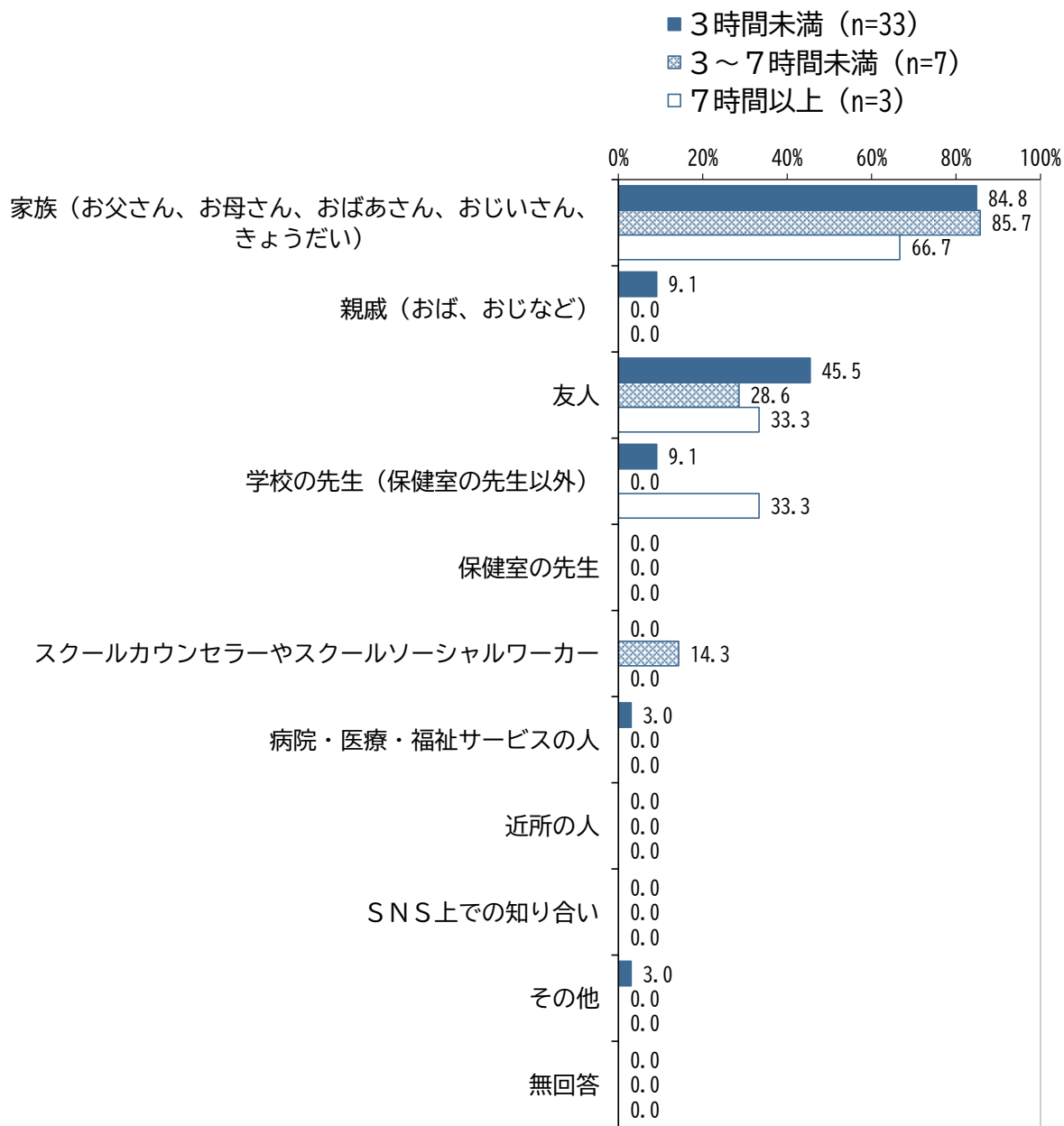
図表Ⅱ-2-43 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談の経験



⑧ 平日1日あたりの世화에費やす時間×世話に関する相談相手

世話に関する相談相手については、3時間未満、3～7時間未満いずれも「家族(お父さん、お母さん、おばあさん、おじいさん、きょうだい)」の割合が最も高くなっている。

図表Ⅱ-2-44 平日1日あたりの世화에費やす時間×世話に関する相談相手(複数回答)

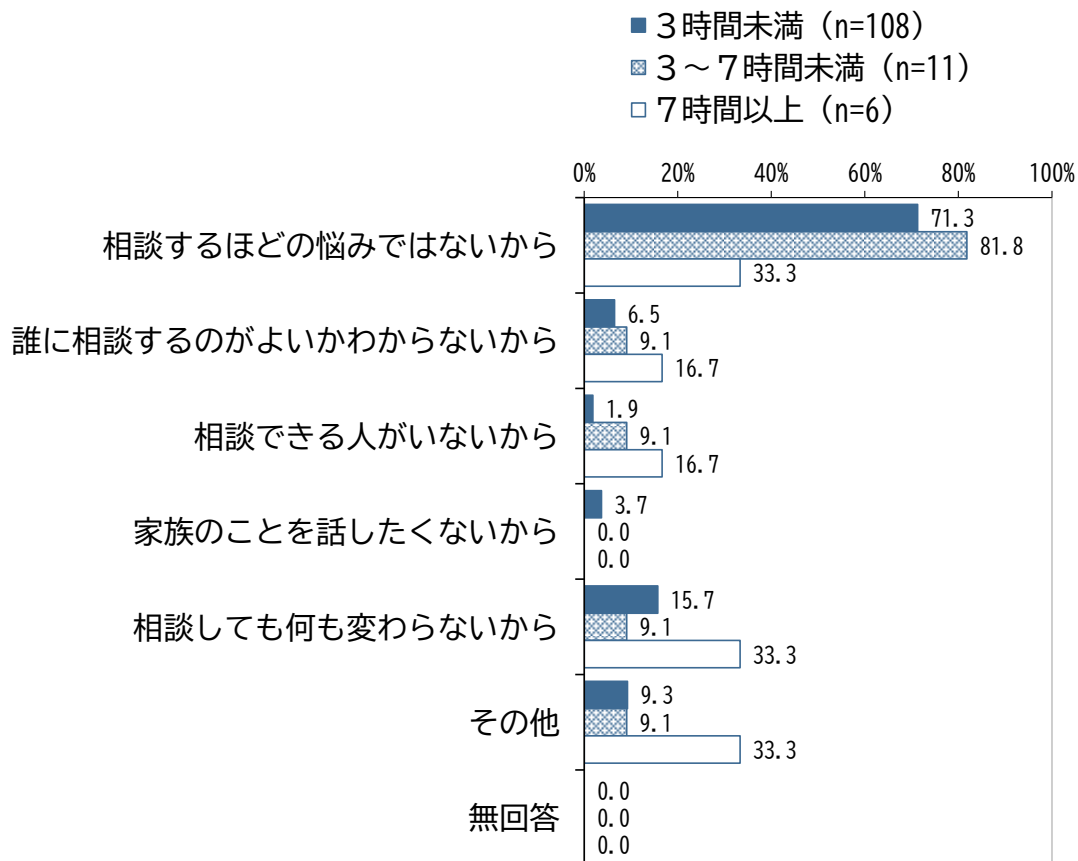


※ 「7時間以上」はサンプル数が少ないが、参考値として掲載している

⑨ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談したことがない理由

世話に関する相談したことがない理由については、世話に費やす時間が長くなるにつれて、「誰に相談するのがよいかわからないから」、「相談できる人がいないから」の割合が高くなっている。

図表Ⅱ-2-45 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談したことがない理由  
(複数回答)

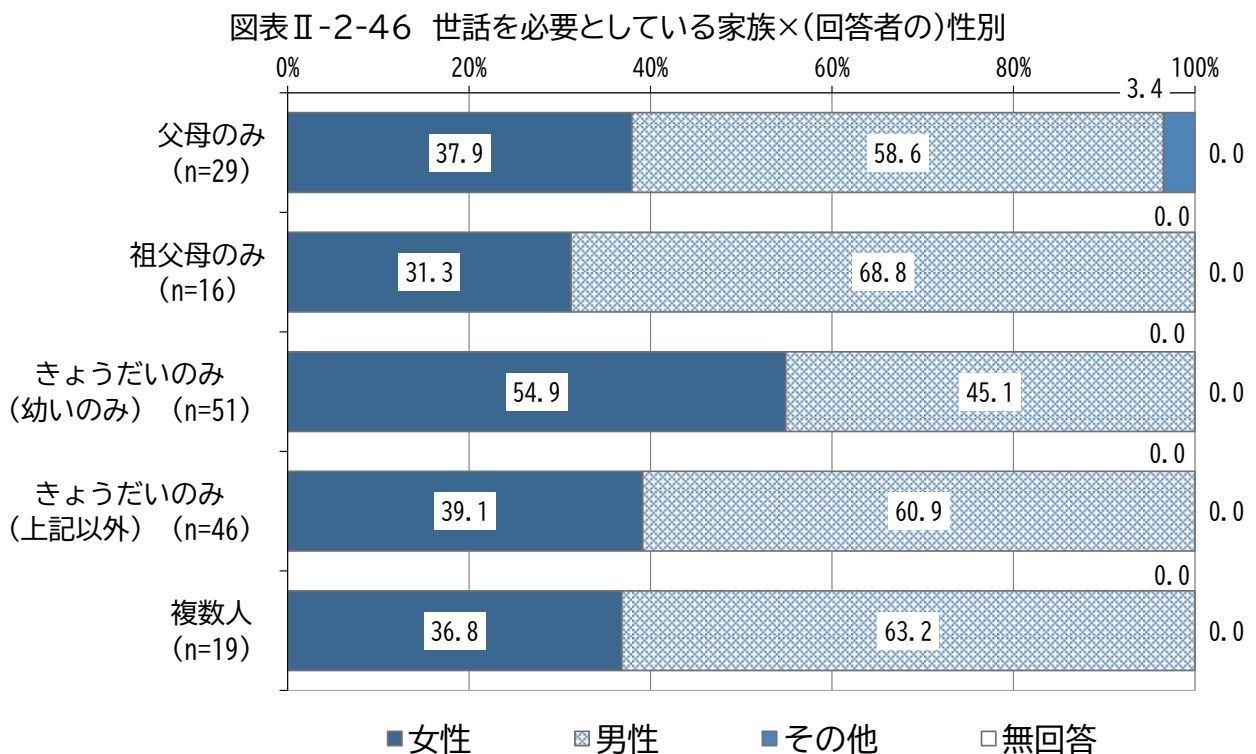


## (5)世話を必要としている家族による世話の状況等

本分析(クロス集計)においては、世話を必要としている人ごとの特性を明らかにするため、「父母のみ」を世話する人、「祖父母のみ」を世話する人、「きょうだいのみ」を世話する人、そして以上3つの分類に「その他」を加えた4つの分類のうち複数の分類に属する人を世話する人(=「複数人」)に対象を分類している。さらに、「きょうだいのみ」を世話する人については、世話を必要とする人の状態像が「若い」のみの場合と、「それ以外」(「若い」以外の病気や障がい等の項目に回答があるもの。複数回答のため「若い」も選択している場合を含む)の場合に分けて分析している。なお、「その他のみ」をお世話する人についてはn数が少ないためクロス集計の対象外としている。

### ① 世話を必要としている家族×(回答者の)性別

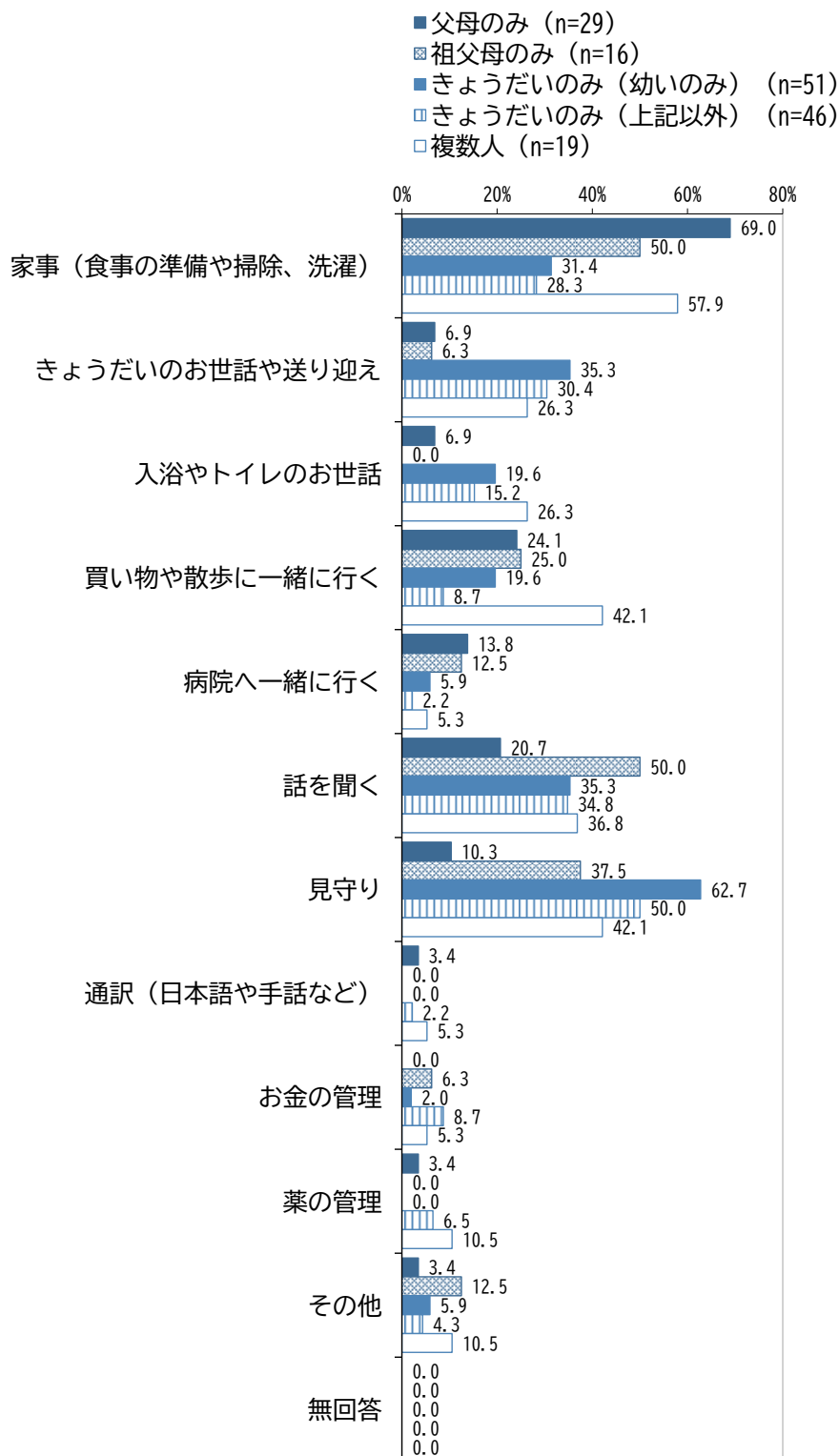
回答者の性別について、きょうだいのみ(若いのみ)では、「女性」の割合が最も高く、それ以外の場合では、「男性」の割合が最も高くなっている。



## ② 世話を必要としている家族×世話の内容

世話の内容について、父母のみ、複数人の場合では、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が最も高く、きょうだいのみ(幼いのみ)の場合では、「見守り」の割合が最も高く、祖父母のみの場合では、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「話を聞く」が同率で最も高くなっている。

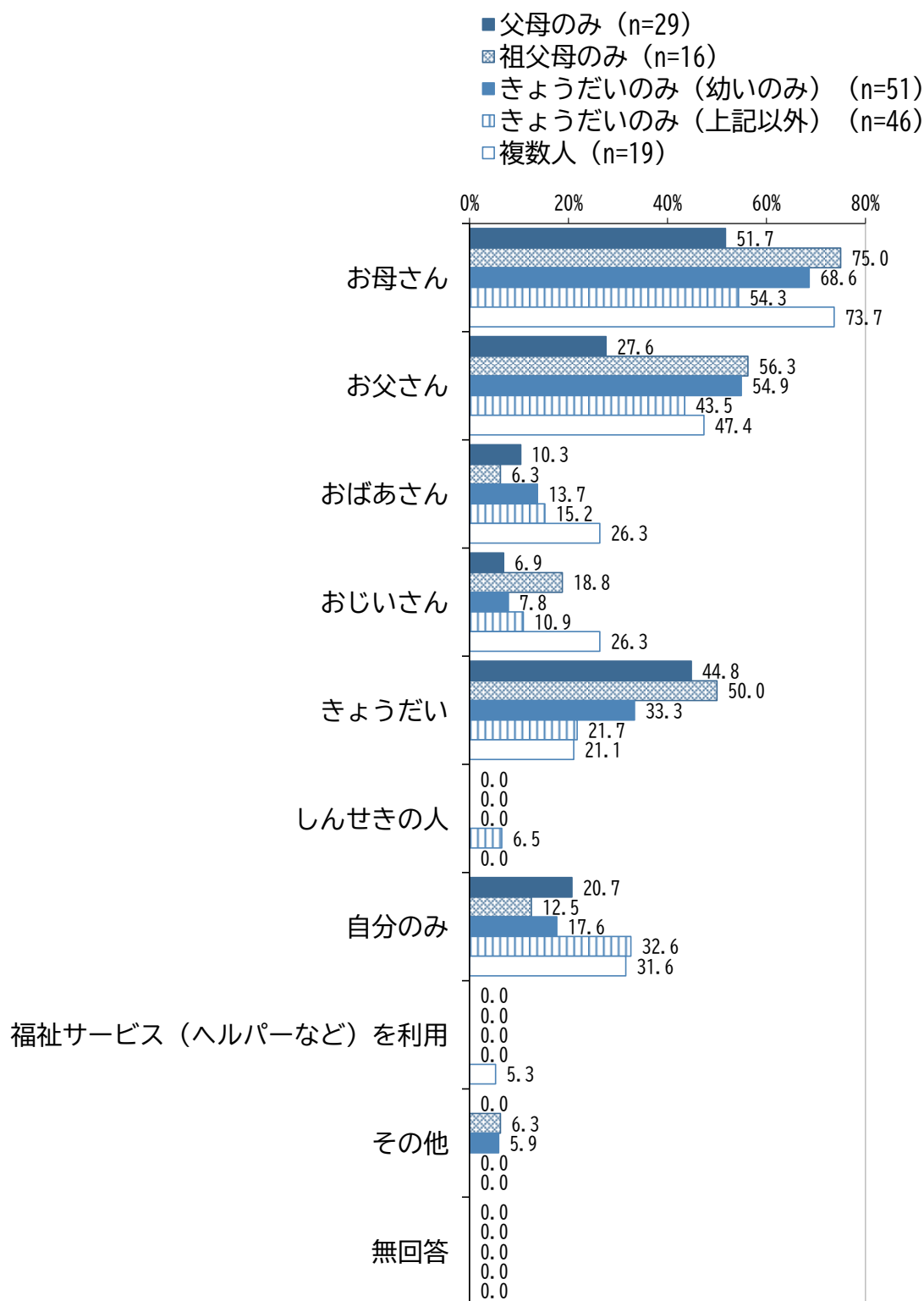
図表Ⅱ-2-47 世話を必要としている家族×世話の内容(複数回答)



③ 世話を必要としている家族と一緒に世話をする人

一緒に世話をする人については、いずれの場合も「お母さん」の割合が最も高くなっており、「自分のみ」では、きょうだいのみ(上記以外)の割合が最も高くなっている。

図表Ⅱ-2-48 世話を必要としている家族と一緒に世話をする人(複数回答)

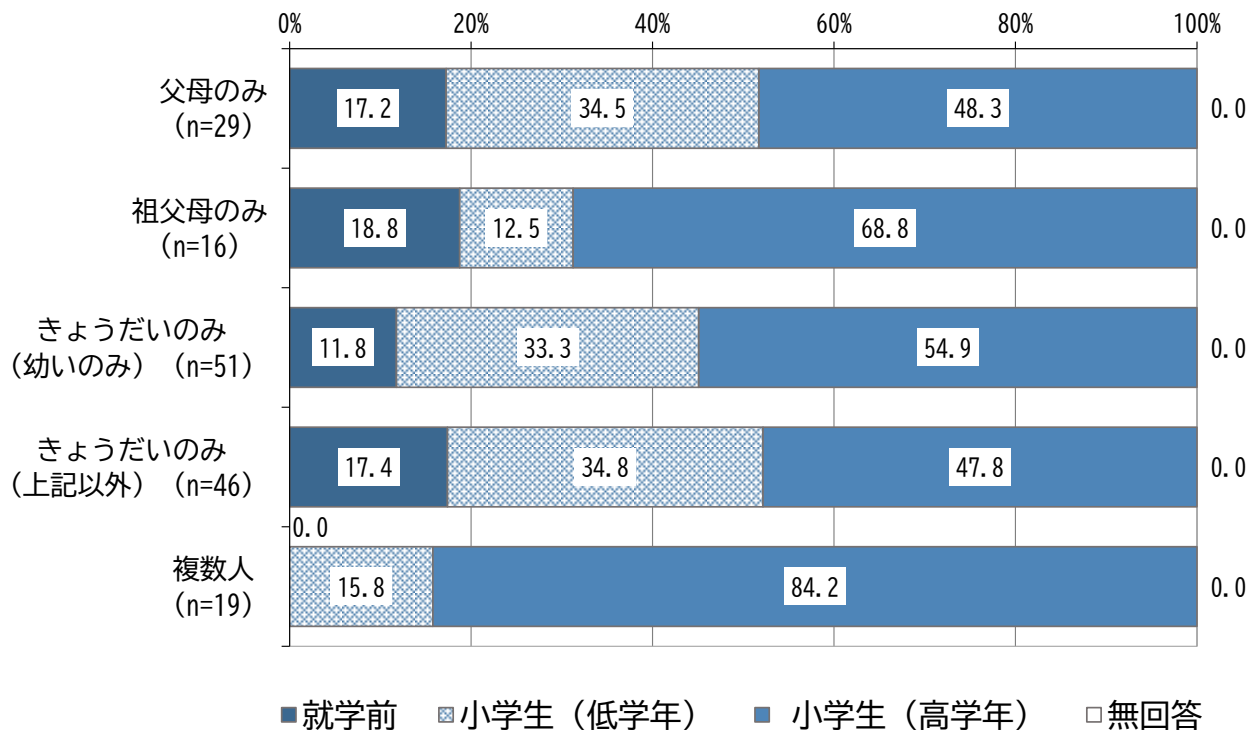




#### ④ 世話を必要としている家族×世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、いずれの場合も「小学生(高学年)」の割合が最も高くなっており、「就学前」では、祖父母のみが最も高く、「小学生(低学年)」では、きょうだいのみ(上記以外)の割合が最も高くなっている。

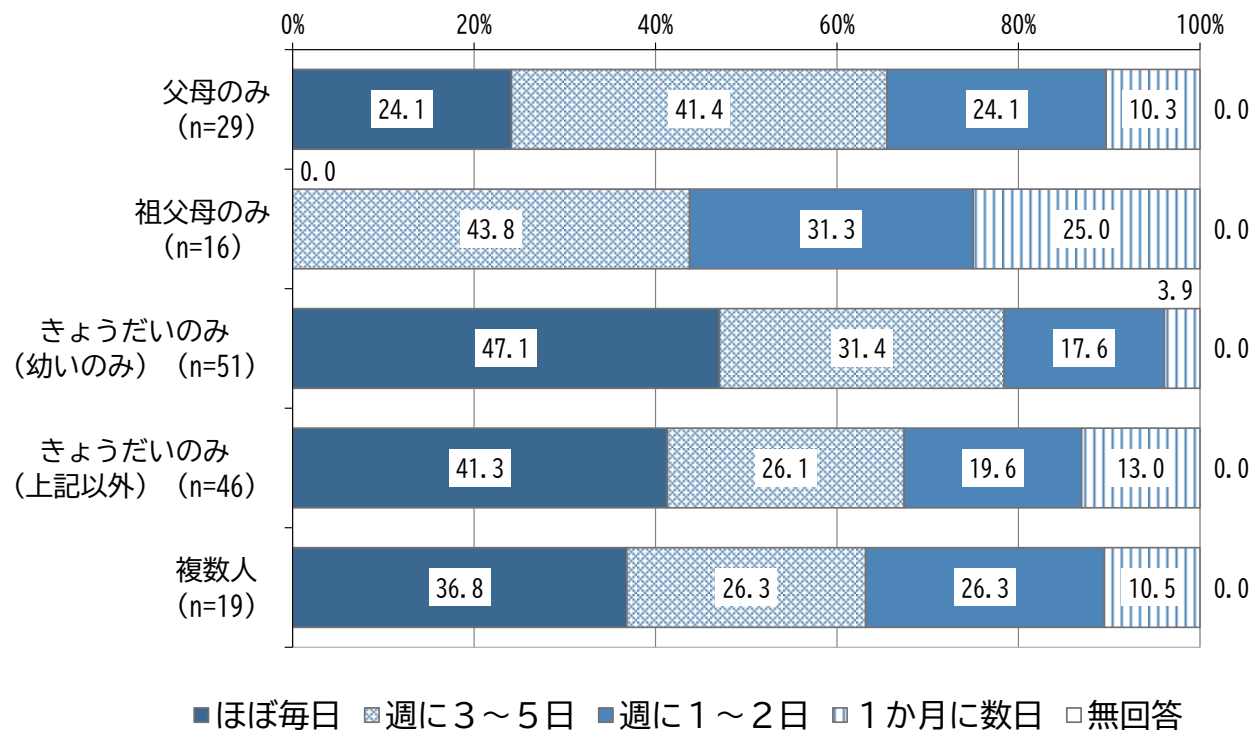
図表Ⅱ-2-49 世話を必要としている家族×世話を始めた年齢



⑤ 世話を必要としている家族×世話の頻度

世話の頻度について、「ほぼ毎日」では、きょうだいのみ(幼いのみ)の割合が最も高くなっている。

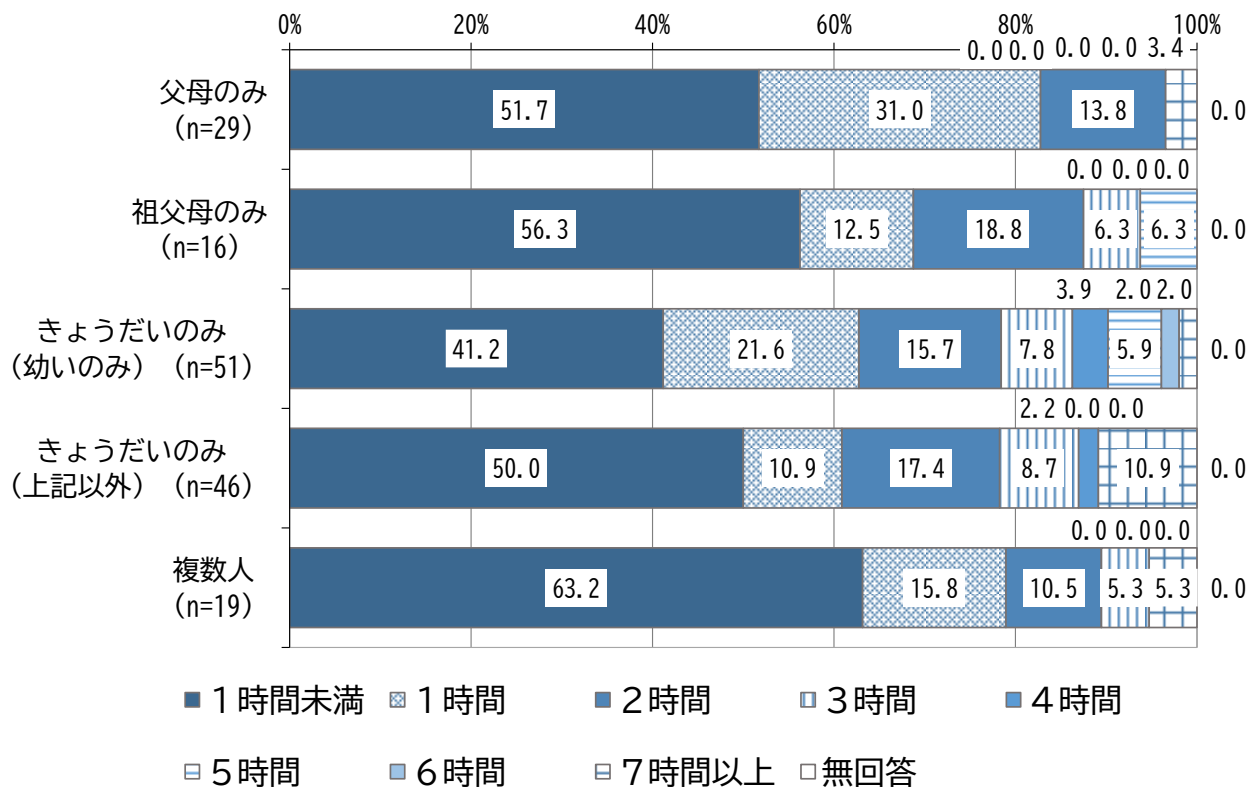
図表Ⅱ-2-50 世話を必要としている家族×世話の頻度



⑥ 世話を必要としている家族×世話に費やす時間

世話に費やす時間について、『3時間以上』では、きょうだいのみ(上記以外)の割合が最も高くなっている。

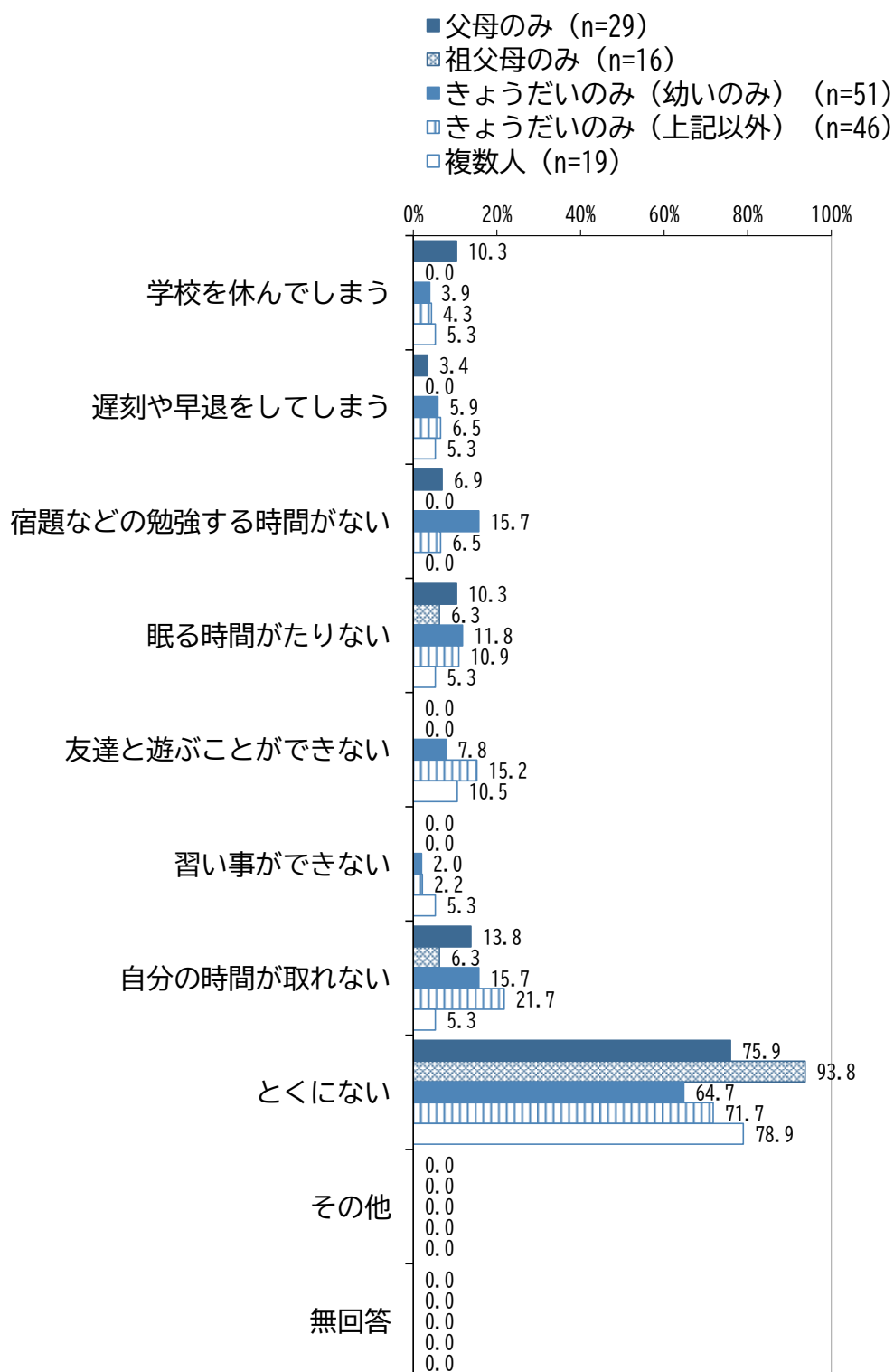
図表Ⅱ-2-51 世話を必要としている家族×世話に費やす時間



⑦ 世話を必要としている家族×世話による制約

世話による制約について、「とくにない」では、きょうだいのみ(幼いのみ)の割合が最も低くなっており、「自分の時間が取れない」では、きょうだいのみ(上記以外)の割合が最も高くなっている。

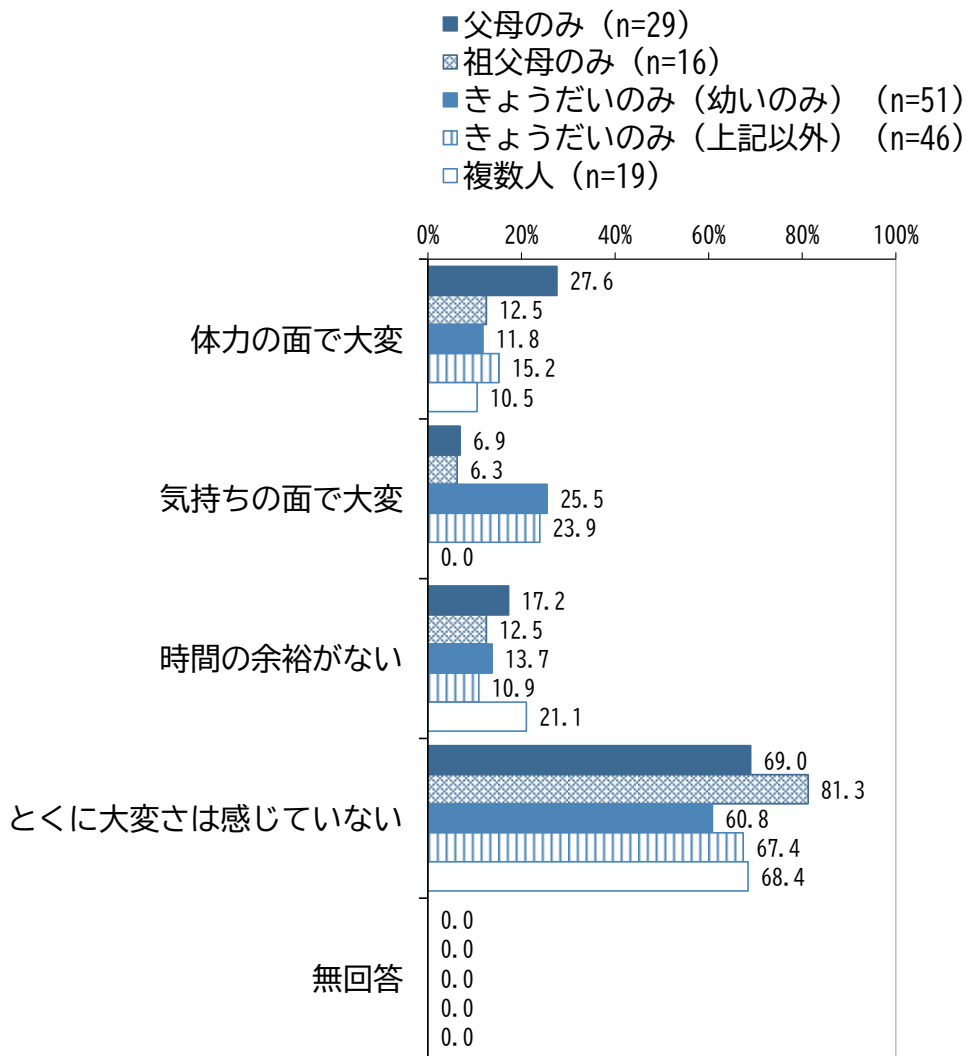
図表Ⅱ-2-52 世話を必要としている家族×世話をしているためにやりたいけれどできていないこと  
(複数回答)



⑧ 世話を必要としている家族×世話の大変さ

世話をすることで感じている大変さについて、「体力の面で大変」では、父母のみの割合が最も高く、「気持ちの面で大変」では、きょうだいのみ(幼いのみ)の割合が最も高く、「時間の余裕がない」では、複数人の割合が最も高くなっている。

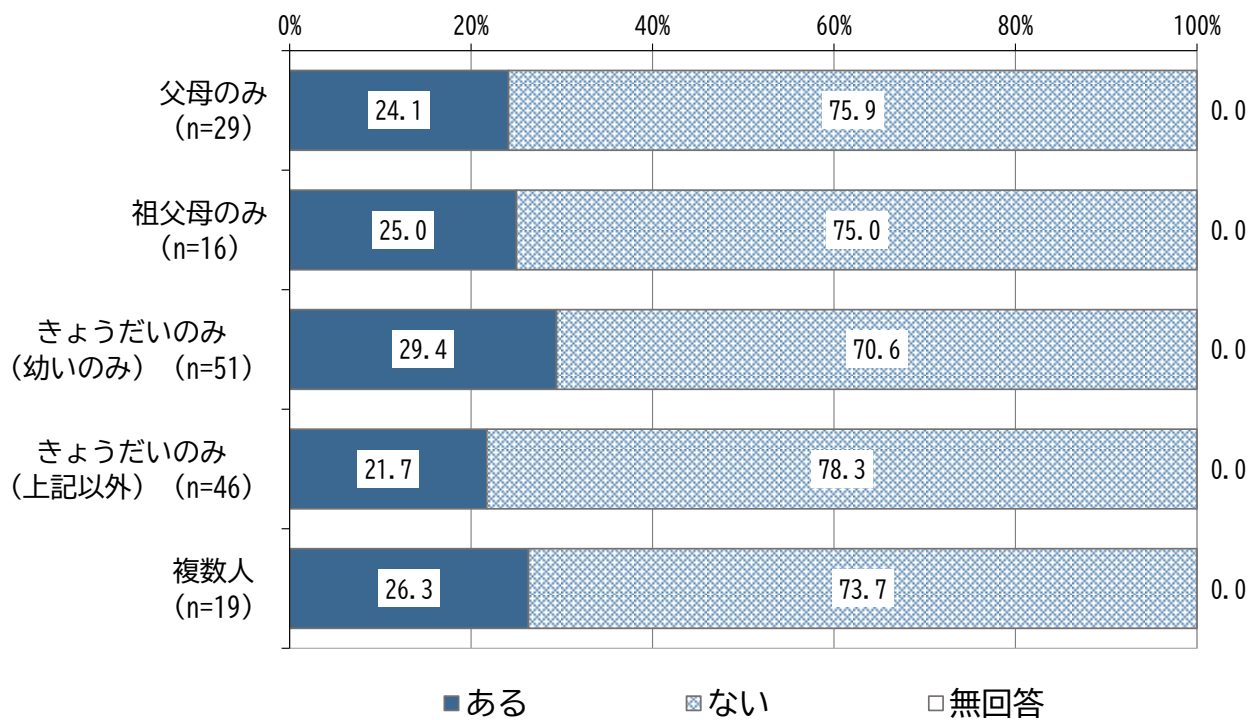
図表Ⅱ-2-53 世話を必要としている家族×世話の大変さ(複数回答)



⑨ 世話を必要としている家族×世話について相談した経験

世話について相談した経験について、「ある」では、きょうだいのみ(幼いのみ)の割合が最も高く、「ない」では、きょうだいのみ(上記以外)の割合が最も高くなっている。

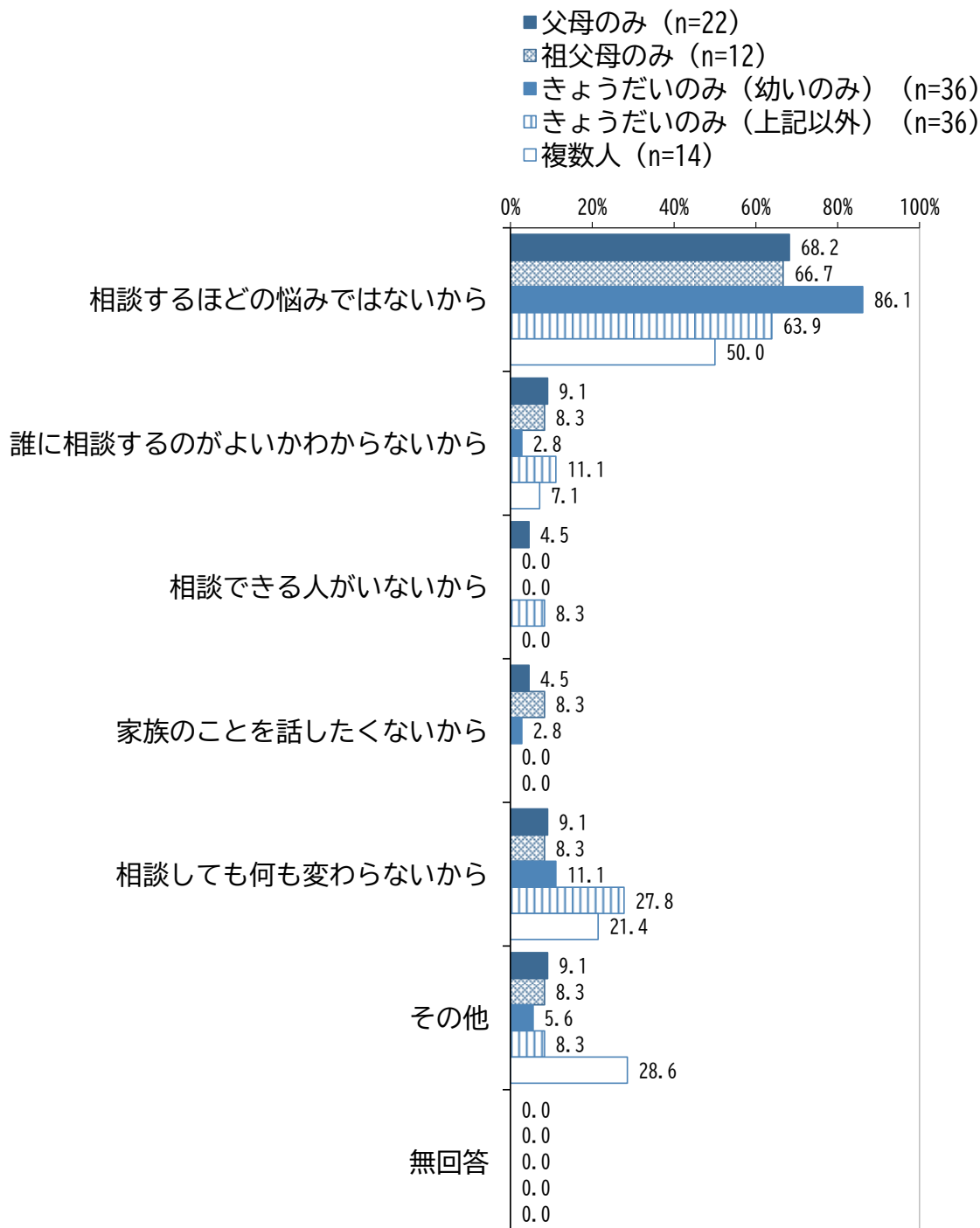
図表Ⅱ-2-54 世話を必要としている家族×世話について相談した経験



⑩ 世話を必要としている家族×相談したことがない理由

相談したことがない理由については、いずれの場合も「相談するほどの悩みではないから」の割合が最も高くなっており、「相談しても何も変わらないから」では、きょうだいのみ(上記以外)の割合が最も高くなっている。

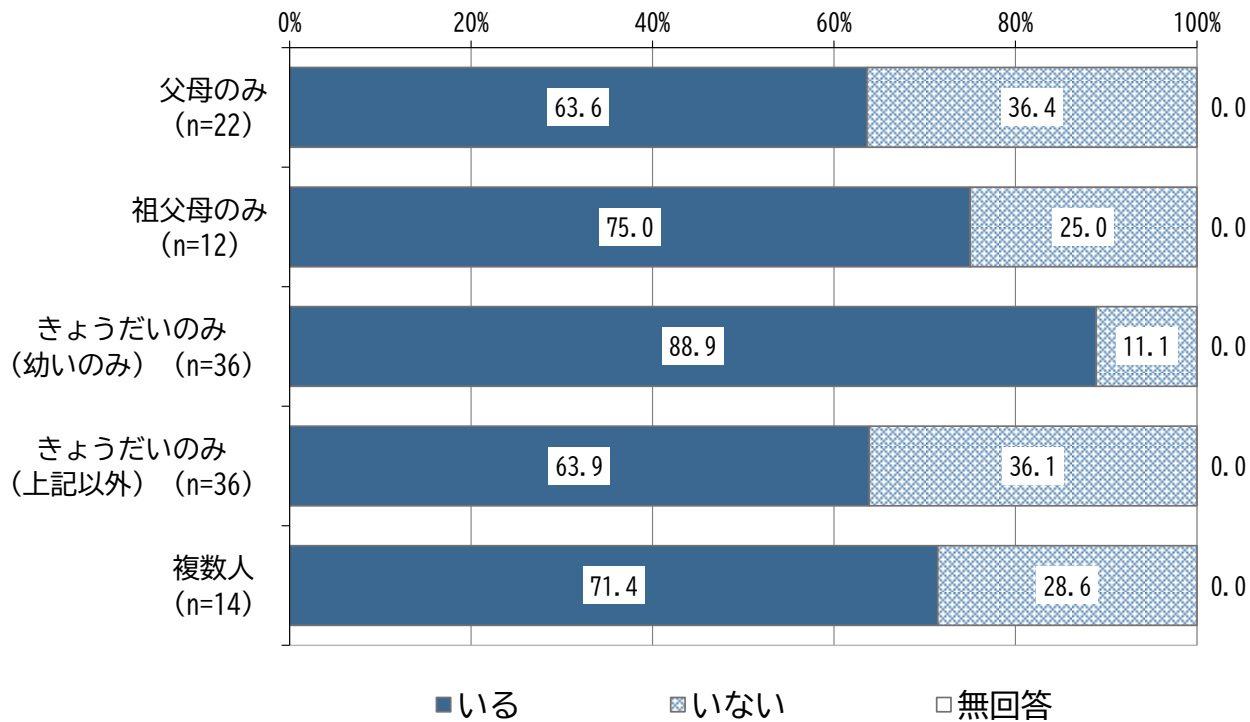
図表Ⅱ-2-55 世話を必要としている家族×相談したことがない理由(複数回答)



⑪ 世話を必要としている家族×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について話を聞いてくれる人の有無について、「いる」では、きょうだいのみ(幼いのみ)の割合が最も高く、「いない」では、父母のみの割合が最も高くなっている。

図表Ⅱ-2-56 世話を必要としている家族×世話について話を聞いてくれる人の有無

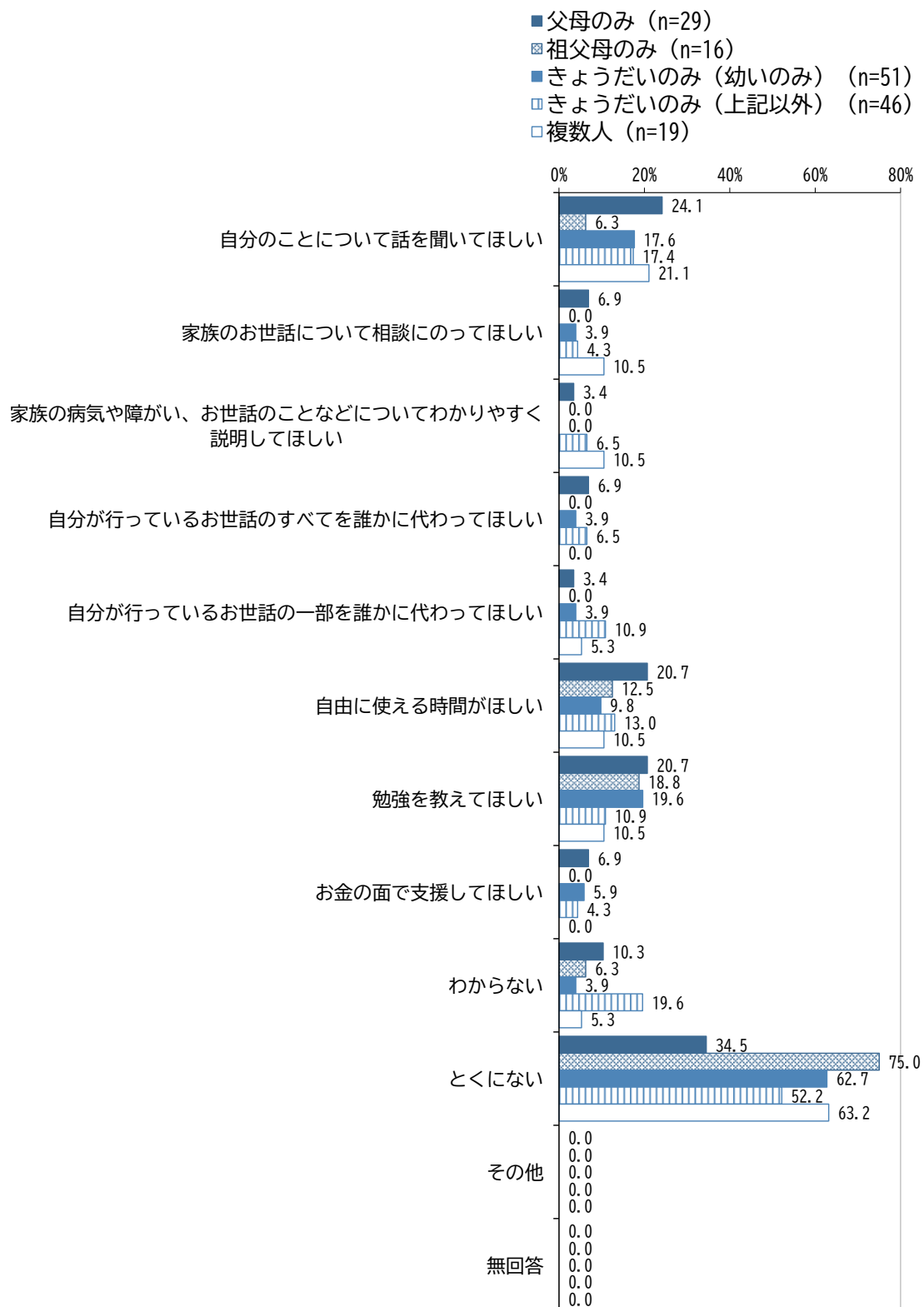




⑫ 世話を必要としている家族×学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについては、いずれの場合も「とくにない」の割合が最も高くなっており、父母のみ、複数人では次いで「自分のことについて話を聞いてほしい」が、祖父母のみ、きょうだいのみ(幼いのみ)では次いで「勉強を教えてほしい」が、きょうだいのみ(上記以外)では次いで「わからない」が高くなっている。

図表Ⅱ-2-57 世話を必要としている家族×学校や大人にしてもらいたいこと(複数回答)



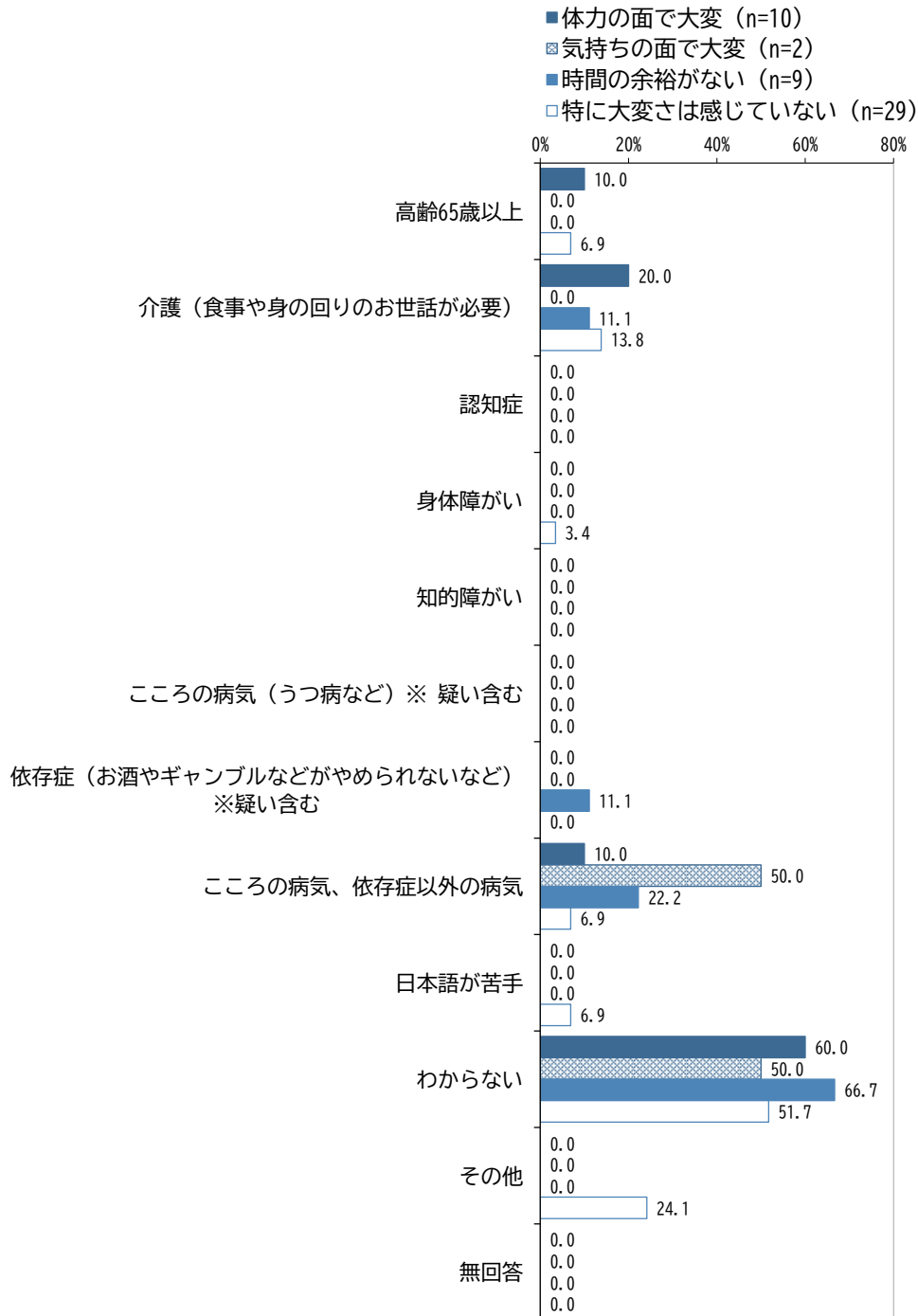
(6)世話をすることに感じている大変さによる世話の状況の違い

① 世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況

i)世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況(父母の状況)

父母の状況について、「介護(食事や身の回りのお世話が必要)」では、「体力の面で大変」と回答した場合の割合が最も高くなっている。

図表Ⅱ-2-58 世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況(父母の状況)(複数回答)

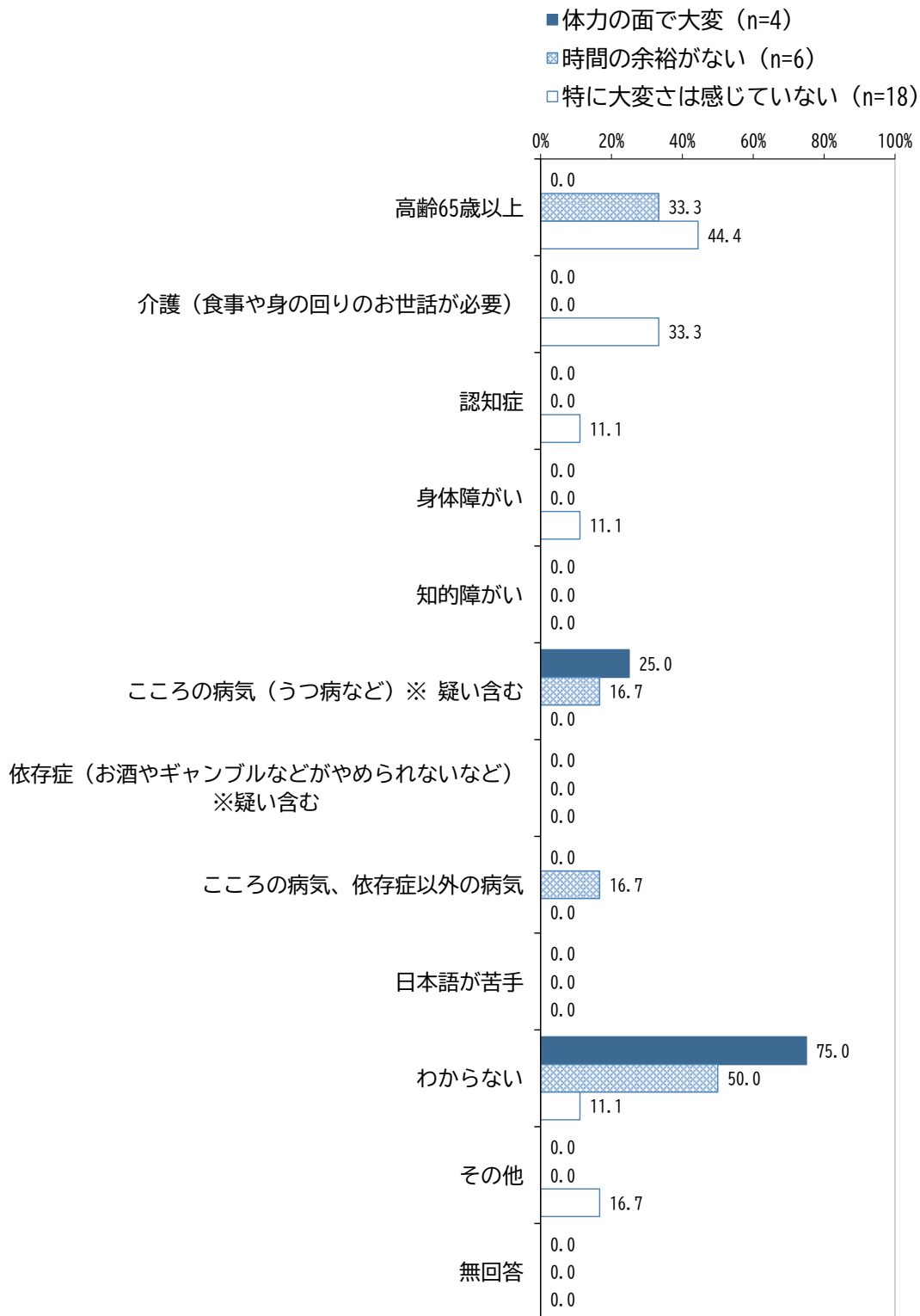


※「気持ちの面で大変」はサンプル数が少ないが、参考値として掲載している

ii)世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況(祖父母の状況)

祖父母の状況について、「特に大変さは感じていない」と回答した場合には、「高齢 65 歳以上」の割合が最も高くなっている。

図表Ⅱ-2-59 世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況(祖父母の状況)(複数回答)

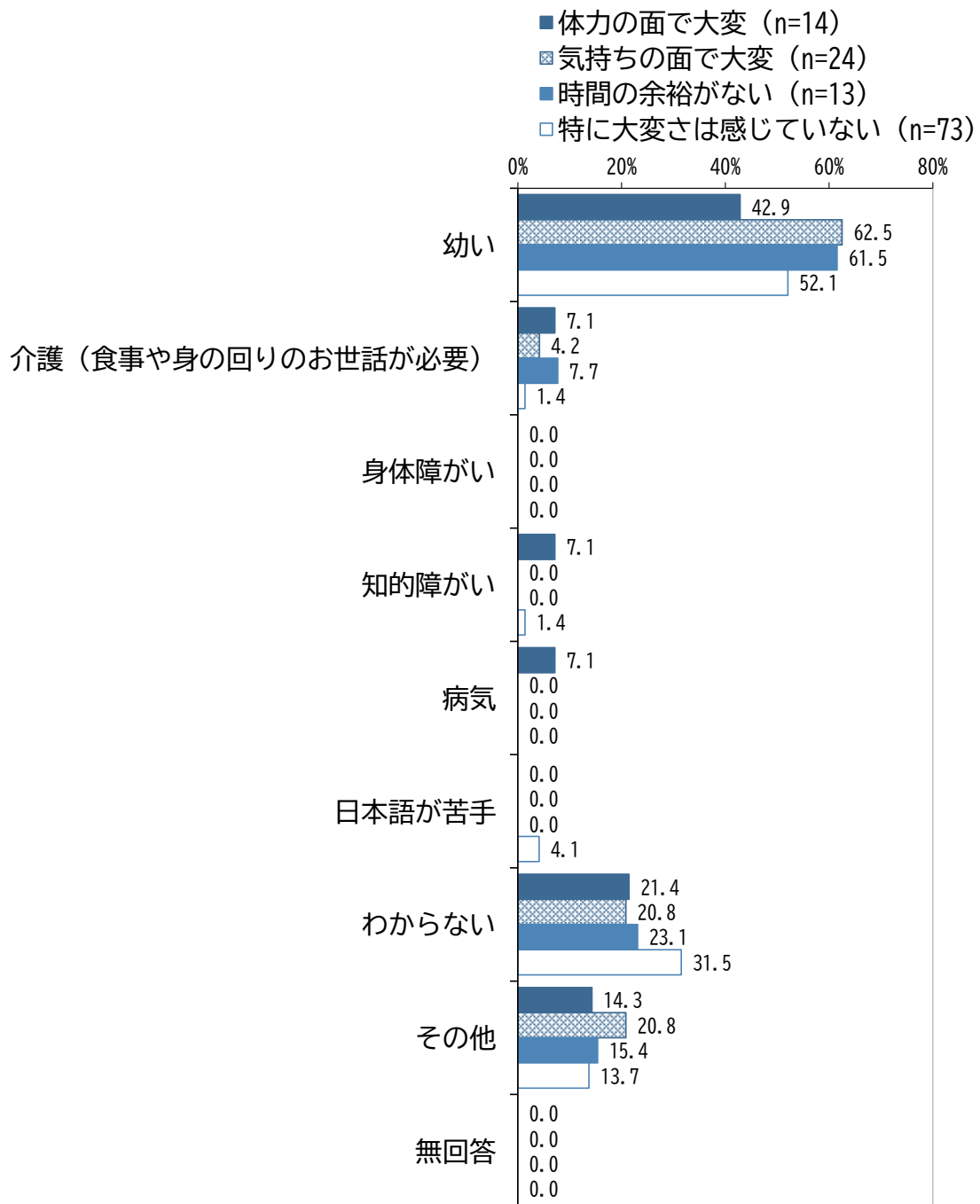


※「気持ちの面で大変」はサンプル数が非常に少ないため掲載していない

iii)世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況(きょうだいの状況)

きょうだいの状況について、「介護(食事や身の回りのお世話が必要)」では、「時間の余裕がない」と回答した場合の割合が最も高くなっている。

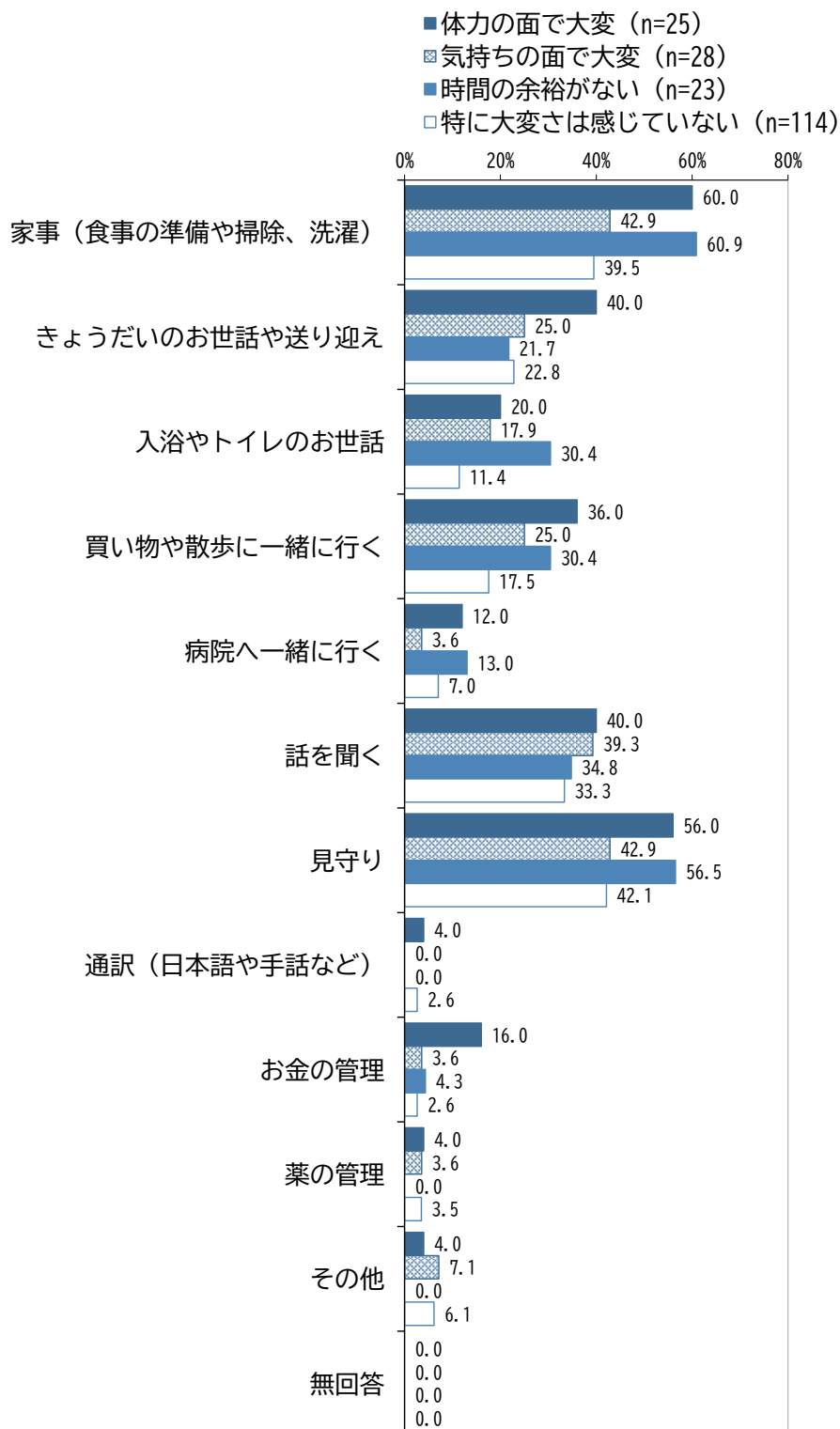
図表Ⅱ-2-60 世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況(きょうだいの状況)  
(複数回答)



## ② 世話をすることを感じているきつさ×世話の内容

世話の内容について、「体力の面で大変」、「時間の余裕がない」と回答した場合には、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が最も高く、「気持ちの面で大変」と回答した場合には、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「見守り」が同率で最も高くなっている。

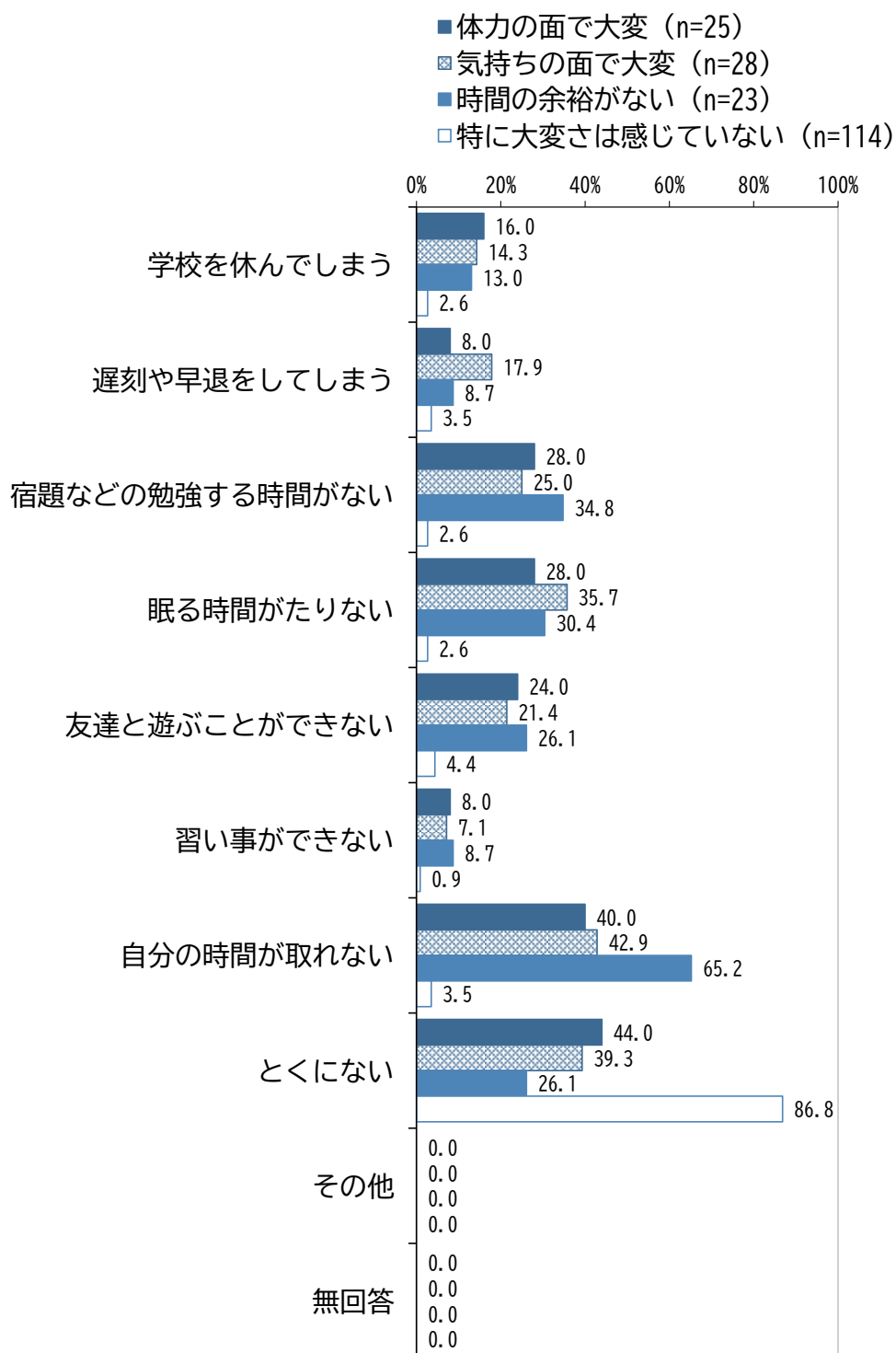
図表Ⅱ-2-61 世話をすることを感じているきつさ×世話の内容(複数回答)



### ③ 世話をすることに感じているきつさ×世話による制約

世話による制約について、「体力の面で大変」、「特に大変さは感じていない」と回答した場合には、「とくにない」の割合が最も高く、「気持ちの面で大変」、「時間の余裕がない」と回答した場合には、「自分の時間が取れない」の割合が最も高くなっている。

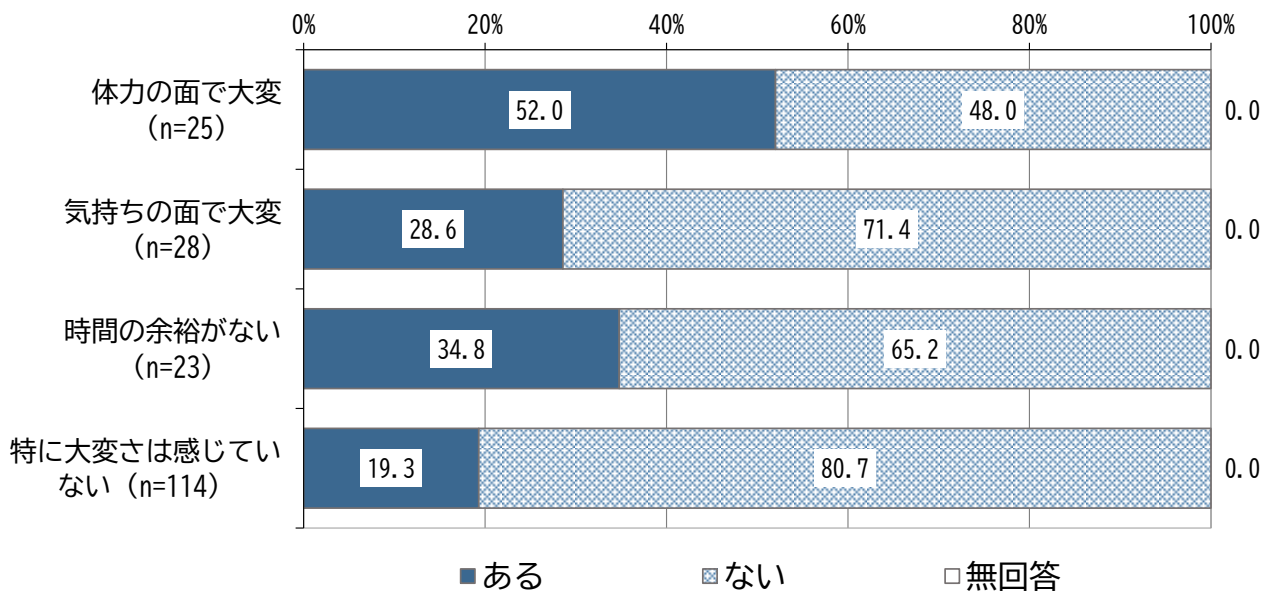
図表Ⅱ-2-62 世話をすることに感じているきつさ×世話をしているためにやりたいけれどできていないこと(複数回答)



④ 世話をすることを感じているきつさ×世話について相談した経験

世話について相談した経験について、「ある」では、「体力の面で大変」と回答した場合の割合が最も高くなっている。

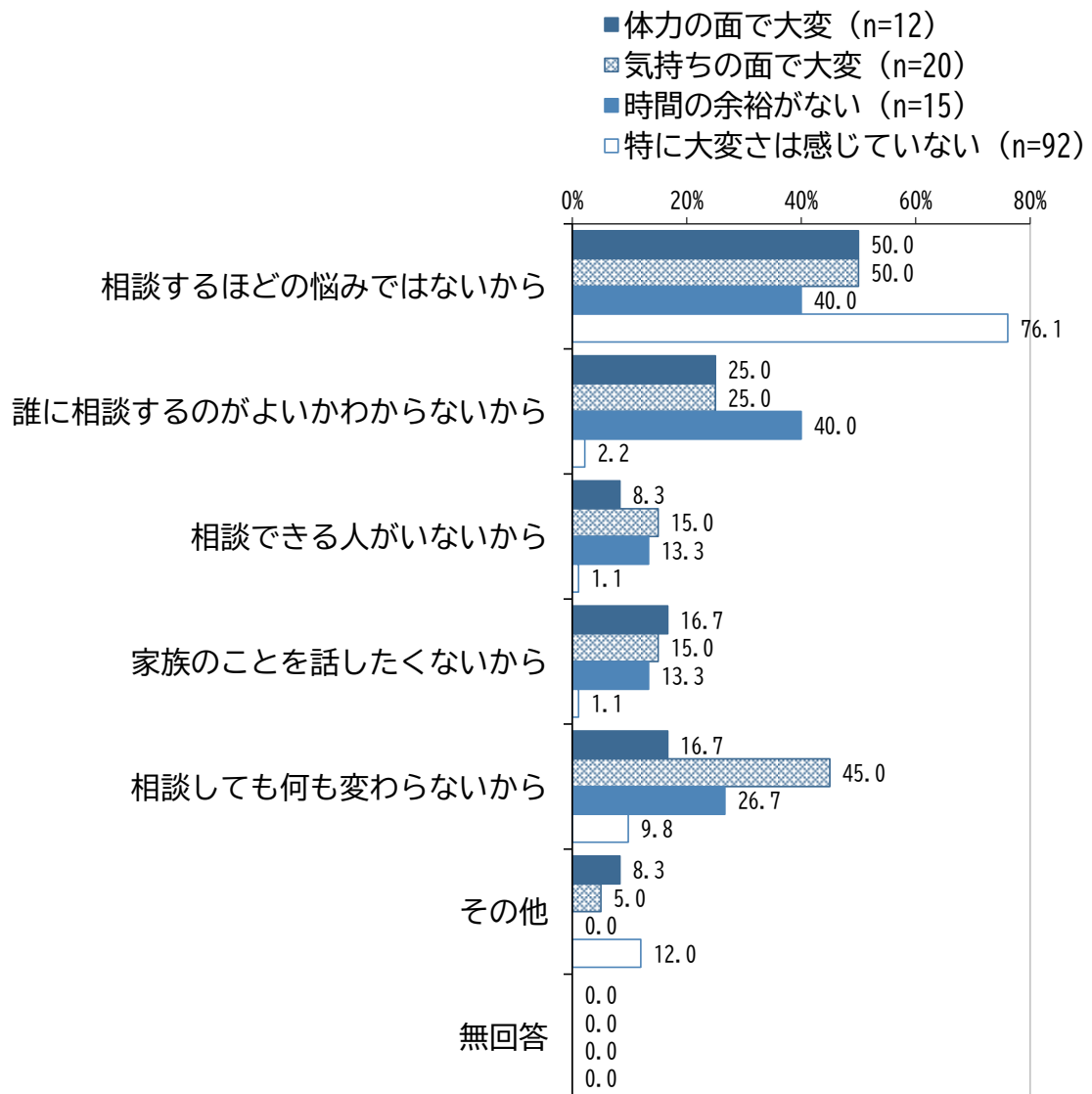
図表Ⅱ-2-63 世話をすることを感じているきつさ×世話について相談した経験



⑤ 世話をすることに感じているきつさ×世話について相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由について、「誰に相談するのがよいかわからないから」では、「時間の余裕がない」と回答した場合の割合が最も高く、「相談しても何も変わらないから」では、「気持ちの面で大変」と回答した場合の割合が最も高くなっている。

図表Ⅱ-2-64 世話をすることに感じているきつさ×世話について相談したことがない理由  
(複数回答)

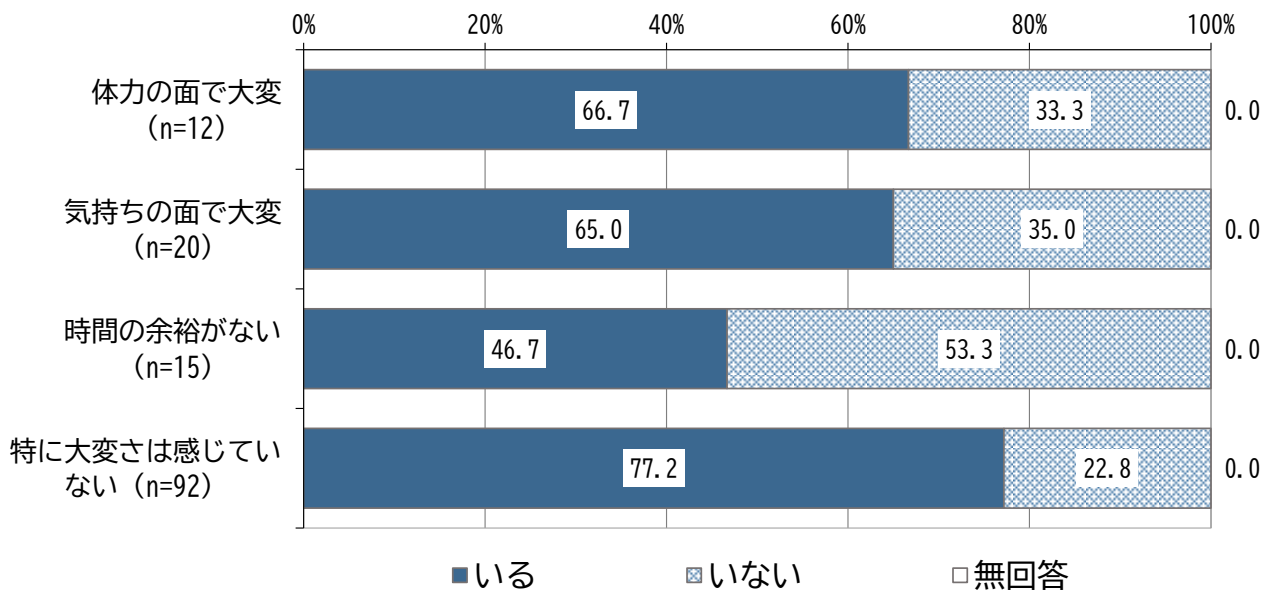




⑥ 世話をすることに感じているきつさ×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について話を聞いてくれる人の有無について、「ない」では、「時間の余裕がない」と回答した場合の割合が最も高くなっている。

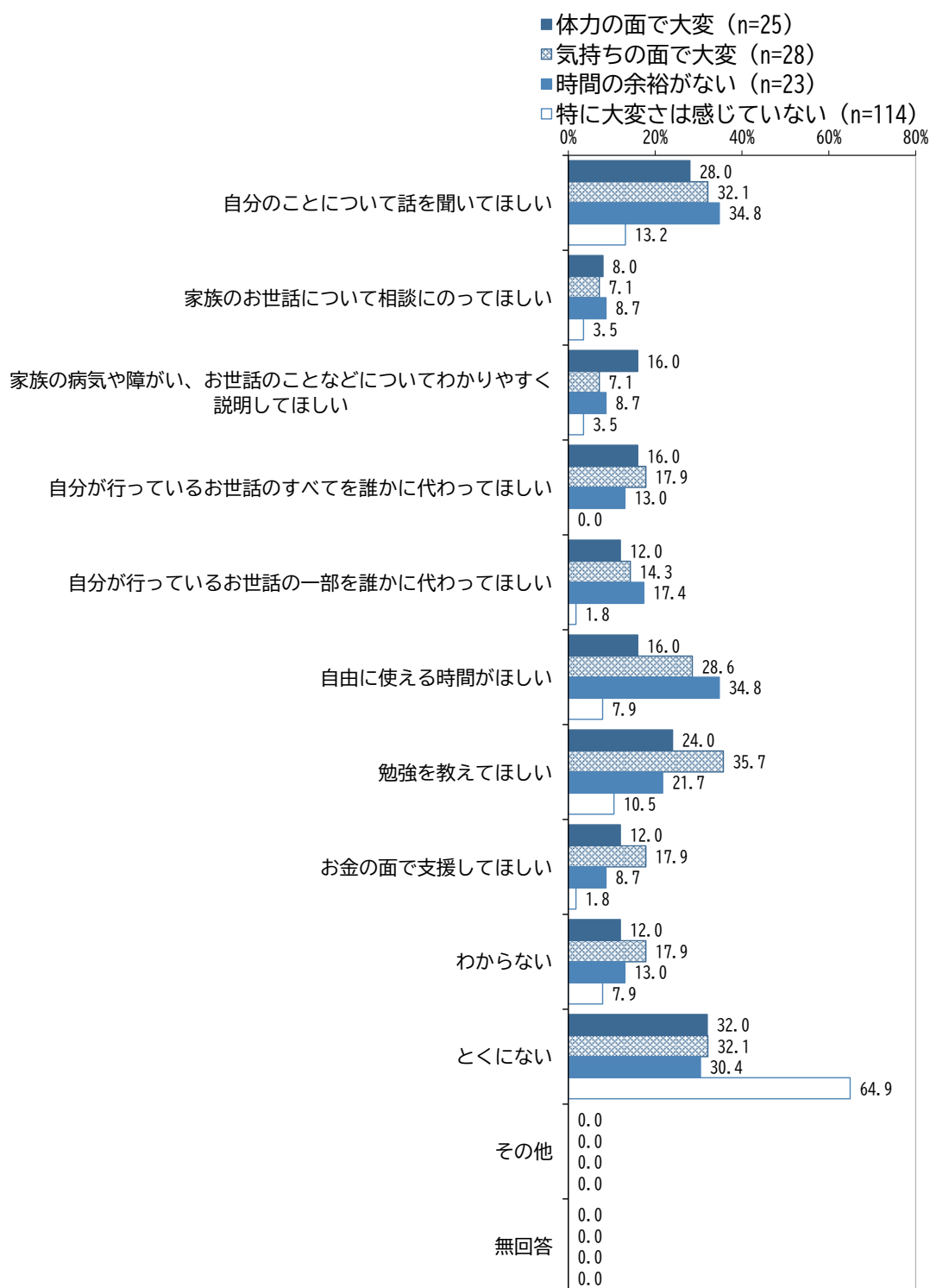
図表Ⅱ-2-65 世話をすることに感じているきつさ×世話について話を聞いてくれる人の有無



⑦ 世話をすることに感じているきつさ×学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについて、「体力の面で大変」、「特に大変さは感じていない」と回答した場合には、「とくにない」の割合が最も高く、「気持ちの面で大変」と回答した場合には、「勉強を教えてほしい」の割合が最も高く、「時間の余裕がない」と回答した場合には、「自分のことについて話を聞いてほしい」、「自由に使える時間がほしい」が同率で最も高くなっている。

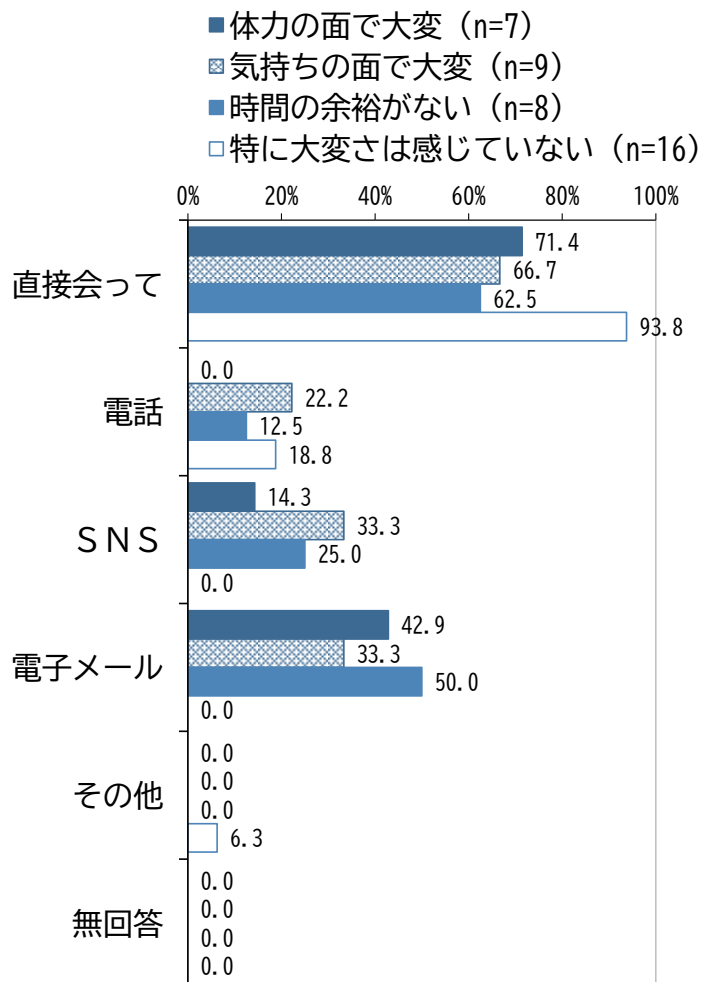
図表Ⅱ-2-66 世話をすることに感じているきつさ×学校や大人にしてもらいたいこと(複数回答)



⑧ 世話をすることに感じているきつさ×希望する相談方法

希望する相談方法については、いずれの場合も「直接会って」の割合が最も高くなっている。

図表Ⅱ-2-67 世話をすることに感じているきつさ×希望する相談方法(複数回答)

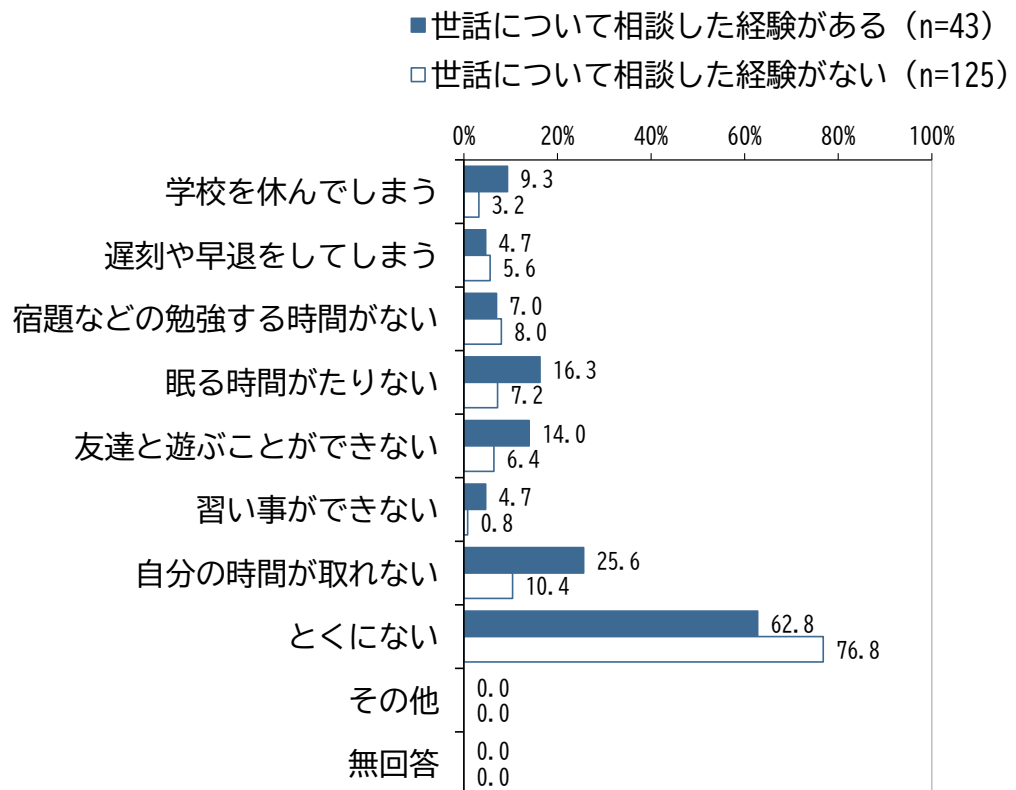


## (7)世話に関する相談の状況

### ① 世話について相談した経験×世話による制約

世話による制約について、世話について相談した経験がある場合では、世話について相談した経験がないに比べて、「学校を休んでしまう」、「眠る時間がたりない」、「友達と遊ぶことができない」、「習い事ができない」、「自分の時間が取れない」の割合が高くなっている。

図表Ⅱ-2-68 世話について相談した経験×世話をしているためにやりたいけれどできていないこと  
(複数回答)



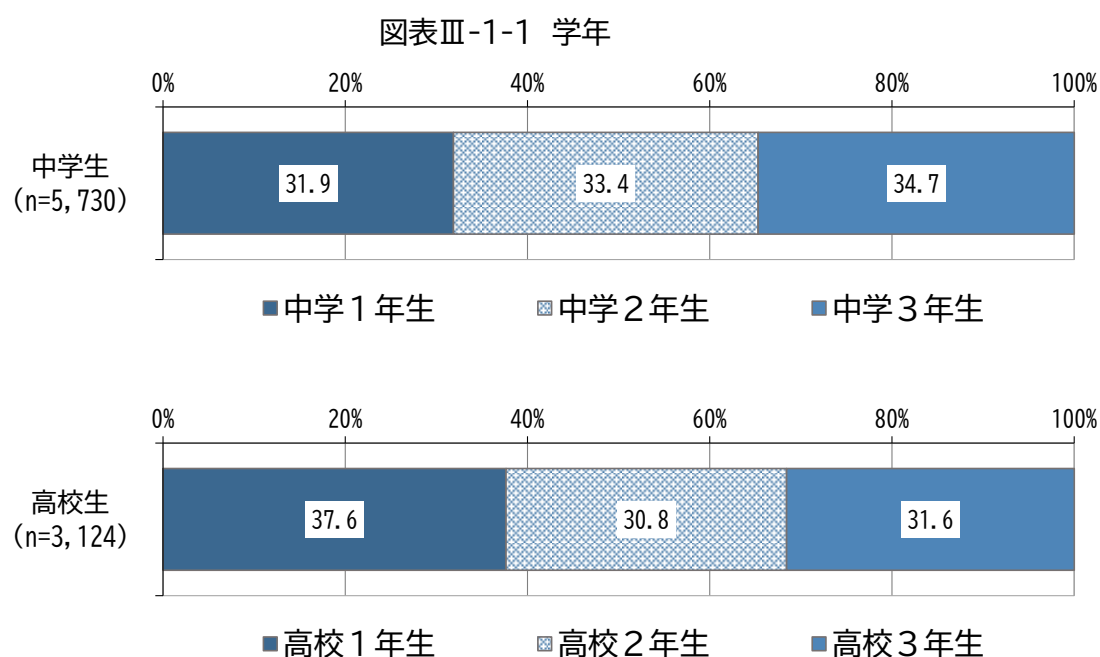
### Ⅲ 徳島県中高生の生活実態に関するアンケート調査

#### 1 調査結果(基本分析)

##### (1) 基本情報

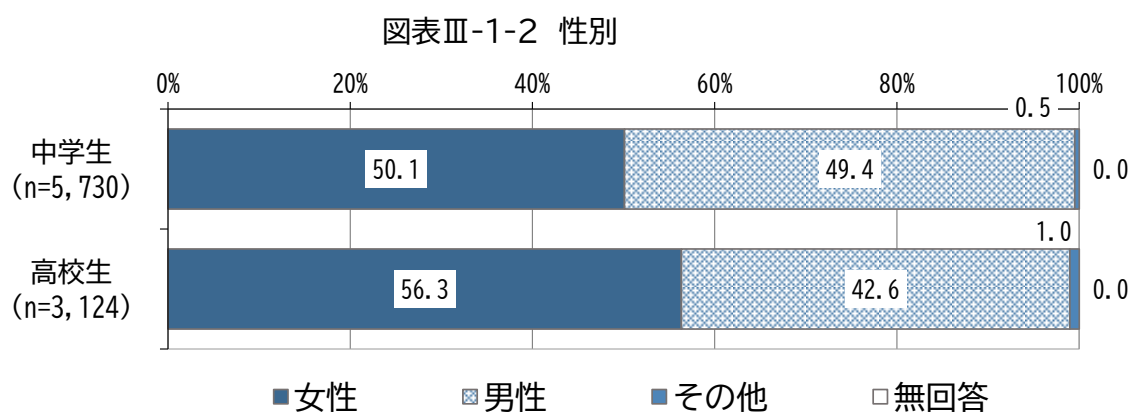
###### ① 学年

学年については、以下の通りである。



###### ② 性別

性別については、以下の通りである。



### ③ 居住地

居住地については、以下の通りである。

図表Ⅲ-1-3 居住地

中学生(n=5,730)、高校生(n=3,124)

市町村	構成比(%)	
	中学生	高校生
徳島市	32.1	32.5
鳴門市	3.3	4.9
小松島市	1.0	5.2
阿南市	8.8	13.9
吉野川市	7.6	3.6
阿波市	8.0	5.4
美馬市	5.3	3.6
三好市	4.4	7.3
勝浦町	0.9	0.5
上勝町	0.2	0.2
佐那河内村	0.3	0.4
石井町	5.5	2.2
神山町	0.6	0.3

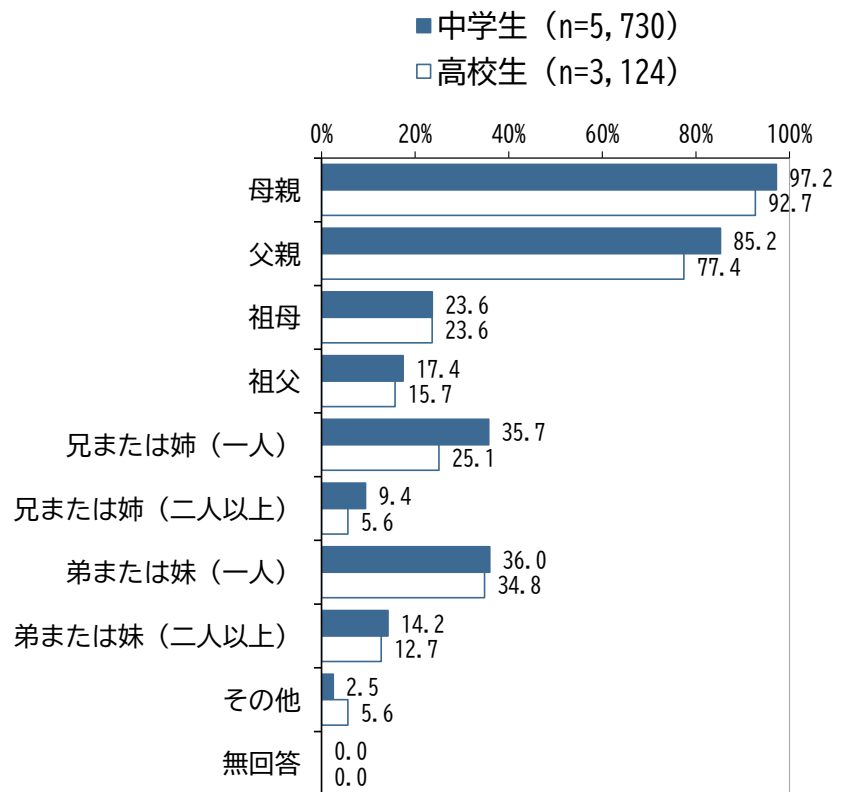
市町村	構成比(%)	
	中学生	高校生
那賀町	1.0	2.2
美波町	0.7	0.8
牟岐町	0.1	0.3
海陽町	1.5	1.0
松茂町	0.0	1.1
北島町	5.6	1.9
藍住町	5.7	5.6
板野町	0.1	1.3
上板町	2.9	1.7
つるぎ町	1.2	1.1
東みよし町	3.3	3.0
無回答	0.0	0.0
合計	100.0	100.0

#### ④ 同居家族

同居家族について、中学生では、「母親」が 97.2%で最も高く、次いで「父親」が 85.2%、「弟または妹(一人)」が 36.0%と続いている。

高校生では、「母親」が 92.7%で最も高く、次いで「父親」が 77.4%、「弟または妹(一人)」が 34.8%と続いている。

図表Ⅲ-1-4 同居家族(複数回答)

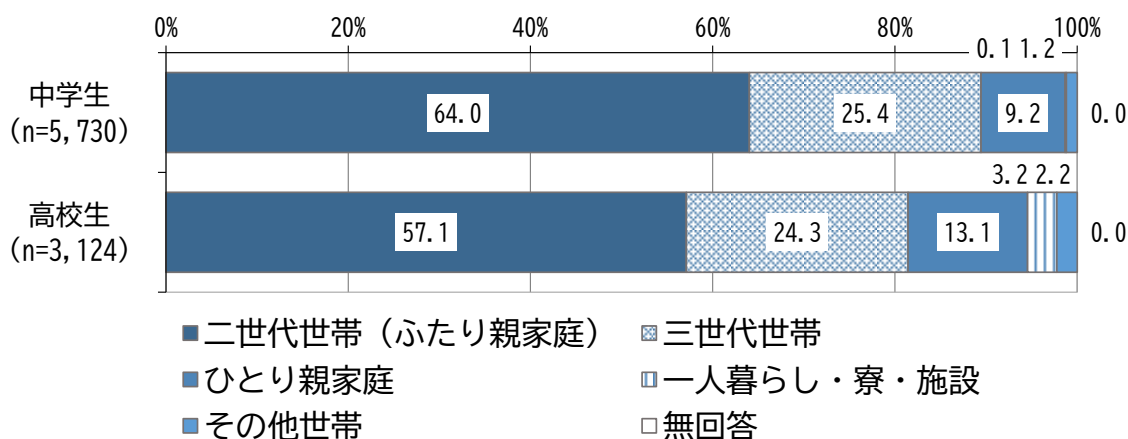


### ⑤ 家族構成

家族構成について、中学生では、「二世帯世帯(ふたり親家庭)」が64.0%で最も高く、次いで「三世帯世帯」が25.4%、「ひとり親家庭」が9.2%と続いている。

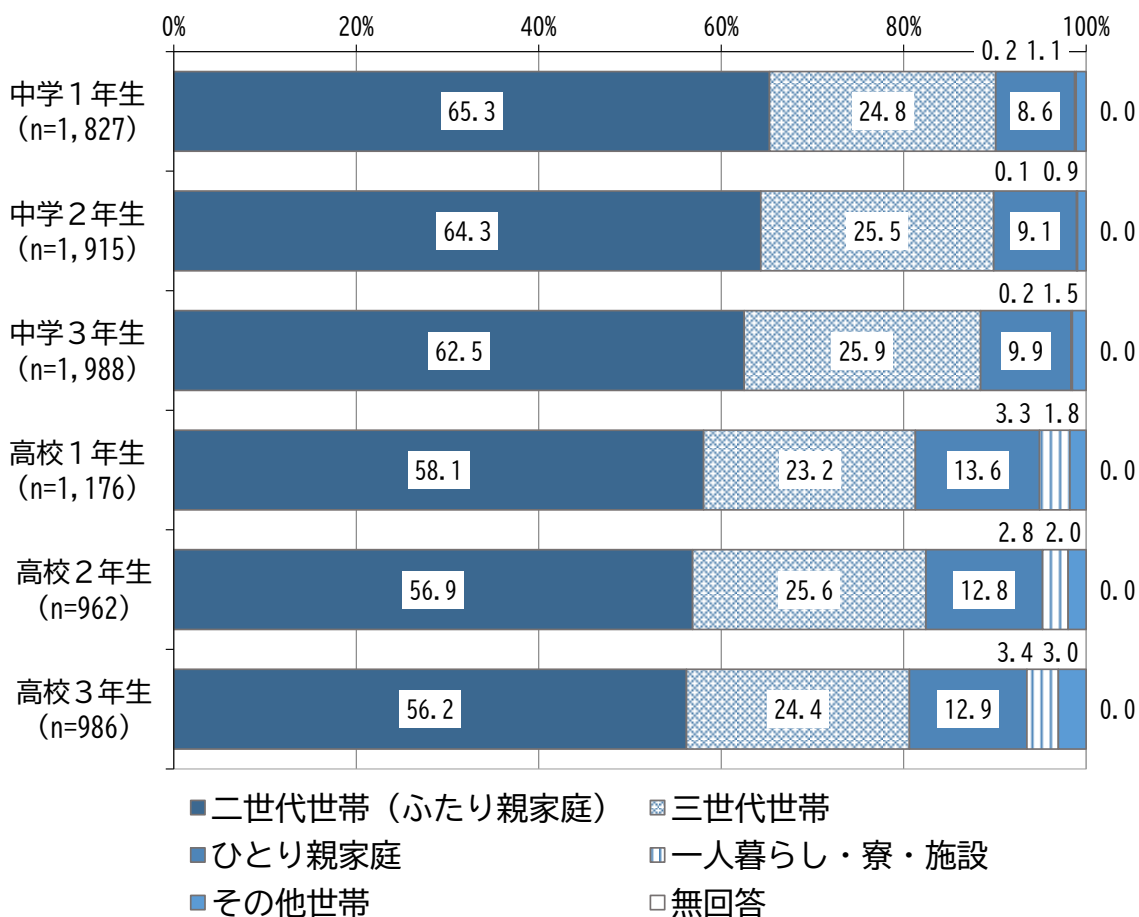
高校生では、「二世帯世帯(ふたり親家庭)」が57.1%で最も高く、次いで「三世帯世帯」が24.3%、「ひとり親家庭」が13.1%と続いている。

図表Ⅲ-1-5 家族構成



学年別にみると、「二世帯世帯(ふたり親家庭)」では、学年が上がるにつれて割合が低下しており、中学1年生が65.3%で最も高くなっている。

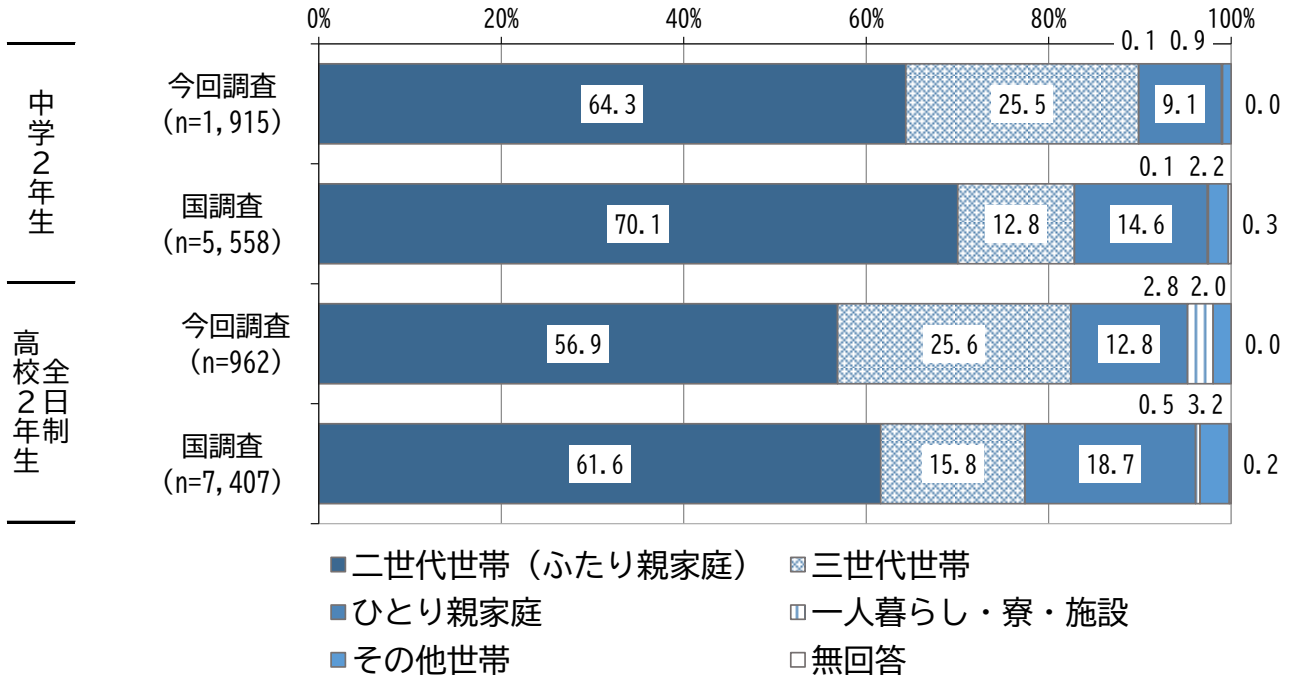
図表Ⅲ-1-6 家族構成 学年別





国調査と比較すると、中学2年生、全日制高校2年生いずれも国調査より「三世代世帯」の割合が高く、「二世代世帯(ふたり親家庭)」、「ひとり親家庭」の割合が低くなっている。

図表Ⅲ-1-7 家族構成 国調査との比較

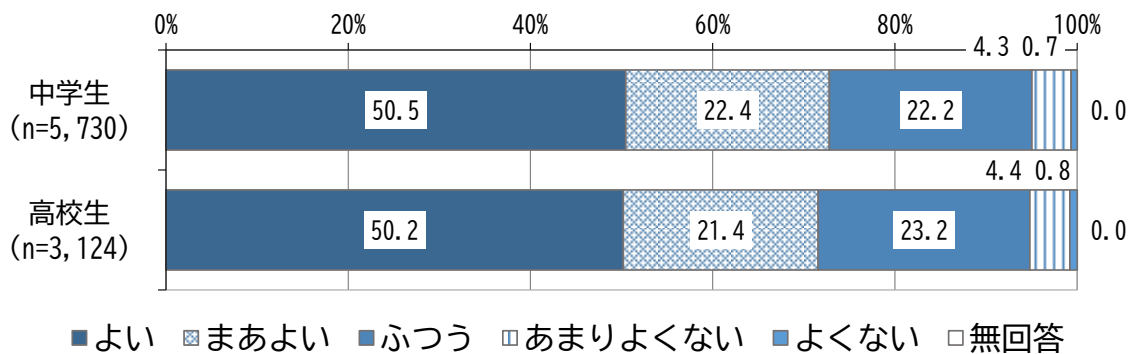


### ⑥ 健康状態

健康状態について、中学生では、「よい」が50.5%で最も高く、次いで「まあよい」が22.4%、「ふつう」が22.2%と続いている。

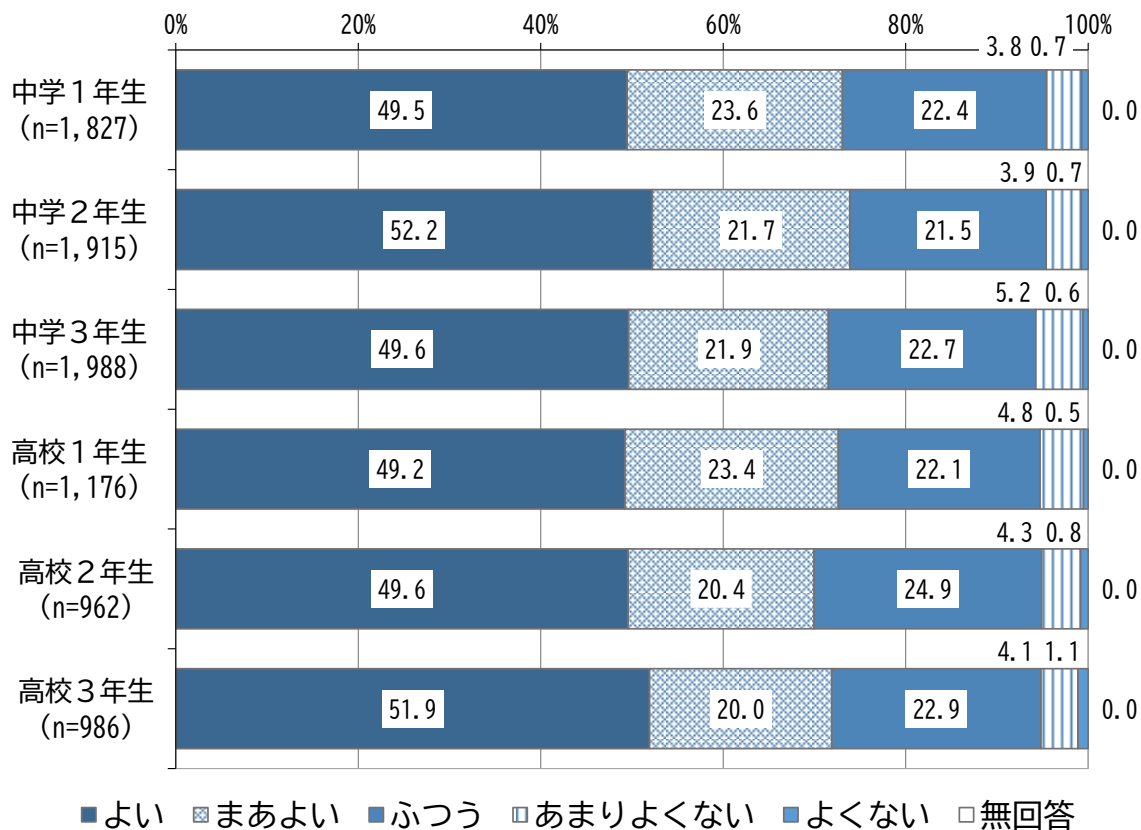
高校生では、「よい」が50.2%で最も高く、次いで「ふつう」が23.2%、「まあよい」が21.4%と続いている。

図表Ⅲ-1-8 健康状態



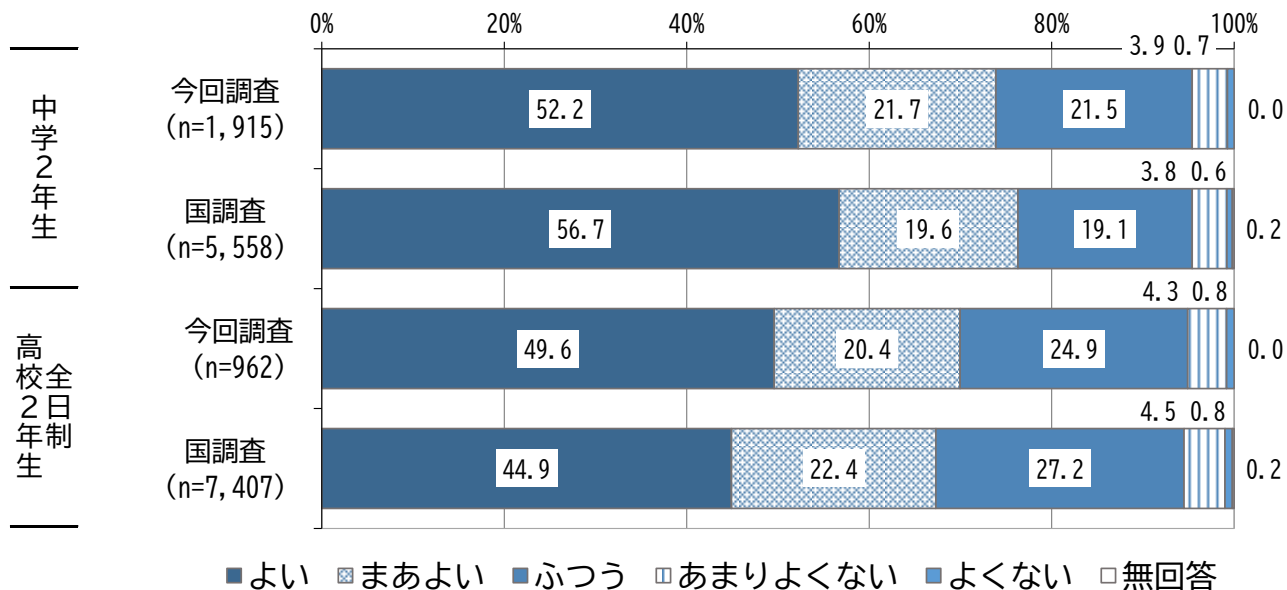
学年別にみると、『よい』（「よい」と「まあよい」の合計）では、すべての学年で7割台となっており、中学2年生が73.9%で最も高くなっている。

図表Ⅲ-1-9 健康状態 学年別



国調査と比較すると、『よい』では、中学2年生は国調査より低く、全日制高校2年生は国調査より高くなっている。

図表Ⅲ-1-10 健康状態 国調査との比較

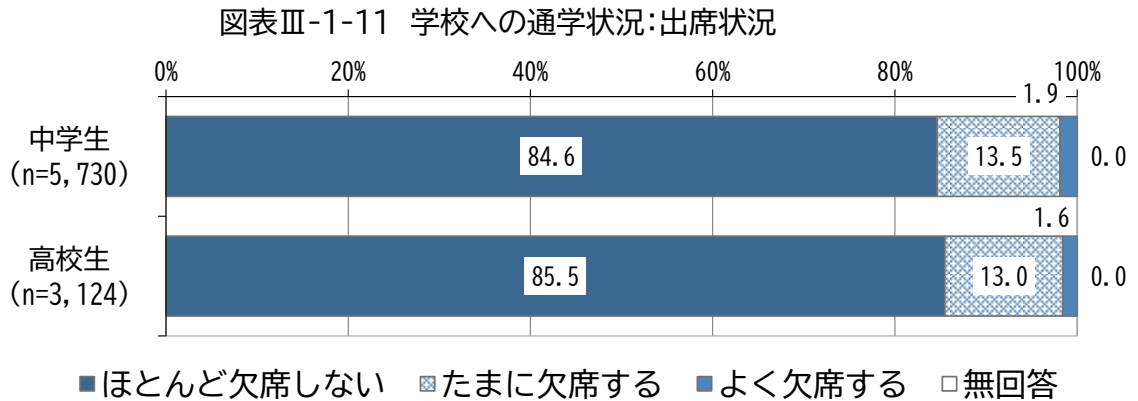


## (2)ふだんの生活について

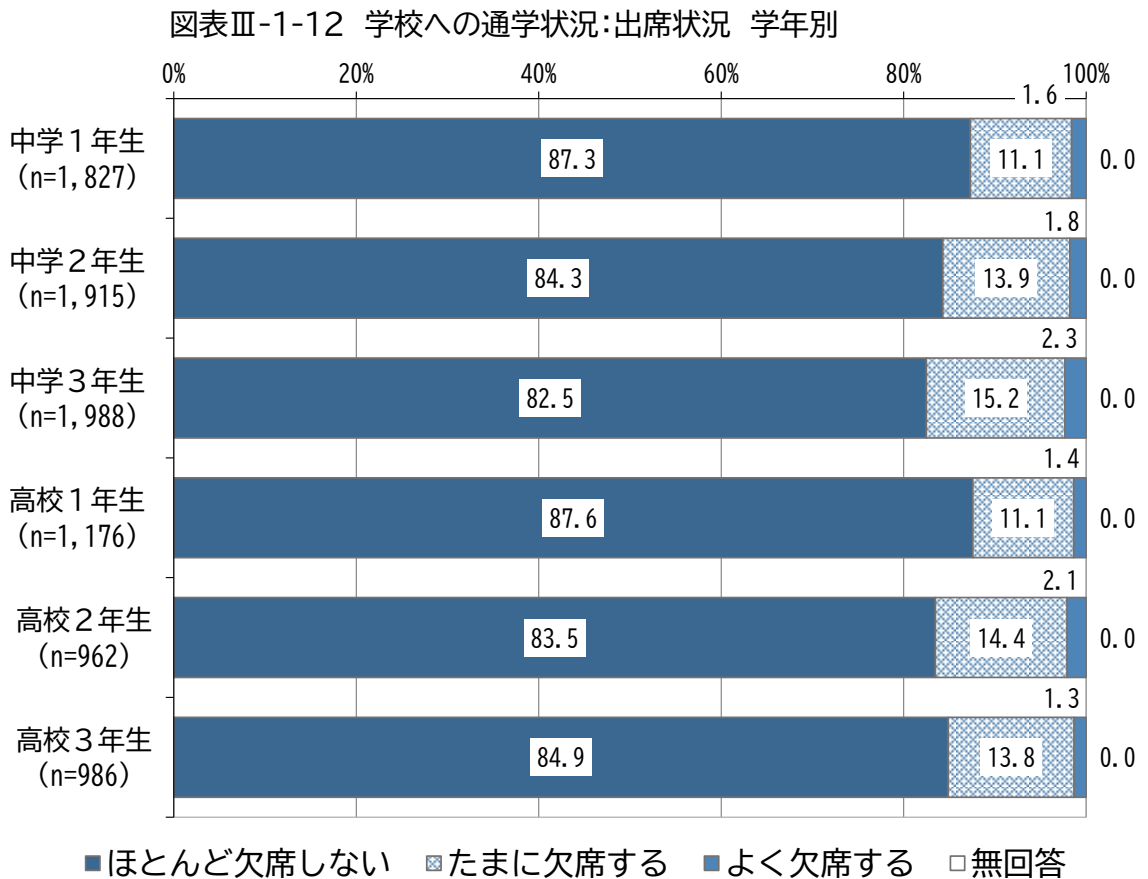
### ① 学校への通学状況:出席状況

学校の出席状況について、中学生では、「ほとんど欠席しない」が 84.6%で最も高く、次いで「たまに欠席する」が 13.5%、「よく欠席する」が 1.9%となっている。

高校生では、「ほとんど欠席しない」が 85.5%で最も高く、次いで「たまに欠席する」が 13.0%、「よく欠席する」が 1.6%となっている。

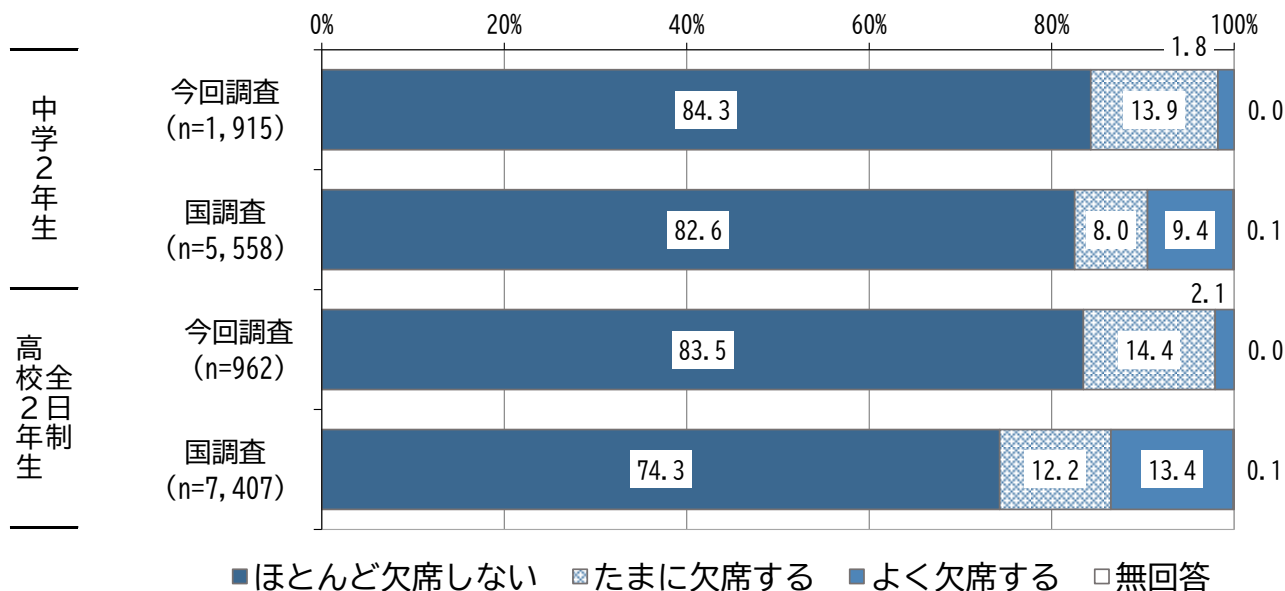


学年別にみると、「ほとんど欠席しない」では、高校1年生が 87.6%で最も高くなっている。



国調査と比較すると、「ほとんど欠席しない」では、中学2年生、全日制高校2年生いずれも国調査より割合が高くなっている。

図表Ⅲ-1-13 学校への通学状況:出席状況 国調査との比較

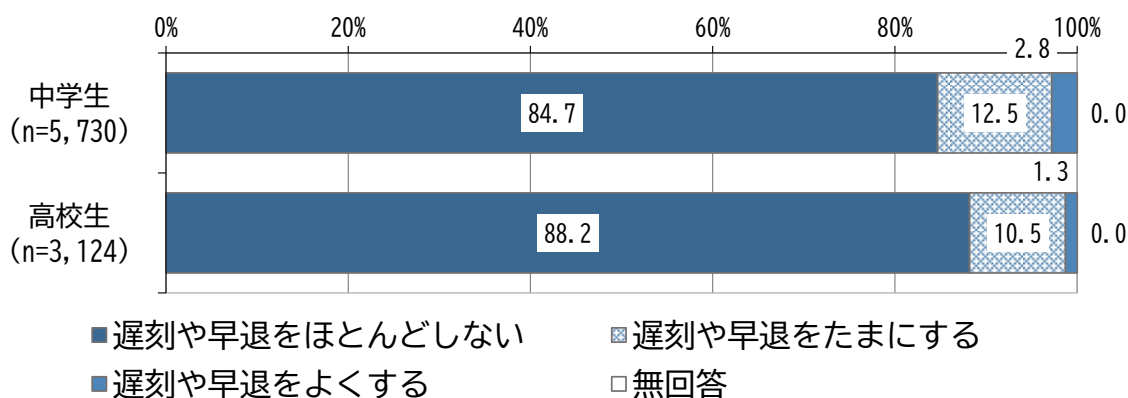


② 学校への通学状況:遅刻や早退の状況

学校の遅刻や早退の状況について、中学生では、「遅刻や早退をほとんどしない」が 84.7%で最も高く、次いで「遅刻や早退をたまにする」が 12.5%、「遅刻や早退をよくする」が 2.8%となっている。

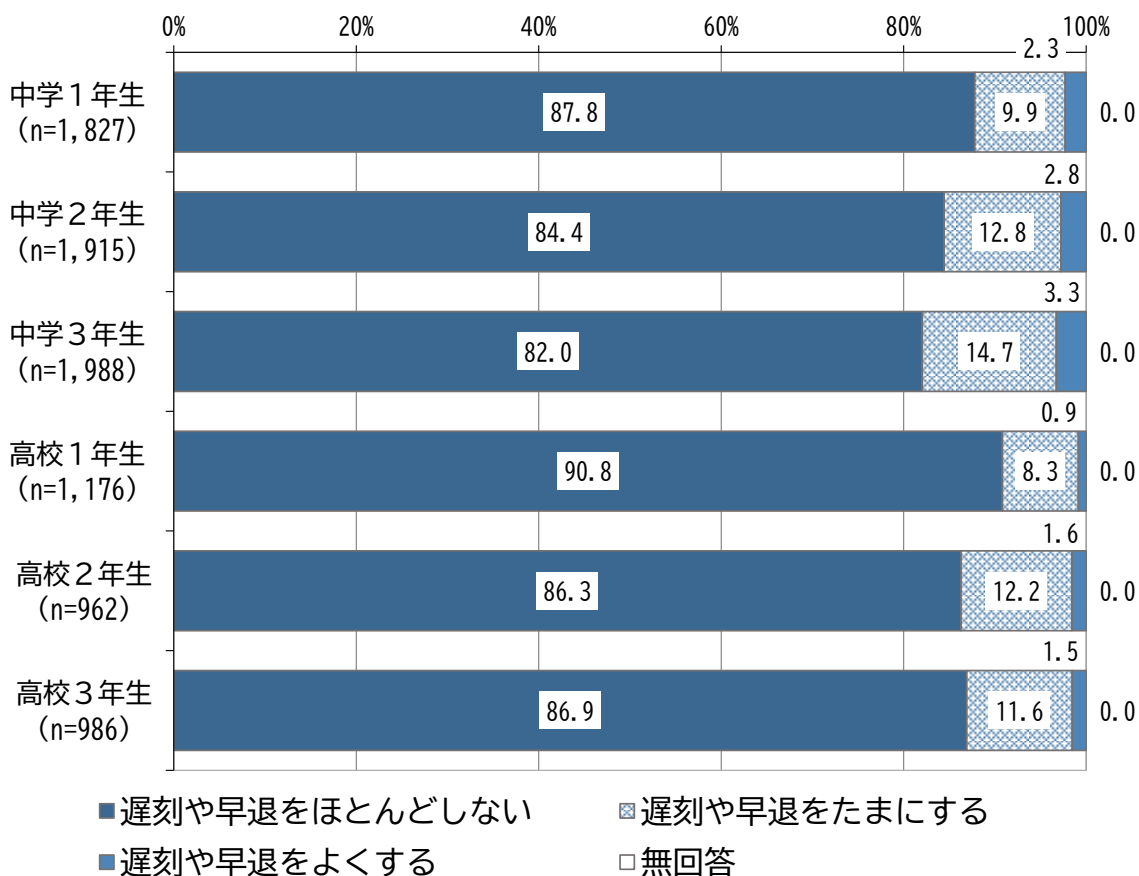
高校生では、「遅刻や早退をほとんどしない」が 88.2%で最も高く、次いで「遅刻や早退をたまにする」が 10.5%、「遅刻や早退をよくする」が 1.3%となっている。

図表Ⅲ-1-14 学校への通学状況:遅刻や早退の状況



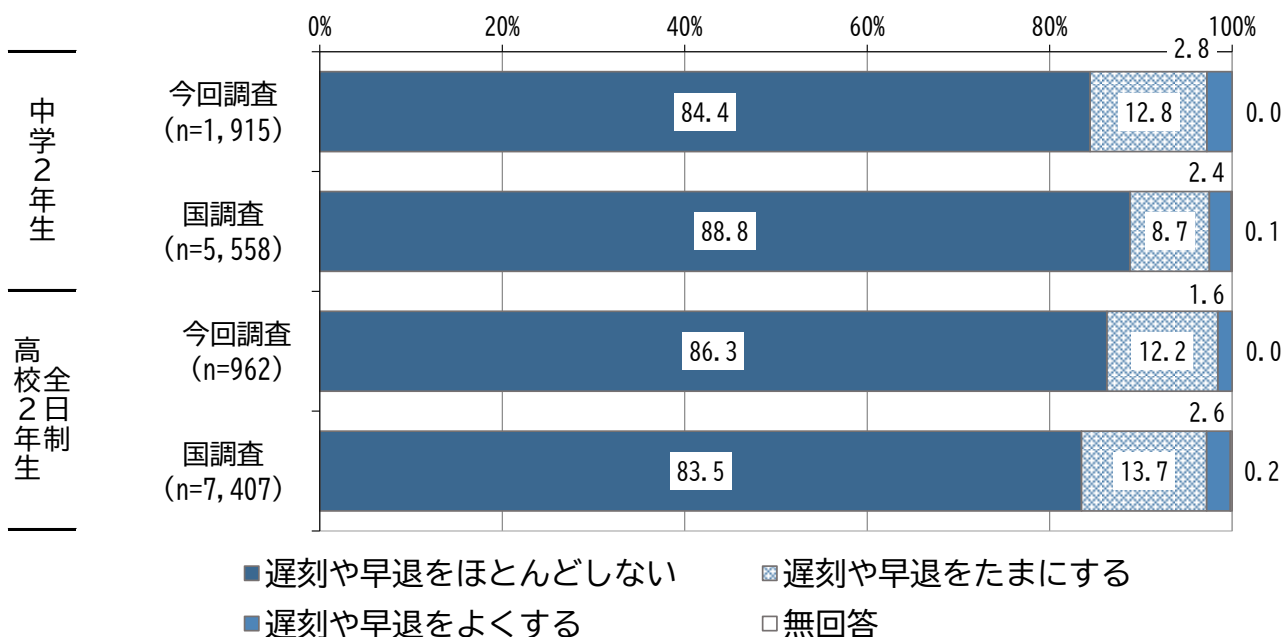
学年別にみると、「遅刻や早退をほとんどしない」では、高校1年生が90.8%で最も高くなっている。

図表Ⅲ-1-15 学校への通学状況:遅刻や早退の状況 学年別



国調査と比較すると、「遅刻や早退をほとんどしない」では、中学2年生は国調査より低く、全日制高校2年生は国調査より高くなっている。

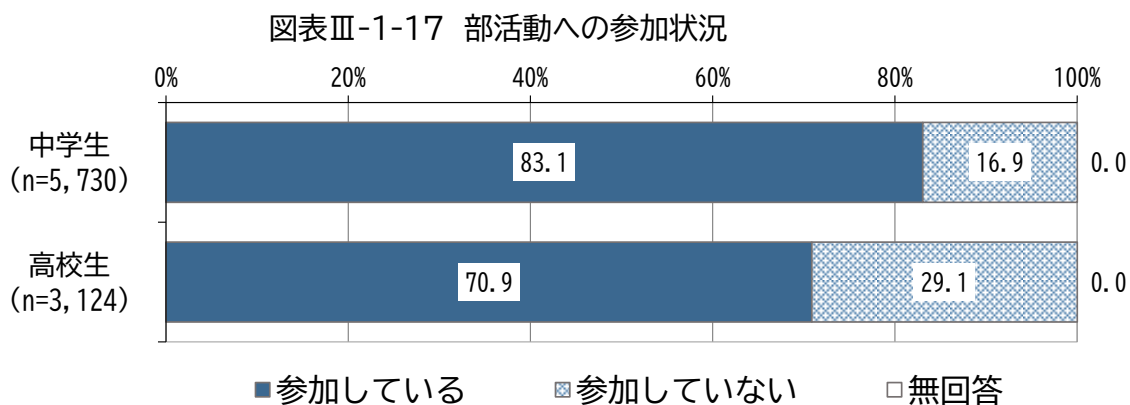
図表Ⅲ-1-16 学校への通学状況:遅刻や早退の状況 国調査との比較



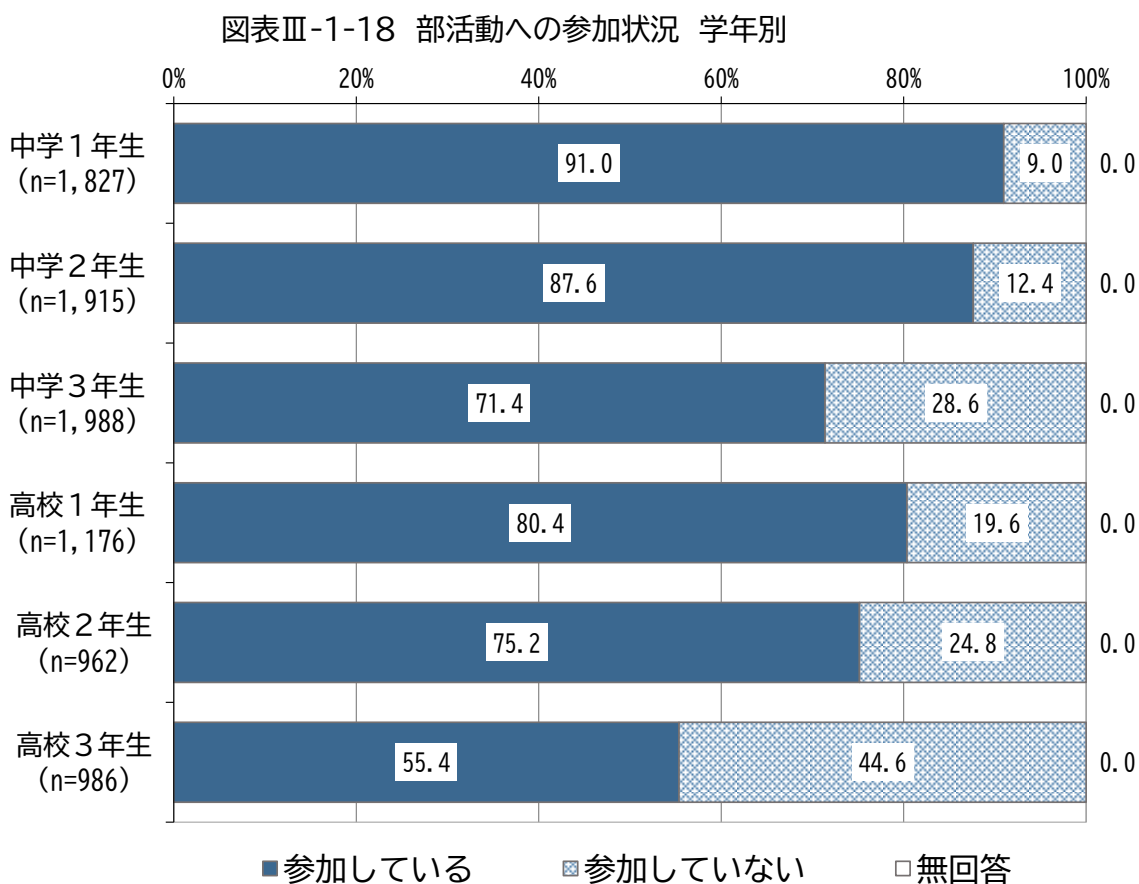
### ③ 部活動への参加状況

部活動への参加状況について、中学生では、「参加している」が 83.1%、「参加していない」が 16.9%となっている。

高校生では、「参加している」が 70.9%、「参加していない」が 29.1%となっている。

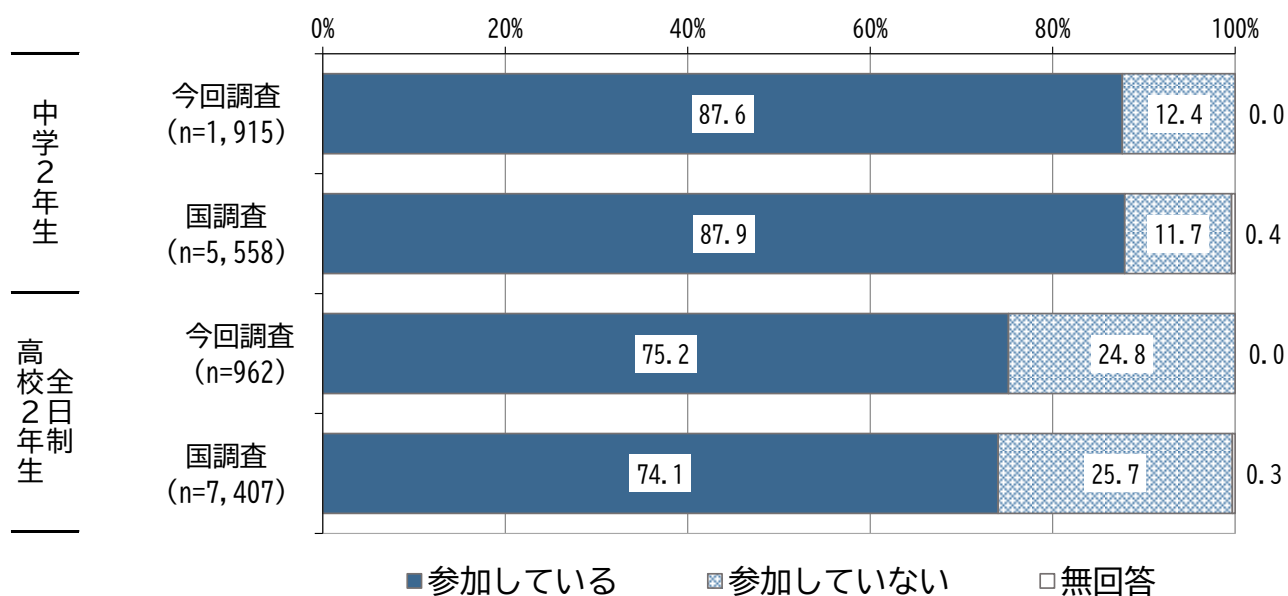


学年別にみると、「参加している」では、中学1年生が 91.0%で最も高くなっている。



国調査と比較すると、中学2年生、全日制高校2年生いずれも大きな差はみられない。

図表Ⅲ-1-19 部活動への参加状況 国調査との比較

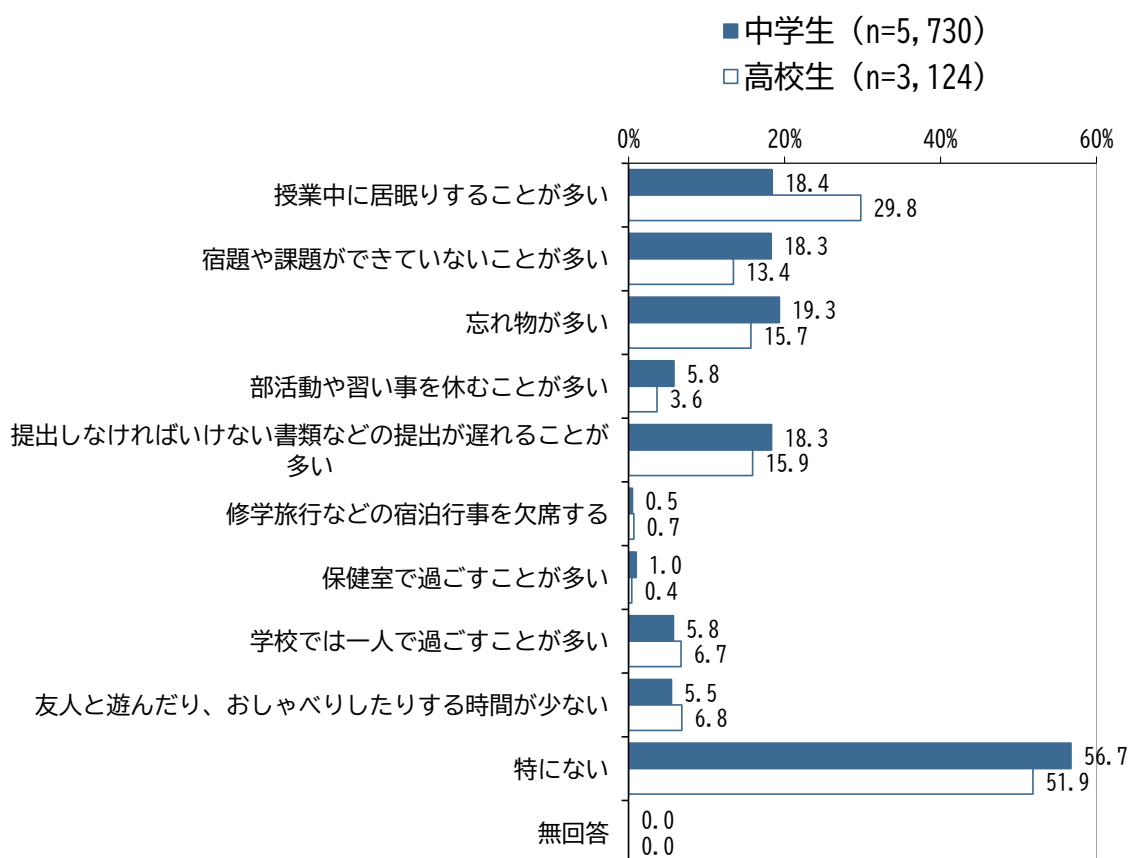


#### ④ ふだんの学校生活等であてはまること

ふだんの学校生活等であてはまることについて、中学生では、「特にない」が 56.7%で最も高く、次いで「忘れ物が多い」が 19.3%、「授業中に居眠りすることが多い」が 18.4%と続いている。

高校生では、「特にない」が 51.9%で最も高く、次いで「授業中に居眠りすることが多い」が 29.8%、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」が 15.9%と続いている。

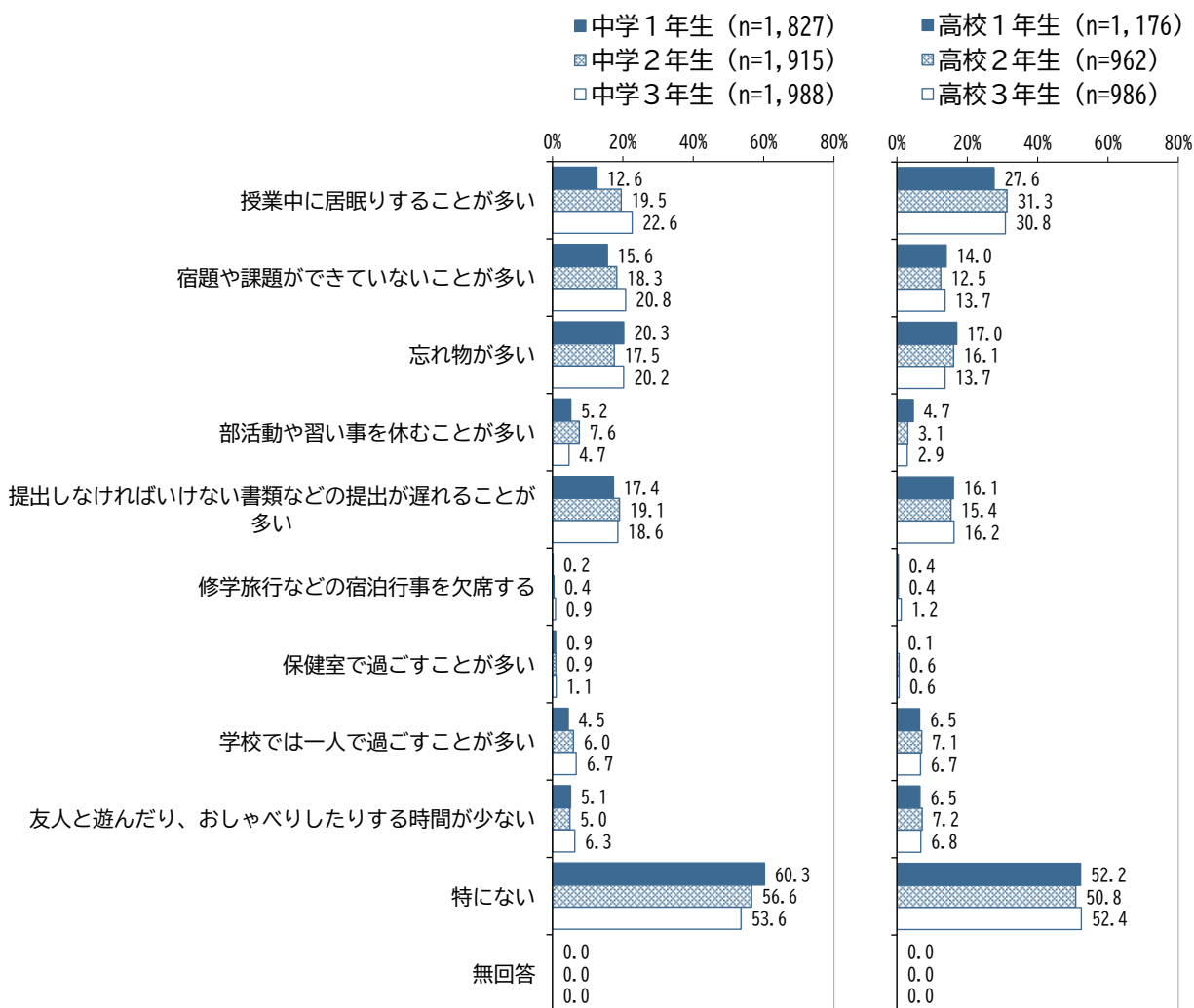
図表Ⅲ-1-20 ふだんの学校生活等であてはまること(複数回答)





学年別にみると、すべての学年で「特にない」の割合が最も高く、中学1年生では次いで「忘れ物が多い」の割合が高く、それ以外の学年では次いで「授業中に居眠りすることが多い」の割合が高くなっていく。

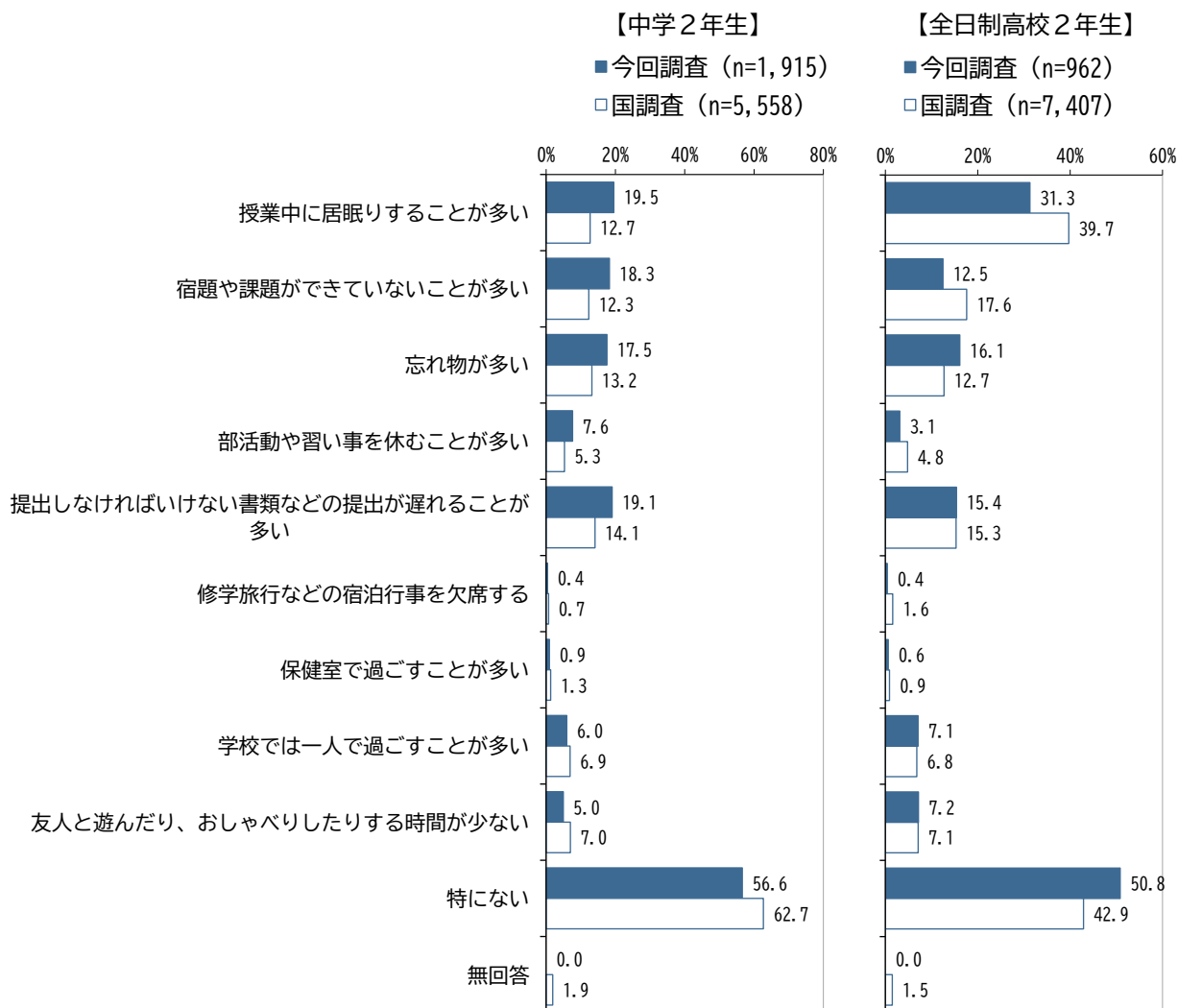
図表Ⅲ-1-21 ふだんの学校生活等であてはまること 学年別



国調査と比較すると、中学2年生では、「授業中に居眠りすることが多い」、「宿題や課題ができていないことが多い」、「忘れ物が多い」、「部活動や習い事を休むことが多い」、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」で国調査より割合が高くなっている。

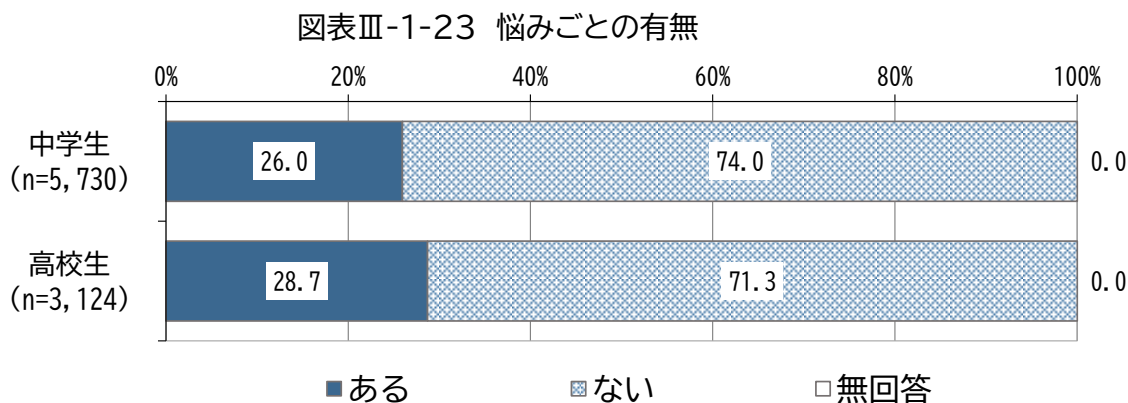
高校生では、「忘れ物が多い」、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」、「学校では一人で過ごすことが多い」、「友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」、「特にない」で国調査より割合が高くなっている。

図表Ⅲ-1-22 ふだんの学校生活等であてはまること 国調査との比較

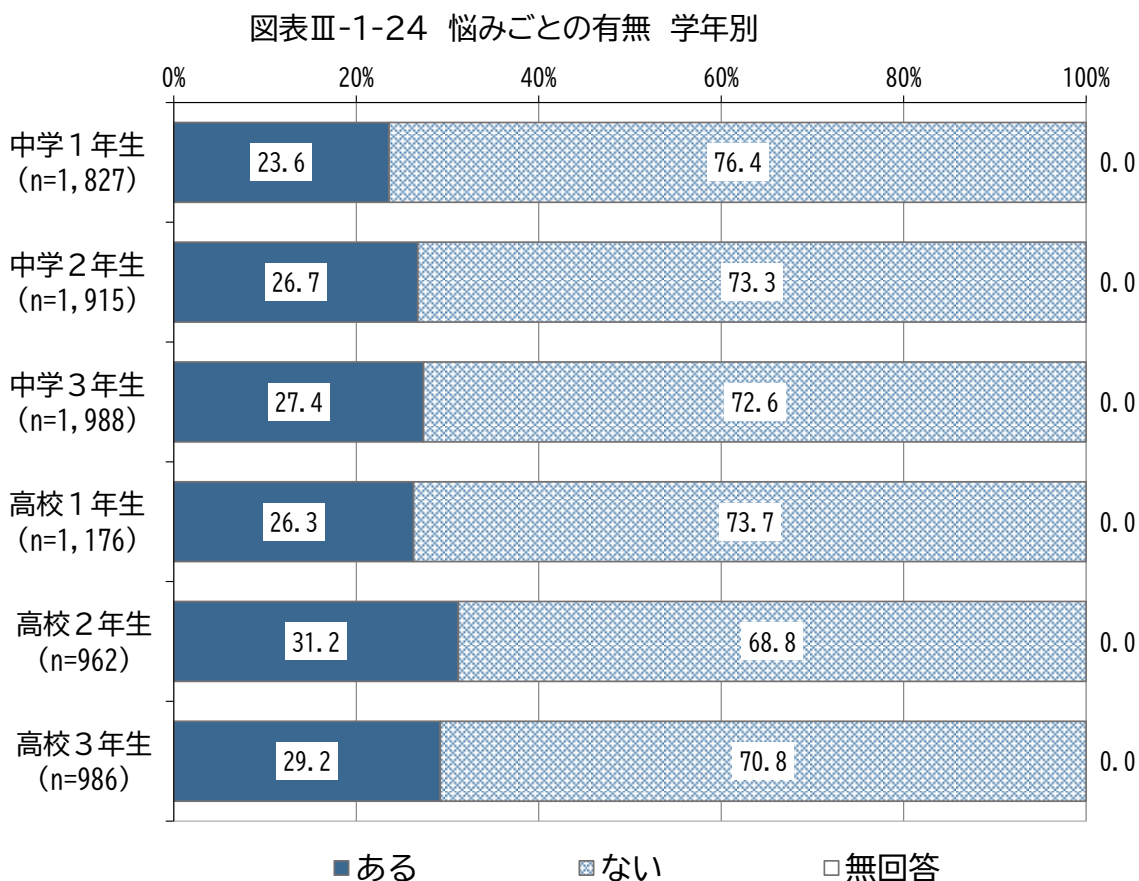


### ⑤ 悩みごとの有無

悩みごとの有無について、中学生では、「ある」が26.0%、「ない」が74.0%となっている。  
高校生では、「ある」が28.7%、「ない」が71.3%となっている。



学年別にみると、「ある」では、高校2年生が31.2%で最も高くなっている。

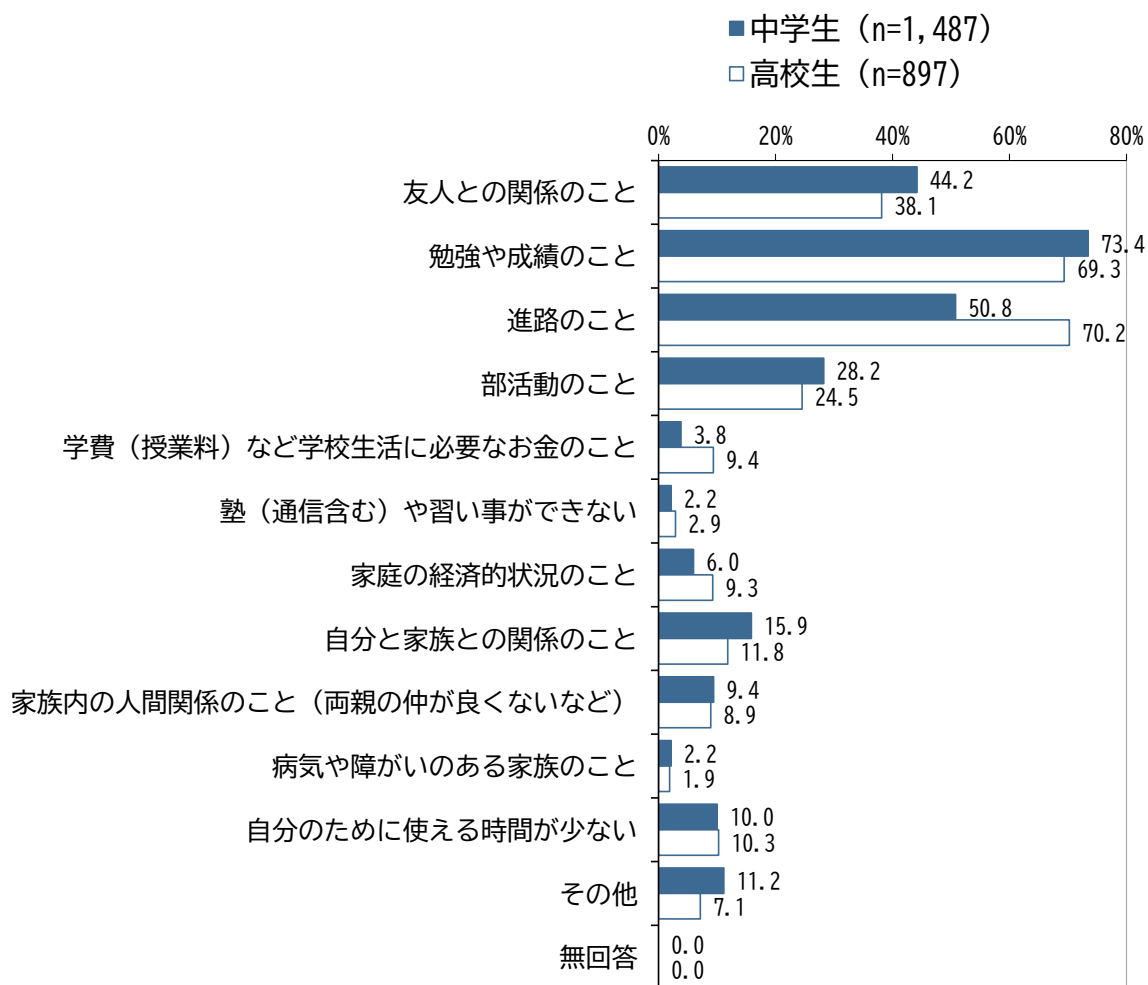


## ⑥ 現在の悩みや困りごと

悩みごとがあると回答した人の、現在の悩みや困りごとについて、中学生では、「勉強や成績のこと」が73.4%で最も高く、次いで「進路のこと」が50.8%、「友人との関係のこと」が44.2%と続いている。

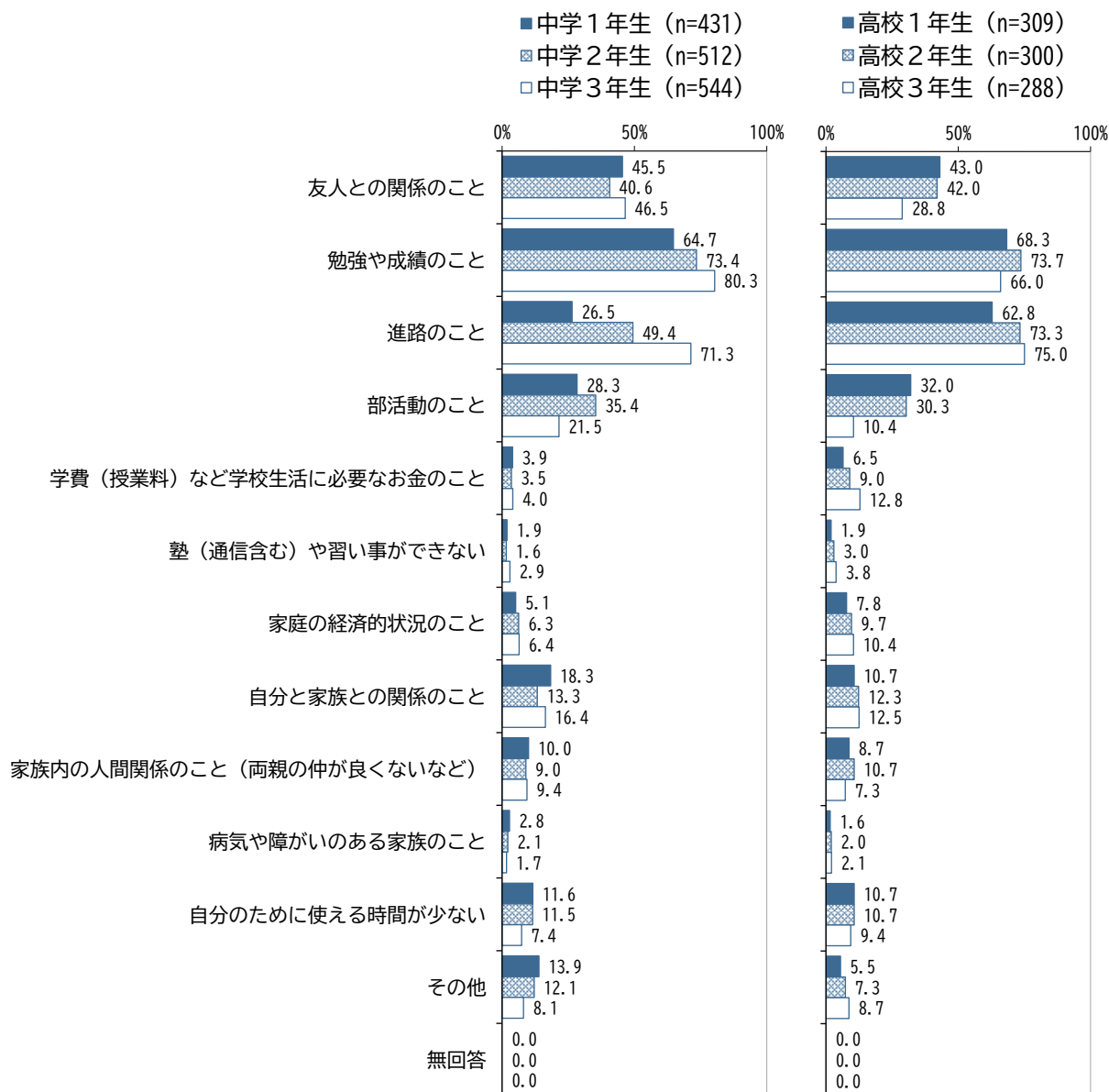
高校生では、「進路のこと」が70.2%で最も高く、次いで「勉強や成績のこと」が69.3%、「友人との関係のこと」が38.1%と続いている。

図表Ⅲ-1-25 現在の悩みや困りごと(複数回答)



学年別にみると、高校3年生では「進路のこと」の割合が最も高く、それ以外の学年では「勉強や成績のこと」の割合が最も高くなっている。

図表Ⅲ-1-26 現在の悩みや困りごと 学年別

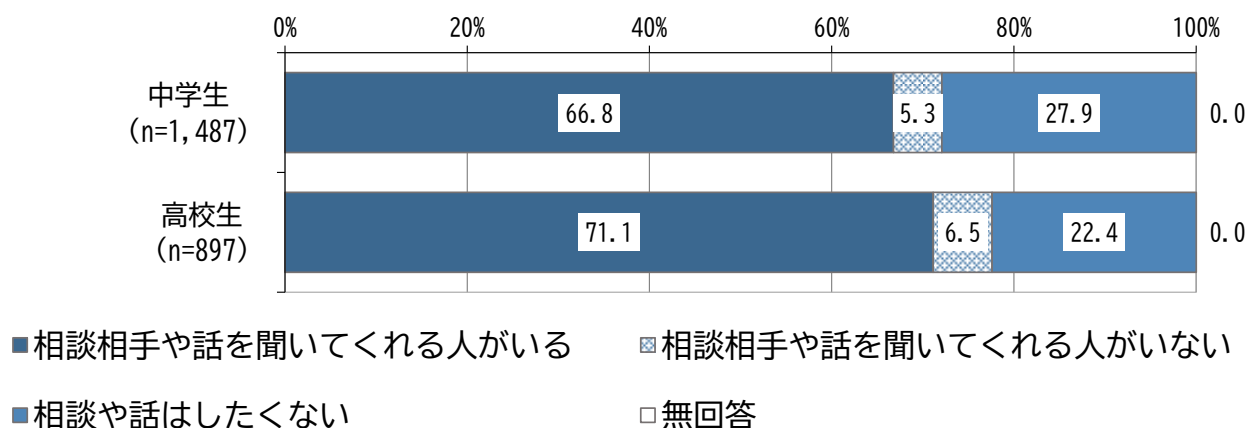


⑦ 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

何らかの悩みや困りごとがあると回答した人の、悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無について、中学生では、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が 66.8%で最も高く、次いで「相談や話はしたくない」が 27.9%、「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」が 5.3%となっている。

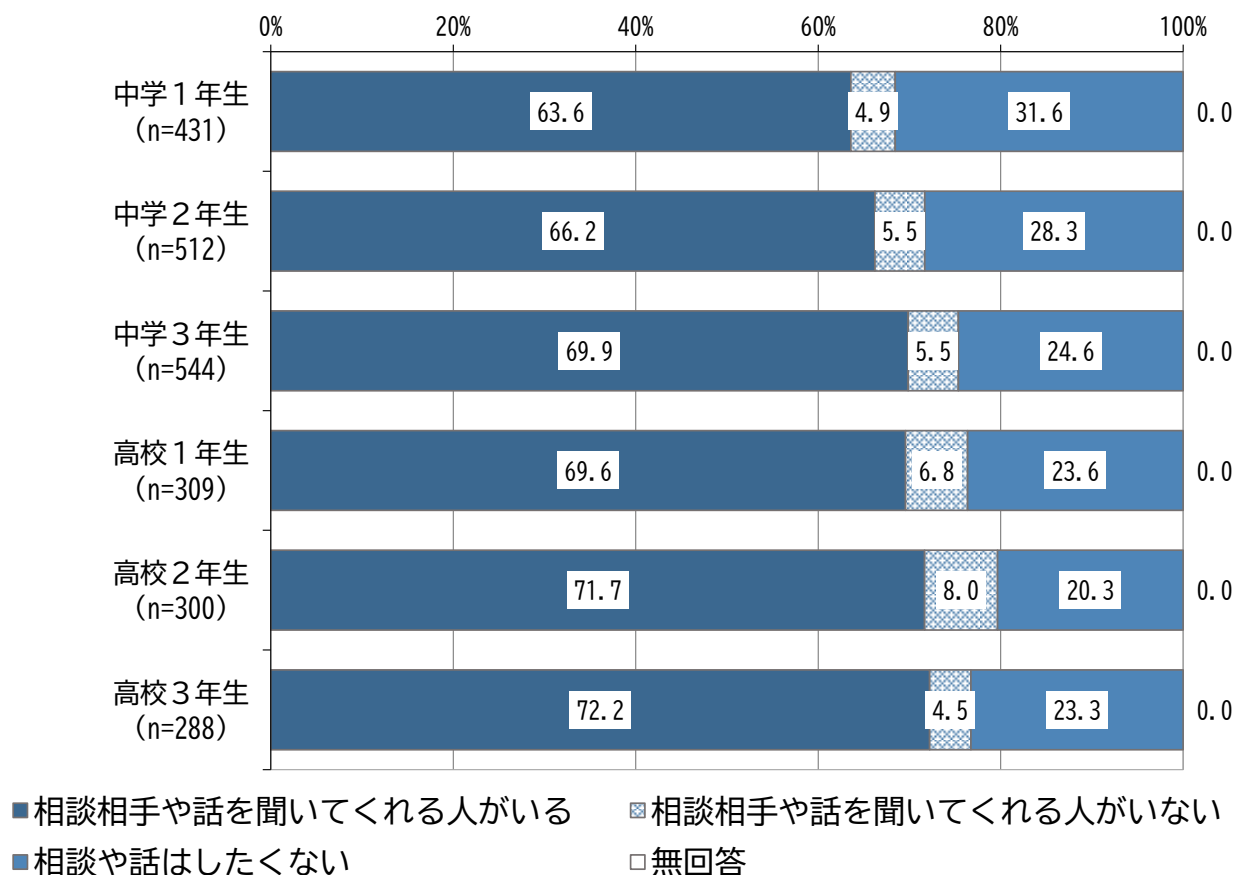
高校生では、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が 71.1%で最も高く、次いで「相談や話はしたくない」が 22.4%、「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」が 6.5%となっている。

図表Ⅲ-1-27 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無



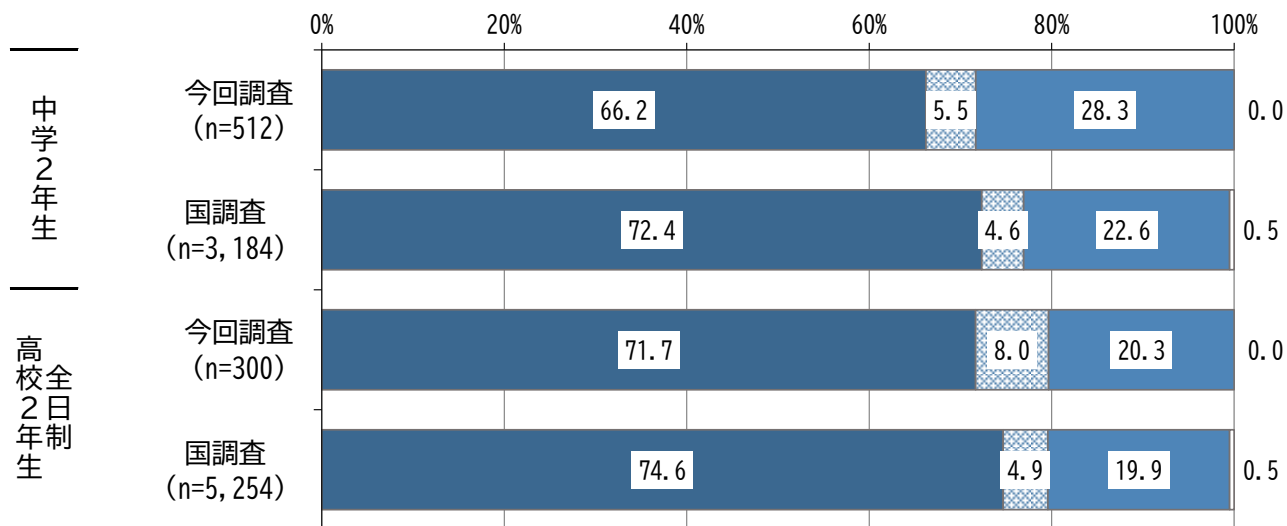
学年別にみると、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」では、学年が上がるにつれて概ね割合が高くなっており、高校3年生が 72.2%で最も高くなっている。

図表Ⅲ-1-28 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無 学年別



国調査と比較すると、中学2年生、全日制高校2年生いずれも「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」、「相談や話はしたくない」の割合が国調査より高く、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」の割合が国調査より低くなっている。

図表Ⅲ-1-29 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無 国調査との比較

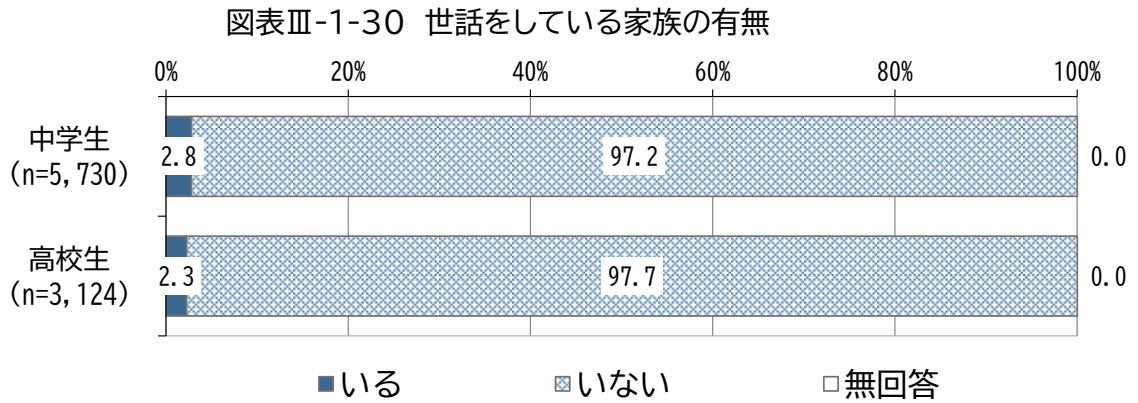


- 相談相手や話を聞いてくれる人がいる
- 相談や話はしたくない
- ▨ 相談相手や話を聞いてくれる人がいない
- 無回答

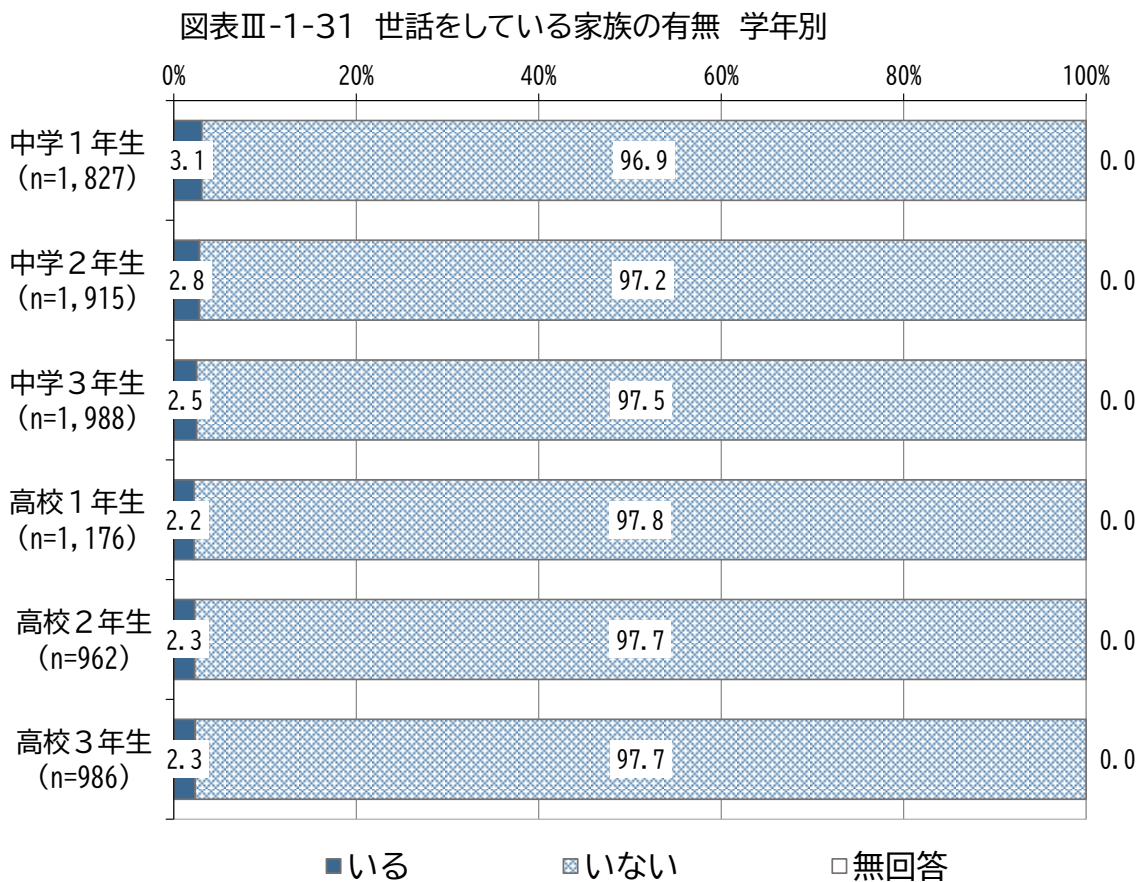
### (3)家庭や家族のことについて

#### ① 世話をしている家族の有無

世話をしている家族の有無について、中学生では、「いる」が2.8%、「いない」が97.2%となっている。高校生では、「いる」が2.3%、「いない」が97.7%となっている。



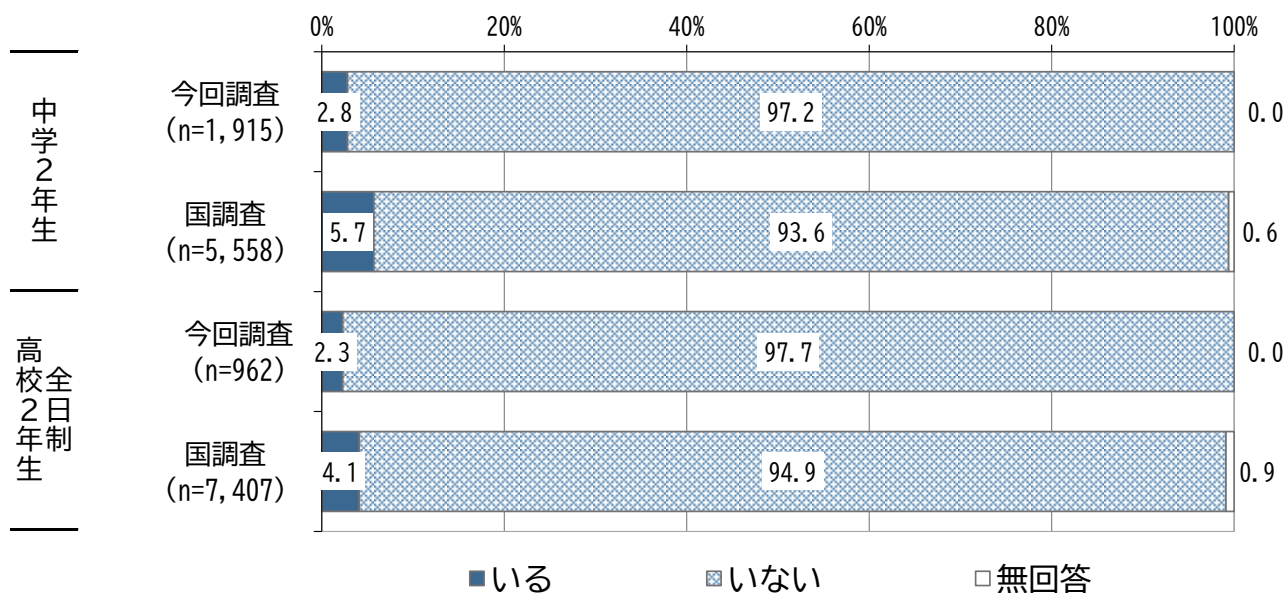
学年別にみると、「いる」では、すべての学年で2~3%台となっており、中学1年生が3.1%で最も高くなっている。





国調査と比較すると、「いる」では、中学2年生、全日制高校2年生いずれも国調査より割合が低くなっている。

図表Ⅲ-1-32 世話をしている家族の有無 国調査との比較

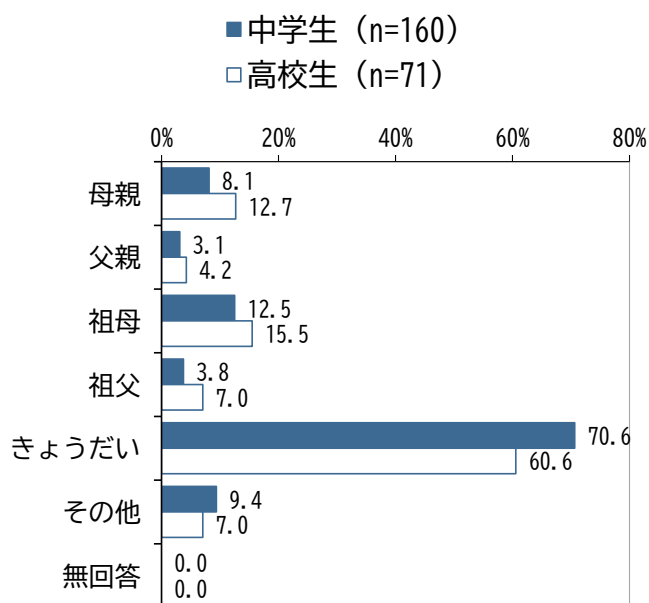


## ② 世話を必要としている家族

世話を必要としている家族について、中学生では、「きょうだい」が70.6%で最も高く、次いで「祖母」が12.5%、「その他」が9.4%と続いている。

高校生では、「きょうだい」が60.6%で最も高く、次いで「祖母」が15.5%、「母親」が12.7%と続いている。

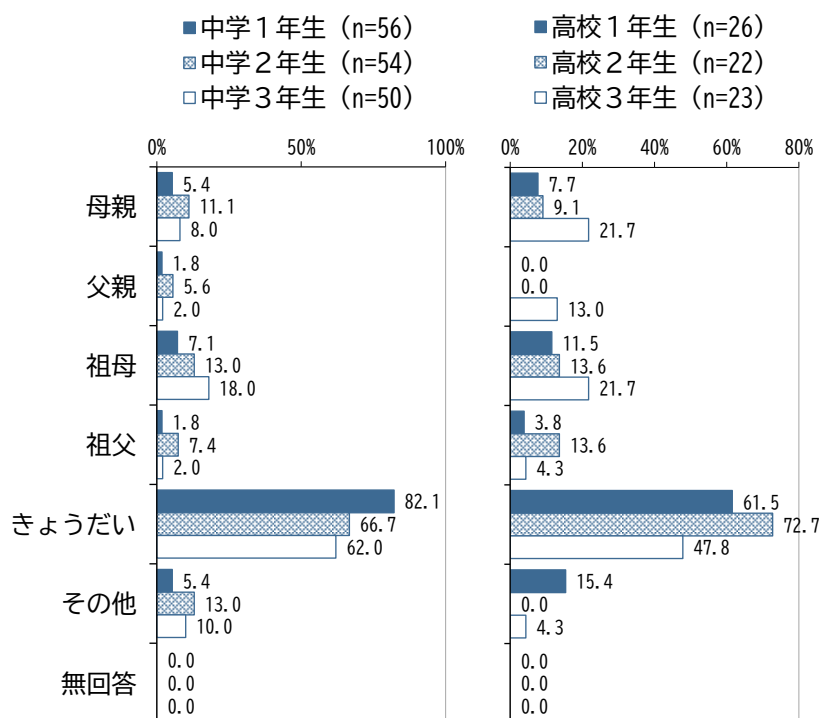
図表Ⅲ-1-33 世話を必要としている家族(複数回答)



(補足)その他の自由記述:姪、甥、いとこ、等

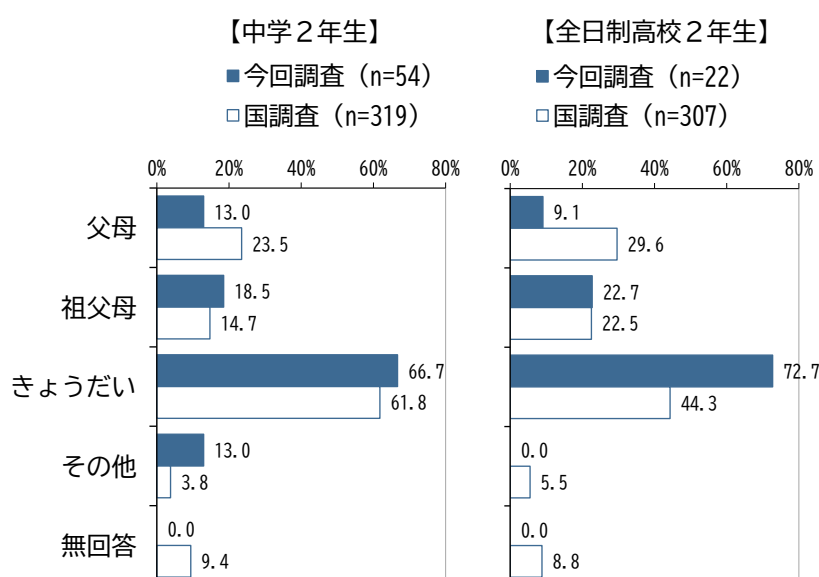
学年別にみると、すべての学年で「きょうだい」の割合が最も高くなっている。

図表Ⅲ-1-34 世話を必要としている家族 学年別



国調査と比較すると、中学2年生では、「祖父母」、「きょうだい」、「その他」の割合が国調査より高く、全日制高校2年生では、「祖父母」、「きょうだい」の割合が国調査より高くなっている。

図表Ⅲ-1-35 世話を必要としている家族 国調査との比較



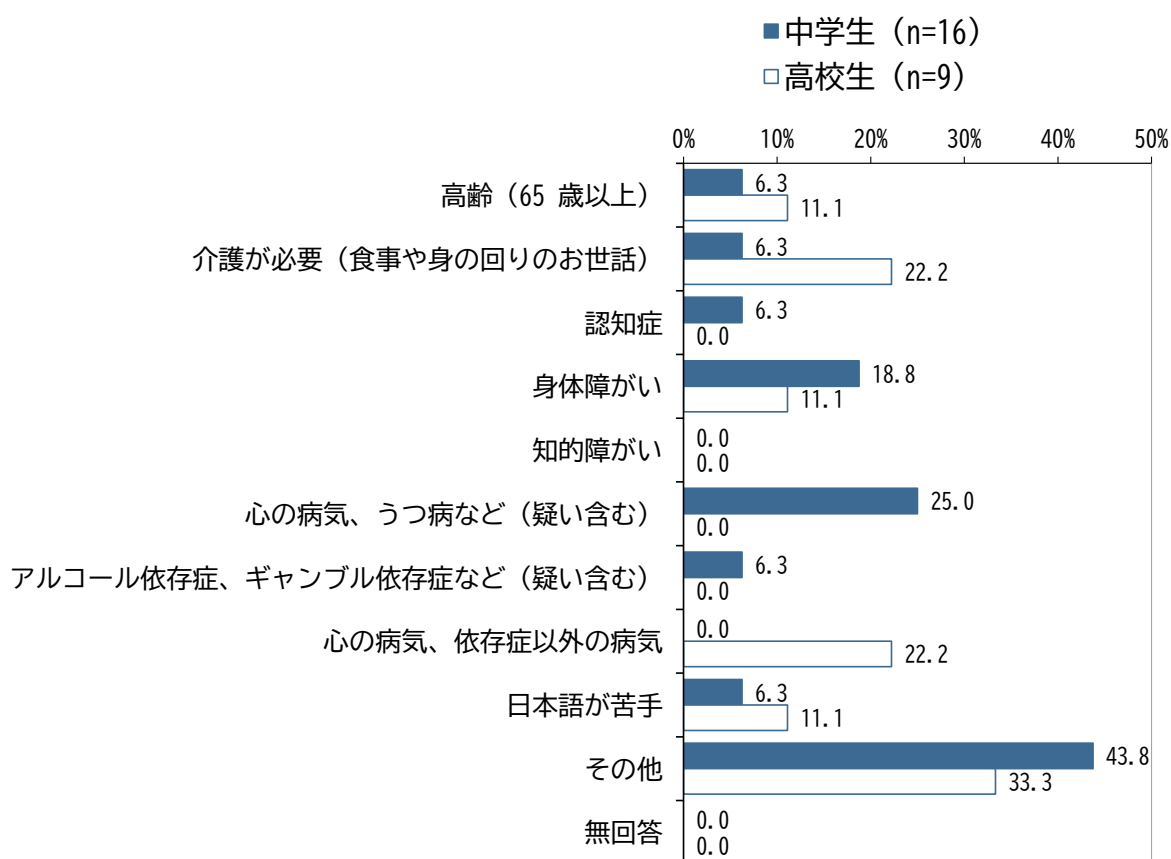
### ③ 父母の状況、父母への世話の内容

#### i) 父母の状況

世話を必要としている家族として「母親」、「父親」と回答した人の、父母の状況について、中学生では、「その他」が43.8%で最も高く、次いで「心の病気、うつ病など(疑い含む)」が25.0%、「身体障がい」が18.8%と続いている。

高校生では、「その他」が33.3%で最も高く、次いで「介護が必要(食事や身の回りのお世話)」、「心の病気、依存症以外の病気」がいずれも22.2%と続いている

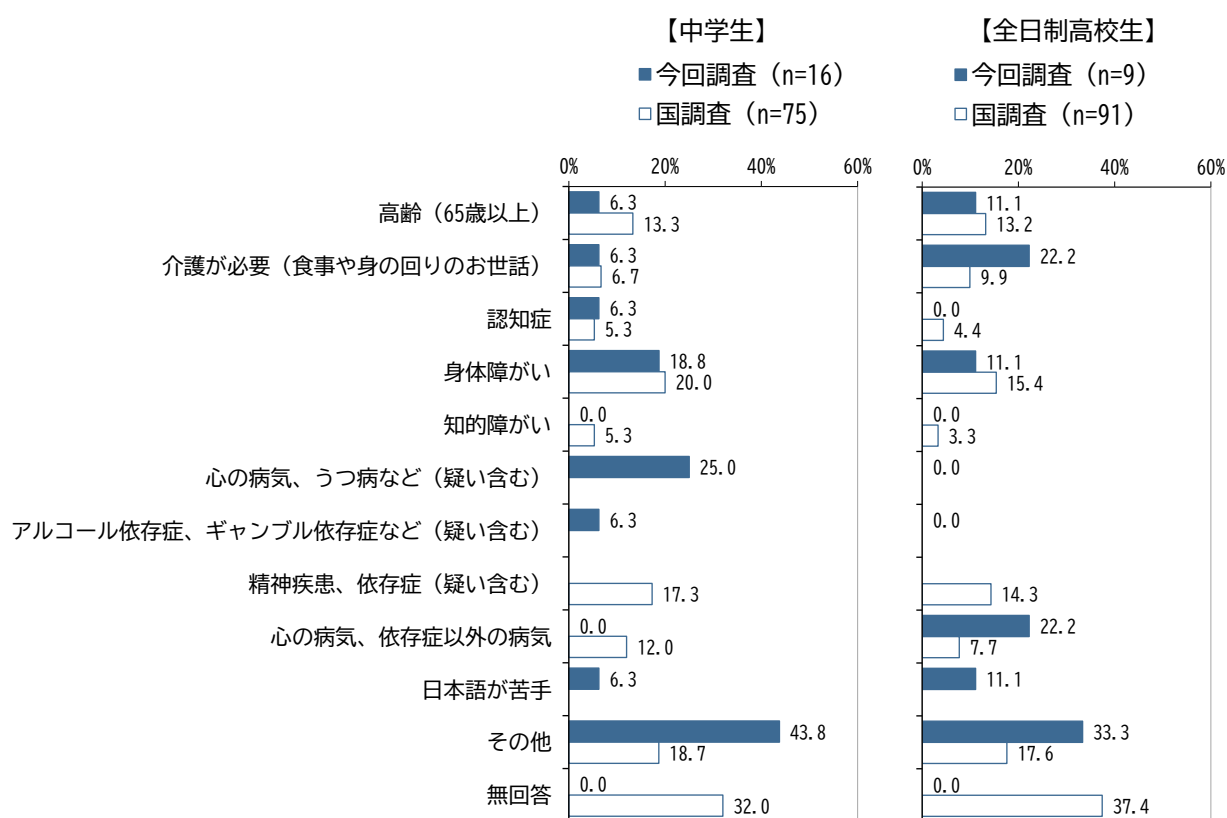
図表Ⅲ-1-36 父母の状況(複数回答)



(補足)その他の自由記述:仕事が忙しい、体が弱い、等

国調査とは選択肢が一部異なるため、参考として記載する。

図表Ⅲ-1-37 父母の状況 国調査との比較



※ 今回調査の中学2年生および高校2年生は、該当者が少ないため、中学生全体および高校生全体で比較している

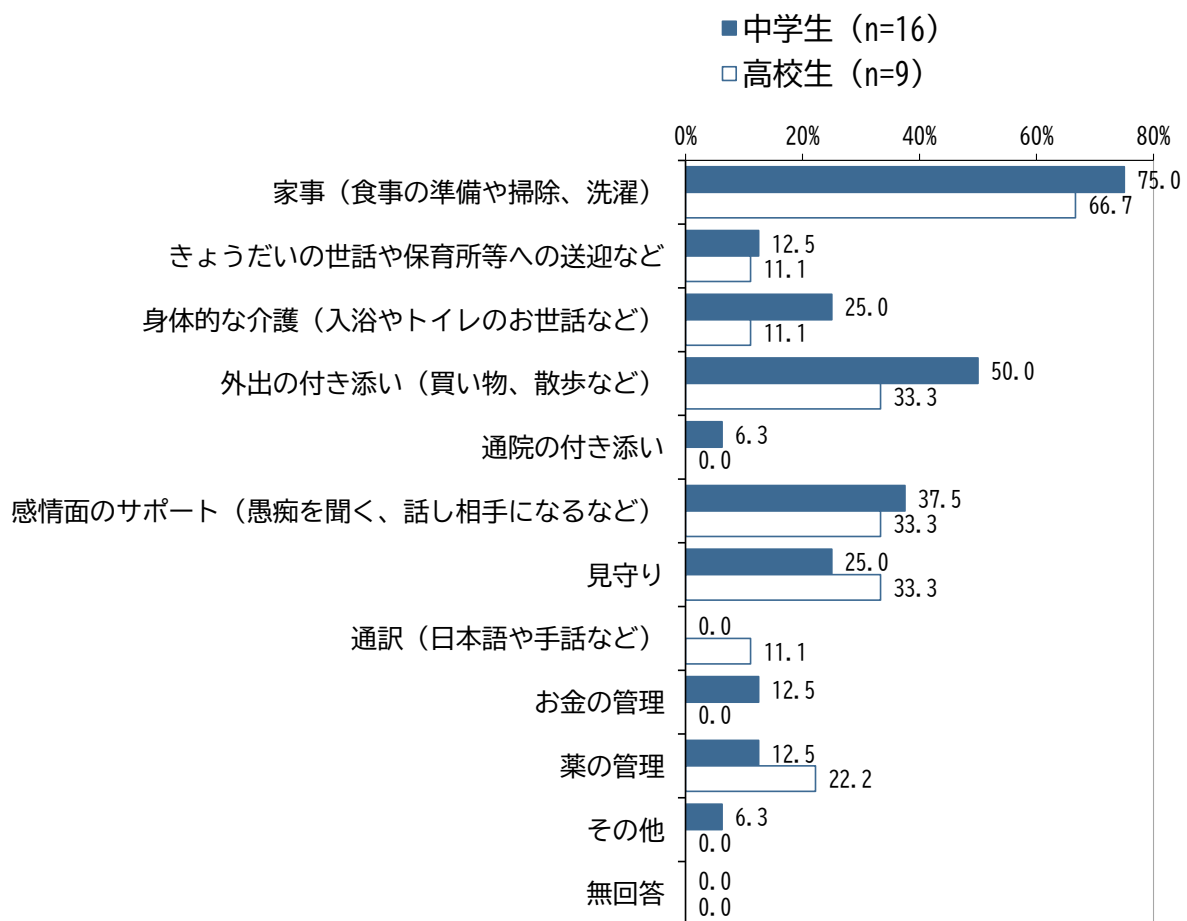
※ 今回調査の「心の病気、うつ病など(疑い含む)」、「アルコール依存症、ギャンブル依存症など(疑い含む)」について、国調査は「精神疾患、依存症(疑い含む)」である

## ii) 父母への世話の内容

世話を必要としている家族として「母親」、「父親」と回答した人の、世話の内容について、中学生では、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が 75.0%で最も高く、次いで「外出の付き添い(買い物、散歩など)」が 50.0%、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」が 37.5%と続いている。

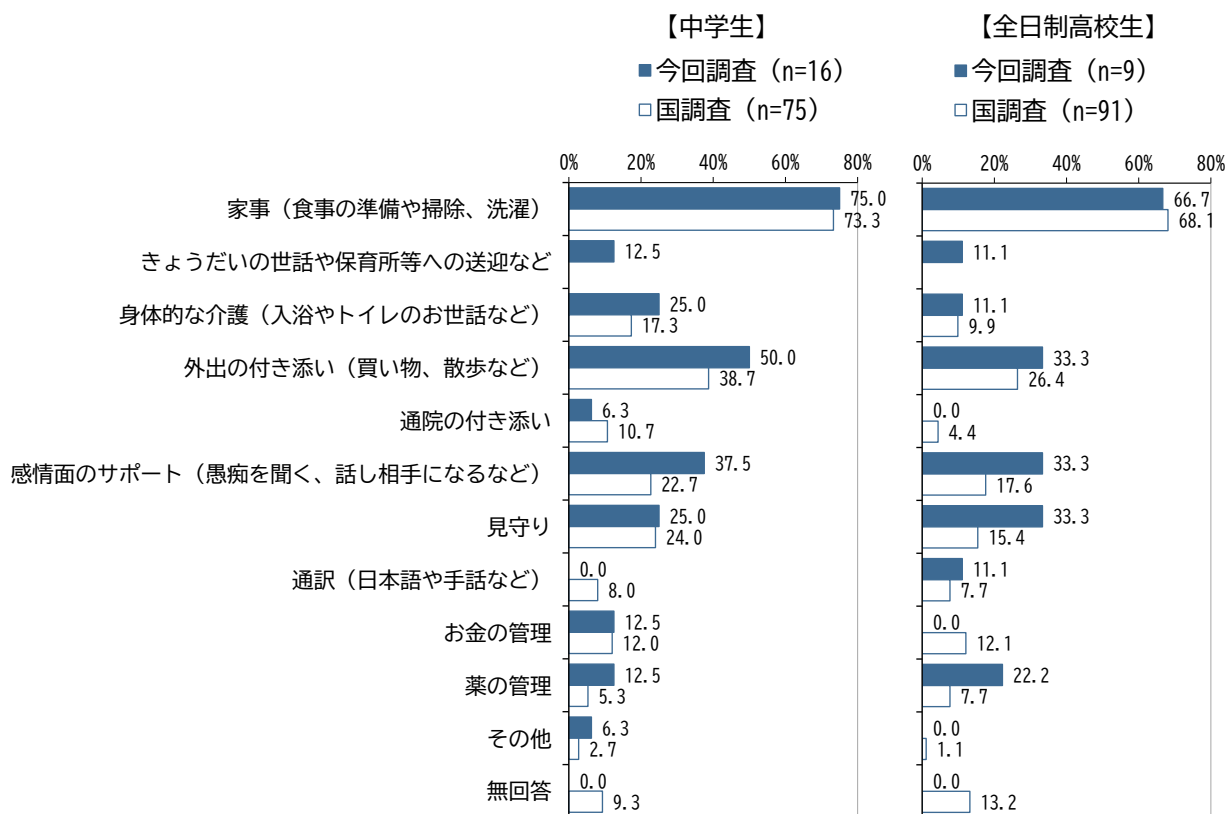
高校生では、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が 66.7%で最も高く、次いで「外出の付き添い(買い物、散歩など)」、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」、「見守り」がいずれも 33.3%と続いている。

図表Ⅲ-1-38 父母への世話の内容(複数回答)



国調査と比較すると、「身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)」、「外出の付き添い(買い物、散歩など)」、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」、「見守り」、「薬の管理」では、中学生、全日制高校生いずれも国調査より割合が高くなっている。

図表Ⅲ-1-39 父母への世話の内容 国調査との比較



※ 今回調査の中学2年生および高校2年生は、該当者が少ないため、中学生全体および高校生全体で比較している

※ 国調査に「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」の選択肢なし

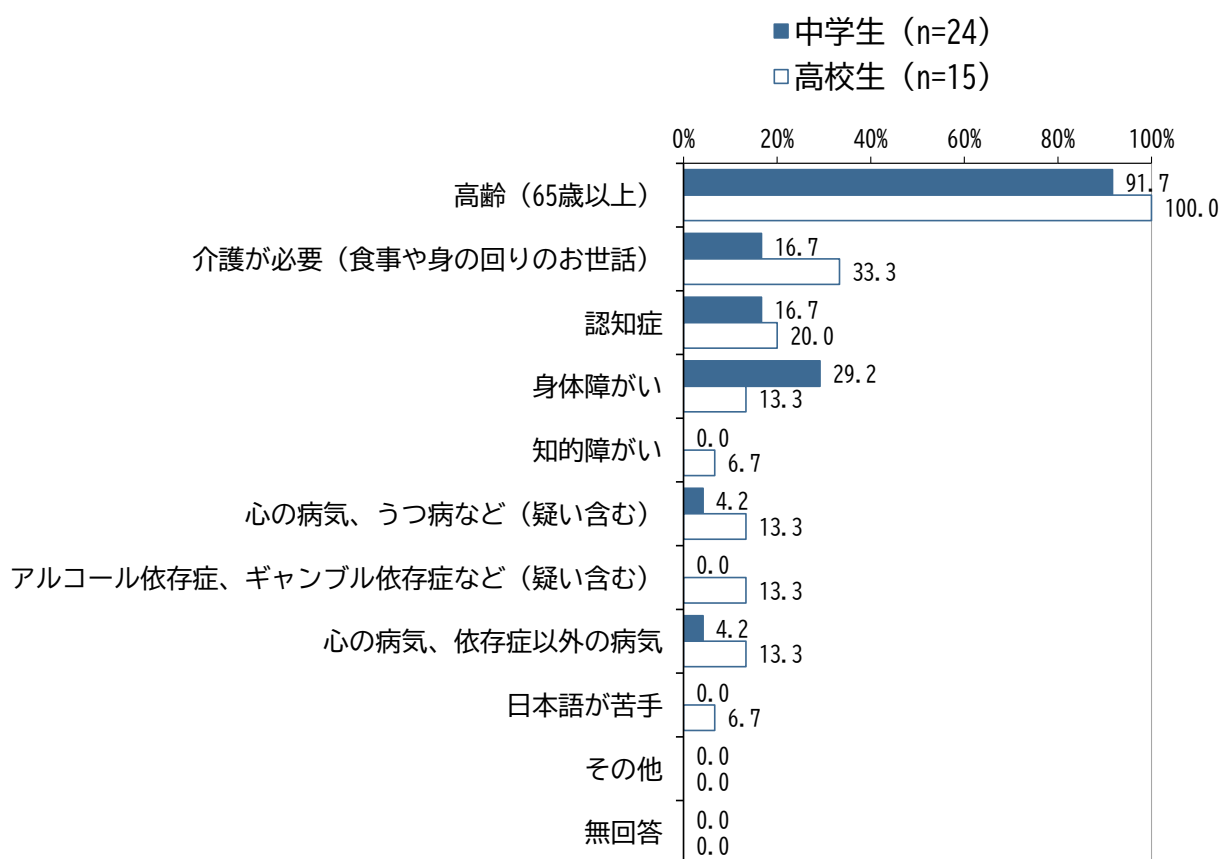
#### ④ 祖父母の状況、祖父母への世話の内容

##### i) 祖父母の状況

世話を必要としている家族として「祖母」、「祖父」と回答した人の、祖父母の状況について、中学生では、「高齢(65歳以上)」が91.7%で最も高く、次いで「身体障がい」が29.2%、「介護が必要(食事や身の回りのお世話)」が16.7%と続いている。

高校生では、「高齢(65歳以上)」が100.0%で最も高く、次いで「介護が必要(食事や身の回りのお世話)」が33.3%、「認知症」が20.0%と続いている。

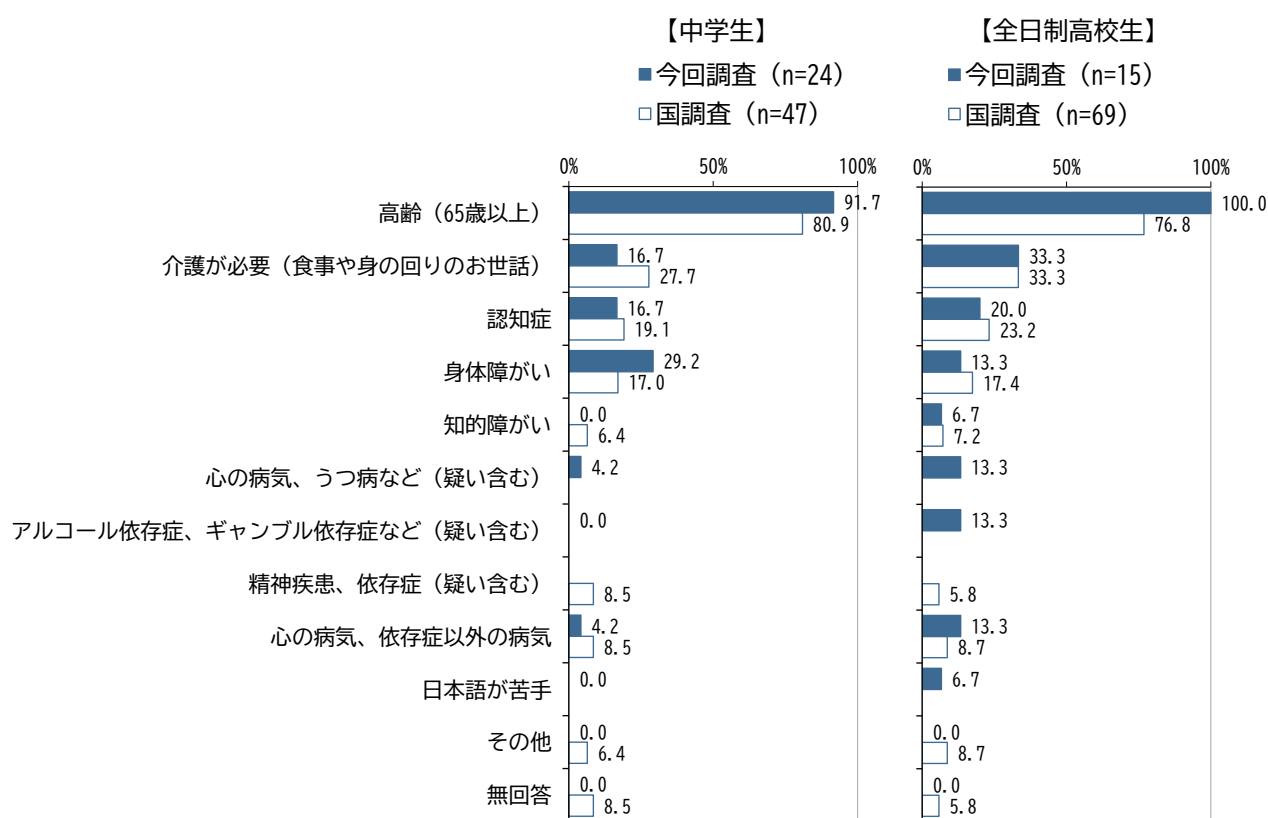
図表Ⅲ-1-40 祖父母の状況(複数回答)





国調査とは選択肢が一部異なるため、参考として記載する。

図表Ⅲ-1-41 祖父母の状況 国調査との比較



※ 今回調査の中学2年生および高校2年生は、該当者が少ないため、中学生全体および高校生全体で比較している

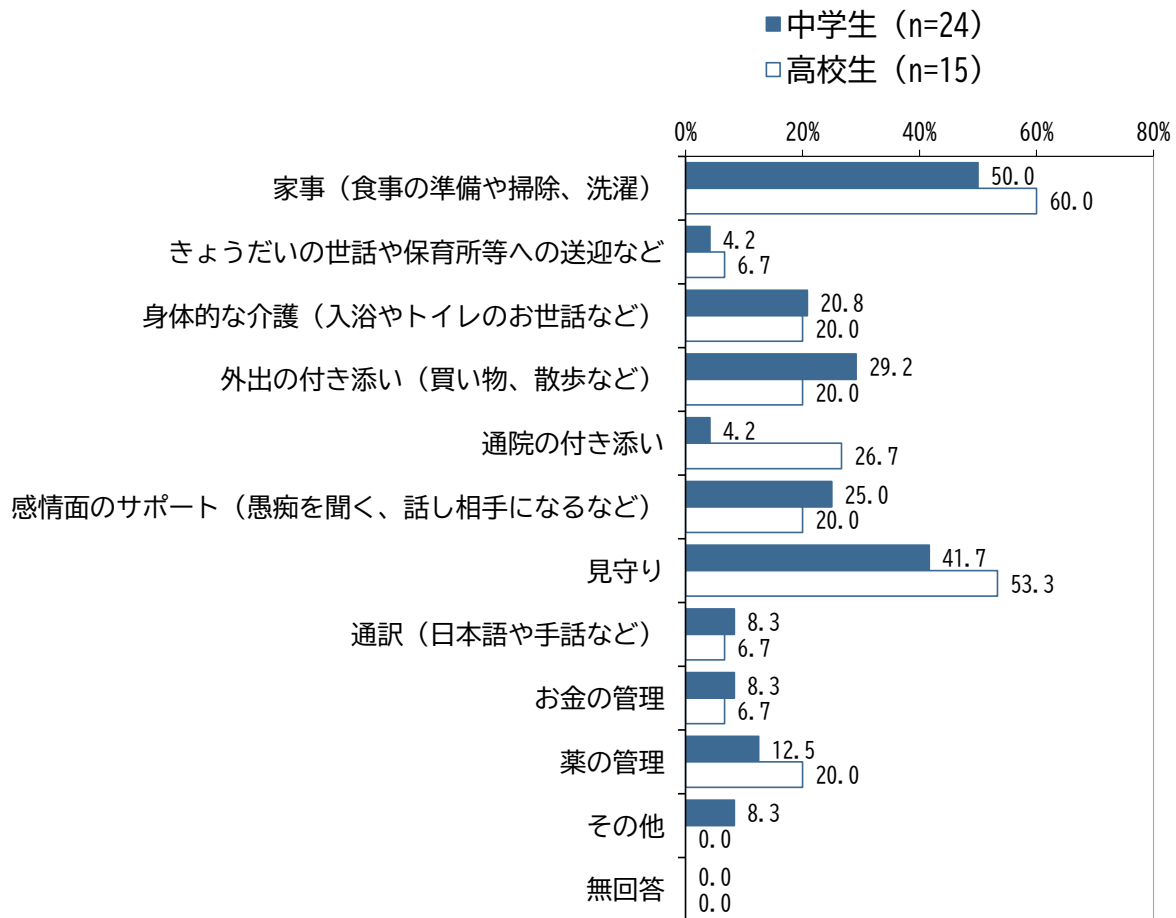
※ 今回調査の「心の病気、うつ病など(疑い含む)」、「アルコール依存症、ギャンブル依存症など(疑い含む)」について、国調査は「精神疾患、依存症(疑い含む)」である

## ii) 祖父母への世話の内容

世話を必要としている家族として「祖母」、「祖父」と回答した人の、世話の内容について、中学生では、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が 50.0%で最も高く、次いで「見守り」が 41.7%、「外出の付き添い(買い物、散歩など)」が 29.2%と続いている。

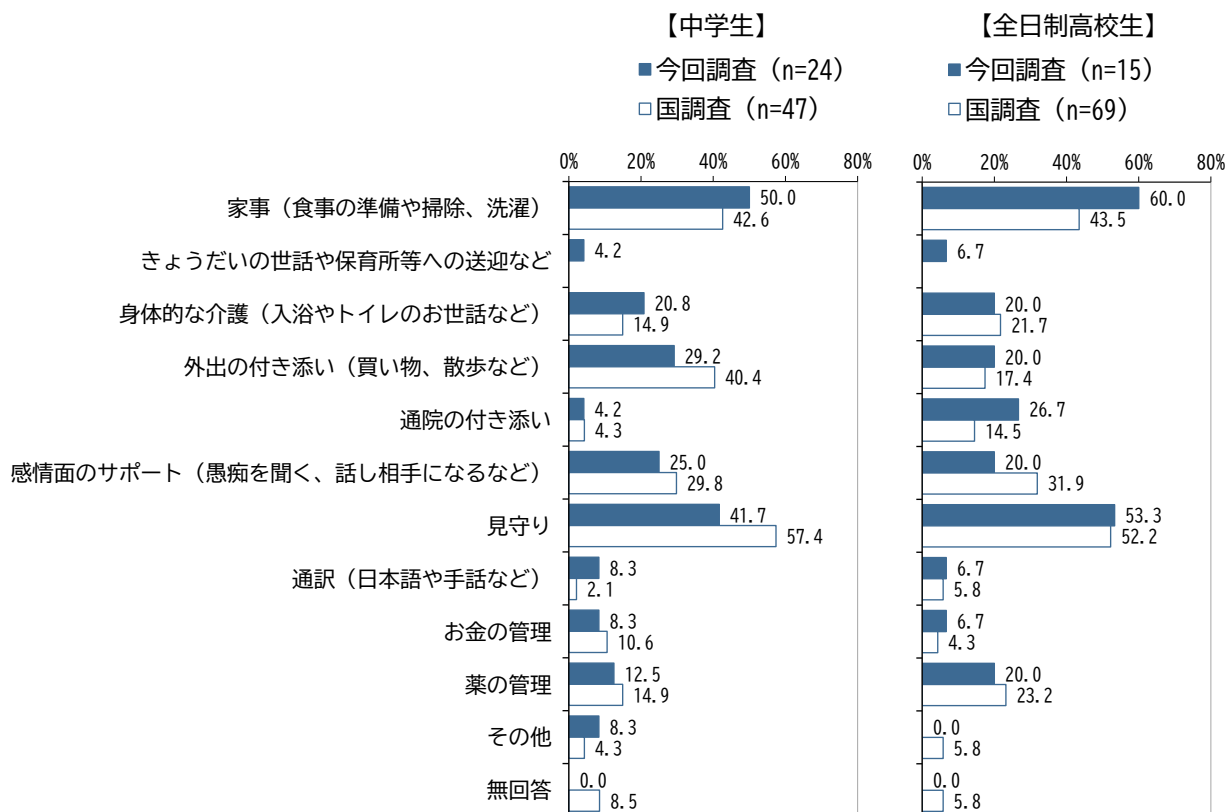
高校生では、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が 60.0%で最も高く、次いで「見守り」が 53.3%、「通院の付き添い」が 26.7%と続いている。

図表Ⅲ-1-42 祖父母への世話の内容(複数回答)



国調査と比較すると、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「通訳(日本語や手話など)」では、中学生、全日制高校生いずれも国調査より割合が高くなっている。

図表Ⅲ-1-43 祖父母への世話の内容 国調査との比較



※ 今回調査の中学2年生および高校2年生は、該当者が少ないため、中学生全体および高校生全体で比較している  
 ※ 国調査に「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」の選択肢なし

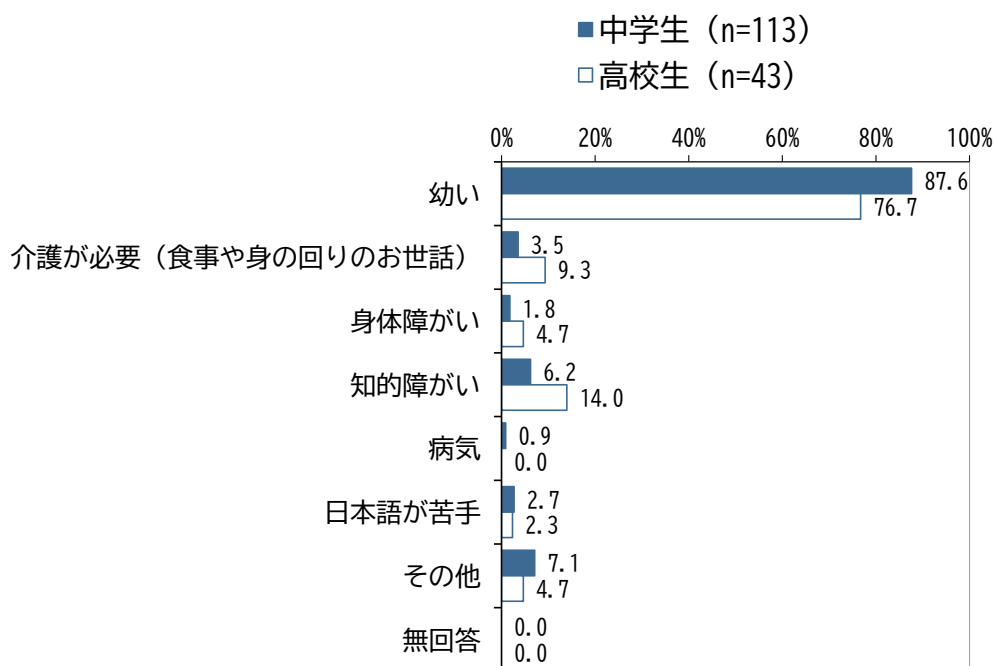
## ⑤ きょうだいの状況、きょうだいへの世話の内容

### i) きょうだいの状況

世話を必要としている家族として「きょうだい」と回答した人の、きょうだいの状況について、中学生では、「若い」が87.6%で最も高く、次いで「その他」が7.1%、「知的障がい」が6.2%と続いている。

高校生では、「若い」が76.7%で最も高く、次いで「知的障がい」が14.0%、「介護が必要(食事や身の回りのお世話)」が9.3%と続いている。

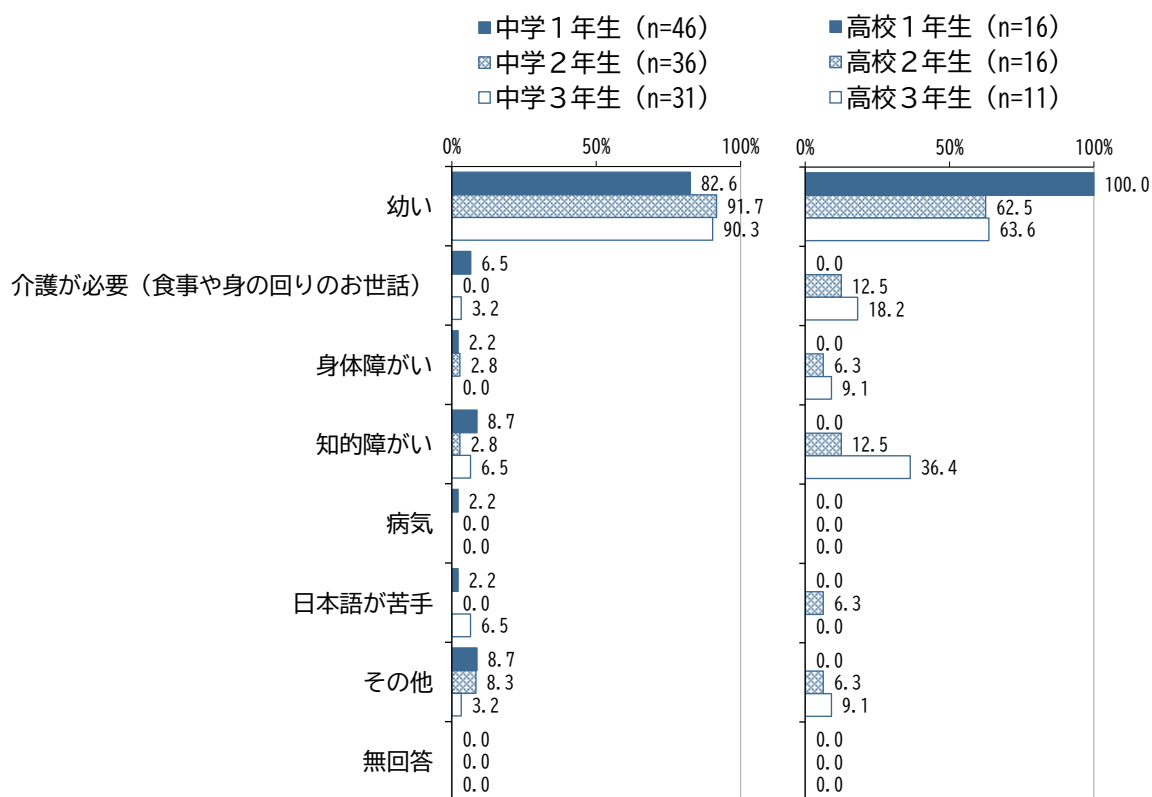
図表Ⅲ-1-44 きょうだいの状況(複数回答)



(補足)その他の自由記述:忙しい、発達障がい、等

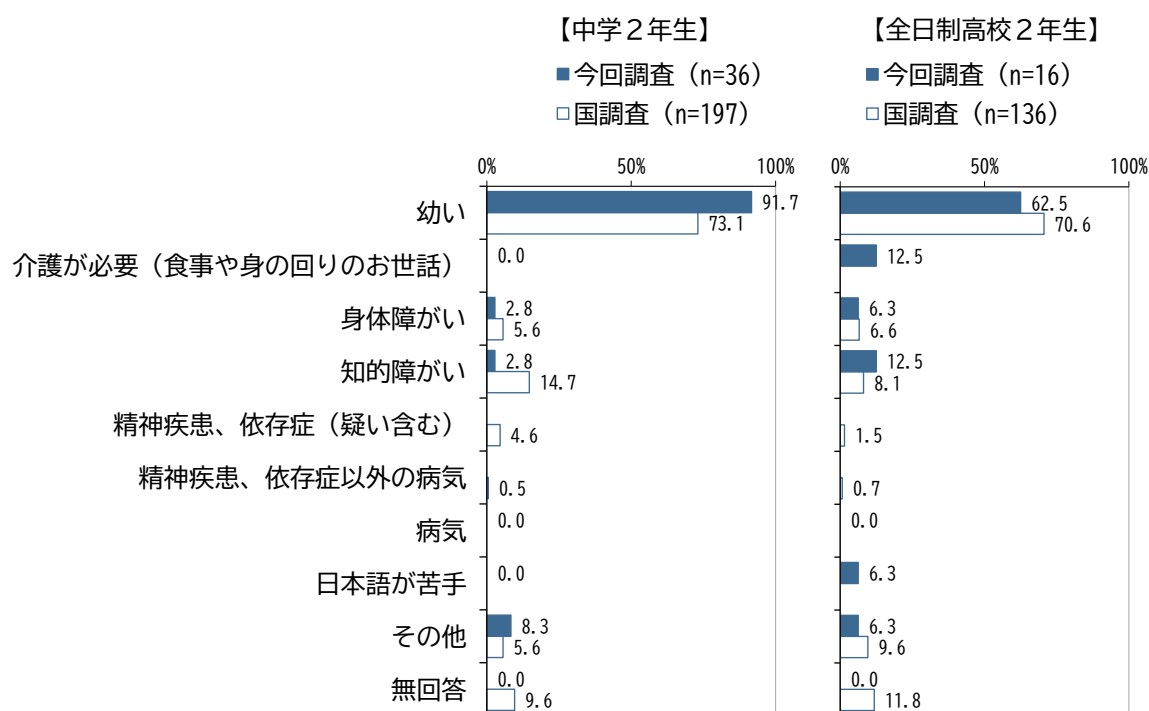
学年別にみると、すべての学年で「幼い」の割合が最も高くなっている。

図表Ⅲ-1-45 きょうだいの状況 学年別



国調査とは選択肢が一部異なるため、参考として記載する。

図表Ⅲ-1-46 きょうだいの状況 国調査との比較



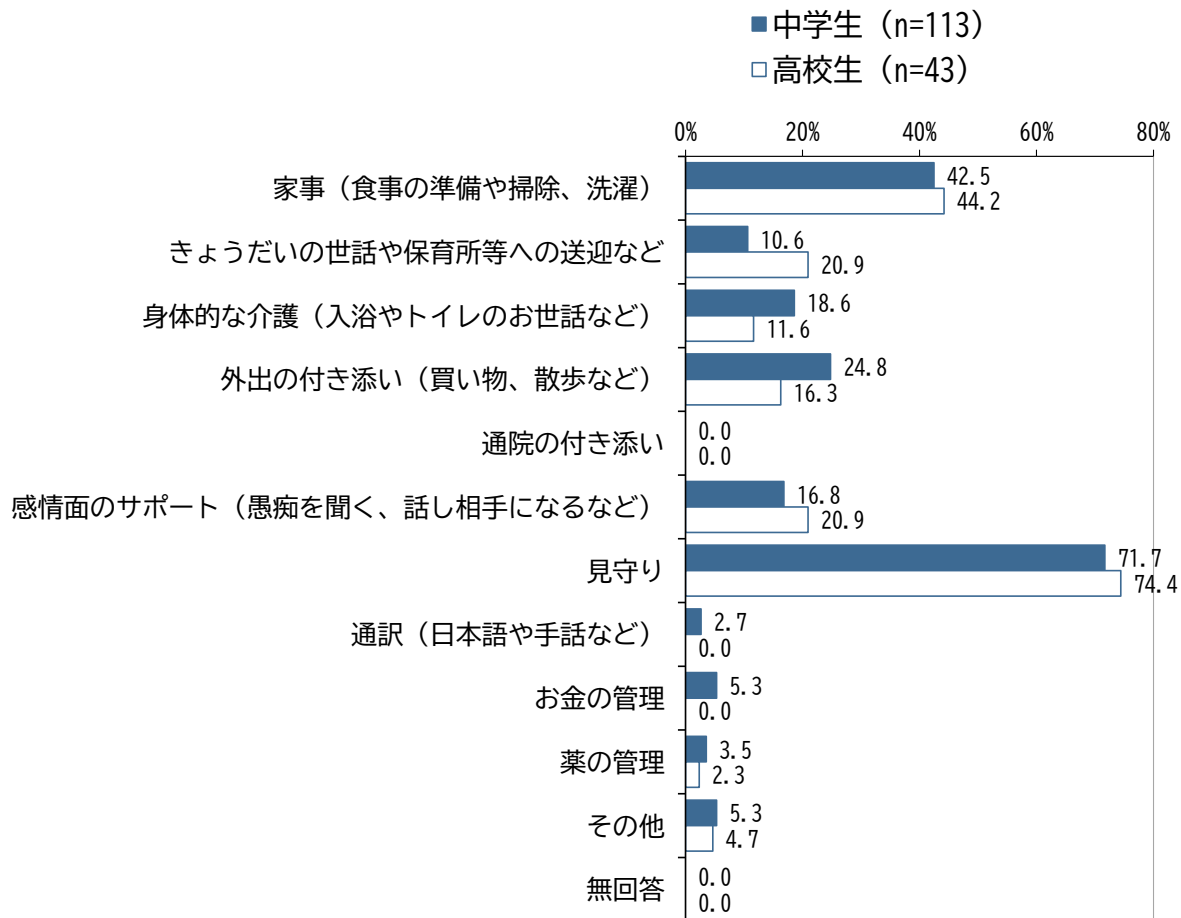
※ 今回調査のみ「介護が必要(食事や身の回りのお世話)」、「病気」、「日本語が苦手」があり、国調査には「精神疾患、依存症(疑い含む)」、「精神疾患、依存症以外の病気」がある

ii)きょうだいへの世話の内容

世話を必要としている家族として「きょうだい」と回答した人の、世話の内容について、中学生では、「見守り」が 71.7%で最も高く、次いで「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が 42.5%、「外出の付き添い(買い物、散歩など)」が 24.8%と続いている。

高校生では、「見守り」が 74.4%で最も高く、次いで「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が 44.2%、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が 20.9%と続いている。

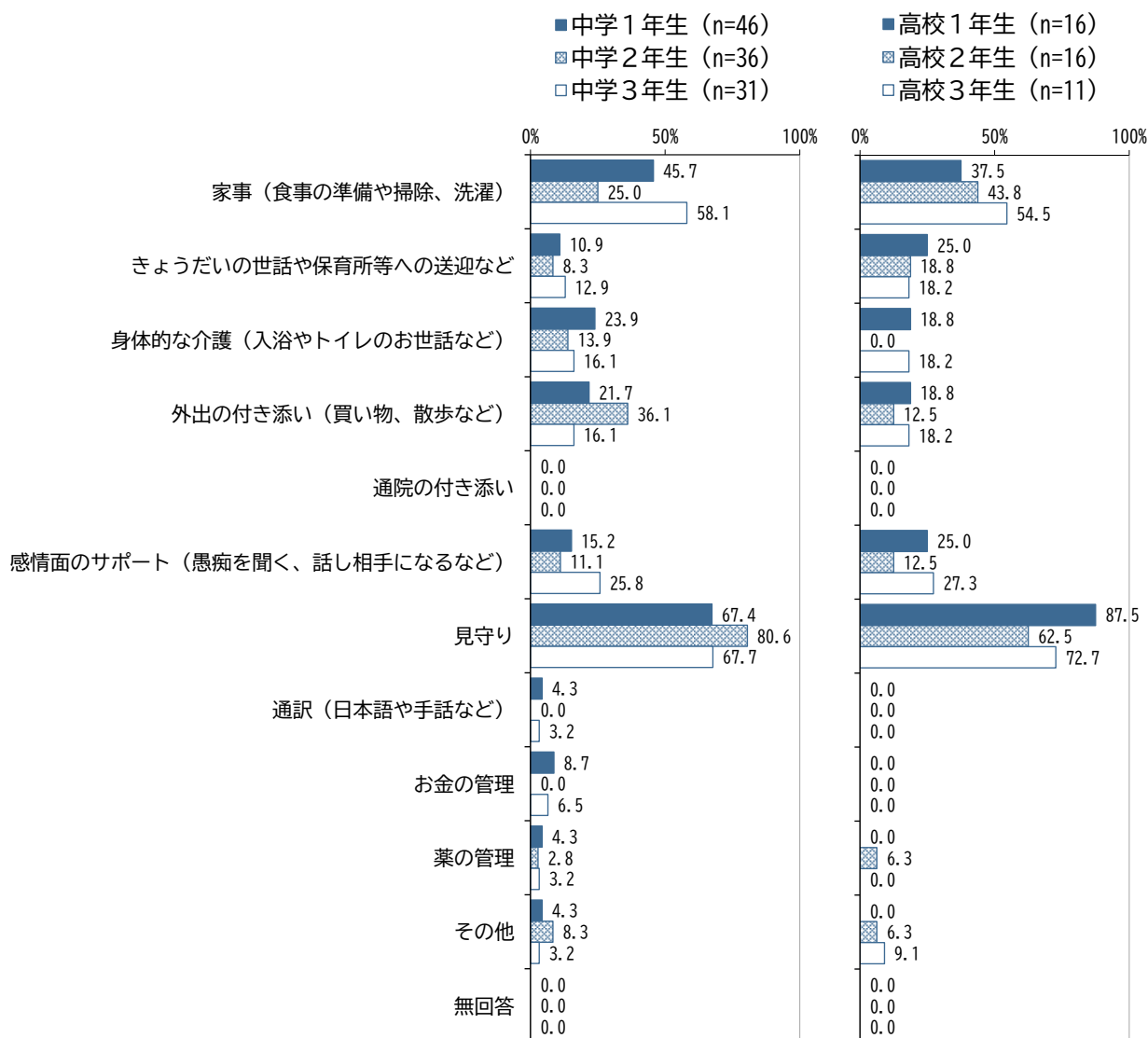
図表Ⅲ-1-47 きょうだいへの世話の内容(複数回答)



(補足)その他の自由記述:勉強を教える、宿題の内容を翻訳する、等

学年別にみると、すべての学年で「見守り」の割合が最も高く、中学2年生では次いで「外出の付き添い（買い物、散歩など）」が高く、それ以外の学年では「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が高くなっている。

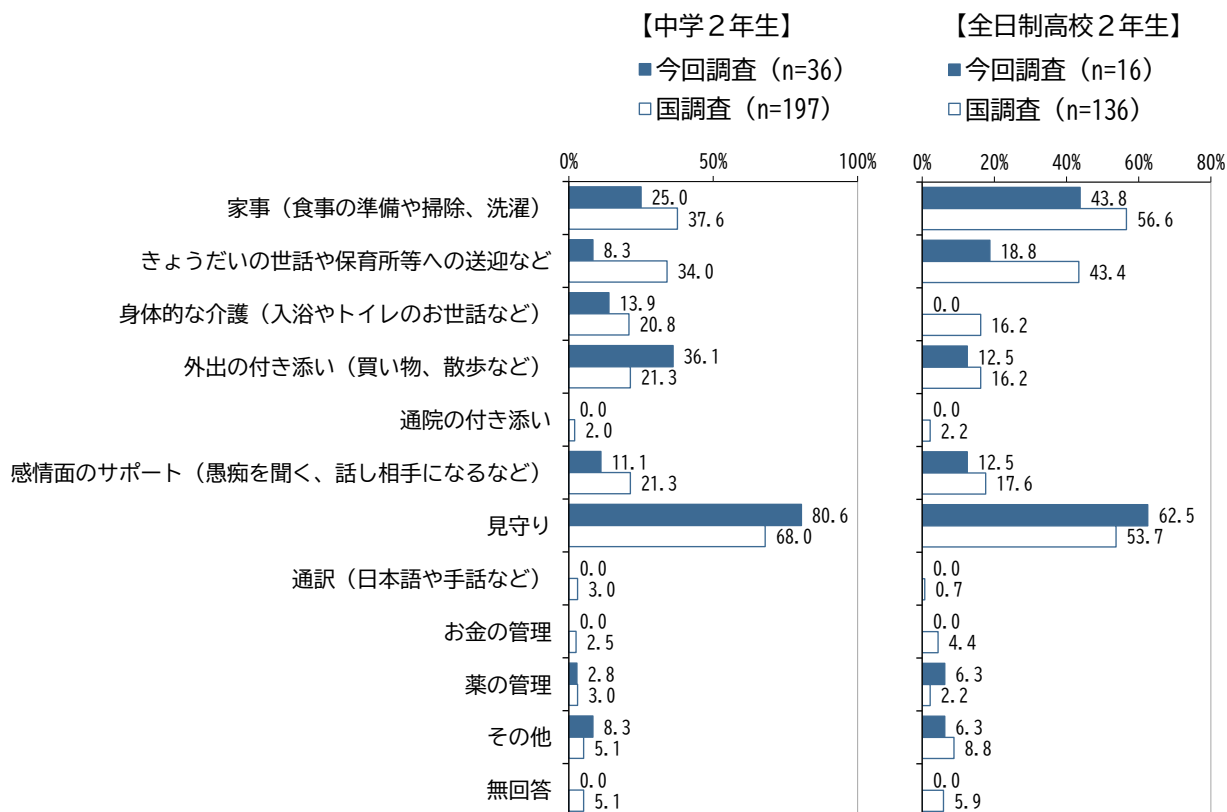
図表Ⅲ-1-48 きょうだいへの世話の内容 学年別





国調査と比較すると、「見守り」では、中学2年生、全日制高校2年生いずれも国調査より割合が高くなっている。

図表Ⅲ-1-49 きょうだいへの世話の内容 国調査との比較



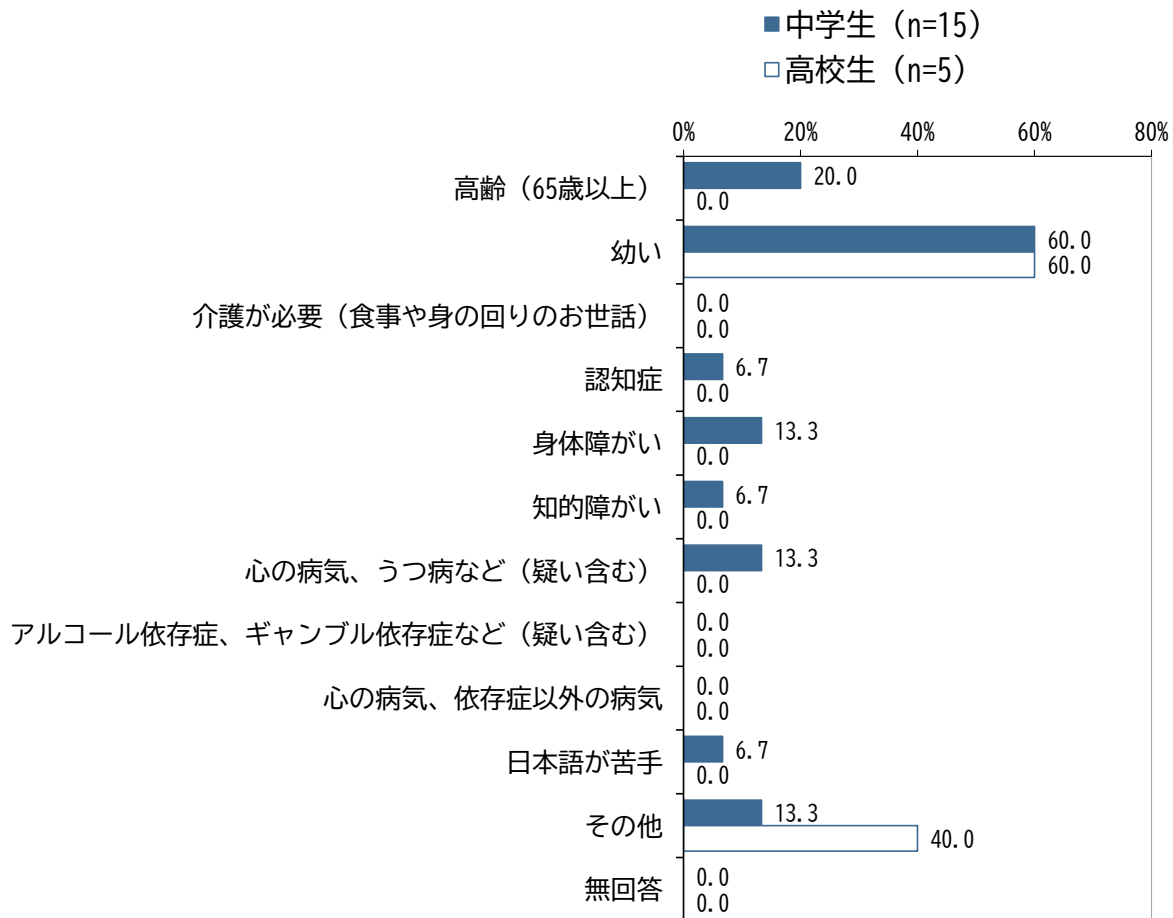
⑥ その他の家族の状況、その他の家族への世話の内容

i) その他の家族の状況

世話を必要としている家族として「その他」と回答した人の、その他の家族の状況について、中学生では、「若い」が60.0%で最も高く、次いで「高齢(65歳以上)」が20.0%、「身体障がい」が13.3%と続いている。

高校生では、「若い」が60.0%で最も高く、次いで「その他」が40.0%となっている。

図表Ⅲ-1-50 その他の家族の状況(複数回答)

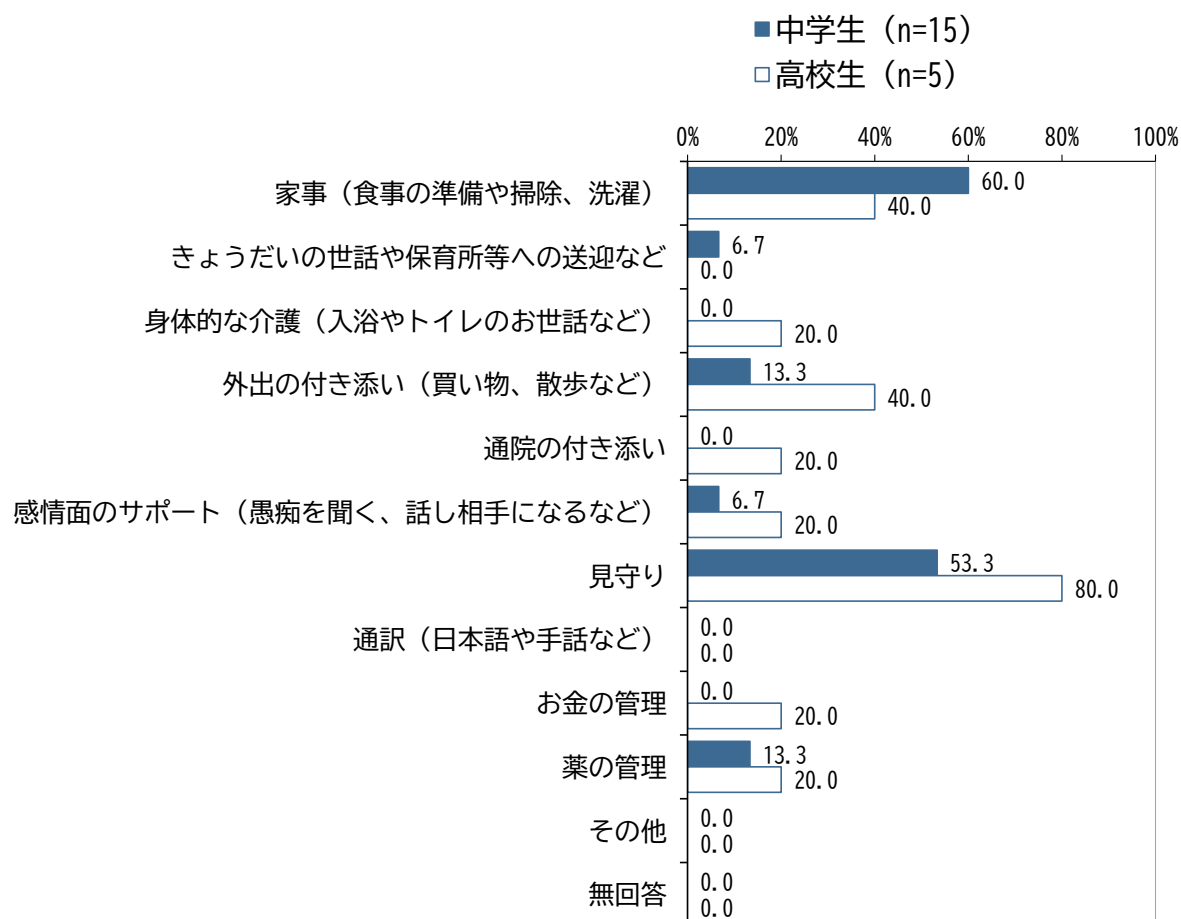


ii) その他の家族への世話の内容

世話を必要としている家族として「その他」と回答した人の、世話の内容について、中学生では、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が 60.0%で最も高く、次いで「見守り」が 53.3%、「外出の付き添い（買い物、散歩など）」が 13.3%と続いている。

高校生では、「見守り」が 80.0%で最も高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、「外出の付き添い（買い物、散歩など）」がいずれも 40.0%と続いている。

図表Ⅲ-1-51 その他の家族への世話の内容(複数回答)

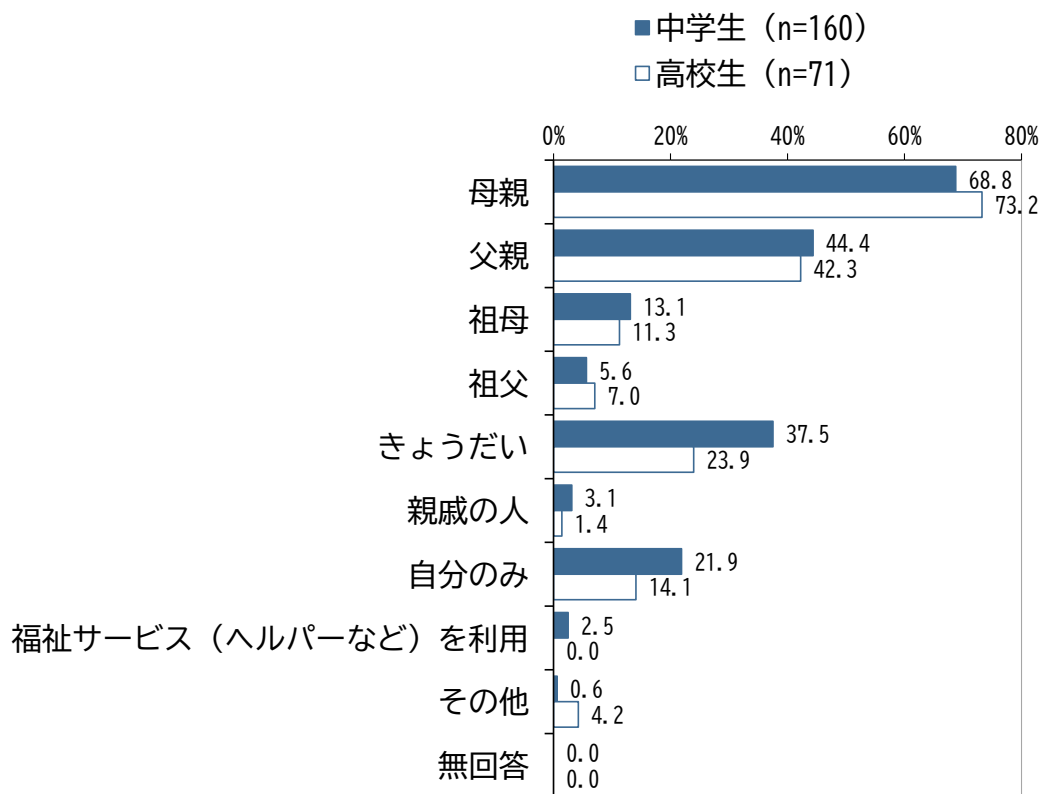


⑦ 世話を一緒にしている人

世話をしている家族がいると回答した人の、世話を一緒にしている人について、中学生では、「母親」が68.8%で最も高く、次いで「父親」が44.4%、「きょうだい」が37.5%と続いている。

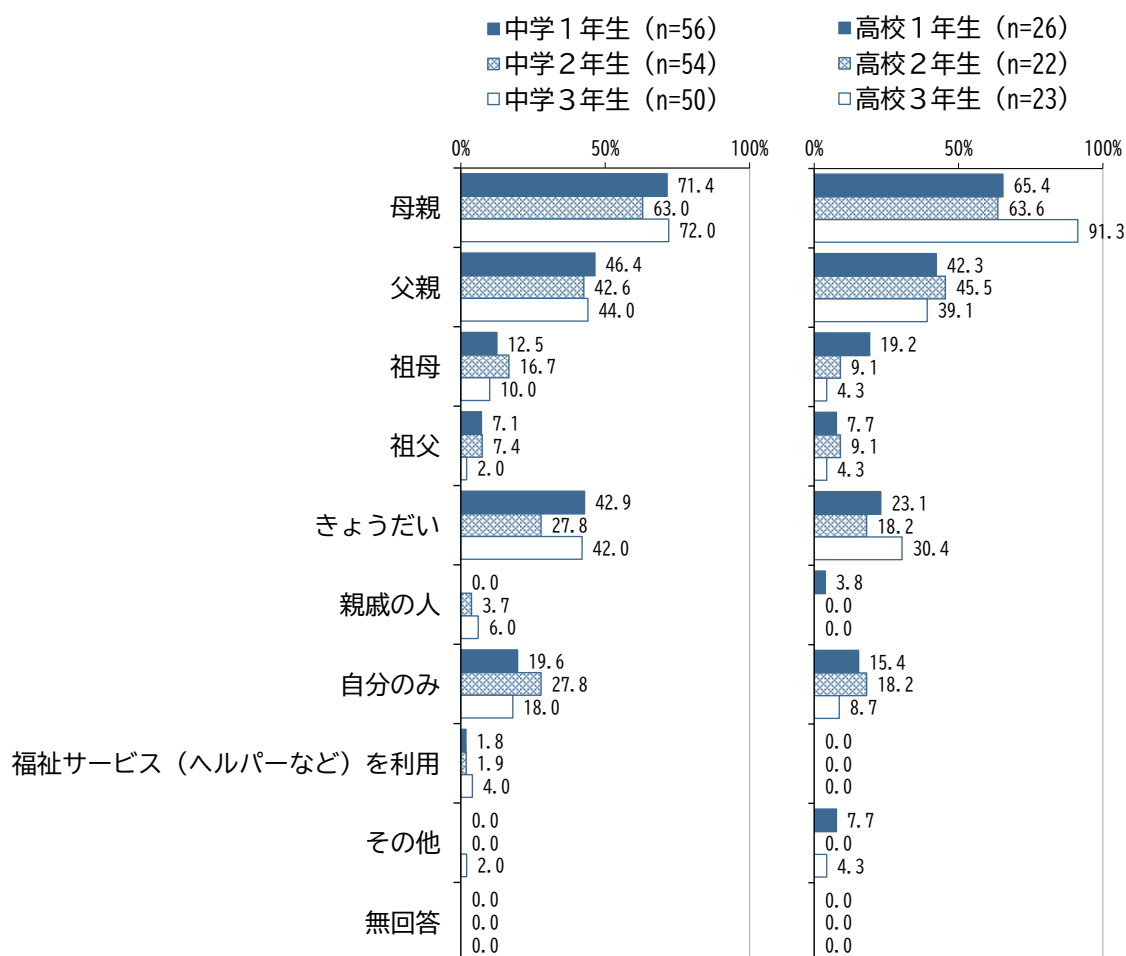
高校生では、「母親」が73.2%で最も高く、次いで「父親」が42.3%、「きょうだい」が23.9%と続いている。

図表Ⅲ-1-52 世話を一緒にしている人(複数回答)



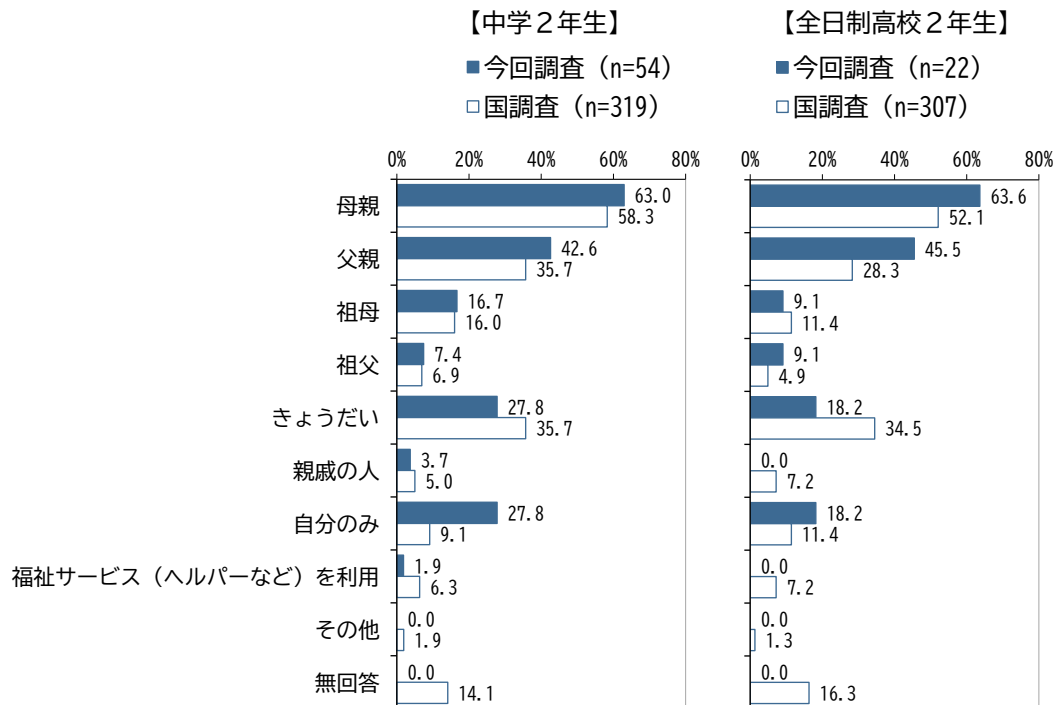
学年別にみると、すべての学年で「母親」の割合が最も高く、次いで「父親」の割合が高くなっている。

図表Ⅲ-1-53 世話を一緒にしている人 学年別



国調査と比較すると、「母親」、「父親」、「祖父」、「自分のみ」では、中学2年生、全日制高校2年生いずれも国調査より割合が高くなっている。

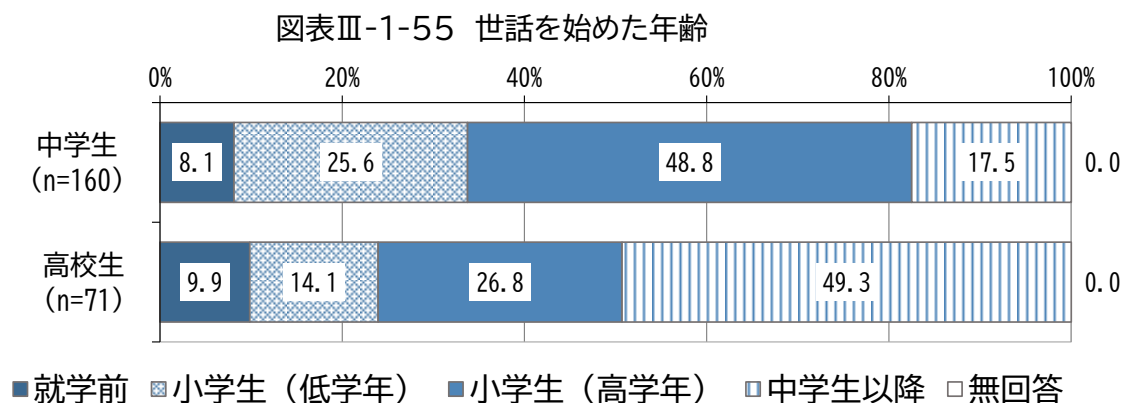
図表Ⅲ-1-54 世話を一緒にしている人 国調査との比較



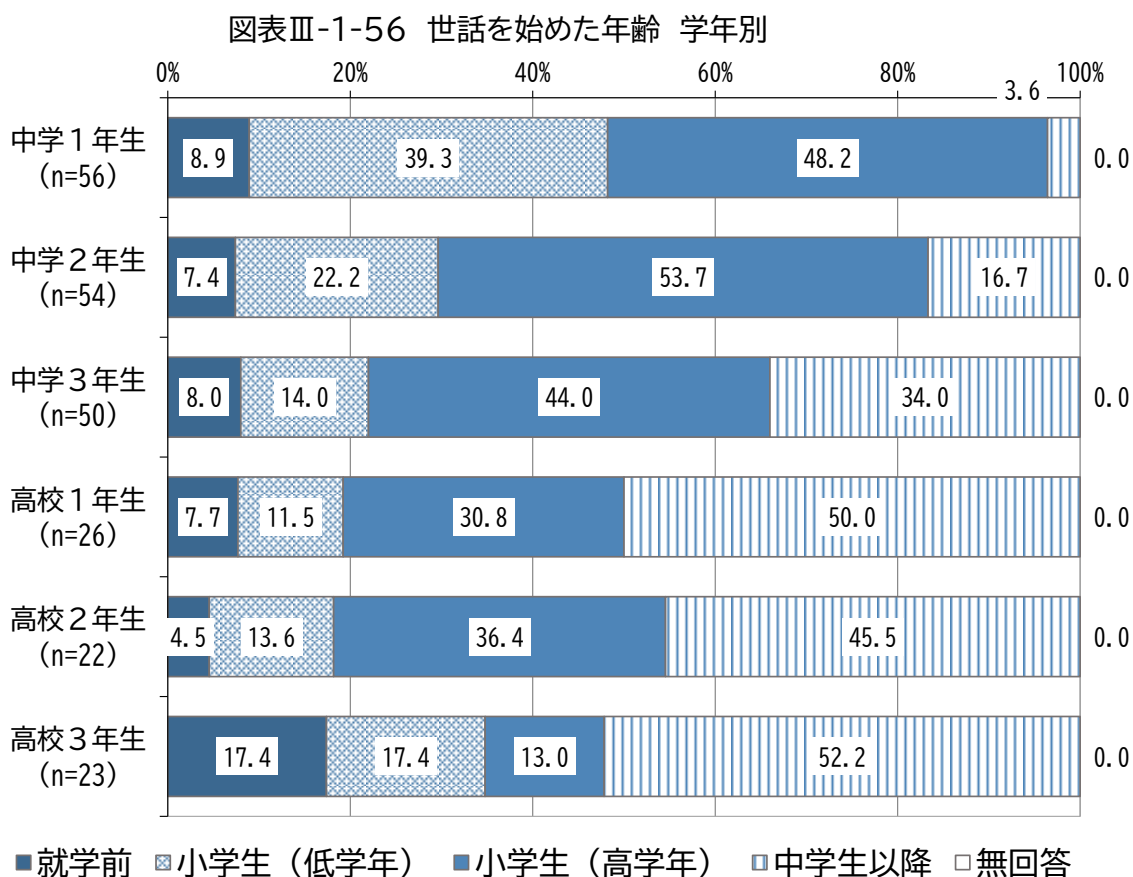
### ⑧ 世話を始めた年齢

世話をしている家族がいると回答した人の、世話を始めた年齢について、中学生では、「小学生(高学年)」が 48.8%で最も高く、次いで「小学生(低学年)」が 25.6%、「中学生以降」が 17.5%と続いている。

高校生では、「中学生以降」が 49.3%で最も高く、次いで「小学生(高学年)」が 26.8%、「小学生(低学年)」が 14.1%と続いている。

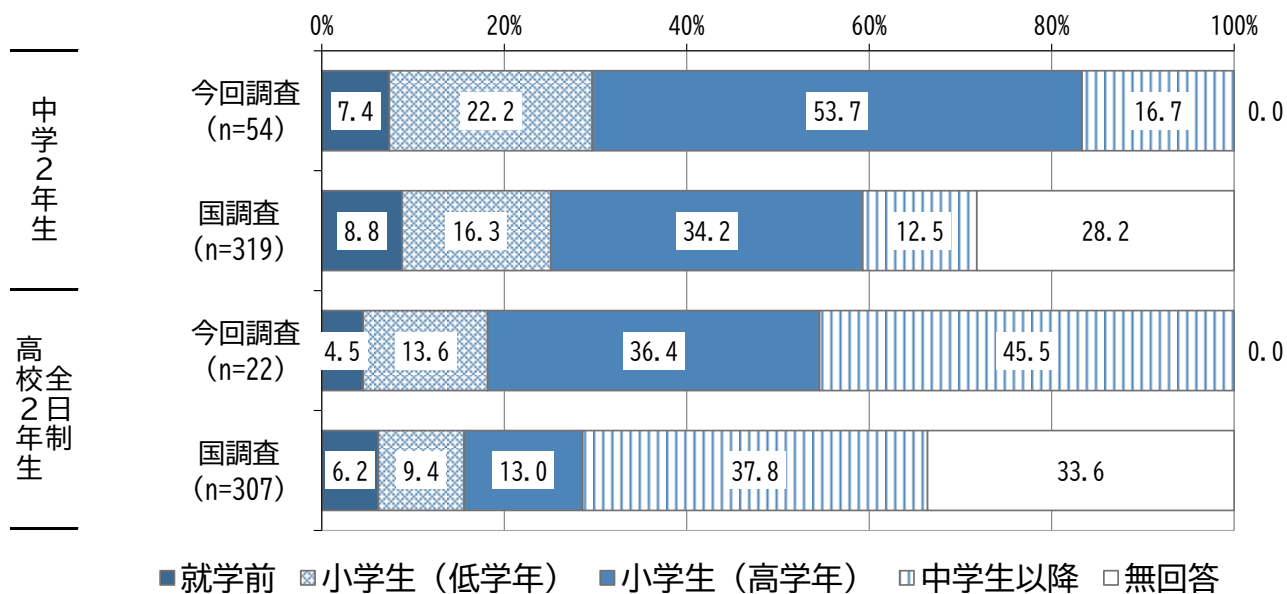


学年別にみると、中学生では、「小学生(高学年)」の割合が最も高く、高校生では、「中学生以降」の割合が最も高くなっている。



国調査と比較すると、中学2年生では「小学生(高学年)」(53.7%)が国調査(34.2%)より 19.5 ポイント高く、全日制高校2年生では「小学生(高学年)」(36.4%)が国調査(13.0%)より 23.4 ポイント高くなっている。

図表Ⅲ-1-57 世話を始めた年齢 国調査との比較

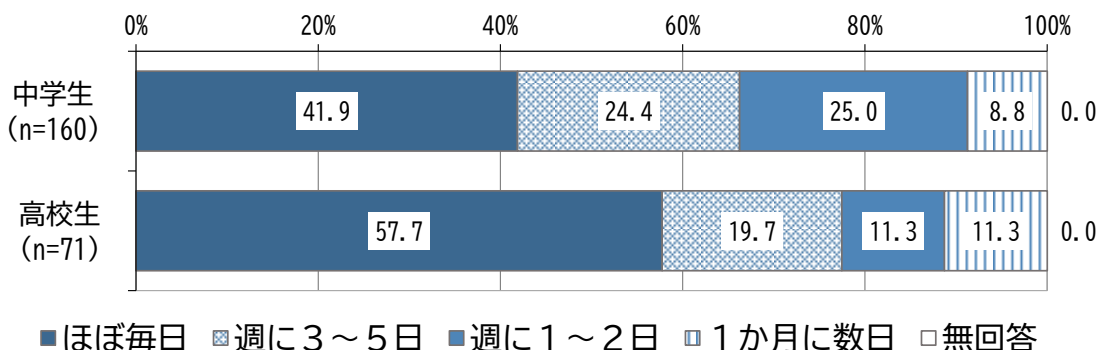


### ⑨ 世話をしている頻度

世話をしている家族がいると回答した人の、世話をしている頻度について中学生では、「ほぼ毎日」が41.9%で最も高く、次いで「週に1~2日」が25.0%、「週に3~5日」が24.4%と続いている。

高校生では、「ほぼ毎日」が57.7%で最も高く、次いで「週に3~5日」が19.7%、「週に1~2日」、「1か月に数日」がいずれも11.3%となっている。

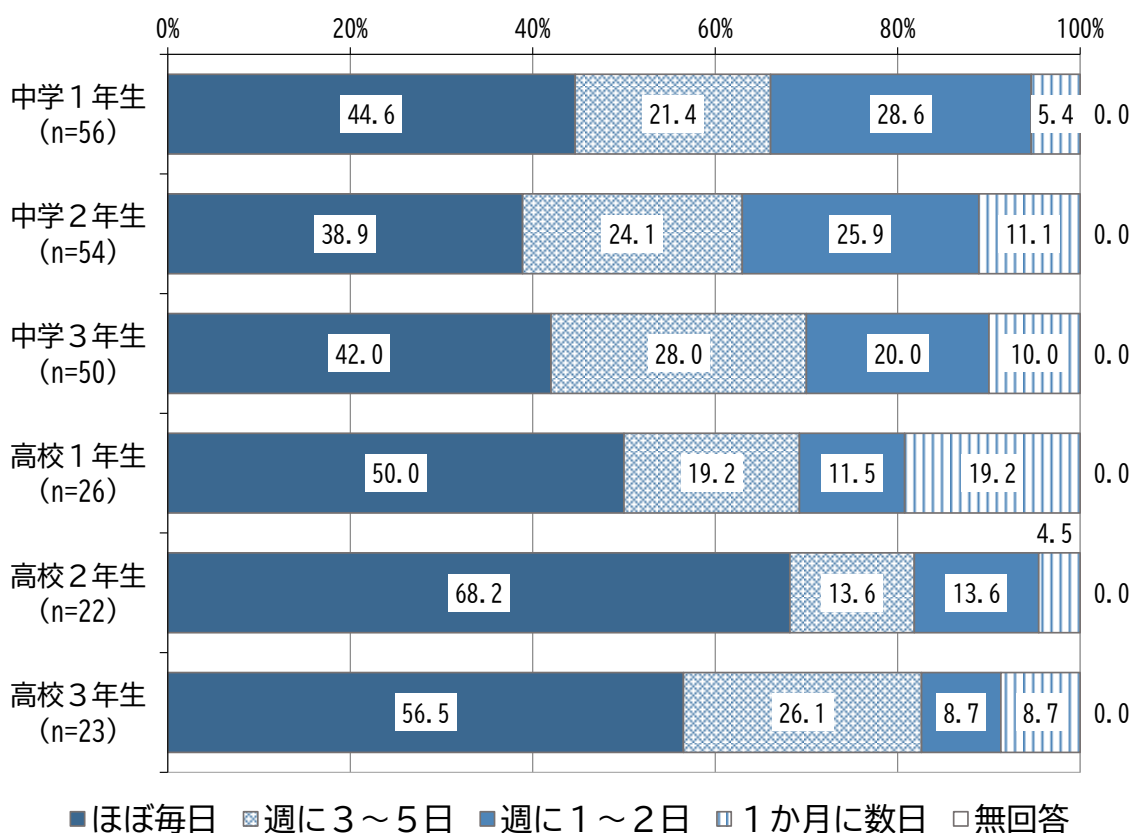
図表Ⅲ-1-58 世話をしている頻度





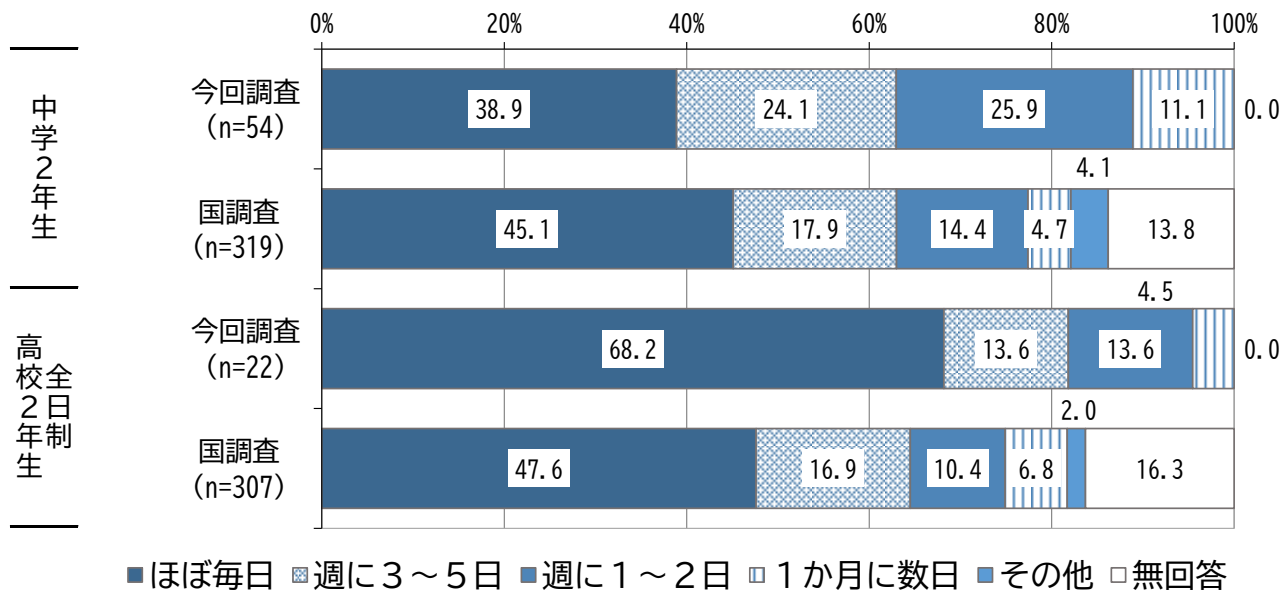
学年別にみると、すべての学年で「ほぼ毎日」の割合が最も高くなっている。

図表Ⅲ-1-59 世話をしている頻度 学年別



国調査と比較すると、「ほぼ毎日」では、中学2年生は国調査より割合が低く、全日制高校2年生は国調査より割合が高くなっている。

図表Ⅲ-1-60 世話をしている頻度 国調査との比較

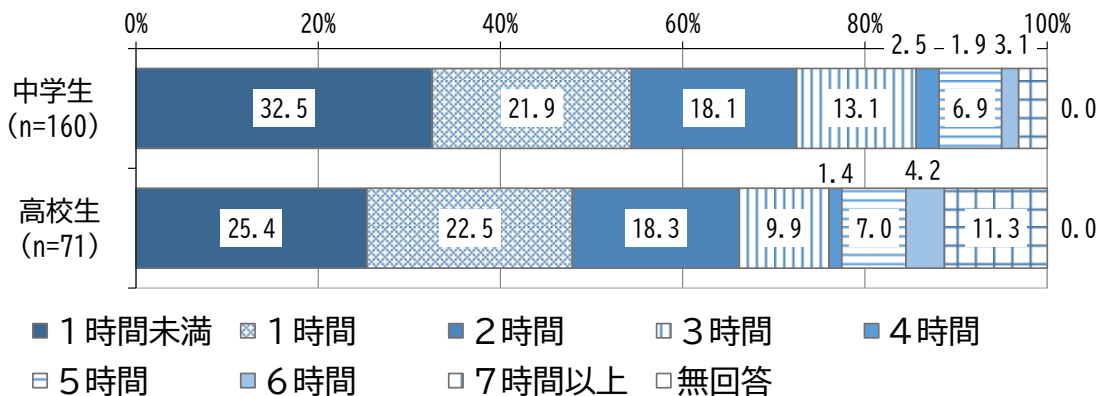


⑩ 平日1日あたりに世事に費やす時間

世話をしている家族がいると回答した人の、平日1日あたりに世事に費やす時間について、中学生では、「1時間未満」が32.5%で最も高く、次いで「1時間」が21.9%、「2時間」が18.1%と続いている。

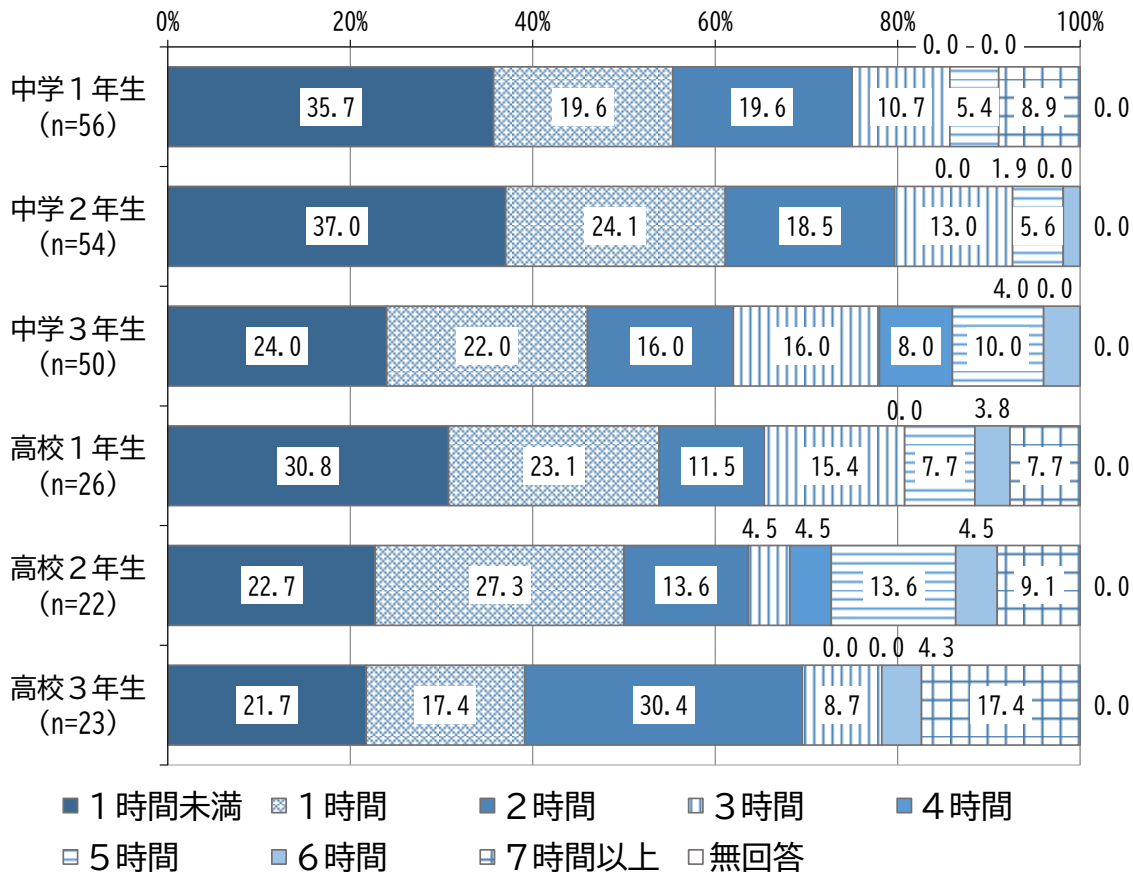
高校生では、「1時間未満」が25.4%で最も高く、次いで「1時間」が22.5%、「2時間」が18.3%と続いている。

図表Ⅲ-1-61 平日1日あたりに世事に費やす時間



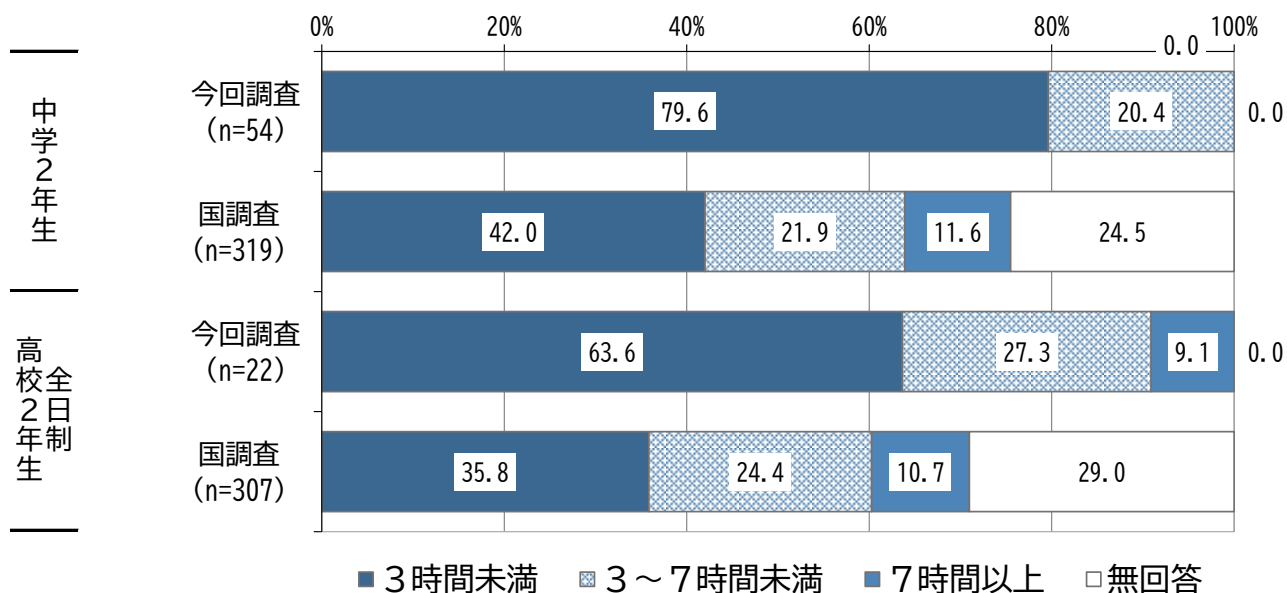
学年別にみると、高校1年生以下では、「1時間未満」の割合が最も高く、高校2年生では、「1時間」の割合が最も高く、高校3年生では、「2時間」の割合が最も高くなっている。

図表Ⅲ-1-62 平日1日あたりに世事に費やす時間 学年別



国調査と比較すると、中学2年生、全日制高校2年生いずれも「3時間未満」の割合が国調査より高くなっている。

図表Ⅲ-1-63 平日1日あたりに世話に費やす時間 国調査との比較

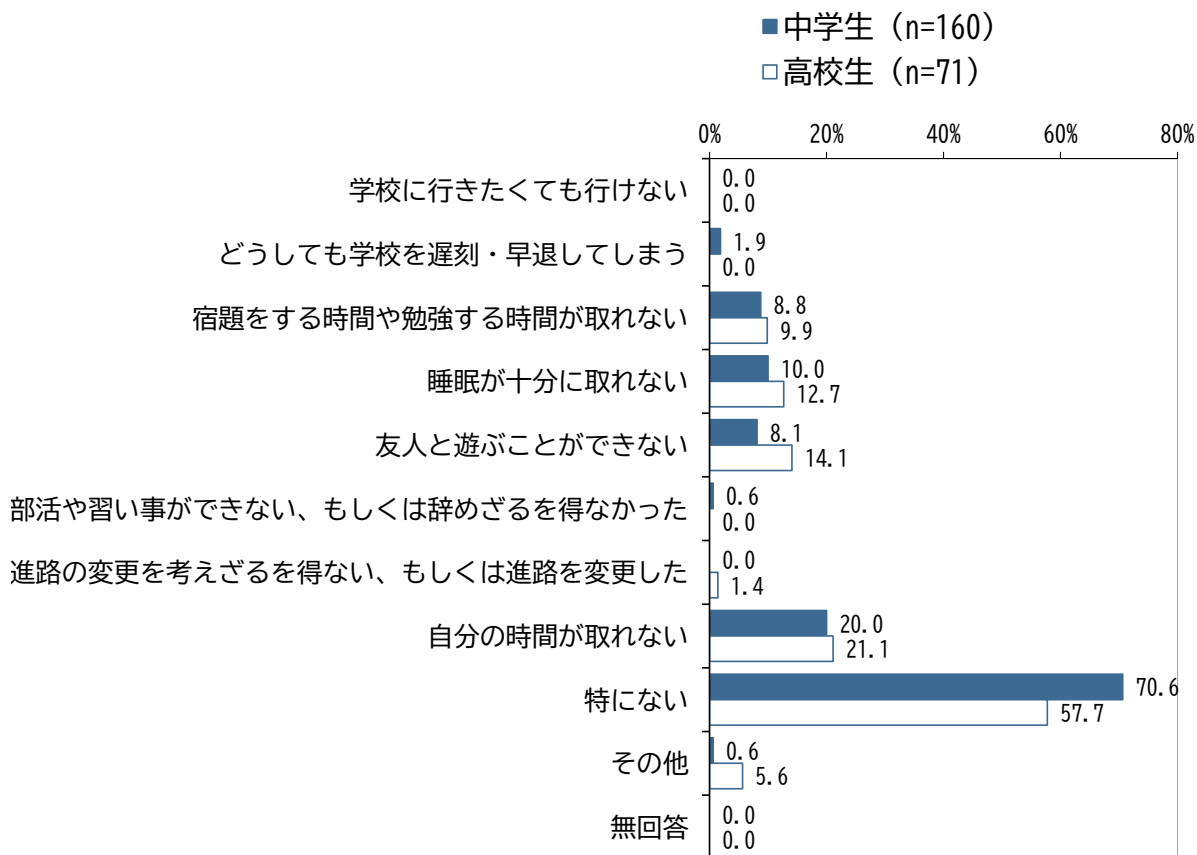


⑪ 世話をしているためにやりたいけれどできないこと

世話をしている家族がいると回答した人の、世話をしているためにやりたいけれどできないことについて、中学生では、「特にない」が 70.6%で最も高く、次いで「自分の時間が取れない」が 20.0%、「睡眠が十分に取れない」が 10.0%と続いている。

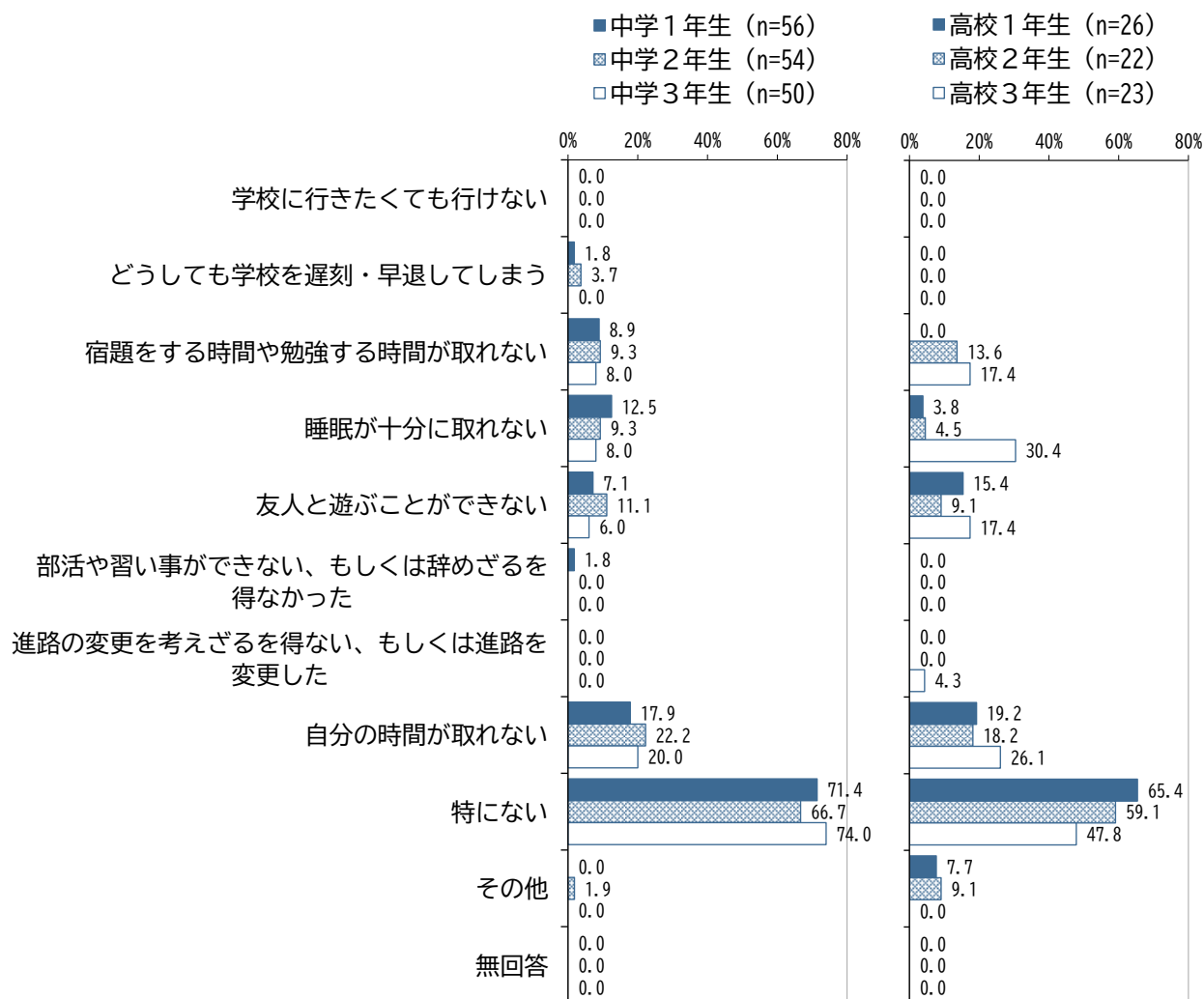
高校生では、「特にない」が 57.7%で最も高く、次いで「自分の時間が取れない」が 21.1%、「友人と遊ぶことができない」が 14.1%と続いている。

図表Ⅲ-1-64 世話をしているためにやりたいけれどできないこと(複数回答)



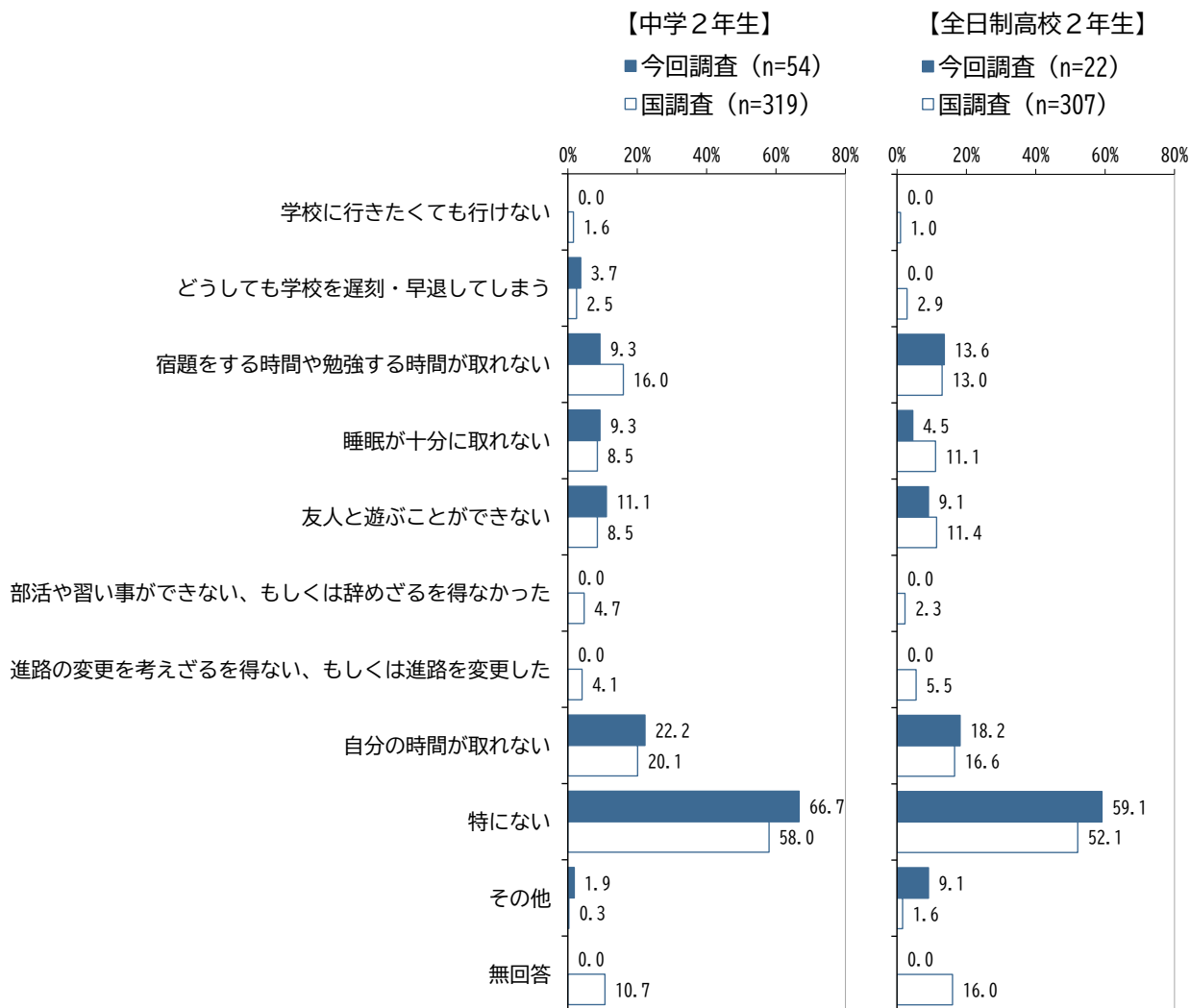
学年別にみると、すべての学年で「特にない」の割合が最も高く、高校2年生以下では次いで「自分の時間が取れない」が高く、高校3年生では次いで「睡眠が十分に取れない」が高くなっている。

図表Ⅲ-1-65 世話をしているためにやりたいけれどできないこと 学年別



国調査と比較すると、「自分の時間が取れない」、「特にない」では、中学2年生、全日制高校2年生いずれも国調査より割合が高くなっている。

図表Ⅲ-1-66 世話をしているためにやりたいけれどできないこと 国調査との比較

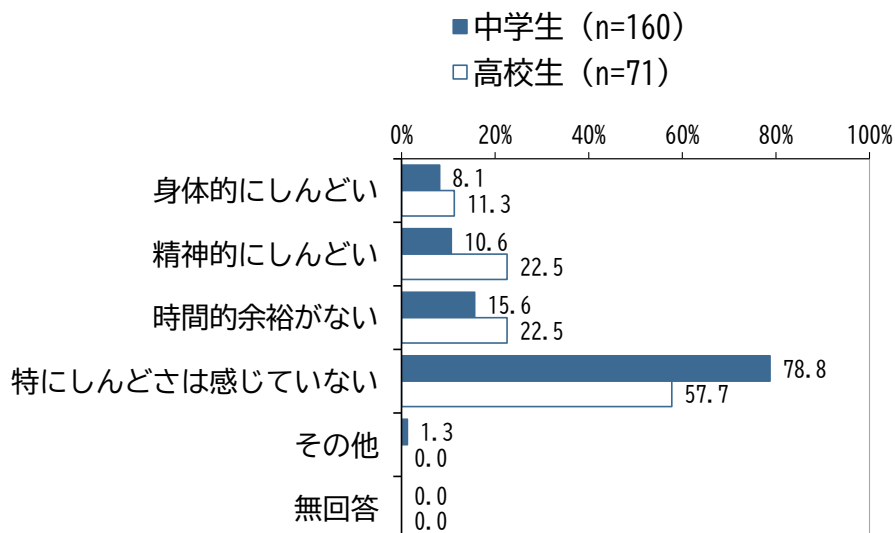


## ⑫ 世話の大変さ

世話をしている家族がいると回答した人の、世話の大変さについて、中学生では、「特にしんどさは感じていない」が78.8%で最も高く、次いで「時間的余裕がない」が15.6%、「精神的にしんどい」が10.6%と続いている。

高校生では、「特にしんどさは感じていない」が57.7%で最も高く、次いで「精神的にしんどい」、「時間的余裕がない」がいずれも22.5%と続いている。

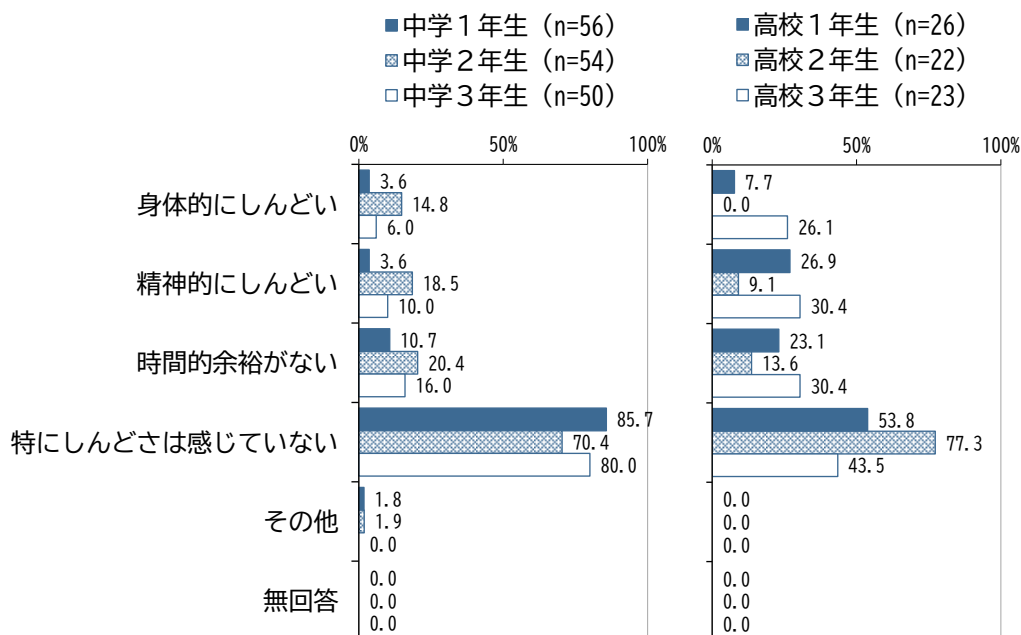
図表Ⅲ-1-67 世話の大変さ(複数回答)



学年別にみると、すべての学年で「特にしんどさは感じていない」の割合が高くなっている。

また、「身体的にしんどい」、「精神的にしんどい」、「時間的余裕がない」では、いずれも高校3年生の割合が最も高くなっている。

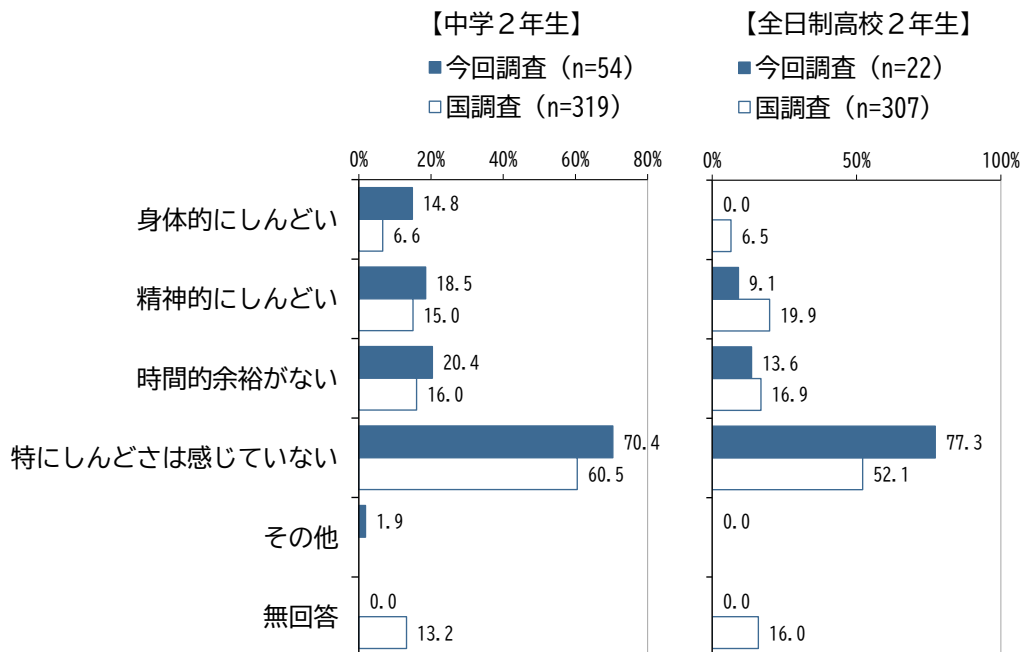
図表Ⅲ-1-68 世話の大変さ 学年別





国調査と比較すると、中学2年生では、すべての項目で国調査より割合が高くなっており、全日制高校2年生では、「特にしんどさは感じていない」の割合が国調査より割合が高くなっている。

図表Ⅲ-1-69 世話の大変さ 国調査との比較

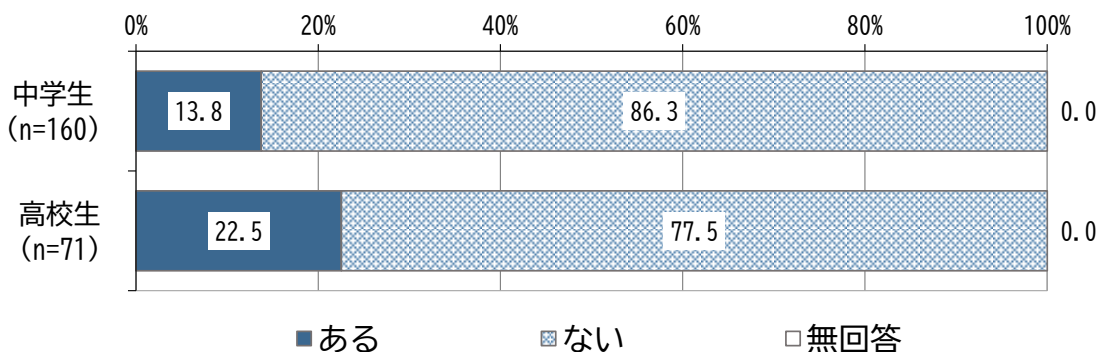


⑬ 世話について相談した経験

世話をしている家族がいると回答した人の、世話について相談した経験について、中学生では、「ある」が13.8%、「ない」が86.3%となっている。

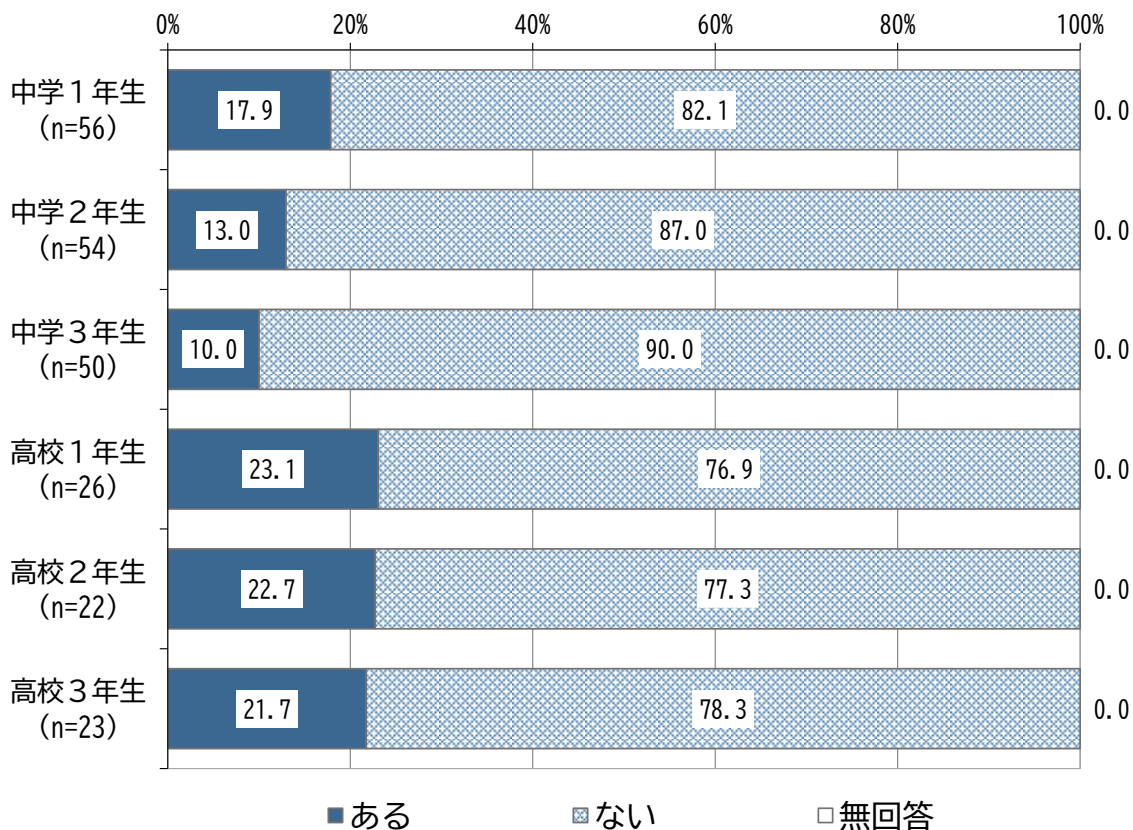
高校生では、「ある」が22.5%、「ない」が77.5%となっている。

図表Ⅲ-1-70 世話について相談した経験



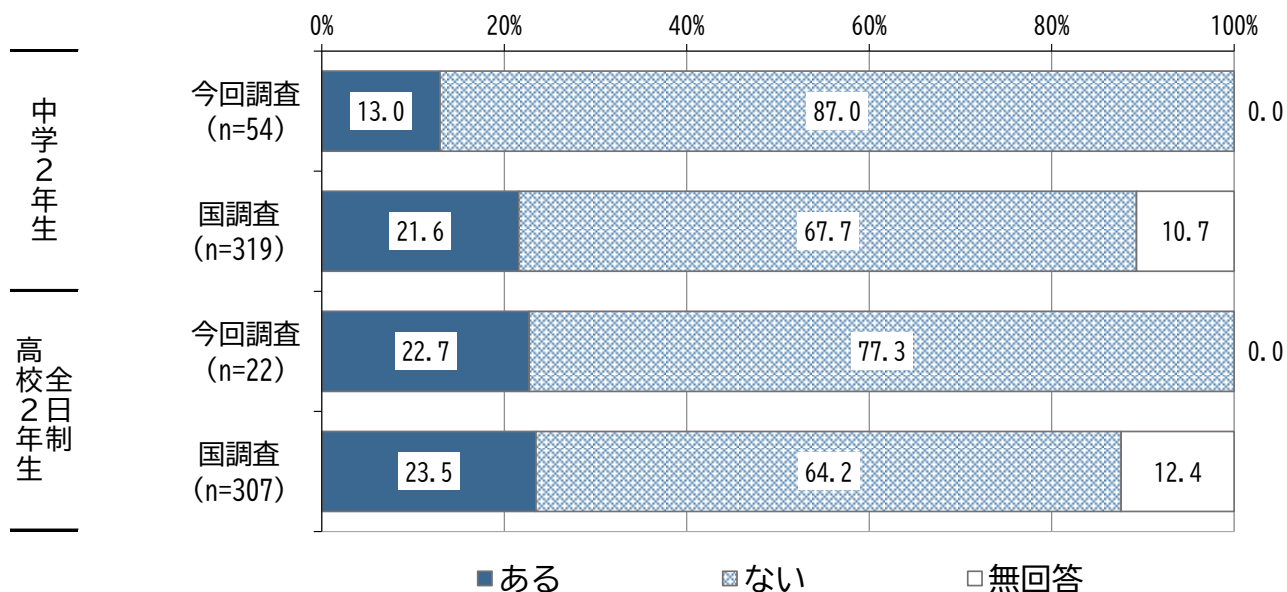
学年別にみると、「ある」では、高校1年生が 23.1%で最も高く、「ない」では、中学3年生が 90.0%で最も高くなっている。

図表Ⅲ-1-71 世話について相談した経験 学年別



国調査と比較すると、「ある」では、中学2年生、全日制高校2年生いずれも国調査より割合が低くなっている。

図表Ⅲ-1-72 世話について相談した経験 国調査との比較

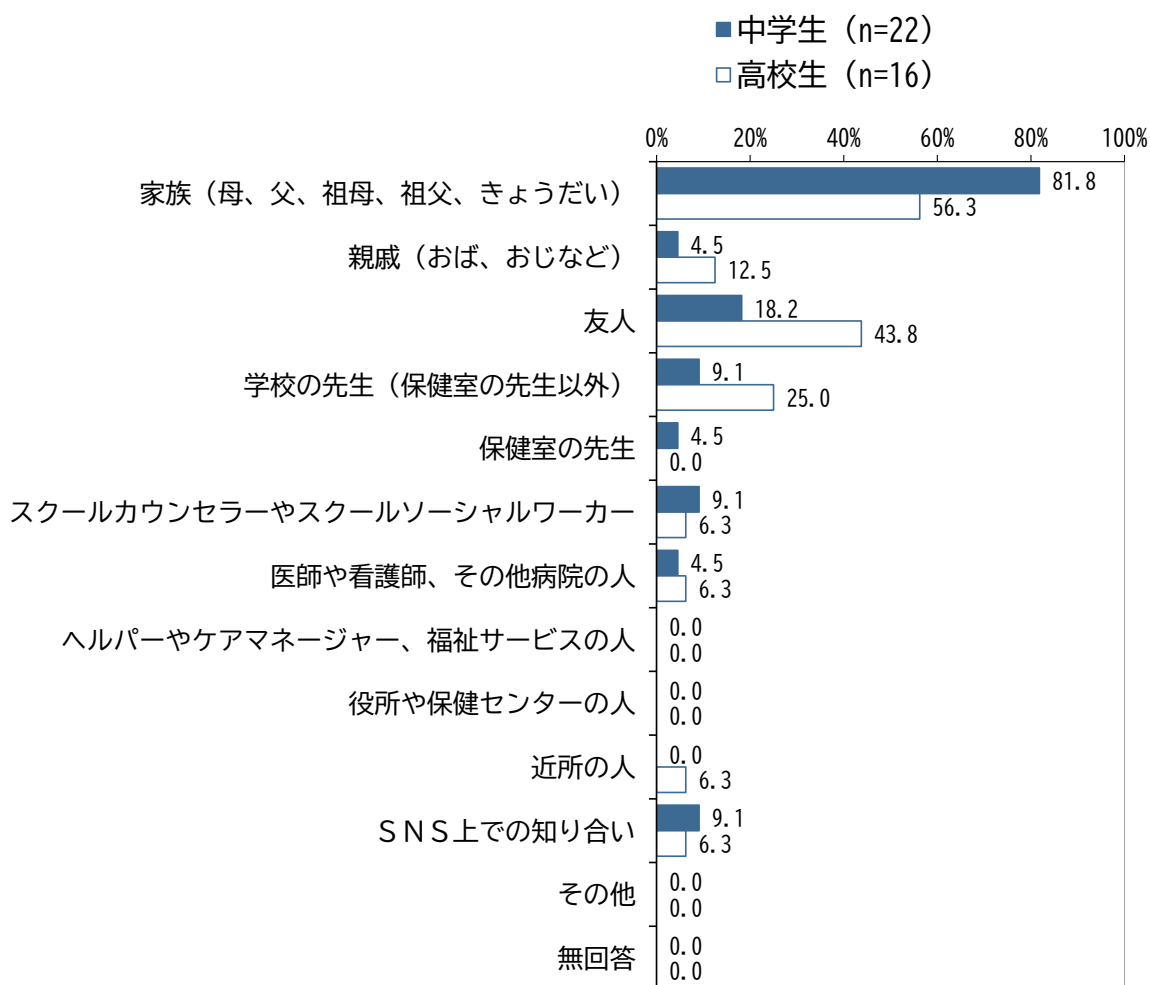


#### ⑭ 世話についての相談相手

世話について相談した経験があると回答した人の、世話についての相談相手について、中学生では、「家族(母、父、祖母、祖父、きょうだい)」が 81.8%で最も高く、次いで「友人」が 18.2%、「学校の先生(保健室の先生以外)」、「SNS上での知り合い」がいずれも 9.1%と続いている。

高校生では、「家族(母、父、祖母、祖父、きょうだい)」が 56.3%で最も高く、次いで「友人」が 43.8%、「学校の先生(保健室の先生以外)」が 25.0%と続いている。

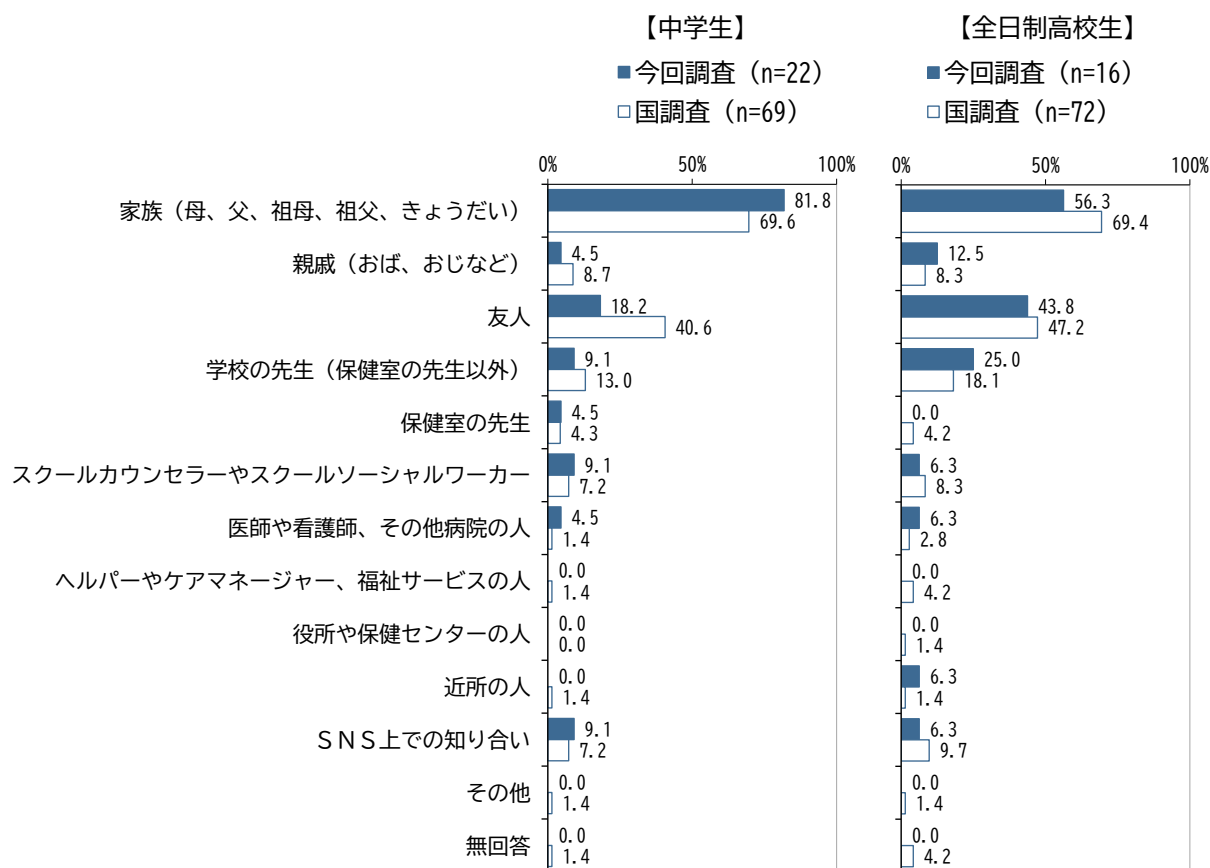
図表Ⅲ-1-73 世話についての相談相手(複数回答)



国調査と比較すると、中学生では「家族(母、父、祖母、祖父、きょうだい)」、「保健室の先生」、「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー」、「医師や看護師、その他病院の人」、「SNS上での知り合い」が国調査より割合が高くなっている。

高校生では、「親戚(おば、おじなど)」、「学校の先生(保健室の先生以外)」、「医師や看護師、その他病院の人」、「近所の人」が国調査より割合が高くなっている。

図表Ⅲ-1-74 世話についての相談相手 国調査との比較



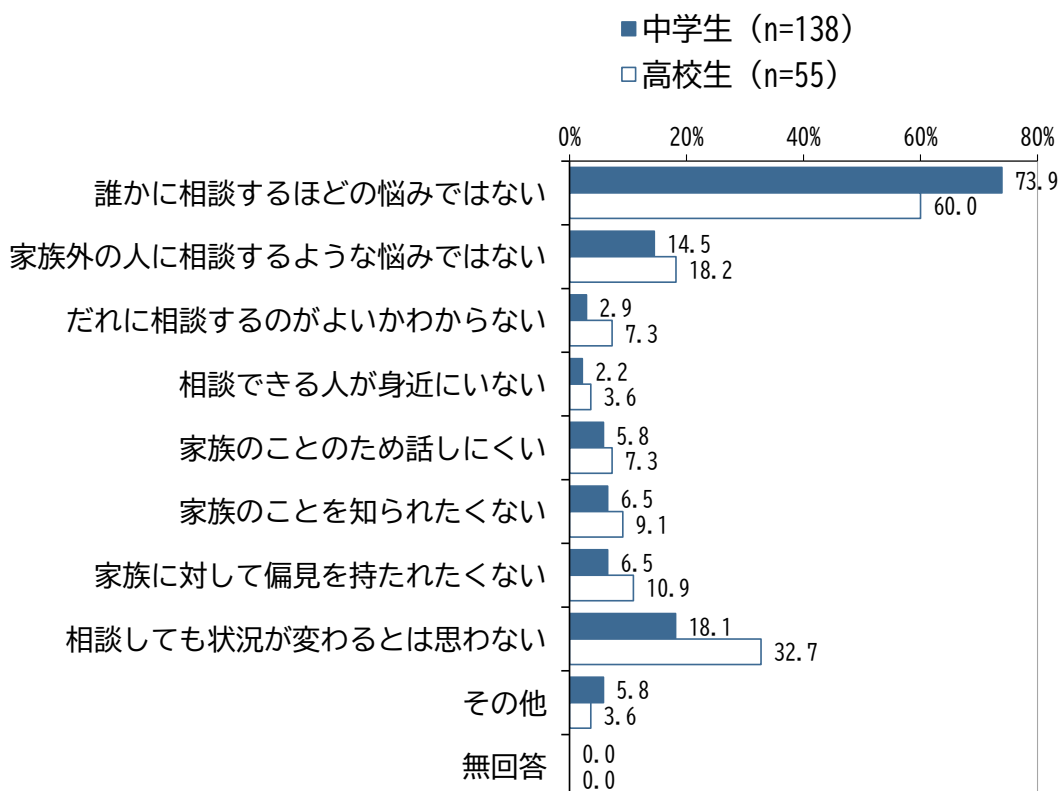
※ 今回調査の中学2年生および高校2年生は、該当者が少ないため、中学生全体および高校生全体で比較している

### ⑮ 世話について相談したことがない理由

世話について相談した経験がないと回答した人の、世話について相談したことがない理由について、中学生では、「誰かに相談するほどの悩みではない」が 73.9%で最も高く、次いで「相談しても状況が変わると思わない」が 18.1%、「家族外の人に相談するような悩みではない」が 14.5%と続いている。

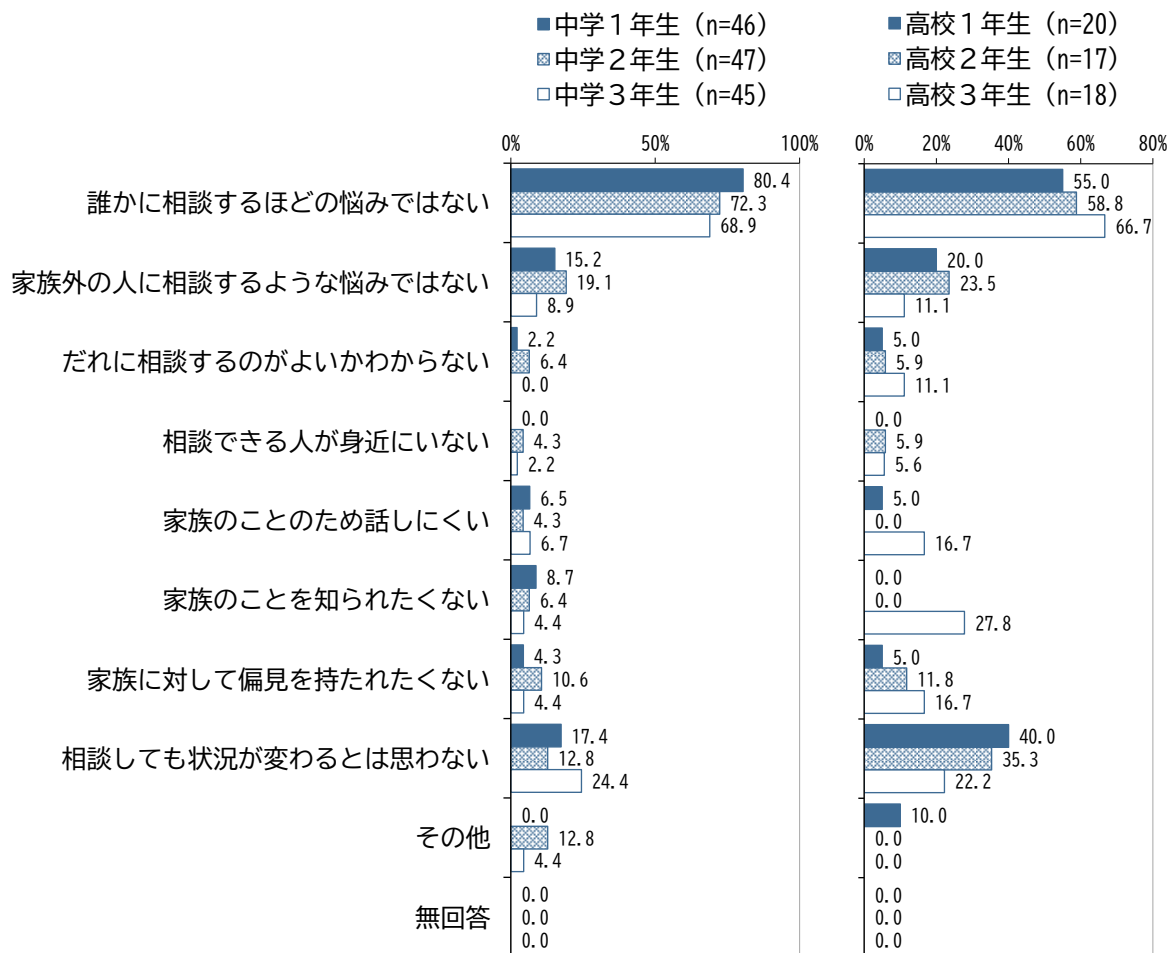
高校生では、「誰かに相談するほどの悩みではない」が 60.0%で最も高く、次いで「相談しても状況が変わると思わない」が 32.7%、「家族外の人に相談するような悩みではない」が 18.2%と続いている。

図表Ⅲ-1-75 世話について相談したことがない理由(複数回答)



学年別にみると、すべての学年で「誰かに相談するほどの悩みではない」の割合が最も高く、中学2年生では次いで「家族外の人に相談するような悩みではない」の割合が高く、高校3年生では次いで「家族のことを知られたくない」の割合が高く、それ以外の学年では次いで「相談しても状況が変わるとは思わない」の割合が高くなっている。

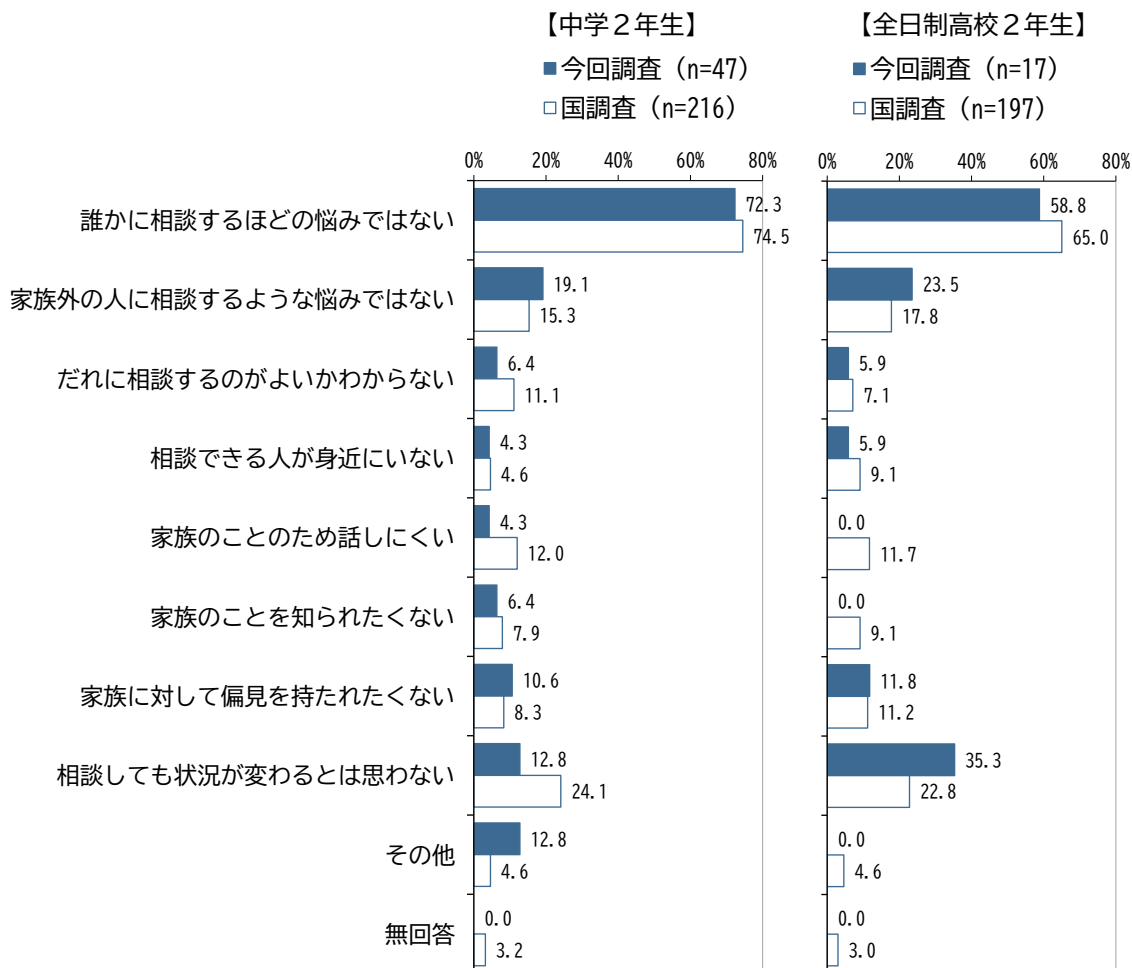
図表Ⅲ-1-76 世話について相談したことがない理由 学年別



国調査と比較すると、中学2年生では「家族外の人に相談するような悩みではない」、「家族に対して偏見を持たれたくない」、「その他」の割合が国調査より高くなっている。

全日制高校2年生では、「家族外の人に相談するような悩みではない」、「家族に対して偏見を持たれたくない」、「相談しても状況が変わるとは思わない」の割合が国調査より高くなっている。

図表Ⅲ-1-77 世話について相談したことがない理由 国調査との比較

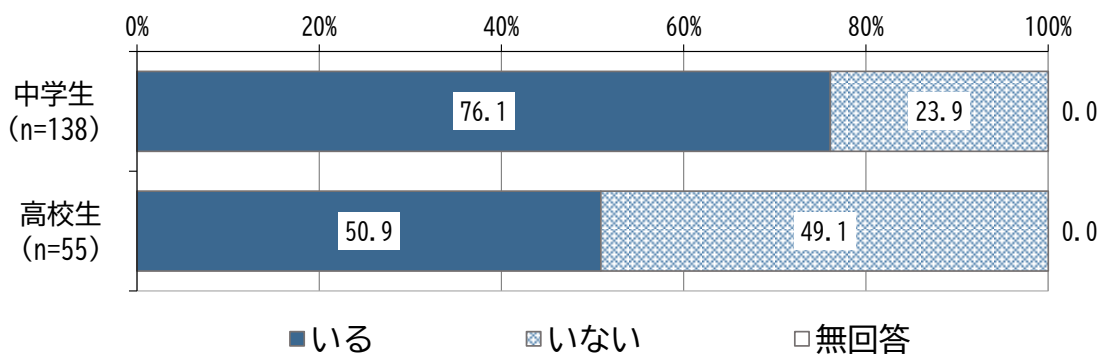


⑯ 世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について話を聞いてくれる人の有無について、中学生では、「いる」が 76.1%、「いない」が 23.9%となっている。

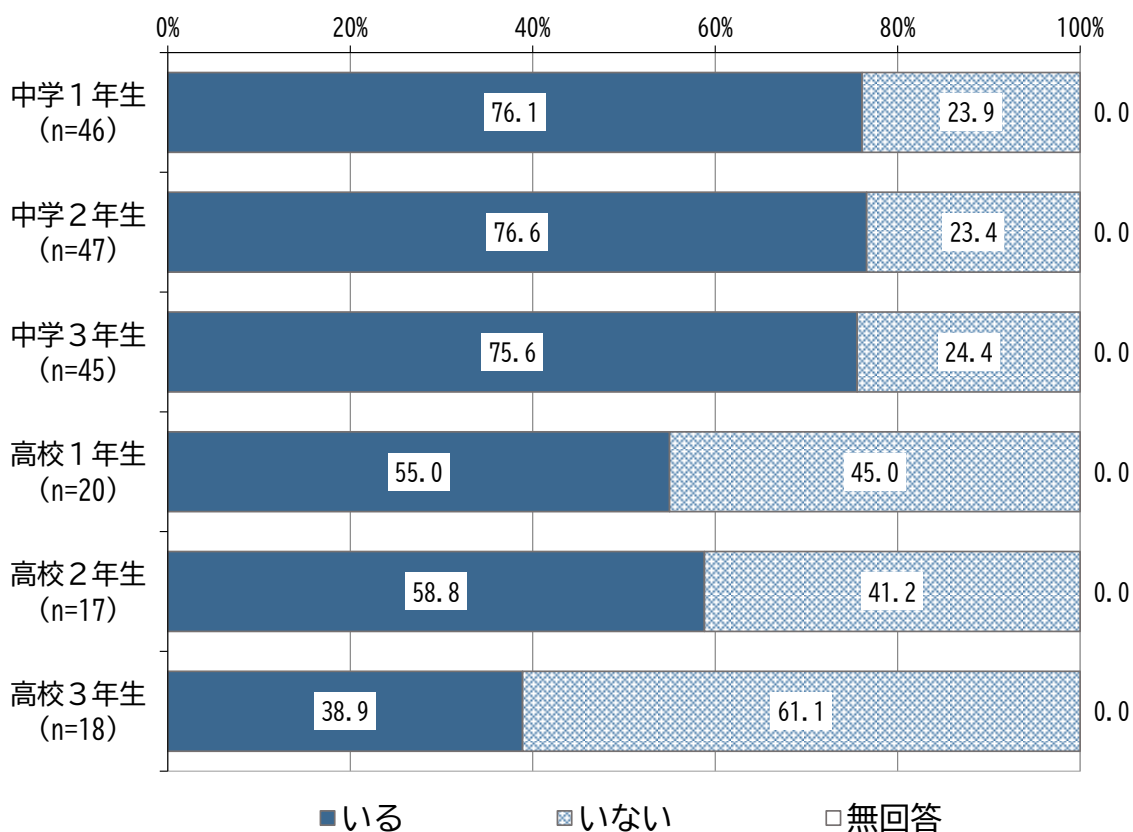
高校生では、「いる」が 50.9%、「いない」が 49.1%となっている。

図表Ⅲ-1-78 世話について話を聞いてくれる人の有無



学年別にみると、「いる」では、中学2年生が 76.6%で最も高く、「いない」では、高校3年生が 61.1%で最も高くなっている。

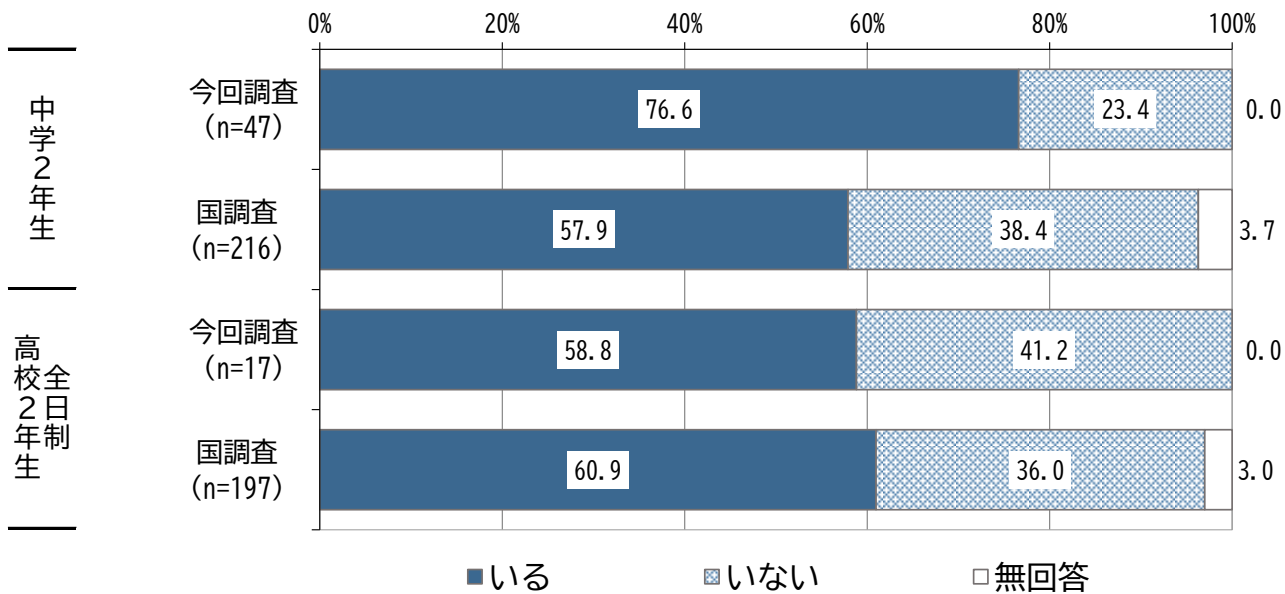
図表Ⅲ-1-79 世話について話を聞いてくれる人の有無 学年別





国調査と比較すると、「いる」では、中学2年生は国調査より割合が高く、全日制高校2年生は国調査より割合が低くなっている。

図表Ⅲ-1-80 世話について話を聞いてくれる人の有無 国調査との比較

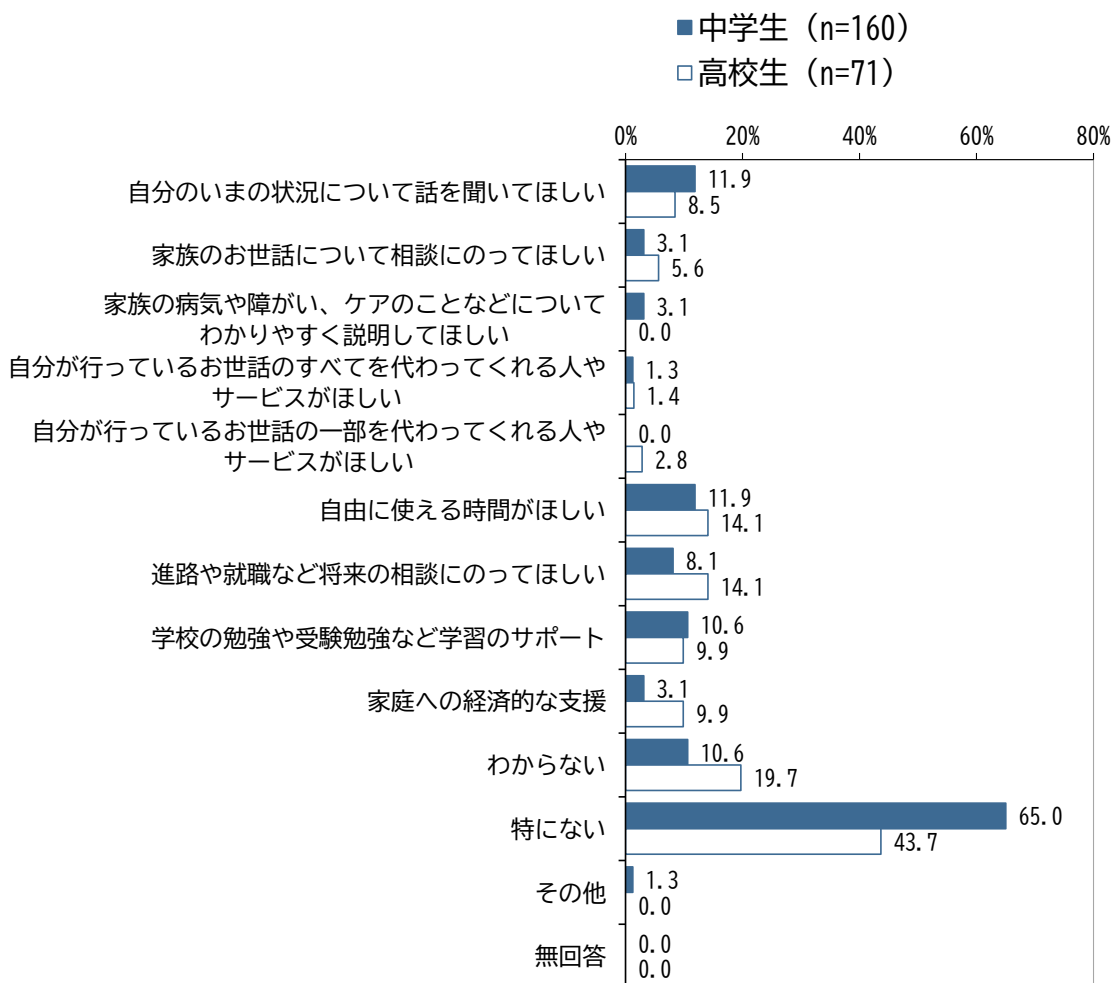


⑰ 学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについて、中学生では、「特にない」が 65.0%で最も高く、次いで「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「自由に使える時間がほしい」がいずれも 11.9%と続いている。

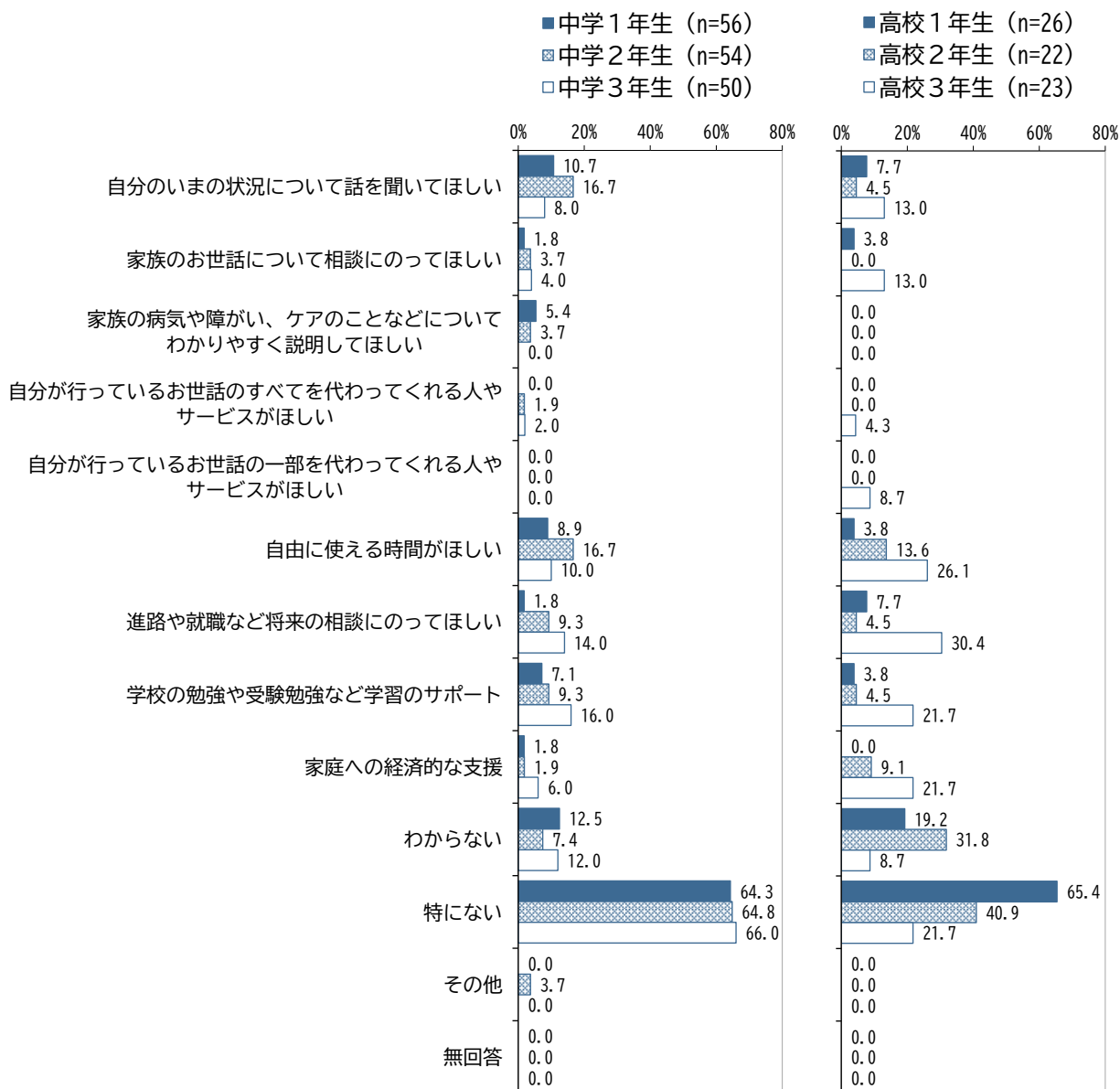
高校生では、「特にない」が 43.7%で最も高く、次いで「わからない」が 19.7%、「自由に使える時間がほしい」が 14.1%と続いている。

図表Ⅲ-1-81 学校や大人にしてもらいたいこと(複数回答)



学年別にみると、高校2年生以下では、「特にない」の割合が最も高く、高校3年生では、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」の割合が最も高くなっている。

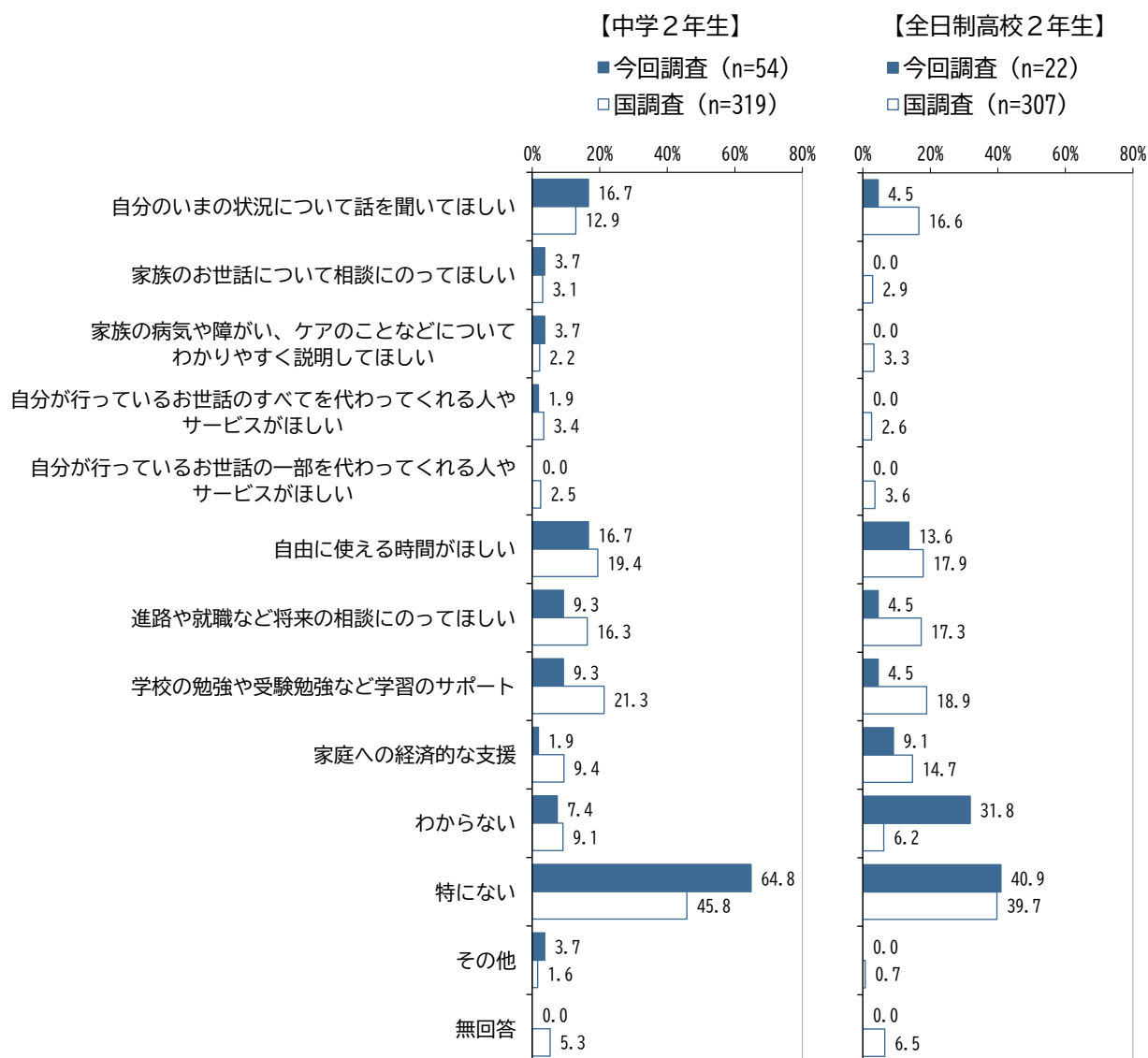
図表Ⅲ-1-82 学校や大人にしてもらいたいこと 学年別



国調査と比較すると、中学2年生では、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談にのってほしい」、「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」、「特にない」、「その他」で国調査より割合が高くなっている。

全日制高校2年生では、「わからない」、「特にない」で国調査より割合が高くなっている。

図表Ⅲ-1-83 学校や大人にしてもらいたいこと 国調査との比較



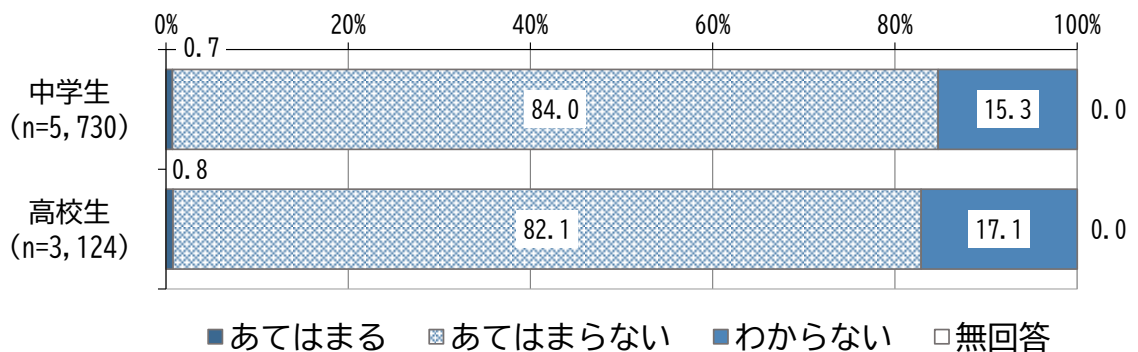
#### (4) ヤングケアラーについて

##### ① ヤングケアラーの自覚

自分がヤングケアラーにあてはまると思うかについて、中学生では、「あてはまらない」が 84.0%で最も高く、次いで「わからない」が 15.3%、「あてはまる」が 0.7%となっている。

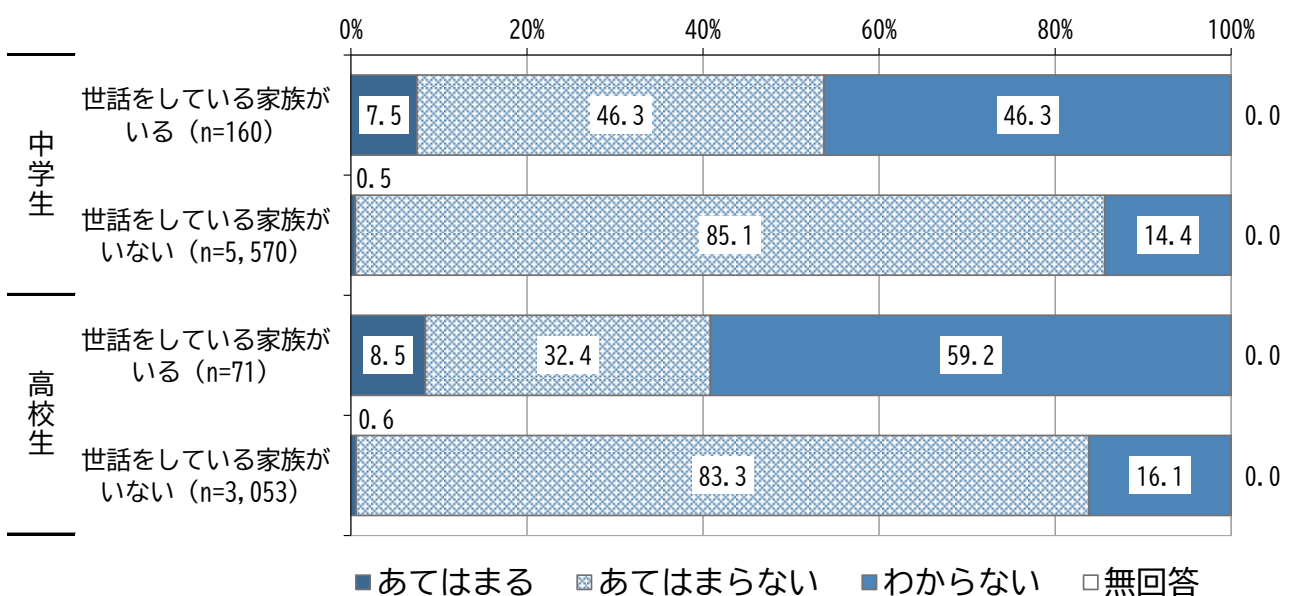
高校生では、「あてはまらない」が 82.1%で最も高く、次いで「わからない」が 17.1%、「あてはまる」が 0.8%となっている。

図表Ⅲ-1-84 自分はヤングケアラーにあてはまると思うか



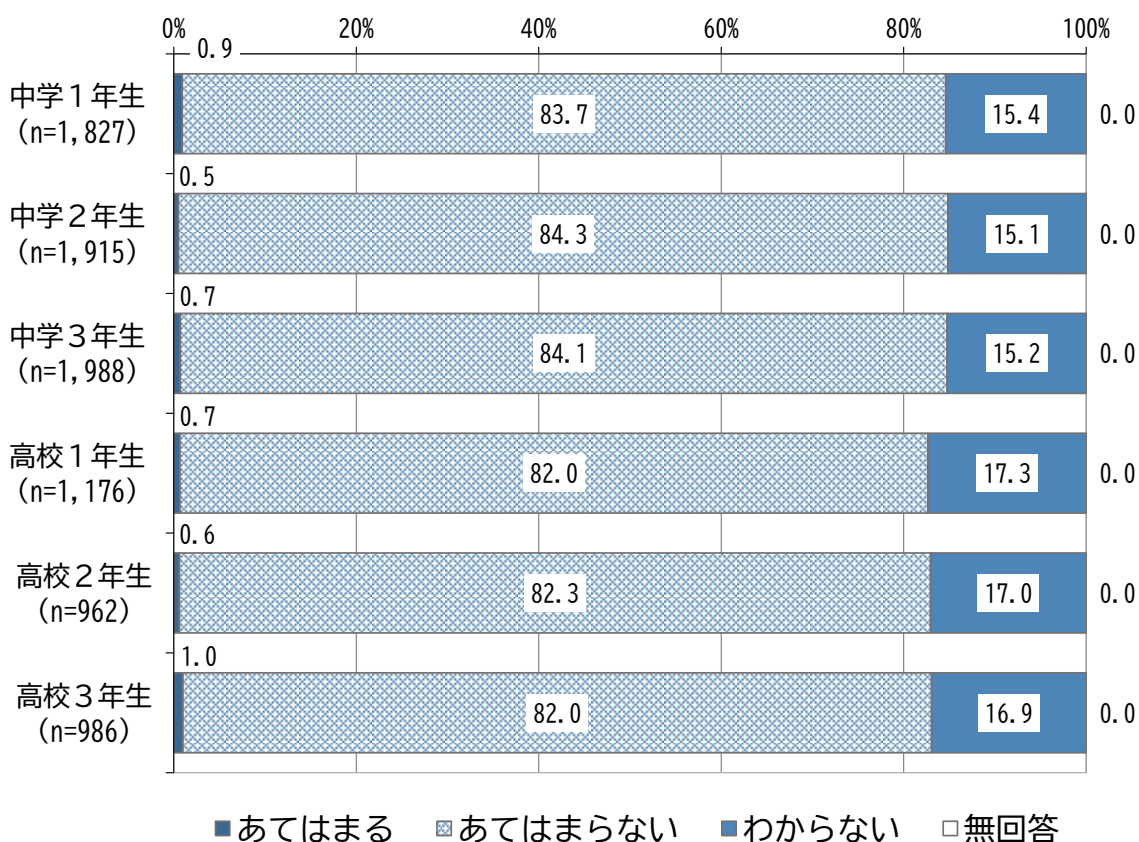
家族の世話の有無別にみると、世話をしている家族がいると回答した人のうち、中学生では 7.5%、高校生では 8.5%が「あてはまる」と回答しており、中学生では 46.3%、高校生では 59.2%が「わからない」と回答している。

図表Ⅲ-1-85 自分はヤングケアラーにあてはまると思うか 家族の世話の有無別



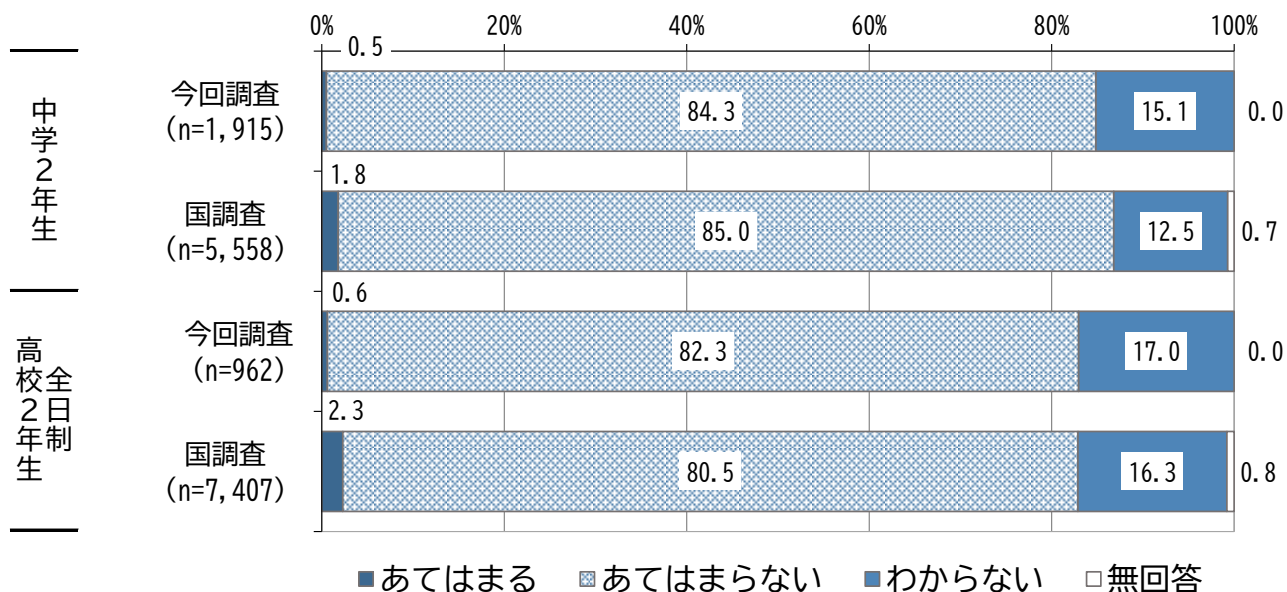
学年別にみると、「あてはまる」では、すべての学年で1%以下となっている。

図表Ⅲ-1-86 自分はヤングケアラーにあてはまると思うか 学年別



国調査と比較すると、「あてはまる」では、中学2年生、全日制高校2年生いずれも国調査より割合が低くなっている。

図表Ⅲ-1-87 自分はヤングケアラーにあてはまると思うか 国調査との比較

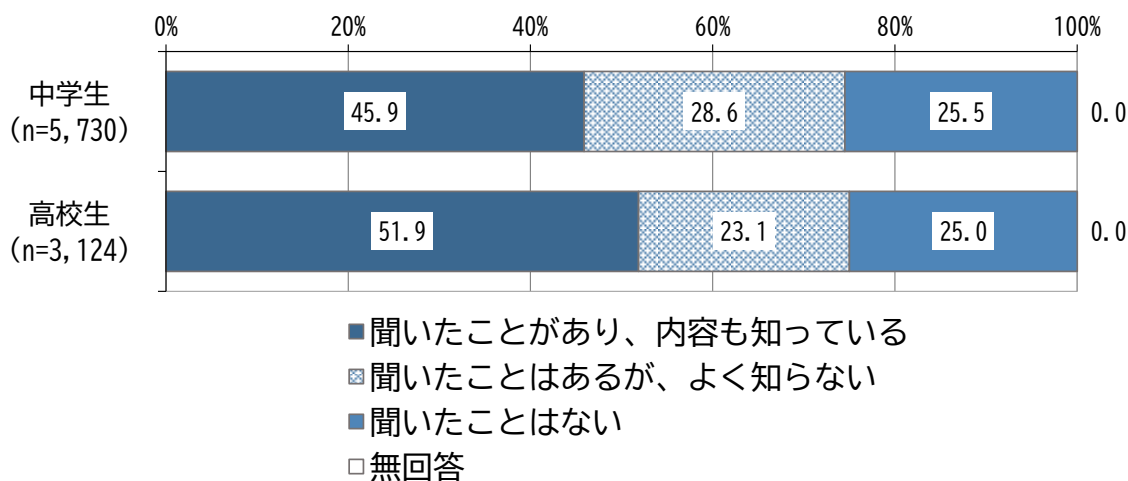


## ② ヤングケアラーの認知度

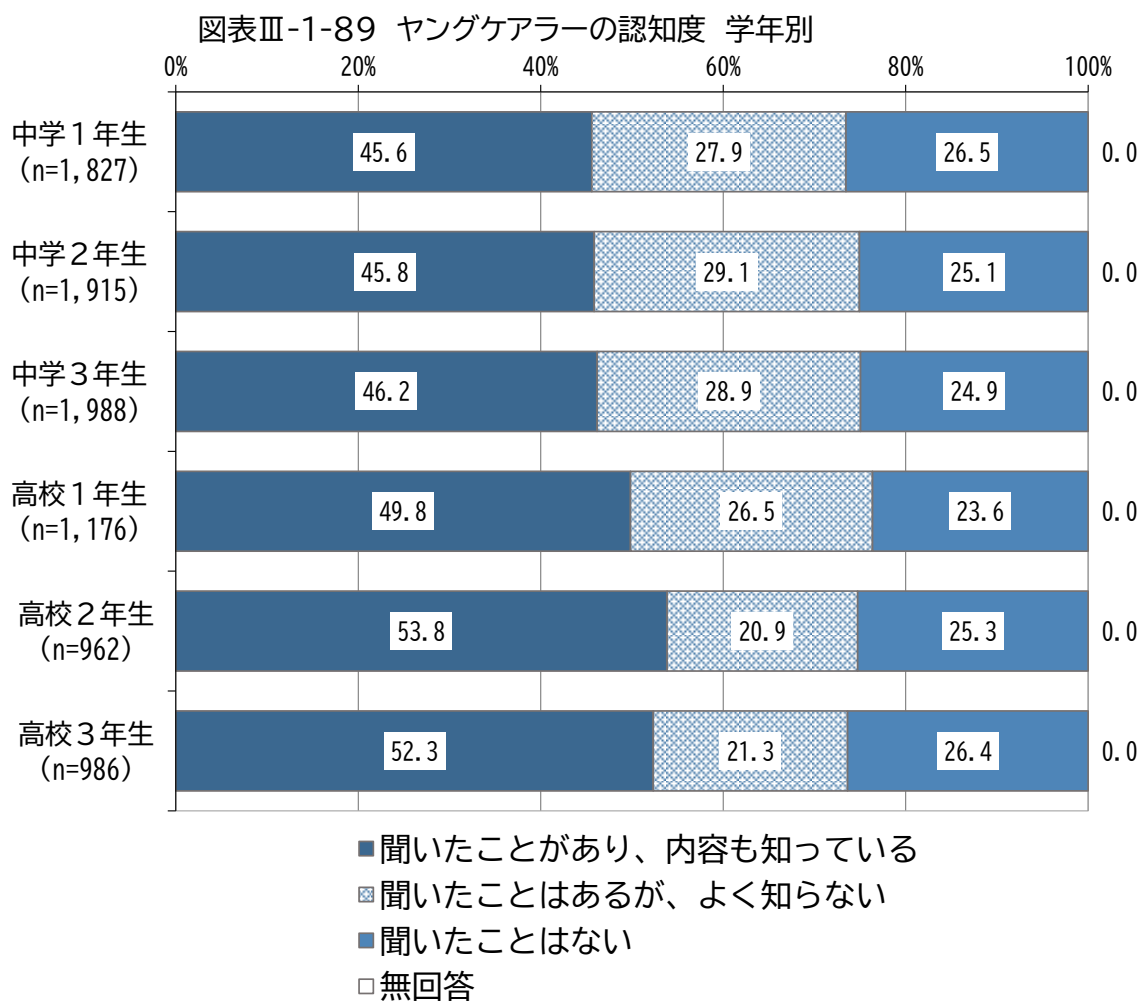
ヤングケアラーの認知度について、中学生では、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 45.9%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」が 28.6%、「聞いたことはない」が 25.5%と続いている。

高校生では、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 51.9%で最も高く、次いで「聞いたことはない」が 25.0%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 23.1%と続いている。

図表Ⅲ-1-88 ヤングケアラーの認知度



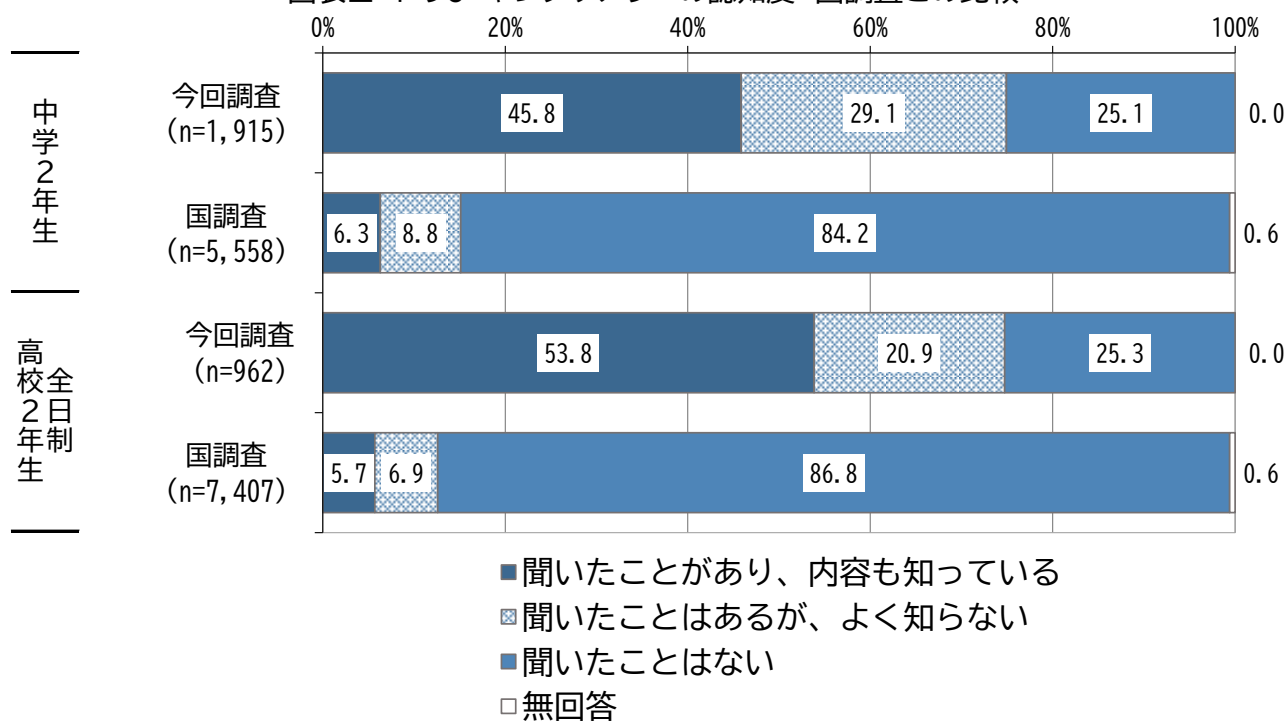
学年別にみると、すべての学年で「聞いたことがあり、内容も知っている」の割合が最も高くなっている。





国調査とは調査の実施時期が異なるため、参考として記載する。

図表Ⅲ-1-90 ヤングケアラーの認知度 国調査との比較

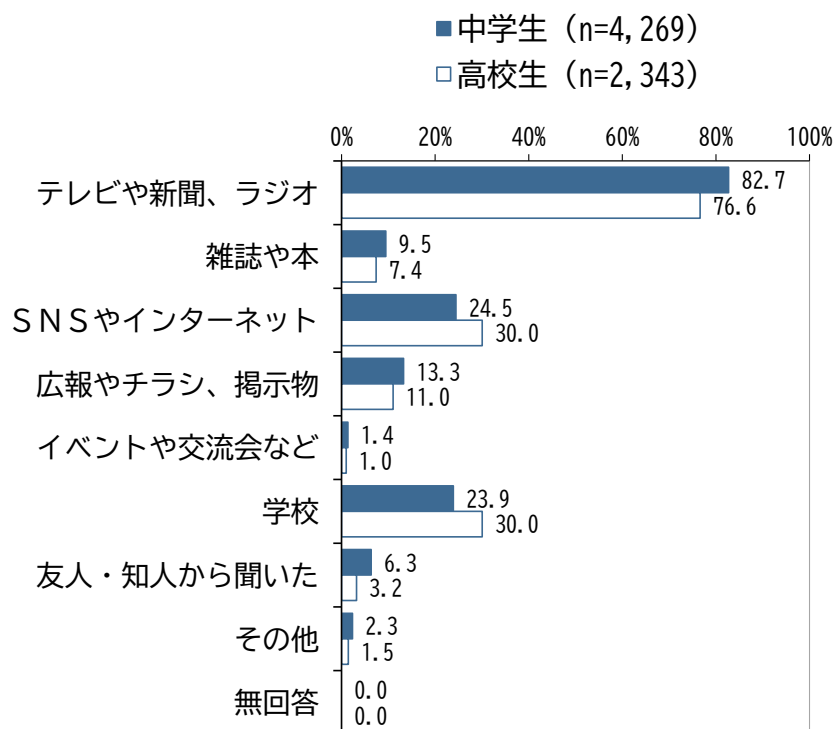


### ③ ヤングケアラーについて知ったきっかけ

ヤングケアラーについて、「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人の、知ったきっかけについて、中学生では、「テレビや新聞、ラジオ」が82.7%で最も高く、次いで「SNSやインターネット」が24.5%、「学校」が23.9%と続いている。

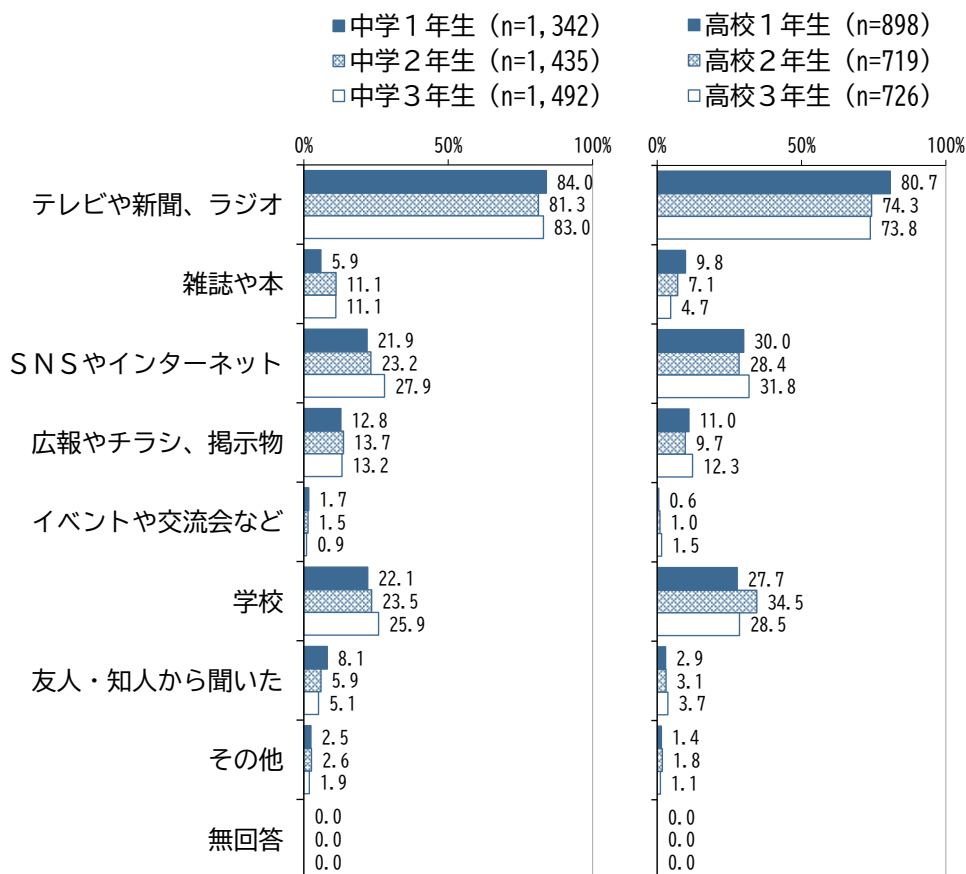
高校生では、「テレビや新聞、ラジオ」が76.6%で最も高く、次いで「SNSやインターネット」、「学校」がいずれも30.0%と続いている。

図表Ⅲ-1-91 ヤングケアラーについて知ったきっかけ(複数回答)



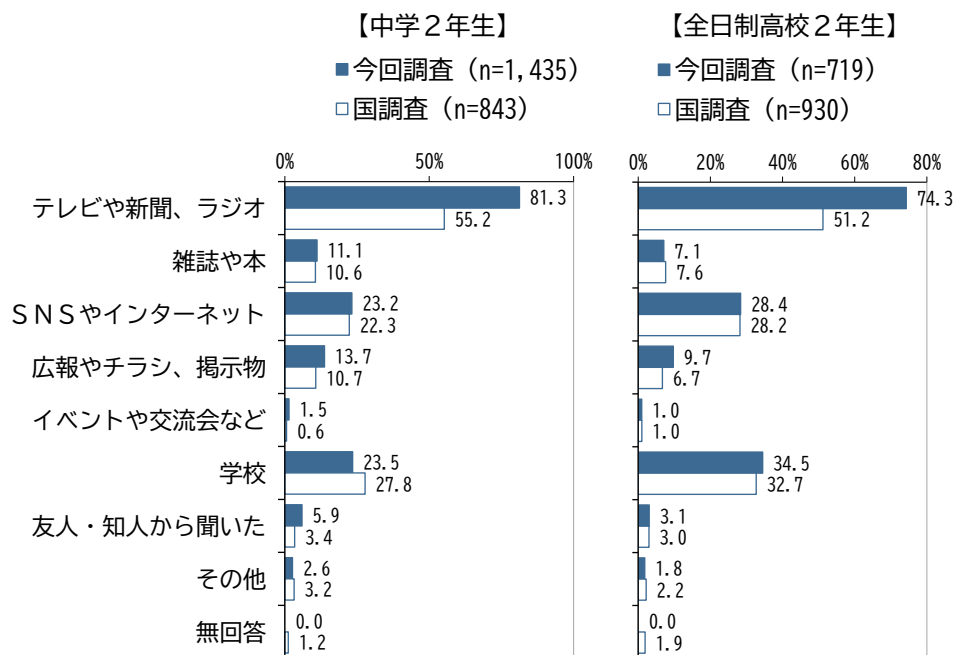
学年別にみると、すべての学年で「テレビや新聞、ラジオ」の割合が最も高く、中学1～2年生、高校2年生では次いで「学校」の割合が高く、中学3～高校1年生、高校3年生では次いで「SNSやインターネット」の割合が高くなっている。

図表Ⅲ-1-92 ヤングケアラーについて知ったきっかけ 学年別



国調査とは調査の実施時期が異なるため、参考として記載する。

図表Ⅲ-1-93 ヤングケアラーについて知ったきっかけ 国調査との比較



#### ④ 自由回答

ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや、要望等について、さまざまな自由意見が寄せられた。ここでは、その一部を紹介する。

※原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

図表Ⅲ-1-94 自由回答

<p>要望、求める支援（世話をしている家族がいると回答した生徒の意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校もヤングケアラーを理解し、クラスメイトとできるだけ勉強できるように調節する。</li> <li>・経済的な支援だと思う。サービスや世話を代わりにやってもらう人を雇うにもお金が必要だから。学校に通うにも生活をするにもお金がかかるので経済的な支援が1番いいと思う。</li> <li>・選択式のアンケートだと自分の意志にあてはまるものがない。私は家族に感謝しているし、お世話をすることに苦痛を感じていない。だからそれを理解してほしい。</li> <li>・ヤングケアラーがしていることを少しでもいいので、減らしてほしい。私の家庭の場合は、お母さんがいるのに私に家事をやらせることがあります。もし、この状態が続くと受験勉強ができなくなり、高校に行けなくなるかもしれません。私はそれがとても心配です。そして、こんな生活を送っていたせいか、自律神経失調症になってしまいました。こんな人が多くならないように、ヤングケアラーを助けてほしいです。</li> <li>・安い価格で家事などを行ってくれるサービス。バイト禁止の学校などで正当な理由があればバイトをしてもよいというルール。</li> <li>・家族のことを話せる環境がほしい。顔や名前を出さなくてもいいようなところがいい。</li> <li>・もう少し大人の人にも助けてもらいたい。</li> </ul>
<p>話を聞いてほしい、理解してほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周りの人や大人が子どもたちに目を向けて、悩んでいる人やどんなことでも相談や話を聞いたり、少しのことでも耳を傾けられるだけでうれしいから大人の人や周りの人が聞いてあげるべきだと思うし、私がそうであれば信頼できる先生に聞いてほしいから、少しのことでも聞いてほしい。</li> <li>・私は今までヤングケアラーといえる状態になったことはない。しかし、もし私がヤングケアラーだったら、他の家庭に対して劣等感（「なんで私だけこんなことをしなければいけないのか」）を感じてしまい、友達には言い出しにくいと感じるだろう。ヤングケアラーの中高生に対して、「周りに助けを求めて！」というメッセージを発するだけに留まるのはやめてほしい。もしそれができるなら既にそうしているから。こういったアンケートなどを用いて、学校や自治体といった大人のほうから積極的にヤングケアラーを認知し、関わりに行く体制を万全にしてほしい。そのためには必ずしも匿名である必要はないと思う。</li> </ul>
<p>ヤングケアラーに必要だと思う支援</p>
<p>相談体制の充実、相談しやすい・話しやすい環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たち、ヤングケアラーじゃない人が何も知らないまま励ましても、「私たちの気持ちもわかっていない」と言われると思います。だから、ヤングケアラーの人たちだけで集まれる場所を作ってあげたいと思います。（複数意見）</li> <li>・一人で抱え込む事が無いように、周りに話せる支援体制が必要だと思った。（複数意見）</li> <li>・自分がヤングケアラーだと友達や周りに言いつらい人もいると思う。そのため気軽に話せる相手(例：ヤングケアラー同士)が必要だと思う。恥ずかしいことでも悪いことでもないので普通に相談出来る場所が必要だと思う。</li> <li>・ヤングケアラーの方が相談しやすい場所、寄り添えるサポートをしてもらえる場所を作ることが大事だと思う。学校のスクールカウンセラーは相談しにくい。</li> </ul>

・周りの人間が支えようとする姿勢も大切だが、本人の相談する勇氣、または相談しやすい雰囲気が必要であると思った。
・電話とかの相談の場合でも、ヤングケアラーの方たちは時間がないと思います。
・悩みを電話でなく相談できる窓口が必要です。
・本人やその家族が本当に困っているときに、その悩み等を抱え込まずに相談できる窓口多くの人に知ってもらおうこと。『ヤングケアラー』という言葉でその人たちを縛らないこと。
・ヤングケアラーに対してのカウンセリングを実施した方がいい。
子どもたちの意見を伝えられる環境づくり、意思の尊重
・定期的なアンケートを実施したほうがよい。(複数意見)
・積極的に家に訪問をするより、このようにアンケートを取るほうが私はいいと思った。急に家に来られるとそれがトラウマになる人もいるので、大きく新聞の広告などで相談したらいいところの電話を載せておくといい。
・自分の家庭の事情については相談しにくい所があると思う。相談しにくかったら、やっぱり自分ひとりが我慢すればいいとか、自分だけ疲れてしまうような考えになるので、誰かに頼るという選択肢もあるということをもっと広めるべきだと思った。自分の家庭のことを第三者に相談することにはまだまだ抵抗がある人が多いと思うので、まずは話を聞いてもらったりすれば精神的に格段に楽になれると思う。ヤングケアラーで苦勞している人が現状を変えることを諦めてしまわないように社会全体で支えていく、一人にしないことが一番大切なのではないかと思う。
・ヤングケアラーの人達は、なかなか本当のことが言えず悩んでいたりで学校の先生なども気にかけてたり相談に乗ってあげたりするのが必要だと思います。
・アンケートや電話では話しにくい、書きにくいという人もいると思うので、気楽に自由に書き込めるLINEのアカウントを作るなど、中高生でも相談しやすい環境を作ると良いと思います。
・電話だと相談しにくいので、メールや手紙のやりとりにする。
・ヤングケアラーの方たちから話を聞いて、どんなことに困っているか、どんなことをしてほしいかを、知ることが必要だと思う。
・家庭環境について話ができる環境があるといいと思う。
・自分がヤングケアラーだと気づける環境を作ること。県のホームページなどに、簡単に支援の要請ができるフォームをつくる。また、支援の手続きなどが大変だと、援助を受けることをあきらめてしまう人が多いと思うので、何が要因となったヤングケアラーなのか、何を支援すればいいのか簡単に判断できるアンケートをそのフォームの中に入れておく。
・その子のプライドを傷つけないこと。
・ヤングケアラーの子どもを可哀想とか恵まれてないとか思わずに、その人自身を見つめてあげて欲しいです。そして、その子のしたい事や希望を聞いてからその子のためにしてあげる事が大切だと思います。
学校におけるサポートや配慮
・定期的に家庭を訪問してその家の状況を理解しておく。子どもの権利を守らなければならないと思う。
・リモートで、教育などの家庭学習が、できるようにしてほしい。
・生徒の家庭事情に踏み込みすぎると、生徒側もしんどくなると思うので、アンケートや面談を通して、その生徒がヤングケアラーに該当するかしないかを確認すると思う。また学校側が該当する生徒に過保護になりすぎないようにするのも大切だと思う。
・ヤングケアラーについて学校で話し合ったりすることが必要だと思う。また、学校に通う子どもたちに対しても、話し合いの機会を作してほしい。
・ヤングケアラーの子達は自分の時間がほんとに少なく、でもその中で睡眠時間を削って学校の課題に取り組んだり授業を受けたりしているから、鼻息しろとまでは言わないけれど、少し大目に見てあげてほしい。
・学校に行く時間が無い人は、自宅学習等ができるようなサービスを、また精神的に辛いことを抱える人

<p>は医師との相談がインターネット上や自宅でできるようにするべき。学校へ行くことができても居心地が悪い、肩身が狭い思いをすることが多いと聞いたため、そのような子が安心していられるようなクラス作り、また関わりを深め合うチャンスを与えるべき。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子高齢化が進む中、これからもヤングケアラーは増えると思います。学校に行きたくても行けず、教育を受けられない子ども達に学ぶ場所を作ってほしいです。</li> </ul>
<p>周囲の大人の理解や寄り添い</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金銭的な支援はもちろん心のケアもするべき。（複数回答）</li> <li>・ 見て見ぬふりせずに、周りの人がきちんとその人に寄り添ってあげることが必要だと思う。</li> <li>・ 周りの大人たちが協力すること。</li> <li>・ 福祉、介護、医療、教育などの現場でヤングケアラーに関する研修などを実施する。</li> </ul>
<p>その他支援の充実等</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金銭的補助・募金活動。（複数意見）</li> <li>・ 福祉サービスの充実、介護人材の育成。（複数意見）</li> <li>・ 介護職の処遇改善。（複数意見）</li> <li>・ ボランティアの活用。（複数意見）</li> <li>・ 働き方改革の推進。（複数意見）</li> <li>・ 自分がヤングケアラーだと気づいていない子どもが多いので、まずはヤングケアラーの子を見つけあげることが大切だと思います。（複数意見）</li> <li>・ ヤングケアラーがどのくらいの人数いるかなどの現状を知ることが必要だと思う。（複数意見）</li> <li>・ どのようにすれば支援を受けれるのかを知れるなにかがいます。</li> <li>・ 子どもに対しての支援はもちろん、ヤングケアラーの世話対象となっている大人に対しての支援も必要だと思う。</li> <li>・ ヤングケアラーを支援するための制度をもっと地方自治体や国が周知するべき。自分が該当者であることに気づかないまま生活する人が多いから。また、高校で大学の奨学金を紹介してくれるのと同じように、小学校や中学校でも、支援制度の紹介をするべき。義務教育の時点で苦しんでいる人も多いと思う。</li> </ul>
<p>ヤングケアラーの普及啓発に向けて必要なこと</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヤングケアラーについて、よく知ってもらうことが大切。（複数意見）</li> <li>・ どこからがヤングケアラーになるのか、もう少し明確に示してほしい。（複数意見）</li> <li>・ 国や県だけでは全国各地のヤングケアラーひとり一人を確認していくことは大変難しく現実的でないと思う。だからこそ、身近にいる友達や先生、近所の人とか周りの人達に相談をしたり出来る環境にしていくために、広めることが大事だと思う。学校の授業などで行うスマホ教室のように、ヤングケアラーとかについて扱う授業や講演みたいなのが学校であるといいかもしれない。私はたまたまテレビやネットで言葉を聞いたが、普段あまりテレビ等を見ない人や、詳しい内容がよく分からず、言葉だけを知っている私のような人でも学校の授業のひとつとしてやることで初めて知ることもあるのではないかなと思う。国や県、地域等がやっているヤングケアラーへの支援等を私はまったく分かりませんが、学校の先生を始めとする大人に対しての講演や研修を行って、大人に理解を深めてもらうことで、私たち子どもにも情報を広めてほしい。周りには私が気づかず、知らないだけで、もしかしたら、クラスにヤングケアラーの子がいるのかもしれない。</li> <li>・ ヤングケアラーとはどのようなことをしている子どもに当てはまるか、ヤングケアラーの方が普段どのような生活をしているかなどをきちんと説明することがヤングケアラーであることの自覚を持たせ、ヤングケアラーの方以外の人にもヤングケアラーの方が普段どのようなことに困っているかを理解してもらうことが必要だと思う。</li> <li>・ ヤングケアラーについて知ったのはCMです。身の回りにもこういう人がいるかもしれないと思いました。国や地域のサポートも大事ですが、周りの人のサポートや理解もヤングケアラーの人の大きな助けになると思います。自分がヤングケアラーの立場なら周りにあまり知られたくないなと思います。相談</li> </ul>



<p>もしづらい気がします。でも勇気を出して相談してくれた時理解して、力になってあげたいし、大変な思いをしてるなら気づけたらいいと思います。まずは存在をいろんな人が知る事が大事だと思うのでポスターなどで広めていったらいいと思いました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の同級生の子でヤングケアラーではないのかな？と思う子がいました。でも本人は当たり前のことだと思っていて周りが普通じゃないと言っても、そう？と言うだけでした。自分がヤングケアラーだということを感じる機会を作ることは大切なのかな？と思います。</li> </ul>
<p>その他の意見</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・核家族だったり、両親共働きなのが原因だと思う。解決するのは難しいと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的な意見だけど、子どもの成長に繋がりそうだから、そんなに支援とかしなくてもいいと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・私はヤングケアラーではないけれど、そういう子たちを救いたいとも思う。でも、子どもだから何もできない。だからこそ、経済力のある人たちに支援をしてほしいなと思う。自分はその子の代わりになれるわけでもないから、救える事ができないから、何もできないからつらい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・きょうだいの世話をたまにするだけでヤングケアラーだと言っている人がいて、本当に自分の時間が取れないヤングケアラーまで、支援が行き届かないことがあるのでは、と心配。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずはとにかく1秒でも早く公共機関などに相談することが必要だと思います。</li> </ul>



## 2 調査結果(追加分析)

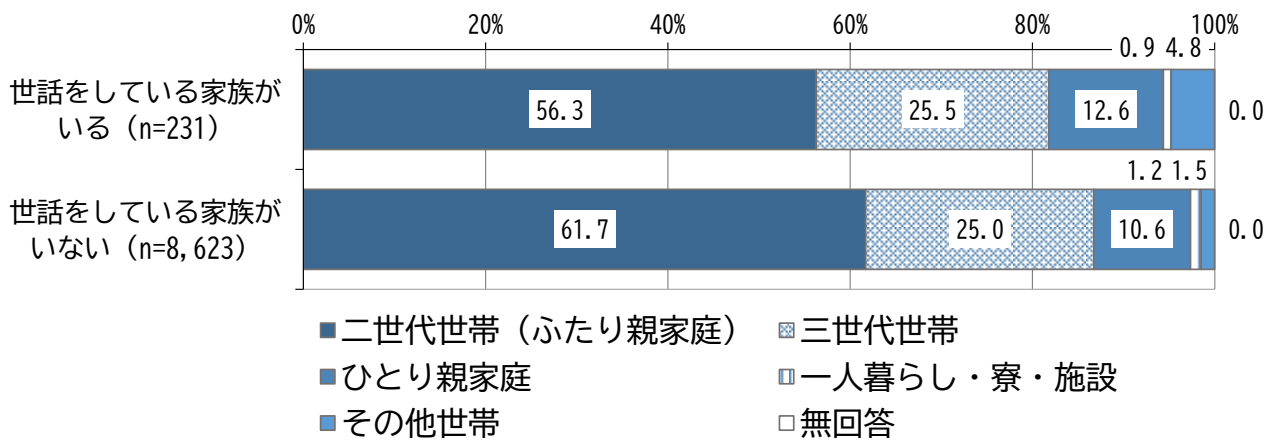
追加分析については、一部を除き中学生、高校生の合計による集計としている。

### (1) 家族の世話の有無による学校生活などの状況

#### ① 家族の世話の有無×家族構成

家族構成については、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「その他世帯」の割合が高くなっている。

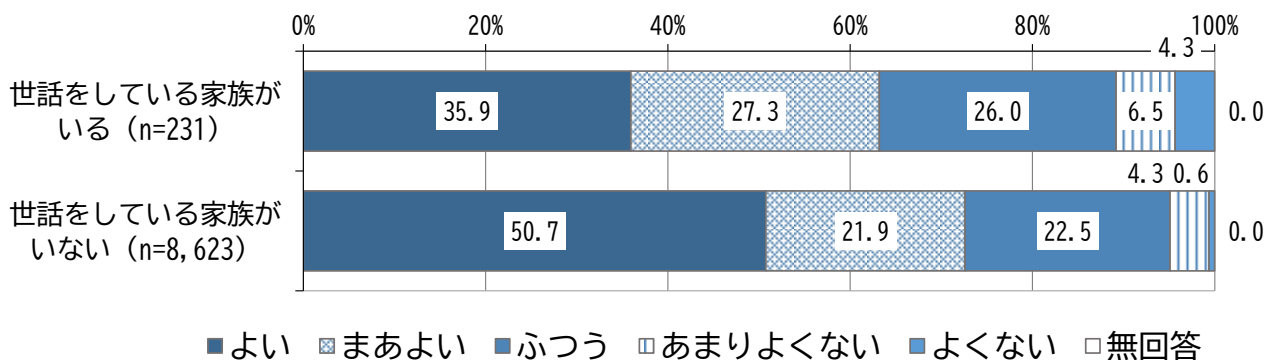
図表Ⅲ-2-1 家族の世話の有無×家族構成



#### ② 家族の世話の有無×健康状態

健康状態については、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、『よい』(「よい」と「まあよい」の合計)の割合が低くなっている。

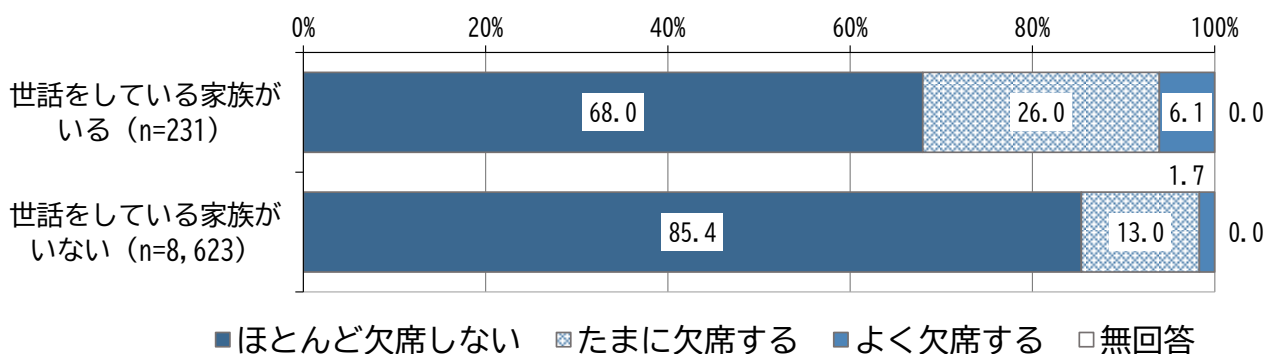
図表Ⅲ-2-2 家族の世話の有無×健康状態



### ③ 家族の世話の有無×出席状況

出席状況については、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「たまに欠席する」、「よく欠席する」の割合が高くなっている。

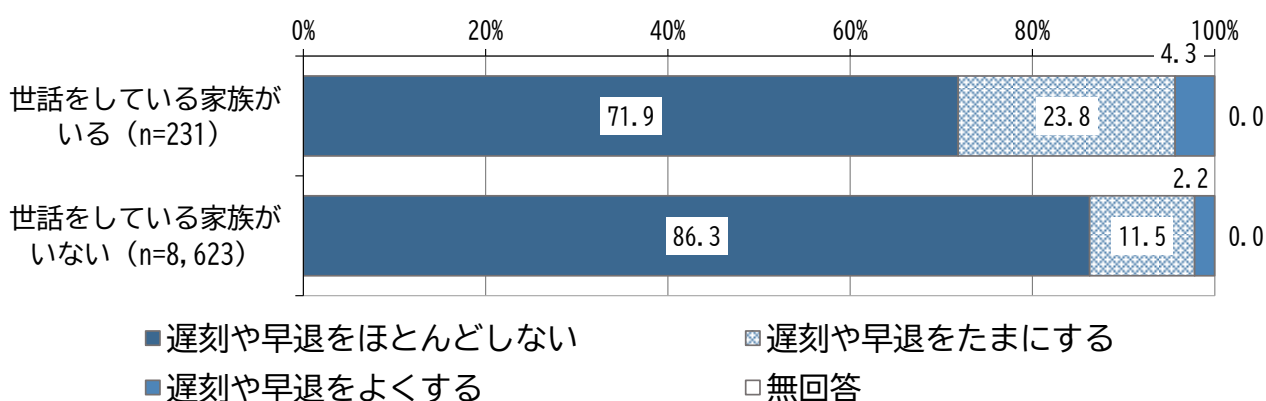
図表Ⅲ-2-3 家族の世話の有無×出席状況



### ④ 家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

遅刻や早退の状況については、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「遅刻や早退をたまにする」、「遅刻や早退をよくする」の割合が高くなっている。

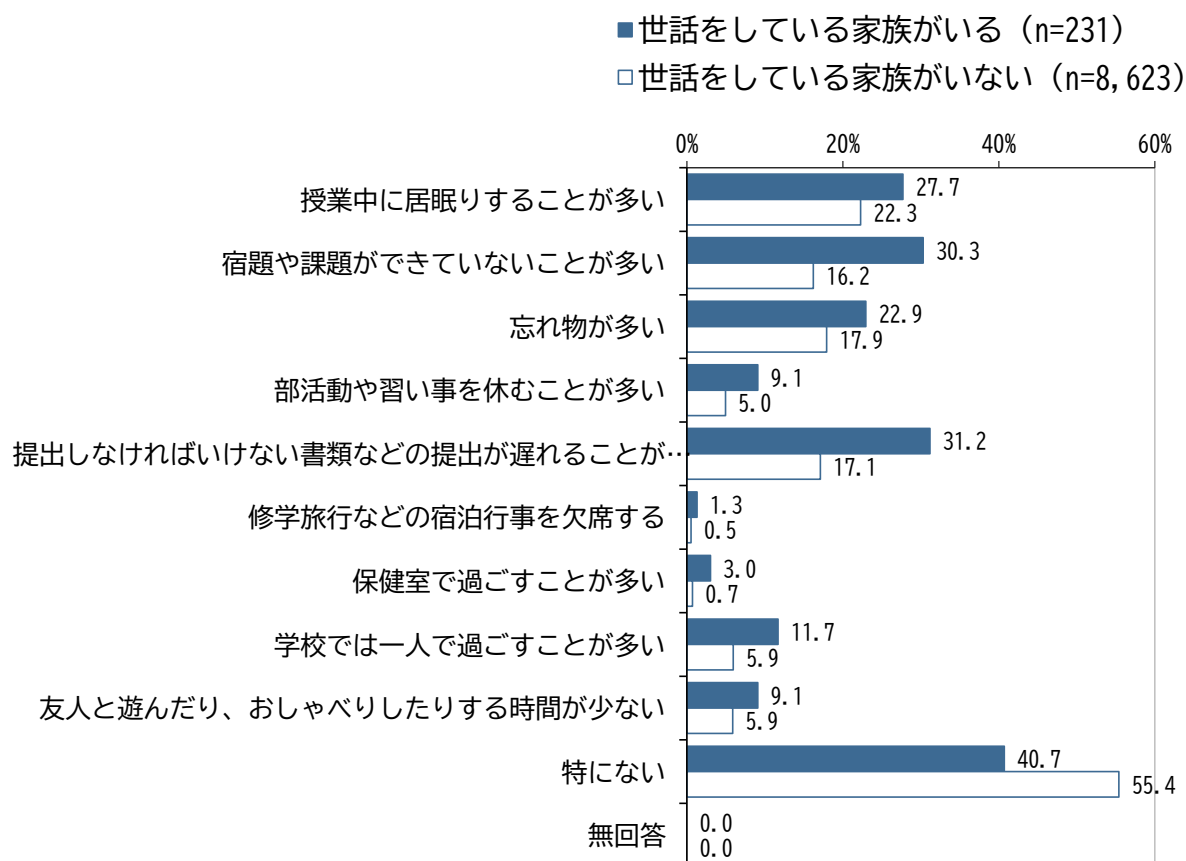
図表Ⅲ-2-4 家族の世話の有無×遅刻や早退の状況



⑤ 家族の世話の有無×学校生活等であてはまること

学校生活等であてはまることについては、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「特  
にない」以外の全ての項目で割合が高くなっている。

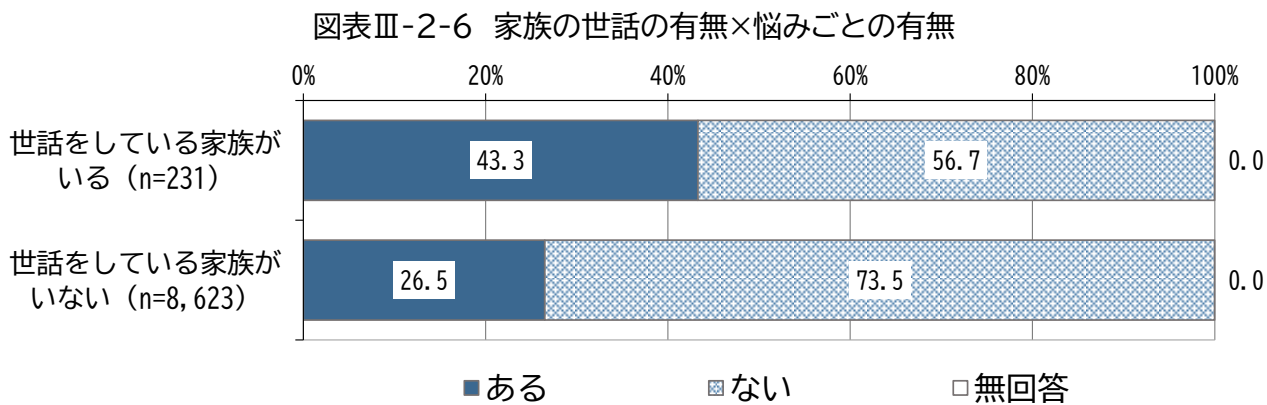
図表Ⅲ-2-5 家族の世話の有無×学校生活等であてはまること(複数回答)



⑥ 家族の世話の有無×現在の悩みごと

i) 家族の世話の有無×悩みごとの有無

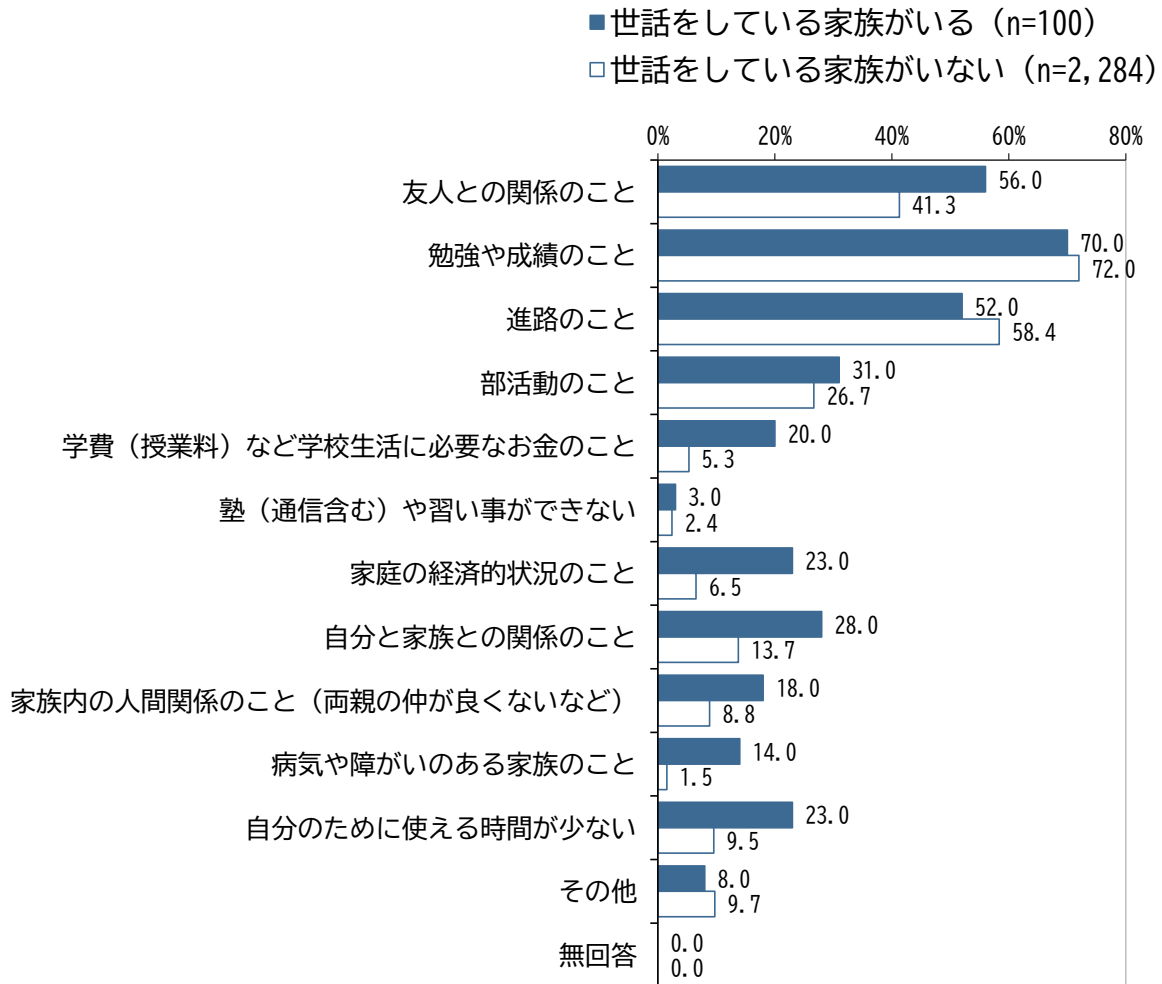
悩みごとの有無については、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「ある」の割合が高くなっている。



ii) 家族の世話の有無×現在の悩みごと

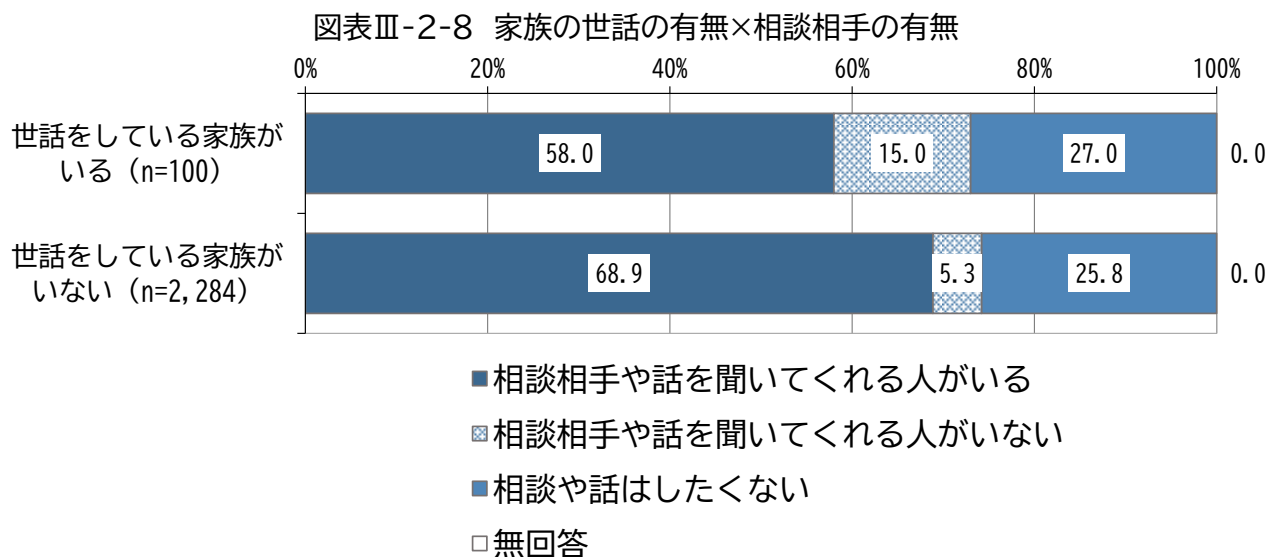
現在の悩みごとについては、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「勉強や成績のこと」、「進路のこと」、「その他」以外の項目で割合が高くなっている。

図表Ⅲ-2-7 家族の世話の有無×現在の悩みごと(複数回答)



### ⑦ 家族の世話の有無×相談相手の有無

相談相手の有無については、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」の割合が高くなっている。

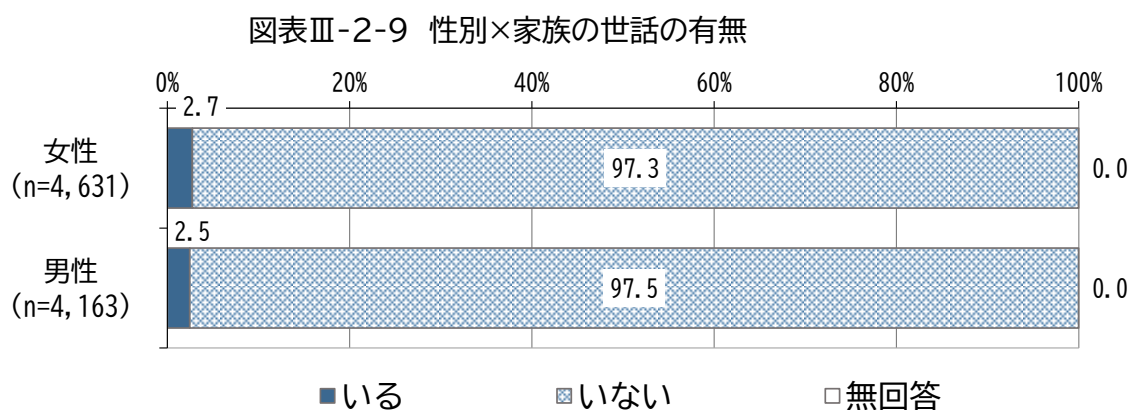


## (2) 性別による世話の状況の違い

性別について、「その他」という回答はサンプル数が少ないためクロス集計では対象外とする。

### ① 性別×家族の世話の有無

世話をしている家族の有無については、性別による大きな差はみられない。



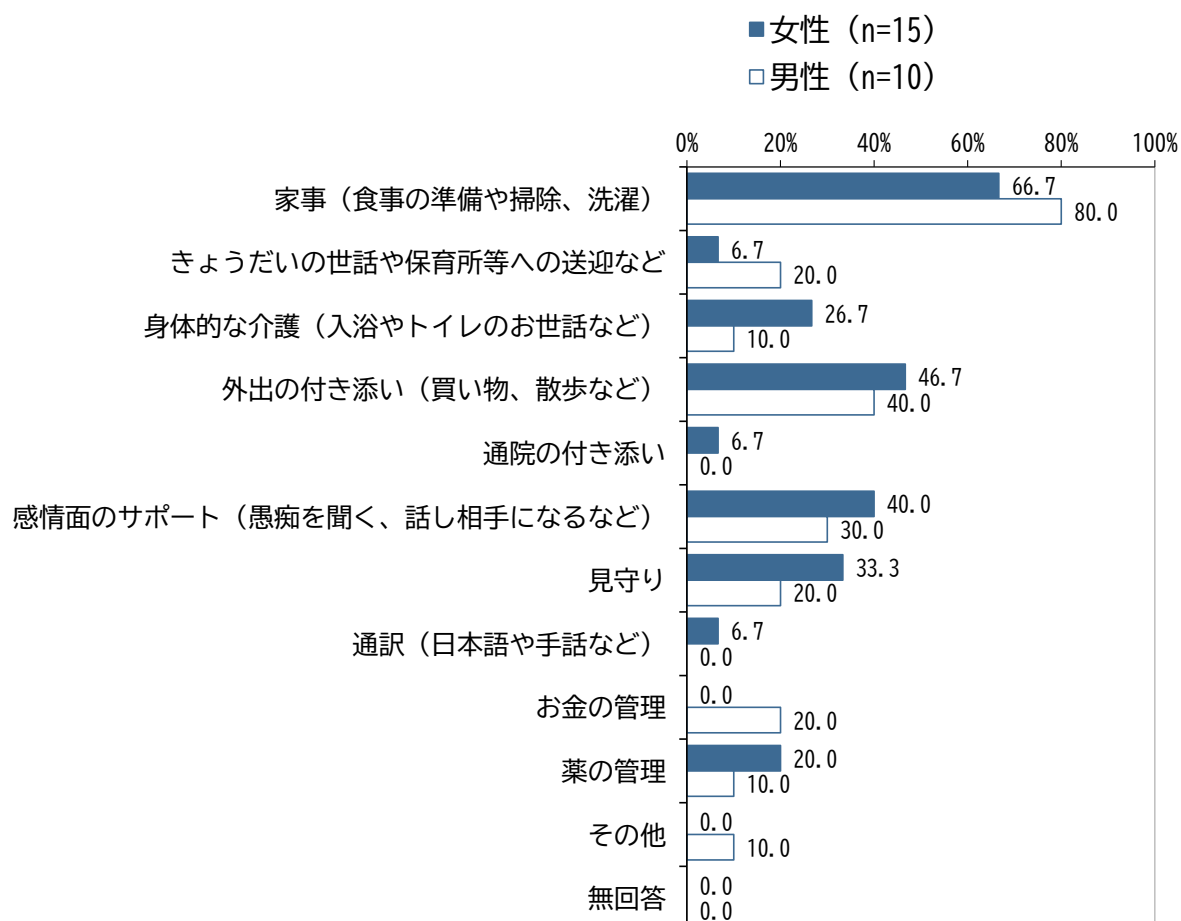
## ② 性別×世話の内容

### i) 性別×父母への世話の内容

父母への世話の内容については、女性、男性いずれも「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が最も高く、次いで「外出の付き添い(買い物、散歩など)」の割合が高くなっている。

また、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」、「お金の管理」、「その他」では、女性に比べて男性の割合が高くなっている。

図表Ⅲ-2-10 性別×父母への世話の内容(複数回答)

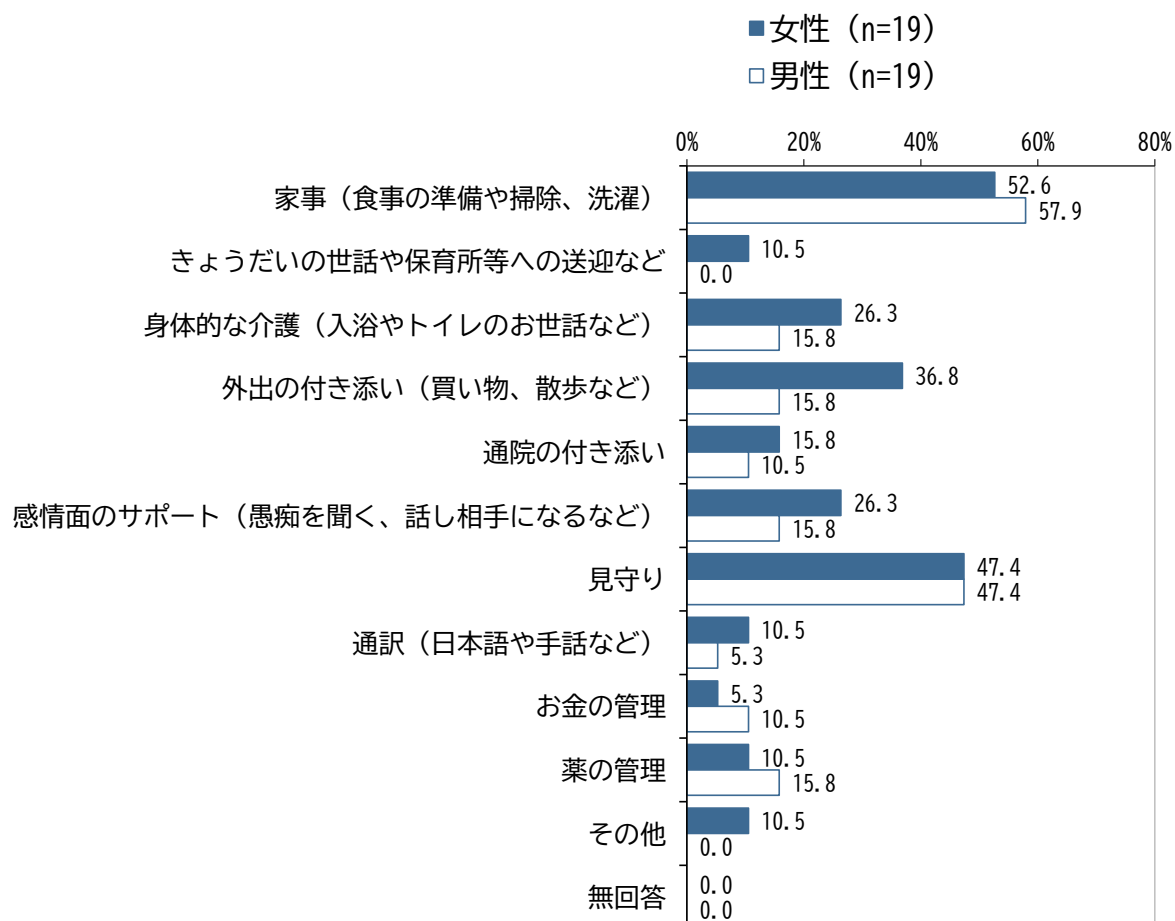


ii)性別×祖父母への世話の内容

祖父母への世話の内容については、女性、男性いずれも「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が最も高く、次いで「見守り」の割合が高くなっている。

また、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「お金の管理」、「薬の管理」では、女性に比べて男性の割合が高くなっている。

図表Ⅲ-2-11 性別×祖父母への世話の内容(複数回答)



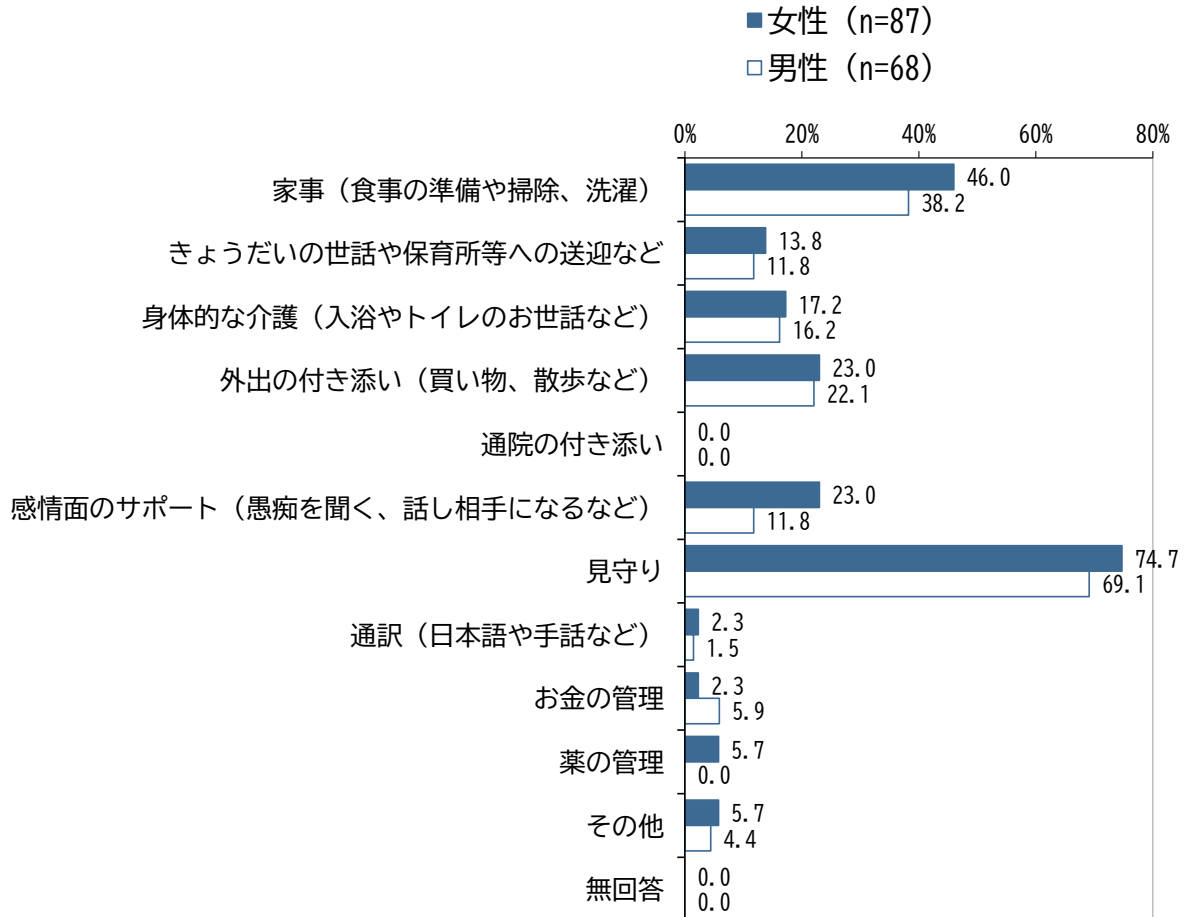


### iii)性別×きょうだいへの世話の内容

きょうだいへの世話の内容については、女性、男性いずれも「見守り」の割合が最も高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が高くなっている。

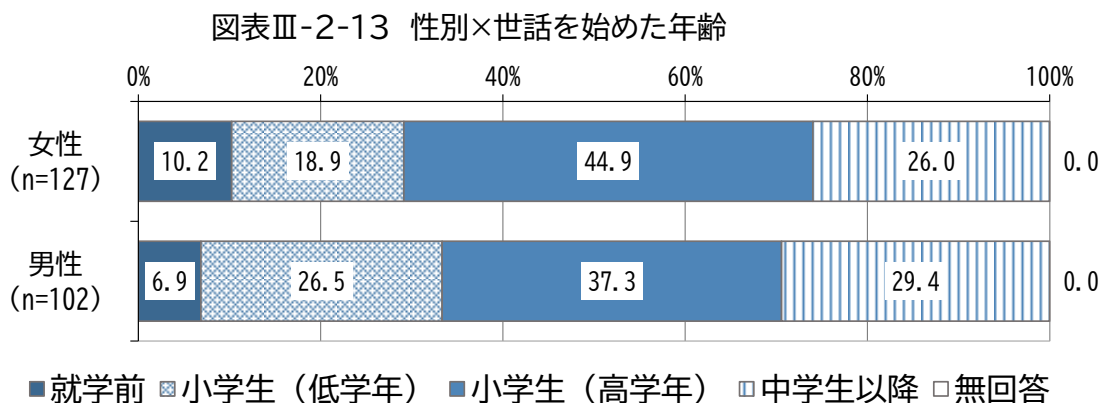
また、「お金の管理」では、女性に比べて男性の割合が高くなっている。

図表Ⅲ-2-12 性別×きょうだいへの世話の内容(複数回答)



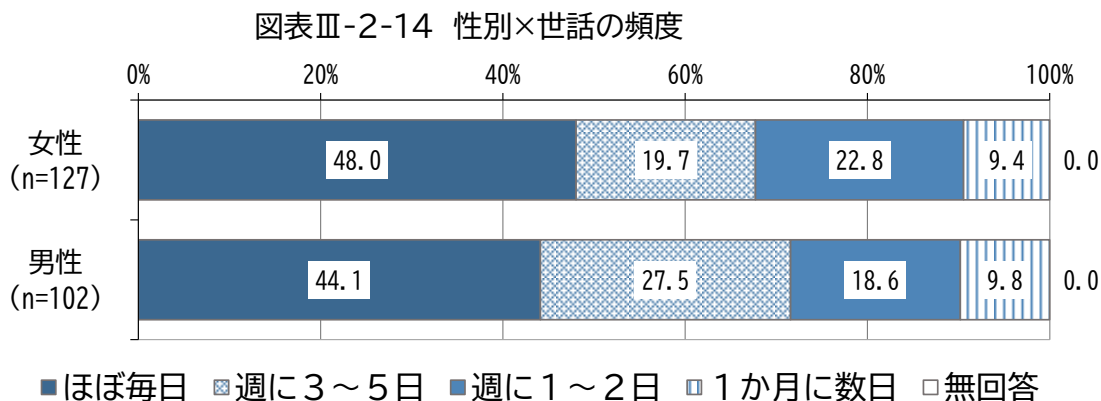
### ③ 性別×世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、女性、男性いずれも「小学生(高学年)」の割合が最も高くなっている。



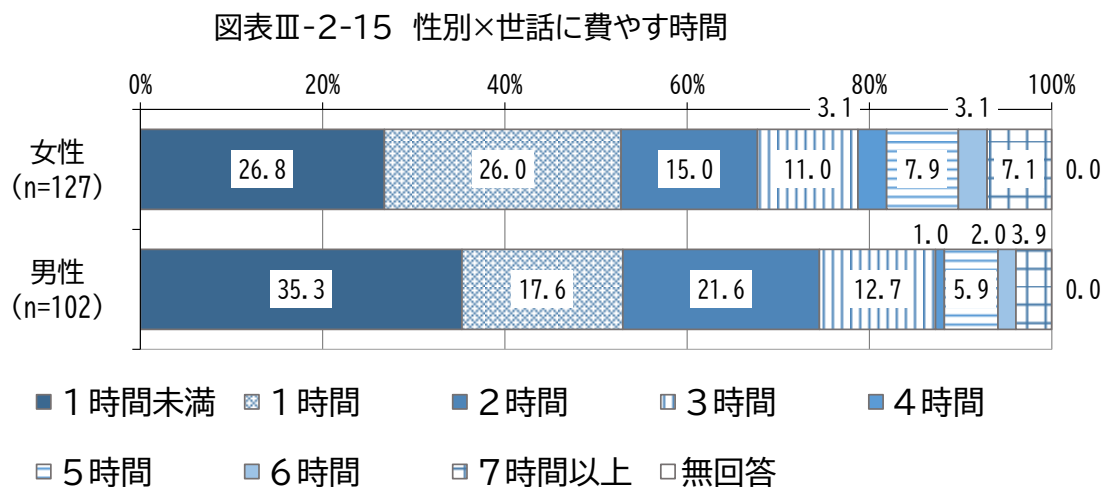
### ④ 性別×世話の頻度

世話の頻度については、女性、男性いずれも「ほぼ毎日」の割合が最も高くなっている。



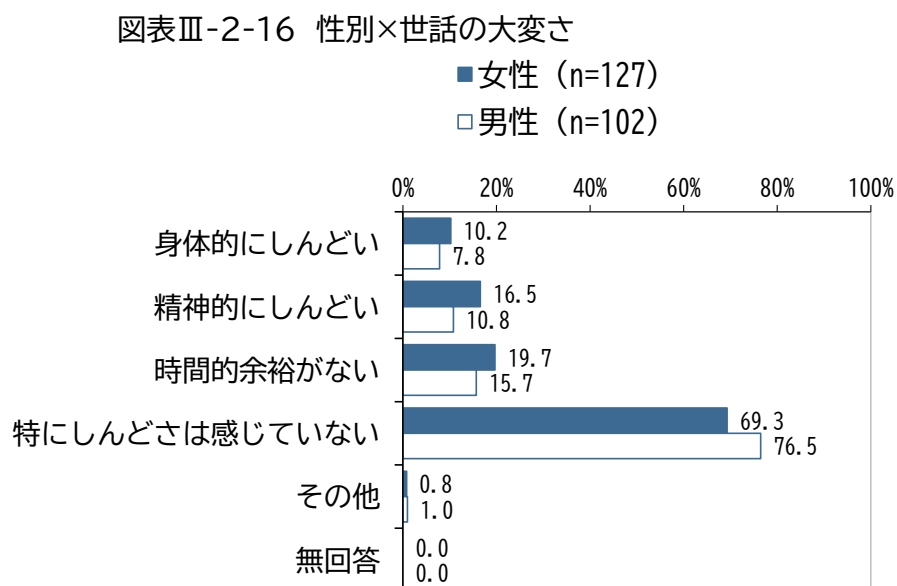
### ⑤ 性別×世話に費やす時間

世話に費やす時間について、『3時間以上』では、女性が男性に比べて割合が高くなっている。



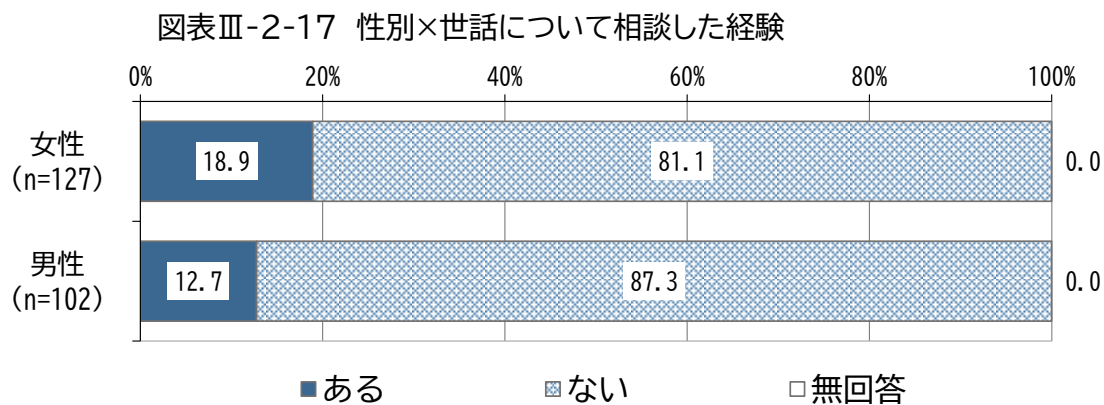
### ⑥ 性別×世話の大変さ

世話をすることで感じている大変さについては、女性が男性に比べて「身体的にしんどい」、「精神的にしんどい」、「時間的余裕がない」の割合が高くなっている。



⑦ 性別×世話について相談した経験

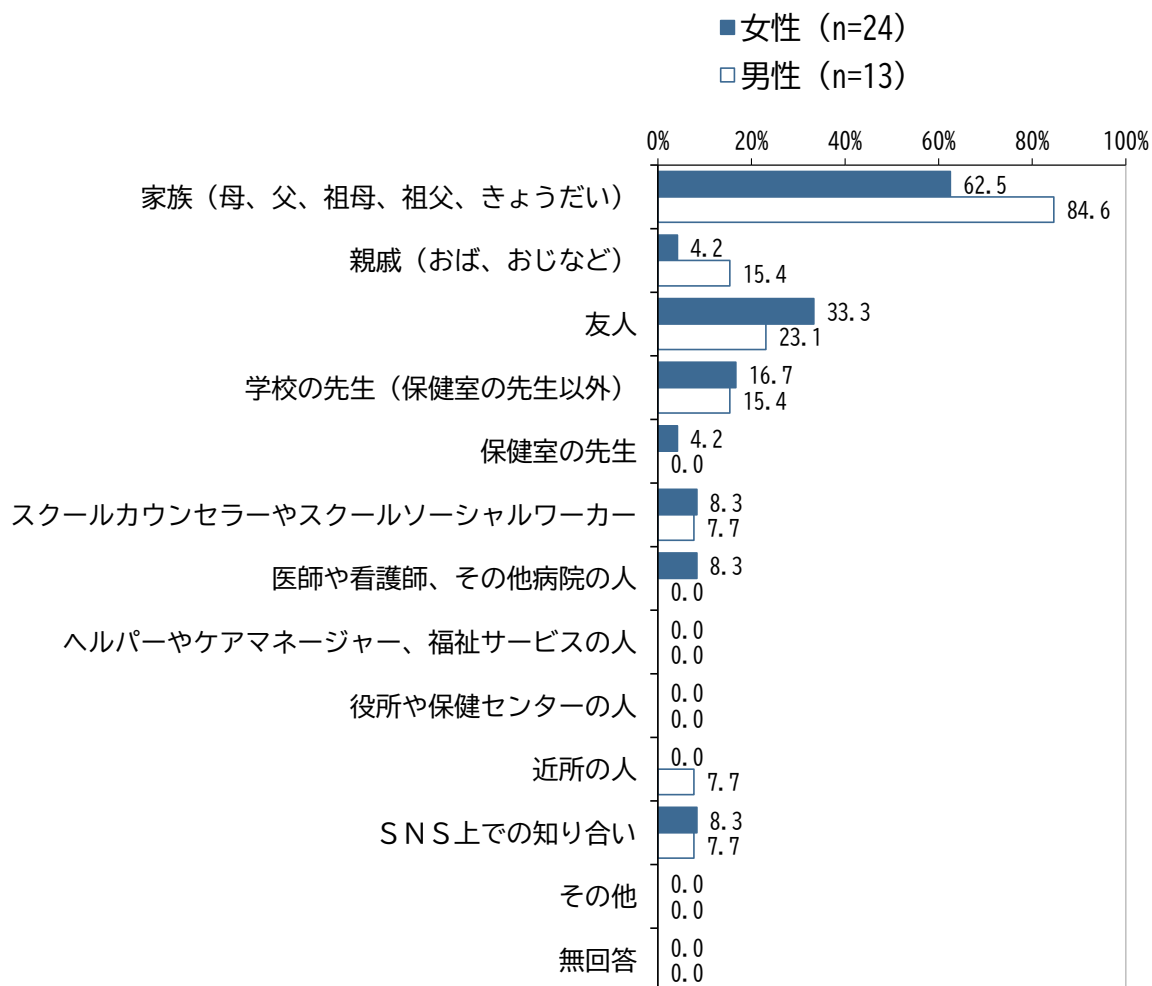
世話について相談した経験の有無については、女性が男性に比べて「ある」の割合が高くなっている。



### ⑧ 性別×世話についての相談相手

世話についての相談相手について、女性、男性いずれも「家族(母、父、祖母、祖父、きょうだい)」が最も高く、次いで「友人」が高くなっており、「家族(母、父、祖母、祖父、きょうだい)」では、男性が女性より割合が高く、「友人」では、女性が男性より割合が高くなっている。

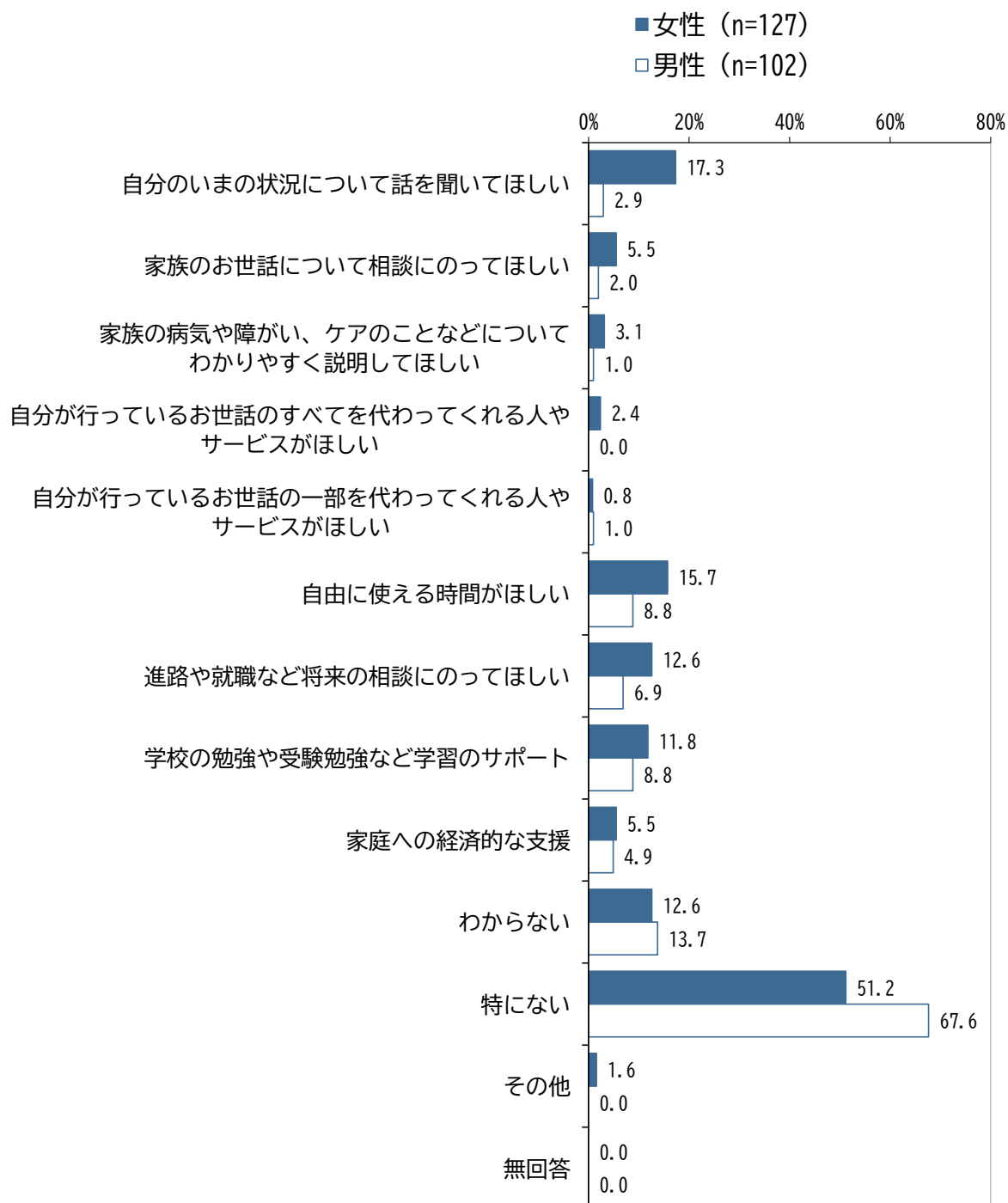
図表Ⅲ-2-18 性別×世話についての相談相手(複数回答)



### ⑨ 性別×学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについては、女性、男性いずれも「特にない」の割合が最も高く、女性では次いで「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」の割合が高く、男性では次いで「わからない」の割合が高くなっている。

図表Ⅲ-2-19 性別×学校や大人にしてもらいたいこと(複数回答)

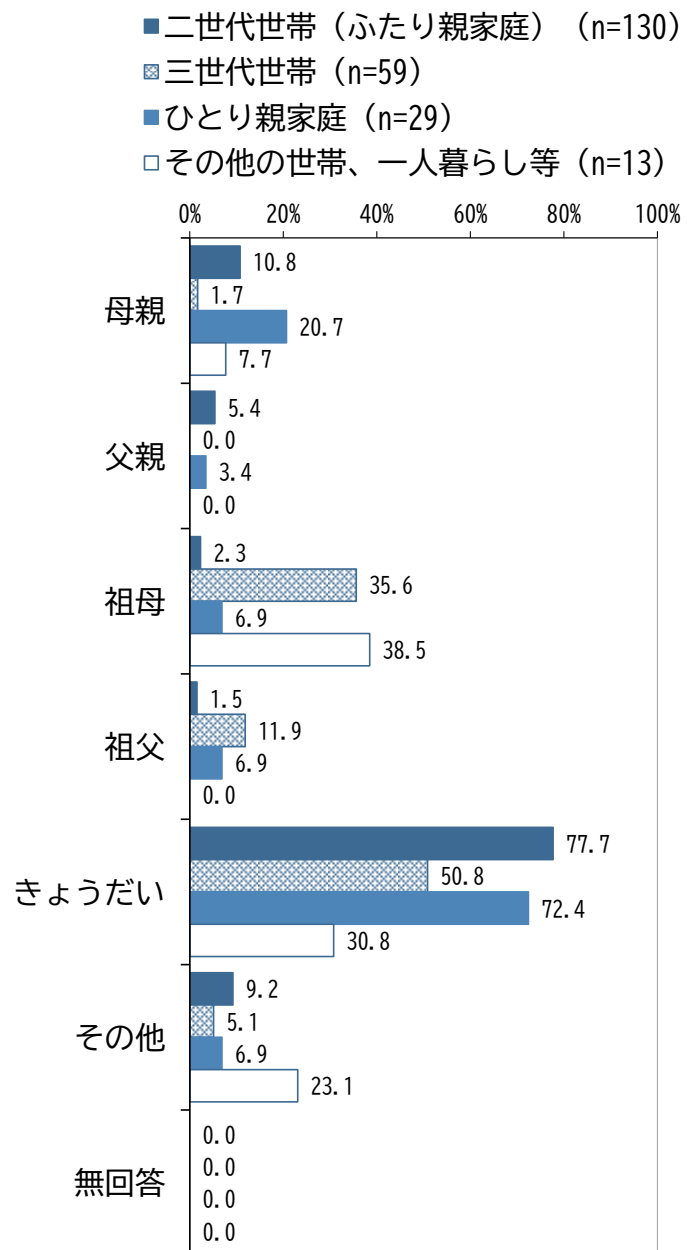


### (3) 家族構成による世話の状況の違い

#### ① 家族構成×世話を必要としている家族

世話を必要としている家族について、二世帯世帯(ふたり親家庭)、三世帯世帯、ひとり親家庭では、「きょうだい」の割合が最も高く、その他の世帯、一人暮らし等では、「祖母」の割合が最も高くなっている。

図表Ⅲ-2-20 家族構成×世話を必要としている家族(複数回答)

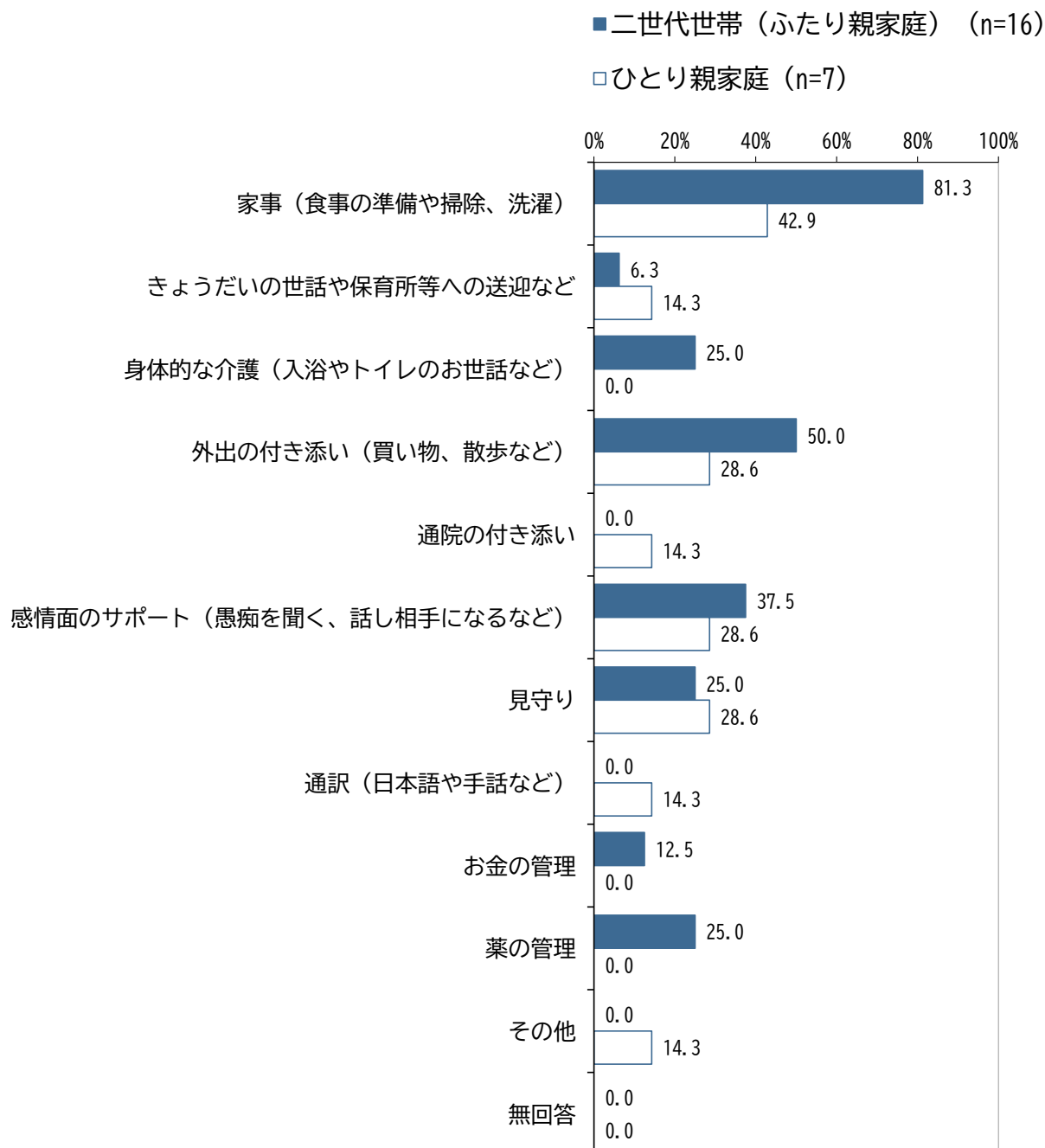


## ② 家族構成×世話の内容

### i) 家族構成×父母への世話の内容

父母への世話の内容については、二世帯世帯(ふたり親家庭)、ひとり親家庭いずれも「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が最も高くなっている。

図表Ⅲ-2-21 家族構成×父母への世話の内容(複数回答)



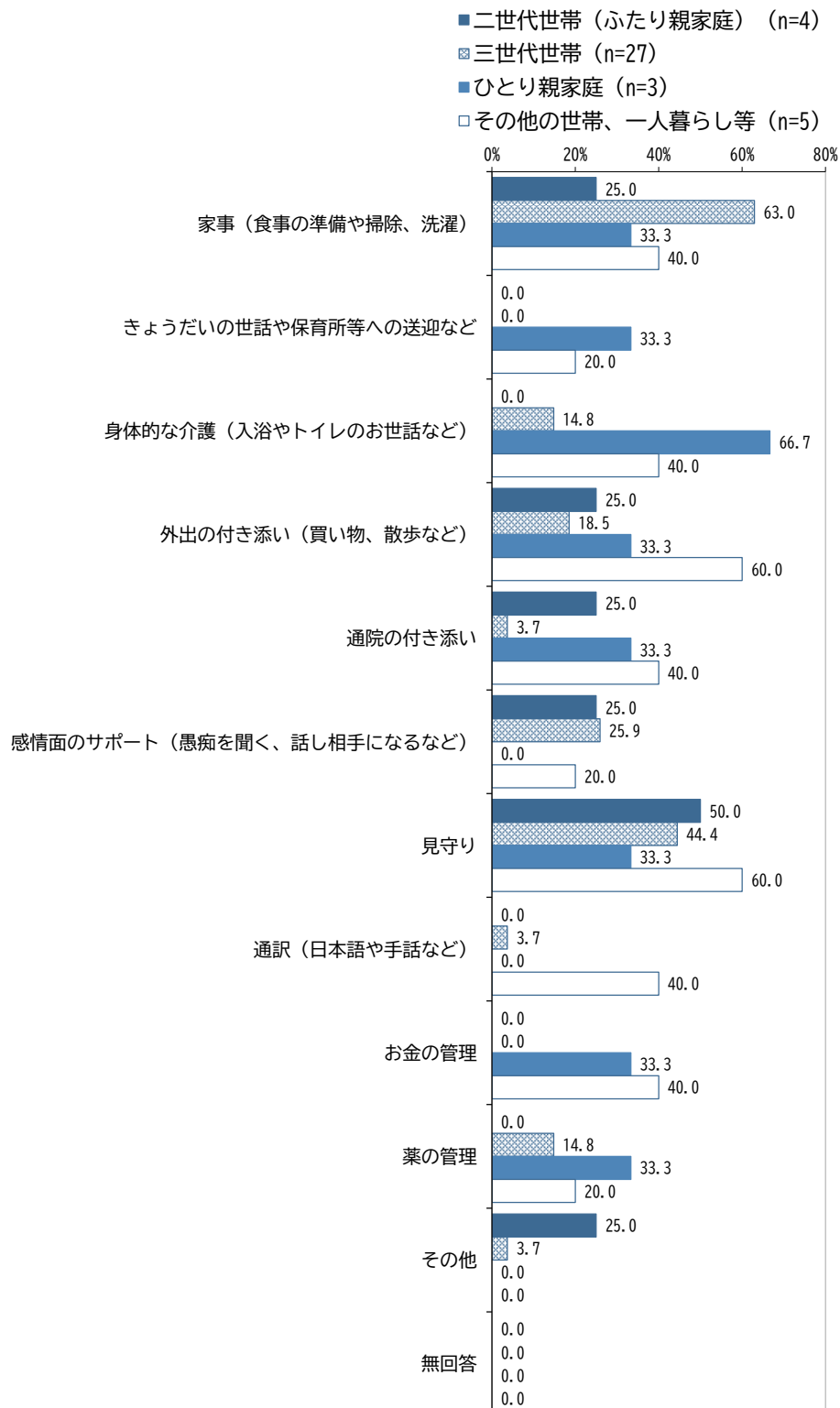
※ 「三世帯世帯」、「その他の世帯、一人暮らし等」はサンプル数が非常に少ないため掲載していない



## ii) 家族構成×祖父母への世話の内容

祖父母への世話の内容について、三世帯世帯では、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が最も高く、その他の世帯、一人暮らし等では、「外出の付き添い(買い物、散歩など)」、「見守り」が同率で最も高くなっている。

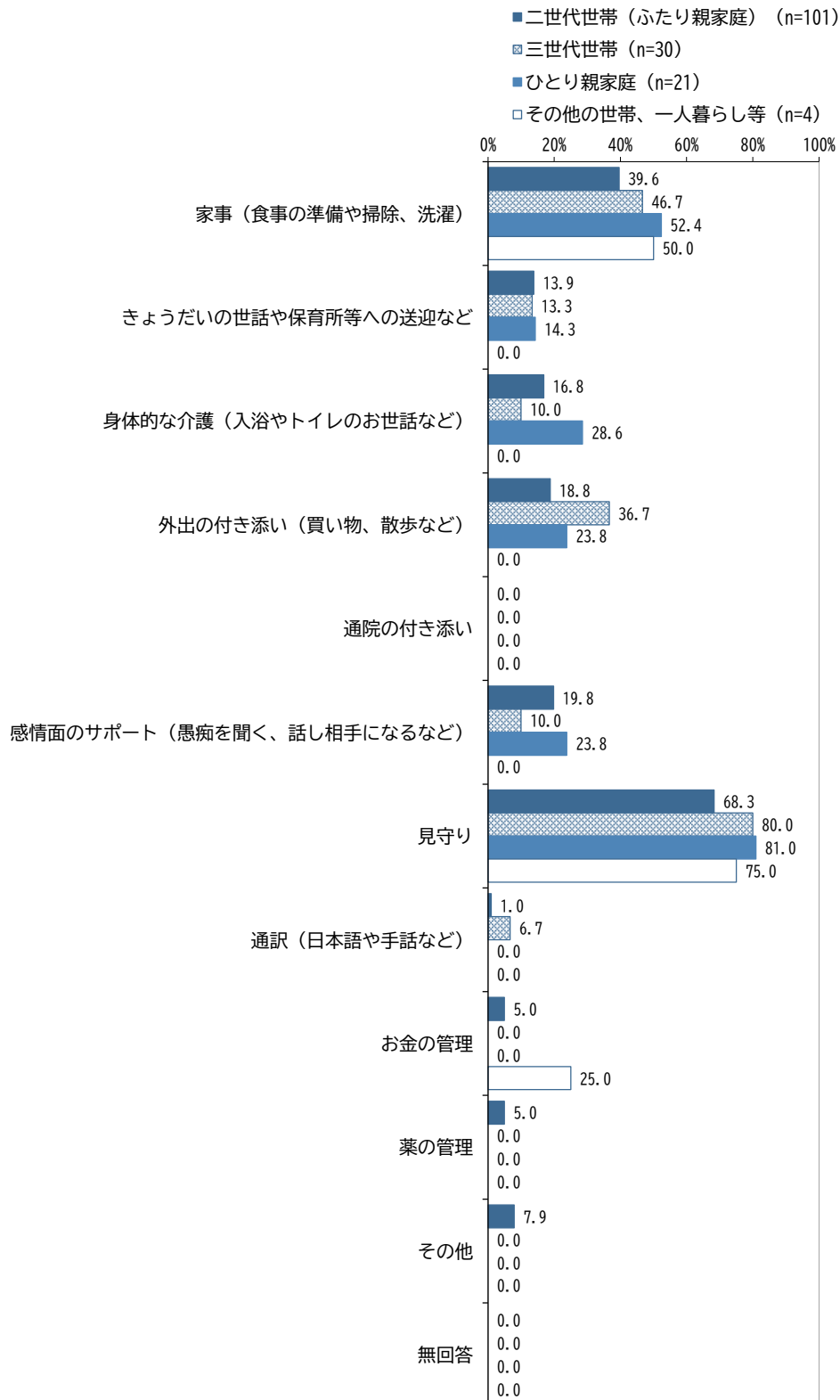
図表Ⅲ-2-22 家族構成×祖父母への世話の内容(複数回答)



### iii) 家族構成×きょうだいへの世話の内容

きょうだいへの世話の内容については、いずれの家族構成も「見守り」の割合が最も高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が高くなっている。

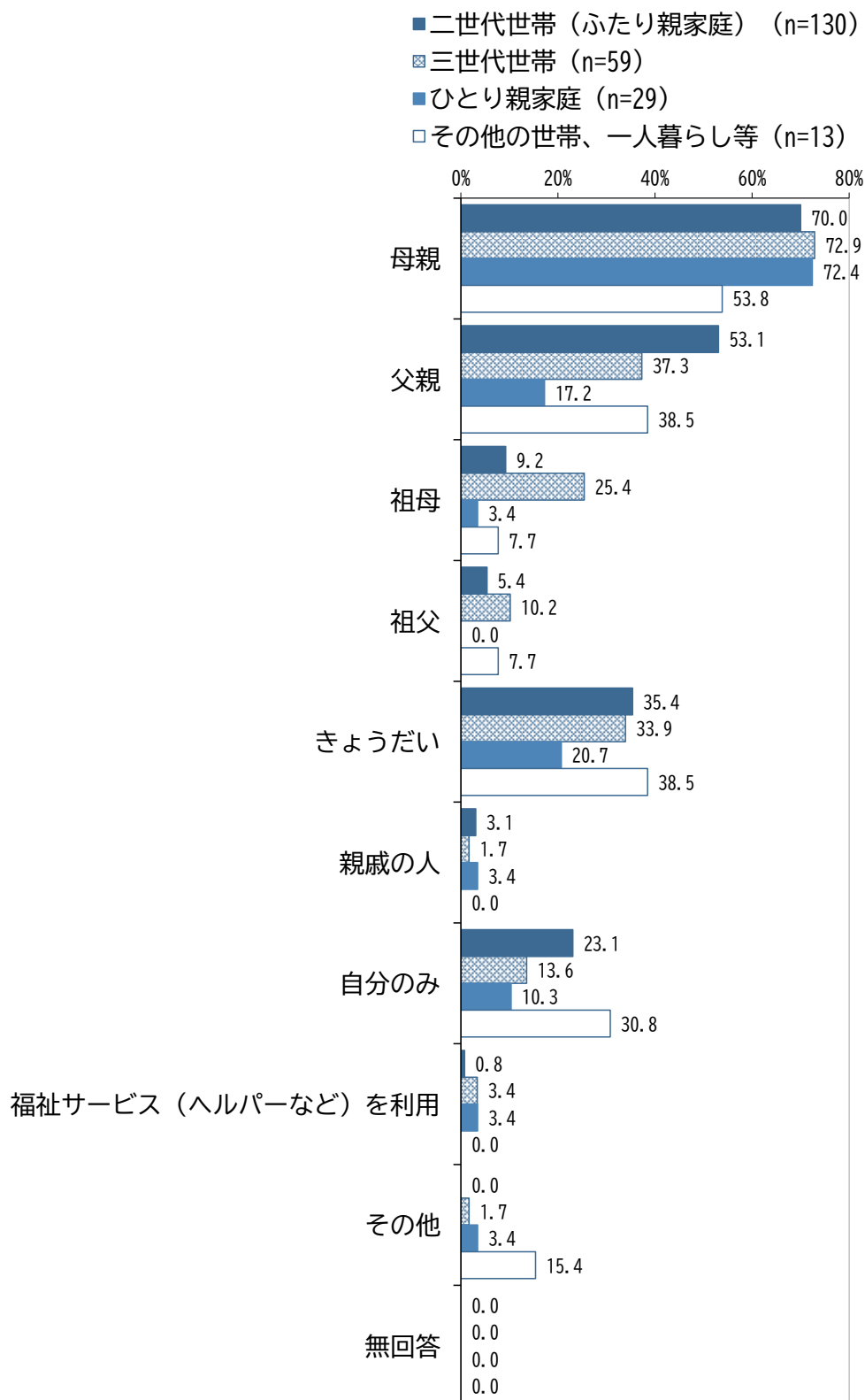
図表Ⅲ-2-23 家族構成×きょうだいへの世話の内容(複数回答)



### ③ 家族構成×世話を一緒にする人

世話を一緒にする人について、いずれの家族構成も「母親」の割合が最も高くなっており、「自分のみ」では、その他の世帯、一人暮らし等の割合が最も高くなっている。

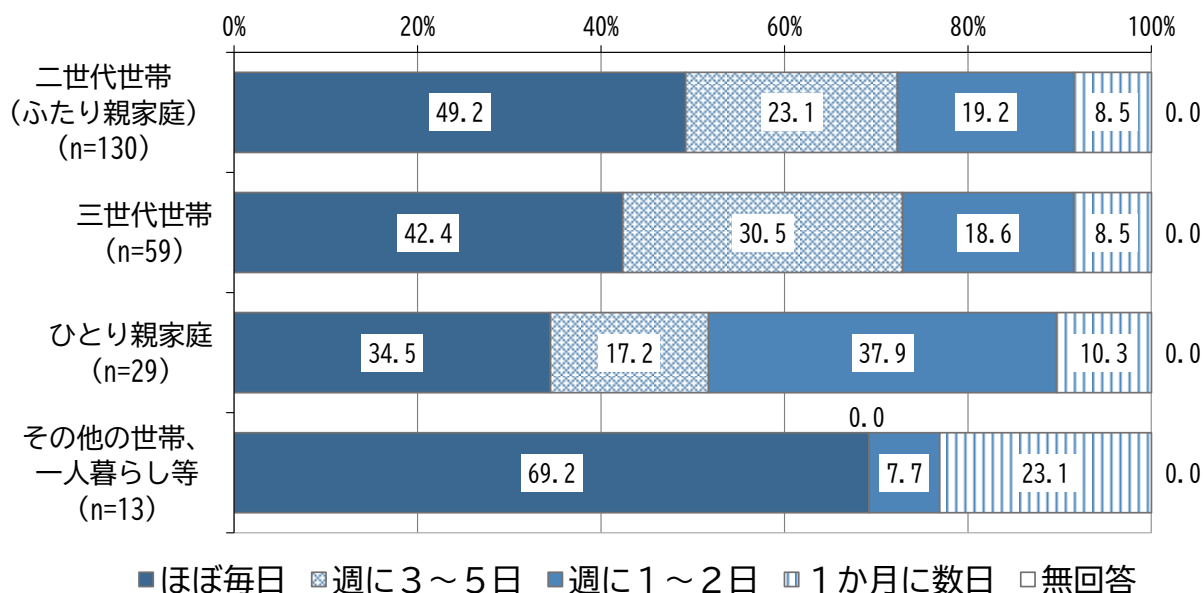
図表Ⅲ-2-24 家族構成×世話を一緒にする人(複数回答)



#### ④ 家族構成×世話の頻度

世話の頻度について、ひとり親家庭では、「週に1～2日」の割合が最も高く、それ以外の家族構成では、「ほぼ毎日」の割合が最も高くなっている。

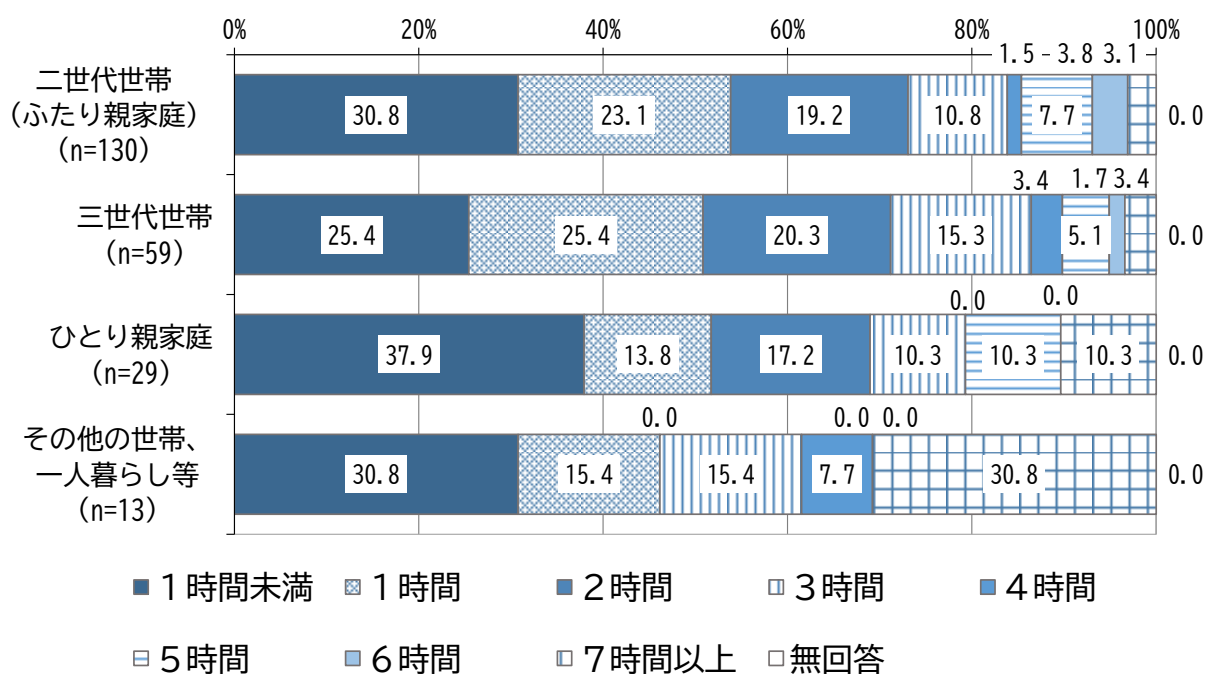
図表Ⅲ-2-25 家族構成×世話の頻度



#### ⑤ 家族構成×世話に費やす時間

世話に費やす時間について、『3時間以上』では、その他の世帯、一人暮らし等の割合が最も高くなっている。

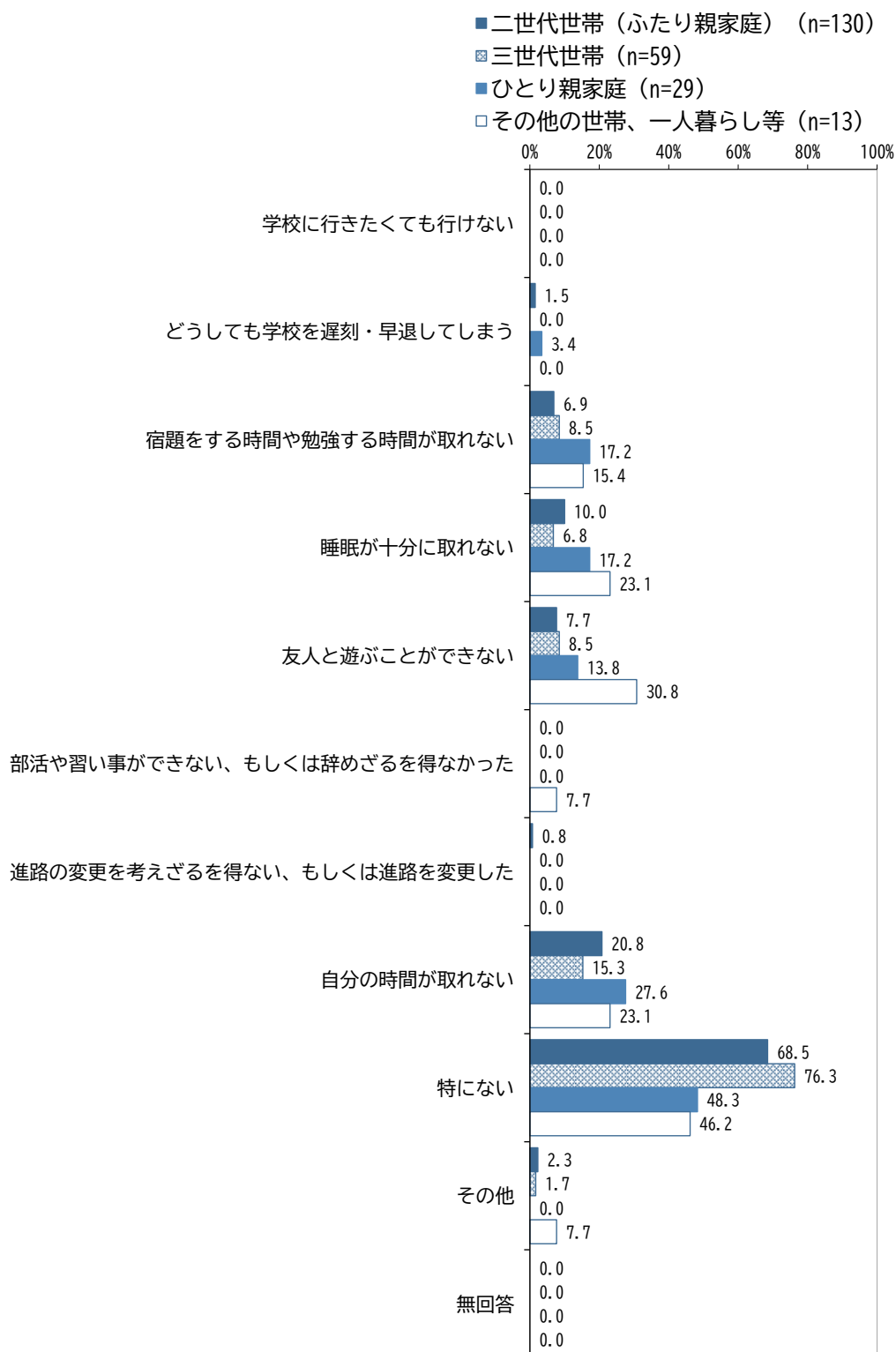
図表Ⅲ-2-26 家族構成×世話に費やす時間



### ⑥ 家族構成×世話による制約

世話による制約について、「特にない」では、その他の世帯、一人暮らし等の割合が最も低く、その他の世帯、一人暮らし等では、「睡眠が十分に取れない」、「友人と遊ぶことができない」が他の家族構成に比べて割合が高くなっている。

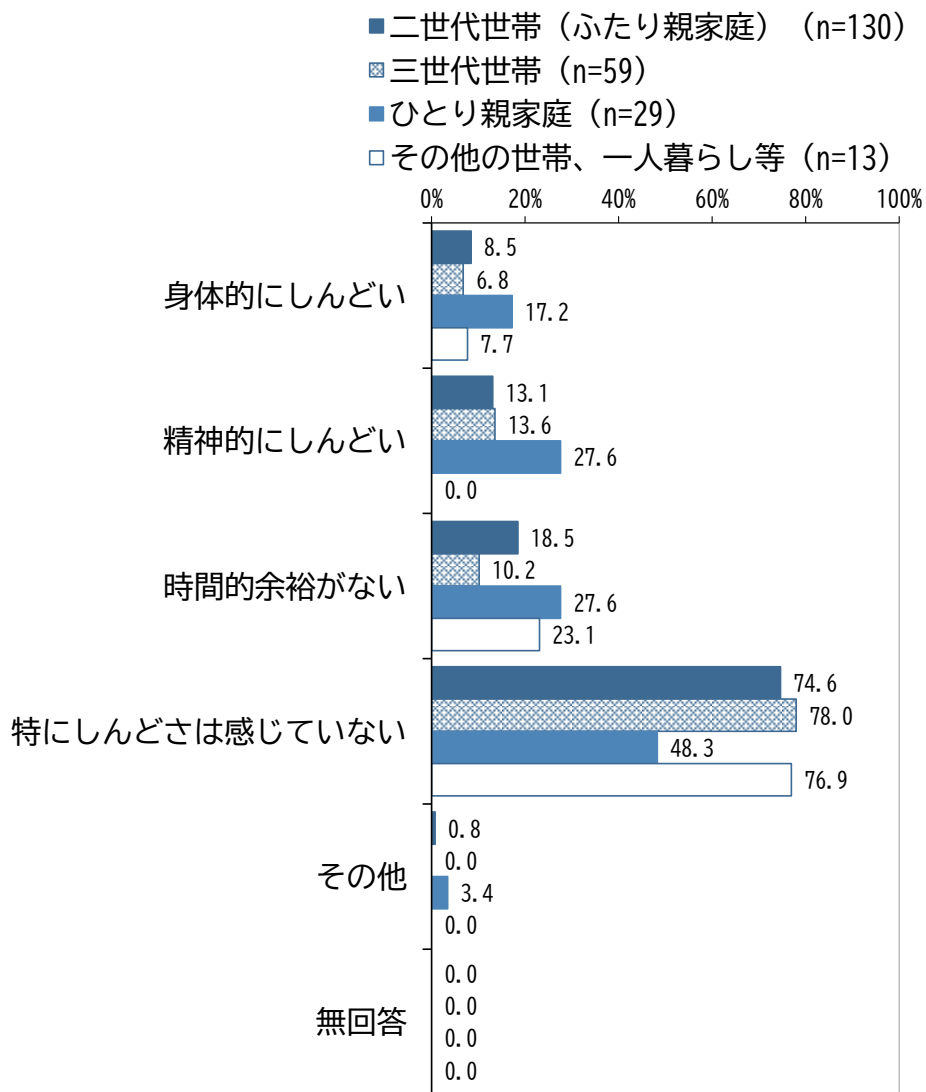
図表Ⅲ-2-27 家族構成×世話をしているためにやりたいけれどできていないこと(複数回答)



⑦ 家族構成×世話の大変さ

世話をすることで感じている大変さについて、「身体的にしんどい」、「精神的にしんどい」、「時間的余裕がない」いずれもひとり親家庭の割合が最も高くなっている。

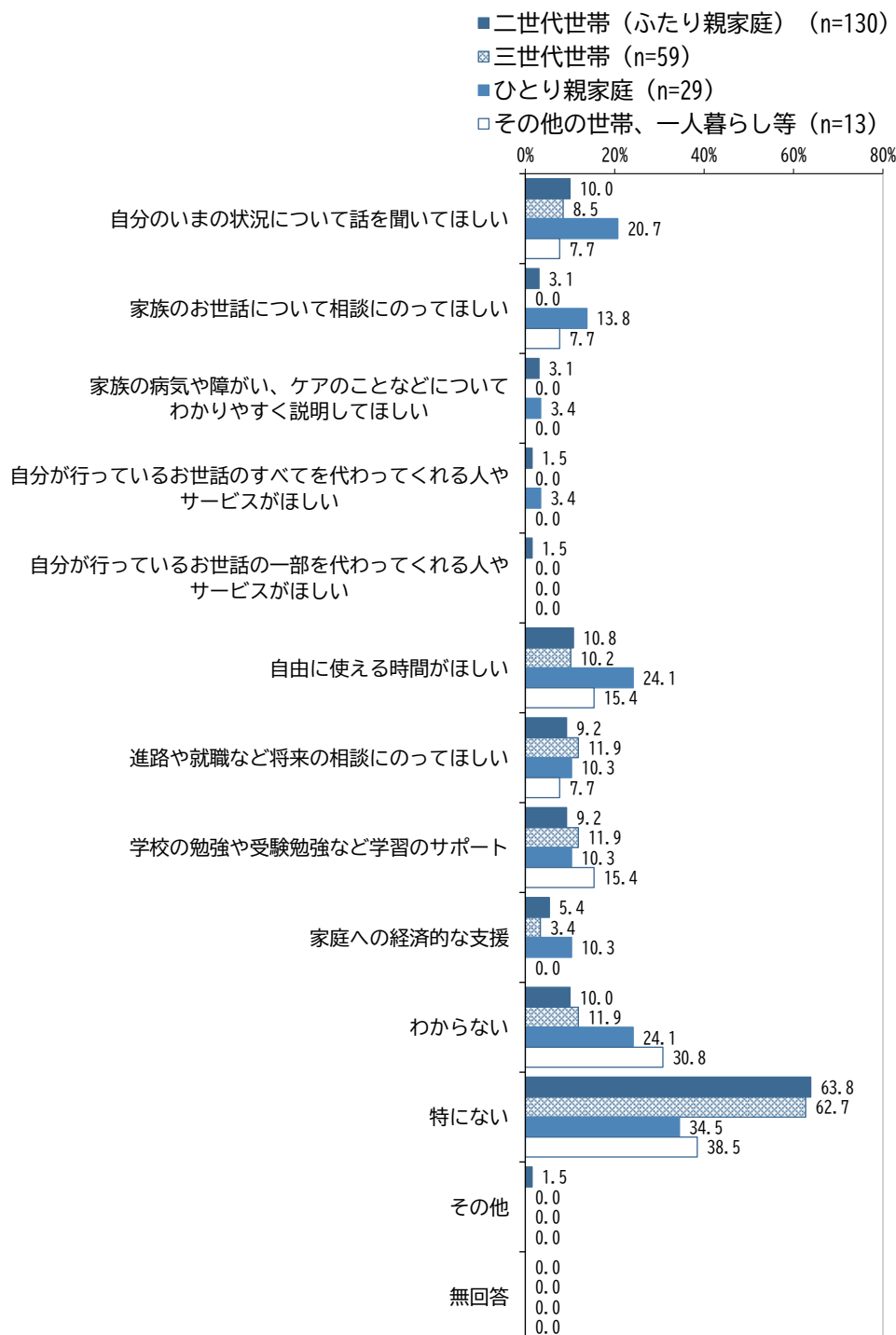
図表Ⅲ-2-28 家族構成×世話の大変さ(複数回答)



### ⑧ 家族構成×学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについては、いずれの家族構成も「とくにない」の割合が最も高く、二世帯世帯(ふたり親家庭)では次いで「自由に使える時間がほしい」の割合が高く、三世帯世帯では次いで「進路や就職など将来の相談にのってほしい」、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」、「わからない」が同率で高く、ひとり親家庭では次いで「自由に使える時間がほしい」、「わからない」が同率で高く、その他世帯、一人暮らし等では次いで「わからない」が高くなっている。

図表Ⅲ-2-29 家族構成×学校や大人にしてもらいたいこと(複数回答)

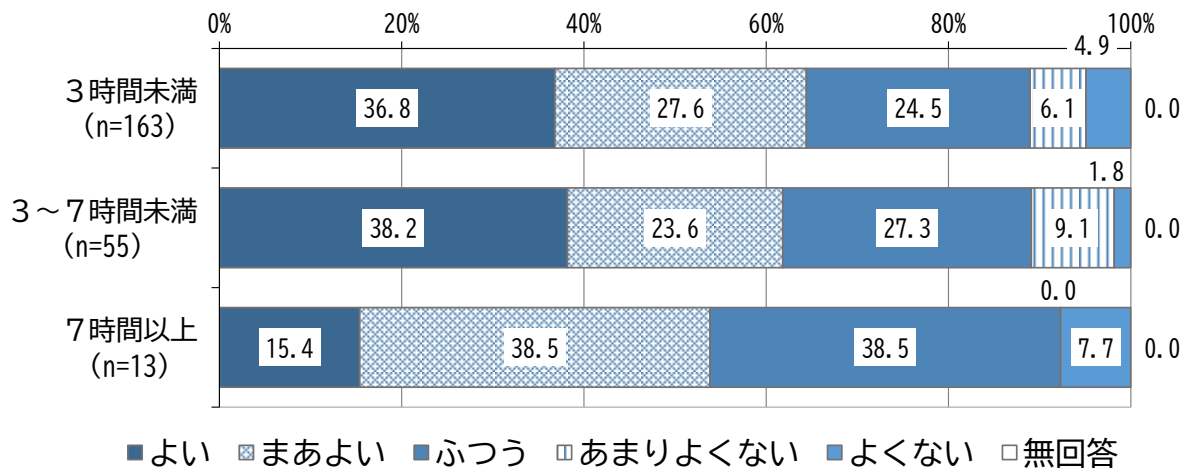


#### (4) 平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等

##### ① 平日1日あたりの世話に費やす時間×健康状態

健康状態については、世話に費やす時間が長くなるにつれて、『よい』(「よい」と「まあよい」の合計)の割合が低くなっている。

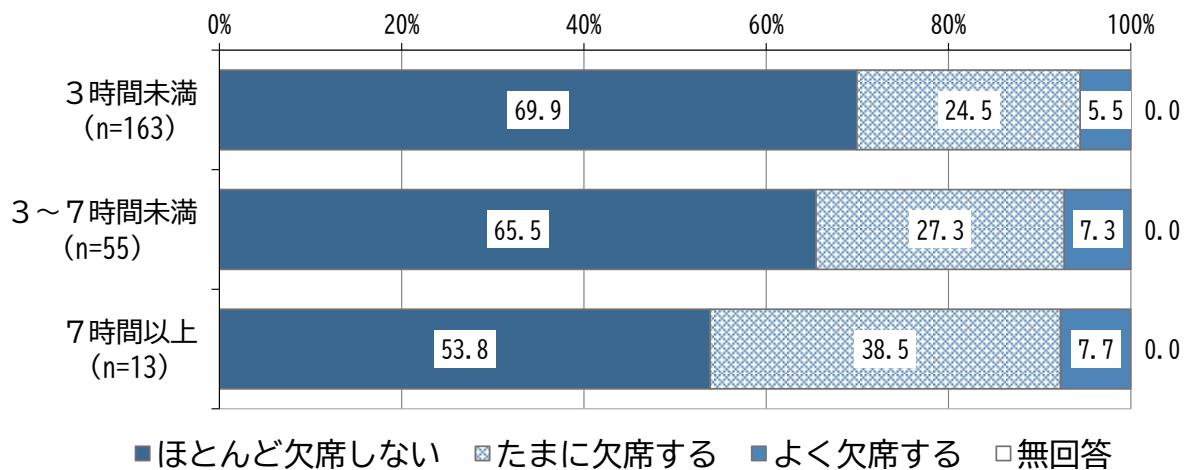
図表Ⅲ-2-30 平日1日あたりの世話に費やす時間×健康状態



##### ② 平日1日あたりの世話に費やす時間×欠席の状況

欠席の状況については、世話に費やす時間が長くなるにつれて、「たまに欠席する」、「よく欠席する」の割合が高くなっている。

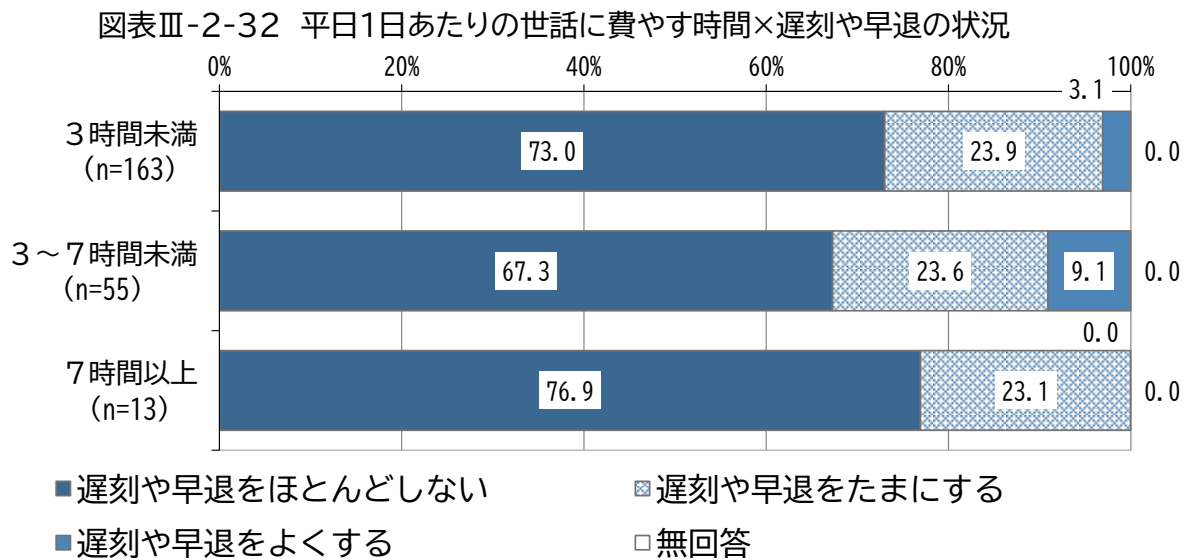
図表Ⅲ-2-31 平日1日あたりの世話に費やす時間×欠席の状況





③ 平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況

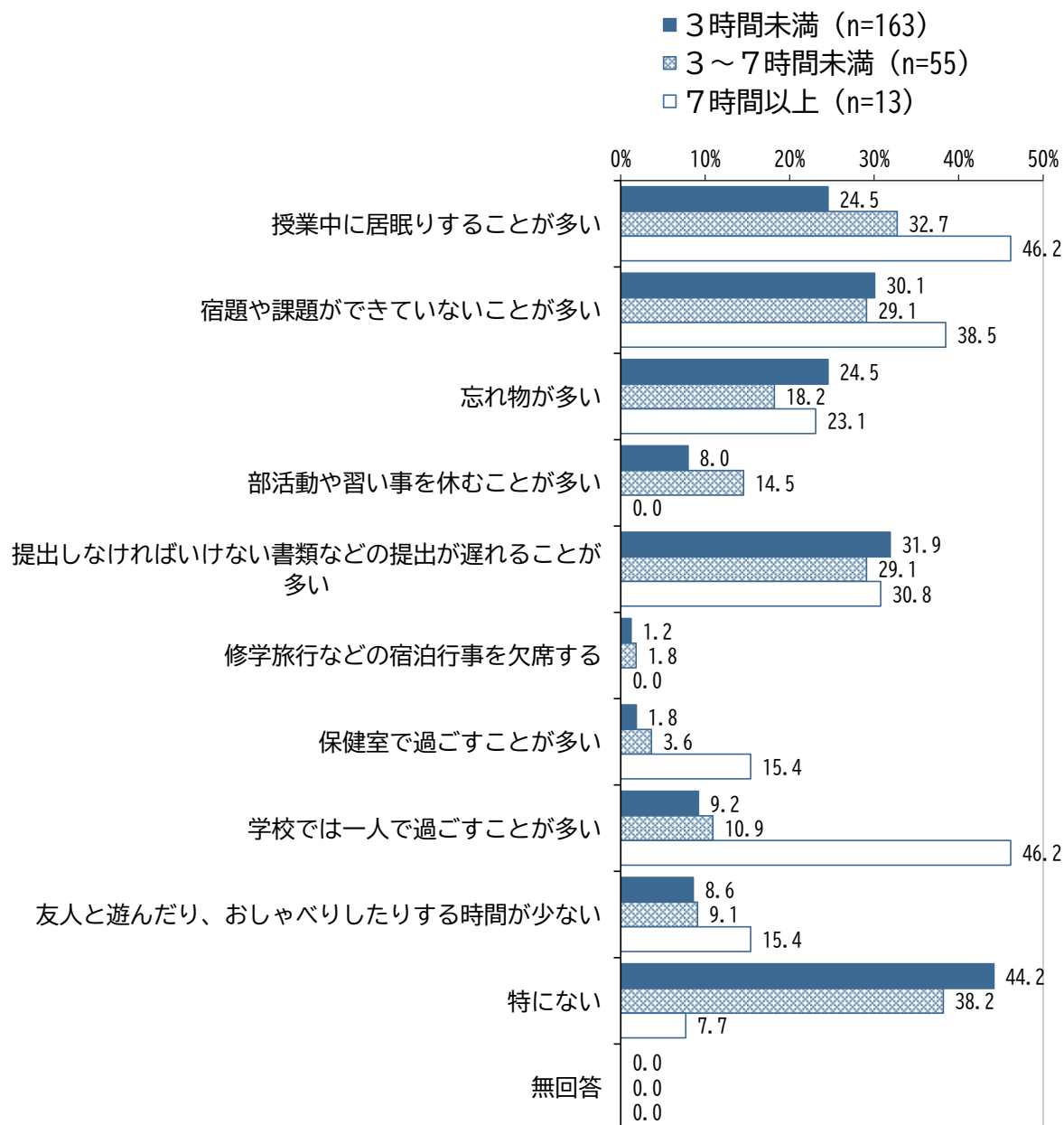
遅刻や早退の状況について、「遅刻や早退をよくする」では、3～7時間未満の割合が最も高くなっている。



#### ④ 平日1日あたりの世話を費やす時間×学校生活等であてはまること

学校生活等であてはまることについては、世事に費やす時間が長くなるにつれて、「特にない」の割合が低くなり、「授業中に居眠りすることが多い」、「保健室で過ごすことが多い」、「学校では一人で過ごすことが多い」、「友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」の割合が高くなっている。

図表Ⅲ-2-33 平日1日あたりの世事に費やす時間×学校生活等であてはまること(複数回答)

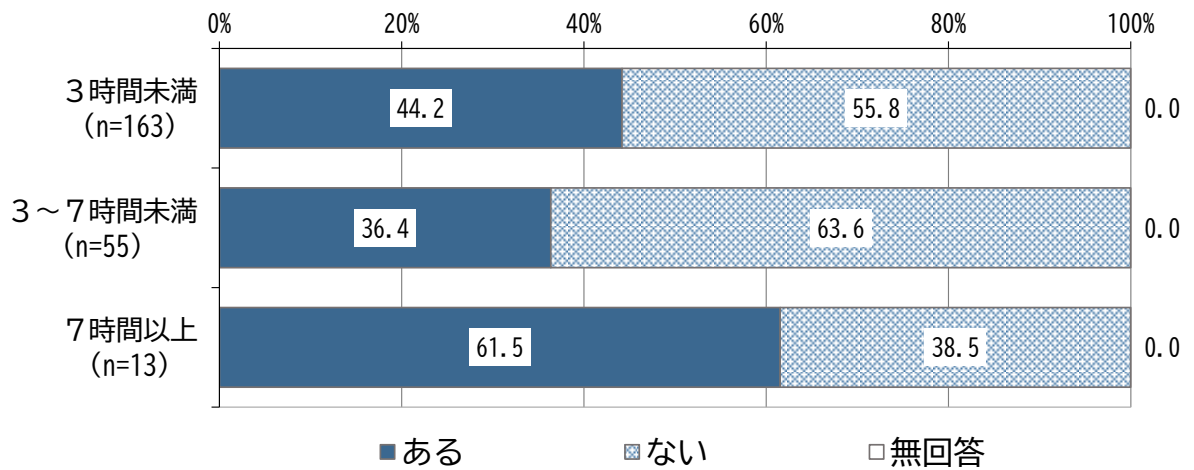


⑤ 平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みごと

i) 平日1日あたりの世話に費やす時間×悩みごとの有無

悩みごとの有無について、「ある」では、7時間以上の割合が最も高くなっている。

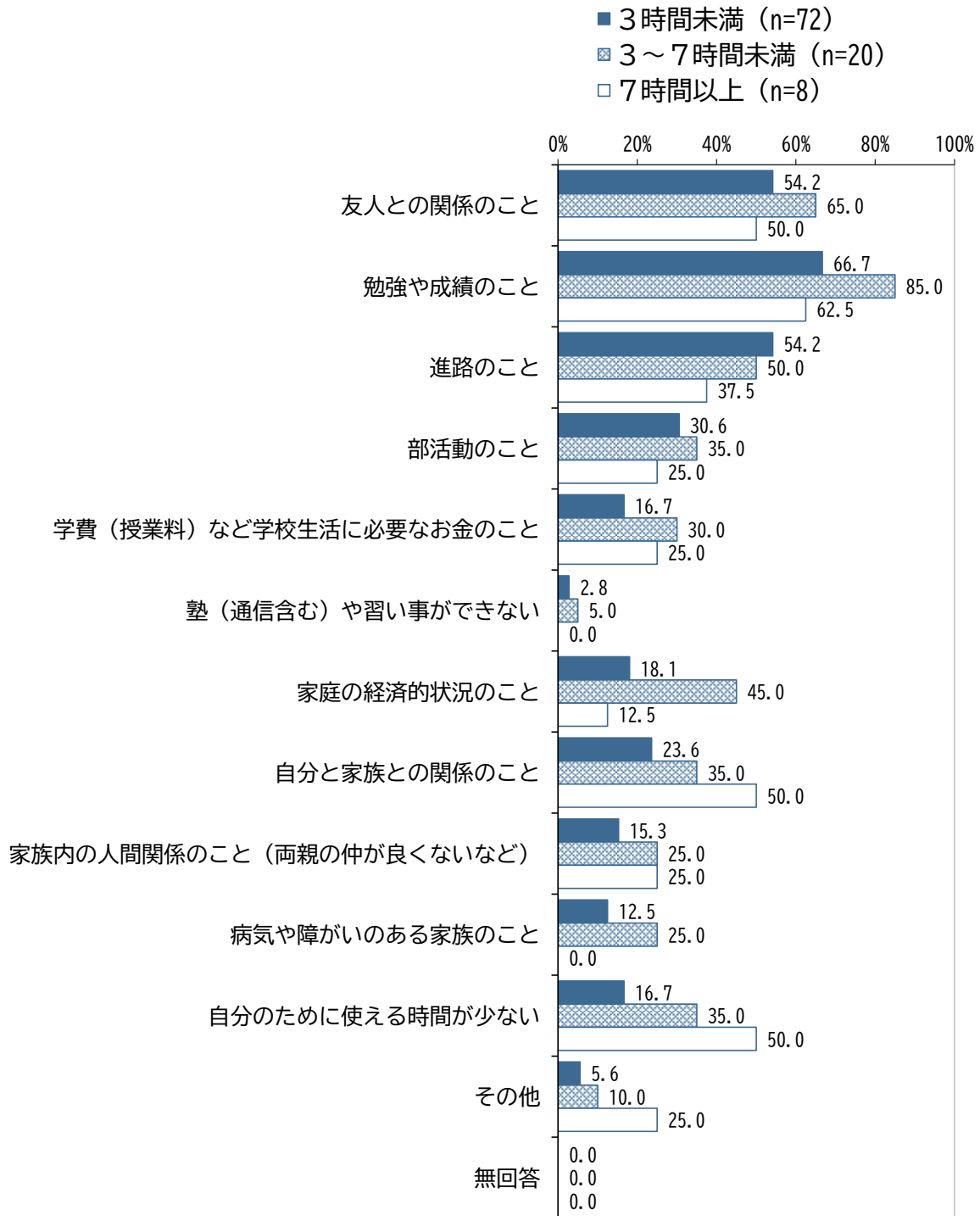
図表Ⅲ-2-34 平日1日あたりの世話に費やす時間×悩みごとの有無



ii) 平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みごと

現在の悩みごとについては、世話に費やす時間が長くなるにつれて、「自分と家族との関係のこと」、「自分のために使える時間が少ない」、「その他」の割合が高くなっている。

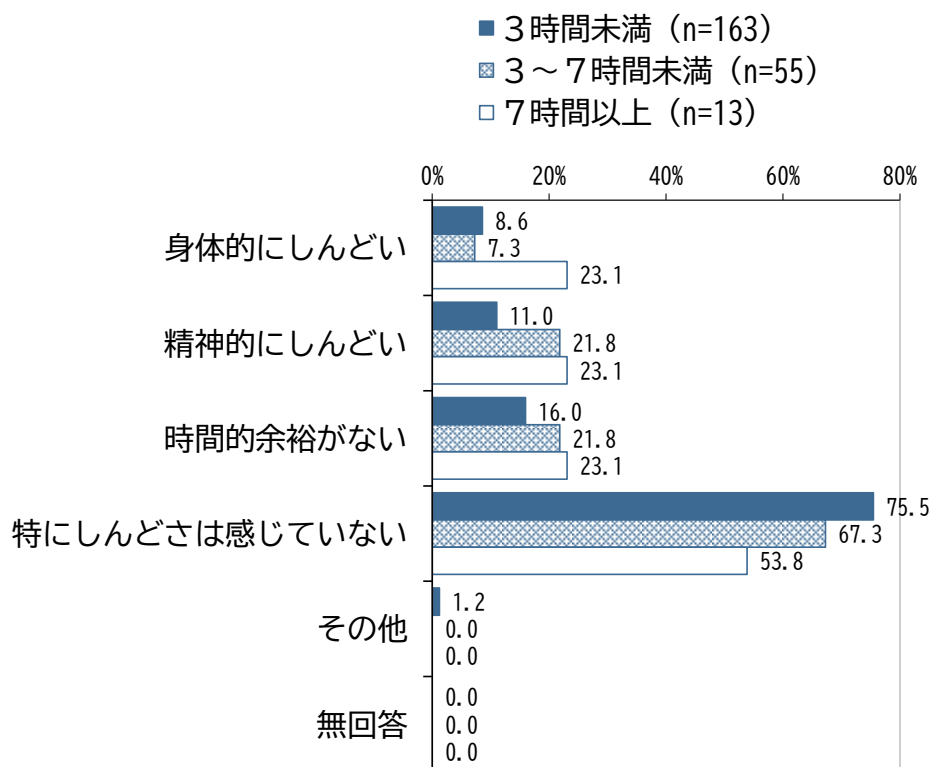
図表Ⅲ-2-35 平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みごと(複数回答)



⑥ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話の大変さ

世話をすることで感じている大変さについては、世話に費やす時間が長くなるにつれて、「精神的にしんどい」、「時間的余裕がない」の割合が高くなっている。

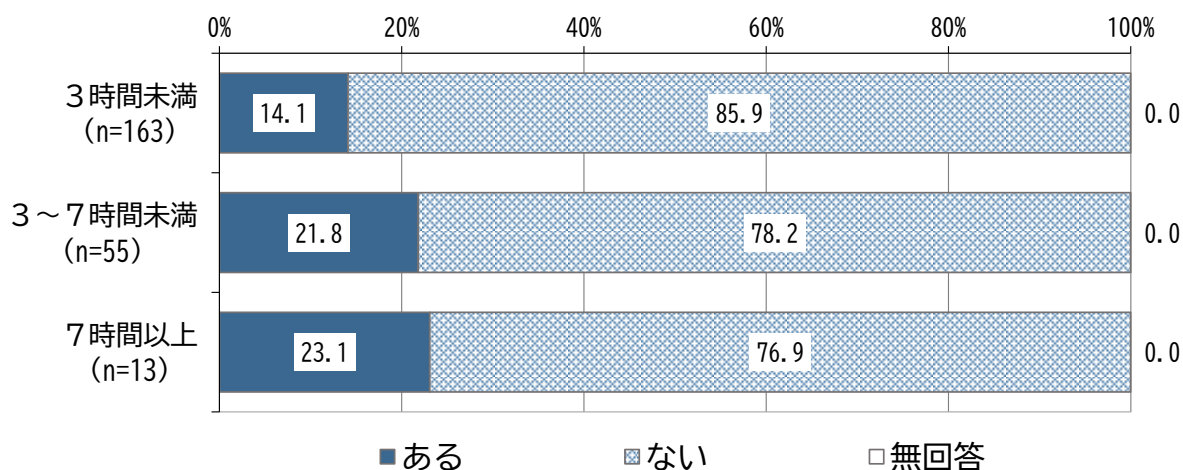
図表Ⅲ-2-36 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話の大変さ(複数回答)



⑦ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談の経験

世話に関する相談の経験については、世話に費やす時間が長くなるにつれて、「ある」の割合が高くなっている。

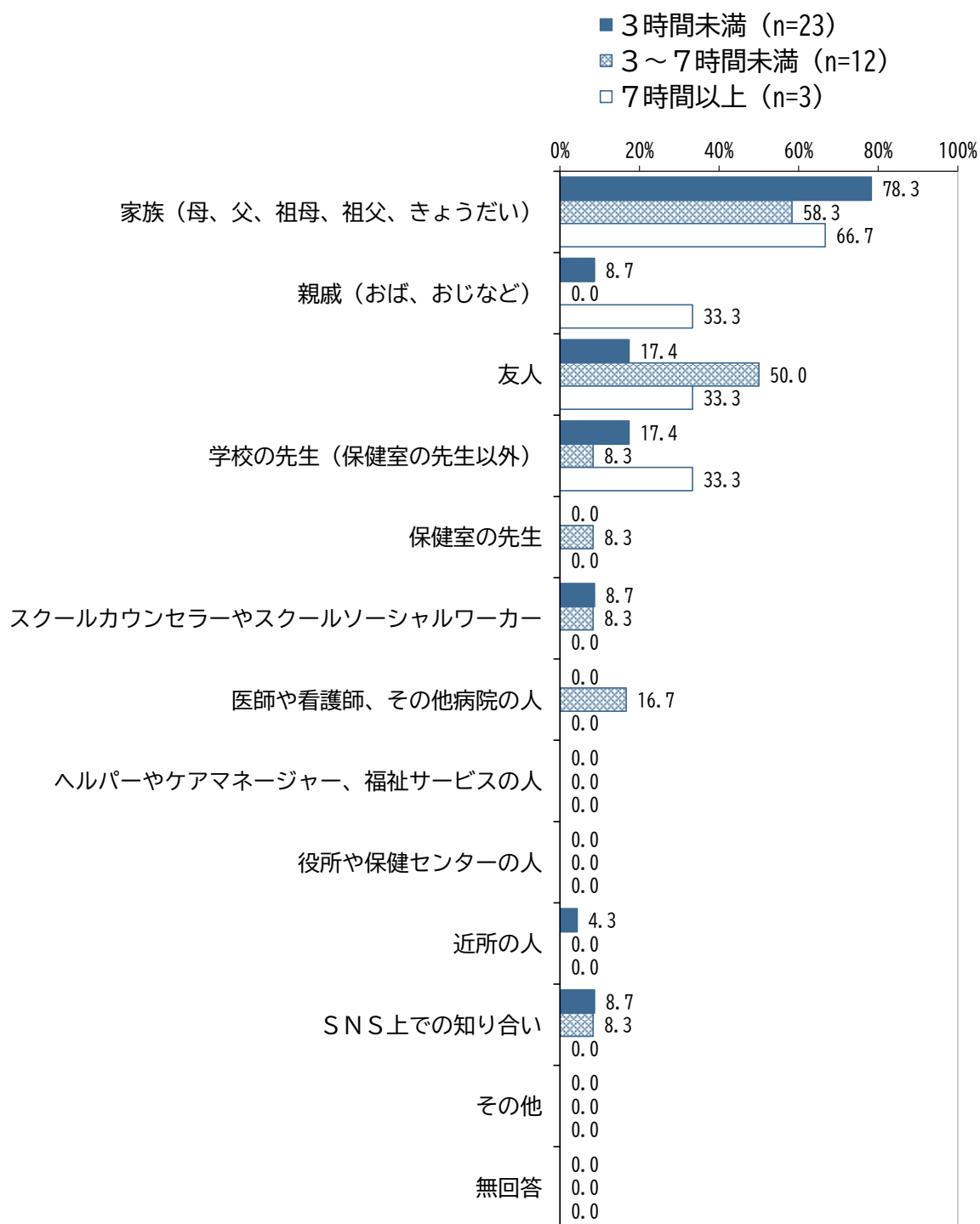
図表Ⅲ-2-37 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談の経験



⑧ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談相手

世話に関する相談相手については、3時間未満、3～7時間未満いずれも「家族(母、父、祖母、祖父、きょうだい)」の割合が最も高くなっている。

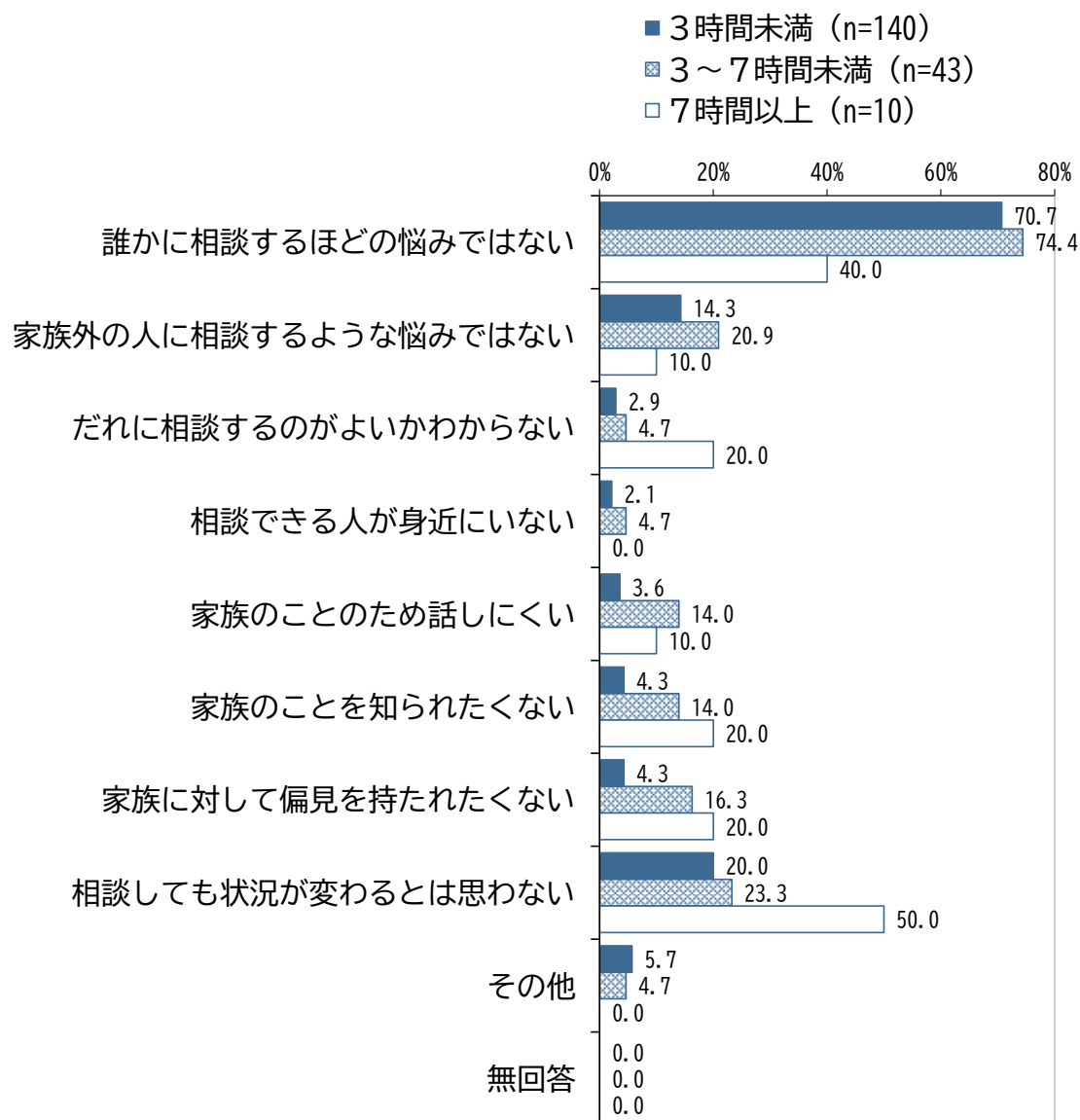
図表Ⅲ-2-38 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談相手(複数回答)



⑨ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談したことがない理由

世話に関する相談したことがない理由については、世話に費やす時間が長くなるにつれて、「だれに相談するのがよいかわからない」、「家族のことを知られたくない」、「家族に対して偏見を持たれたくない」、「相談しても状況が変わるとは思わない」の割合が高くなっている。

図表Ⅲ-2-39 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談したことがない理由  
(複数回答)



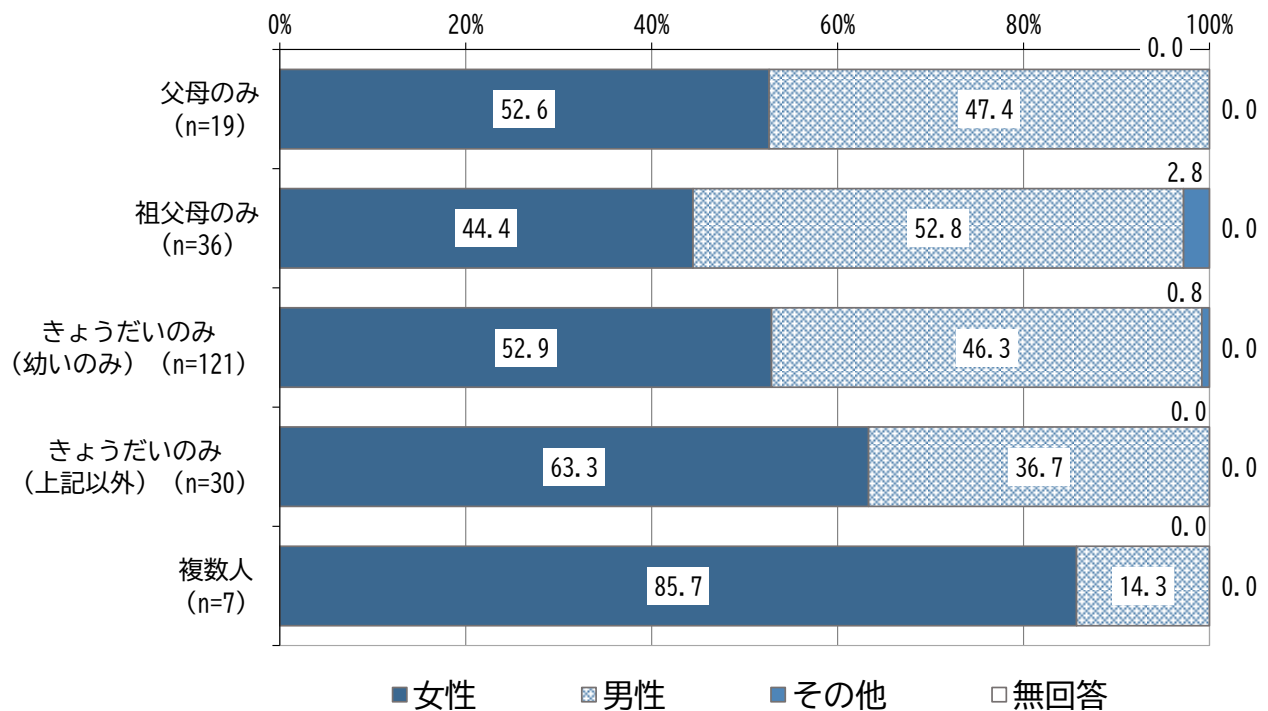
## (5)世話を必要としている家族による世話の状況等

本分析(クロス集計)においては、世話を必要としている人ごとの特性を明らかにするため、「父母のみ」を世話する人、「祖父母のみ」を世話する人、「きょうだいのみ」を世話する人、そして以上3つの分類に「その他」を加えた4つの分類のうち複数の分類に属する人を世話する人(=「複数人」)に対象を分類している。さらに、「きょうだいのみ」を世話する人については、世話を必要とする人の状態像が「若い」のみの場合と、「それ以外」(「若い」以外の病気や障がい等の項目に回答があるもの。複数回答のため、「若い」も選択している場合を含む)の場合に分けて分析している。なお、「その他のみ」をお世話する人についてはn数が少ないためクロス集計の対象外としている。

### ① 世話を必要としている家族×(回答者の)性別

回答者の性別について、祖父母のみでは、「男性」の割合が最も高く、それ以外の場合では、「女性」の割合が最も高くなっている。

図表Ⅲ-2-40 世話を必要としている家族×(回答者の)性別

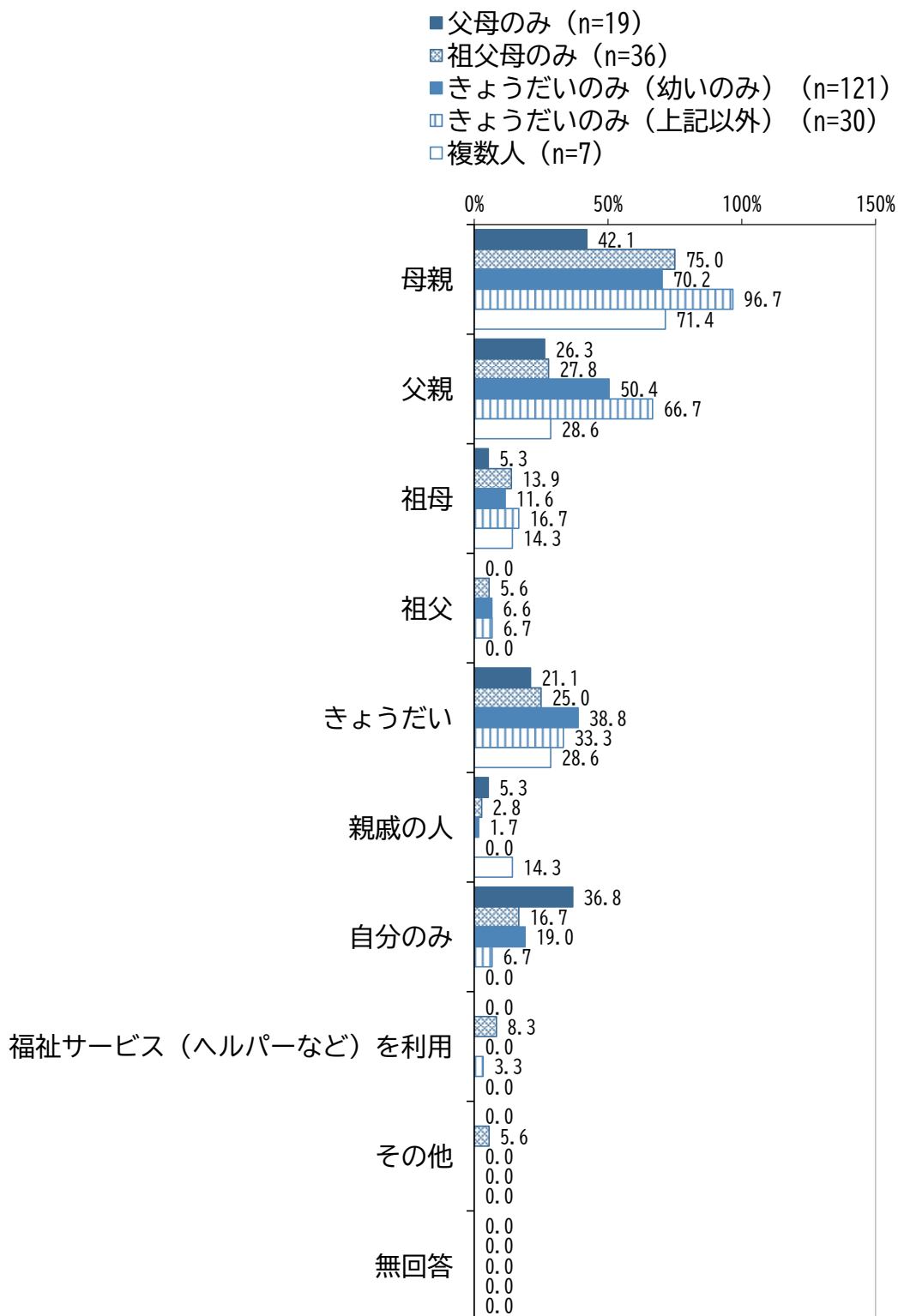




② 世話を必要としている家族と一緒に世話をする人

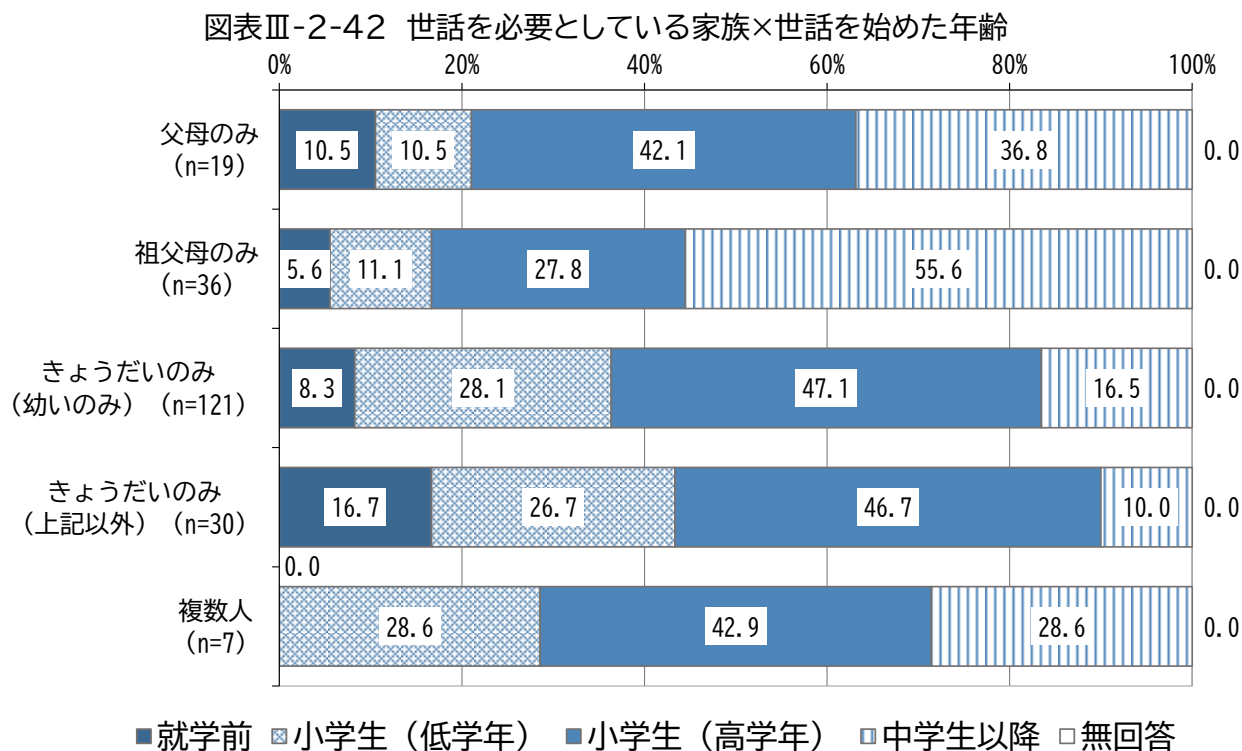
一緒に世話をする人については、いずれの場合も「母親」の割合が最も高くなっており、「自分のみ」では、父母のみの割合が最も高くなっている。

図表Ⅲ-2-41 世話を必要としている家族と一緒に世話をする人(複数回答)



### ③ 世話を必要としている家族×世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、祖父母のみでは、「中学生以降」の割合が最も高く、それ以外の場合では、「小学生(高学年)」の割合が最も高くなっている。

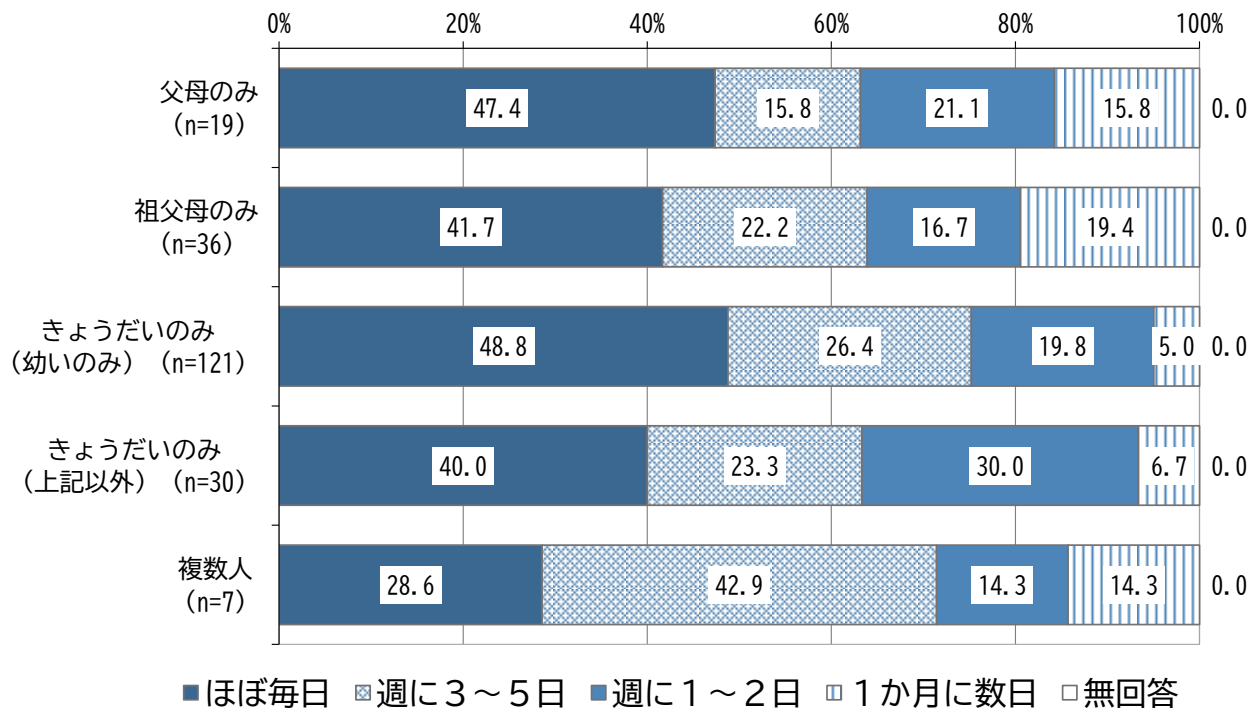


#### ④ 世話を必要としている家族×世話の頻度

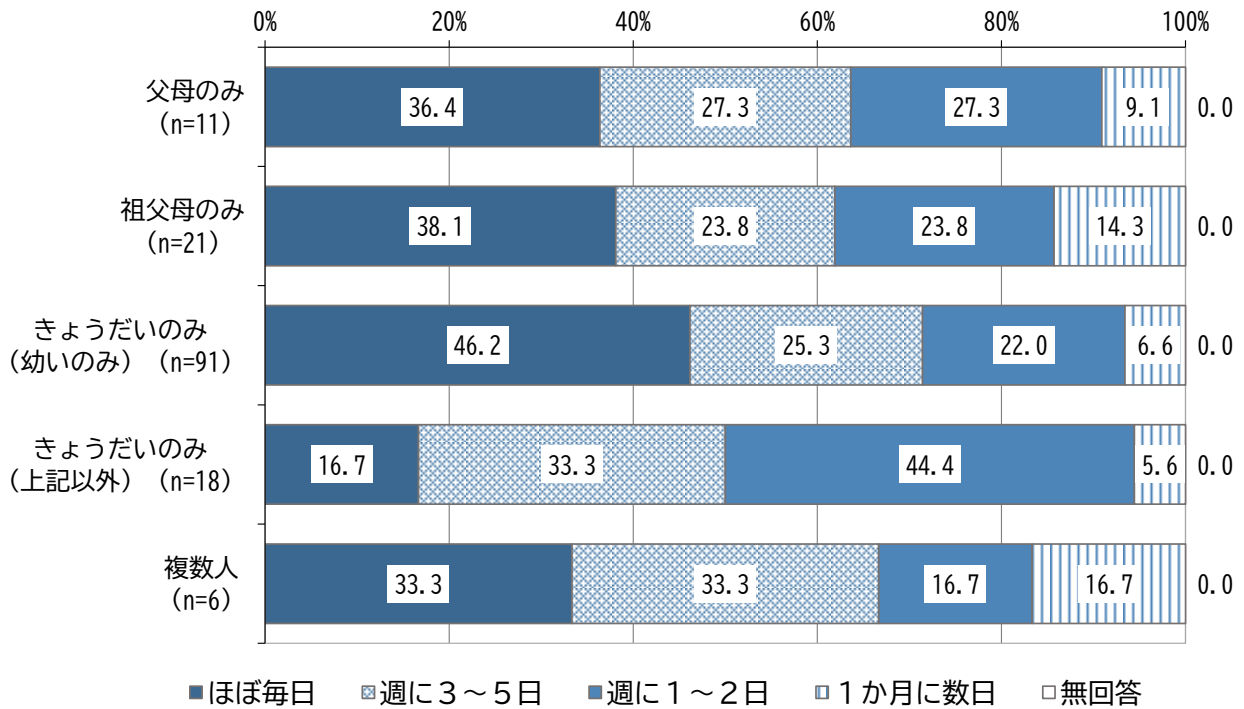
世話の頻度について、「ほぼ毎日」では、きょうだいのみ(幼いのみ)の割合が最も高くなっている。

また、中学生では、「ほぼ毎日」は、きょうだいのみ(幼いのみ)の割合が最も高く、高校生では、きょうだいのみ(上記以外)の割合が最も高くなっている。

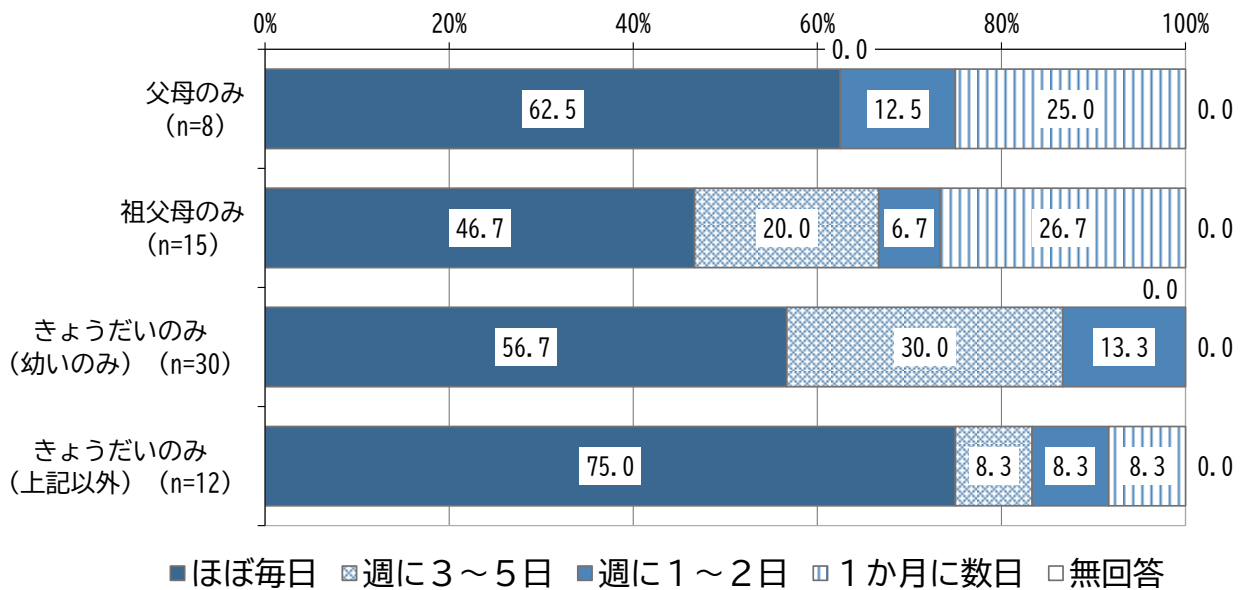
図表Ⅲ-2-43 世話を必要としている家族×世話の頻度



図表Ⅲ-2-44 世話を必要としている家族×世話の頻度 中学生



図表Ⅲ-2-45 世話を必要としている家族×世話の頻度 高校生



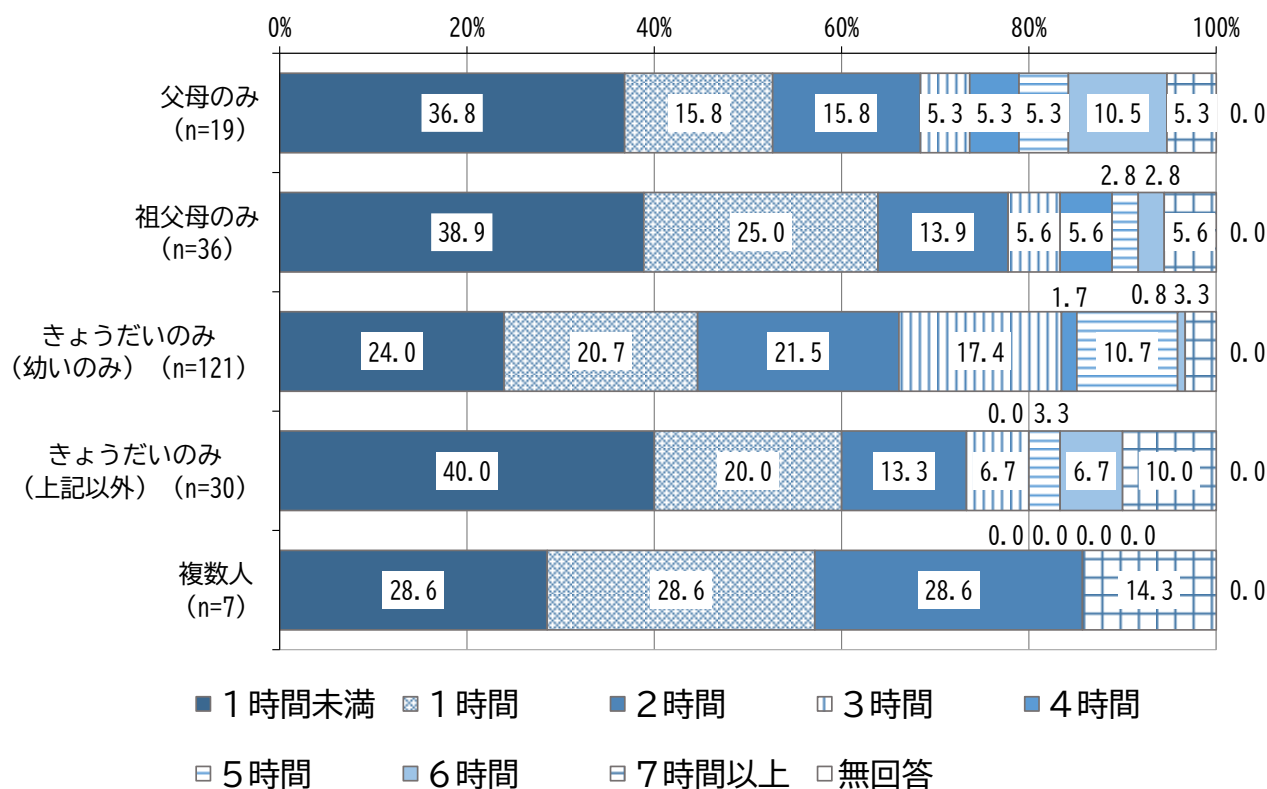
※「複数人」はサンプル数が非常に少ないため掲載していない

### ⑤ 世話を必要としている家族×世話に費やす時間

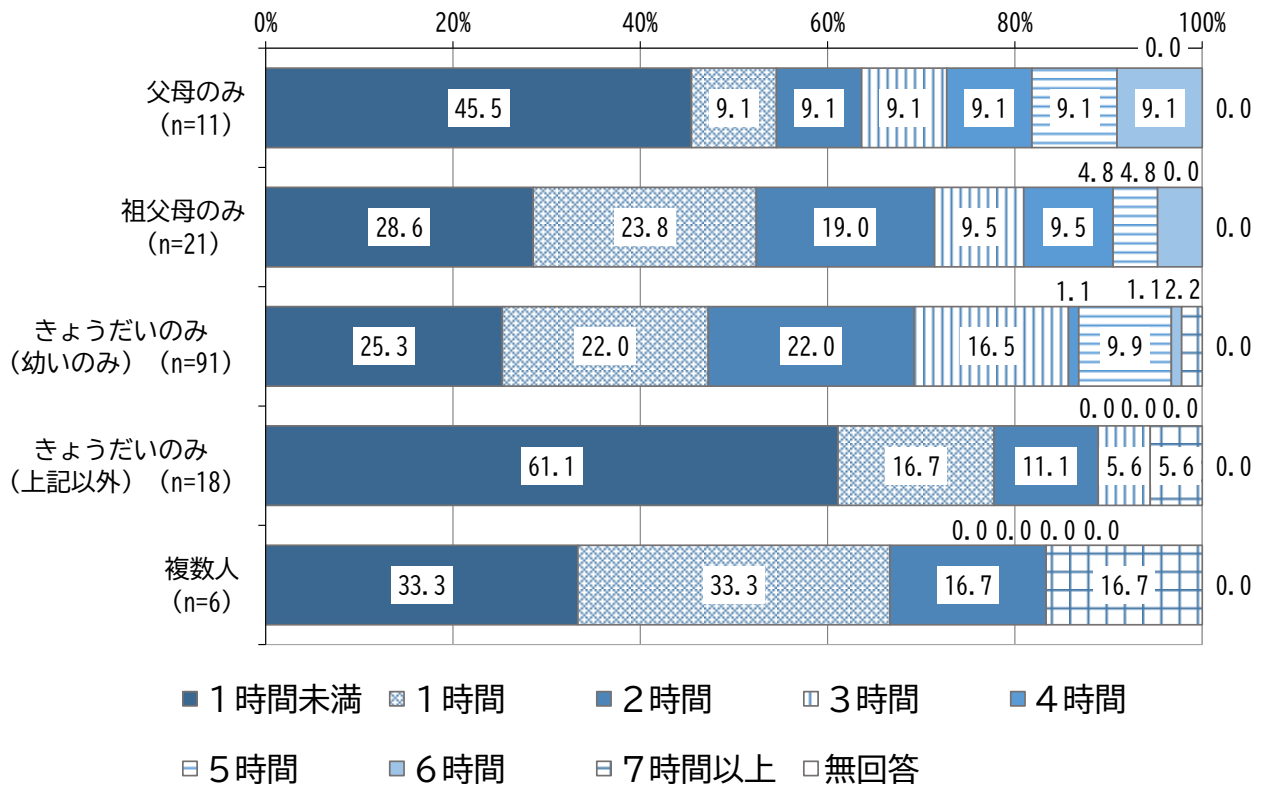
世話に費やす時間について、『3時間以上』では、きょうだいのみ(幼いのみ)の割合が最も高くなっている。

また、中学生では、『3時間以上』については、父母のみの割合が最も高く、高校生では、きょうだいのみ(上記以外)の割合が最も高くなっている。

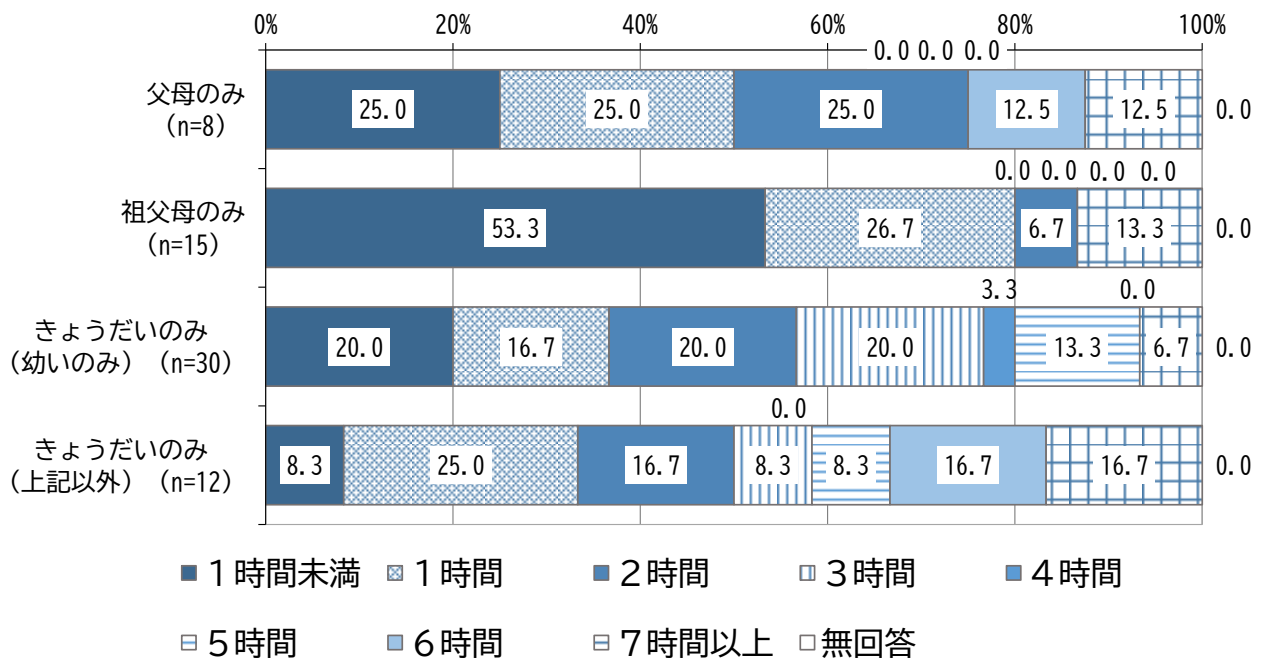
図表Ⅲ-2-46 世話を必要としている家族×世話に費やす時間



図表Ⅲ-2-47 世話を必要としている家族×世話に費やす時間 中学生



図表Ⅲ-2-48 世話を必要としている家族×世話に費やす時間 高校生

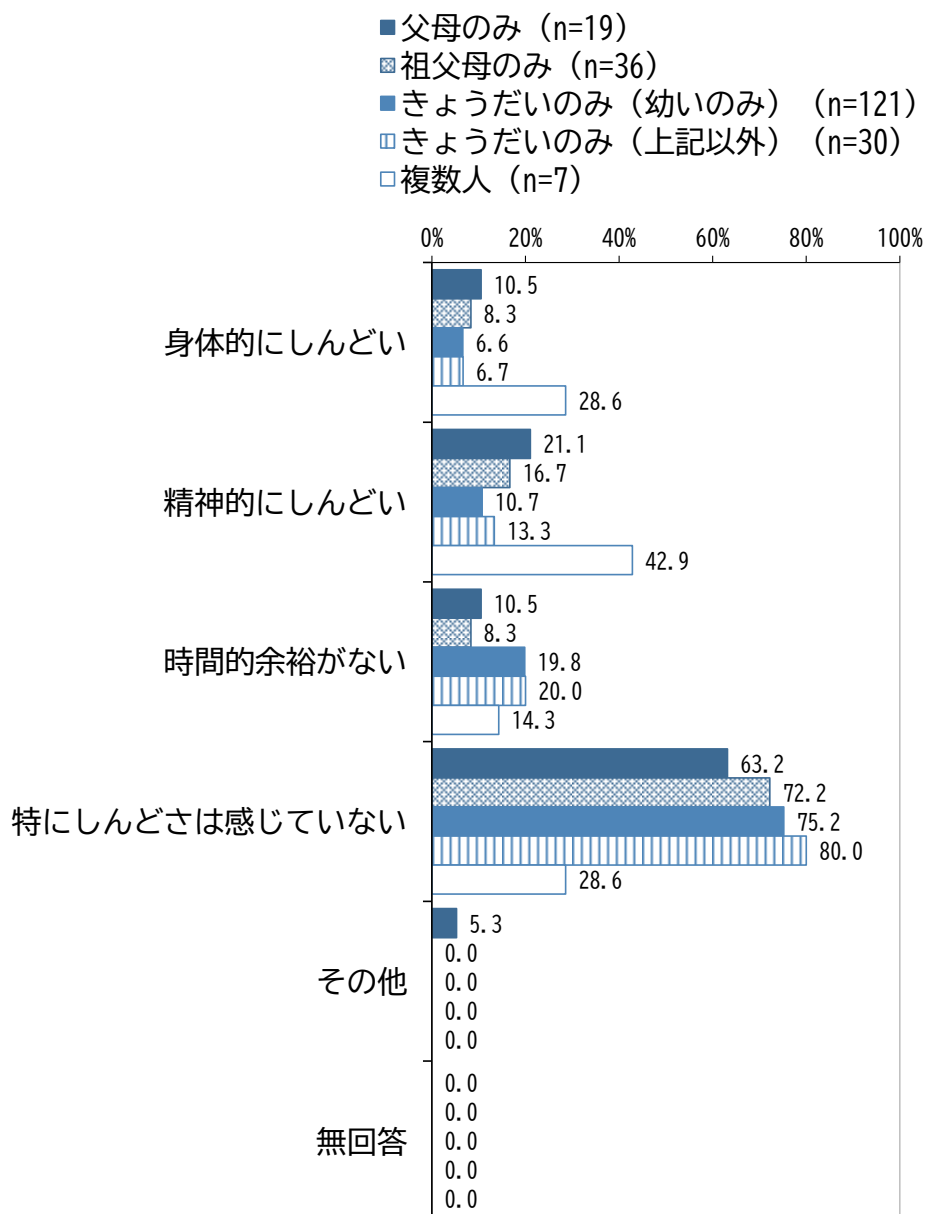


※「複数人」はサンプル数が非常に少ないため掲載していない

⑥ 世話を必要としている家族×世話の大変さ

世話をすることで感じている大変さについて、「身体的にしんどい」、「精神的にしんどい」では、複数人の割合が最も高く、「時間的余裕がない」では、きょうだいのみ(上記以外)の割合が最も高くなっている。

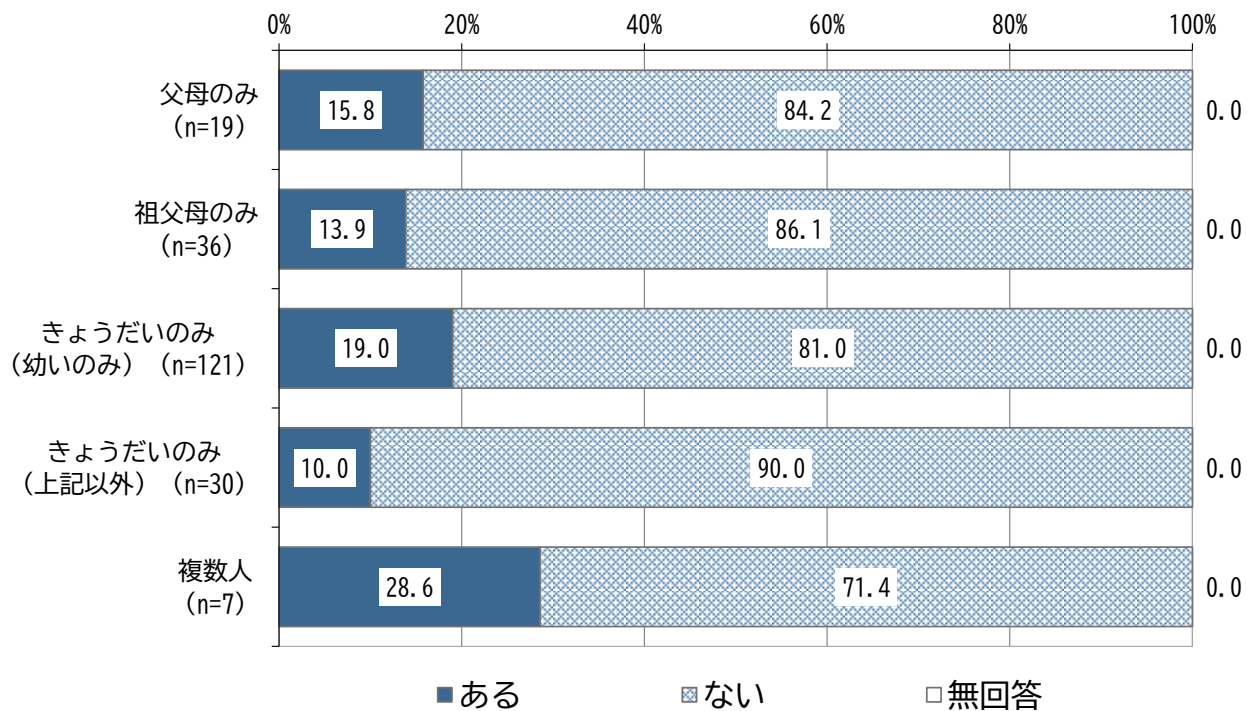
図表Ⅲ-2-49 世話を必要としている家族×世話の大変さ(複数回答)



⑦ 世話を必要としている家族×世話について相談した経験

世話について相談した経験について、「ある」では、複数人の割合が最も高く、「ない」では、きょうだいのみ(上記以外)の割合が最も高くなっている。

図表Ⅲ-2-50 世話を必要としている家族×世話について相談した経験

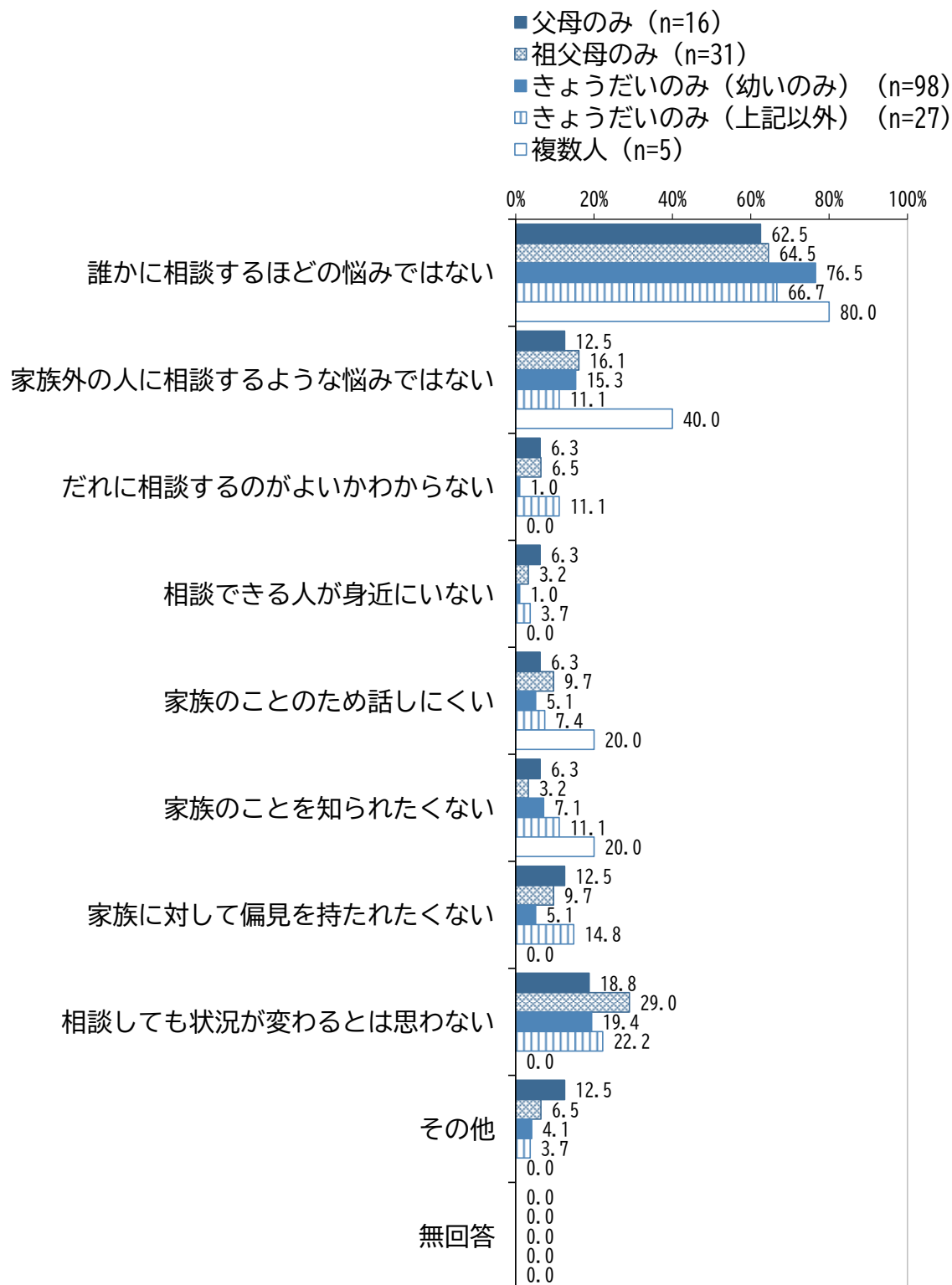




⑧ 世話を必要としている家族×相談したことがない理由

相談したことがない理由については、いずれの場合も「相談するほどの悩みではないから」の割合が最も高くなっており、「相談しても状況が変わるとは思わない」では、祖父母のみの割合が最も高くなっている。

図表Ⅲ-2-51 世話を必要としている家族×相談したことがない理由(複数回答)



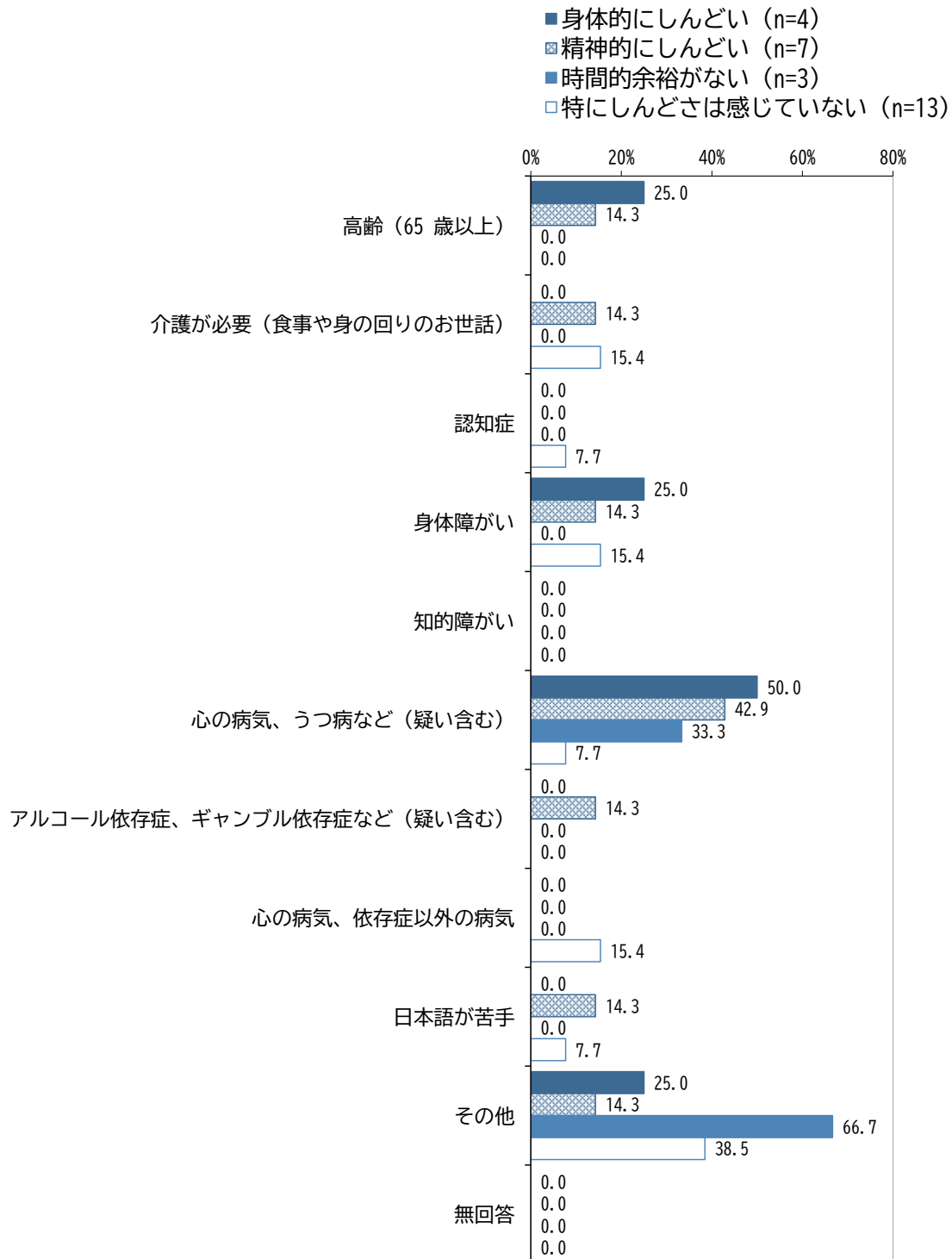
## (6)世話をすることに感じている大変さによる世話の状況の違い

### ① 世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況

#### i)世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況(父母の状況)

父母の状況について、「精神的にしんどい」と回答した場合は、「心の病気、うつ病など(疑い含む)」の割合が最も高くなっている。

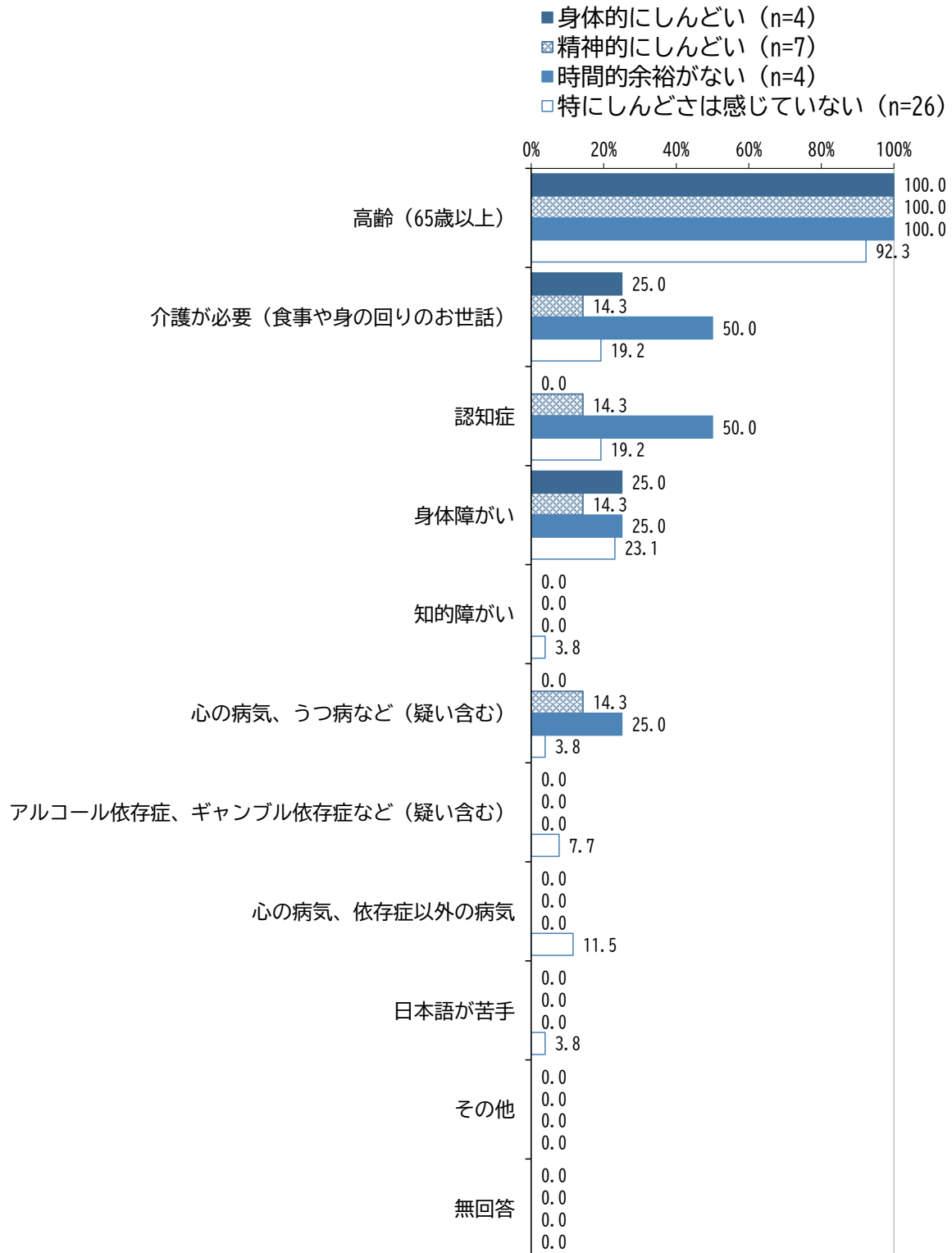
図表Ⅲ-2-52 世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況(父母の状況)(複数回答)



ii)世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況(祖父母の状況)

祖父母の状況については、いずれの場合も「高齢(65歳以上)」の割合が最も高くなっている。

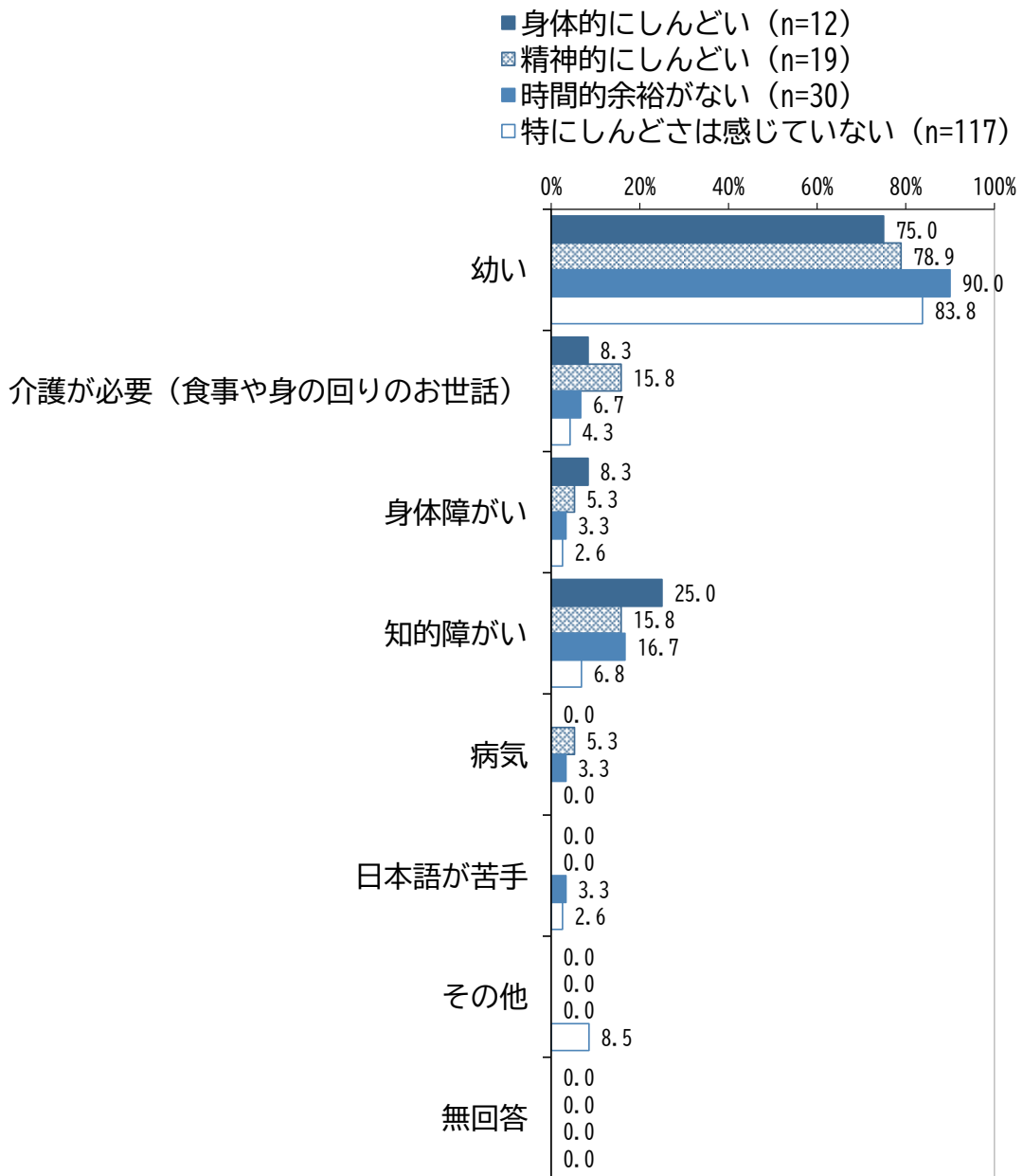
図表Ⅲ-2-53 世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況(祖父母の状況)(複数回答)



iii)世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況(きょうだいの状況)

きょうだいの状況については、いずれの場合も「幼い」の割合が最も高くなっており、「介護が必要(食事や身の回りのお世話)」では、「精神的にしんどい」と回答した場合の割合が最も高く、「身体障がい」、「知的障がい」では、「身体的にしんどい」と回答した場合の割合が最も高くなっている。

図表Ⅲ-2-54 世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況(きょうだいの状況)  
(複数回答)

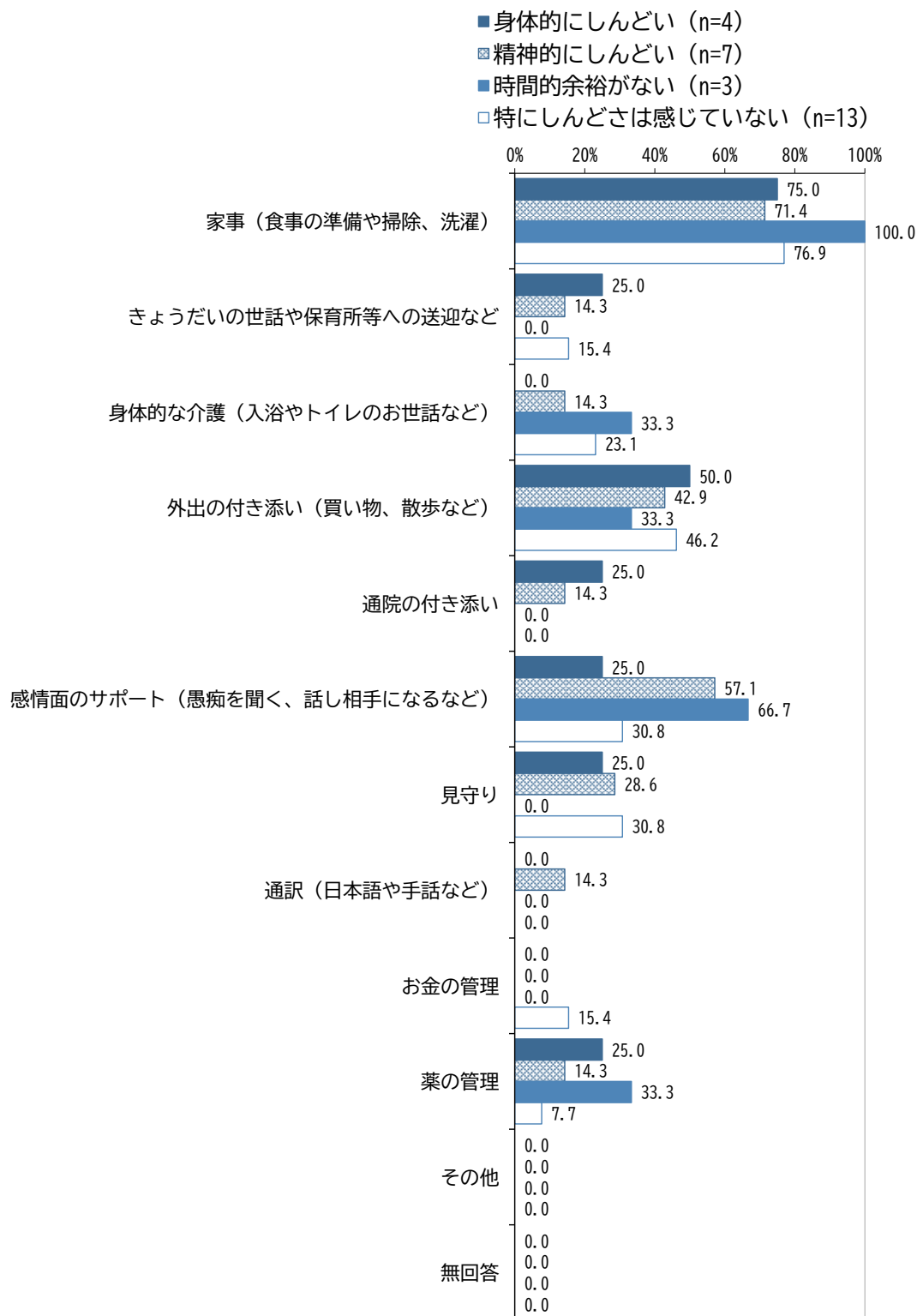


② 世話をすることに感じているきつさ×世話の内容

i) 世話をすることに感じているきつさ×父母への世話の内容

父母への世話の内容について、「精神的にしんどい」と回答した場合には、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が最も高く、次いで「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」が高くなっている。

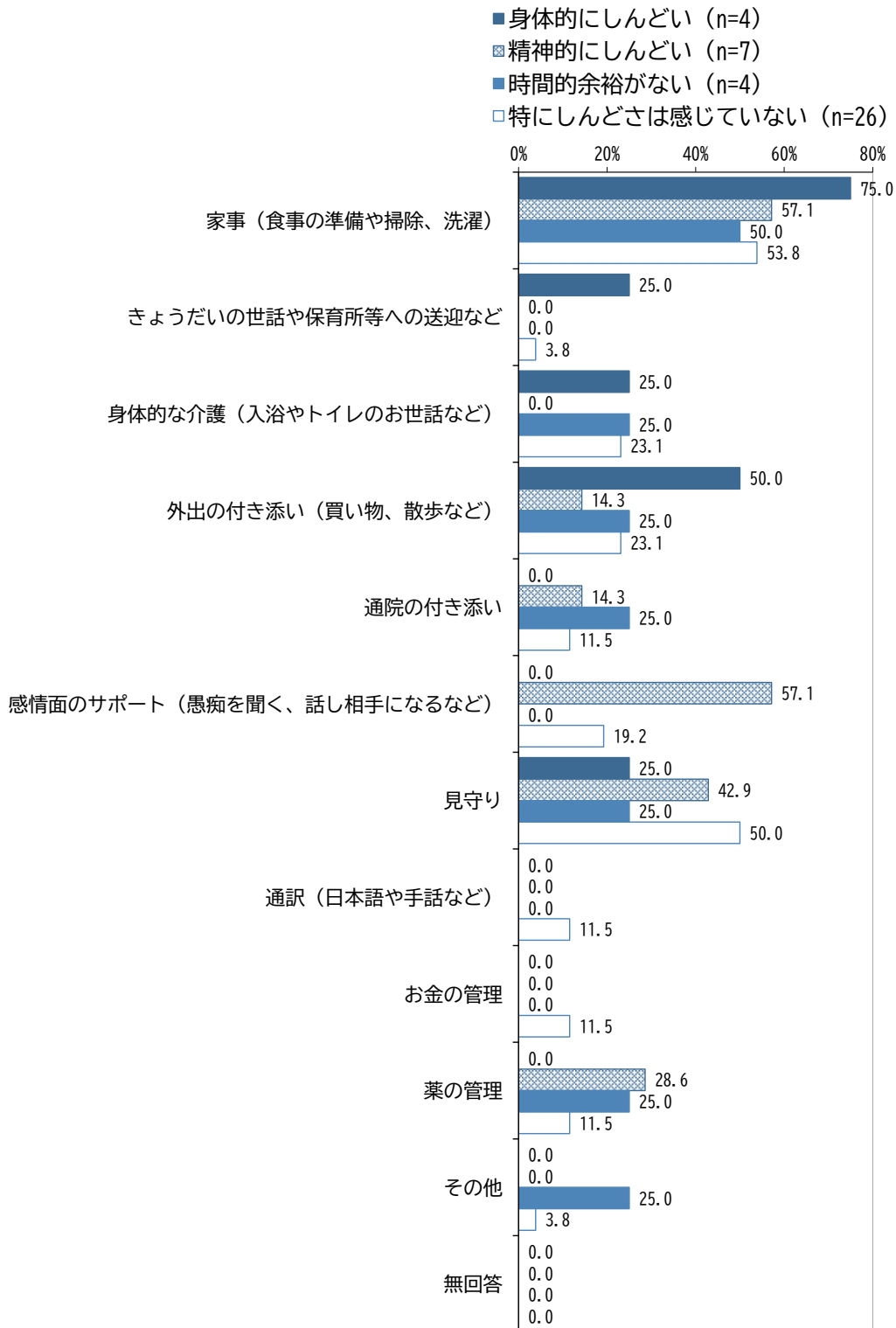
図表Ⅲ-2-55 世話をすることに感じているきつさ×父母への世話の内容(複数回答)



ii)世話をすることを感じているきつさ×祖父母への世話の内容

祖父母への世話の内容について、「精神的にしんどい」と回答した場合には、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」が同率で最も高くなっている。

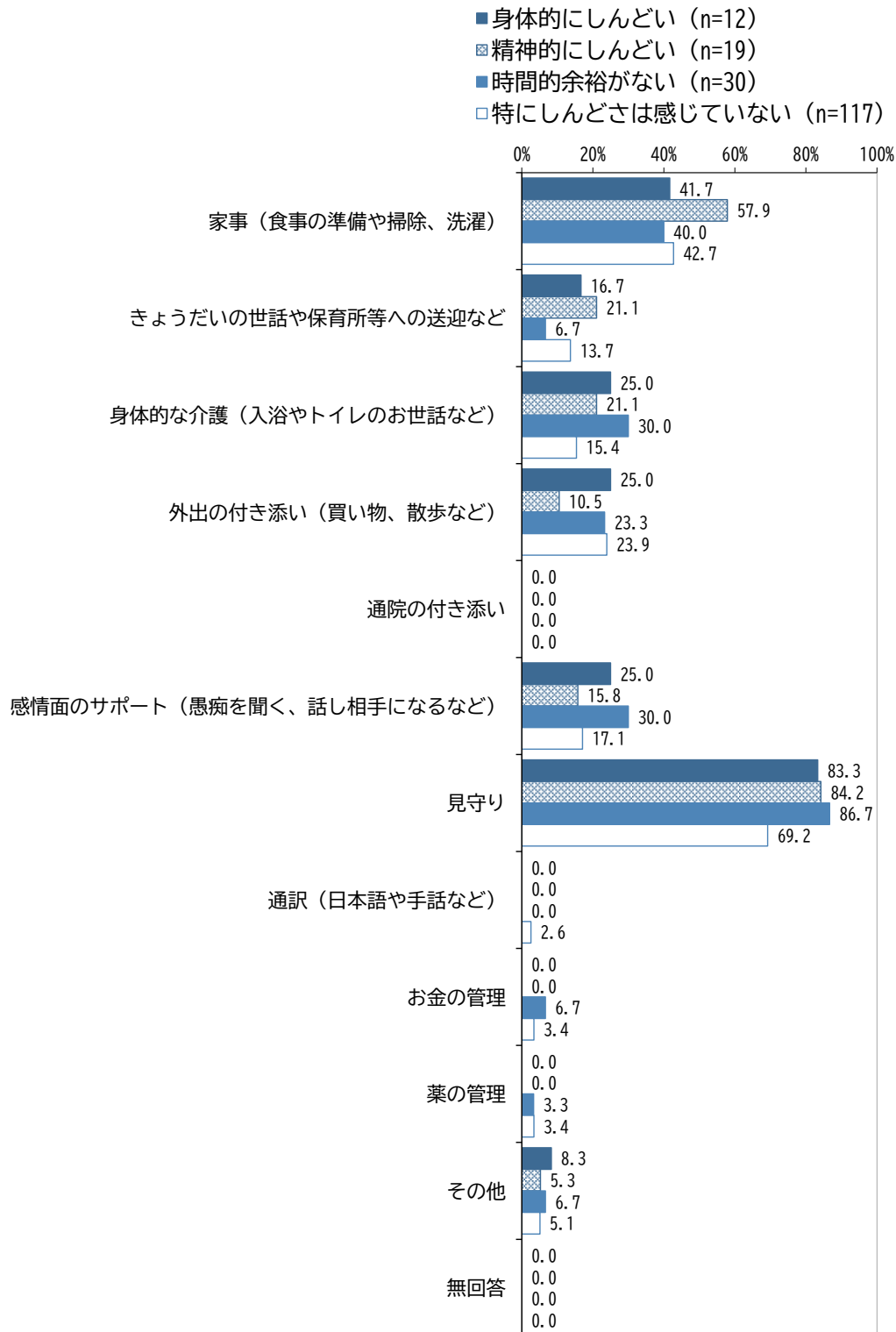
図表Ⅲ-2-56 世話をすることを感じているきつさ×祖父母への世話の内容(複数回答)



iii)世話をすることを感じているきつさ×きょうだいへの世話の内容

きょうだいへの世話の内容については、いずれの場合も「見守り」の割合が最も高く、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」では、「精神的にしんどい」と回答した場合の割合が最も高くなっている。

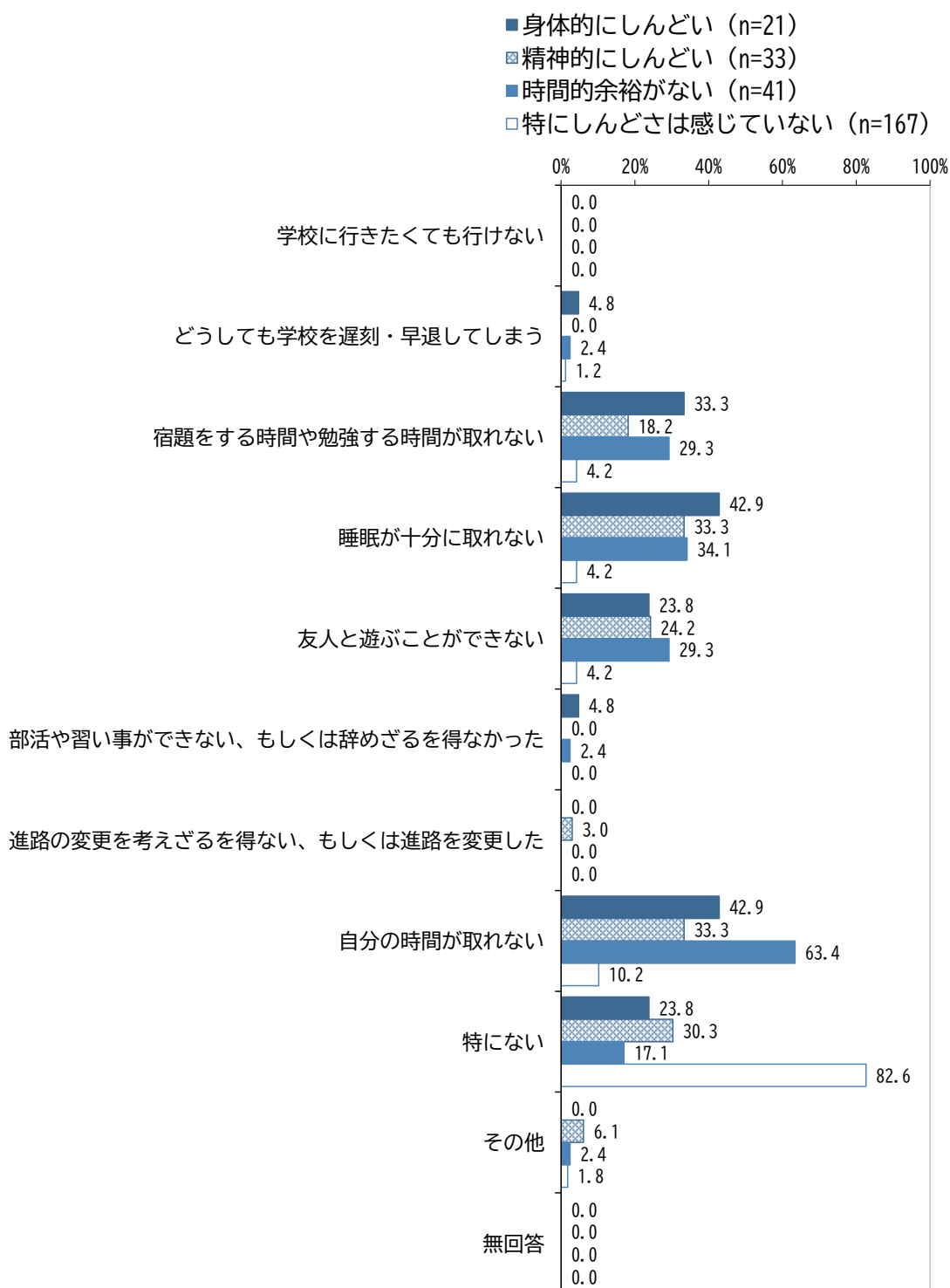
図表Ⅲ-2-57 世話をすることを感じているきつさ×きょうだいへの世話の内容(複数回答)



### ③ 世話をすることを感じているきつさ×世話による制約

世話による制約について、「身体的にしんどい」、「精神的にしんどい」と回答した場合は、いずれも「睡眠が十分に取れない」、「自分の時間が取れない」が同率で最も高く、「時間的余裕がない」と回答した場合は、「自分の時間が取れない」の割合が最も高くなっている。

図表Ⅲ-2-58 世話をすることを感じているきつさ×世話をしているためにやりたいけれどできていないこと(複数回答)

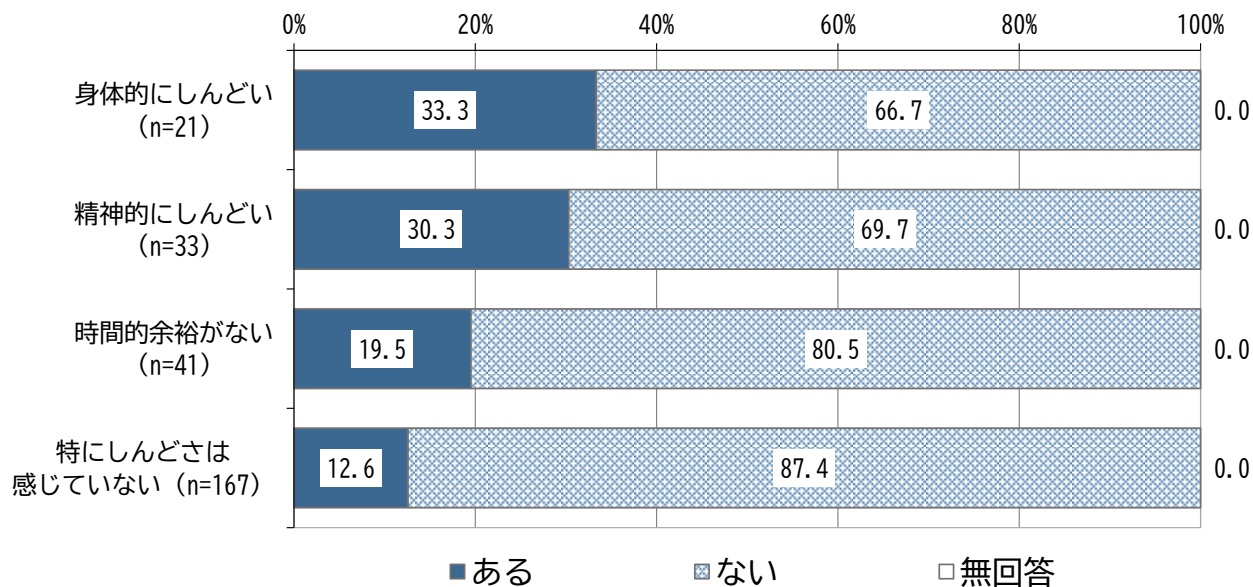




④ 世話をすることを感じているきつさ×世話について相談した経験

世話について相談した経験について、「ある」では、「身体的にしんどい」と回答した場合の割合が最も高くなっている。

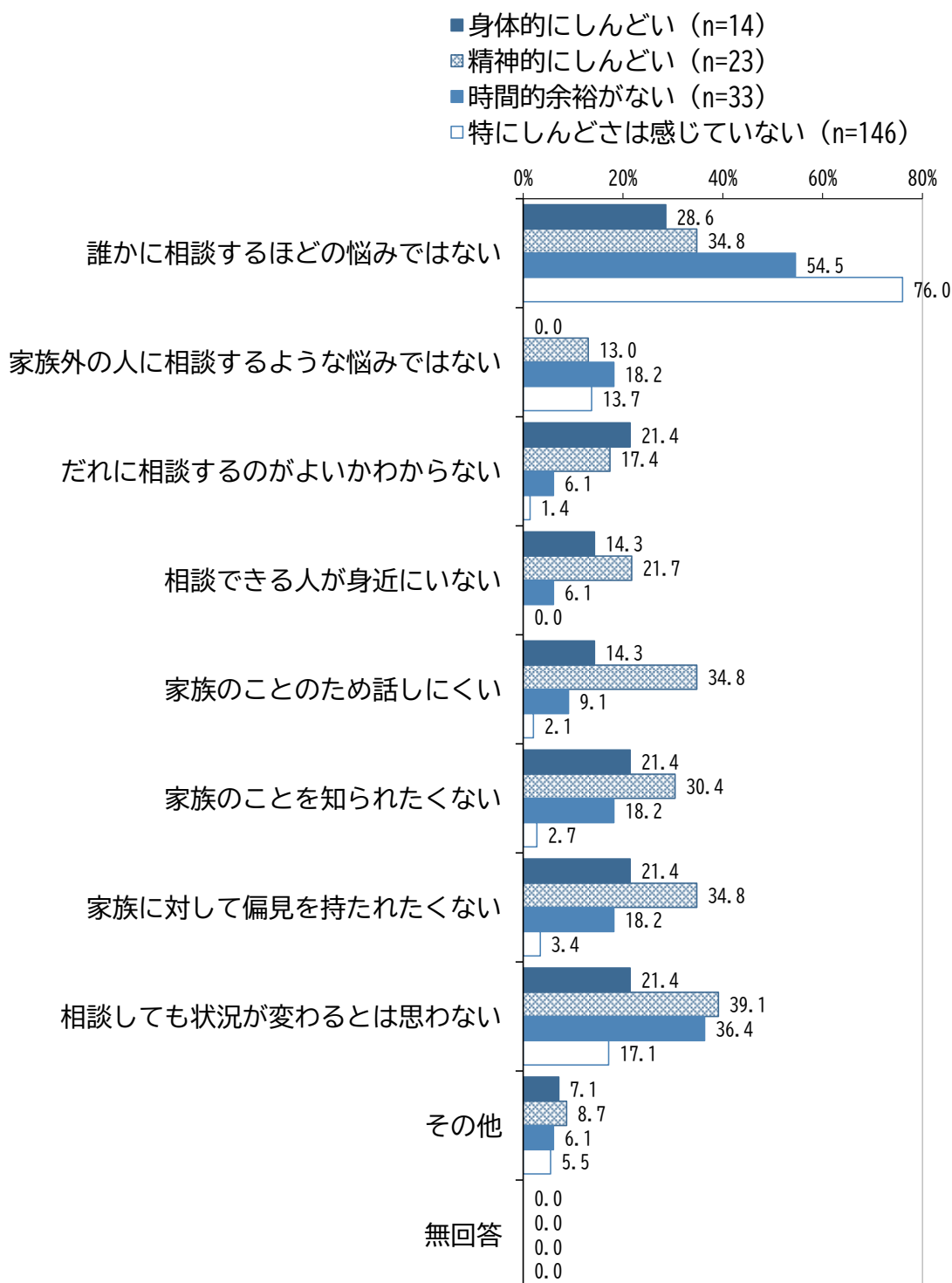
図表Ⅲ-2-59 世話をすることを感じているきつさ×世話について相談した経験



⑤ 世話をすることに感じているきつさ×世話について相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由について、「精神的にしんどい」と回答した場合には、「相談しても状況が変わると思わない」の割合が最も高く、それ以外の場合では、「誰かに相談するほどの悩みではない」の割合が最も高くなっている。

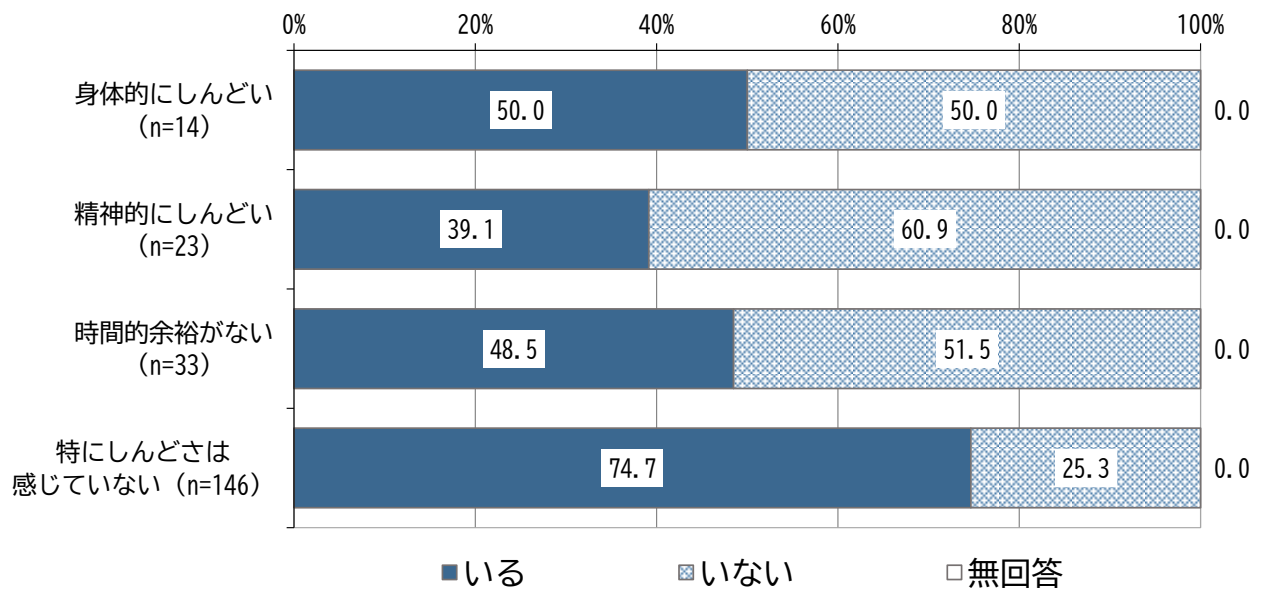
図表Ⅲ-2-60 世話をすることに感じているきつさ×世話について相談したことがない理由  
(複数回答)



⑥ 世話をすることに感じているきつさ×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について話を聞いてくれる人の有無について、「ない」では、「精神的にしんどい」と回答した場合の割合が最も高くなっている。

図表Ⅲ-2-61 世話をすることに感じているきつさ×世話について話を聞いてくれる人の有無

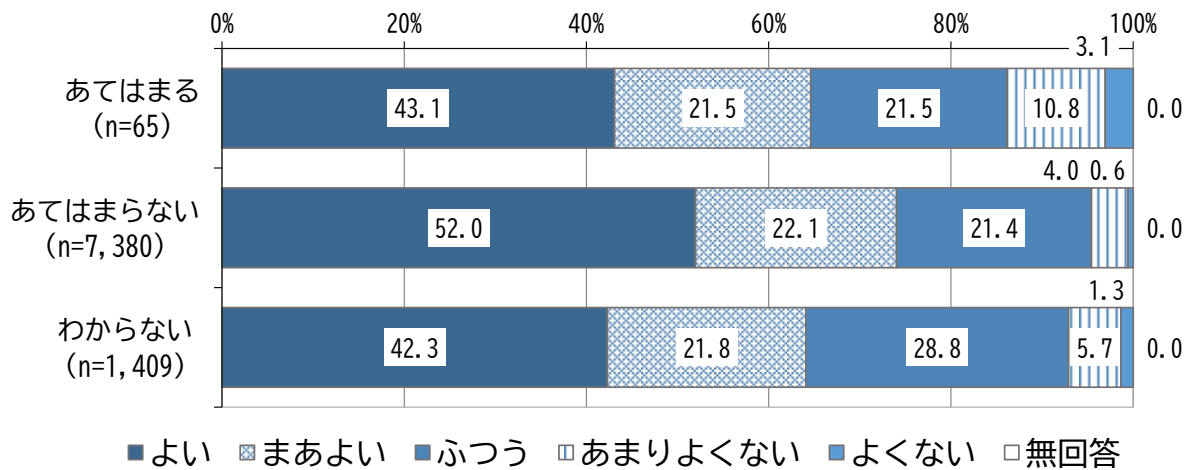


## (7) ヤングケアラーの自己認識による生活状況、世話の状況の違い

### ① ヤングケアラーの自己認識×健康状態

健康状態については、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、『よくない』（「あまりよくない」と「よくない」の合計）の割合が高くなっている。

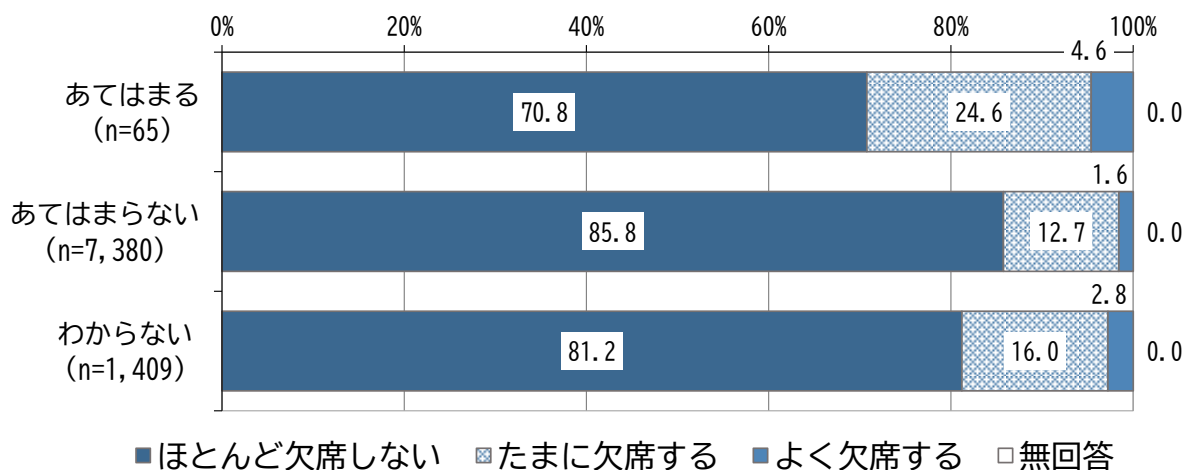
図表Ⅲ-2-62 ヤングケアラーの自己認識×健康状態



### ② ヤングケアラーの自己認識×出席状況

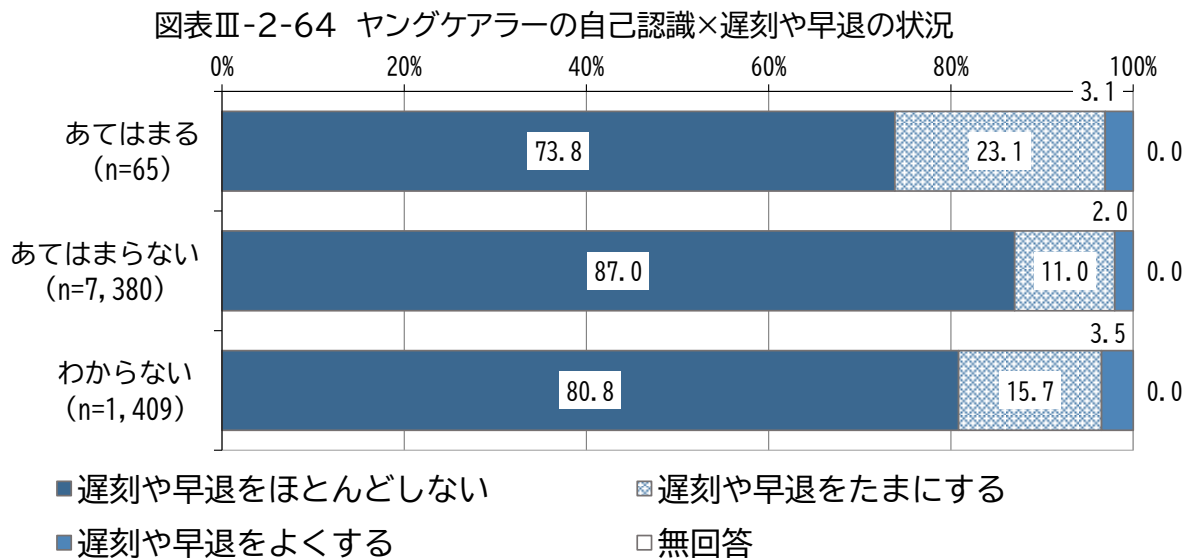
出席状況については、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「たまたに欠席する」、「よく欠席する」の割合が高くなっている。

図表Ⅲ-2-63 ヤングケアラーの自己認識×出席状況



### ③ ヤングケアラーの自己認識×遅刻や早退の状況

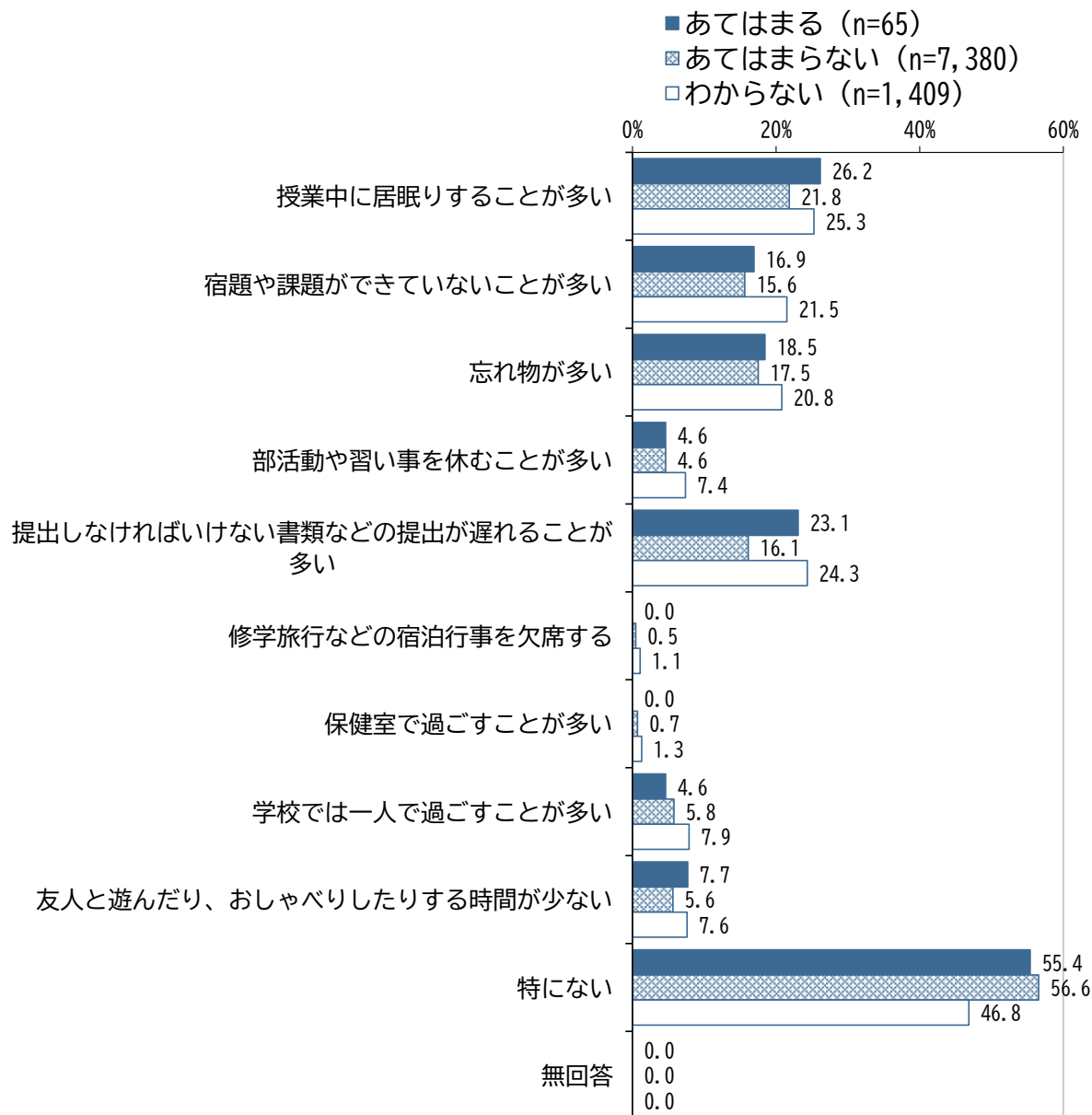
遅刻や早退の状況については、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「遅刻や早退をたまにする」の割合が高くなっている。



#### ④ ヤングケアラーの自己認識×学校生活等であてはまること

学校生活等であてはまることについては、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「授業中に居眠りすることが多い」、「友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」の割合が高くなっている。

図表Ⅲ-2-65 ヤングケアラーの自己認識×学校生活等であてはまること(複数回答)

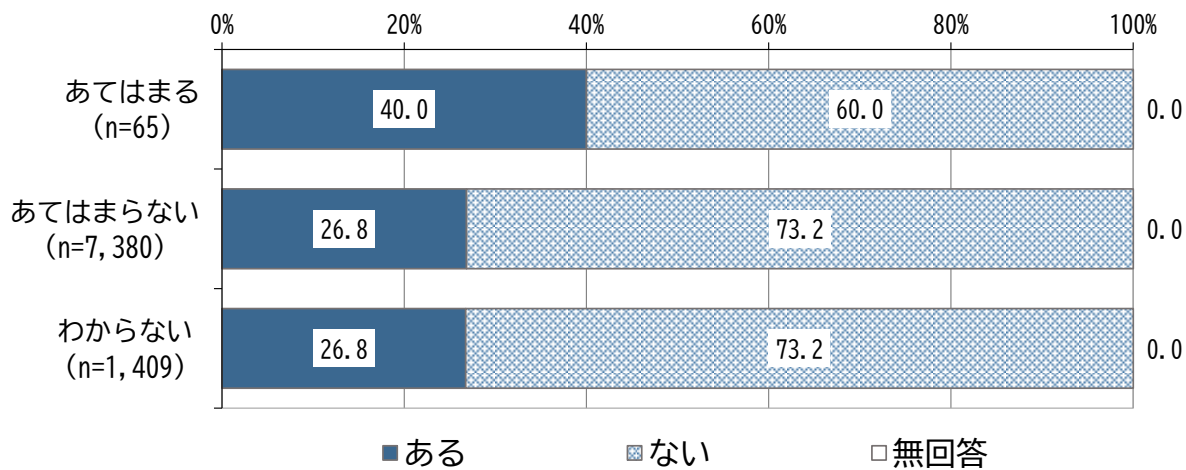


⑤ ヤングケアラーの自己認識×現在の悩みごと

i) ヤングケアラーの自己認識×悩みごとの有無

悩みごとの有無については、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「ある」の割合が高くなっている。

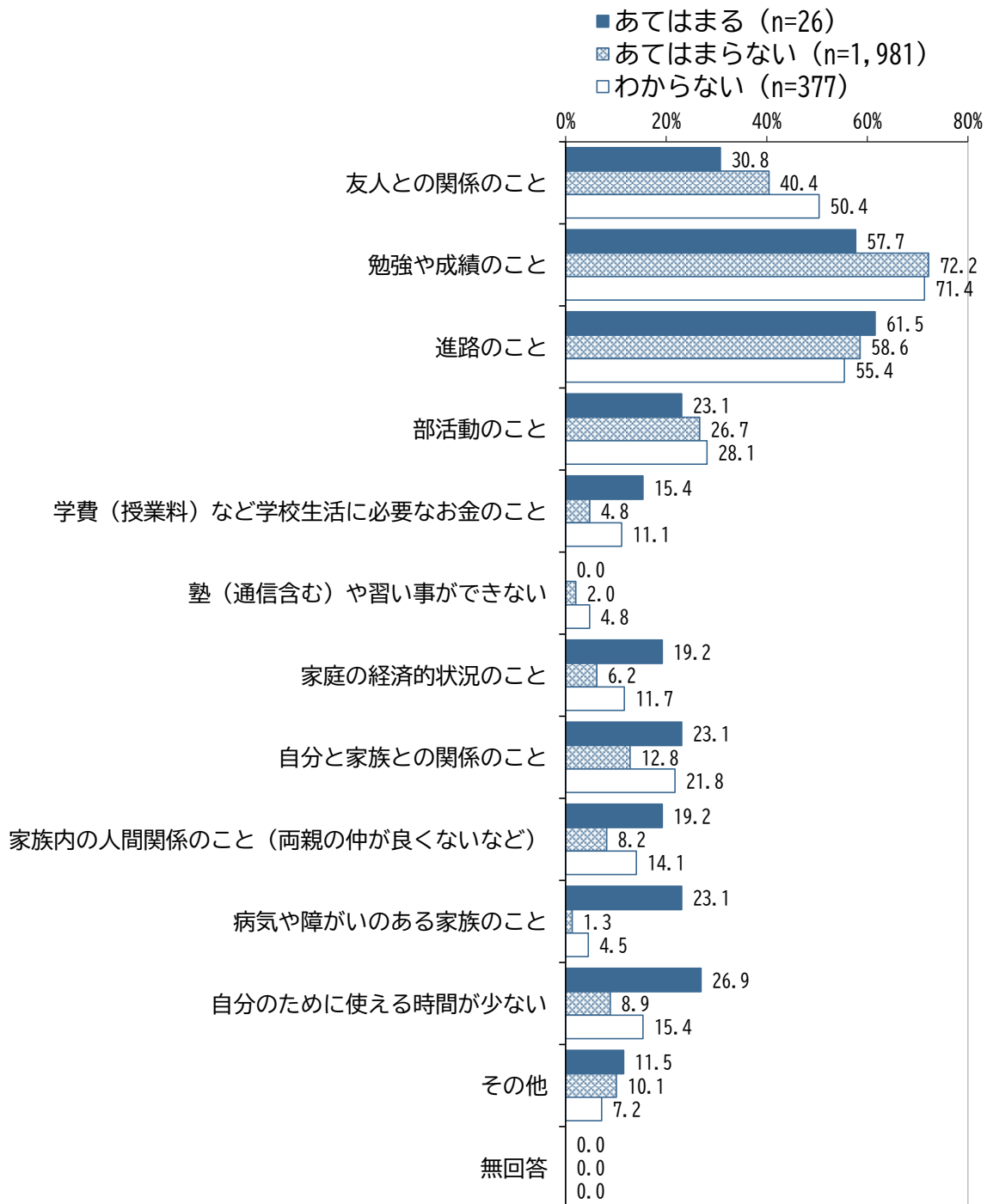
図表Ⅲ-2-66 ヤングケアラーの自己認識×悩みごとの有無



ii) ヤングケアラーの自己認識×現在の悩みごと

現在の悩みごとについて、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「進路のこと」、「学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと」、「家庭の経済的状況のこと」、「自分と家族との関係のこと」、「家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)」、「病気や障がいのある家族のこと」、「自分のために使える時間が少ない」、「その他」の割合が高くなっている。

図表Ⅲ-2-67 ヤングケアラーの自己認識×現在の悩みごと(複数回答)

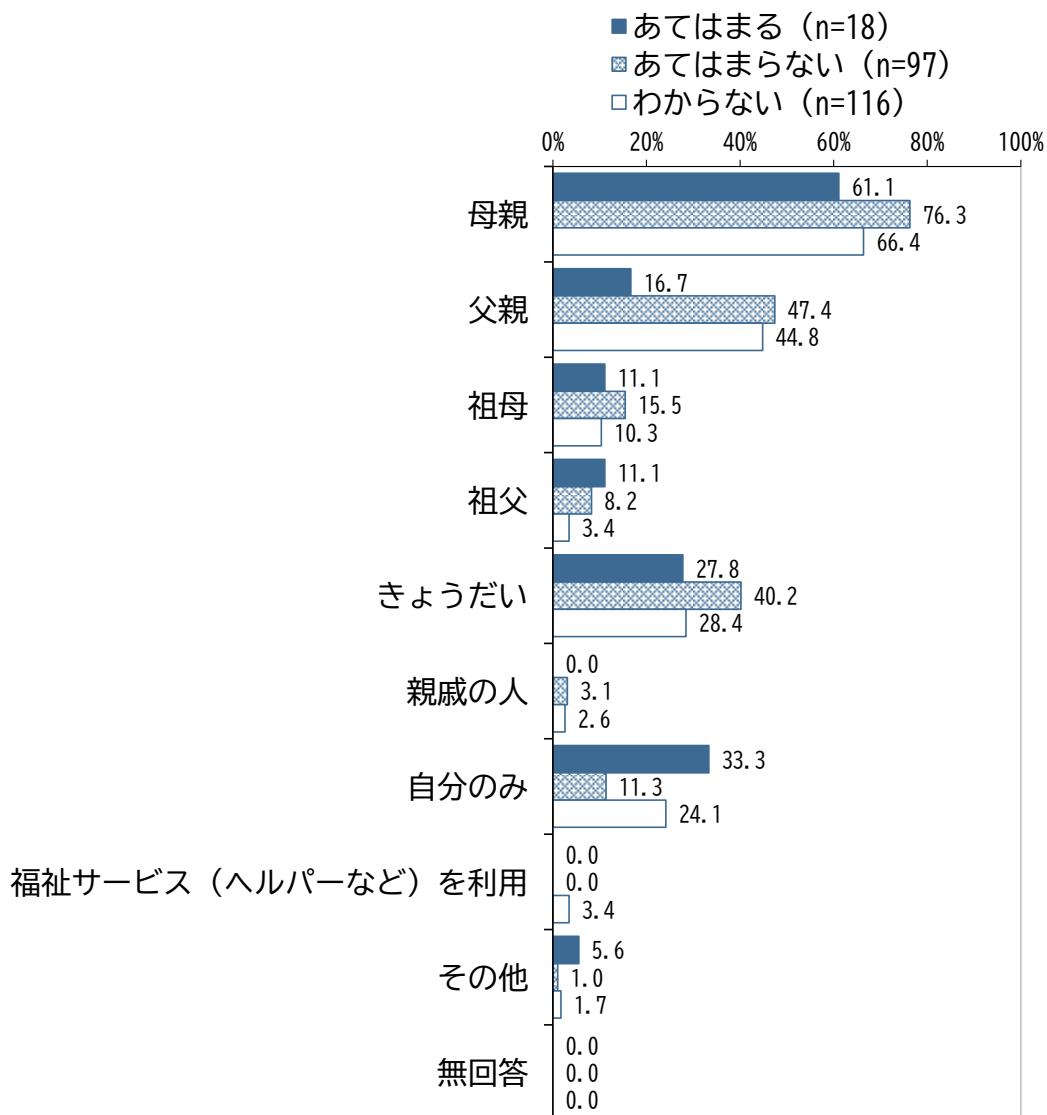




⑥ ヤングケアラーの自己認識×世話を一緒にする人

世話を一緒にする人について、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「自分のみ」、「その他」の割合が高くなっている。

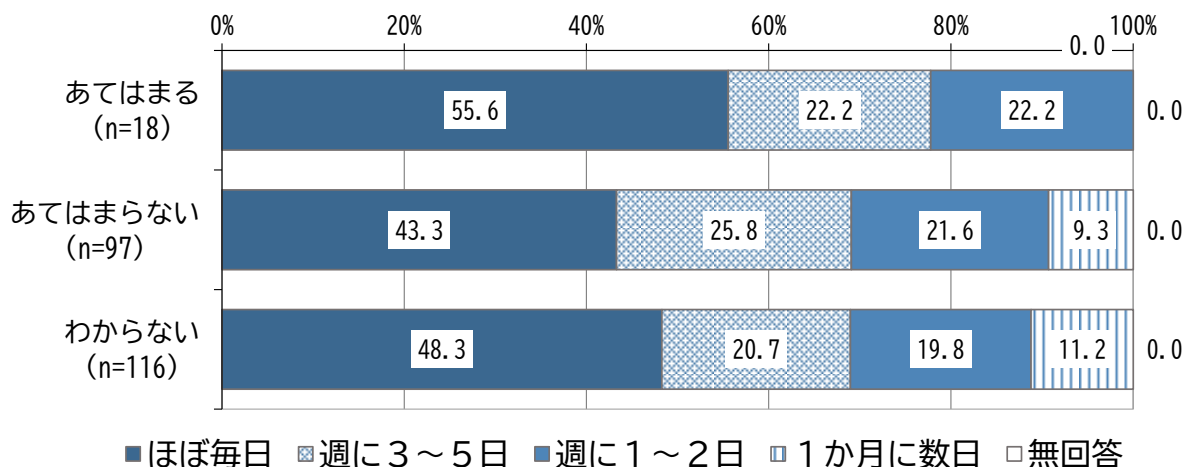
図表Ⅲ-2-68 ヤングケアラーの自己認識×世話を一緒にする人(複数回答)



⑦ ヤングケアラーの自己認識×世話の頻度

世話の頻度について、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。

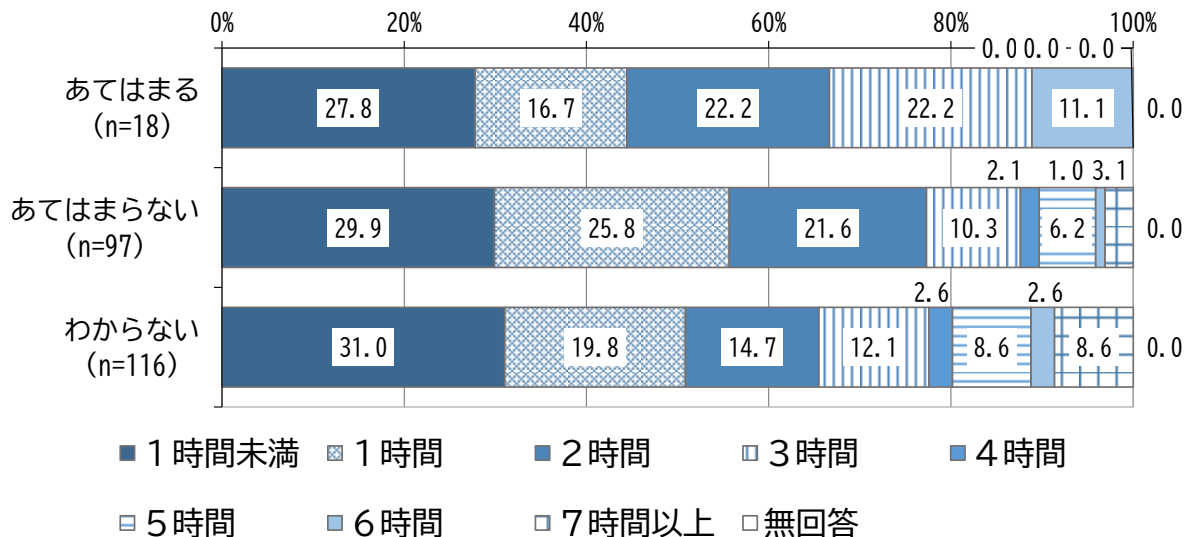
図表Ⅲ-2-69 ヤングケアラーの自己認識×世話の頻度



⑧ ヤングケアラーの自己認識×世話に費やす時間

世話に費やす時間について、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、『2時間以上』の割合が高くなっている。

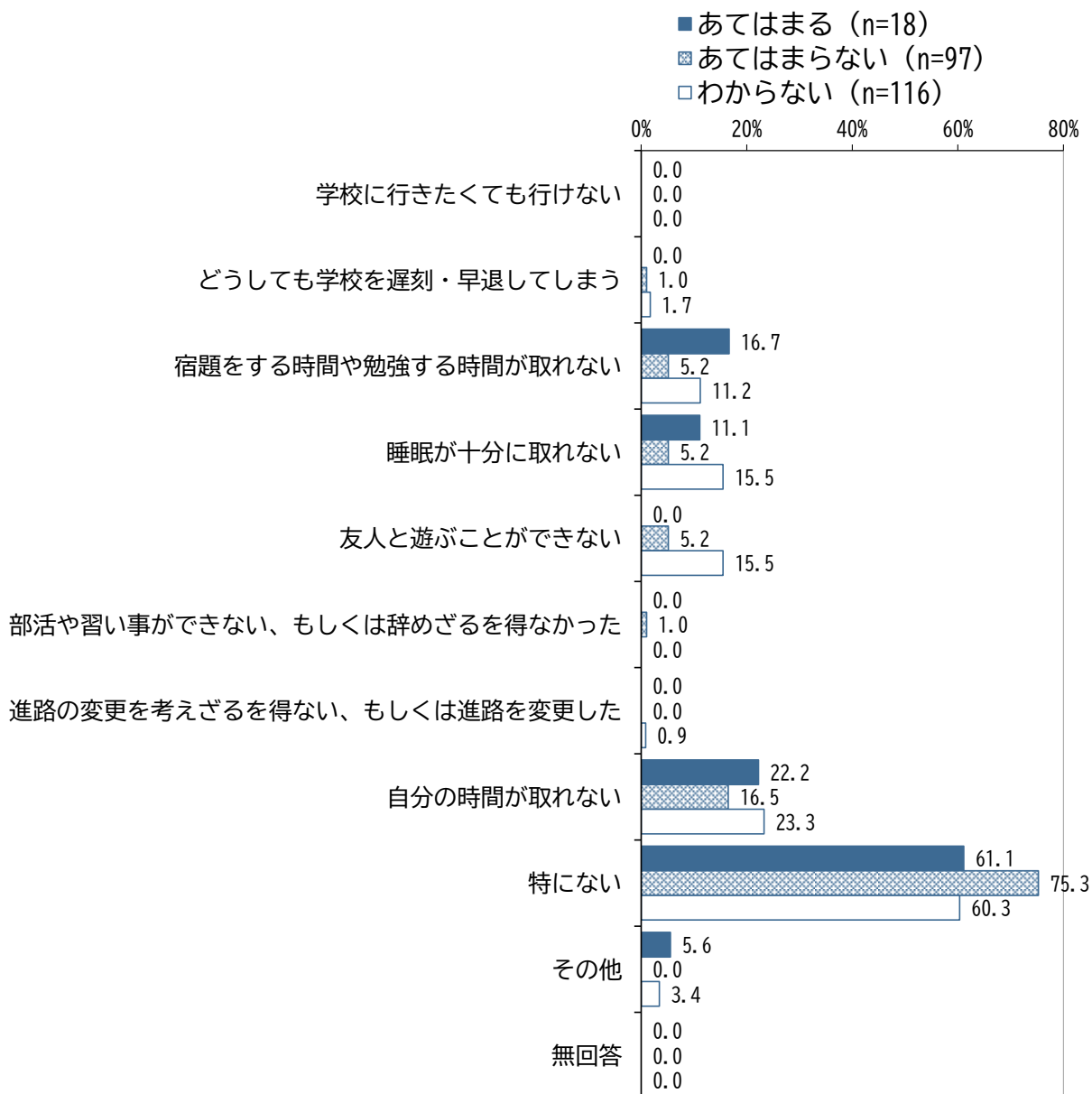
図表Ⅲ-2-70 ヤングケアラーの自己認識×世話に費やす時間



⑨ ヤングケアラーの自己認識×世話による制約

世話による制約について、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」の割合が高くなっている。

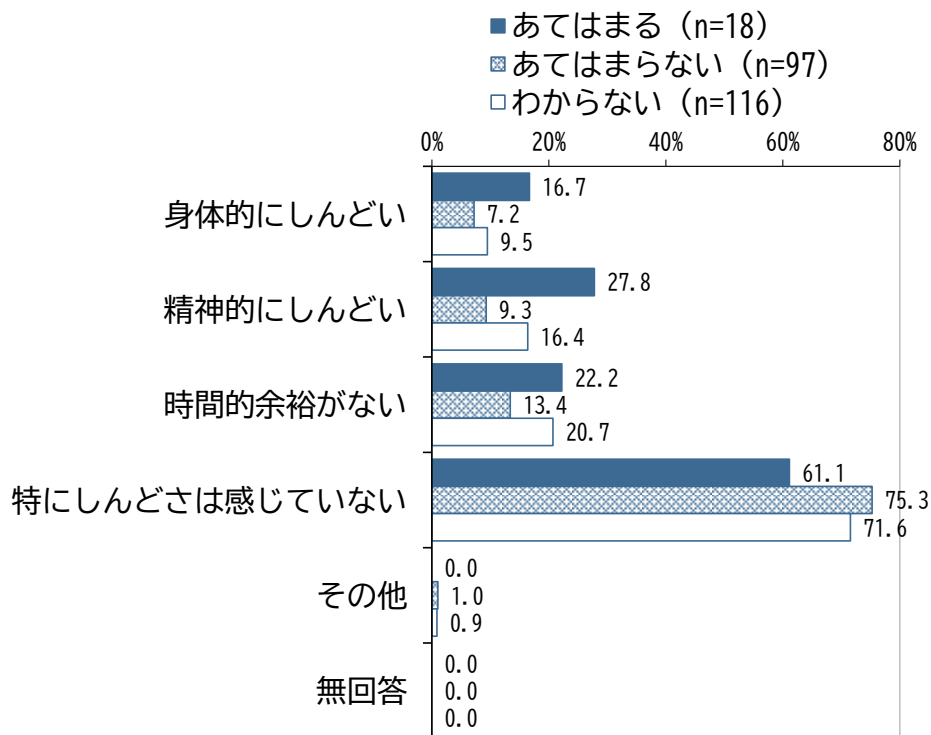
図表Ⅲ-2-71 ヤングケアラーの自己認識×世話をしているためにやりたいけれどできていないこと  
(複数回答)



⑩ ヤングケアラーの自己認識×世話をすることに感じているきつさ

世話をすることに感じているきつさについて、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「身体的にしんどい」、「精神的にしんどい」、「時間的余裕がない」の割合が高くなっている。

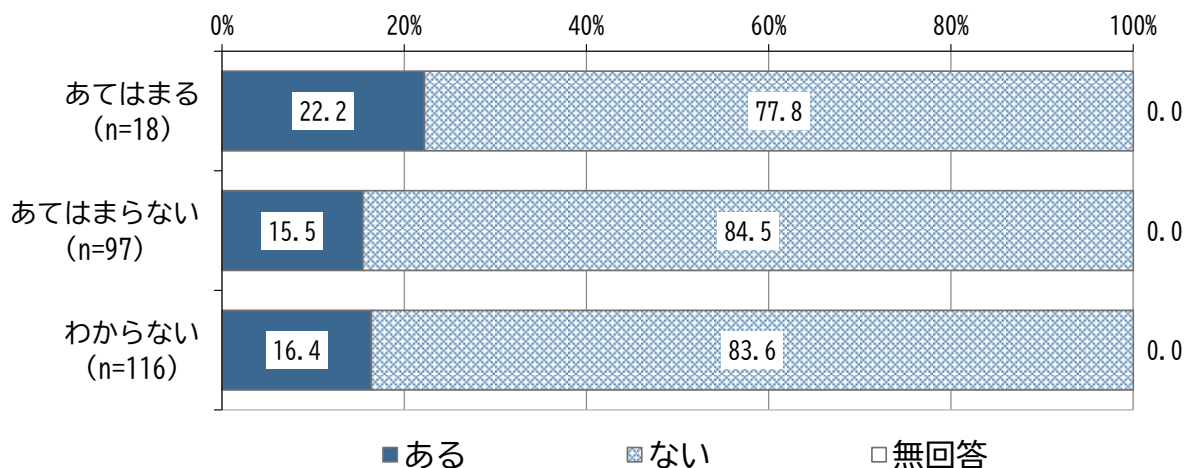
図表Ⅲ-2-72 ヤングケアラーの自己認識×世話をすることに感じているきつさ(複数回答)



⑪ ヤングケアラーの自己認識×世話について相談した経験

世話について相談した経験について、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「ある」の割合が高くなっている。

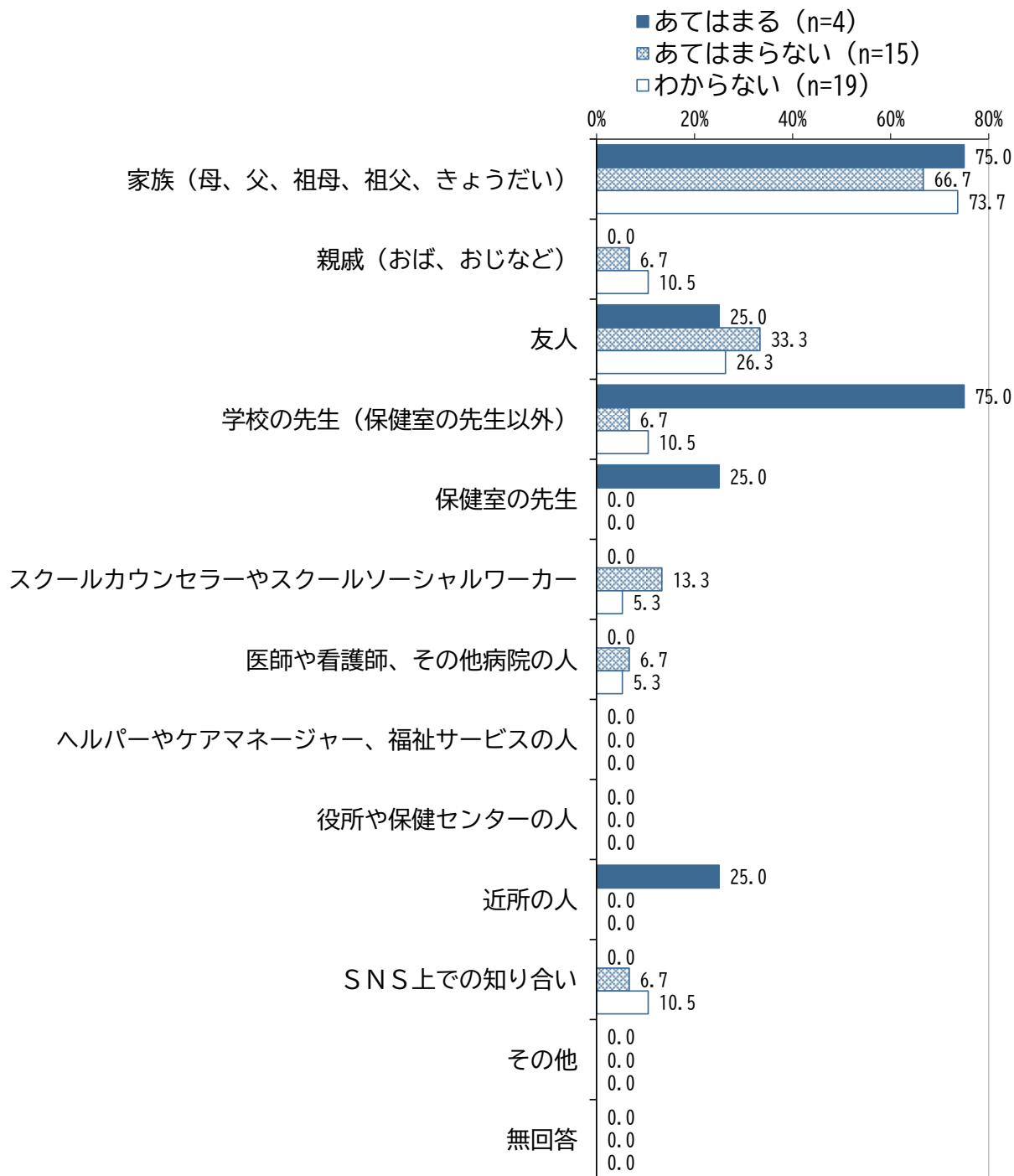
図表Ⅲ-2-73 ヤングケアラーの自己認識×世話について相談した経験



⑫ ヤングケアラーの自己認識×世話についての相談相手

世話についての相談相手について、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「家族(母、父、祖母、祖父、きょうだい)」、「学校の先生(保健室の先生以外)」、「保健室の先生」、「近所の人」の割合が高くなっている。

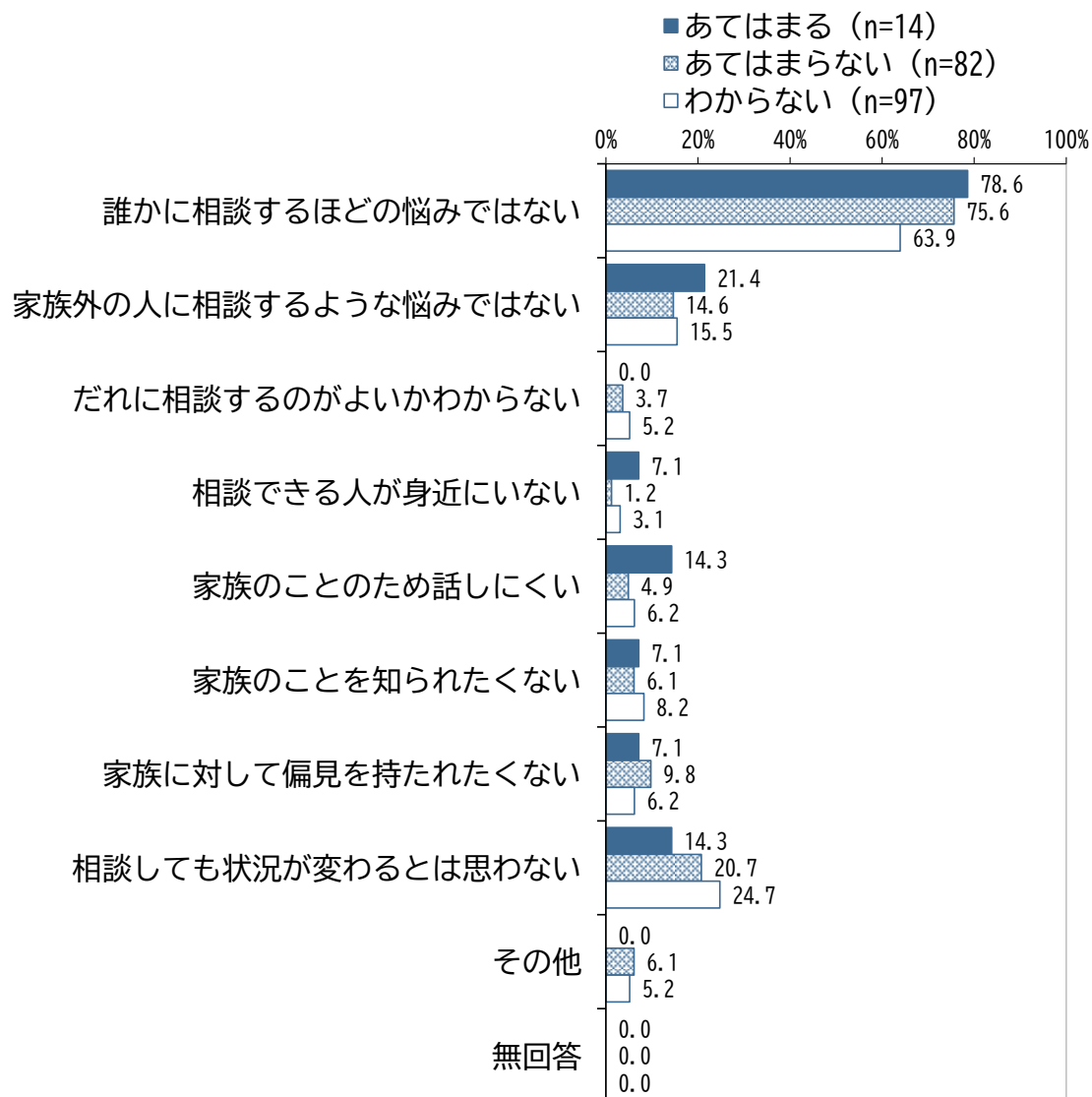
図表Ⅲ-2-74 ヤングケアラーの自己認識×世話についての相談相手(複数回答)



### ⑬ ヤングケアラーの自己認識×世話について相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由について、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「誰かに相談するほどの悩みではない」、「家族外の人に相談するような悩みではない」、「相談できる人が身近にいない」、「家族のこのため話しにくい」の割合が高くなっている。

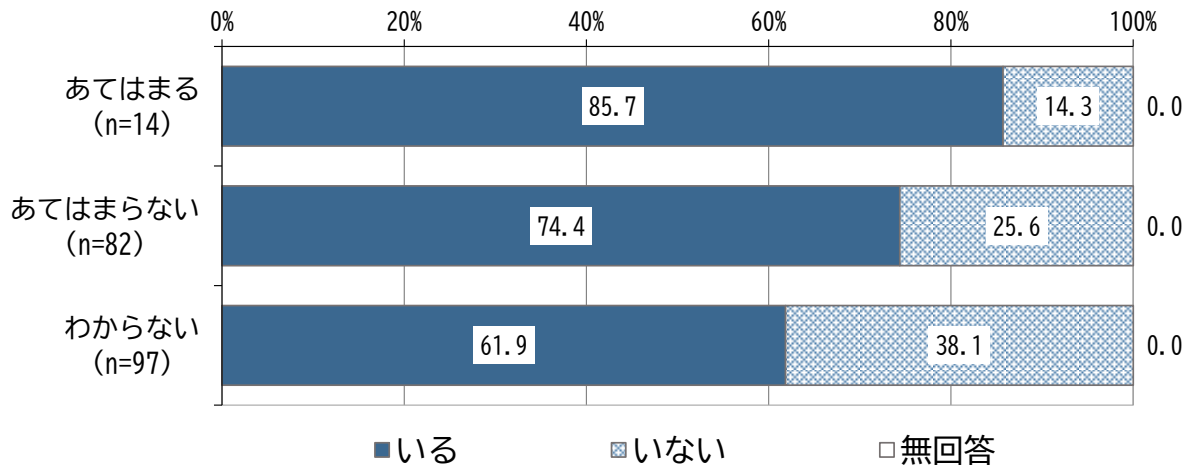
図表Ⅲ-2-75 ヤングケアラーの自己認識×世話について相談したことがない理由(複数回答)



⑭ ヤングケアラーの自己認識×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について話を聞いてくれる人の有無について、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「いる」の割合が高くなっている。

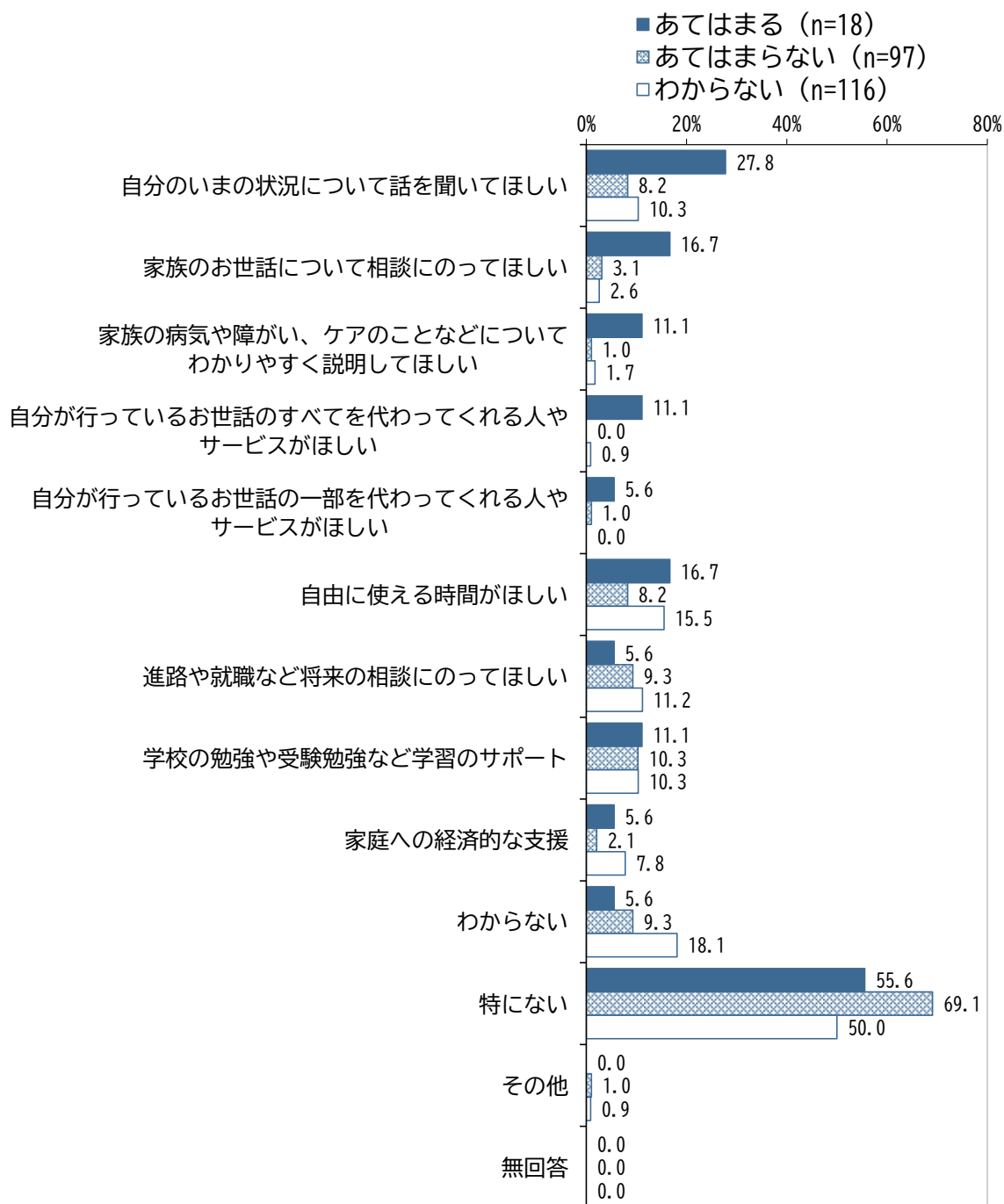
図表Ⅲ-2-76 ヤングケアラーの自己認識×世話について話を聞いてくれる人の有無



### ⑮ ヤングケアラーの自己認識×学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについて、「あてはまる」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談にのってほしい」、「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」、「自分が行っているお世話のすべてを代わりにしてくれる人やサービスがほしい」、「自分が行っているお世話の一部を代わりにしてくれる人やサービスがほしい」、「自由に使える時間がほしい」、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」の割合が高くなっている。

図表Ⅲ-2-77 ヤングケアラーの自己認識×学校や大人にしてもらいたいこと(複数回答)



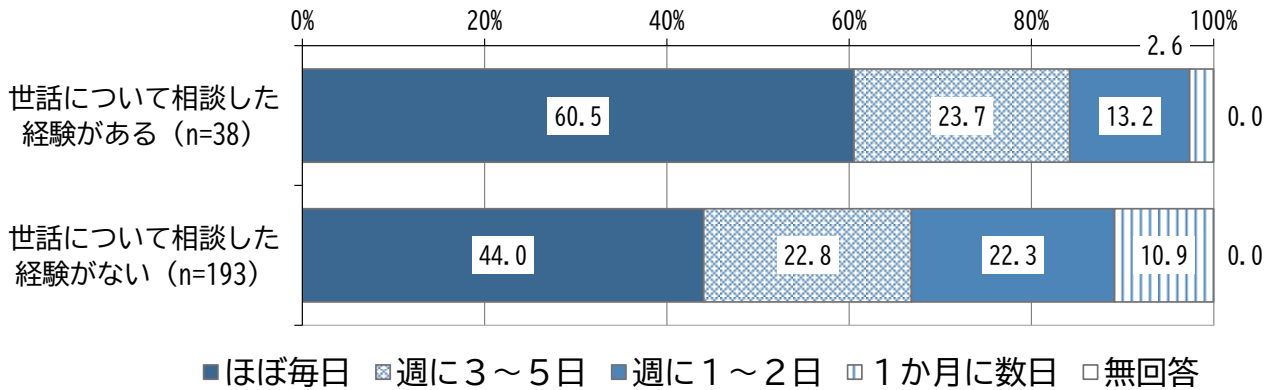


## (8)世話に関する相談の状況

### ① 世話に関する相談の経験×世話の頻度

世話の頻度について、世話について相談した経験がある場合では、世話について相談した経験がない場合に比べ、「ほぼ毎日」、「週に3～5日」の割合が高くなっている。

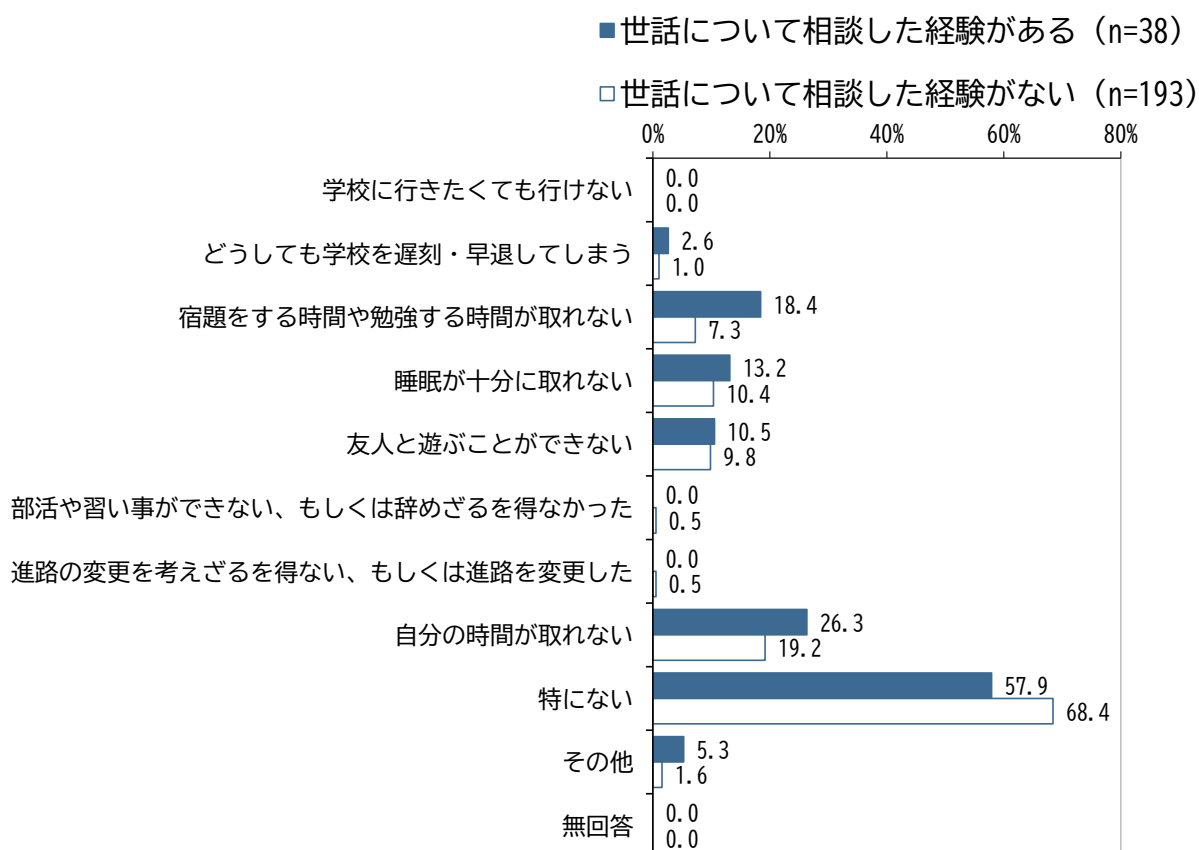
図表Ⅲ-2-78 世話に関する相談の経験×世話の頻度



## ② 世話に関する相談の経験×世話による制約

世話による制約について、世話について相談した経験がある場合では、世話について相談した経験がない場合に比べ、「どうしても学校を遅刻・早退してしまう」、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、「睡眠が十分に取れない」、「友人と遊ぶことができない」、「自分の時間が取れない」の割合が高くなっている。

図表Ⅲ-2-79 世話に関する相談の経験×世話をしているためにやりたいけれどできていないこと  
(複数回答)

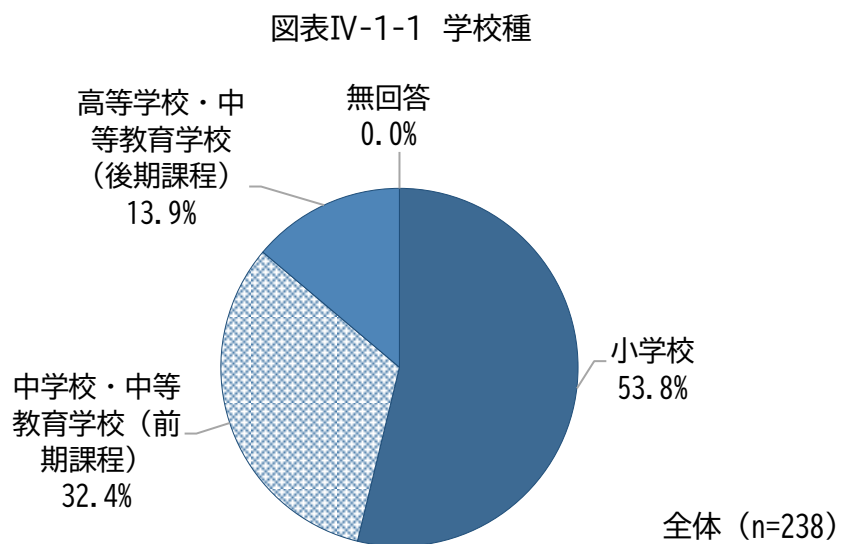


## IV 学校へのアンケート調査

### 1 基本情報

#### (1) 学校種

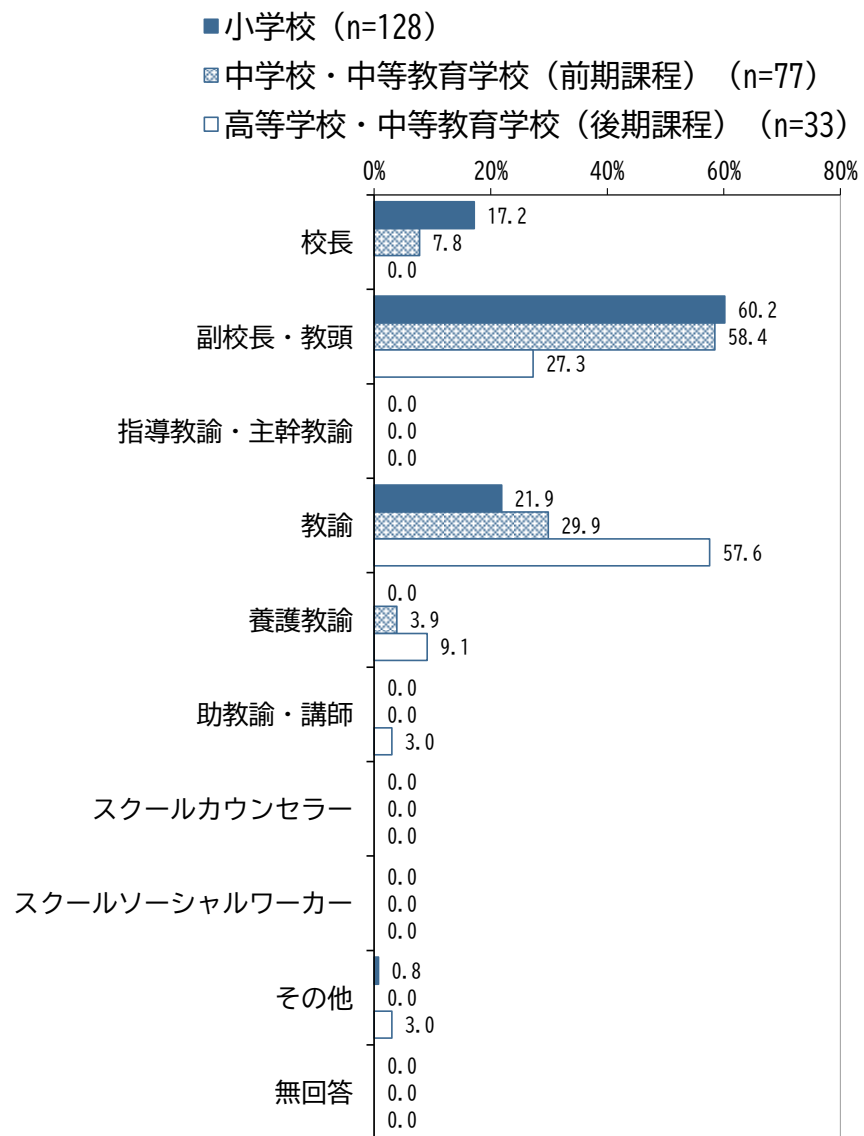
学校種については、以下の通りである。



## (2)回答者の役職

回答者の役職については、以下の通りである。

図表IV-1-2 回答者の役職



### (3) 学校の所在地

学校の所在地については、以下の通りである。

図表IV-1-3 学校の所在地

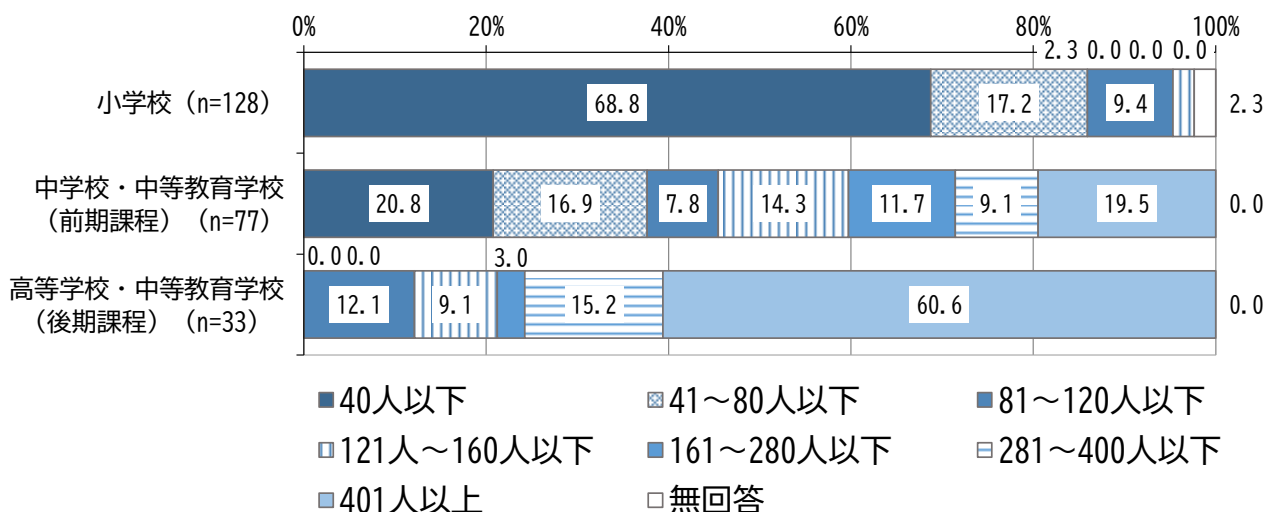
小学校(n=128)、中学校・中等教育学校(前期課程)(n=77)、高等学校・中等教育学校(後期課程)(n=33)

市町村	構成比(%)			市町村	構成比(%)		
	小学校	中学校・中等教育学校(前期課程)	高等学校・中等教育学校(後期課程)		小学校	中学校・中等教育学校(前期課程)	高等学校・中等教育学校(後期課程)
徳島市	16.4	16.9	27.3	那賀町	2.3	3.9	3.0
鳴門市	4.7	6.5	6.1	美波町	2.3	3.9	0.0
小松島市	7.8	2.6	6.1	牟岐町	0.8	1.3	0.0
阿南市	12.5	13.0	12.1	海陽町	2.3	2.6	3.0
吉野川市	7.0	6.5	6.1	松茂町	2.3	1.3	0.0
阿波市	7.8	5.2	6.1	北島町	2.3	1.3	0.0
美馬市	3.1	9.1	6.1	藍住町	3.1	2.6	0.0
三好市	9.4	7.8	9.1	板野町	3.1	1.3	3.0
勝浦町	1.6	1.3	3.0	上板町	1.6	1.3	0.0
上勝町	0.8	1.3	0.0	つるぎ町	2.3	2.6	3.0
佐那河内村	0.8	1.3	0.0	東みよし町	1.6	2.6	0.0
石井町	2.3	2.6	3.0	無回答	0.0	0.0	0.0
神山町	1.6	1.3	3.0	合計	100.0	100.0	100.0

### (4) 学校規模

学校規模については、以下の通りである。

図表IV-1-4 学校規模



## 2 支援が必要だと思われる子どもへの対応

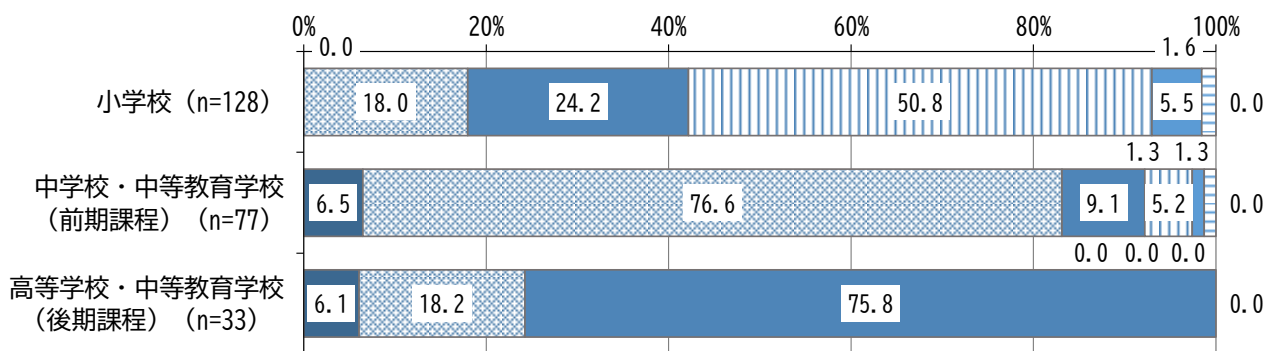
### (1)SCの配置・派遣状況

SC(スクールカウンセラー)の配置・派遣状況について、小学校では、「要請に応じて派遣される」が50.8%で最も高く、次いで「月に数回以下で派遣・配置されている」が24.2%、「週に1回程度派遣・配置されている」が18.0%と続いている。

中学校・中等教育学校(前期課程)では、「週に1回程度派遣・配置されている」が76.6%で最も高く、次いで「月に数回以下で派遣・配置されている」が9.1%、「週に2～3回以上派遣・配置されている」が6.5%と続いている。

高等学校・中等教育学校(後期課程)では、「月に数回以下で派遣・配置されている」が75.8%で最も高く、次いで「週に1回程度派遣・配置されている」が18.2%、「週に2～3回以上派遣・配置されている」が6.1%と続いている。

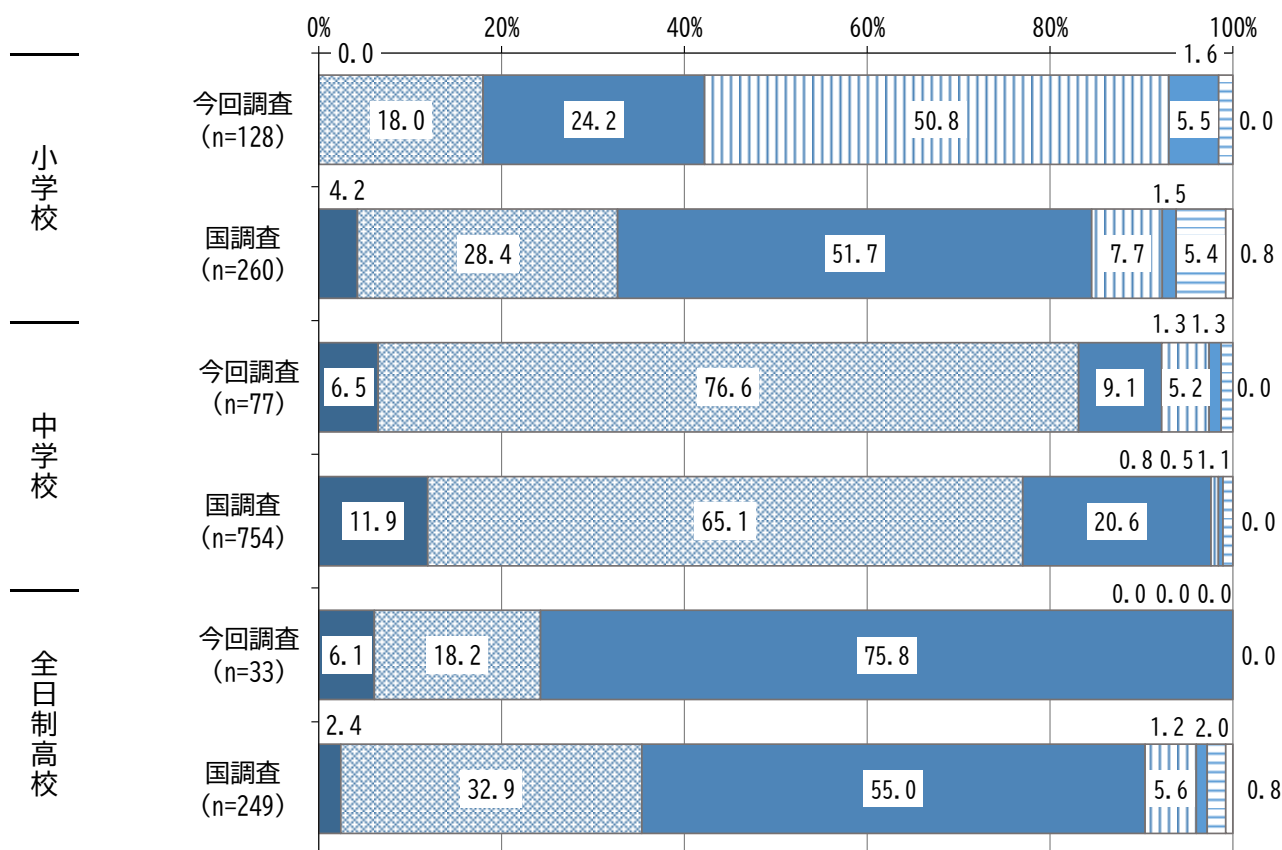
図表IV-2-1 SCの配置・派遣状況



- 週に2～3回以上派遣・配置されている
- ▨ 週に1回程度派遣・配置されている
- 月に数回以下で派遣・配置されている
- ▨ 要請に応じて派遣される
- 派遣・配置されていない
- その他
- 無回答

国調査と比較すると、『週に1回以上派遣・配置されている』（「週に2～3回以上派遣・配置されている」と「週に1回程度派遣・配置されている」の合計）では、小学校、全日制高校いずれも国調査より割合が低くなっている。

図表IV-2-2 SCの配置・派遣状況 国調査との比較



- 週に2～3回以上派遣・配置されている
- ▨ 週に1回程度派遣・配置されている
- 月に数回以下で派遣・配置されている
- ▨ 要請に応じて派遣される
- 派遣・配置されていない
- ▨ その他
- 無回答

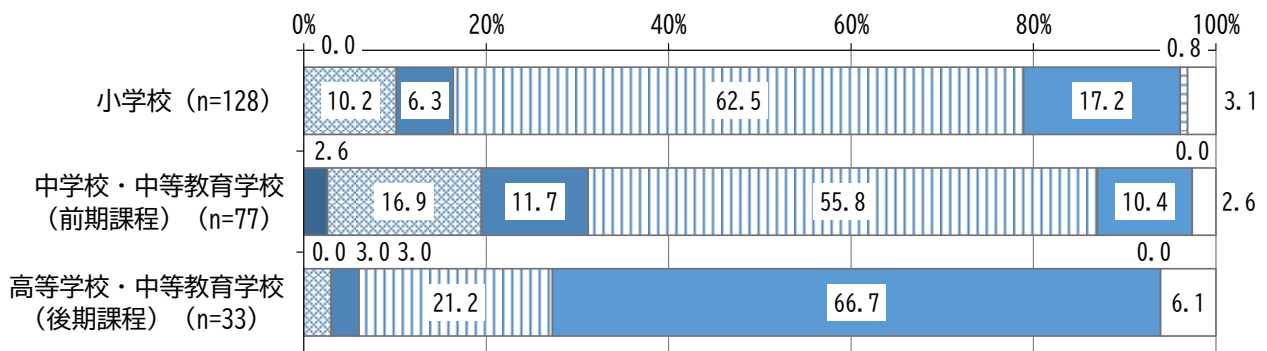
## (2)SSWの配置・派遣状況

SSW(スクールソーシャルワーカー)の配置・派遣状況について、小学校では、「要請に応じて派遣される」が62.5%で最も高く、次いで「派遣・配置されていない」が17.2%、「週に1回程度派遣・配置されている」が10.2%と続いている。

中学校・中等教育学校(前期課程)では、「要請に応じて派遣される」が55.8%で最も高く、次いで「週に1回程度派遣・配置されている」が16.9%、「月に数回以下で派遣・配置されている」が11.7%と続いている。

高等学校・中等教育学校(後期課程)では「派遣・配置されていない」が66.7%で最も高く、次いで「要請に応じて派遣される」が21.2%、「週に1回程度派遣・配置されている」、「月に数回以下で派遣・配置されている」がいずれも3.0%となっている。

図表IV-2-3 SSWの配置・派遣状況

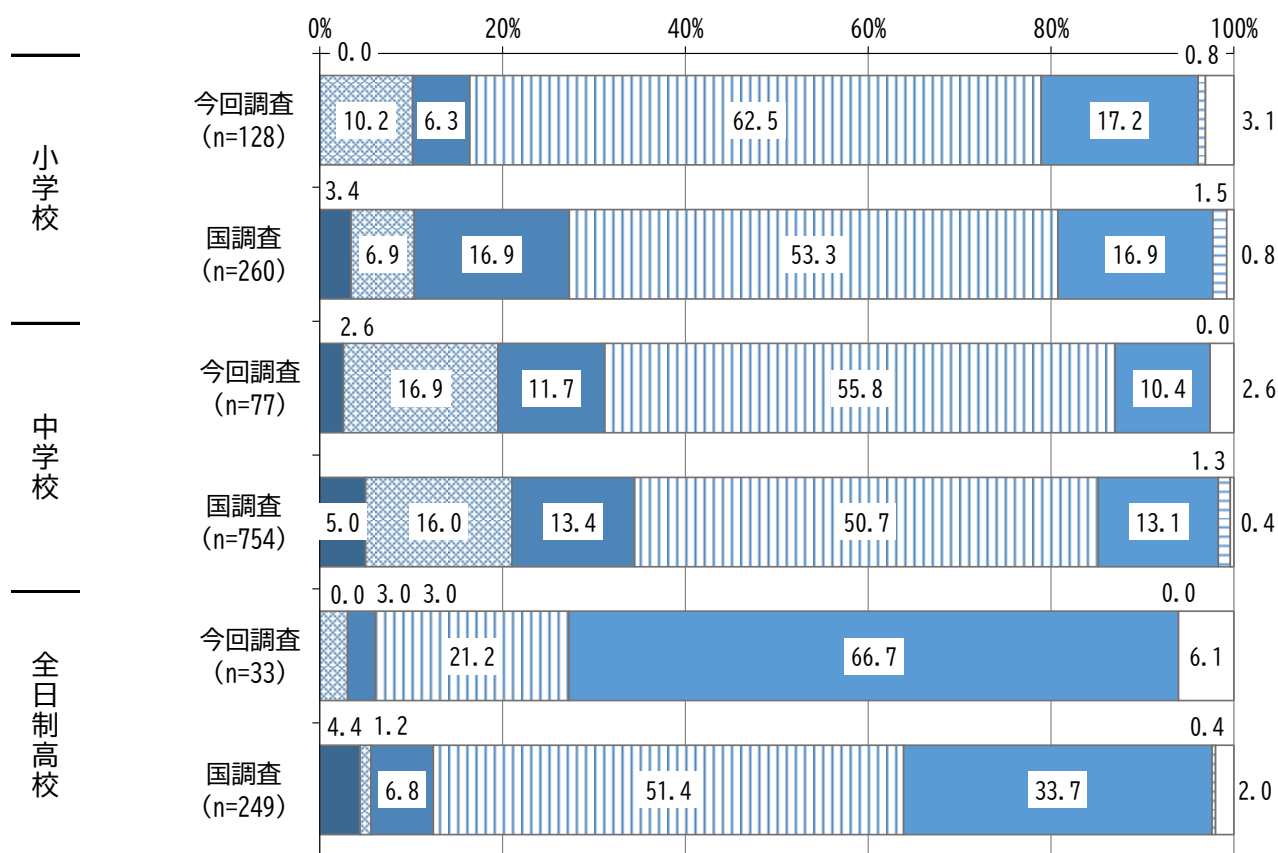


- 週に2～3回以上派遣・配置されている
- ▣ 週に1回程度派遣・配置されている
- 月に数回以下で派遣・配置されている
- ▣ 要請に応じて派遣される
- 派遣・配置されていない
- その他
- 無回答



国調査と比較すると、「派遣・配置されていない」では、全日制高校は国調査より割合が高くなっている。

図表IV-2-4 SSWの配置・派遣状況 国調査との比較



- 週に2～3回以上派遣・配置されている
- ▨ 週に1回程度派遣・配置されている
- 月に数回以下で派遣・配置されている
- ▨ 要請に応じて派遣される
- 派遣・配置されていない
- ▨ その他
- 無回答

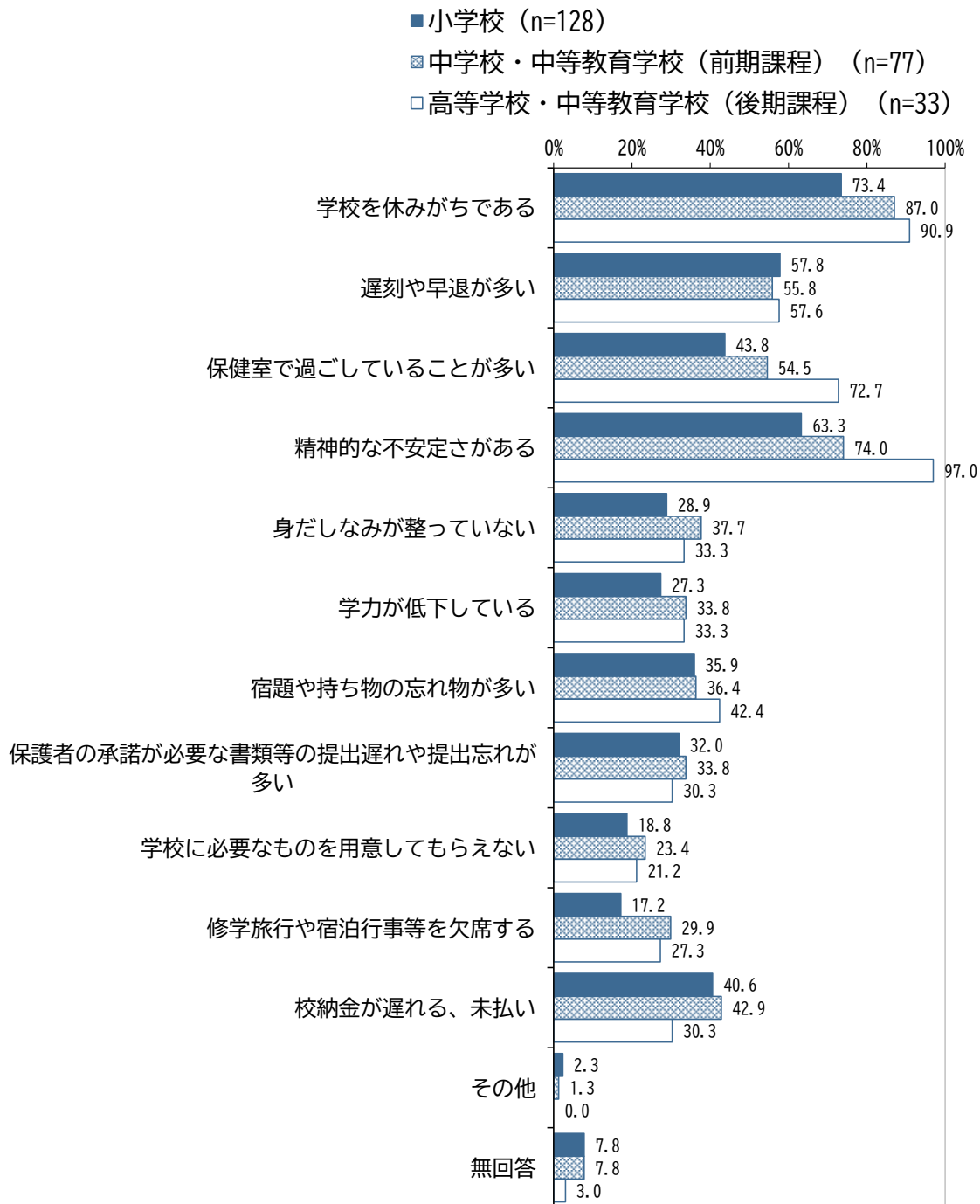
### (3)校内で共有している子どものケース

校内で共有している子どものケースについて、小学校では、「学校を休みがちである」が73.4%で最も高く、次いで「精神的な不安定さがある」が63.3%、「遅刻や早退が多い」が57.8%と続いている。

中学校・中等教育学校(前期課程)では、「学校を休みがちである」が87.0%で最も高く、次いで「精神的な不安定さがある」が74.0%、「遅刻や早退が多い」が55.8%と続いている。

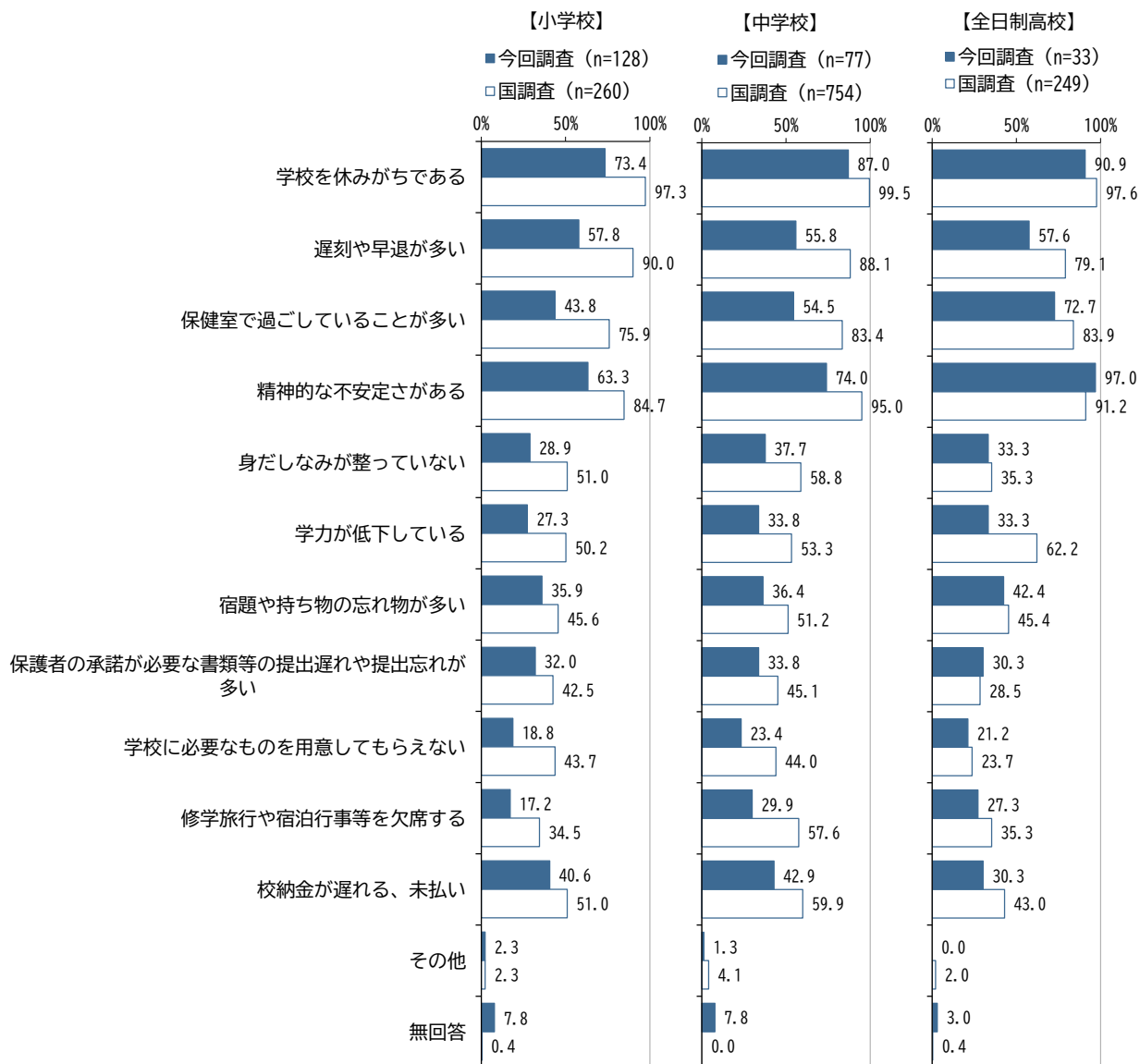
高等学校・中等教育学校(後期課程)では、「精神的な不安定さがある」が97.0%で最も高く、次いで「学校を休みがちである」が90.9%、「保健室で過ごしていることが多い」が72.7%と続いている。

図表IV-2-5 校内で共有している子どものケース(複数回答)



国調査と比較すると、小学校、中学校、全日制高校いずれも多くの項目で国調査より割合が低くなっている。

図表IV-2-6 校内で共有している子どものケース 国調査との比較



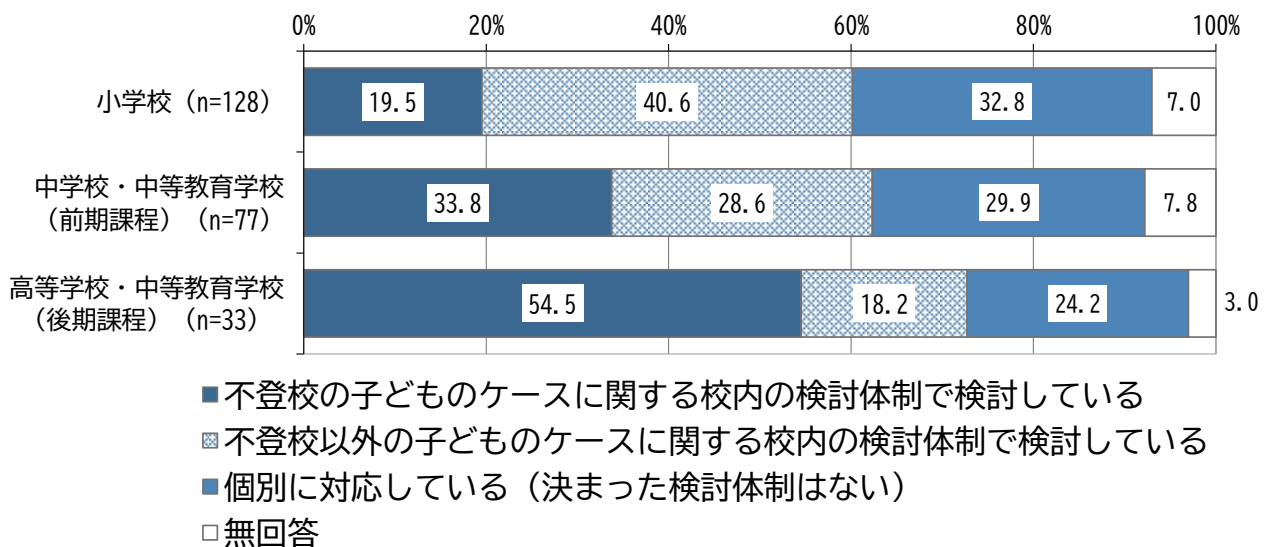
#### (4)情報共有・対応の検討体制

校内で共有している子どものケースについての情報共有・対応の検討体制について、小学校では、「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」が40.6%で最も高く、次いで「個別に対応している(決まった検討体制はない)」が32.8%、「不登校の子どもに関する校内の検討体制で検討している」が19.5%となっている。

中学校・中等教育学校(前期課程)では、「不登校の子どもに関する校内の検討体制で検討している」が33.8%で最も高く、次いで「個別に対応している(決まった検討体制はない)」が29.9%、「不登校以外の子どもに関する校内の検討体制で検討している」が28.6%となっている。

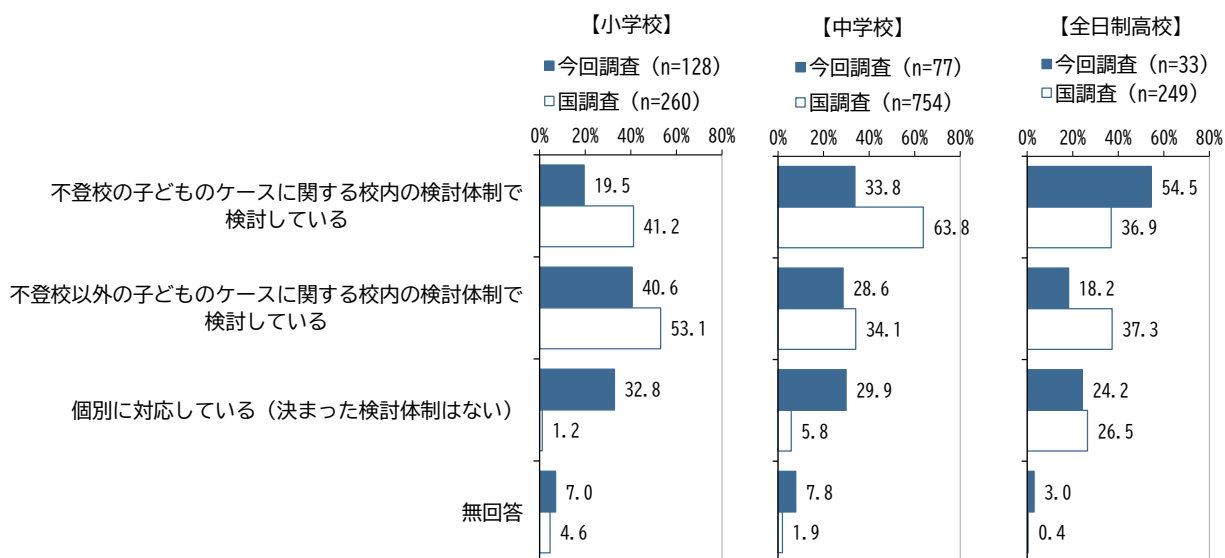
高等学校・中等教育学校(後期課程)では、「不登校の子どもに関する校内の検討体制で検討している」が54.5%で最も高く、次いで「個別に対応している(決まった検討体制はない)」が24.2%、「不登校以外の子どもに関する校内の検討体制で検討している」が18.2%となっている。

図表IV-2-7 情報共有・対応の検討体制



国調査とは集計方法が異なるため、参考として記載する。

図表IV-2-8 情報共有・対応の検討体制 国調査との比較



※ 国調査は複数回答

## (5)校内の検討体制

前問で「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した学校の、校内の情報共有・対応の検討体制については以下の通りである。

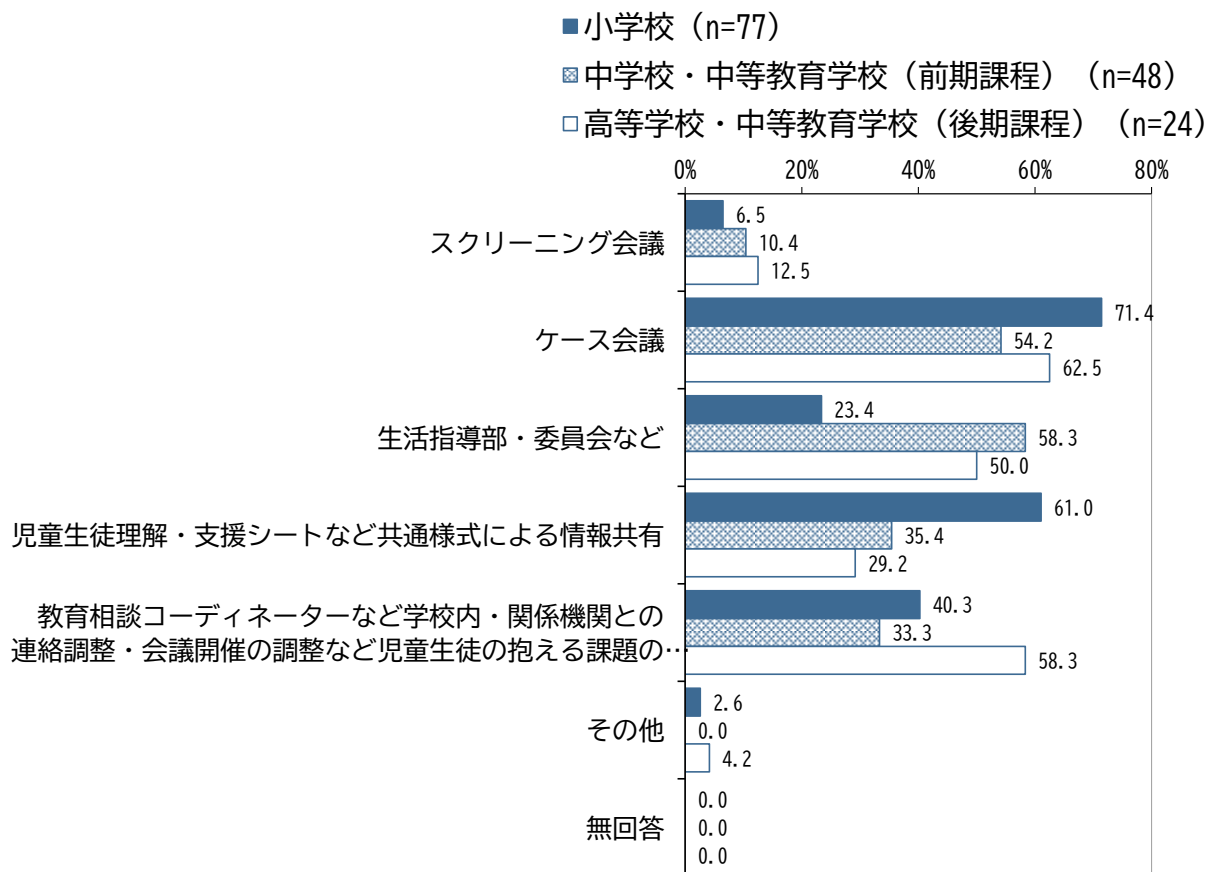
### ① 情報共有・対応の検討方法

情報共有・対応の検討方法について、小学校では、「ケース会議」が 71.4%で最も高く、次いで「児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有」が61.0%、「教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名」が 40.3%と続いている。

中学校・中等教育学校(前期課程)では、「生活指導部・委員会など」が 58.3%で最も高く、次いで「ケース会議」が 54.2%、「児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有」が 35.4%と続いている。

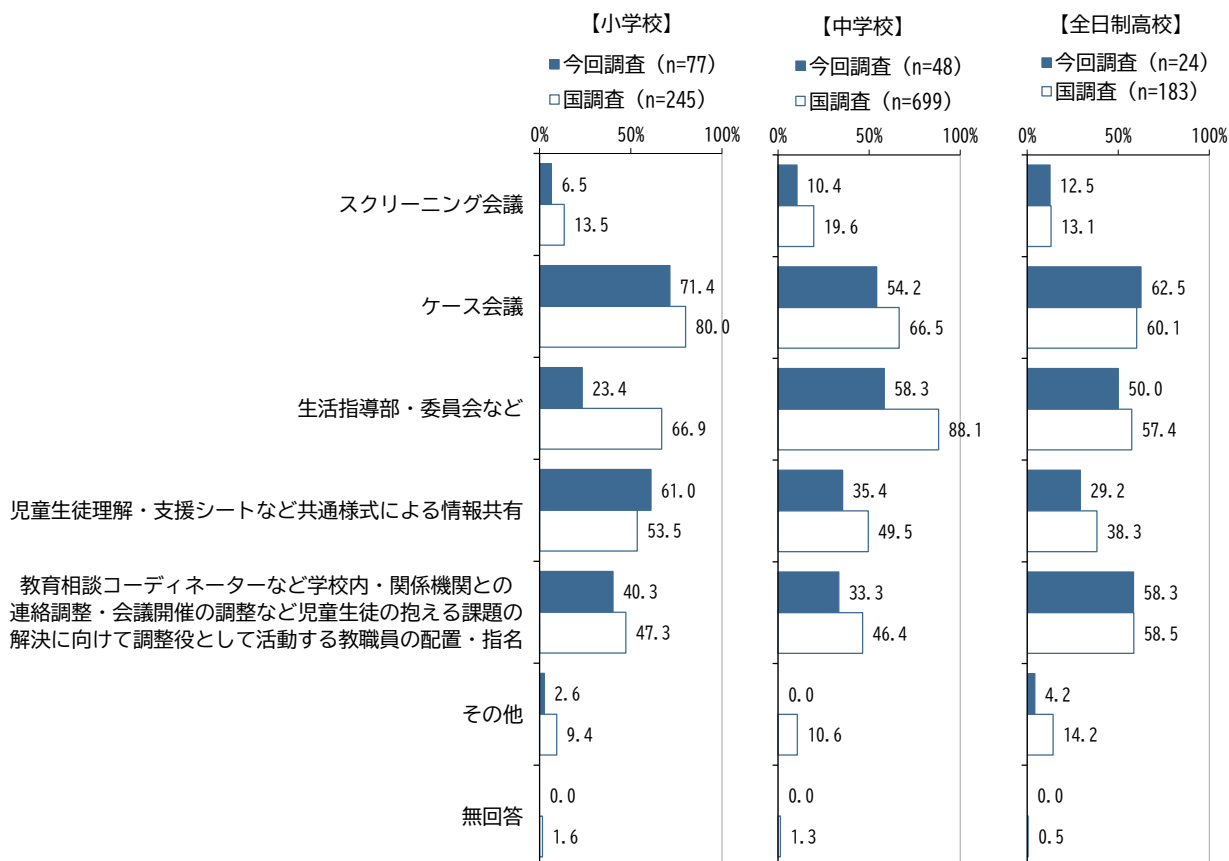
高等学校・中等教育学校(後期課程)では、「ケース会議」が 62.5%で最も高く、次いで「教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名」が 58.3%、「生活指導部・委員会など」が 50.0%と続いている。

図表IV-2-9 情報共有・対応の検討方法(複数回答)



国調査と比較すると、小学校では「児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有」が、全日制高校では「ケース会議」が国調査より割合が高くなっている。

図表IV-2-10 情報共有・対応の検討方法 国調査との比較



## ② 会議に参加する教職員、会議の頻度

情報共有・対応の検討方法として「スクリーニング会議」、「ケース会議」、「生活指導部・委員会など」、「その他」と回答した学校の、それぞれの会議の参加者および頻度については以下の通りである。

図表IV-2-11 スクリーニング会議 会議の参加者(複数回答)

単位：実数(校)、構成比(%)

		合計	校長	副校長・教頭	学年主任	学級担任	生活・生徒指導教諭	養護教諭	S C	S S W	外部の 関係機 関	その他	無 回 答
今回調査	小学校	5	80.0	100.0	20.0	100.0	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中学校・中等教育学校 (前期課程)	5	100.0	100.0	100.0	80.0	60.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高等学校・中等教育学校 (後期課程)	3	33.3	66.7	100.0	33.3	66.7	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
国調査	小学校	33	87.9	87.9	60.6	81.8	81.8	78.8	18.2	12.1	3.0	15.2	3.0
	中学校	137	75.2	80.3	59.1	40.9	77.4	67.9	49.6	25.5	12.4	36.5	2.9
	全日制高校	24	33.3	79.2	70.8	54.2	58.3	75.0	12.5	33.3	4.2	41.7	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表IV-2-12 ケース会議 会議の参加者(複数回答)

単位：実数(校)、構成比(%)

		合計	校長	副校長・教頭	学年主任	学級担任	生活・生徒指導教諭	養護教諭	S C	S S W	外部の 関係機 関	その他	無 回 答
今回調査	小学校	55	96.4	98.2	45.5	92.7	54.5	78.2	1.8	3.6	7.3	27.3	1.8
	中学校・中等教育学校 (前期課程)	26	73.1	88.5	92.3	96.2	57.7	73.1	34.6	34.6	30.8	3.8	0.0
	高等学校・中等教育学校 (後期課程)	15	6.7	86.7	93.3	93.3	53.3	73.3	46.7	0.0	13.3	26.7	6.7
国調査	小学校	196	91.8	96.4	61.2	92.3	66.3	75.5	26.0	24.0	20.9	23.5	1.5
	中学校	465	76.3	85.8	75.5	81.3	71.0	67.7	49.7	38.5	30.1	25.2	2.2
	全日制高校	110	28.2	80.0	87.3	88.2	50.9	87.3	55.5	26.4	10.0	40.9	0.9

※網掛け■は最も割合が高いもの



図表IV-2-13 生活指導部・委員会など 会議の参加者(複数回答)

単位：実数(校)、構成比(%)

		合計	校長	副校長・教頭	学年主任	学級担任	生活・生徒指導教諭	養護教諭	S C	S S W	外部の 関係機 関	その他	無 回 答
今回調査	小学校	18	77.8	83.3	77.8	72.2	88.9	72.2	0.0	0.0	0.0	5.6	11.1
	中学校・中等教育学校 (前期課程)	28	89.3	89.3	96.4	35.7	92.9	89.3	3.6	7.1	0.0	17.9	0.0
	高等学校・中等教育学校 (後期課程)	12	33.3	100.0	100.0	91.7	91.7	83.3	50.0	0.0	8.3	8.3	0.0
国調査	小学校	164	70.1	73.2	53.7	71.3	83.5	75.0	17.7	7.3	1.8	18.9	6.1
	中学校	615	68.1	76.3	39.3	26.8	92.0	75.9	38.7	15.0	3.7	28.8	3.3
	全日制高校	104	31.7	66.3	70.2	55.8	77.9	74.0	18.3	7.7	1.0	30.8	4.8

※網掛け■は最も割合が高いもの

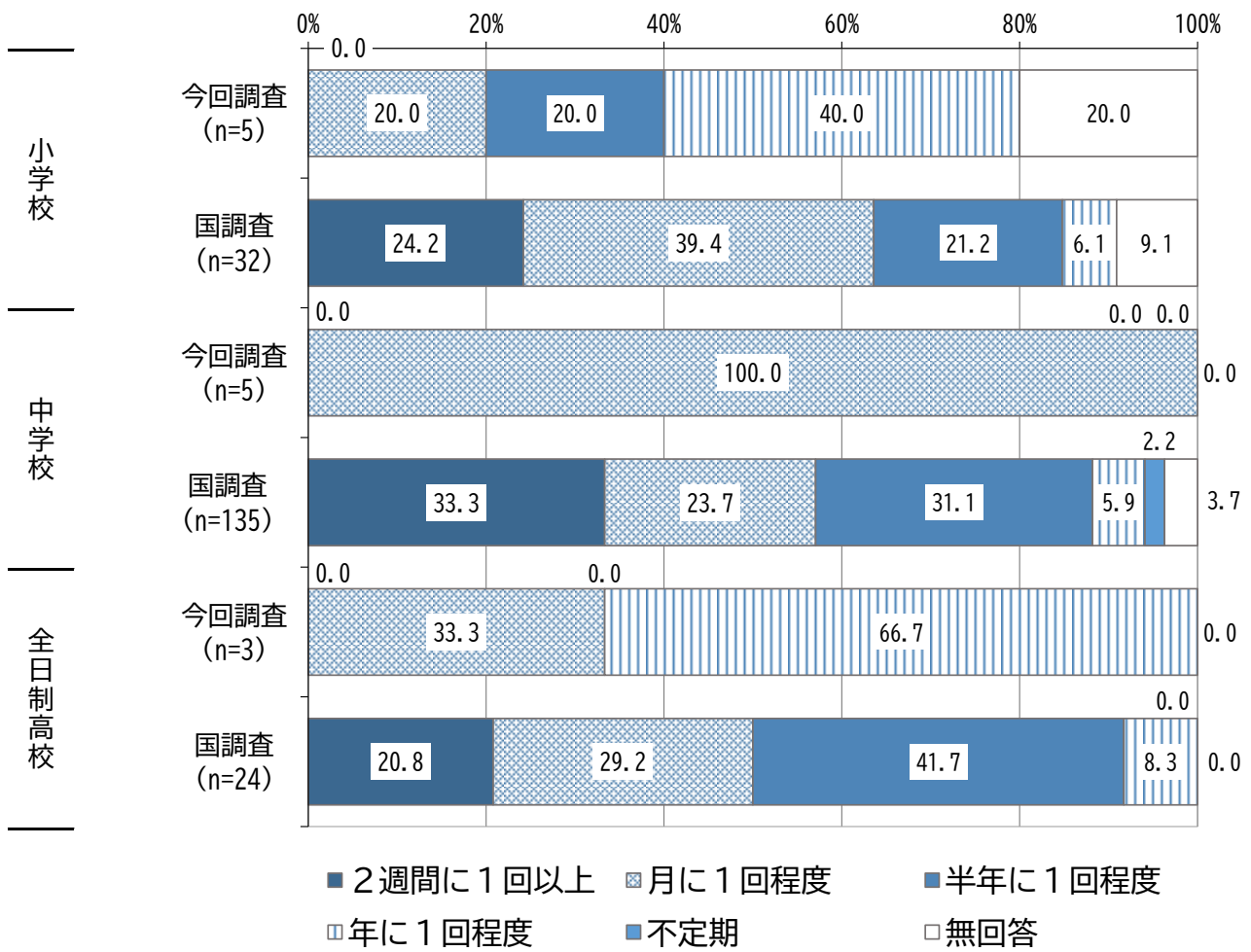
図表IV-2-14 その他 会議の参加者(複数回答)

単位：実数(校)、構成比(%)

		合計	校長	副校長・教頭	学年主任	学級担任	生活・生徒指導教諭	養護教諭	S C	S S W	外部の 関係機 関	その他	無 回 答
今回調査	小学校	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	中学校・中等教育学校 (前期課程)	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	高等学校・中等教育学校 (後期課程)	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
国調査	小学校	23	78.3	82.6	60.9	60.9	56.5	60.9	26.1	0.0	0.0	34.8	4.3
	中学校	72	58.3	65.3	54.2	22.2	54.2	61.1	25.0	6.9	1.4	50.0	13.9
	全日制高校	26	26.9	42.3	61.5	53.8	34.6	61.5	15.4	7.7	0.0	42.3	15.4

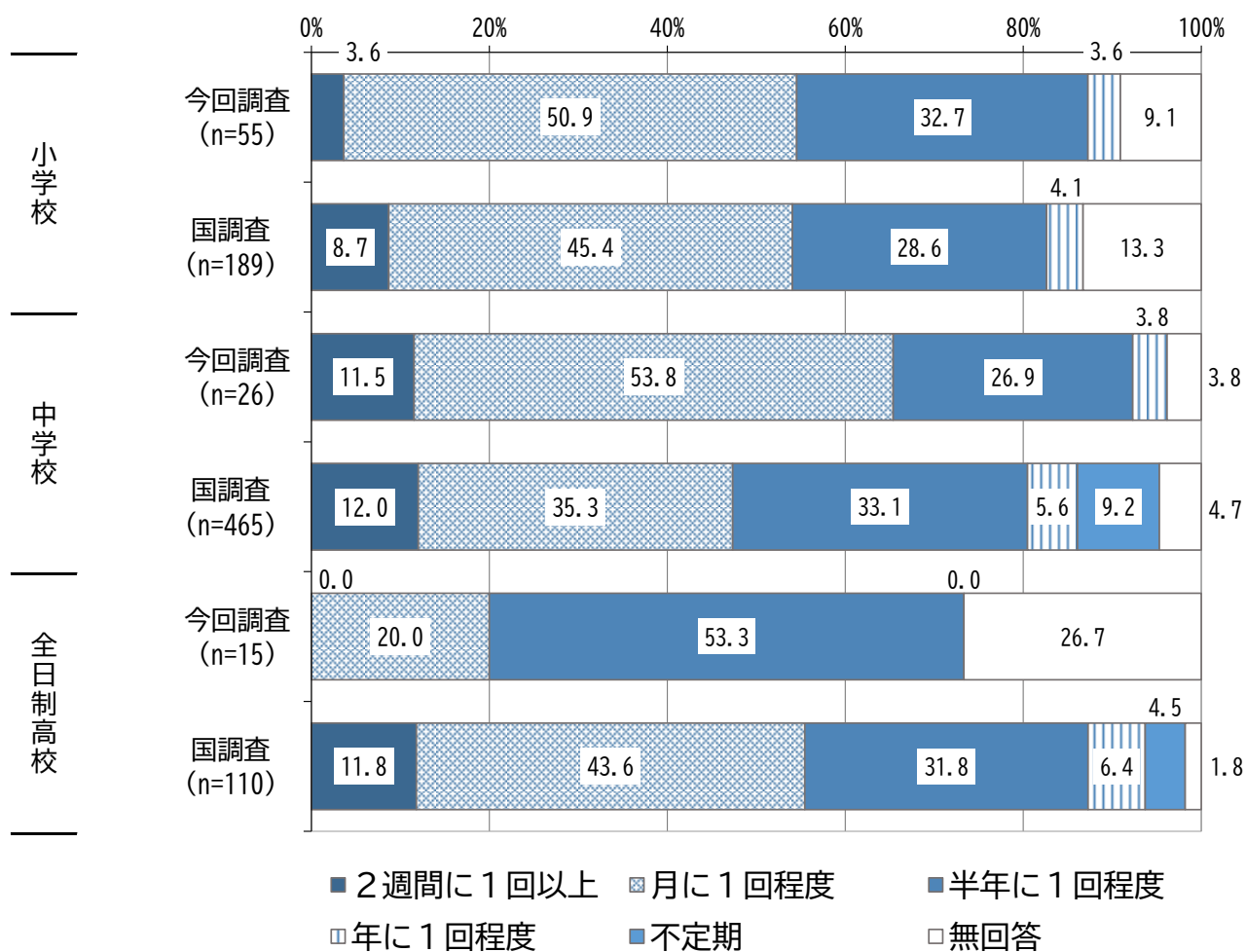
※網掛け■は最も割合が高いもの

図表IV-2-15 スクリーニング会議 会議の頻度



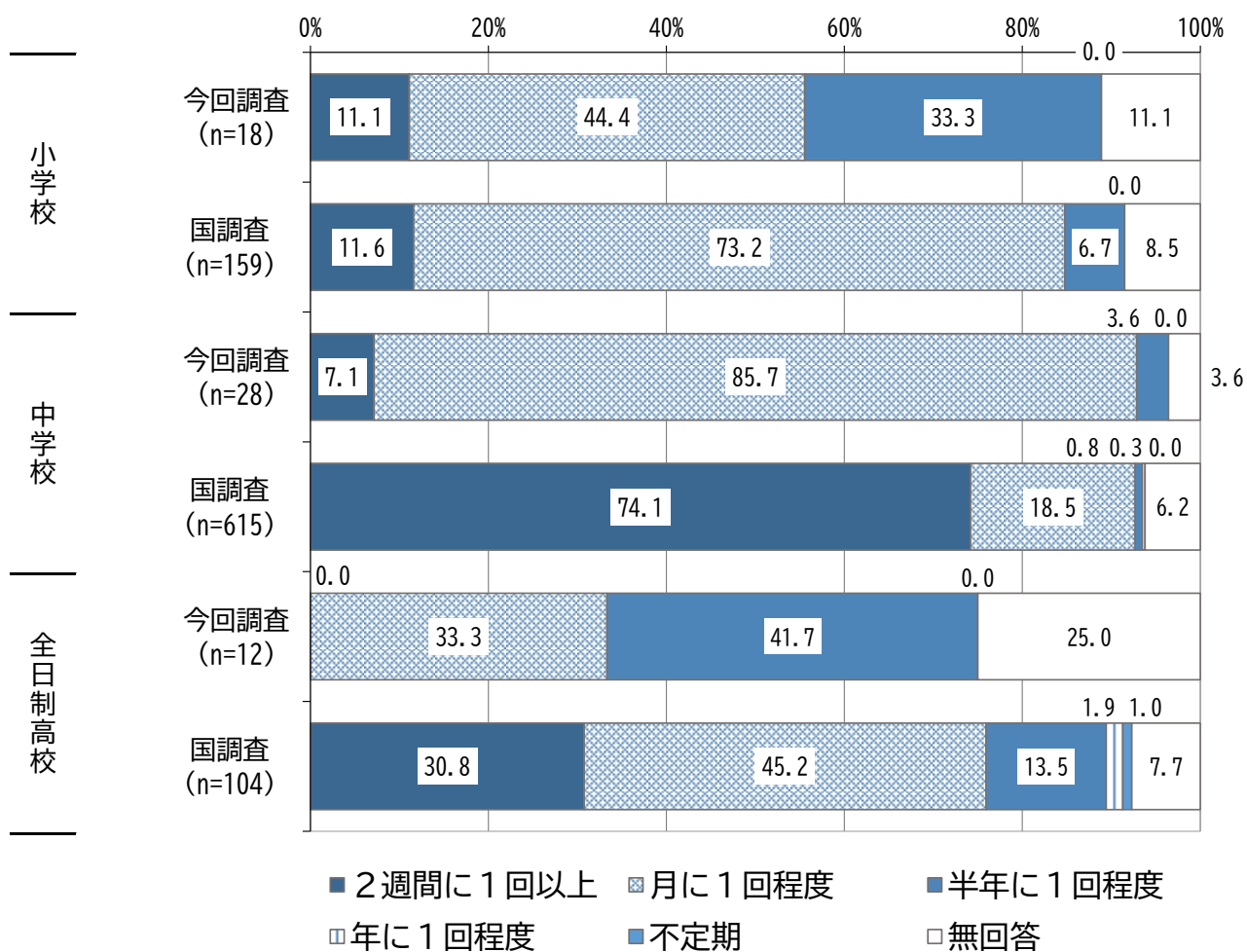
※ 今回調査および小学校国調査に「不定期」の選択肢なし

図表IV-2-16 ケース会議 会議の頻度



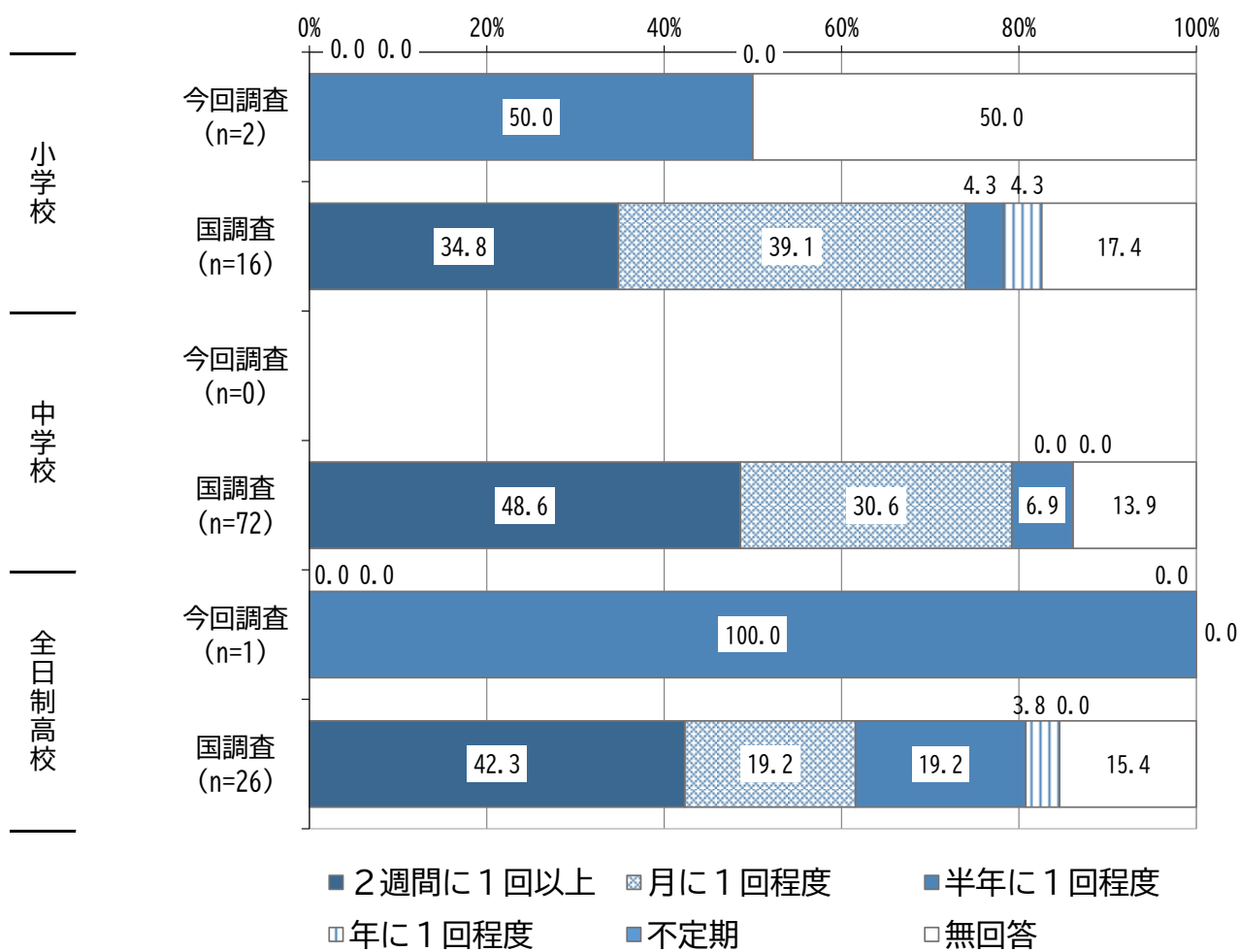
※ 今回調査および小学校国調査に「不定期」の選択肢なし

図表IV-2-17 生活指導部・委員会など 会議の頻度



※ 今回調査および小学校国調査に「不定期」の選択肢なし

図表IV-2-18 その他 会議の頻度



※ 今回調査および小学校国調査に「不定期」の選択肢なし

## (6)個別対応の場合の情報共有・対応の検討方法など

個別対応の場合の情報共有・対応の検討方法については、以下のような回答があった。

図表IV-2-19 個別対応の場合の情報共有・対応の検討方法

小学校
・校長・教頭・教務主任・学年主任・担当教員・養護教諭で必要を感じたときに不定期に対応（会）している。また、終礼等で全教職員に情報共有している。
・校長、教頭の管理職、担任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター等でケース会議をその都度、必要に応じて行っている。
・担任から管理職に情報を伝え、関係職員で検討する。
・全教職員による児童理解会議。
・関係職員による校内個別ケース会議、及び市内関係機関との連携。
・管理職、担任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭で情報共有を行っている。
・週一回児童理解の時間を設定し、情報交換を行っている。
・個別に対応：管理職・担任・生徒指導・SC等の外部機関で、必要に応じて週一回、または数か月に一回等情報共有の場を持っている。
・終礼や職員会議でその都度情報共有を図っている。また、校内研修で児童理解の時間を毎学期設けている。
・管理職、学級担任、生徒指導主任、養護教諭等で会議を開き、情報共有、検討している。2か月に1回程度している。
・気になることや検討した方が良い内容については、適宜ケース会議を開いています。関わる教職員は、校長・教頭・教務・指導教諭・教育相談担当者・該当する教職員で、検討する内容によって、メンバーは変わることがあります。ケース会議では、現状報告や家庭での様子等、様々な情報を共有し、学校としてどのように対応していくか、また外部との連携について協議します。このケース会議で決定したことは、職員会で全教職員に周知し、協力して対応できるようにしています。
・担任・養護教諭・教頭・校長などが関わり情報共有をし、必要に応じて対応策などを話し合っている。
・個々のケースに応じて、担任、管理職、生徒指導主任、養護教諭、特別支援コーディネーター等を招集してケース会議を行う。
・担任・学年主任・管理職・特別支援コーディネーターを中心に児童への指導を行い、定期的に行われる職員会で児童の情報について共有を行っている。
・放課後や職員会で話し合っている。
・全職員で月に一度程度の校内支援委員会を実施しているが、週3回の終礼の中での共通理解が多い。
・担任・管理職・事務で、集金等の遅滞について情報共有を行っている。2ヶ月に1度、担任から保護者に連絡を入れている。連絡後はしばらくして入金がある。
・毎週火曜日の終礼で、児童の問題行動等がある場合、全教職員で情報共有している。
・対応については、管理職、担任、教務主任、生徒指導主任等、事案によって相談をし、対策を考えている。
・月に数回、担任、前担任が保護者と連絡を取り合い、管理職を含めて情報を共有している。
・主に学級担任が個別に面談をしたり、保護者と連絡を取り、情報収集に努める。学級担任のケアで改善できることについては、担任が行い、管理職に報告する。担任だけではケアできない内容については、管理職を含め、複数のチームを組んで対応に当たる。場合によっては外部機関との連携も考える。これらの対応については、不定期に行われる職員会議（生徒指導に関する会議）で報告し、全教職員の共通理解を図るとともに、必要であれば全教職員が対応に当たる。
・全体で、状況について学期に1度情報を共有する。必要に応じて、外部の相談機関（県や市町村の機関

に相談し、ケース会議を開く。
・担任と管理職と関係教員で放課後等に情報共有している。
・体制はケース会議、その児童に関わる教職員全てが参加。状況に応じて、市教委、市の福祉関係、児相も参加している。会議は必要に応じて実施している。
・管理職、担任、副担任、養護教諭と情報の共有を図っている。
・管理職、学級担任、学年主任、生徒指導、養護教諭、特別支援教育コーディネーター等、関係するすべての教職員による情報共有や検討を、必要に応じて行い対応している。常の情報共有を心がけ、気になることがあった場合には終礼等で全教職員への周知を行っている。また気になる児童については学級担任や養護教諭等から管理職への報告、連絡、相談を早期にするようにも徹底している。
・その都度、担任が管理職に相談し、かかわりのある教職員などと情報の共有や検討を行う。その後、必要に応じて全体で共有する。
・本人との面談や保護者との面談、こまめな連絡。
・児童数が少なく、職員数も限られているが、1人ひとりを見守り確認することができ、常に全職員間で情報を共有し、保護者との連携を密に対応している。
・職員会議での情報共有。
・担任・教務・管理職で、学校での様子や知り得た家庭での状況を共有している。ただし、これは友達同士での不和が原因であると認識している。（ヤングケアラーとは関係ないと考えている。）
・職員会議、研修等において、児童理解、支援シート等を用いて情報交換や情報共有をしている。
・生徒指導上、気にかかる児童について回覧で把握。必要な場合は、管理職・学年主任・担任・特別支援コーディネーター等で共有、対応を検討。
・家庭と連絡をとりながら、SCやSSWと連携している。また場合によっては校内でケース会議も開いている。
・年に2、3回、管理職、特別支援コーディネーター、学級担任、学年主任、養護教諭で情報共有し話し合う。
・必要に応じて、当該児童の学級担任、教頭、校長、かかわりのある教職員が、SCやSSWが当該児童や保護者から聞きとった情報を共有している。そして、学校が指導支援すること、保護者に依頼し家庭で指導支援することを明確にして取り組んでいる。
・少人数の学校であるため、課題がある。その都度、迅速に口頭等で連絡相談する体制ができている。
・学級担任と保護者とで情報交換し、状況に応じて校内で対応について検討している。
・町教委、管理職、担任、保健室、SC、児童相談所等諸機関で情報を共有し、定期的に話し合いの場を設けたり、その都度状況を共有しながら対応している。
・当該児童に関係する教職員がその都度ケース会議を行い、情報共有や対応策の検討等を行っている。
・担任を中心に家庭訪問を行ったり、情報共有したりするなどはしている。
・ケース検討会をもち、情報の整理、共有並びに今後の対応について話し合うようにしている。検討会の頻度については、随時必要に応じて行うようにしている。
・学年はじめの児童理解・特別支援教育の職員会や校内研修で気になる児童の情報共有や支援の方向性を共通理解している。
・特に何か起きた場合は緊急に担任、管理職、生徒指導主任や特別支援コーディネーターなど関係職員が集まって情報共有し、支援や対応の仕方を相談し、実践していく体制をとっている。
・校内研修の時に配慮が必要な児童について共通理解をしたり、支援方法について話し合ったりしている。
・児童の状況に応じて、不定期に情報共有や相談をしている。
<b>中学校・中等教育学校（前期課程）</b>
・本校は規模が小さいため企画と職員会を同時に同じメンバーで行っている。その中で各学年で発生している生徒指導課題を情報共有し、解決策を検討している。月一回、メンバーは全教職員である。その他、個別の事例についても日常的に情報交換を行っている。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任、支援学級担任、学年主任の3人体制で対応し、職員会議で全体で共有している。また、学期終わりに振り返りを行い、次の学期始めに見通しを立てた計画をし、対応している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年団で情報共有し、その都度対応している。毎月、職員会で各学年の共通理解の場を設けている。全教職員で共有している。毎学期、全校生徒がスクールカウンセラーに話を聞いてもらっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年主任や担任から管理職に相談があり、関係する職員（担任、学年主任、養護教諭等）や管理職で対応を検討している。また、場合によってはスクールカウンセラーや関係機関に連絡をとり、協議して対応している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・その都度、学級担任・学年団（主任）・生徒指導主事で情報を共有、相談し、すぐに対応している。個別面談・保護者連絡・必要であれば保護者に来校いただき、状況確認したり、相談に応じたりしている。その後、管理職に報告し、指示を仰ぐなどしている。頻度はきまっていないが、ケースが生じた場合、すぐに継続して対応している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会や生徒指導委員会などの定例の会議に情報共有の場が設定されているが、日常の職員間のコミュニケーションにおいて、生徒の様子や支援の仕方の共有を行っている割合も大きい。教職員間で伝達・共有すべき情報は、軽重にかかわらず、管理職や生徒指導と共有する学校風土があるので、管理職や生徒指導が他学年や、関係教員とさらなる情報の共有をする役割も担当している。情報共有はスピード感をもって行われなければ意味が無いので、ほぼ毎日、リアルタイムの共有を心掛けている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任、学年団、養護教諭、生徒指導、管理職の他、必要に応じて関係する職員や外部機関などと連携して対応する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体制：管理職、生徒指導主事、学年団の教職員</li> <li>方法：気がかりなことがあった時や情報の共有が必要な時に、随時行っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任や学年団の先生を中心に、全職員で相談しながら個別に対応している。情報共有の場所は職員室が多い。特に学校を休みがちな生徒については、管理職と具体的な対応を考え、職員会議等で全体に情報共有している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職、学年主任、担任、生徒指導で、必要なときに話をしている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者連絡、家庭訪問、学年会。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜、必要に応じて管理職・学年主任・生徒指導担当教諭・養護教諭で情報共有を行い、対応について検討している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の職員会で、生徒の共通理解を図っています。共通理解のもと、学年団を中心に対応しています。また、小規模校ということで、全教職員で生徒の変化に目を向け、早期発見・早期対応を心がけています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の共有は、職朝、職員会、生徒指導委員会などを通じて、担任や学年担当の教員を中心に全教員で当たっている。職朝は毎朝、職員会と生徒指導委員会は月1回開催している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは学年部会等の小グループで情報共有・対策検討をする。その後管理職に報告・相談がある。状況によっては職員会で全教職員に情報共有をはかる。必要があればSCやSSWにも入ってもらい、有効な手段についてさらに検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が入力できるエクセルファイルを作成し、気づいたこと・共有したいことを入力する。職員会のときに、生徒についての情報交換を行う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年教員と保健室、生徒指導担当、管理職が保護者対応や今後の改善策について情報を共有し、保護者・本人と話し合い、改善策が固まった段階でそれぞれが担うべきことについて協議し、実施している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任や部活動の顧問から学年主任、生徒指導そして管理職へ報告するようにしている。その都度必要な人でケース会議を行っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任、学年主任、SC、SSW、管理職等でその都度ケースの検討・協議。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回開催される生徒指導委員会で話し合い、その後職員会などで校内において情報共有する。ただし、生徒指導上の問題が起きた場合は、速やかに委員会を開催し、問題解決に当たる。</li> </ul>

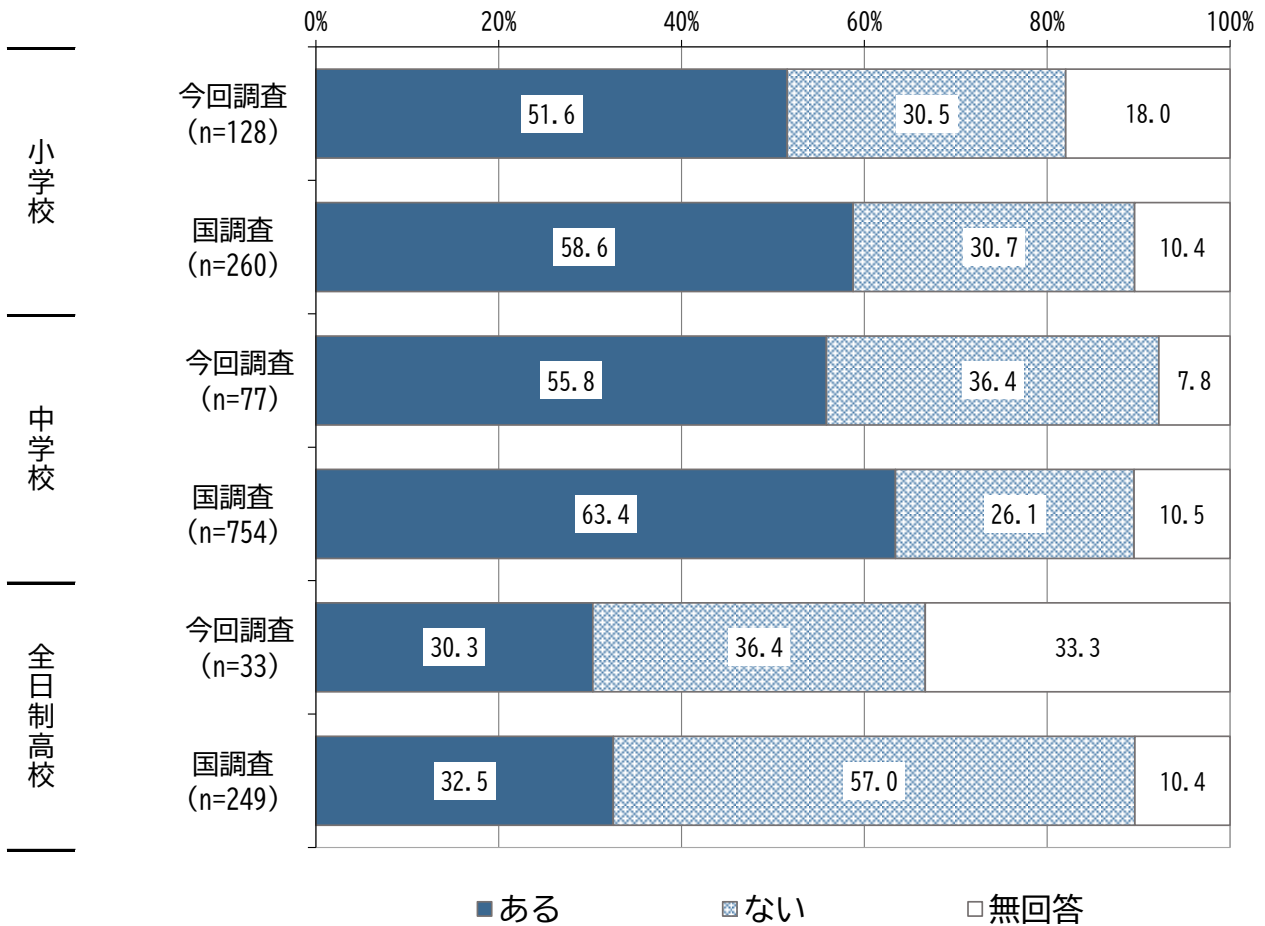


<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年団の職員、管理職を中心に職員室で毎日相談している。</li> <li>・担任等からの情報提供で、その都度、管理職や学年団や各主任等を交えて話し合いを行い、対応を検討している。職員会等で広く全体に対応等について周知している。外部機関にもつなぐ必要があれば、担当を通じて行っている。</li> </ul>
<p>高等学校・中等教育学校（後期課程）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年団を中心に情報共有、対応している。担任、教科担任が持った情報を随時学年の先生で共有する他、月1回の学年会で情報共有し対応の方向性を相談する。必要に応じ、生徒課、教務課、教育相談コーディネーターなど関係者に管理職を交えた事案について検討する。</li> <li>・管理職・正副担任・各教科担当・生徒指導課長・人権教育課長・養護教諭など当該生徒に関わる教職員が、ケースごとに会議・話し合い等を実施し情報の共有と対策を行っている。</li> <li>・必要があればケース会議をする。</li> <li>・担任がスクールカウンセラーと相談。本人の希望があれば、本人とスクールカウンセラーとの面談。</li> <li>・担任、学年主任、教育相談課員、および管理職で日常生活状況等の情報共有を行い、生活状況が悪化する場合（特に欠席が多くなる）には、ケース会議を開いたり、教育相談対策委員会を開いて対応を検討している。</li> <li>・学年会や特別支援検討会議。</li> </ul>

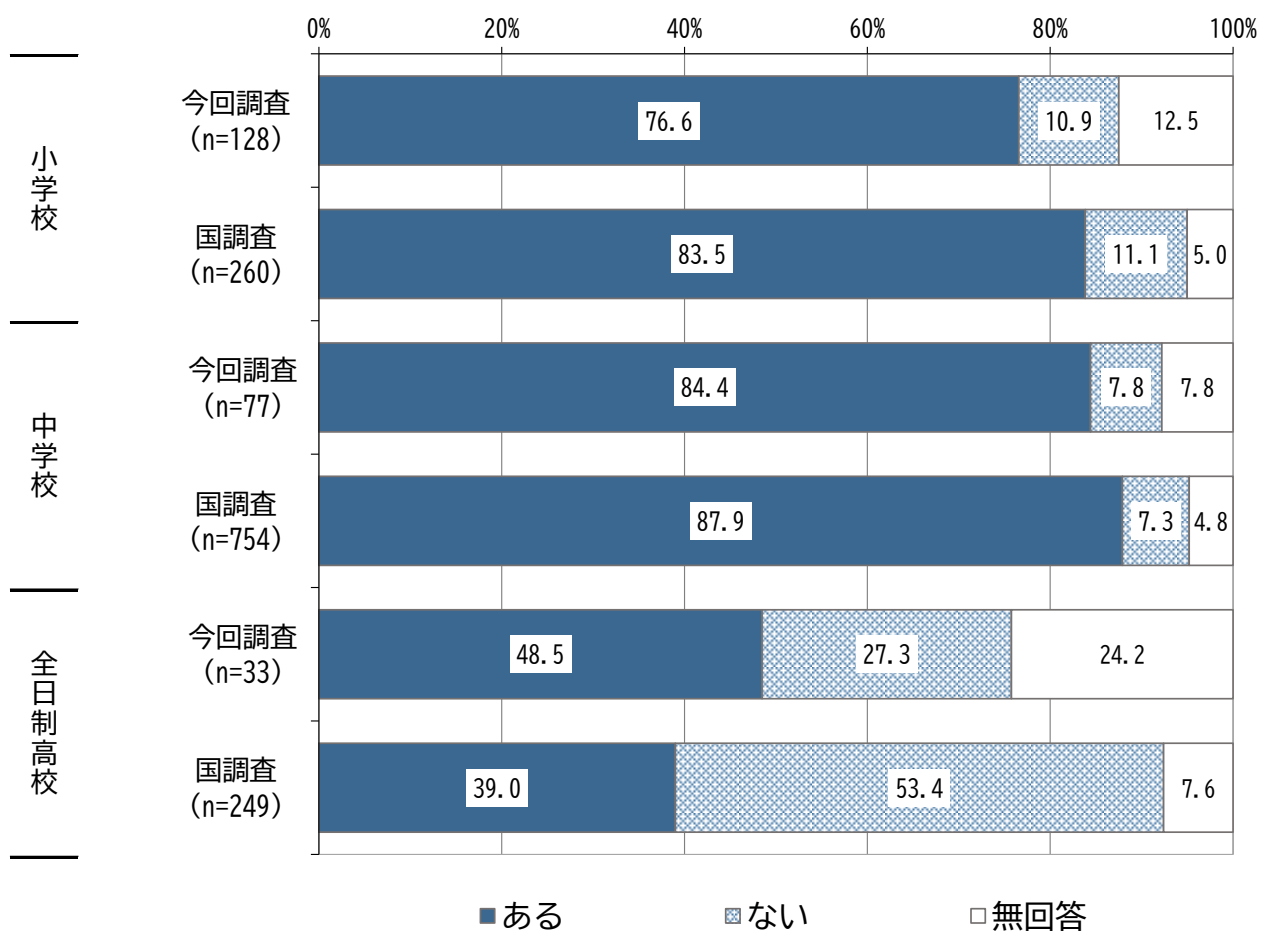
### (7)外部との情報共有・対応の検討体制

校内で共有している子どものケースについて学校以外の関係機関と連携する体制の有無については、以下の通りである。

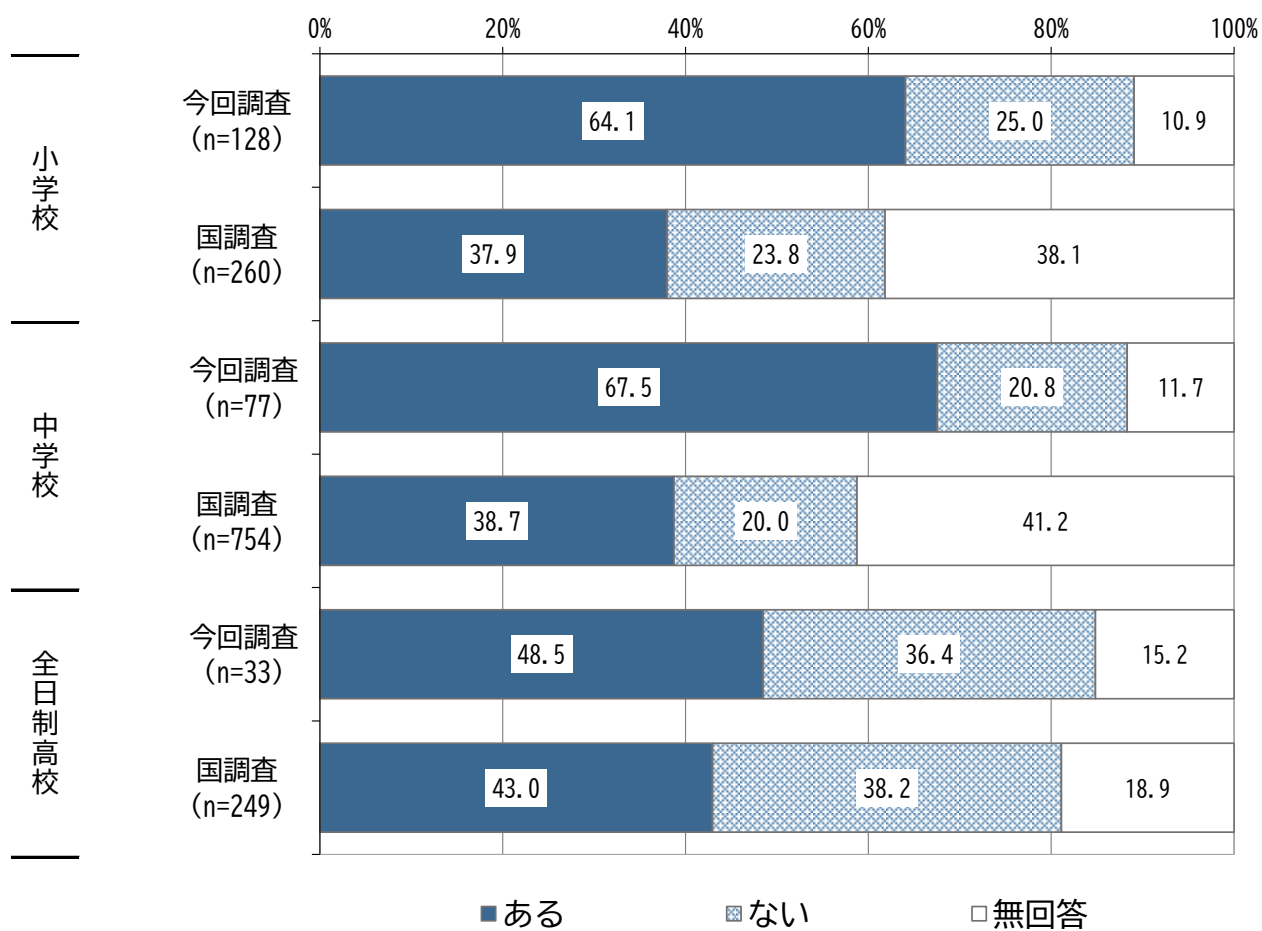
図表IV-2-20 外部との情報共有・対応の検討体制 要保護児童対策地域協議会の登録ケース



図表IV-2-21 外部との情報共有・対応の検討体制 不登校のケース



図表IV-2-22 外部との情報共有・対応の検討体制 それ以外



校内で共有している子どものケースについて学校以外の関係機関と連携する体制がある場合の、連携する関係機関については、以下の通りである。

図表IV-2-23 連携する関係機関 要保護児童対策地域協議会の登録ケース(複数回答)

単位：実数(校)、構成比(%)

		合計	市区町村教育委員会	市区町村の福祉部門(要対協の調整機関を除く)	市区町村の保健部門	市区町村の要保護児童/虐待対応部門	地域協議会の調整機関/虐待教育支援センター(適応指導教室)	フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設	児童相談所	地域包括支援センター・居宅介護支援事業所	障がい者相談支援事業所	民生委員
今回調査	小学校	66	83.3	57.6	15.2	36.4	31.8	1.5	71.2	3.0	9.1	31.8
	中学校・中等教育学校(前期課程)	43	74.4	53.5	27.9	32.6	44.2	18.6	60.5	2.3	2.3	14.0
	高等学校・中等教育学校(後期課程)	10	30.0	10.0	0.0	20.0	10.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
国調査	小学校	153	58.2	50.3	16.3	58.8	10.5	2.6	63.4	3.9	5.9	26.8
	中学校	478	56.7	46.4	13.4	60.0	12.1	3.8	54.0			22.0
	全日制高校	81	23.5	34.6	7.4	46.9	4.9	3.7	63.0			0.0
		合計	病院	警察や刑事司法関係機関	その他	無回答						
今回調査	小学校	66	9.1	10.6	6.1	1.5						
	中学校・中等教育学校(前期課程)	43	2.3	27.9	2.3	0.0						
	高等学校・中等教育学校(後期課程)	10	0.0	30.0	20.0	0.0						
国調査	小学校	153	4.6	11.8	3.9	0.0						
	中学校	478	6.9	16.5	2.1	0.4						
	全日制高校	81	2.5	11.1	7.4	2.5						

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表IV-2-24 連携する関係機関 不登校のケース(複数回答)

単位：実数(校)、構成比(%)

		合計	市区町村教育委員会	市区町村の福祉部門(要対協の調整機関を除く)	市区町村の保健部門	市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	教育支援センター(適応指導教室)	フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設	児童相談所	地域包括支援センター・居宅介護支援事業所	障がい者相談支援事業所	民生委員
今回調査	小学校	98	72.4	33.7	8.2	7.1	51.0	7.1	38.8	1.0	1.0	22.4
	中学校・中等教育学校(前期課程)	65	66.2	21.5	15.4	6.2	64.6	16.9	46.2	1.5	3.1	7.7
	高等学校・中等教育学校(後期課程)	16	18.8	18.8	6.3	6.3	25.0	12.5	37.5	0.0	6.3	0.0
国調査	小学校	218	70.2	26.6	4.1	11.0	57.8	7.8	23.4	2.8	1.8	13.3
	中学校	663	63.0	27.6	6.5	13.9	69.7	15.8	30.6			17.8
	全日制高校	97	25.8	19.6	9.3	7.2	25.8	7.2	26.8			1.0
		合計	病院	警察や刑事司法関係機関	その他	無回答						
今回調査	小学校	98	6.1	3.1	7.1	4.1						
	中学校・中等教育学校(前期課程)	65	4.6	12.3	4.6	1.5						
	高等学校・中等教育学校(後期課程)	16	31.3	6.3	25.0	0.0						
国調査	小学校	218	8.3	0.5	6.0	0.9						
	中学校	663	12.4	8.0	4.2	0.9						
	全日制高校	97	30.9	9.3	20.6	2.1						

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表IV-2-25 連携する関係機関 それ以外(複数回答)

単位：実数(校)、構成比(%)

		合計	市区町村教育委員会	市区町村の福祉部門(要対協の調整機関を除く)	市区町村の保健部門	市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	教育支援センター(適応指導教室)	フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設	児童相談所	地域包括支援センター・居宅介護支援事業所	障がい者相談支援事業所	民生委員
今回調査	小学校	82	81.7	35.4	13.4	11.0	30.5	2.4	48.8	2.4	3.7	29.3
	中学校・中等教育学校(前期課程)	52	76.9	30.8	15.4	5.8	32.7	9.6	50.0	1.9	1.9	7.7
	高等学校・中等教育学校(後期課程)	16	12.5	37.5	12.5	12.5	12.5	0.0	68.8	0.0	6.3	0.0
国調査	小学校	99	67.7	41.4	9.1	16.2	24.2	3.0	61.6	1.0	3.0	27.3
	中学校	292	56.8	33.6	8.6	14.7	21.9	8.6	62.0			22.6
	全日制高校	107	17.8	21.5	10.3	10.3	15.9	1.9	48.6			4.7
		合計	病院	警察や刑事司法関係機関	その他	無回答						
今回調査	小学校	82	6.1	11.0	4.9	4.9						
	中学校・中等教育学校(前期課程)	52	7.7	21.2	11.5	1.9						
	高等学校・中等教育学校(後期課程)	16	37.5	18.8	18.8	0.0						
国調査	小学校	99	8.1	11.1	8.1	1.0						
	中学校	292	20.5	39.4	5.8	0.7						
	全日制高校	107	30.8	29.9	27.1	1.9						

※網掛け■は最も割合が高いもの

### 3 ヤングケアラーについて

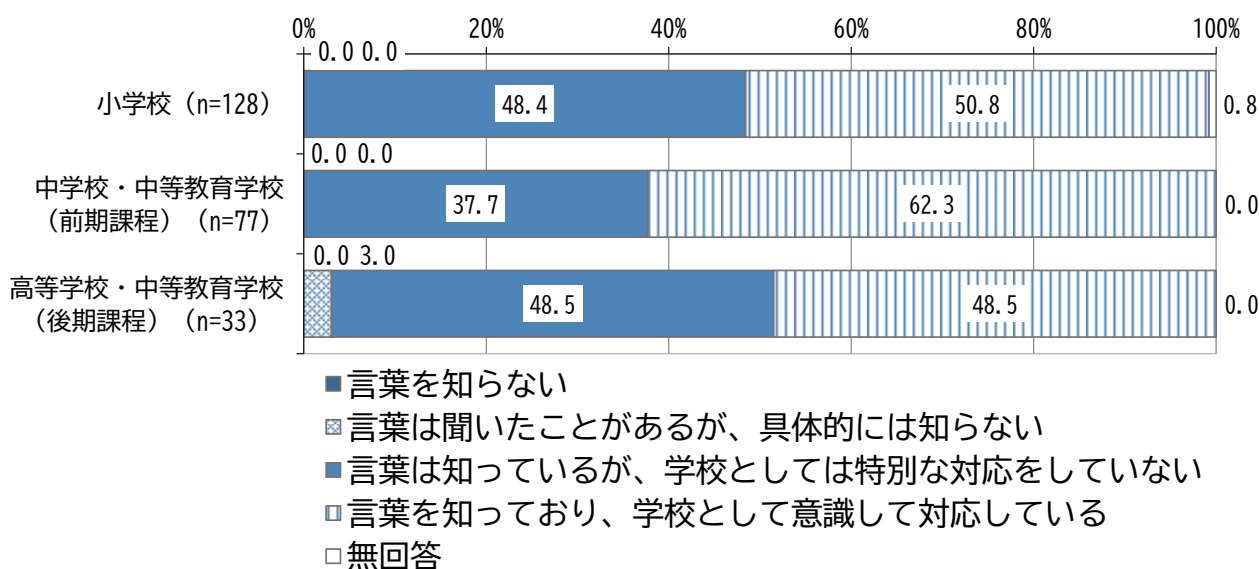
#### (1)「ヤングケアラー」概念の認識

「ヤングケアラー」概念の認識について、小学校では、「言葉を知っており、学校として意識して対応している」が 50.8%で最も高く、次いで「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」が 48.4%となっている。

中学校・中等教育学校(前期課程)では、「言葉を知っており、学校として意識して対応している」が 62.3%で最も高く、次いで「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」が 37.7%となっている。

高等学校・中等教育学校(後期課程)では、「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」、「言葉を知っており、学校として意識して対応している」がいずれも 48.5%で最も高く、次いで「言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない」が 3.0%となっている。

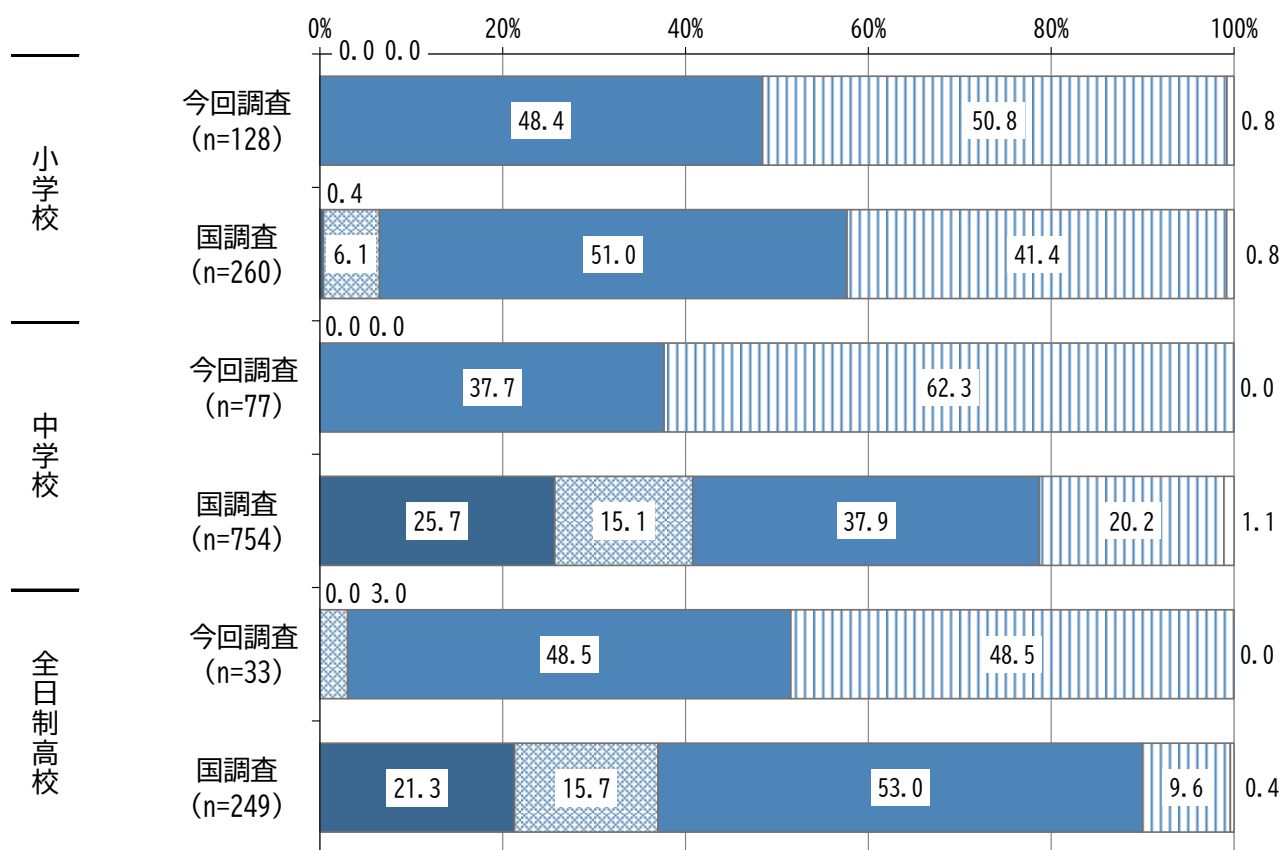
図表IV-3-1 「ヤングケアラー」概念の認識





国調査とは調査の実施時期が異なるため、参考として記載する。

図表IV-3-2 「ヤングケアラー」概念の認識 国調査との比較



- 言葉を知らない
- ▨ 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない
- 言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない
- ▨ 言葉を知っており、学校として意識して対応している
- 無回答

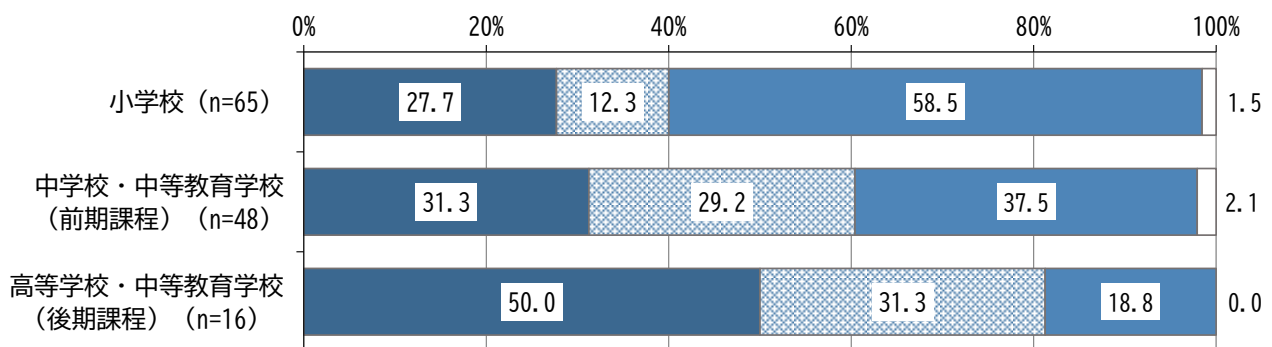
## (2)「ヤングケアラー」の実態把握の状況

「ヤングケアラー」を「言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した学校の、「ヤングケアラー」の実態把握の状況について、小学校では、「該当する子どもはいない(これまでもいなかった)」が58.5%で最も高く、次いで「把握している」が27.7%、「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が12.3%となっている。

中学校・中等教育学校(前期課程)では、「該当する子どもはいない(これまでもいなかった)」が37.5%で最も高く、次いで「把握している」が31.3%、「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が29.2%となっている。

高等学校・中等教育学校(後期課程)では、「把握している」が50.0%で最も高く、次いで「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が31.3%、「該当する子どもはいない(これまでもいなかった)」が18.8%となっている。

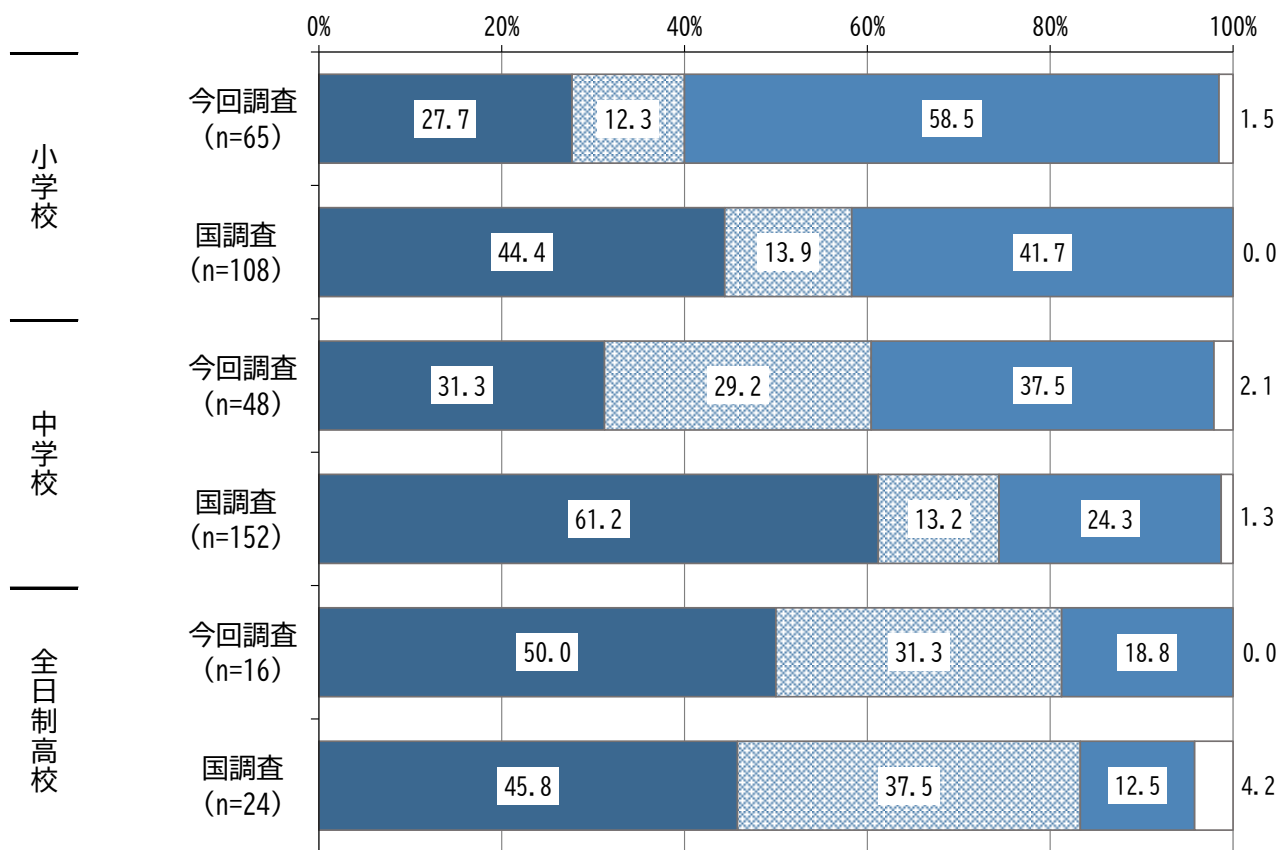
図表IV-3-3 「ヤングケアラー」の実態把握の状況



- 把握している
- ▣ 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない
- 該当する子どもはいない(これまでもいなかった)
- 無回答

国調査と比較すると、「該当する子どもはいない(これまでもいなかった)」では、小学校、中学校、全日制高校いずれも国調査より割合が高くなっている。

図表IV-3-4 「ヤングケアラー」の実態把握の状況 国調査との比較



- 把握している
- ▣ 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない
- 該当する子どもはいない (これまでもいなかった)
- 無回答

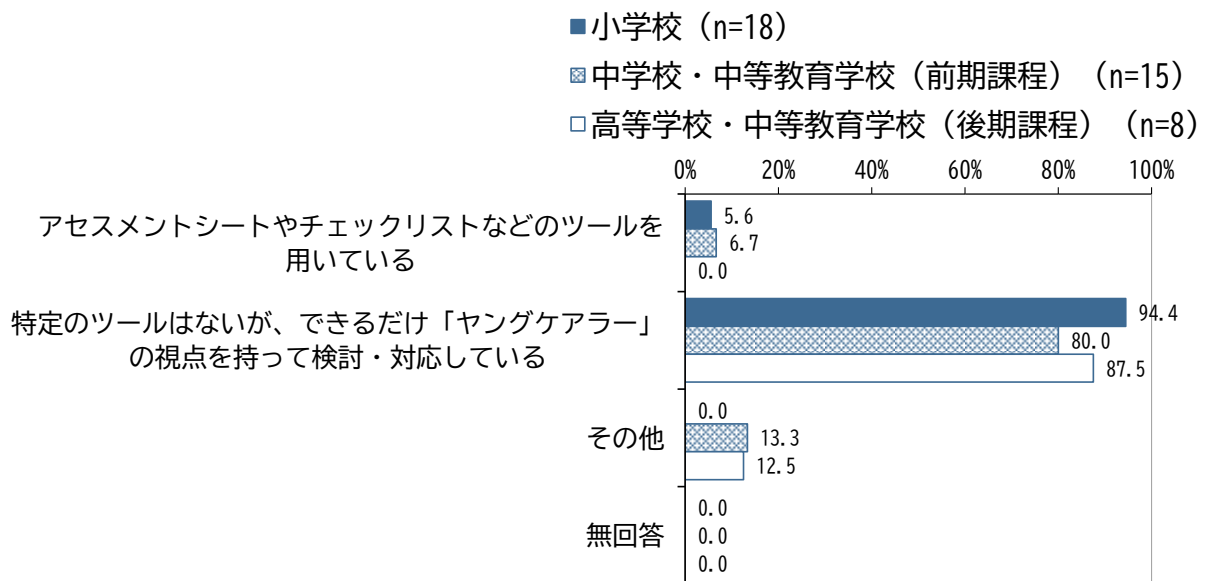
### (3)「ヤングケアラー」の把握方法

「ヤングケアラー」を「把握している」と回答した学校の、把握方法について、小学校では、「特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している」が 94.4%で最も高く、次いで「アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている」が 5.6%となっている。

中学校・中等教育学校(前期課程)では、「特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している」が 80.0%で最も高く、次いで「その他」が 13.3%、「アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている」が 6.7%となっている。

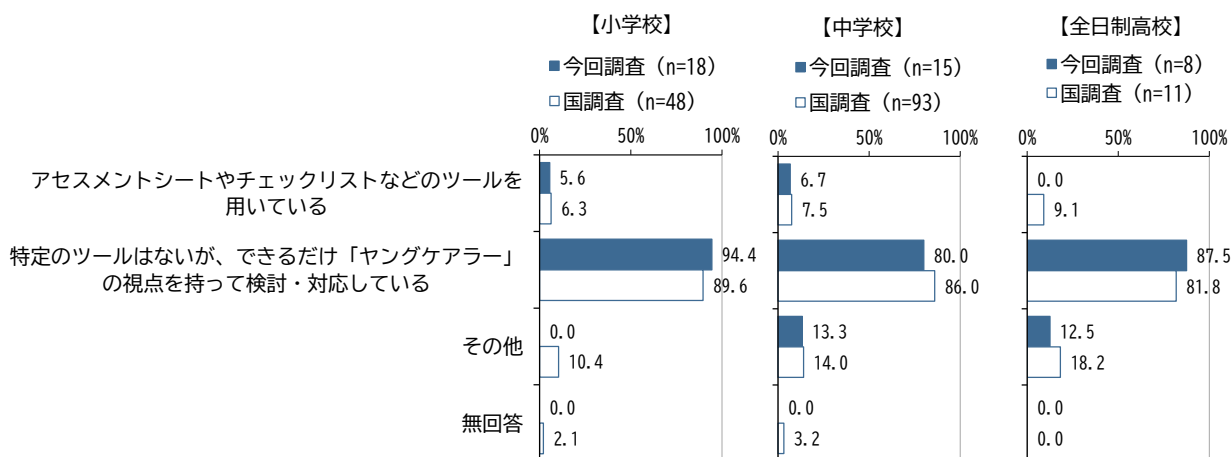
高等学校・中等教育学校(後期課程)では、「特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している」が 87.5%で最も高く、次いで「その他」が 12.5%となっている。

図表IV-3-5 「ヤングケアラー」の把握方法



国調査とは集計方法が異なるため、参考として記載する。

図表IV3-6- 「ヤングケアラー」の把握方法 国調査との比較



※ 国調査は複数回答

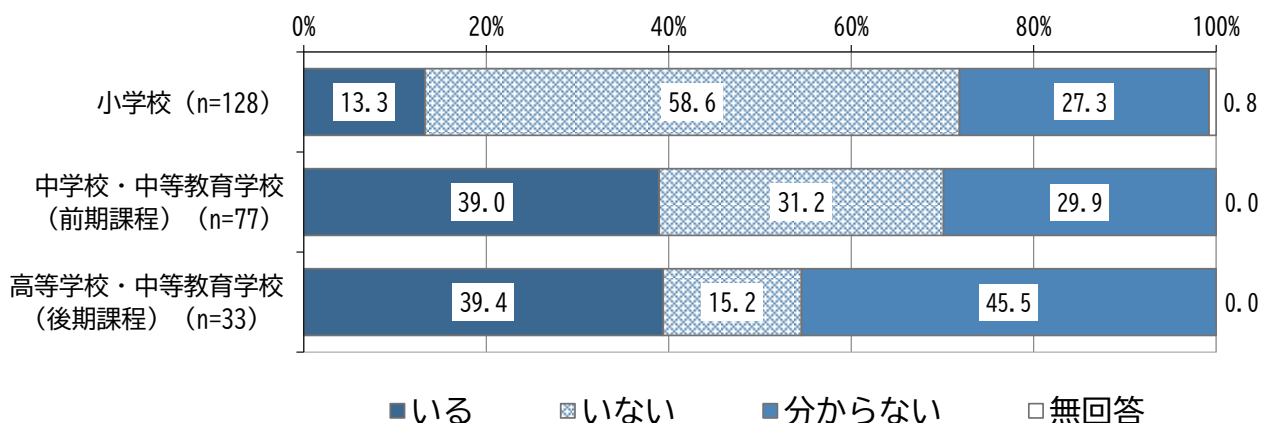
#### (4)「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

「ヤングケアラー」の定義と状態像を示したうえで、該当すると思われる子どもの有無について、小学校では、「いない」が58.6%で最も高く、次いで「分からない」が27.3%、「いる」が13.3%となっている。

中学校・中等教育学校(前期課程)では、「いる」が39.0%で最も高く、次いで「いない」が31.2%、「分からない」が29.9%となっている。

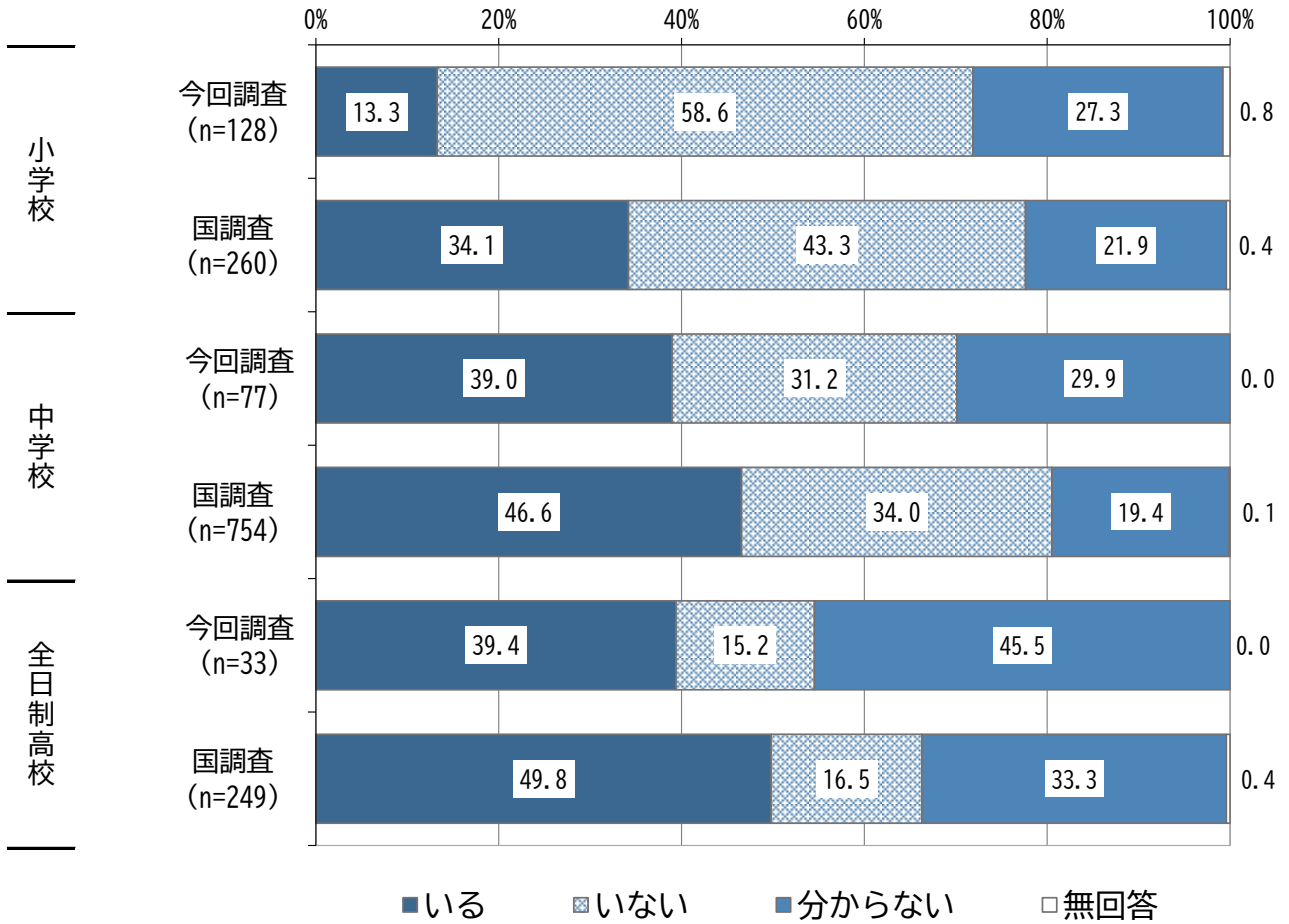
高等学校・中等教育学校(後期課程)では、「分からない」が45.5%で最も高く、次いで「いる」が39.4%、「いない」が15.2%となっている。

図表IV-3-7 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無



国調査と比較すると、小学校、中学校、全日制高校いずれも「いる」の割合が国調査よりも低く、「わからない」の割合が高くなっている。

図表IV-3-8 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無 国調査との比較



## (5) ヤングケアラーの状況について

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもが「いる」と回答した学校の、ヤングケアラーと思われる子どもの状況については以下の通りである。

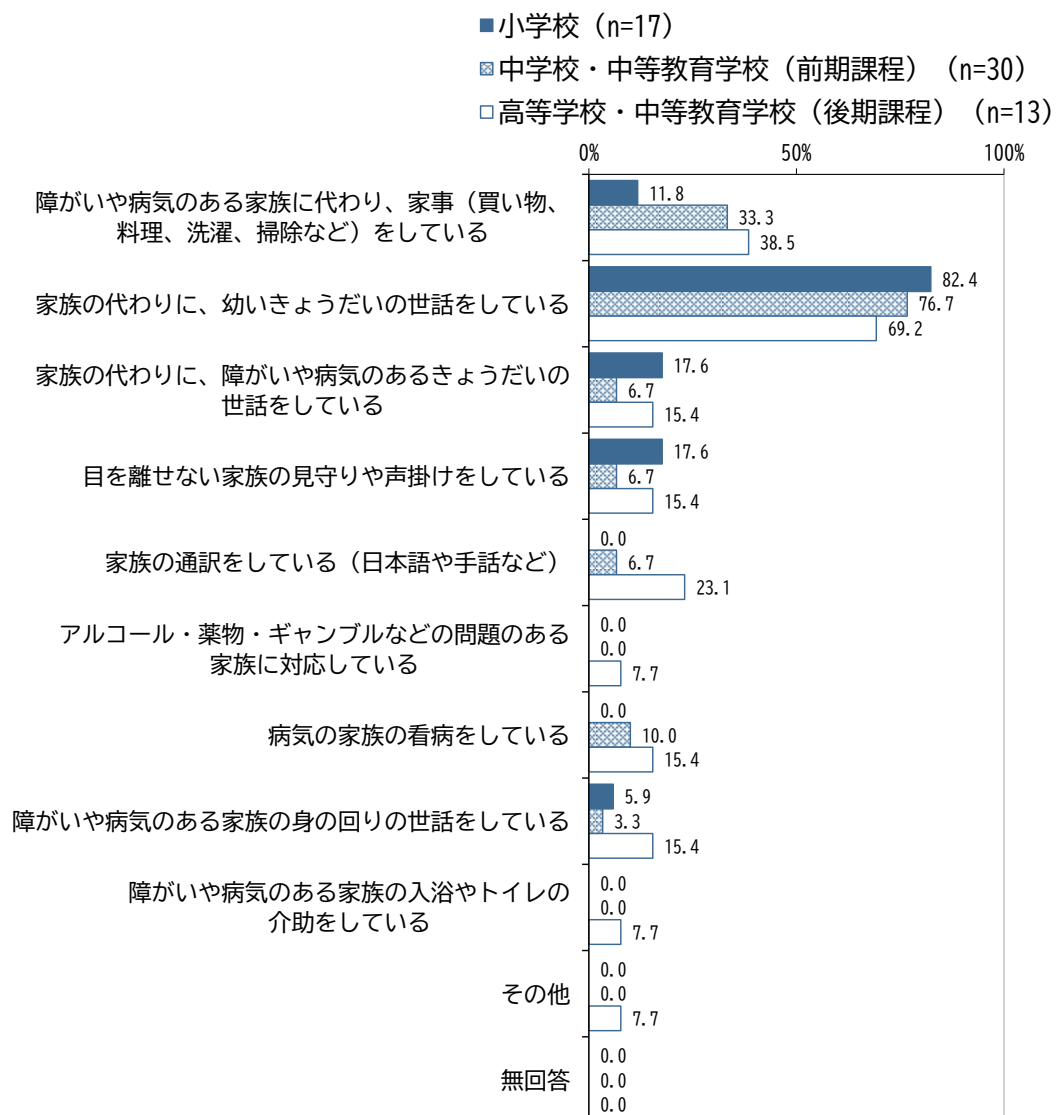
### ① ヤングケアラーと思われる子どもの状況

ヤングケアラーと思われる子どもの状況について、小学校では、「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が 82.4%で最も高く、次いで「家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている」、「目を離せない家族の見守りや声掛けをしている」がいずれも 17.6%と続いている。

中学校・中等教育学校(前期課程)では、「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が 76.7%で最も高く、次いで「障がいや病気のある家族に代わり、家事(買い物、料理、洗濯、掃除など)をしている」が 33.3%、「病気の家族の看病をしている」が 10.0%と続いている。

高等学校・中等教育学校(後期課程)では、「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が 69.2%で最も高く、次いで「障がいや病気のある家族に代わり、家事(買い物、料理、洗濯、掃除など)をしている」が 38.5%、「家族の通訳をしている(日本語や手話など)」が 23.1%と続いている。

図表IV-3-9 ヤングケアラーと思われる子どもの状況(複数回答)

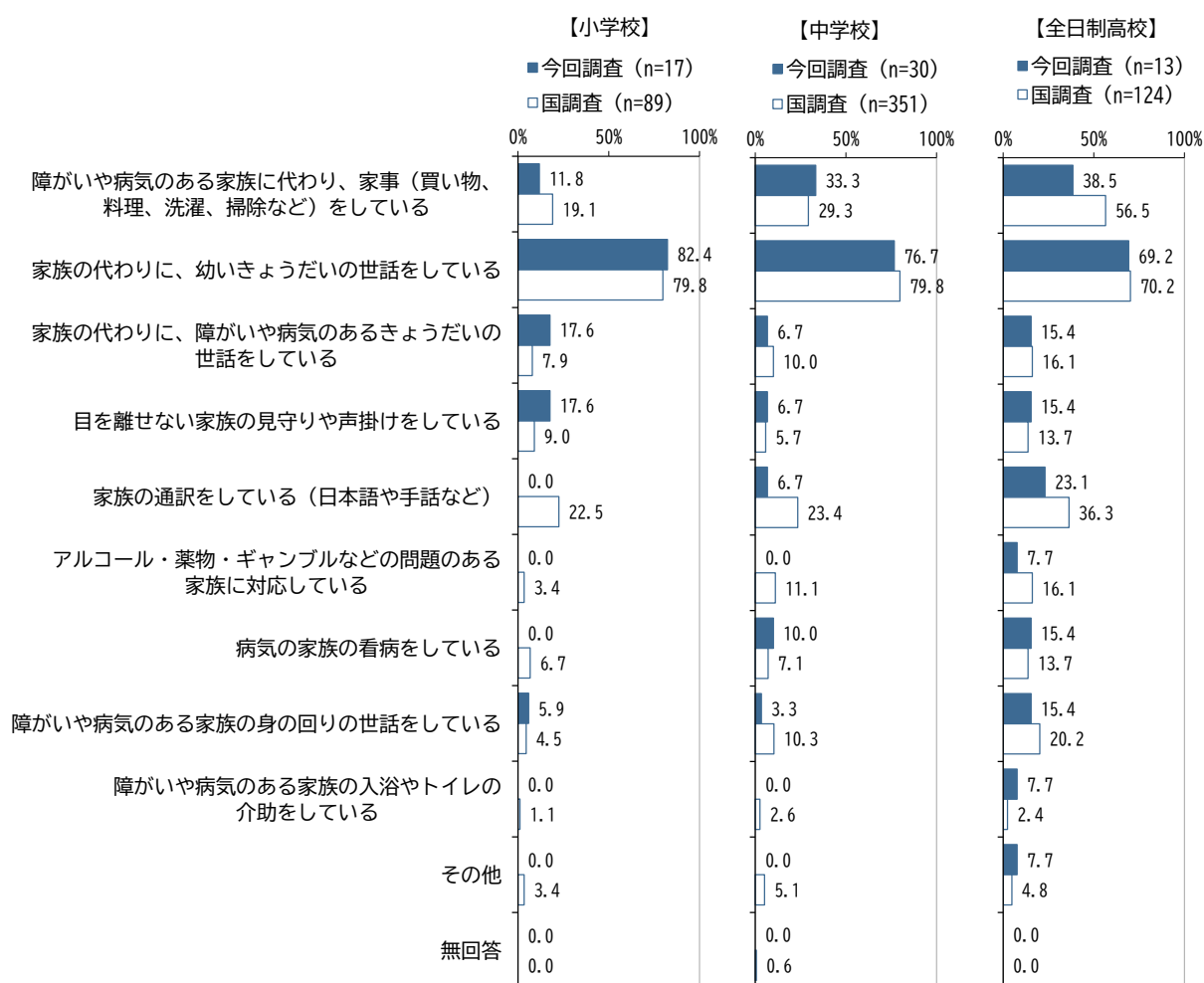




国調査と比較すると、小学校では「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」、「家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている」、「目を離せない家族の見守りや声掛けをしている」、「障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている」が国調査より割合が高くなっている。

中学校では「障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている」、「目を離せない家族の見守りや声掛けをしている」、「病気の家族の看病をしている」が、全日制高校では「目を離せない家族の見守りや声掛けをしている」、「病気の家族の看病をしている」、「障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている」、「その他」が国調査より割合が高くなっている。

図表IV-3-10 ヤングケアラーと思われる子どもの状況 国調査との比較



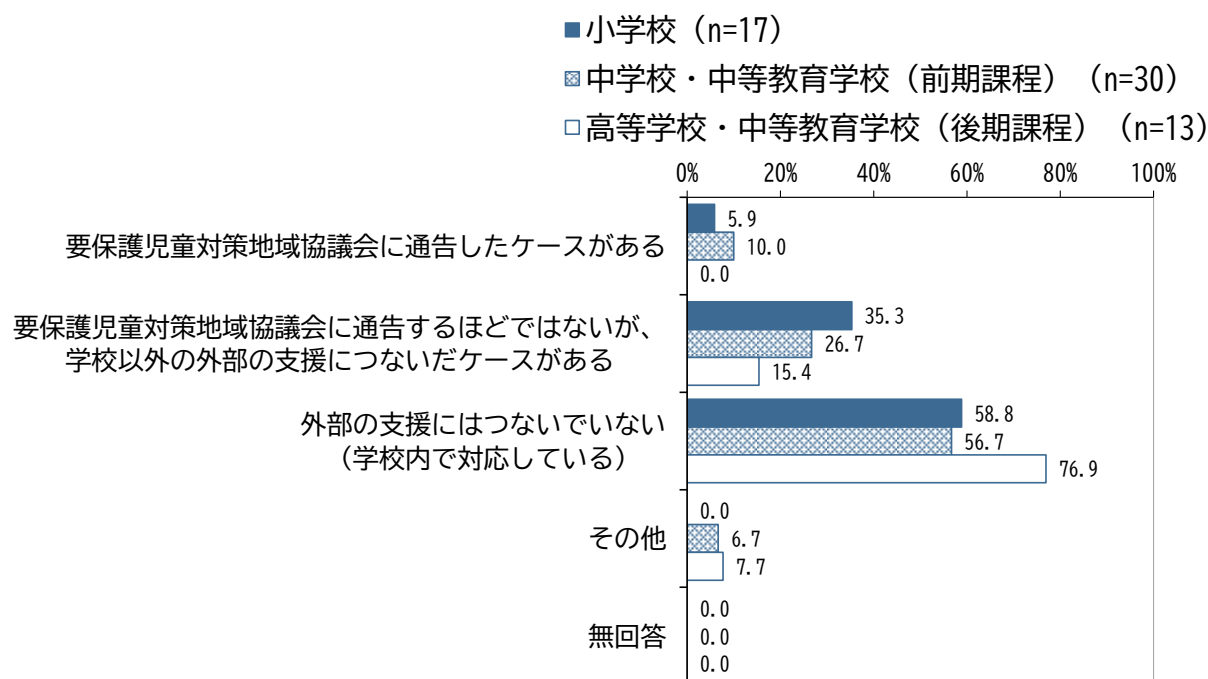
## ② 外部の支援につないだケースの有無

ヤングケアラーと思われる子どもについて、学校以外の外部の支援につないだケースがあるかについて、小学校では、「外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)」が58.8%で最も高く、次いで「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」が35.3%、「要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」が5.9%となっている。

中学校・中等教育学校(前期課程)では、「外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)」が56.7%で最も高く、次いで「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」が26.7%、「要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」が10.0%と続いている。

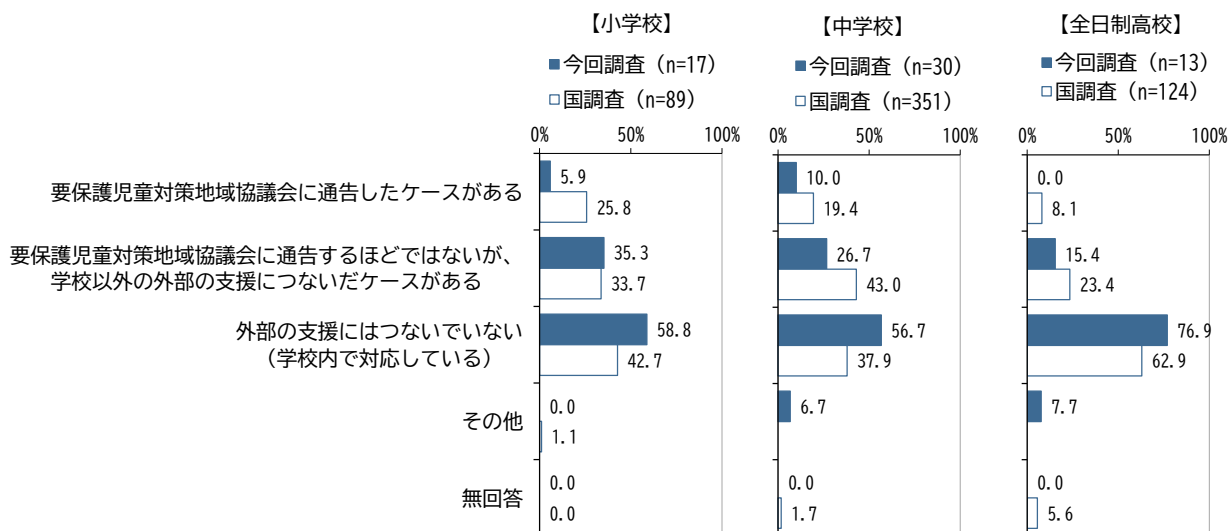
高等学校・中等教育学校(後期課程)では、「外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)」が76.9%で最も高く、次いで「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」が15.4%、「その他」が7.7%となっている。

図表IV-3-11 外部の支援につないだケースの有無(複数回答)



国調査と比較すると、小学校、中学校、全日制高校いずれも「要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」は国調査より割合が低く、「外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)」は国調査より割合が高くなっている。

図表IV-3-12 外部の支援につないだケースの有無 国調査との比較



### ③ 外部の支援につながらなかったケースについて

外部の支援につながらなかったケースについて、つながらなかった理由および対応方法の自由回答については以下の通りである。

図表IV-3-13 外部の支援につながらなかった理由および対応方法

理由	対処方法
<b>小学校</b>	
・校内のアンケート調査から認知はしたが、実態把握が十分でないため	・担任が聞き取りや随時指導するため日記等を活用する、実態把握に努めるとともに、SCのカウンセリングを行っている。
・ひとり親ではあるが祖母からの支援を受けていることを把握しているから。	・本人から家での様子を個別に聞いている。
・まだ確認がきちんととれていないため。	・継続的に確認していく。
・お手伝いとヤングケアラーとの境界ラインと判断。	・児童からの定期的な聞き取り。
・以前に聞いただけで実際には把握できていない。	・だいが登校してくるようになったので観察したり本人と話をしている。
・入学前から既に市の機関との連携・情報があつた。	・外部人材・機関とつなぐケースがあれば、すぐに連携できる体制を整えている。
・外部の機関と情報共有は行つたが、深刻なケースではなかつたため。	・当該児童の様子を見守る、担任が話を聞く。
・まずは学校から保護者への働きかけを行うため。	・保護者に確認。
・状況として緊急性を要しない。	・聞き取り、面談。
・実態がはっきりとつかみにくいいため、外部に相談がかけにくい。	・担任外を含め、複数の関係職員が話を聞くなどしっかり関わる。
<b>中学校・中等教育学校（前期課程）</b>	
・まだ確認がきちんととれていないため。	・継続的に確認していく。
・実態把握がまだまだ不十分であるため。	・担任から情報収集を行い、適宜情報を収集している。
・外部から先に連絡が入つたから。	・情報交換、共有している。
・必要性を感じなかつたから。	・家庭訪問など。
・ヤングケアラーといつても軽度。幼い兄弟といつても9歳以上だったり、中学生の本人よりも年長の兄弟がいて世話の中心は年長者だったりして、一人で抱え込んでいないため。	・今より過度になったときに対応するため、担任が聞き取りをし、困り感を把握している。
・家庭の中までは把握できないので、可能性があるという段階のため。	・生徒をしっかり見守っており、健康面、怪我等の観察も継続している。
・つなげるまでの状況ではないから。外部の体制がよくわからないから。	・スクールカウンセラーを交えて校内で共有。
・ヤングケアラーと思われるが、程度の軽重を含め、まだはっきりとした状況がわからないから。	・家庭の状況等の情報収集しながら、状況を見極めている。
・学校を休みがちであったり、遅刻などの状況がないため。	・教職員で共通理解し、声かけなどして学校での様子をよく見る
・時折ヤングケアラーかもしれないという可能性が見え隠れすることがあるが、頻繁ではないため。	・保護者とこまめに連絡をとること。

・疑いはあるが不確定ではっきりしないケースであるため慎重に対応している。	・学級担任を中心に、常に学年できめ細かい状況把握に努めている。
・本人の希望。	・ＳＣとの定期的な面談。
・登校状況が改善したため	—
・きょうだいの面倒を見ているが、学校生活・勉強・部活動等の活動に参加できているため。	・困っていることはないか等を担任等から聞き取りをし、対応している。
高等学校・中等教育学校（後期課程）	
・生徒が望まなかったから。	・感情面のサポート。
・学校側の判断であり、本人からの申告がないから。	・教職員全員で注視している。
・本人が学校生活を普通に送っており、外部支援までは必要ないと思われる。	・担任を中心に相談に応じるなど。
・つなごうと本人に何度か提案したが、本人が希望をしなかった	・スクールカウンセラーと定期的にカウンセリングを行いながら経過観察をしている。
・保護者、本人ともにしっかりとしており、毎日の世話というわけではない。	・担任や学年主任との相談体制の確立、また、困ったときに相談する市の福祉保健部局について案内している。
・今のところ校内で対処できるから。	・特別支援コーディネーターや教育相談コーディネーター、ＳＣなどによる教育相談。
・確実な情報ではなく、個人情報上、明確な確認がとりづらいため。	・相談や困ったことがあれば、担任等に相談するように面接等を通して多くの生徒に伝えている。
・実態把握が不十分かつ緊急性が低い。	・個別に面談をして状況把握。
・本人の希望	・まずは自分の思いを聞いてほしいということでＳＣへつなぎ、定期的にＳＣに相談している。その後本人自身から母親へ気持ちを話している。
・実態把握の途中であるから。	・担任、人権教育課、教頭での観察、協議。

#### ④ ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることについては、以下のような回答があった。

図表IV-3-14 ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること

小学校
・保護者への対応、児童を必ず守るという意識と方法を検討する。保護者と学校との人間関係や信頼関係を損なうことのないようにする。
・学校での児童の様子をよく観察し、普段と違うところがあれば個別に話を聞くようにしている。
・保護者への支援が必要な場合があるので、地教委・支援センターと情報を共有して慎重に進めている。
・家庭での状況の確認。
・児童との信頼関係の構築をめざし、担任や養護教諭に何でも言える雰囲気づくりをしている。
・集金の未納状況、担任から心配な児童の家庭状況を確認したり、地域の児童館から心配な児童の状況を定期的に聞き取っている。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童のつぶやきを教師がよく聞き、配慮すべき児童について気になることは必ず不登校・要対協担当教員、養護教諭に報告をする。</li> <li>・ケースにより、学年、全職員で共通理解を図り、場合によってはケース会議を開く。</li> <li>・適度な間隔で電話連絡を行い、家庭の様子を観察するとともに、保護者との信頼関係を築く。</li> <li>・当該児童が保健室来室した際には、身体に変化がないかどうか観察をする。虐待とヤングケアラーは接点がないとは言えないと考える。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人、保護者や外部機関等、様々な情報を大切にしている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の登校状況に気を付ける。日記や日常の会話から家庭での様子を把握する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの様子を観察する、話を聞いてあげるなど。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭状況を保護者に確認。子どもが欠席する等にならないために、関係機関等を紹介する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめのアンケート、題材日記、こまめな聞き取り、学校アンケート、服装の乱れや体臭など。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への支援が必要な場合があるので、町教委、支援センター、民生委員と協力して慎重に進めている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもとの信頼関係を築き、家庭の様子や悩みなどを何でも話せる環境・人間関係を作っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜話を聞き、保護者と連携した対応をしている。</li> </ul>
<b>中学校・中等教育学校（前期課程）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能性のある生徒に対しての注意深い見守りを、学年団、その他関係教職員を中心に行っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での状況の確認。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回程度、生徒指導委員会を開催し、全校生徒の実態把握に努めている。また、各担任が学年主任、生徒指導主事、管理職とも相談し、全ての生徒を見落とさない体制を作ろうと努力している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から相談しやすい環境をつくるようにしている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活において子どもの様子に変化がないか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に家庭と連絡をとる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・表情や健康状態、学習の取り組み状態、交友関係など、多視点からの観察を行うこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活を見守りながら、生徒の出すサインを見逃さないようにする。万が一の時は、すぐ対応できるように、常に関係機関と連絡を取り合っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の様子をしっかり見る。特に、健康面、食事面、虐待による怪我等の観察に注意をしている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの表情や授業に向かう姿勢、登校の様子など、基本的なところの観察。情報を聞き出すための保護者への電話の仕方。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは、日々の生徒との関わりを大切にしている。生徒が困ったことや、悩みを漏らす瞬間を見逃さないようにしており、生徒が出した困りや悩みを教職員間で軽重にかかわらず共有するようにしている。また、生徒の身なりや環境の変化にも同様の対応をするようにしている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども、保護者との関係の中で聞き取れた内容や関係機関との連携による情報を共有し、対応にあたること。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学校での様子の観察や、保護者との密な連絡。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の日々の変化や様子、生活記録などの記述に気を付けて、何か気が付いたことがあれば、全教職員で共通理解を図り、チームとして対応する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSWや関係機関と情報交換をこまめに行うこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤングケアラーに限らず、様々な事情を抱えている生徒については、登校時の様子や欠席時の保護者連絡、職員間の情報共有を通して小さな変化等の気づきを学年できめ細かくつかむようにしている。必要に応じて、生徒指導委員会等での定期報告により学年間等での情報共有と対応の検討を行い、学校全体でのケアにつなげる。その上で必要な場合は関係機関との連携を積極的に図る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多岐にわたる生徒指導上必要な対応について、組織として正確な把握と的確な対応につながるよう努めている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・とにかく情報を集めて共有することのスピード。</li> </ul>



・情報共有を大切にしている。
・プライバシー保護
・早期発見、生徒や家庭との相談体制を速やかに図る等。
・外部機関との連携。
・本人の健康状態の把握や、子育て支援課との連携。
・相談機関との連携を密にしている。
・常にケース会議で状況を共有し、要対協やSSWと連携をとりながら支援を継続していく。
・注意深く見守る。教員間での情報の共有を行う。
・保護者との信頼関係。子どもの小さな変化を見逃さない。
・生活アンケートにヤングケアラーに関する質問項目を設定している。
・密な校内での情報共有。子どもすこやか課、SSW、SCとの協力。
・生徒とよく話し、生徒の様子も観察して、状況把握に努めている。面談等の機会に保護者と密に連絡をとるようにしている。
<b>高等学校・中等教育学校（後期課程）</b>
・生徒の健康観察、つばやきを拾う。
・教職員間の共通理解。
・個人面談等の機会に悩みを聞いたり、家庭環境の把握に努める。
・カウンセリングや保健室、担任等様々な関わりの中で、本人の状況を把握し、情報を共有するよう心がけている。本人への声かけをきめこまやかに行い、助けが必要であればすぐに対応できることを伝えている。
・担任や教科担任、部活顧問から、様子が変わってきたことなどを聞いたら、素早く動く。
・生徒の悩みについてのアンケートを実施するとともに、地域のヤングケアラーに関する相談を実施していただける団体のチラシなどを配布している。
・プライバシー保護のための配慮。
・本人からの申し出はないため、個人情報や家庭環境、生活状況を正確に確認することが困難であり、担任の面談の中で様子を把握するようにしている。また、広く多くの生徒に対し、困ったことがあれば相談するように伝えている。
・本人の意志。
・個別に面談。教員間の情報共有
・学校だけで抱え込まない。情報提供の是非の判断。
・本人の気持ちや状況が悪化しないような支援を心がけている。
・担任との密な連携。

### ⑤ ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることについては、以下のような回答があった。

図表IV-3-15 ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること

<b>小学校</b>
・家庭の問題ととらえていることがあり、学校としては家庭にまで踏み込んで行くことは限界がある。
・家庭内のことは基本的に個人的なことであり、深く立ち入って様子を聞くことは保護者や児童本人から不快感を示される場合があるので聞きにくく、現状を正確に把握することは難しいと感じている

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人に自覚がない場合がある。</li> <li>・保護者への支援の必要性。保護者自身が外部に頼りたくないという思いがある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の状況がはっきりわからない。確認することが難しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのレベルでヤングケアラーと判断するかが難しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内のことであるので、状況把握が難しい。児童が自分から打ち明けることがほとんどない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該児童の家庭の状況を正確に把握することが困難である。児童は、現状を誇張することがあり、事実を隠す場合もある。児童からは正確な情報を得ることは難しいと感じる。また、他者からの情報等で事実がはっきりしていても、それを認めない児童もいる。情報を得て、子ども家庭支援室の職員が面談をしても児童から事情を聞き出せないことがある。さらに、保護者への確認は慎重にならざるを得ない。保護者の中には、子どもの権利を侵害しているなどの意識をもたない人がある。通報者を守ることも重要である。教職員が家庭の中まで覗き見ることはできない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもは親を守るのでデリケートなことは聞けないし、保護者とも会えないことである。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な情報が届かない、または感じなかったとき。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少し負担が大きいのではないかという程度のケースでは、家庭内に踏み込むような具体的な支援は難しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との関係性を良好に保つこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の欠席理由を保護者がはっきり話さない等の場合、学校がどこから介入すればよいかの判断が難しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこまでが許容範囲なのかの判断がしづらい。対応する場合に最終的な判断が曖昧。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が気づいていない。保護者への支援が必要。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の家庭の中までの支援は難しいこと。朝ごはん、服、入浴等までは学校がケアしきれない部分がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族のことなので、慎重に話を進めること。</li> </ul>
<b>中学校・中等教育学校（前期課程）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態を裏付ける具体的な様子がなかなか表面上に表れにくいと想定して取り組んでいる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の状況がはっきりわからない。確認することが難しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の問題もあり、なかなか正確な実態把握が難しい点。「この生徒がヤングケアラー」だという決定を行いにくい点。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人もなかなか言い出せない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の問題に深くまで入り込めない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の問題なので関与しにくい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自ら声を上げないこと。他の生徒に気づかれないように聞き取り対応をすること。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が、順調に学校生活を送れている場合、プライバシーに関わる問題でもあるので、踏み込みにくいところがあるので、常に見守るようにしている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利がないので深く踏み込めない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の権限では踏み込みにくい状況を見つけなければいけないのが難しい。また、支援を行いたいと思ったとしても、支援を申し出るタイミングや方法も個別に検討が必要で、学校と保護者の関係を壊すことなく支援につないでいくためには教職員のセンスが求められることが悩みである。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内のことでもあり、子どもの話だけでは具体的な様子が分かりにくい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態の把握が難しいため、支援の方法について考えることができない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内のことなので、詳細までは把握できない。本校では、厳しいヤングケアラーである生徒がいないので、現在のところ、困り感がない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤングケアラーの可能性のある生徒自身からの情報が得にくいこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な家庭環境が認められる時代の中で、各家庭の極めて個別的な事情や価値観の違いによる状況や方針に関わる場合もあり、生徒や保護者の心情に配慮すると安易に踏み込みにくい。福祉の充実を強く望</li> </ul>



<p>むところではあるが、学校としては生徒指導の一環として、学校内でできる最大限の支援を行うほかないと思う。少なくとも当該生徒にとって学校生活が楽しく充実したものになるよう配慮し、きめ細かく実態を把握して学校としてできるサポートを徹底していく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭のことなので、踏み込みにくい。学校がどこまでできるか、して良いのかわかりにくい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の状況を把握しにくいこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートなどをしても本当のことを言わない。また、本人が家族へのケアが普通だと思っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との関係を切らないよう粘り強く対応する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤングケアラーに対する保護者と教員との認識のズレがある。明確な判断基準がなく、主観的な部分が大きいので対応が難しいと感じることが多い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシーの問題</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な支援の方法を模索中。保護者の意向とのすり合わせ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大防止策として家庭訪問をしていないため、家庭内の状況がわかりづらい。</li> <li>・核家族化しているため、なかなか困っていても助けてもらえない状況にある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況を改善するために保護者を説得したり、深い相談ができる体制を築いたりすることが難しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と連絡が取れなかったり、家庭訪問をしてもなかなか会えなかったりするとき。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握が難しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人にその自覚がなく、また保護者から状況等の聞き取りが難しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内でのことなので、どこまで踏み込んで良いのか迷う時があること。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこまで家庭の問題に学校が介入してもよいか、難しいと思います。</li> </ul>
<p>高等学校・中等教育学校（後期課程）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部機関につなぐこと。本人、保護者が支援を拒否することは多く、情報共有のみで終わる。幼いきょうだいの世話をしているもきょうだいと過ごす時間やその世話を喜んでいるケースもある。一概に全てが問題ではない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握が困難</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシーにどこまで踏み込むか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSWが学校に配置されていないため、派遣依頼をするためには保護者の了解が必要となり、早急な相談や対応が困難であること。把握については、計画的に実施している心理面におけるアンケート調査や面談等で、気になる生徒には面談等を実施して聞き取りをおこなっているが、保健室や担任との面談の中で、本人から相談等があれば把握できるが、本人からの相談がない場合は把握が難しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族やきょうだいが病気で、県外に長期入院していて、他のきょうだいの面倒を見ることになるパターンもある。コロナで幼稚園などが閉鎖された場合などに、欠席することが多いケースもある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態が把握できにくい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的な課題として捉えてる生徒がいるのではないかと。本人がヤングケアラーではないと認識している生徒に対して、認識することは難しいと感じる。経済状況についても、実態を把握することは困難であると感じる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の意志。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシーの侵害になることもあり、どこまで学校が介入していいのか躊躇する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の保護。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目に見えにくいこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握が困難である</li> </ul>

⑥ ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目について

ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目に対する追加項目案については以下の通りである。

図表IV-3-16 ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目

意見
・チェックすべき内容は十分に含まれていると思う。
・担任の面談の中で、可能性のある生徒を把握し、注意しながら観察することが重要となるのではないだろうか。
・本人が若い学年ほど保護者のネグレクトによるものなのか判断がつきにくい。
追加項目案
・明らかに疲れた様子が見られる。
・授業に集中できない。
・きょうだい関係、家族構成など。
・朝食をとっていないことが多い。

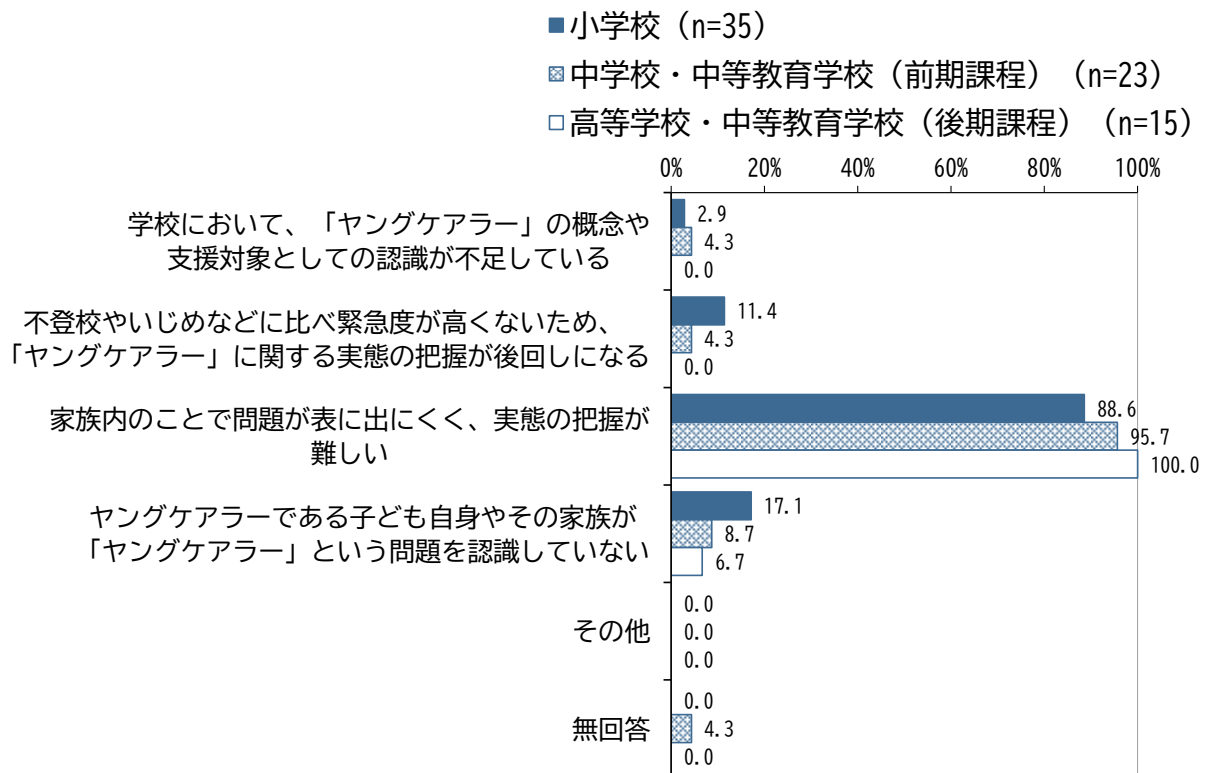
## (6) ヤングケアラーがいるか分からない理由

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもがいるか「わからない」と回答した学校の、その理由について、小学校では、「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が 88.6%で最も高く、次いで「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」が 17.1%、「不登校やいじめなどに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる」が 11.4%と続いている。

中学校・中等教育学校(前期課程)では、「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が 95.7%で最も高く、次いで「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」が 8.7%、「学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している」が 4.3%と続いている。

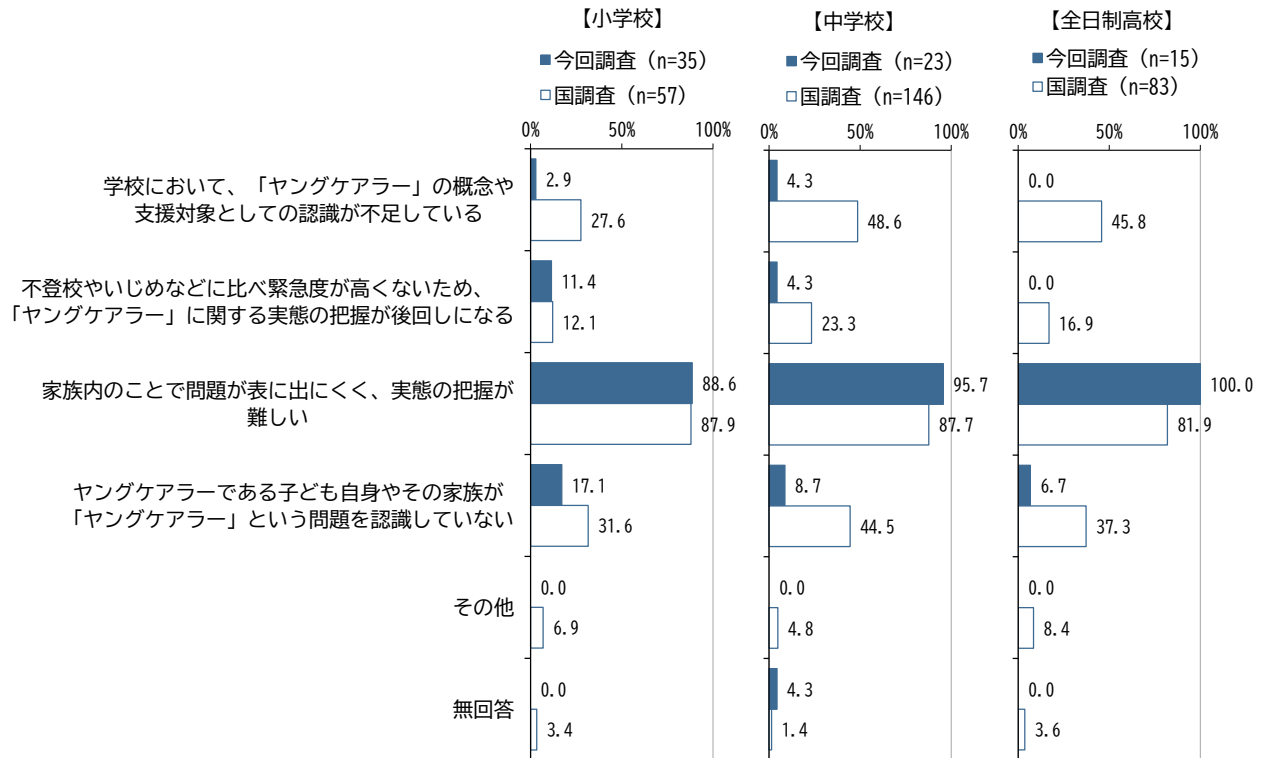
高等学校・中等教育学校(後期課程)では、「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が 100.0%で最も高く、次いで「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」が 6.7%となっている。

図表IV-3-17 ヤングケアラーがいるか分からない理由(複数回答)



国調査と比較すると、「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」では、小学校、中学校、全日制高校いずれも国調査より割合が高くなっている。

図表IV-3-18 ヤングケアラーがいるか分からない理由 国調査との比較



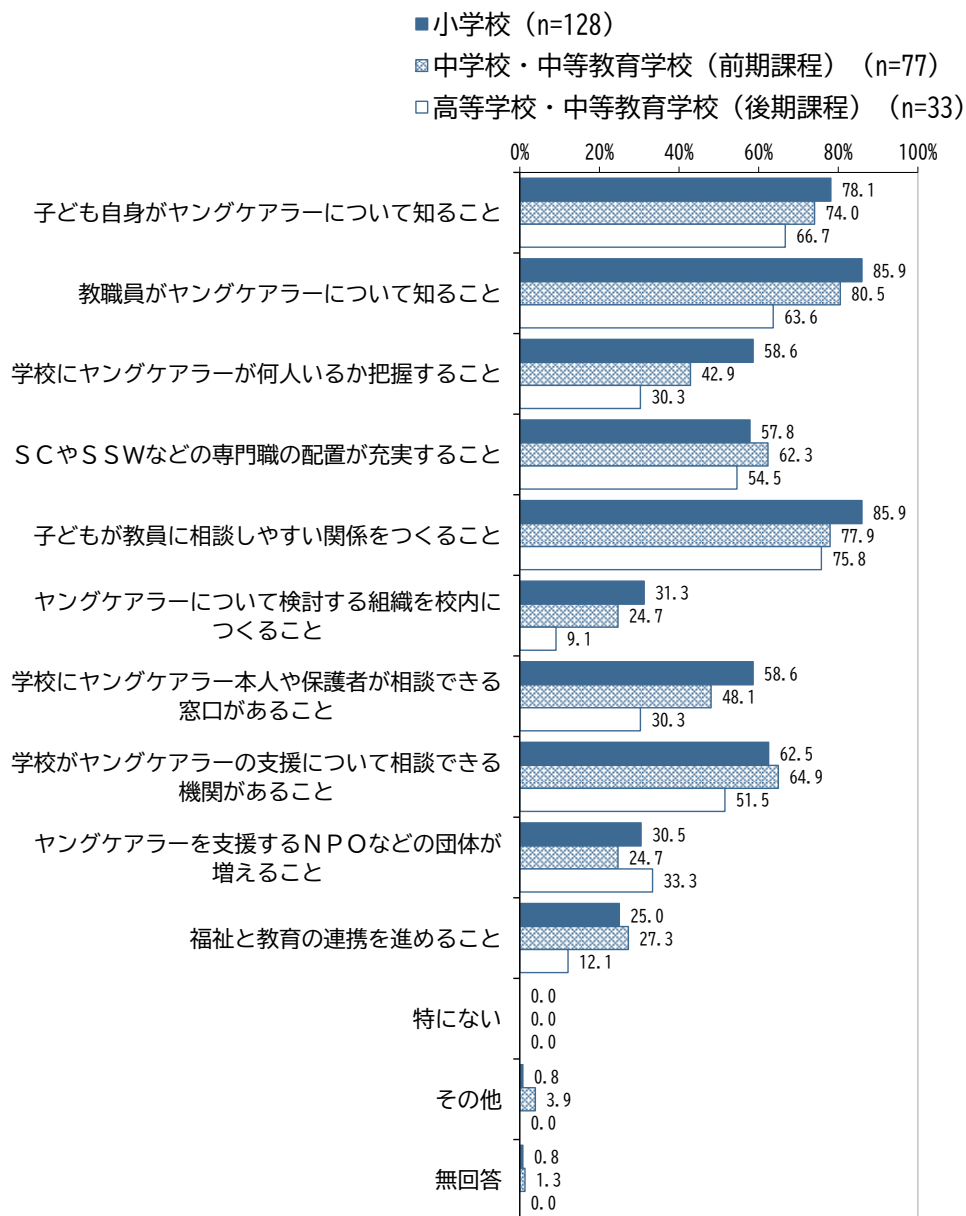
## (7) ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことについて、小学校では、「教職員がヤングケアラーについて知ること」、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」がいずれも 85.9%で最も高く、次いで「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が 78.1%と続いている。

中学校・中等教育学校(前期課程)では、「教職員がヤングケアラーについて知ること」が 80.5%で最も高く、次いで「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」が 77.9%、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が 74.0%と続いている。

高等学校・中等教育学校(後期課程)では、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」が 75.8%で最も高く、次いで「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が 66.7%、「教職員がヤングケアラーについて知ること」が 63.6%と続いている。

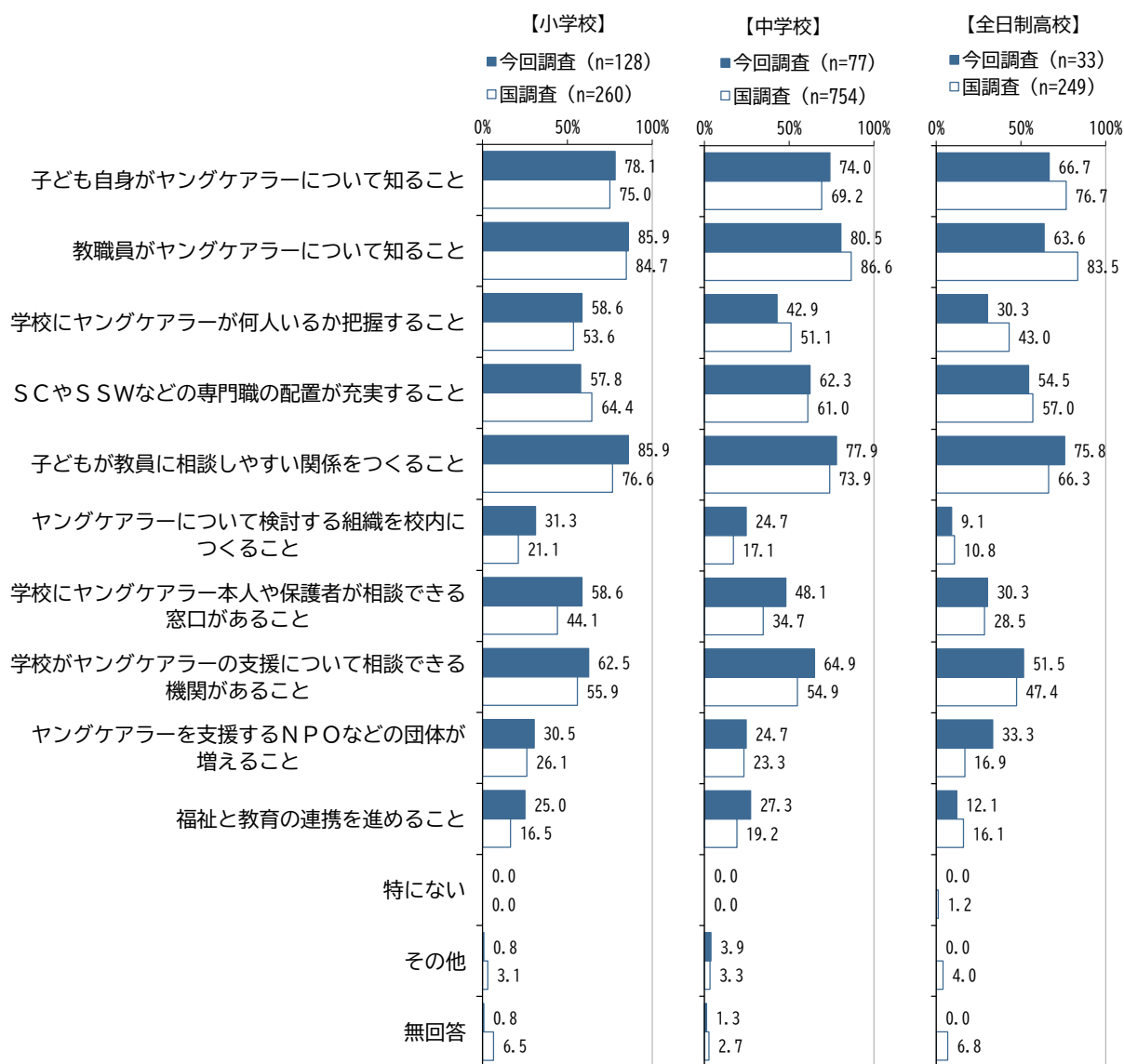
図表IV-3-19 ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと(複数回答)



国調査と比較すると、小学校では「SCやSSWなどの専門職の配置が充実すること」、「特にない」、「その他」以外の項目で国調査より割合が高くなっており、中学校では「教職員がヤングケアラーについて知ること」、「学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること」、「特にない」以外の項目で国調査より割合が高くなっている。

全日制高校では「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」、「学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること」、「学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること」、「ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること」が国調査より割合が高くなっている。

図表IV-3-20 ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと 国調査との比較



## (8)自由回答

ヤングケアラーについての自由記述は、以下の通りである。(一部編集のうえ掲載)

図表IV-3-21 自由回答

ヤングケアラーに必要なと思う支援
・病気や介護が必要な家族の支援及び家庭の経済的な支援。
・まず、学校から相談してみることが必要と思う。
・福祉の方から家庭に、直接介入してほしい。
・必要な支援を迅速に判断し、福祉機関が主となり、家庭に働きかけること。
・子どものこれからを支えるために、直接的なサポートが無料で受けられるような体制の充実が必要ではないかと思う。
・学校と福祉をつなげる人の存在が必要だと思います。
・専門機関・部署の創設。
・専門の担当課をつくり、実態調査やその対策・対応、学校への支援を一元化して行う。
ヤングケアラーへの支援に向けて必要なこと
関係機関との連携の強化
・市の子育て支援課等と学校との連携を強化する。
・定期的に連携する機会を設定する。
・学校は知り得た情報をいち早く教育委員会を通して社会教育や社会福祉に連絡をし、それぞれの立場で迅速かつ最大限の生活支援ができる体制づくりが必要だと考える。このアンケートはとてもよいと思う。どうか不遇な子どもたちを助けてあげてください。
・学校と福祉機関等の情報共有や連携、対応についての協議・役割分担。
・各市町村の福祉部局が、積極的に家庭と連携を取ることが必要である。
・学校だけでの対応では難しい場合が多くあると考えるので、親子がともに生活していくうえで支援してもらえる福祉との連携を図ることが必要であると考えます。
・福祉関係の方とは有事の場合の連携が主であるので、定期的に会(オンラインも可)を開き、気軽に連携できる関係性を築いていくこと。
・関係機関との連携(定期的な連絡会、家庭訪問等)
・連携をする役割を担うべき教員を、専任として配置できる人員配置が学校に無ければ難しいと思う。
・該当の生徒がいる場合、学校と福祉がすぐにつながるができるよう体制を整備してほしい。今は、どこに相談したらいいかわからない。人権教育課のSSW派遣などを利用したことがあるが、派遣依頼に時間と手間がかかりすぎることと、保護者の了解を得る必要があることから、活用しにくいケースもあるため、SSWの各校への配置を希望する。
・学校からの情報に頼らず、地域社会のネットワーク(民生・児童委員、地区の役員等)を生かさなければいけない。
・児童が世話をする必要のある家族に対して、福祉機関や病院が関わっていても、学校にそのような旨の連絡がない場合もあると思われます。その該当児童・生徒の学校に連絡のできる仕組みをつくる。
・市の家庭相談員との定期的な連携を行う。
情報の共有
・情報の共有。それぞれの側面からの充実した支援。
・定期的な情報共有の場があること。
・情報の共有、専門的な機関での対応等が必要であると思います。
・連絡先などの情報共有。



・具体的かつこまめに定期的な情報共有をすること。
・定期的に連絡を取り合う機会を持つこと。
・学期に一度でも情報交換の場があれば良いのかと考えます。
・積極的に情報を共有し、領域の枠を超えた対応策が大切だと思う。
・必要な支援が、必要なところに素早く届けられるようにするために、互いに知り得た情報を交換することが大切だと思います。
・ヤングケアラー児童の実態や、どうやってその児童について気づいたかなどの事例を研修などで紹介しあい、身近な問題だという意識を持つことが大切だと思います。
・家庭の状況の把握や情報交換の場の設定。
・要保護児童対策地域協議会実務者会議での情報交換やケース会議を更に充実させていきたい。
・学校では対応の限界がある。行政（福祉課・保健福祉局・児童相談所など）しか知りえない情報がある。支援を行うには、情報交換など連携をより密にすることが支援のために必要だと考える。
・福祉事務所の家庭相談員の方などと情報交換を定期的に行いながら、行政主導で動いてもらうことが大切だと考える。
・情報交換。改善策の具体的な提示。
・家庭状況の把握と福祉分野での支援の状況把握、支援内容の共通理解。
学校での体制づくり
・何も無い時から、組織体制の見直し。
・学校は、家庭の問題・課題等に踏み込めないことがあります。学校が相談できる福祉機関の周知と、体制整備が必要だと思います。学校が把握した情報を共有し、福祉機関がどのような支援をしていくのか、また学校ができることは何か、話し合い、具体的に行動していくことが必要です。
・生活のどのあたりに困り感があるのかを把握し、具体的かつ適切に動ける体制づくりが必要だと思います。
学校に必要なと思う支援
・福祉の専門的立場から、経済的な支援の在り方、方策の情報等を、教育現場に教えていただきたい。
・支援を必要としている児童に、学校がどのようにかわり、支援をしていけばよいか、専門的な観点からアドバイスをいただきたいです。
・学校だけでの対応は限界があり、専門家の意見や指導が入るとスムーズに対応が出来ると思う。
・支援するための人的配置。
その他
・教育の観点だけではなかなか十分な対応が取れないことが多いので、福祉の観点も必要だと思う。
・福祉、教育共に人員を増やしてほしい。
・家庭支援は、学校よりも行政が担当したほうが有効であると思う。
・市の福祉機関が、保護者等の子育ての困り感を聞いたり、経済的な支援、また相談できる機関であってもらうことが必要。



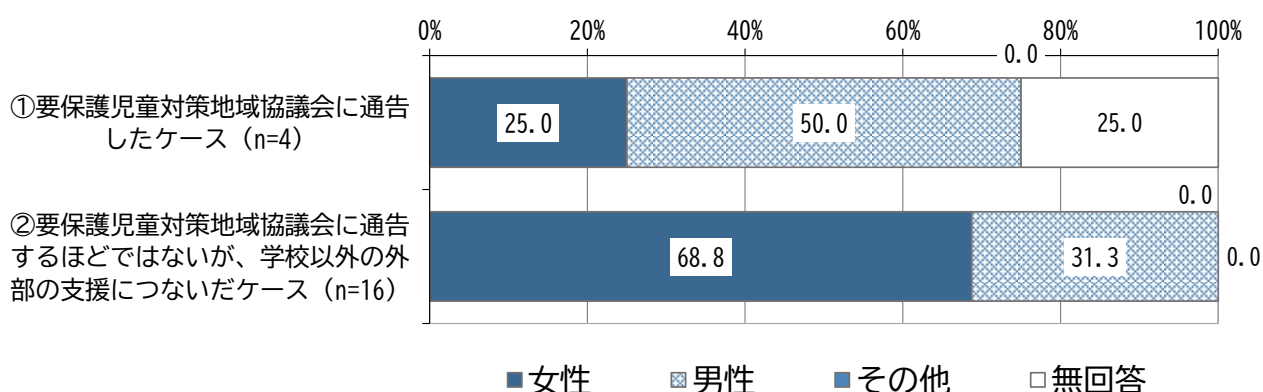
## 4 個別事例

①要保護児童対策地域協議会に通告したケース、②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースについて、直近のケースを1件ずつ聞いた結果は以下の通りである。

### (1)性別

性別について、①では「男性」が50.0%で最も高く、②では「女性」が68.8%で最も高くなっている。

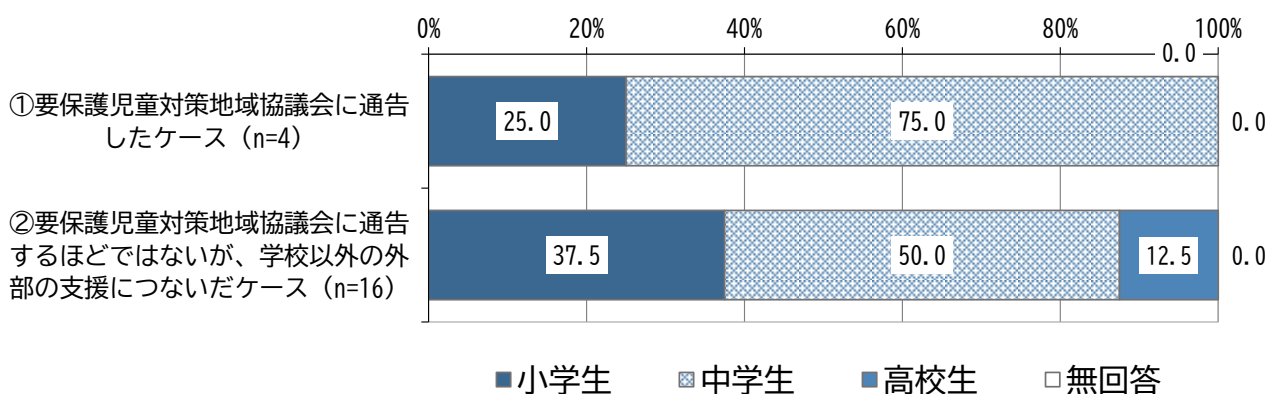
図表IV-4-1 性別



### (2)学年

学年については、①、②いずれも「中学生」の割合が最も高くなっている。

図表IV-4-2 学年



### (3) 学校生活の状況

学校生活の状況については、①、②いずれも「学校を休みがちである」の割合が最も高くなっている。

図表IV-4-3 学校生活の状況(複数回答)

単位：実数(校)、構成比(%)

	合計	学校を休みがちである	遅刻や早退が多い	保健室で過ごしていることが多い	精神的な不安定さがある	身だしなみが整っていない	学力が低下している	宿題や持ち物の忘れ物が多い	保護者の提出遅れや提出忘れが多い	保護者の承諾が必要な書類を提出しない	学校に必要なものを用意しない	修学旅行や宿泊行事等を欠席する
①要保護児童対策地域協議会に通告したケース	4	75.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0
②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース	16	56.3	43.8	12.5	50.0	12.5	50.0	37.5	37.5	25.0	0.0	0.0

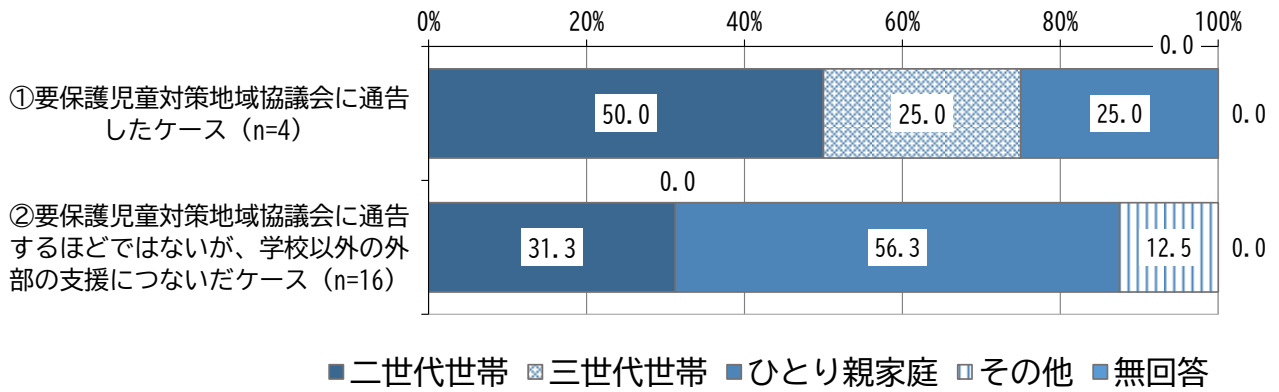
	合計	校納金が遅れる、未払い	その他	無回答
①要保護児童対策地域協議会に通告したケース	4	0.0	25.0	0.0
②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース	16	18.8	12.5	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

#### (4) 家族構成

家族構成について、①では「二世世代世帯」が 50.0%で最も高く、②では「ひとり親家庭」が 56.3%で最も高くなっている。

図表IV-4-4 家族構成

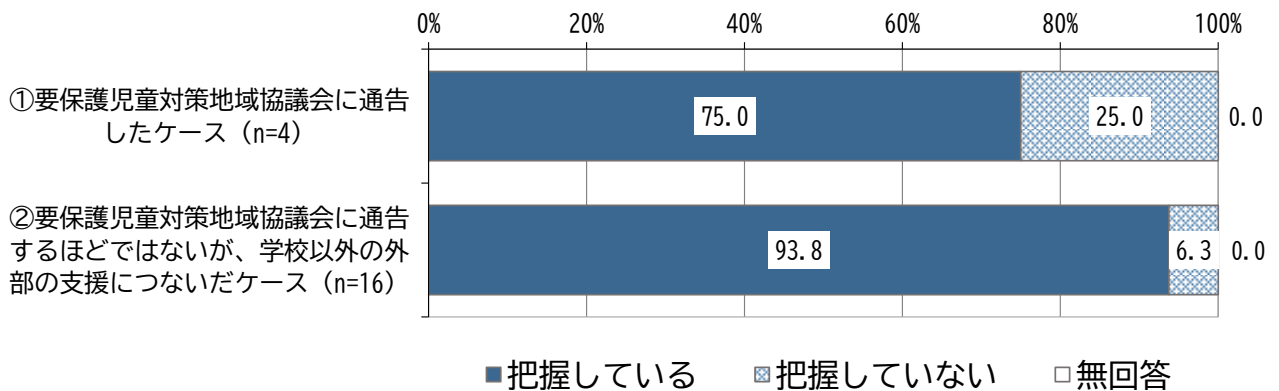


#### (5) 家庭でのケアの状況

##### ① ケアの状況の把握

ケアの状況を把握しているかについて、「把握している」では、①は 75.0%、②は 93.8%となっている。

図表IV-4-5 ケアの状況の把握



①要保護児童対策地域協議会に通告したケース、②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースのケアの状況を把握していると回答した学校の、ケアを必要としている人、ケアを必要としている人の状況、ケアの内容を聞いた結果は以下の通りである。

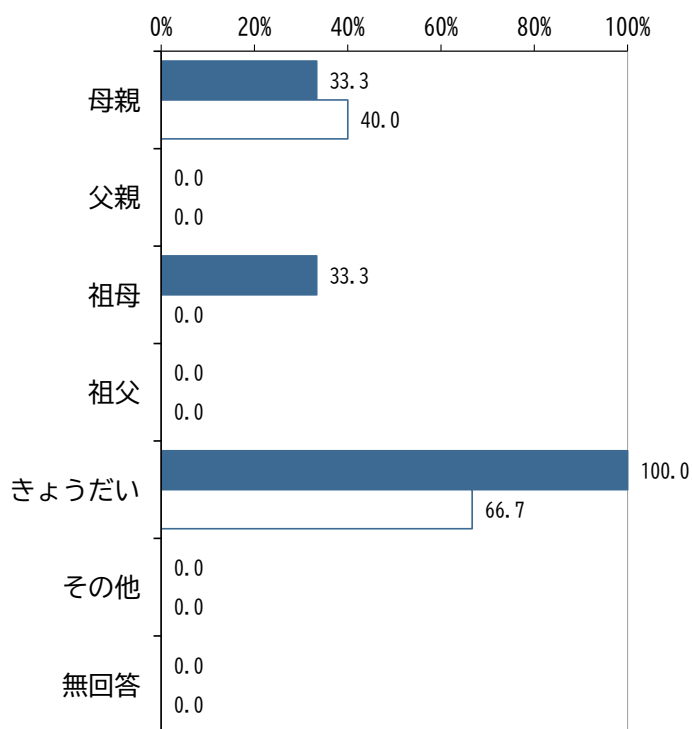
## ② ケアを必要としている人

ケアを必要としている人については、①、②いずれも「きょうだい」の割合が最も高くなっている。

図表IV-4-6 ケアを必要としている人(複数回答)

■ ①要保護児童対策地域協議会に通告したケース (n=3)

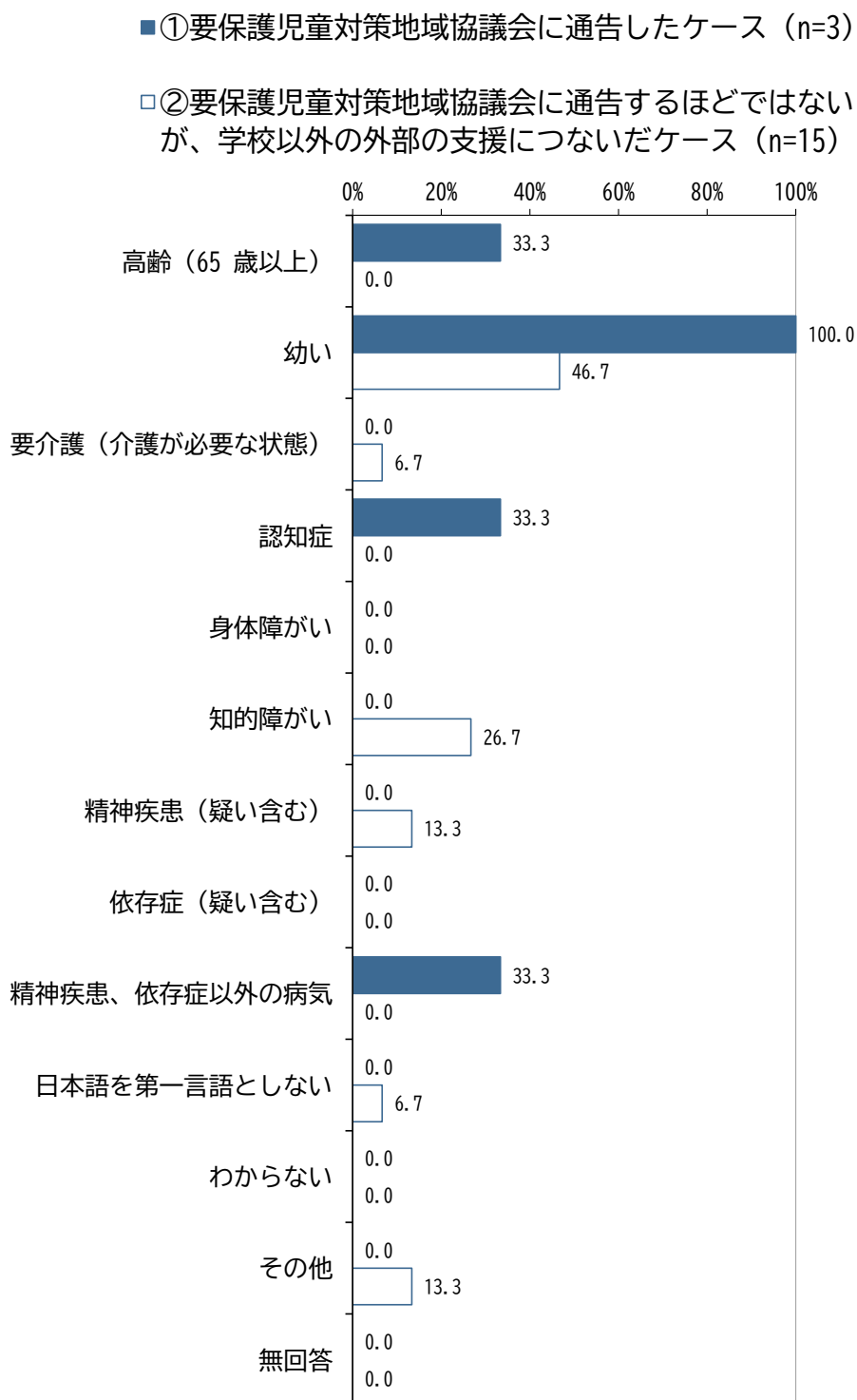
□ ②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース (n=15)



### ③ ケアを必要としている人の状況

ケアを必要としている人の状況については、①、②いずれも「若い」の割合が最も高くなっている。

図表IV-4-7 ケアを必要としている人の状況(複数回答)



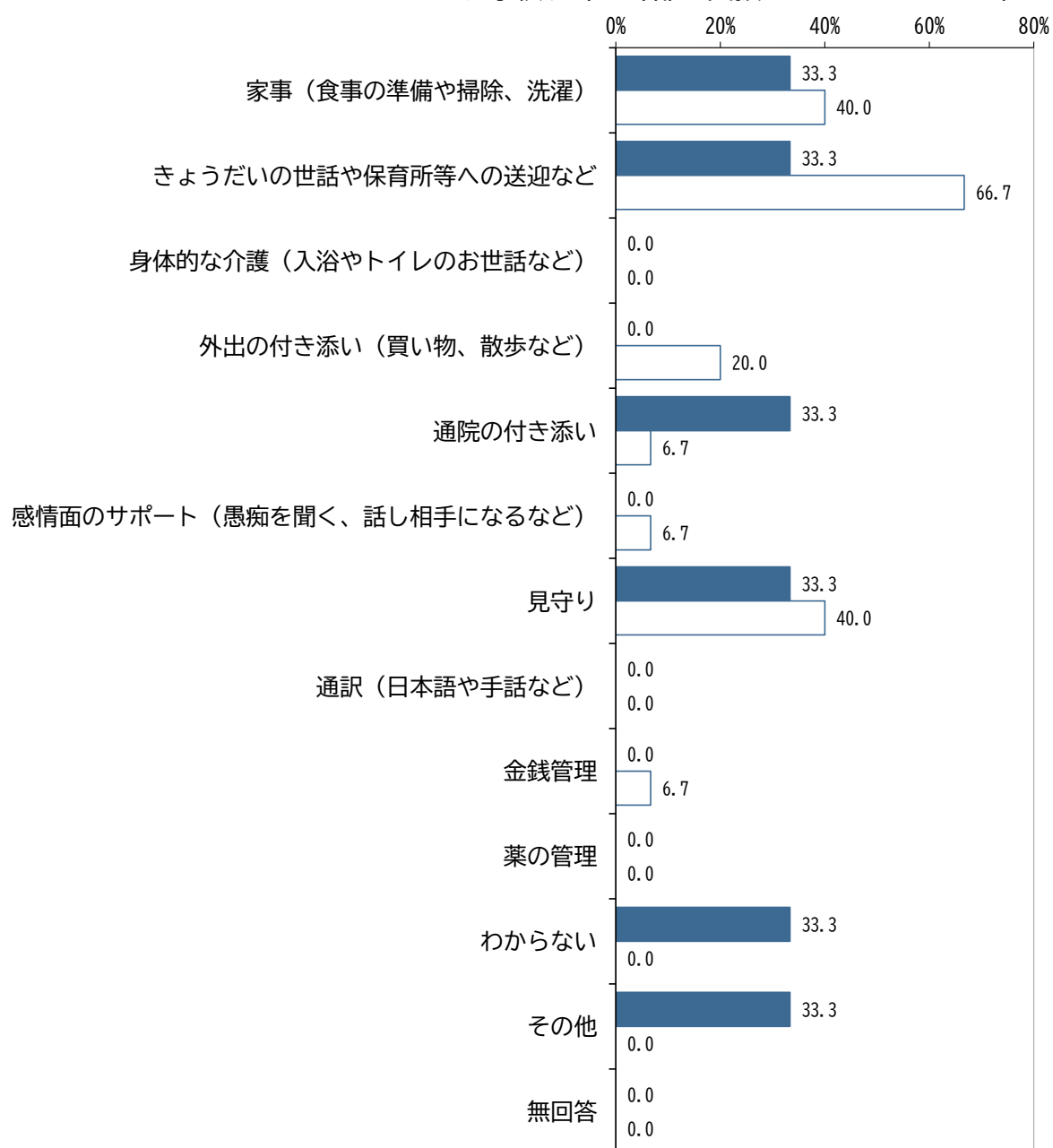
#### ④ ケアの内容

ケアの内容について、②では「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が 66.7%で最も高く、次いで「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「見守り」がいずれも 40.0%と続いている。

図表IV-4-8 ケアの内容(複数回答)

■ ①要保護児童対策地域協議会に通告したケース (n=3)

□ ②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース (n=15)



## (6)ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ

図表IV-4-9 ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ

① 要対協通告ケース
・小学校や市町村保健部門等の申し送り。
・家の都合といって3、4日休んだ。その間、当該児童のきょうだいの保育所が新型コロナウイルス感染症感染拡大により閉鎖しているかもしれないとの情報があり、働いている母親の代わりにきょうだいの面倒をみている可能性があると考えた。
・母親と話すなかで、赤ちゃんの世話や祖母の通院の付き添いのために欠席している日があることがわかったため。
・学級担任が家庭訪問を定期的にする中で、本人の話や家庭の様子から気付いた。
② 学校以外の外部の支援につないだケース
・遅刻や母親の電話対応の様子から。（複数意見）
・母親が世話になっている障がい者福祉施設から、集金の督促に関して依頼を受けたことがきっかけである。
・母親、長兄ともに支援が必要であり、市の福祉部と連携した支援にあたっていたため。
・同級生が弟の世話をしている様子を見かけ、担任に報告。また、本人からも弟の世話をしていることを担任が聞く。
・本人の登校しぶり。書類などの未提出。母親の施設員からの連絡。
・父親が、世話をさせるために休ませると学校に伝えてきたから。
・本人からの情報
・母親の病状の悪化等についての、本人からの相談。
・保護者との懇談による。
・遅刻、電話。
・同じ服を着ている。入浴が不十分な様子等。また、町教委やSSC、児童相談所への相談をしている中で、家庭の状況がより詳しくわかってきた。
・本人との会話から、食事の準備がないことやきょうだいの世話をしていることを知ったから。
・SSWから、学校に連絡をもらった。
・児童相談所から、学校に連絡をもらったから。
・身体のおざ。朝食未摂取の状況。
・家庭訪問や本人との面談。
・不自然な欠席、早退。

(7)つないだ機関(②学校以外の外部の支援につないだケースのみ)

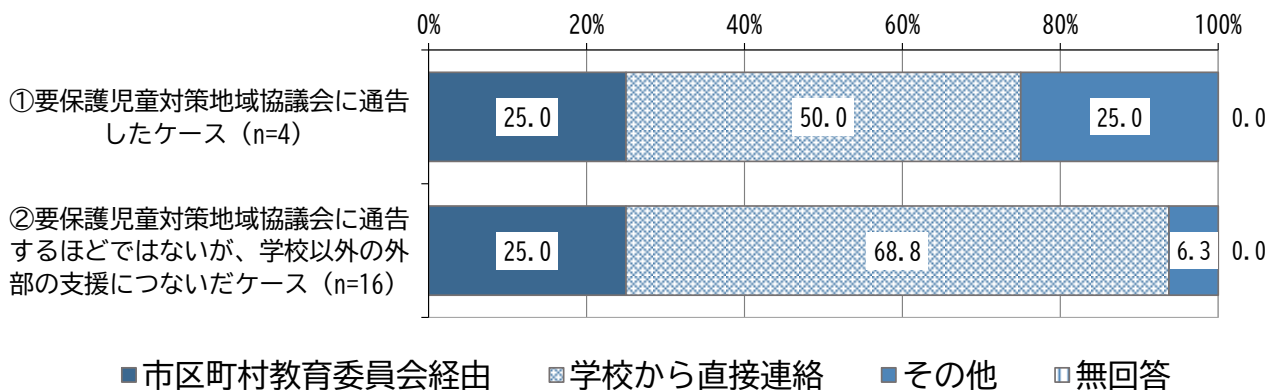
図表IV-4-10 つないだ機関(②学校以外の外部の支援につないだケースのみ)

つないだ機関	件数(件)
児童相談所	5
市町村の福祉部門	4
市町村の子育て支援部門	3
民生委員・児童委員	3
S S W	3
教育委員会	3
徳島県中央こども女性相談センター	2
S C	2
就学前施設	2

(8)外部機関へのつなぎ方

外部機関へのつなぎ方については、①、②いずれも「学校から直接連絡」の割合が最も高くなっている。

図表IV-4-11 外部機関へのつなぎ方





## (9) 学校が行った支援(つなぎ先との連携も含めて)および支援した結果、子どもへの変化

学校が行った支援等や、その結果の子どもへの変化についての自由記述の回答は以下の通りである。  
(一部編集のうえ掲載)

図表IV-4-12 ①要対協通告ケース

学校で行った支援(要対協との連携も含めて)	支援した結果、子どもへの変化
・情報交換をしながら、いろんな視点から見守っている。	・安定した学校生活が送れている。大きな変化はない。
・当該児童の当時の家庭の状況、学校の状況について情報交換を行った。当該児童からは、欠席していた期間の状況を正確に聞き取ることができなかったので、情報提供のみとなった。当該児童は様々な問題を抱えており、ヤングケアラーを含め、町福祉課子ども家庭相談室と連絡を取り合っている。	・家庭への連絡を欠かさずすることで遅刻や欠席の日数が減少した。
・家庭訪問・家庭連絡。	・登校したり、欠席したりの繰り返しで、注意して見守っている状況である。
・町の子ども家庭支援室(要対協)とSSWと学級担任及び生徒指導委員会が連携し、家庭訪問を定期的に行い実態把握すると共に、進路相談や学習支援及び生活に関する相談を行った。	・主に学級担任との相談の中で、生活の悩みや将来の展望について次第に話をするようになったが、自分が家事の多くを担っているのは姉を引き継いでやっていることで当然であるという考えや、中学校卒業後は親の仕事を手伝うということは変わらなかった。

図表IV-4-13 ②学校以外の外部の支援につないだケース

学校で行った支援(つなぎ先との連携も含めて)	支援した結果、子どもへの変化
・夏休みの状況把握など、幼稚園や民生委員と連絡体制の構築。	・登校できる場合が増えた。
・母親がお世話になっている障がい者支援福祉施設と集金の督促等について相談したりしている。	・特にない。最近、母親の実家に行って、学校を欠席することがあった。
・子育て支援課支援課相談員の家庭訪問等による情報を共有し、学校でも見守り、聞き取り、家庭訪問を行っている。	・家庭内のことでもあり、子どもの話だけでは具体的な様子がわかりにくい。
・学校での見守りの継続。	・適応指導教室への入級を考えている。
・母親の施設内でケース会議。 母親は施設側が守れるが、本人を守ってくれる機関がなかったため。	・困ったことや将来的にどういう支援を得られるのかなど、具体的なことを本人に説明してもらい、本人の見通しがついてきて、欠席が少なくなった。
・きょうだいの送迎がしてもらえる機関を探して案内している。	・まだ十分な効果はない。
・情報の共有、適応指導教室との連携。	・目標をもって行動するようになった。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・祖父母に情報の提供について承諾を得た上で、自治体に相談した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もともと担任に相談ができていたので、さほど変化はなし。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校への登校回数が増えた。保護者の意識の変化。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡体制の構築。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校できる児童が増えた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供への声掛け。町教委や福祉機関への連絡、児童相談所との定期的な訪問と面接。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校へ毎日明るく来るようになり、学校行事での司会や進行等を積極的に行うようになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問を行い、家庭状況を把握する。本人と話して、毎日の出席状況や食事の状況を把握する。何か変化があったときには、SSWや児童相談所にこまめに連絡して、共通理解を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、児童相談所で保護を受けている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在報告をして、対応を検討中。朝食を与えたこともある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弟の世話に対して負担を感じることもある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様子を注意深く観察するようにしている。複数の教員で情報を共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関わってくれる教師を信頼している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・父親が単身赴任で県外にいるので、何かあって学校を欠席することになる時は市社会福祉課もしくは父親に連絡している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に登校できている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもすこやか課、SSWが家庭訪問し、情報を学校と共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりません。</li> </ul>

1 調査票

(1)徳島県小学生の生活についてのアンケート調査

小学生調査票 ※この調査票は確認用のため、児童に配布する必要はありません。

徳島県「小学生の生活についてのアンケート調査」調査票

※アンケートの内容は次のとおりです。  
(実際はタブレットやパソコン等から回答します。)

I. 基本情報

問1. あなたの住んでいる市町村を教えてください。

- |         |           |           |
|---------|-----------|-----------|
| 1. 徳島市  | 9. 勝浦町    | 17. 海陽町   |
| 2. 鳴門市  | 10. 上勝町   | 18. 松茂町   |
| 3. 小松島市 | 11. 佐那河内村 | 19. 北島町   |
| 4. 阿南市  | 12. 石井町   | 20. 藍住町   |
| 5. 吉野川市 | 13. 神山町   | 21. 板野町   |
| 6. 阿波市  | 14. 那賀町   | 22. 上板町   |
| 7. 美馬市  | 15. 美波町   | 23. つるぎ町  |
| 8. 三好市  | 16. 牟岐町   | 24. 東みよし町 |

問2. あなたの性別を教えてください。

- |      |      |        |
|------|------|--------|
| 1. 女 | 2. 男 | 3. その他 |
|------|------|--------|

問3. あなたが一緒に住んでいるのは誰ですか。

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 1. お母さん   | 6. 兄か姉が二人以上 |
| 2. お父さん   | 7. 弟か妹が一人   |
| 3. おばあさん  | 8. 弟か妹が二人以上 |
| 4. おじいさん  | 9. その他 ( )  |
| 5. 兄か姉が一人 |             |

問4. あなたの健康状態について教えてください。

- |         |            |
|---------|------------|
| 1. よい   | 4. あまりよくない |
| 2. まあよい | 5. よくない    |
| 3. ふつう  |            |

## II. ふだんの生活について

とい がつこう けつせき  
問5. あなたは学校を欠席することがありますか。

1. ほとんどしない
2. たまにする
3. よくする

とい がつこう ちこく そうたい  
問6. あなたは学校を遅刻や早退することがありますか。

1. ほとんどしない
2. たまにする
3. よくする

とい ほう か ご なら こと  
問7. 放課後、習い事などをしてしていますか。

1. はい
2. いいえ

とい がつこうせいかつ  
問8. ふだんの学校生活などで、あてはまるものはありますか。

1. 授業中に寝てしまうことが多い じゆぎょうちゆう ね おお
2. 宿題やができていないことが多い しゆくだい おお
3. 忘れ物が多い わすれもの おお
4. 部活動や習い事を休むことが多い かかつどう なら こと やす おお
5. 提出物を出すのが遅れることが多い ていしつぶつ おお
6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する しゆがくりょこう じゆくはくきようじ けつせき
7. 保健室で過ごすことが多い ほけんしつ おお
8. 学校では一人で過ごすことが多い がっこう ひとり おお
9. 友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない ともだち あそび じかん すく
10. とくにない

とい なや  
問9. あなたが悩(なや)んでいることはありますか。

1. ある (一問 10) とい
2. ない (一問 12) とい

問 10. 問 9 で「悩みがある」と答えた人にお聞きします。それはどんな悩みですか。

1. 友達のこと
2. 学校の成績のこと
3. 習い事のこと
4. 家族のこと
5. 生活や勉強に必要なお金のこと
6. 自分のために使える時間が少ないこと
7. その他 ( )

問 11. 問 9 で「悩みがある」と答えた人にお聞きします。その悩みについて、話を聞いてくれる人はいますか。

1. いる
2. いない

### Ⅲ. 家庭や家族のことについて

問 12. 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。ここでいう「お世話」とは、ふつう大人が行うような家事や家族のお世話を指します。

1. いる (→問 13)
2. いない (→アンケート終了)

問 13. 問 12 で、「1. いる」と答えた人にお聞きします。あなたは誰のお世話をしていますか。

1. お母さん
2. お父さん
3. おばあさん
4. おじいさん
5. きょうだい
6. その他 ( )

問 14. お母さん、あるいはお父さんをお世話している人にお聞きします。それはどのような理由ですか。

1. 高齢 65 歳以上
2. 介護（食事や身の回りのお世話が必要）
3. 認知症
4. 身体障がい
5. 知的障がい
6. こころの病気（うつ病など）※ 疑い含む
7. 依存症（お酒やギャンブルなどがやめられないなど）※ 疑い含む
8. 6、7. 以外の病気
9. 日本語が苦手
10. わからない
11. その他（                    ）

問 15. おばあさん、あるいはおじいさんをお世話している人にお聞きします。それはどのような理由ですか。

1. 高齢 65 歳以上
2. 介護（食事や身の回りのお世話が必要）
3. 認知症
4. 身体障がい
5. 知的障がい
6. こころの病気（うつ病など）※ 疑い含む
7. 依存症（お酒やギャンブルなどがやめられないなど）※ 疑い含む
8. 6、7. 以外の病気
9. 日本語が苦手
10. わからない
11. その他（                    ）

問 16. きょうだいをお世話している人にお聞きします。それはどのような理由ですか。

1. 幼い
2. 介護（食事や身の回りのお世話が必要）
3. 身体障がい
4. 知的障がい
5. 病気
6. 日本語が苦手
7. わからない
8. その他（                    ）



問 17. 「その他」の人をお世話している人にお聞きします。その人は誰ですか。

( )

問 18. 「その他」の人をお世話している人にお聞きします。それはどのような理由ですか。

1. 高齢 65 歳以上
2. 介護（食事や身の回りのお世話が必要）
3. 認知症
4. 身体障がい
5. 知的障がい
6. こころの病気（うつ病など）※ 疑い含む
7. 依存症（お酒やギャンブルなどがやめられないなど）※ 疑い含む
8. 6. 7. 以外の病気
9. 日本語が苦手
10. わからない
11. その他 ( )

問 19. あなたはどのようなお世話（せわ）をしていますか。

1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯）
2. きょうだいのお世話や送り迎え
3. 入浴やトイレのお世話
4. 買い物や散歩と一緒にいく
5. 病院へ一緒にいく
6. 話を聞く
7. 見守り
8. 通訳（日本語や手話など）
9. お金の管理
10. 薬の管理
11. その他 ( )

とい 問 20. あなたはお世話を誰と一緒にしていますか。

1. お母さん
2. お父さん
3. おばあさん
4. おじいさん
5. きょうだい
6. しんせきの人
7. 自分のみ
8. 福祉サービス（ヘルパーなど）を利用
9. その他（ ）

とい 問 21. あなたは何才からお世話をしていますか。（はっきりとわからない場合は、だいたいの年でかまいません）

（ ）才

とい 問 22. あなたはどのくらいお世話（せわ）をしていますか。

1. ほぼ毎日
2. 週に3～5日
3. 週に1～2日
4. 1か月に数日

とい 問 23. あなたは平日（何時間くらいお世話をしていますか。（日によって違う場合は、この1ヶ月でいちばん長かった日の時間を教えてください）

いちにち  
一日あたり

- |          |          |
|----------|----------|
| 1. 1時間未満 | 5. 4時間   |
| 2. 1時間   | 6. 5時間   |
| 3. 2時間   | 7. 6時間   |
| 4. 3時間   | 8. 7時間以上 |



問 24. お世話をしていることで、つぎのような経験をしたことはありますか。

1. 学校を休んでしまう
2. 遅刻や早退をしてしまう
3. 宿題などの勉強する時間がない
4. 眠る時間がたりない
5. 友達と遊ぶことができない
6. 習い事ができない
7. 自分の時間が取れない
8. とくにない
9. その他 ( )

問 25. お世話をすることに大変さを感じていますか。

1. 体力の面で大変
2. 気持ちの面で大変
3. 時間の余裕がない
4. とくに大変さを感じていない

問 26. あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。

1. ある (→問 27)
2. ない (→問 28)

問 27. 問 26 の質問で「お世話の悩みについて誰かに相談したことがある」と回答した人にお聞きします。それは誰ですか。

1. 家族 (お父さん、お母さん、おばあさん、おじいさん、きょうだい)
2. 親戚 (おば、おじなど)
3. 友人
4. 学校の先生 (保健室の先生以外)
5. 保健室の先生
6. スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー
7. 病院・医療・福祉サービスのひと
8. 近所の人
9. SNS 上での知り合い
10. その他 ( )

問 28. 問 26 の質問で「お世話の悩みについて誰かに相談したことがない」と回答した人にお聞きします。相談していない理由を教えてください。

1. 相談するほどの悩みではないから
2. 誰に相談するのがよいかわからないから
3. 相談できる人がいないから
4. 家族のことを話したくないから
5. 相談しても何も変わらないから
6. その他 ( )

問 29. 問 26 の質問で「お世話の悩みについて誰かに相談したことがない」と回答した人にお聞きします。あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。

1. いる
2. いない

問 30. 学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。

1. 自分のことについて話を聞いてほしい
2. 家族のお世話について相談にのってほしい
3. 家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい
4. 自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい
5. 自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい
6. 自由に使える時間がほしい
7. 勉強を教えてください
8. お金の面で支援してほしい
9. わからない
10. とくにない
11. その他 ( )

問 31. 問 30. で「1. 自分のことについて話を聞いてほしい」「2. 家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人にお聞きします。どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。

1. 直接会って
2. 電話
3. SNS
4. 電子メール
5. その他 ( )

問 32. 家族のお世話をしているこどものために、必要だと思ふことや、学校や周りのおとなにしてもらいたいこと（問 17 で書ききれなかったことなど）を自由に書いてください。

【自由記載】

アンケートはこれで終わりです。

●おわりに

家族のお世話をすることは、とても価値のある大切なことです。ただ、お世話の負担が大きいと気持ちや体力の面で大変な思いをすることがあるかもしれません。

あなた自身、あるいは友達などで、家族のお世話をすることで悩みや心配なことがある場合には、学校の先生や、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーへ相談してください。

また、調査の説明プリントにある相談先にいつでも連絡してください。

アンケートにご協力いただき、どうもありがとうございました。

## (2)徳島県中高生の生活実態に関するアンケート調査

中高生調査票 ※この調査票は確認用のため、生徒に配布する必要はありません。

### 徳島県「中高生の生活実態に関するアンケート調査」調査票

※アンケートの内容は次のとおりです。  
(実際はタブレットやパソコン等から回答します。)

#### I. 基本情報

問1. あなたの学年を教えてください。

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 1. 中学1年生 | 2. 中学2年生 | 3. 中学3年生 |
| 4. 高校1年生 | 5. 高校2年生 | 6. 高校3年生 |

問2. あなたの性別を教えてください。

- |       |       |        |
|-------|-------|--------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

問3. あなたの住んでいる市町村を教えてください。

- |         |           |           |
|---------|-----------|-----------|
| 1. 徳島市  | 9. 勝浦町    | 17. 海陽町   |
| 2. 鳴門市  | 10. 上勝町   | 18. 松茂町   |
| 3. 小松島市 | 11. 佐那河内村 | 19. 北島町   |
| 4. 阿南市  | 12. 石井町   | 20. 藍住町   |
| 5. 吉野川市 | 13. 神山町   | 21. 板野町   |
| 6. 阿波市  | 14. 那賀町   | 22. 上板町   |
| 7. 美馬市  | 15. 美波町   | 23. つるぎ町  |
| 8. 三好市  | 16. 牟岐町   | 24. 東みよし町 |

問4. 現在いっしょに住んでいる家族について教えてください。

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1. 母親         | 6. 兄または姉 (二人以上) |
| 2. 父親         | 7. 弟または妹 (一人)   |
| 3. 祖母         | 8. 弟または妹 (二人以上) |
| 4. 祖父         | 7. その他 ( )      |
| 5. 兄または姉 (一人) |                 |

問5. あなたの健康状態について教えてください。

- |         |            |
|---------|------------|
| 1. よい   | 4. あまりよくない |
| 2. まあよい | 5. よくない    |
| 3. ふつう  |            |

## Ⅱ. ふだんの生活について

問6. 学校を欠席することがありますか。

1. ほとんどしない
2. たまにする
3. よくする

問7. 学校を遅刻したり早退したりすることがありますか。

1. ほとんどしない
2. たまにする
3. よくする

問8. 部活動（学校外での活動を含む）に参加していますか。

1. 参加している
2. 参加していない

問9. ふだんの学校生活などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。

1. 授業中に居眠りすることが多い
2. 宿題や課題ができていないことが多い
3. 忘れ物が多い
4. 部活動や習い事を休むことが多い
5. 提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い
6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する
7. 保健室で過ごすことが多い
8. 学校では一人で過ごすことが多い
9. 友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
10. 特にない

問10. 現在、悩みや困っていることはありますか。

1. ある （ → 問11, 問12 ）
2. ない （ → 問13 ）



問 11. 問 10 で「悩みや困っていることがある」と回答した方にお聞きします。どんなことで悩んだり困ったりしていますか。

1. 友人との関係のこと
2. 勉強や成績のこと
3. 進路のこと
4. 部活動のこと
5. 学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと
6. 塾（通信含む）や習い事ができない
7. 家庭の経済的状況のこと
8. 自分と家族との関係のこと
9. 家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）
10. 病気や障がいのある家族のこと
11. 自分のために使える時間が少ない
12. その他（                    ）

問 12. 悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。

1. 相談相手や話を聞いてくれる人がいる
2. 相談相手や話を聞いてくれる人がいない
3. 相談や話はしたくない

### Ⅲ. 家庭や家族のことについて

問 13. 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。（ここでいう「お世話」とは、本来大人がするべきとされている家事や家族の世話などをする事です。）

1. いる（→問 14）
2. いない（→問 30）

問 14. 問 13 で「1. いる」と回答した方にお聞きします。あなたは誰のお世話をしていますか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 母親（→問 15-1, 15-2）
2. 父親（→問 15-1, 15-2）
3. 祖母（→問 16-1, 16-2）
4. 祖父（→問 16-1, 16-2）
5. きょうだい（→問 17-1, 17-2）
6. その他（→問 18-1, 18-2）

問 15-1. 「母親」や「父親」のお世話をしている方にお聞きします。その人の状況を教えてください。

1. 高齢（65 歳以上）
2. 介護が必要（食事や身の回りのお世話）
3. 認知症
4. 身体障がい
5. 知的障がい
6. 心の病気、うつ病など（疑い含む）
7. アルコール依存症、ギャンブル依存症など（疑い含む）
8. 6 や 7 以外の病気
9. 日本語が苦手
10. その他（                    ）

問 15-2. 「母親」や「父親」に行っているお世話の内容を教えてください。

1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯）
2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など
3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
4. 外出の付き添い（買い物、散歩など）
5. 通院の付き添い
6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
7. 見守り
8. 通訳（日本語や手話など）
9. お金の管理
10. 薬の管理
11. その他（                    ）

問 16-1. 「祖母」や「祖父」のお世話をしている方にお聞きします。その人の状況を教えてください。

1. 高齢（65 歳以上）
2. 介護が必要（食事や身の回りのお世話）
3. 認知症
4. 身体障がい
5. 知的障がい
6. 心の病気、うつ病など（疑い含む）
7. アルコール依存症、ギャンブル依存症など（疑い含む）
8. 6 や 7 以外の病気
9. 日本語が苦手
10. その他（                    ）





問 18-2. 「その他」の人のお世話をしている方にお聞きします。その人の状況を教えてください。

1. 高齢（65 歳以上）
2. 若い
3. 介護が必要（食事や身の回りのお世話）
4. 認知症
5. 身体障がい
6. 知的障がい
7. 心の病気、うつ病など（疑い含む）
8. アルコール依存症、ギャンブル依存症など（疑い含む）
9. 7 や 8 以外の病気
10. 日本語が苦手
11. その他（                    ）

問 18-3. 「その他」の人に行っているお世話の内容を教えてください。

1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯）
2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など
3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
4. 外出の付き添い（買い物、散歩など）
5. 通院の付き添い
6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
7. 見守り
8. 通訳（日本語や手話など）
9. お金の管理
10. 薬の管理
11. その他（                    ）

問 19. お世話は誰と行っていますか。

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. きょうだい
6. 親戚の人
7. 自分のみ
8. 福祉サービス（ヘルパーなど）を利用
9. その他（                    ）

問 20. お世話はいつから行っていますか。お世話を始めた年齢をお答えください。（はっきりとわからない場合は、だいたいの年齢でかまいません）

（                    ） 歳

問 21. お世話をしている頻度（ひんど）を教えてください。

1. ほぼ毎日
2. 週に3～5日
3. 週に1～2日
4. 1か月に数日

問 22. 平日にお世話はどれくらい行っていますか。時間数をお答えください。（日によって異なる場合は、この1か月の中で最も良かった日の時間をお答えください）

一日あたり

- |          |          |
|----------|----------|
| 1. 1時間未満 | 5. 4時間   |
| 2. 1時間   | 6. 5時間   |
| 3. 2時間   | 7. 6時間   |
| 4. 3時間   | 8. 7時間以上 |

問 23. お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。

1. 学校に行きたくても行けない
2. どうしても学校を遅刻・早退してしまう
3. 宿題をする時間や勉強する時間が取れない
4. 睡眠が十分に取れない
5. 友人と遊ぶことができない
6. 部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった
7. 進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した
8. 自分の時間が取れない
9. 特にない
10. その他（            ）

問 24. お世話をすることにしんどさを感じていますか。

1. 身体的にしんどい
2. 精神的にしんどい
3. 時間的余裕がない
4. 特にしんどさは感じていない
5. その他（            ）

問 25. お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

1. ある   （→問 26）
2. ない   （→問 27）



問 29. 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。

1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい
2. 家族のお世話について相談にのってほしい
3. 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい
4. 自分が行っているお世話のすべてを代わりにしてくれる人やサービスがほしい
5. 自分が行っているお世話の一部を代わりにしてくれる人やサービスがほしい
6. 自由に使える時間がほしい
7. 進路や就職など将来の相談にのってほしい
8. 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
9. 家庭への経済的な支援
10. わからない
11. 特にない
12. その他 ( )

#### IV. ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。

### ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : izumi shiga



問 30. あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思えますか。

1. あてはまる
2. あてはまらない
3. わからない

問 31. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。

1. 聞いたことがあり、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことはない

問 32. 問 31 で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。

1. テレビや新聞、ラジオ
2. 雑誌や本
3. SNS やインターネット
4. 広報やチラシ、掲示物
5. イベントや交流会など
6. 学校
7. 友人・知人から聞いた
8. その他 ( )

問 33. ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや、要望等なんでも自由に入力してください。

【自由記述】

アンケートはこれで終了です。

●おわりに

家族のお世話をすることは、とても価値のある大切なことです。ただ、お世話の負担が大きいと気持ちや体力の面で大変な思いをすることがあるかもしれません。

あなた自身、あるいは友達などで、家族のお世話をすることで悩みや心配なことがある場合には、学校の先生や、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーへ相談してください。

また、調査の説明プリントに記した相談先にいつでも連絡してください。

アンケートにご協力いただき、どうもありがとうございました。

### (3)徳島県学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

#### 学校調査票

#### 「学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査」調査票

※アンケートの内容は次のとおりです。  
(実際はタブレットやパソコン等から回答します。)

#### I. 基本情報

問1. 貴校の校種を教えてください。

1. 小学校
2. 中学校・中等教育学校（前期課程）
3. 高等学校・中等教育学校（後期課程）

問2. ご回答された方の役職をお教えてください。

1. 校長
2. 副校長・教頭
3. 指導教諭・主幹教諭
4. 教諭
5. 養護教諭
6. 助教諭・講師
7. スクールカウンセラー（以下SC）
8. スクールソーシャルワーカー（以下SSW）
9. その他（ ）

問3. 貴校の所在地をお教えてください。

- |         |           |           |
|---------|-----------|-----------|
| 1. 徳島市  | 9. 勝浦町    | 17. 海陽町   |
| 2. 鳴門市  | 10. 上勝町   | 18. 松茂町   |
| 3. 小松島市 | 11. 佐那河内村 | 19. 北島町   |
| 4. 阿南市  | 12. 石井町   | 20. 藍住町   |
| 5. 吉野川市 | 13. 神山町   | 21. 板野町   |
| 6. 阿波市  | 14. 那賀町   | 22. 上板町   |
| 7. 美馬市  | 15. 美波町   | 23. つるぎ町  |
| 8. 三好市  | 16. 牟岐町   | 24. 東みよし町 |

問4. 調査対象（小学校6年生、中学校全学年、高等学校全学年）の児童生徒総数をお教えてください。（令和4年7月1日時点）

（ ）人

**Ⅱ. 支援が必要だと思われる子どもへの対応についてお伺いします。**

**SC、SSWの派遣・配置状況をお伺いします。**

**問5-1. SCの派遣・配置状況について教えてください。**

1. 週に2～3回以上派遣・配置されている
2. 週に1回程度派遣・配置されている
3. 月に数回以下で派遣・配置されている
4. 要請に応じて派遣される
5. 派遣・配置されていない
6. その他 ( )

**問5-2. SSWの派遣・配置状況について教えてください。**

1. 週に2～3回以上派遣・配置されている
2. 週に1回程度派遣・配置されている
3. 月に数回以下で派遣・配置されている
4. 要請に応じて派遣される
5. 派遣・配置されていない
6. その他 ( )

**問6. 下記の子どもについて校内で共有しているケースはありますか。**

1. 学校を休みがちである
2. 遅刻や早退が多い
3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある
5. 身だしなみが整っていない
6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを用意してもらえない
10. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
11. 校納金が遅れる、未払い
12. その他 ( )

**問7. 問6のケースについて、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多いケースでご回答ください。**

1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している ( →問8 )
2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している ( →問8 )
3. 個別に対応している (決まった検討体制はない) ( →問9 )

問8-1. 問7で「1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した方にお伺いします。校内ではどのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。

1. スクリーニング会議※
2. ケース会議
3. 生活指導部・委員会など
4. 児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有
5. 教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名
6. その他 ( )

※スクリーニング会議…すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援の必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別を行う会議。

問8-2. 問8-1で「1. スクリーニング会議」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。

1. 校長
2. 副校長・教頭
3. 学年主任
4. 学級担任
5. 生活・生徒指導教諭
6. 養護教諭
7. SC
8. SSW
9. 外部の関係機関
10. その他 ( )

問8-3. 問8-1で「1. スクリーニング会議」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。

1. 2週間に1回以上
2. 月に1回程度
3. 半年に1回程度
4. 年に1回程度



問 8-4. 問 8-1 で「2. ケース会議」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。

1. 校長
2. 副校長・教頭
3. 学年主任
4. 学級担任
5. 生活・生徒指導教諭
6. 養護教諭
7. SC
8. SSW
9. 外部の関係機関
10. その他 ( )

問 8-5. 問 8-1 で「2. ケース会議」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。

1. 2週間に1回以上
2. 月に1回程度
3. 半年に1回程度
4. 年に1回程度

問 8-6. 問 8-1 で「3. 生活指導部・委員会など」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。

1. 校長
2. 副校長・教頭
3. 学年主任
4. 学級担任
5. 生活・生徒指導教諭
6. 養護教諭
7. SC
8. SSW
9. 外部の関係機関
10. その他 ( )

問 8-7. 問 8-1 で「3. 生活指導部・委員会など」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。

1. 2週間に1回以上
2. 月に1回程度
3. 半年に1回程度
4. 年に1回程度

問 8-9 問 8-1 で「6. その他」と回答した方にお伺いします。具体的にどのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。

【自由記述】

問 8-10. 問 8-1 で「6. その他」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。

1. 校長
2. 副校長・教頭
3. 学年主任
4. 学級担任
5. 生活・生徒指導教諭
6. 養護教諭
7. S C
8. S S W
9. 外部の関係機関
10. その他 (                      )

問 8-11. 問 8-1 で「6. その他」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。

1. 2週間に1回以上
2. 月に1回程度
3. 半年に1回程度
4. 年に1回程度

問 9. 問 7 で「3. 個別に対応している（決まった検討体制はない）」と回答した方にお伺いします。問 6 のケースについて、貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的にお教えください。

【自由回答】

問 10. 問6のケースについて、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。  
次のケースについてお答えください。

- ① 要保護児童対策地域協議会の登録ケース
- ② 不登校のケース
- ③ それ以外

問 10-1. 「①要保護児童対策地域協議会の登録ケース」について、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。

- 1. ある
- 2. ない

問 10-2. 問10-1で「1. ある」と回答した方にお伺いします。どの機関と連携しましたか。

- 1. 市区町村教育委員会
- 2. 市区町村の福祉部門（4を除く）
- 3. 市区町村の保健部門
- 4. 市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門
- 5. 教育支援センター（適応指導教室）
- 6. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
- 7. 児童相談所
- 8. 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所
- 9. 障がい者相談支援事業所
- 10. 民生委員
- 11. 病院
- 12. 警察や刑事司法関係機関
- 13. その他（ ）

問 10-3. 「不登校のケース」について、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。

- 1. ある
- 2. 特にない



### Ⅲ. ヤングケアラーについてお伺いします

問 11. 貴校では「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。

- |                                |         |
|--------------------------------|---------|
| 1. 言葉を知らない                     | (→問 14) |
| 2. 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない      | (→問 14) |
| 3. 言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない | (→問 14) |
| 4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している    | (→問 12) |

問 12. 問 11 で「4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。

- |                                       |         |
|---------------------------------------|---------|
| 1. 把握している                             | (→問 13) |
| 2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない | (→問 14) |
| 3. 該当する子どもはいない(これまでもいなかった)            | (→問 14) |

問 13. 問 12 で「1. 把握している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。

- |  |
|--|
| 1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている             |
| 2. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している |
| 3. その他 ( )                                   |



ヤングケアラーを把握していない方も含め、全員にお伺いします。  
 ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことを言います。

## ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : izumi shiga

問 14. 現在、貴校にヤングケアラーと思われる（可能性も含めて）子どもはいますか。

1. いる (→問 15)
2. いない (→問 17)
3. 分からない (→問 16)

問 15-1. 問 14 で「1. いる」と回答した方にお伺いします。ヤングケアラーと思われる子どもの状況は下記のうちどれですか。

1. 障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている
2. 家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている
3. 家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている
4. 目を離せない家族の見守りや声掛けをしている
5. 家族の通訳をしている（日本語や手話など）
6. アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している
7. 病気の家族の看病をしている
8. 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている
9. 障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている
10. その他 ( )

問 15-2. 問 14 で「1. いる」と回答した方にお伺いします。ヤングケアラーと思われる子どもについて、具体的に学校以外の外部（教育委員会、役所、要保護児童対策地域協議会など）の支援につないだケースはありますか。

1. 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある
2. 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある
3. 外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）

問 15-3(①). 問 15-2 で「1. 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」と回答した方にお伺いします。直近のケースについてお教えてください。

問 15-3(①-1). ケースの性別についてお教えてください。

1. 女性
2. 男性
3. その他

問 15-3(①-2). ケースの学年についてお教えてください。

1. 小学（ ）年
2. 中学（ ）年
3. 高校（ ）年

問 15-3(①-3). ケースの学校生活の状況についてお教えてください。

1. 学校を休みがちである
2. 遅刻や早退が多い
3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある
5. 身だしなみが整っていない
6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを用意してもらえない
10. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
11. 校納金が遅れる、未払い
12. その他（ ）

問 15-3(①-4). ケースの家族構成についてお教えてください。

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. きょうだい
6. その他 ( )

問 15-3(①-5). ケースの家庭におけるケアの状況を把握していますか。

1. 把握している
2. 把握していない

問 15-3(①-6). ケアの状況を「把握している」と回答した方にお伺いします。ケアを必要としている人についてお教えてください。

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. きょうだい
6. その他 ( )

問 15-3(①-7). ケアを必要としている人の状況についてお教えてください。

1. 高齢 (65 歳以上)
2. 若い
3. 要介護 (介護が必要な状態)
4. 認知症
5. 身体障がい
6. 知的障がい
7. 精神疾患 (疑い含む)
8. 依存症 (疑い含む)
9. 7、8 以外の病気
10. 日本語を第一言語としない
11. わからない
12. その他 ( )





問 15-3(②). 問 15-2 で「2. 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」と回答した方にお伺いします。直近のケースについてお教えてください。

問 15-3(②-1). ケースの性別についてお教えてください。

1. 女性
2. 男性
3. その他

問 15-3(②-2). ケースの学年についてお教えてください。

1. 小学 ( ) 年生
2. 中学 ( ) 年生
3. 高校 ( ) 年生

問 15-3(②-3). ケースの学校生活の状況についてお教えてください。

1. 学校を休みがちである
2. 遅刻や早退が多い
3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある
5. 身だしなみが整っていない
6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを用意してもらえない
10. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
11. 校納金が遅れる、未払い
12. その他 ( )

問 15-3(②-4). ケースの家族構成についてお教えてください。

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. きょうだい
6. その他 ( )

問 15-3(②-5). ケースの家庭におけるケアの状況を把握していますか。

1. 把握している
2. 把握していない

問 15-3(②-6). ケアを必要としている人についてお教えてください。

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. きょうだい
6. その他 ( )

問 15-3(②-7). ケアを必要としている人の状況についてお教えてください。

1. 高齢 (65 歳以上)
2. 幼い
3. 要介護 (介護が必要な状態)
4. 認知症
5. 身体障がい
6. 知的障がい
7. 精神疾患 (疑い含む)
8. 依存症 (疑い含む)
9. 7、8 以外の病気
10. 日本語を第一言語としない
11. わからない
12. その他 ( )

問 15-3(②-8). ケアの内容についてお教えてください。(すべて選択)

1. 家事 (食事の準備や掃除、洗濯)
2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など
3. 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)
4. 外出の付き添い (買い物、散歩など)
5. 通院の付き添い
6. 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)
7. 見守り
8. 通訳 (日本語や手話など)
9. 金銭管理
10. 薬の管理
11. わからない
12. その他 ( )

問 15-3(②-9). ケースがヤングケアラーと気づいた理由・きっかけについて、具体的にお教えてください。

【自由記述】

問 15-3(②-10). つないだ機関について、具体的にお教えてください。

【自由記述】

問 15-3(②-11). 外部機関へのつなぎ方についてお教えてください。

1. 市区町村教育委員会経由
2. 学校から直接連絡
3. その他 ( )

問 15-3(②-12). 学校が行った支援等について、つなぎ先との連携も含めて具体的にお教えてください。

【自由記述】

問 15-3(②-13). 支援による子どもの変化について、具体的にお教えてください。

【自由記述】

問 15-4. 問 15-2 でヤングケアラーと思われる子どもについて、「3. 外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)」と回答した方にお伺いします。外部の支援につながらなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのかお教えてください。

【自由記述】

理 由 ( )  
対応方法 ( )

問 15-5. ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

【自由記述】

問 15-6. ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

【自由記述】

問 15-7. 問6の選択肢は、「ヤングケアラー」と思われる子どもを把握するためのチェック項目として作成したのですが、追加すべき項目や分かりにくい点や案があればお書きください。

【自由記述】

ご意見 ( )  
変更項目案( )  
追加項目案( )

〈参考：問6の選択肢〉

1. 学校を休みがちである
2. 遅刻や早退が多い
3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある
5. 身だしなみが整っていない
6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを用意してもらえない
10. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
11. 校納金が遅れる、未払い

問 16. 問 14 で貴校におけるヤングケアラーと思われる子どもについて「3. 分からない」と回答した方にお伺いします。その理由をお教えください。

1. 学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
2. 不登校やいじめなどに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
3. 家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
4. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
5. その他 ( )

問 17-1. ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。

1. 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
2. 教職員がヤングケアラーについて知ること
3. 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
4. SCやSSWなどの専門職の配置が充実すること
5. 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
6. ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
7. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
8. 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
9. ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること
10. 福祉と教育の連携を進めること（具体的に：問 17-2 へ）
11. 特にない
12. その他 ( )

問 17-2. 問 17-1 で「10. 福祉と教育の連携を進めること」と回答した方にお伺いします。支援のために必要なことを具体的に教えてください。

【自由記述】

問 18. ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。

【自由記述】

アンケートは以上で終了となります。



ヤングケアラーの子どもは、「宿題や忘れ物が多い」「授業中に疲れて眠ってしまう」といった普段とは違う様子が見られることに学校の先生が気づいたことで、支援につながる例が数多くあります。子どもがケアを担っている家庭には、それぞれ様々な事情があり、適切な支援を行うにはスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、要保護児童対策地域協議会などに加え、医療や介護、福祉分野の関係機関との連携も必要となるかもしれません。ヤングケアラーを支援するための仕組みづくりは多くの自治体で緒に就いたばかりかと思いますが、子どもたちの権利が守られるよう、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

アンケートにご回答いただき、誠にありがとうございました。





徳島県ヤングケアラーに関する実態調査  
報告書

令和5年2月

徳島県未来創生文化部 次世代育成・青少年課 こども未来応援室

〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地  
TEL 088-621-2180  
FAX 088-621-2843